

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第204集

# 白川傘松遺跡

北陸新幹線建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第4集

(遺物編・本文図版)

1997

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本鉄道建設公団



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第204集

# 白川傘松遺跡

北陸新幹線建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第4集

(遺物編・本文図版)

1997

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本鉄道建設公団



## 例 言

- 1 本書は、北陸新幹線建設事業にともなう事前調査として、日本鉄道建設公団群馬県教育委員会に委託し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成4年度から平成6年度にかけて発掘調査を実施した遺跡の報告書である。本報告書は、先に刊行した遺構編に続くもので、縄文時代の遺物と旧石器時代の調査報告、平成6年度に行った北陸新幹線に並行する町道部分の調査についてまとめたものである。
- 2 整理事業は平成6年度から4カ年計画で日本鉄道建設公団が群馬県教育委員会に委託し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 3 本報告書の整理期間は、平成6年4月1日から平成10年3月31日である。平成8年度末に縄文時代遺構編を刊行している。
- 4 整理関係職員は以下の通りである。

### 事務担当職員

常務理事 菅野清

事務局長 原田恒弘

副事務局長兼調査研究第一部長 赤山容造

管理部長 蜂巣 実、渡辺 健

調査研究第3課長 真下高幸

総務課長 小淵 淳

事務担当 国定 均、笠原秀樹、井上 剛、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、宮崎忠司、岡嶋伸昌、大友友治、吉田恵子、並木綾子、今井もと子、松井美智代、内山佳子、星野美智子、羽鳥京子、菅原淑子、若田 誠、山口陽子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、安藤友美、狩野真子

### 整理担当 関根慎二

福島恵理子、中野秀子、原島弘子、新谷さか江、田中裕子、大島 緑、鶴岡真希子、勅使川原 操子、酒井史恵、大友美代子（機械実測）田所順子、木原幸子

- 5 本書の編集・執筆は関根慎二が担当した。
- 6 平安時代の遺物を神谷佳明、旧石器時代を麻生敏隆、黒曜石分析を立教大学鈴木正男に依頼し原稿執筆いただいた。
- 7 遺物写真撮影は佐藤元彦がおこなった。
- 8 出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 9 発掘調査にあたっては地元箕郷町をはじめとして、高崎市、安中市、群馬町、榛名町、前橋市等から多くの方々に発掘作業に従事していただいた。
- 10 本書において下記の方々にご教授をいただいた。

鬼形芳夫 恩田 勇 金子直行 川崎 保 木下哲夫 小林達雄 下平博之 鈴木徳雄 早田 勉  
田口一郎 大工原豊 高橋 勉 寺崎裕助 土肥 孝 戸田哲也 長岡史起 賛田 明 原田昌幸  
細田 勝 宮崎朝雄 山下歳信 山本輝久 綿田弘実


## 凡 例

- 1 挿図中に使用した方位は、座標北を表示している。
- 2 本書での地区番号、遺構番号は発掘調査時のままとし、遺構編に倣った。
- 3 遺物編に使用したスクリーントーンは以下の内容を示している。また、それ以外のスクリーントーンは図中に内容を表示した。

地山…

焼土・灰…

唐面・塗彩…

旧石器トレンチ…

- 4 遺物の縮尺は、原則として土器は4分の1、それ以外の遺物については図中に記しスケールを掲載した。
- 5 遺物観察表、グラフはボーランド社、パラドックスを使用した。
- 6 写真図版巻頭カラーの遺跡景観図は国土地理院の数値地図50mメッシュデータをカシミール（杉本氏作成）で作画した。

# 目 次

例 言

凡 例

目 次

挿図目次

第1章 出土遺物の概要 .....	1
第1節 I地区の出土遺物 .....	2
第2節 II地区の出土遺物 .....	265
第3節 遺構外の出土遺物 .....	447
第4節 町道拡幅部・その他の出土遺物 .....	585
第2章 町道拡幅部・その他の調査 .....	631
第1節 町道拡幅部から検出された住居址 .....	635
第2節 町道拡幅部の検出された土坑 .....	645
第3節 その他の遺構（補遺） .....	646
第3章 旧石器の調査 .....	652
第1節 調査の方法 .....	653
第2節 調査の概要 .....	653
第3節 出土石器群のまとめ .....	677
第4章 調査の成果とまとめ .....	679
第1節 出土土器と住居址の相対的時間の推移について .....	680
第2節 出土遺物の統計的傾向 .....	686
第3節 行沢大竹、北中道Ⅱ、吹屋犬子塚Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、吹屋中原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、 白川傘松、三和工業団地の各遺跡出土黒曜石の分析 .....	693
第4節 硬玉製大珠の分析について .....	699
抄 録 .....	701

# 插图目次

## T地区

第1图 1号住居址出土遗物	4	第60图 15号住居址出土遗物-2	97	第120图 78号住居址出土遗物-1	193
第2图 2号住居址出土遗物-1	6	第61图 15号住居址出土遗物-3	98	第121图 78号住居址出土遗物-2	195
第3图 2号住居址出土遗物-2	7	第62图 15号住居址出土遗物-4	99	第122图 80号住居址出土遗物-1	198
第4图 3号住居址出土遗物-1	9	第63图 15号住居址出土遗物-5	100	第123图 80号住居址出土遗物-2	199
第5图 3号住居址出土遗物-2	10	第64图 15号住居址出土遗物-6	101	第124图 80号住居址出土遗物-3	200
第6图 4号住居址出土遗物-1	16	第65图 15号住居址出土遗物-7	103	第125图 80号住居址出土遗物-4	202
第7图 4号住居址出土遗物-2	17	第66图 15号住居址出土遗物-8	104	第126图 94号住居址出土遗物-1	204
第8图 4号住居址出土遗物-3	18	第67图 15号住居址出土遗物-9	105	第127图 94号住居址出土遗物-2	205
第9图 4号住居址出土遗物-4	19	第68图 16号住居址出土遗物-1	108	第128图 94号住居址出土遗物-3	206
第10图 4号住居址出土遗物-5	20	第69图 16号住居址出土遗物-2	109	第129图 136号住居址出土遗物	208
第11图 4号住居址出土遗物-6	21	第70图 16号住居址出土遗物-3	110	第130图 6号土坑出土遗物	226
第12图 4号住居址出土遗物-7	24	第71图 17号住居址出土遗物-1	115	第131图 13-14-19-34号土坑出土遗物	227
第13图 4号住居址出土遗物-8	25	第72图 17号住居址出土遗物-2	116	第132图 35-36-40-43-63	
第14图 4号住居址出土遗物-9	26	第73图 17号住居址出土遗物-3	117	64号土坑出土遗物	228
第15图 4号住居址出土遗物-10	27	第74图 17号住居址出土遗物-4	118	第133图 70-75-81-110-112-131	
第16图 5-6号住居址出土遗物	28	第75图 17号住居址出土遗物-5	119	140号土坑出土遗物	229
第17图 6号住居址出土遗物	30	第76图 17号住居址出土遗物-6	121	第134图 75-127-128	
第18图 7号住居址出土遗物-1	32	第77图 17号住居址出土遗物-7	122	140号土坑出土遗物	230
第19图 7号住居址出土遗物-2	33	第78图 18号住居址出土遗物-1	126	第135图 110-129号土坑出土遗物	231
第20图 7号住居址出土遗物-3	34	第79图 18号住居址出土遗物-2	127	第136图 110-129号土坑出土遗物	232
第21图 8号住居址出土遗物-1	36	第80图 18号住居址出土遗物-3	128	第137图 1-7-8	
第22图 8号住居址出土遗物-2	37	第81图 18号住居址出土遗物-4	129	10-14号土坑出土遗物	233
第23图 8号住居址出土遗物-3	38	第82图 18号住居址出土遗物-5	131	第138图 16-17-19-21-23-25	
第24图 9号住居址出土遗物-1	40	第83图 19号住居址出土遗物-1	134	26-28-29号土坑出土遗物	234
第25图 9号住居址出土遗物-2	41	第84图 19号住居址出土遗物-2	135	第139图 30-31-37-38号土坑出土遗物	235
第26图 9号住居址出土遗物-3	42	第85图 19号住居址出土遗物-3	136	第140图 39号土坑出土遗物	236
第27图 10号住居址出土遗物	43	第86图 20号住居址出土遗物-1	139	第141图 39-41-42-45-47	
第28图 11号住居址出土遗物-1	46	第87图 20号住居址出土遗物-2	140	50-52号土坑出土遗物	237
第29图 11号住居址出土遗物-2	47	第88图 20号住居址出土遗物-3	141	第142图 56-61-63	
第30图 11号住居址出土遗物-3	49	第89图 21号住居址出土遗物-1	143	65-69号土坑出土遗物	238
第31图 12号住居址出土遗物-1	52	第90图 21号住居址出土遗物-2	144	第143图 70-73-75-76号土坑出土遗物	239
第32图 12号住居址出土遗物-2	53	第91图 22号住居址出土遗物-1	148	第144图 79-82-83	
第33图 12号住居址出土遗物-3	54	第92图 22号住居址出土遗物-2	149	85-92号土坑出土遗物	240
第34图 12号住居址出土遗物-4	56	第93图 22号住居址出土遗物-3	150	第145图 92-98-97号土坑出土遗物	241
第35图 13号住居址出土遗物-1	59	第94图 22号住居址出土遗物-4	151	第146图 97-99-103	
第36图 13号住居址出土遗物-2	60	第95图 22号住居址出土遗物-5	152	109-110号土坑出土遗物	242
第37图 13号住居址出土遗物-3	61	第96图 22号住居址出土遗物-6	154	第147图 110-113-114-121-124	
第38图 13号住居址出土遗物-4	62	第97图 22号住居址出土遗物-7	155	126-127号土坑出土遗物	243
第39图 14号住居址出土遗物-1	71	第98图 22号住居址出土遗物-8	158	第148图 128-133号土坑出土遗物	244
第40图 14号住居址出土遗物-2	72	第99图 23号住居址出土遗物-1	159	第149图 133-135	
第41图 14号住居址出土遗物-3	73	第100图 23号住居址出土遗物-2	161	139-141号土坑出土遗物	245
第42图 14号住居址出土遗物-4	74	第101图 23号住居址出土遗物-3	162	第150图 141-144-145-147-150	
第43图 14号住居址出土遗物-5	75	第102图 24号住居址出土遗物-1	165	153-154-156土坑出土遗物	246
第44图 14号住居址出土遗物-6	76	第103图 24号住居址出土遗物-2	166	第151图 158-159-163-165-167-168	
第45图 14号住居址出土遗物-7	77	第104图 24号住居址出土遗物-3	167	170-173-174号土坑出土遗物	247
第46图 14号住居址出土遗物-8	78	第105图 25号住居址出土遗物-1	169	第152图 174-175-178号土坑出土遗物	248
第47图 14号住居址出土遗物-9	79	第106图 25号住居址出土遗物-2	171	第153图 1-10-11号土坑出土遗物	253
第48图 14号住居址出土遗物-10	80	第107图 26号住居址出土遗物-1	174	第154图 12-14-17-19	
第49图 14号住居址出土遗物-11	81	第108图 26号住居址出土遗物-2	175	21-30号土坑出土遗物	254
第50图 14号住居址出土遗物-12	82	第109图 26号住居址出土遗物-3	177	第155图 29-30-32-35	
第51图 14号住居址出土遗物-13	83	第110图 26号住居址出土遗物-4	178	37-39-48号土坑出土遗物	255
第52图 14号住居址出土遗物-14	84	第111图 27号住居址出土遗物-1	180	第156图 38-52-65	
第53图 14号住居址出土遗物-15	85	第112图 27号住居址出土遗物-2	181	66-67号土坑出土遗物	256
第54图 14号住居址出土遗物-16	86	第113图 27号住居址出土遗物-3	182	第157图 68-70-75-76-81-88	
第55图 14号住居址出土遗物-17	89	第114图 27号住居址出土遗物-4	183	89-91-92号土坑出土遗物	257
第56图 14号住居址出土遗物-18	90	第115图 72号住居址出土遗物	185	第158图 93-97-99-101号土坑出土遗物	258
第57图 14号住居址出土遗物-19	91	第116图 72-77号住居址出土遗物	186	第159图 99-111-113-121	
第58图 14号住居址出土遗物-20	92	第117图 77号住居址出土遗物-1	189	123-124号土坑出土遗物	259
第59图 15号住居址出土遗物-1	96	第118图 77号住居址出土遗物-2	190	第160图 126-128-129-131	
		第119图 77号住居址出土遗物-3	191	133-134-139号土坑出土遗物	260



第161回	140-141-144-146
第162回	149-153-154号土坑出土遺物
第163回	156-157-160号土坑出土遺物
第164回	169-171-173号土坑出土遺物
第165回	174-176-179号土坑出土遺物

## Ⅱ地区

第165回	1号住居址出土遺物-1
第166回	1号住居址出土遺物-2
第167回	1号住居址出土遺物-3
第168回	1号住居址出土遺物-4
第169回	2号住居址出土遺物
第170回	4号住居址出土遺物
第171回	5号住居址出土遺物
第172回	6号住居址出土遺物
第173回	7号住居址出土遺物-1
第174回	7号住居址出土遺物-2
第175回	7号住居址出土遺物-3
第176回	7号住居址出土遺物-4
第177回	8号住居址出土遺物-1
第178回	8号住居址出土遺物-2
第179回	9号住居址出土遺物-1
第180回	9号住居址出土遺物-2
第181回	9号住居址出土遺物-3
第182回	9号住居址出土遺物-4
第183回	10号住居址出土遺物-1
第184回	10号住居址出土遺物-2
第185回	10号住居址出土遺物-3
第186回	11号住居址出土遺物-1
第187回	11号住居址出土遺物-2
第188回	12号住居址出土遺物-1
第189回	12号住居址出土遺物-2
第190回	13号住居址出土遺物
第191回	14号住居址出土遺物-1
第192回	14号住居址出土遺物-2
第193回	14号住居址出土遺物-3
第194回	15号住居址出土遺物
第195回	16号住居址出土遺物-1
第196回	16号住居址出土遺物-2
第197回	16号住居址出土遺物-3
第198回	17号住居址出土遺物-1
第199回	17号住居址出土遺物-2
第200回	18号住居址出土遺物-1
第201回	18号住居址出土遺物-2
第202回	18号住居址出土遺物-3
第203回	18号住居址出土遺物-4
第204回	18号住居址出土遺物-5
第205回	19号住居址出土遺物-1
第206回	19号住居址出土遺物-2
第207回	19号住居址出土遺物-3
第208回	19号住居址出土遺物-4
第209回	20号住居址出土遺物-1
第210回	20号住居址出土遺物-2
第211回	21号住居址出土遺物-1
第212回	21号住居址出土遺物-2
第213回	21号住居址出土遺物-3
第214回	22号住居址出土遺物-1
第215回	22号住居址出土遺物-2
第216回	23号住居址出土遺物-1
第217回	23号住居址出土遺物-2
第218回	24号住居址出土遺物-1
第219回	24号住居址出土遺物-2

第220回	24号住居址出土遺物-3
第221回	24号住居址出土遺物-4
第222回	25号住居址出土遺物-1
第223回	25号住居址出土遺物-2
第224回	26号住居址出土遺物-1
第225回	26号住居址出土遺物-2
第226回	26号住居址出土遺物-3
第227回	27-29号住居址出土遺物-1
第228回	27-29号住居址出土遺物-2
第229回	27-29号住居址出土遺物-3
第230回	27-29号住居址出土遺物-4
第231回	27-29号住居址出土遺物-5
第232回	28号住居址出土遺物
第233回	30号住居址出土遺物-1
第234回	30号住居址出土遺物-2
第235回	30号住居址出土遺物-3
第236回	30号住居址出土遺物-4
第237回	30号住居址出土遺物-5
第238回	31号住居址出土遺物-1
第239回	31号住居址出土遺物-2
第240回	32号住居址出土遺物-1
第241回	32号住居址出土遺物-2
第242回	32号住居址出土遺物-3
第243回	32号住居址出土遺物-4
第244回	34号住居址出土遺物-1
第245回	34号住居址出土遺物-2
第246回	35号住居址出土遺物
第247回	36号住居址出土遺物
第248回	1-2号土坑出土遺物
第249回	7-20-36号土坑出土遺物
第250回	4-33-34号土坑出土遺物
第251回	37号土坑出土遺物
第252回	48-97号土坑出土遺物
第253回	38-76-80号土坑出土遺物
第254回	38号土坑出土遺物
第255回	50-135-140 170号土坑出土遺物
第256回	121-125号土坑出土遺物
第257回	125-167号土坑出土遺物
第258回	1-4-6-8-11 13-18号土坑出土遺物
第259回	21-25-33号土坑出土遺物
第260回	34-35-39-47 49号土坑出土遺物
第261回	48-50-51-53-56-58-60-62 64-65-68-69号土坑出土遺物
第262回	69-71-76-78-81-82-90 93-96号土坑出土遺物
第263回	97-102-104-105 108-110号土坑出土遺物
第264回	110-112-113-115-116-118-119 121-122-124号土坑出土遺物
第265回	124-126号土坑出土遺物
第266回	127-130号土坑出土遺物
第267回	130-132-138号土坑出土遺物
第268回	139-142-144-146-151 154号土坑出土遺物
第269回	154-159-161-162 164号土坑出土遺物
第270回	164-165-169-171-173 175-177号土坑出土遺物
第271回	177-179-182-184-186-189

191-193-196-198-202-204 205-207-208-210 211号土坑出土遺物	
第272回	212-213-215-219-225 229号土坑出土遺物
第273回	1-3-6-8-10-14 18-19号土坑出土遺物
第274回	25-26-28-29-31-35-37 41-45-46号土坑出土遺物
第275回	52-55-56-60-62-65 68-70-72号土坑出土遺物
第276回	73-75-76-90-93-94 109号土坑出土遺物
第277回	118-124-126号土坑出土遺物
第278回	127-130-133-137 144号土坑出土遺物
第279回	146-151-154号土坑出土遺物
第280回	156-158-164-166-169 173-174号土坑出土遺物
第281回	176-178-180-185-186-193-194 196-207-212号土坑出土遺物

## 遺構外

第282回	遺構外出土土器-1
第283回	遺構外出土土器-2
第284回	遺構外出土土器-3
第285回	遺構外出土土器-4
第286回	遺構外出土土器-5
第287回	遺構外出土土器-6
第288回	遺構外出土土器-7
第289回	遺構外出土土器-8
第290回	遺構外出土土器-9
第291回	遺構外出土土器-10
第292回	遺構外出土土器-11
第293回	遺構外出土土器-12
第294回	遺構外出土土器-13
第295回	遺構外出土土器-14
第296回	遺構外出土土器-15
第297回	遺構外出土土器-16
第298回	遺構外出土土器-17
第299回	遺構外出土土器-18
第300回	遺構外出土土器-19
第301回	遺構外出土土器-20
第302回	遺構外出土土器-21
第303回	遺構外出土土器-22
第304回	遺構外出土土器-23
第305回	遺構外出土土器-24
第306回	遺構外出土土器-25
第307回	遺構外出土土器 土製品-26
第308回	遺構外出土土製品-27
第309回	遺構外出土瓦筒形 土製品-28
第310回	遺構外出土土器 土製品-29
第311回	グリップ13区P・K・L
第312回	グリップ13区M
第313回	グリップ13区N-1
第314回	グリップ13区N-2
第315回	グリップ13区N-3
第316回	グリップ13区O-1
第317回	グリップ13区O-2

第318回	グリッド13区O-3	517	出土遺物	592	第423回	46-156-159-173号土坑	651	
第319回	グリッド13区O-4	518	町道拡張6号住居址	593		旧石器		
第320回	グリッド13区P-1	519	出土遺物	593	第424回	I地区		
第321回	グリッド13区P-2	520	第377回	町道拡張7号住居址		旧石器試掘トレンチ図	654	
第322回	グリッド13区P-3	521	出土遺物	594	第425回	II地区		
第323回	グリッド13区P-4	522	第378回	町道拡張 19-20-22-23		旧石器試掘トレンチ図	655	
第324回	グリッド13区P-5	523	20-31-33-34-36-37-45		第426回	I地区		
第325回	グリッド13区Q-1	524	56-59-61号土坑出土遺物	595		旧石器試掘グリッド-1	656	
第326回	グリッド13区Q-2	525	第379回	町道拡張 14-15-21-28				
第327回	グリッド13区Q-3	526	29号ピット出土遺物	596	第427回	II地区		
第328回	グリッド13区Q-4	527	第380回	町道拡張2号住居址1		旧石器試掘グリッド-2	657	
第329回	グリッド13区Q-5	528	4・6号土坑出土遺物	597	第428回	旧石器遺物出土図	658	
第330回	グリッド13区R-1	529	第381回	1・4-7・12号配石		出土遺物-1	659	
第331回	グリッド13区R-2	530	2号石組列		第430回	出土遺物-2	660	
第332回	グリッド13区S	531	3号溝 包含層出土遺物	598	第431回	出土遺物-3	661	
第333回	グリッド13区S-T	532	第382回	町道拡張 3・7号住居址		接合資料-1-2(1)	662	
第334回	グリッド13区T	533	20-23-31-35号土坑		第432回	接合資料-1-2(2)	663	
第335回	グリッド14区A-1	540	町道拡張1-149 6号土坑		第434回	接合資料-3-4	664	
第336回	グリッド14区A-2	541	17-21号ピット出土遺物	602	第435回	接合資料-5-6	665	
第337回	グリッド14区B	542	第383回	町道拡張包含層出土遺物-1	603	第436回	接合資料-7-8	666
第338回	グリッド14区C	543	第384回	町道拡張包含層出土遺物-2	604	第437回	接合資料-9-10	667
第339回	グリッド14区C-D	544	第385回	町道拡張包含層出土遺物-3	605	第438回	接合資料-11-12	668
第340回	グリッド14区D-E	545	第386回	1・6・7号配石		第439回	接合資料-13(1)	669
第341回	グリッド14区G	546	2号石組列出土遺物	606	第440回	接合資料-13(2)	670	
第342回	グリッド14区F-H-J	547	第387回	2号石組列出土遺物-1	607	まとめ		
第343回	グリッド14区I-K	548	第388回	2号石組列出土遺物-2	608	第441回	I地区住居遺物図	684
第344回	グリッド14区L-M-N	549	第389回	8-10号配石出土遺物	609	第442回	II地区住居遺物図	685
第345回	グリッド14区O-P	550	第390回	10-12号配石出土遺物	610	第443回	石器別石材組成	688
第346回	グリッド14区P-Q	551	第391回	13号配石出土遺物	611	第444回	石器別石材組成	689
第347回	グリッド14区Q	552	第392回	1-3・5号溝出土遺物	612	第445回	石器別石材組成・	
第348回	グリッド14区R-S	553	第393回	1-4号溝出土遺物	613	石材別石器組成	690	
第349回	グリッド14区S-1	554	第394回	包含層出土遺物-1	617	第446回	石材別石器組成	691
第350回	グリッド14区S-2	555	第395回	包含層出土遺物-2	618	第447回	石器種別平均重量	692
第351回	グリッド14区S-3	556	第396回	包含層出土遺物-3	619	第448回	D-1分析図	700
第352回	グリッド14区T-1	557	第397回	包含層出土遺物-4	620			
第353回	グリッド14区T-2	558	第398回	包含層出土遺物-5	621			
第354回	グリッド14区T-3	559	第399回	包含層出土遺物-6	622			
第355回	グリッド15区A	567	第400回	包含層出土遺物-7	623			
第356回	グリッド15区B-C	568	第401回	包含層出土遺物-8	624			
第357回	グリッド15区C	569	第402回	包含層出土遺物-9	625			
第358回	グリッド15区D-E	570	第403回	包含層出土遺物-10	626			
第359回	グリッド15区F	571	第404回	包含層出土遺物-11	627			
第360回	グリッド15区G-1	572	第405回	溝外出土遺物-1	629			
第361回	グリッド15区G-2	573	第406回	溝外出土遺物-2	630			
第362回	グリッド15区G-3	574	第407回	町道拡張溝遺物-1	632			
第363回	グリッド15区G-4	575	第408回	町道拡張溝遺物-2	633			
第364回	グリッド15区G-5	576	第409回	町道拡張溝遺物-3	634			
第365回	グリッド15区G-6	577	第410回	町道拡張3・6号住居址	636			
第366回	グリッド15区G-7	578	第411回	町道拡張7号住居址-外址	637			
第367回	グリッド15区G-H	579	第412回	町道拡張2号住居址				
第368回	グリッド15区H	580	1-6号土坑	638				
第369回	グリッド15区I	581	第413回	町道拡張7-14号土坑	639			
第370回	グリッド15区K-1	582	第414回	町道拡張15-22号土坑	640			
第371回	グリッド15区K-2	583	第415回	町道拡張23-30号土坑	641			
第372回	グリッド15区L-O-P-S	584	第416回	町道拡張31-37・40号土坑	642			
			第417回	町道拡張41-49号土坑	643			
			第418回	町道拡張50-56				
町道拡張・その他			58-61号土坑	644				
第373回	町道拡張19-28号土坑		第419回	3・4・8号配石	647			
	出土遺物	580	第420回	1・2号溝	648			
第374回	町道拡張6号住居址		第421回	3-5号溝	649			
	19-26・27号土坑出土遺物	581	第422回	25-149-154-174号土坑	650			
第375回	町道拡張3号住居址							

## 第1章 出土遺物の概要

### 1 I地区の出土遺物

I地区からの出土遺物は、縄文時代前期から中期のものが、遺跡の西側傾斜面にある遺物包含層と平坦部にある遺構から出土している。包含層から出土した遺物の時期は、平坦部にある遺構の時期と矛盾が無く、集落から廃棄された土器が、傾斜面の包含層から出土することを示している。

出土土器は、時期別の割合を見ると前期中葉の繊維土器が2パーセント、前期後葉の土器が1パーセント、中期後葉の土器が88パーセント、中期中葉の土器が3パーセント、不明が6パーセントである。

中期後葉の土器を文様施文の地文別に分けると次の通りである。

縄文41.2パーセント、捺糸文11.6パーセント、沈線文19.9パーセント、その他となる。

次に原体の撚りであるが、RL 22.4パーセント、LR 12.9パーセント、R1 4.5パーセント、Lr 8パーセントで、地文無しや不明、その他が40パーセントである。

中期中葉の加曾利E式土器では、縄文地文の物が多く4割を占める。捺糸文が約1割で、沈線文系の土器が約2割を示すのである事から主体は、縄文地文で、それに沈線地文、捺糸文地文の土器が続くことになる。

石器の器種別の出土傾向は、打製石斧32.6パーセント、磨製石斧1.6パーセント、石鏃4パーセント、石匙・スクレイパー11.6パーセント、磨石・凹石等の加工具22パーセント、多孔石・台石・石皿20パーセント、丸石・石棒1.5パーセントである。

石器の器種別の傾向を見ると、食料生産の為の道具と食料加工用の道具がほぼ同じくらいの割合で各4割程である。また、直接生活とは関わり合いのないいわゆる第二の道具と言われる物が、1.5パーセント程である。

### 2 II地区の出土遺物

II地区の出土遺物の時期は、縄文時代前期中葉と中期中葉から後葉、弥生時代等である。本地区の遺構は、縄文前期と弥生時代の土坑が少数検出された以外は、中期後葉のものである。本地区の東側斜面には、I地区と同様に遺物の廃棄された包含層が検出された。

土器の時期別の割合は次の通りである。

弥生時代0.7パーセント、縄文時代前期中葉5.1パーセント、前期後葉0.3パーセント、中期中葉8.9パーセント、中期後葉59.1パーセント、不明・その他12.8パーセントとなっている。I地区と比較すると前期前葉と中期中葉の割合が高いのが解る。

中期中葉の縄文土器の地文別割合では、縄文41.6パーセント、捺糸6パーセント、沈線11.4パーセントになる。

次に原体の撚りの方向であるが、RL 27.9パーセント、R1 1.5パーセント、LR 11.4パーセント、Lr 7.7パーセントとなっている。地文無し、不明、その他が約50パーセント程ある。

石器の器種別の出土傾向は、打製石斧31.7パーセント、磨製石斧1.7パーセント、石鏃4.6パーセント、石匙・スクレイパー11.7パーセント、磨石・凹石等の加工具23パーセント、多孔石・台石・石皿15パーセント、丸石・石棒1.2パーセントである。

第1章 出土遺物の概要

第1節 I地区の出土遺物



## 第1節 I地区の出土遺物

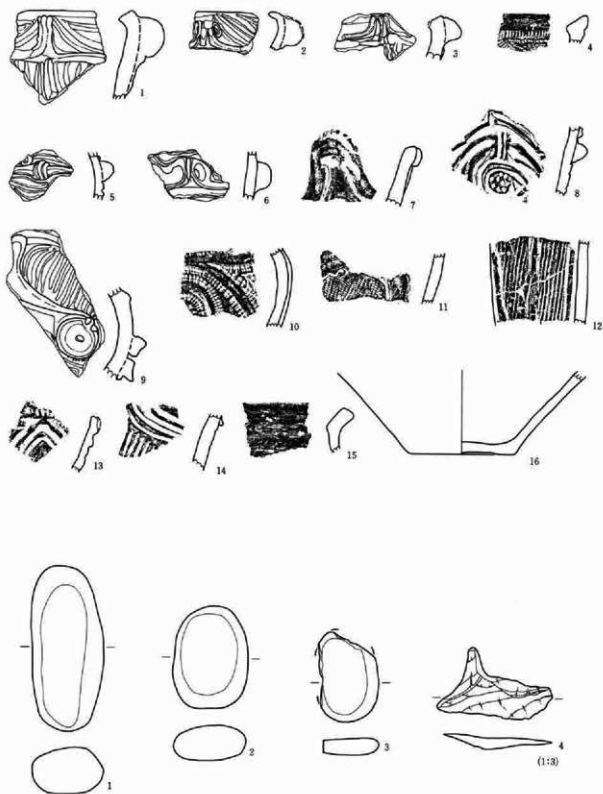
I区 1号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	1mmの小石・黒雲母	10YR	灰黄褐色	良好				沈線	口縁に沿って蹄状の突起が廻る。口縁は弧状の沈線。胴部は垂下する沈線。弧状の沈線の交点に突起。	
2	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好				沈線	口縁に沿って隆帯がまわる。口縁は弧状の沈線。弧状の沈線の交点に双凹状の突起。	
3	細かい砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	口縁に沿って蹄状の突起が廻る。口縁は弧状の沈線。胴部は垂下する沈線。弧状の沈線の交点に把手。	
4	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形	隆線	太い沈線を隆帯の上下に施文。	
5	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好			爪形	沈線	太い沈線を隆帯の上下に施文。	
6	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい褐色	不良			爪形	沈線	粘土紐の隆帯により双凹状の突起を作る。	
7	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形	沈線	波状口縁土器の波面部、沈線により波状口縁にそって施文される。	
8	砂粒・雲母少量	5YR	褐色	良好			爪形	沈線	隆帯と沈線によって渦巻き状に施文。渦巻きを中心に刺突が加えられる。	
9	細かい砂粒極少量	5YR	褐色	良好			爪形	沈線	隆帯により円形の突起を付け横円区画内をφ6mm程の太い沈線が充填される。	
10	φ1-3mmの小石	10YR	黄褐色	良好			爪形	沈線	隆帯を挟むようにφ9mmの竹管文による押し引き文が施文される。	
11	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	灰褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	横円区画内を縄文が充填される。歯歯状の沈線。	
12	φ1-2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線	隆線	隆線が2条1組で垂下し沈線が平行して施文。内面スス付き。	
13	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	黒褐色	普通	RL	横位	爪形	沈線	刻みを持つ隆帯が口縁を廻る。隆帯と沈線が平行して波状に施文されるその中を縄文が充填される。	
14	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良			爪形	沈線	隆帯と太さ5mm程の沈線が横円を描き、垂線が引かれる。	
15	φ1-2mmの砂粒多量	10YR	黄褐色	普通			無文		大きく外反する口縁になる。浅鉢。	
16	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		浅鉢。	

I区 1号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	磨石	隅丸方形	粗粒輝石安山岩	裏面に磨面。	17.7	7.7	5	1100	
2	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	裏面に磨面。	11.1	8.1	3.7	480	
3	磨石	楕円形	砂岩	裏面に磨面。	9.5	6.4	1.8	180	
4	ステレイト	横長	黒色頁岩	備置に使用によるはこぼれ。	5.6	9.3	0.9	40	

第1章 出土遺物の概要



第1図 1号住居址出土遺物

## 第1節 1地区の出土遺物

I区 2号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの小石	10YR	灰黄褐色	普通	RL		縄文	縦線	隆帯で横凹区画・渦巻き文をつくる。胴部は無文帯。	
2	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			沈線	隆帯で弧状区画し沈線が充填。		
3	細かい砂粒	2.5YR	暗灰褐色	良好		縦位	縄文	隆帯による反凹文に垂下する沈線。		
4	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	Lr	縦位	熱赤	口縁に平行に隆帯がめぐる。隆帯下熱赤文。		
5	φ1-2mmの小石	2.5YR	暗灰褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	巾4-7mmの沈線を横位に施文。地文は熱赤文。		
6	φ1-2mmの小石・雲母	2.5YR	黄褐色	普通	RL	横位	縄文	隆帯による渦巻き文。胴部は無文帯。		
7	φ1-3mmの小石	2.5YR	灰黄色	良好			沈線	隆帯による渦巻き文。口縁に沿ってコンパス状の刺突文。口縁部は無文帯。		
8	φ1-2mmの小石	10YR	灰黄褐色	良好			無文	熱赤隆帯。		
9	φ1-2mmの砂粒	10YR	明黄褐色	良好	I	縦位	熱赤	熱赤隆帯。		
10	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良			爪形	隆帯に刻み。沈線が縦位に施文。		
11	細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線を垂下。	
12	細かい砂粒	7.5YR	灰褐色	良好	I	縦位	縄文	沈線	地文熱赤上を太さ6mmの沈線が垂下。	
13	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好			縄文	隆帯	巾5-7mmの隆帯2条を垂下。隆帯の上を竹管による沈線を施す。	
14	φ1mm以下の小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文	隆帯	無文の浅線底部。	
15	φ1-2mmの小石			普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ10-12mmの隆帯とそれに沿う沈線で文様を施文。	
16	φ1-3mmの小石			普通	RL	縦位	縄文	隆帯	内面ス付帯。	

I区 2号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面石皿で、作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	14	25.3	7.3	4100	欠損
2	多孔石	長楕円形	角閃石安山岩	表面に円錐形の凹み。裏面に浅い凹みと磨面。	39	14.4	14.3	12800	
3	石皿	-	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面になる。	9.3	8.2	5.9	420	
4	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両側面を両面調整している。	6.4	3.4	0.9	30	
5	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	下端を片面調整の刃部としている。	7.3	5.7	1.6	40	

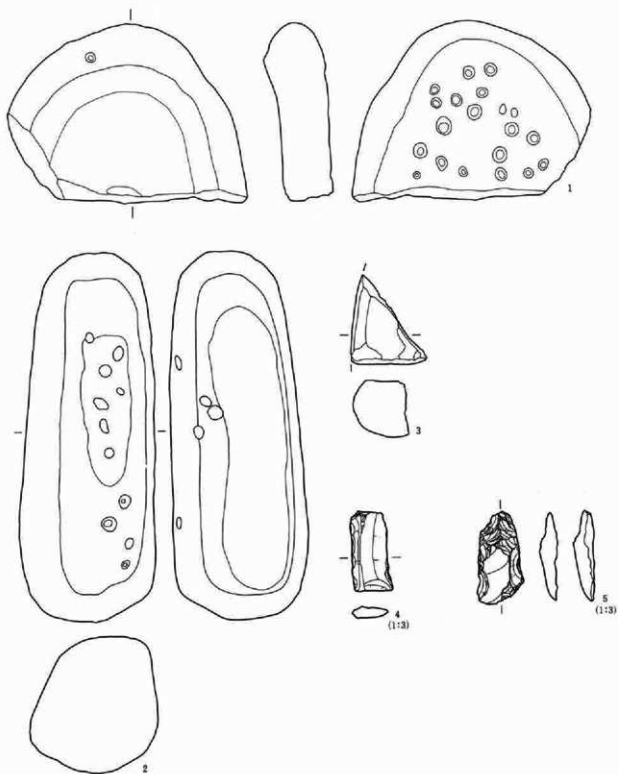
I区 3号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面は平坦で磨面を持つ。	39.5	21.7	12.5	16000	
2	石皿・多孔石	-	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は平坦。円錐形の凹み。	26.3	16.4	8.4	5100	
3	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	両面に凹みを持つ。	7.4	10.3	6.8	520	欠損
4	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.4	4.4	2.5	120	
5	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整・両側に挟りが入る。横断面レンズ状。	9.5	5.1	1.3	70	
6	丸石	球形		全体に滑らか。	14.9	12.6	11.6	3110	
7	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	両面に凹みを持つ。	13.7	9.9	5.9	590	欠損
8	打製石斧	短楕形	実玄武岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	2.1	0.7	10	
9	打製石斧	短楕形	砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	8	5	2.1	100	両端欠損
10	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	一側面に使用によるほこり。	4.7	6.8	1.1	30	



第2図 2号住居址出土遺物-1



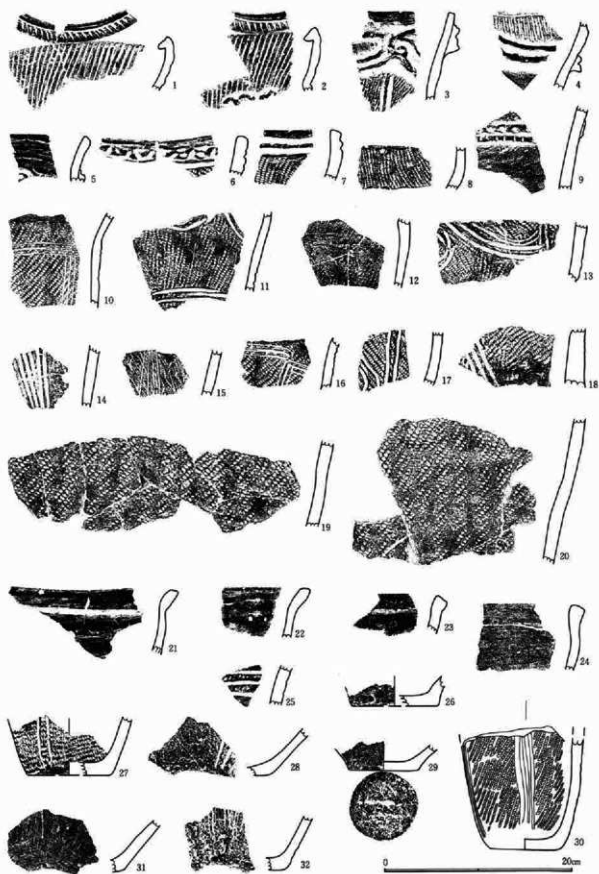


第3図 2号住居址出土遺物-2

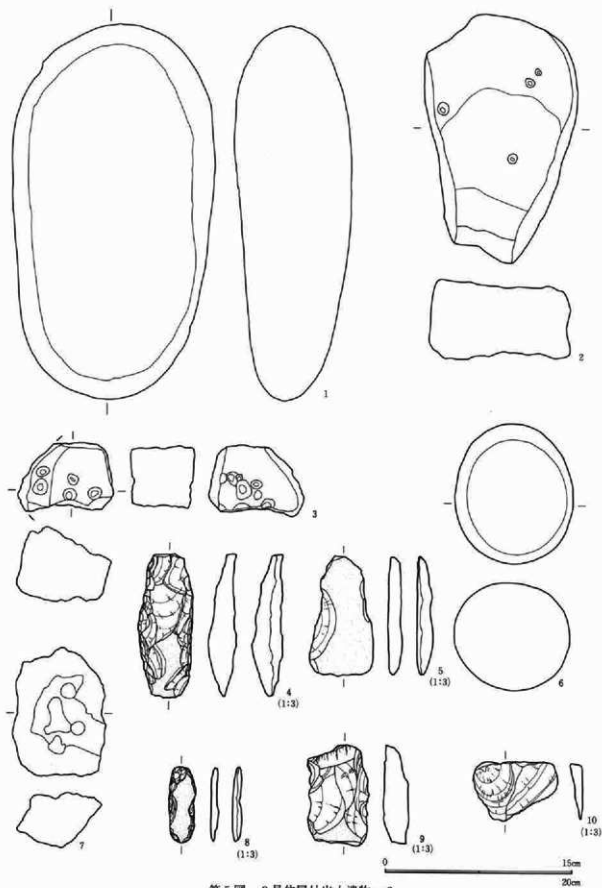
## 第1章 出土遺物の概要

I区 3号住居土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1mm以下の小石	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線		口縁が鋭内に内折。口縁に沿って沈線が1条廻る。太さ2mmの沈線が5mm間隔で施文。頸部に巾7mmの粘土線を縦溝状に施文。	2と同一個体
2	φ1mm以下の小石	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線		口縁が鋭内に内折。口縁に沿って沈線が1条廻る。太さ2mmの沈線が5mm間隔で施文。頸部に巾7mmの粘土線を縦溝状に施文。	1と同一個体
3	φ1mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	良好	Lr		熟赤	隆線	口縁部文様帯に隆帯による楕円区画と渦巻き文をつくる。渦巻き文下から太さ6mmの沈線が2条垂下。楕円区画内は細い沈線が充填。	
4	細かい砂粒	5YR	ぶい赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ6-8mmの隆帯で2重に楕円区画をつくる。楕円区画内は太さ3mmの沈線が充填。頸部は無文。	
5	φ1-2mmの小石	5YR	灰褐色	良好			沈線	隆線	頸部に粘土線を縦溝状に貼付。口縁部は無文。	
6	φ1mmの小石・雲母	10YR	暗赤褐色	良好	RL		縄文	沈線	口縁に沿って交互に刺突を加え歯状のモチーフをつくる。口縁部文様を沈線で区画し、それ以外を縄文が施文。	
7	φ1-2mmの小石	10R	赤黒色	良好	LR	斜位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が口縁に沿って2条廻る。	
8	φ1-2mmの小石	2.5YR	ぶい赤褐色	良好	LR	縦位	縄文		原体の長さ43mm程のものを縦位に施文。	
9	φ1-2mm程の砂粒・雲母	7.5YR	ぶい褐色	普通			爪形		隆帯を2条貼り付け刻みを施す。	
10	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	灰褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾5mmの平行沈線を頸部に横位に廻らせ間隔をおいて縦位に施文。	
11	φ1-5mmの小石・雲母	7.5YR	黒褐色	普通	LR	斜位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線を頸部に廻し弧状に施文。	
12		7.5YR	灰褐色	普通	Lr		熟赤	沈線	地文に熟赤を施文。細かい沈線を縦溝状に施文。	
13	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	黒褐色	普通	LR	斜位	縄文	沈線	太さ5mmの工具で垂下する線と弧状の沈線を施文。	
14	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	ぶい褐色	不良			沈線		太さ4mmの工具により垂下させる沈線を引く。	
15	細かい砂粒	7.5YR	黒褐色	良好	LR	斜位	縄文	沈線	太さ2-3mmの沈線を垂下。	
16	細かい砂粒	7.5YR	ぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	巾5mmの平行沈線を湾状に施文。	
17	φ1-3mmの小石・砂粒	7.5YR	ぶい褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線を垂下。内面黒色で良く研磨。	
18	φ1-3mmの小石	2.5YR	暗赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	太さ3mmの沈線を垂下。	
19	φ1mm程の小石	7.5YR	褐灰色	良好	LR	横位	縄文		LRを横位施文。	
20	φ1-2mmの小石多量	5YR	ぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		内面に輪積痕。RLを縦位方向に施文。	
21	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			無文		内外面とも良く磨き直が残る。	
22	φ1mmの砂粒多量	7.5YR	ぶい褐色	不良			無文		表面磨減。	
23	細かい砂粒多量	7.5YR	ぶい褐色	普通			無文		内外面とも良く磨かれる。	
24	砂粒・雲母多量	7.5YR	ぶい褐色	普通			無文		内外面とも良く磨かれる。内面にス付着。	
25	砂粒	5YR	黒褐色	良好			沈線	隆線	太さ4mmの沈線を横位に施文。	
26	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通			沈線	隆線	表面まで残る。内面黒色。	
27	φ1-3mmの黒色小石	5YR	ぶい褐色	普通	RL	斜位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線を垂下。	
28	φ1-3mmの小石	5YR	ぶい赤褐色	良好	LR		縄文	沈線	太さ3-4mmの沈線を垂下。縄文は薄くよく分らない。	
29	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好			無文		全体に良く磨かれる。	
30	φ1-5mmの小石・砂粒多量	7.5YR	明褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6-8mmの沈線を3条単位で縦位の区画をつくる。底面ス付着。	
31	φ1-3mmの小石	2.5YR	暗赤褐色	良好			無文		外面は良く研磨された痕跡がある。	
32	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	不良	条線		沈線	隆線	太さ1mm程の細い条線が垂下する。	



第4図 3号住居址出土遺物-1



第5図 3号住居址出土遺物-2

I区 4号住居土器調査書

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	細かい砂粒	5YR	橙色	良好	Lr	縦位	熱赤	隆線	頸部を太さ12mmの隆線で横位に区画し、無文帯をつくる。胴部は、熱赤を施文。	
2	φ1~3mmの小石	7.5YR		良好	Lr	縦位	熱赤	隆・沈	太さ8mmの隆線で口縁部文様を半円状に区画する。区画内は、熱赤文が充填される。胴部に無文帯を持つ。胴部文様は、沈線による縦位の区画と曲線による文様。口縁部に突起を持つが破損しているため形状は不明。	
3	φ1~3mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	隆線	太さ10~14mmの隆線で頸部を横位に区画する。胴部には同じ隆線で文様を描く。胴部に熱赤を縦位に施文。底部近くは施文なし。	
4	φ1~5mmの小石・細かい雲母	7.5YR	橙色	普通	Rl	左巻	熱赤		口縁部に隆線と沈線によりワラビ手状の文様を描く。胴部に無文帯を持つ。	
5	φ1~3mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部を太さ8~10mmの隆線で半円状に区画する。区画内は、縄文が充填される。口唇部には、口縁部文様からつながる突起が付けられる。	
6	φ1mm程の細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの沈線が胴部中央に運る。その沈線から下方へ垂線と曲線が引かれる。底部近くはヘラ状のもので磨かれている。内面黒色。	
7	細かい雲母	7.5YR	にぶい橙色	良好	Lr		熱赤	沈線	太さ4mmの沈線の垂直線と縦帯状の垂線が交互に施文。内面黒色。	
8	φ1mm以下の砂粒・雲母	5YR	にぶい橙色	良好	Lr		熱赤	沈線	太さ7mmの隆線がワラビ手状の文様を施文。内面黒色、スス付着。	
9	φ1~2mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	良好	Rl	右巻	熱赤	隆線	全面に熱赤を施文。内面黒色。	
10	φ1~2mmの黒色粒多量	5YR	明赤褐色	普通	Rl	右巻	熱赤	隆線	口縁文様は太さ10mmの隆線が2本で頸部文様と区画。区画内を巾8mmの平行沈線と縦帯状文が施文。縦帯文は交互に刺突することでつくれる。隆線一平行線一縦帯状文の順で刺突し施文。	
11	φ1mm程の細かい砂粒	5YR	灰褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	口縁部文様帯は巾5mmの平行沈線と交互刺突による連続コの字文が施文。隆帯に刺込み施される。胴部は無文。	
12	φ1~2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	隆線	口縁部文様帯を巾3mmの沈線が施文。その上を隆帯が施文。	
13	φ1~2mmの石英・小石多量	7.5YR	にぶい橙色	良好			沈線	隆線	口縁部無文でくびれ部を下巾2~3mmの沈線で渦巻き状に施文。くびれ部に交互刺突がある。隆線は弧状をえがき刺込みを持つ。	
14	φ1mm以下の砂粒多量	10YR	灰黄褐色	普通			沈線	隆線	太さ8mmの隆線の曲線文。口唇部は無文。	
15	φ1~2mmの砂粒・石英	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線	隆線	口縁に粘土による双円形の貼り付けを施す。内面黒色。	
16	φ1mm以下の細かい黒色粒	7.5YR	にぶい橙色	良好			沈線	隆線	巾8mmの平行沈線と曲線と爪形文が施文。	
17	φ1mm以下の砂粒・雲母	7.5YR	橙色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	口縁部文様帯は隆帯が縦位に運る。隆帯は太さ5mmの沈線が弧状・直線に施文。胴部は巾6mmの平行沈線が縦位にコンパス状に施文。地文に熱赤を持つ。隆線が口縁に縦帯状につけられる。胴部は横状把手。隆帯上は巾7mm太さ1mmの沈線が施文。	
18	φ1mm以下の白色雲母	7.5YR	橙色	普通	Lr		熱赤	隆線	波状の把手。太い沈線で渦巻き。胴部部に径15mmの穴があく。胴部は無文。巾6mmの平行沈線と交互刺突で連続コの字文。隆帯による突起。	
19	φ1mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			爪形		隆帯による双円突起。	
20	φ1mmの白色雲母	7.5YR	にぶい橙色	良好			沈線	隆線		
21	φ1~2mmの砂粒・雲母	10YE	にぶい黄褐色	普通			沈線	隆線		
22	φ1~2mmの黒色雲母・小石	7.5YR	橙色	普通			沈線	隆線		

## 第1章 出土遺物の概要

I区 4号住居土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
23	φ1-2mmの白色粒・雲母	7.5YR	灰褐色	良好				爪形	巾8mmの隆線の渦巻きに刻みを施す。	
24	φ1mm以下の小石	7.5YR	黒褐色	良好				爪形	太さ2mmの沈線が口縁部頂部を円形に囲い、その中を太さ10mmの隆線が円形に貼付。	
25	φ1mm以下の黒雲母多量	10YR	にぶい黄褐色	普通				隆線	太さ10mmの隆線は渦巻きをもつ横線。頸部に巾10mmの刻みを付けた隆線が縦位に廻る。内面に黒斑。	
26	φ1-3mmの小石・黒雲母	10YR	明黄褐色	不良	R1			熱赤	口縁部は太さ10mmの隆線で構円区画。区画間に渦巻きの突起が付けられる。	
27	φ1-2mmの小石・黒雲母	7.5YR	にぶい橙色	良好	Lr			熱赤	太さ1-2mmの隆線が口縁部文様帯を構円区画。構円区画間を渦巻きによる隆線の突起が2段に貼付され状口縁をつくる。内面に磨打痕。	
28	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	暗褐色	良好				隆線	太さ5mmの隆線が口縁部頂部から直線・曲線をもって垂下。頸部くびれ部に太さ10mmの隆線が廻る。	
29	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	不良	Lr			熱赤	太さ6mmの隆線が弧状に貼付。隆線の交点に粘土面が貼付。	
30	φ1mm以下の砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	R1			熱赤	太さ10mmの隆線が渦巻き。R1の熱赤が施文されているが磨り消される。	
31	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい橙色	普通				沈線	太さ15mmの隆線が構円区画。区画内を太さ3mmの沈線が縦位に充填。内面黒色。	
32	φ1mm以下の砂粒	5YR	褐灰色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ6-8mmの隆線が口縁部に長方形区画。区画間に渦巻きを施文。	
33	φ1mm以下の黒雲母・砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通				沈線	太さ3mmの沈線が縦位区画内を横線に充填。突起部は渦巻きが沈線により施文。	
34	φ1-3mmの砂粒・小石	7.5YR	にぶい橙色	不良				沈線	口縁部文様帯を太さ7mmの隆線が網格子目状に施文。頸部以下を沈線が縦位に施文。内面黒色。	
35	φ1mmの黒雲母	7.5YR	にぶい橙色	普通				沈線	太さ6mmの隆線が構円区画。構円区画間には渦巻きから垂下する隆線が施文。区画内は巾2mmの半截竹管による沈線が充填。	
36	φ1-2mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	良好	R1	渦巻き	熱赤	隆線	太さ10mmの隆線が構円区画・渦巻き文をつくる。区画内は熱赤の横位施文。頸部無文。	
37	φ1mm以下の砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好	R1	左巻	熱赤	隆線	太さ8mmの隆線が構円区画。口縁部に地文の熱赤が施文。頸部に無文帯を持つ。くびれ部に太さ12mmの隆線が廻り刻みが施される。	
38	φ1-2mmの小石	7.5YR	明褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線が構円区画。区画間と突起部下に渦巻き文。区画内は太さ2mmの沈線が充填。頸部は無文帯。胴部以下は太さ2mmの沈線が横位区画され垂下。沈線を施文。内面黒色。渦巻き。	
39	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が構円区画。区画間に渦巻き文による突起。頸部は無文。胴部は太さ3mmの沈線が廻る。	
40	φ1mm以下の砂粒	5YR	明赤褐色	普通	r			熱赤	太さ12mmの隆線が構円区画。区画間に渦巻きの突起を持つ。区画内は熱赤が充填。頸部は無文。胴部に太さ4mmの沈線が廻る。内面黒色。渦巻き。	
41	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	褐色	良好	RL	横位	熱赤	隆線	太さ12mmの隆線が構円区画。区画間に渦巻きの突起を貼付。頸部は無文。渦巻き。	
42	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	Lr			熱赤	太さ8mmの隆線が構円区画。「U」状の施文。内面良く磨かれる。	

## 第1節 I地区の出土遺物

I区 4号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	胎文 原形	胎文 方向	胎文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
43	φ1mm以下の細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好	R1	右巻	熱赤	隆線	太さ8mmの隆線で楕円区画。区画間に渦巻きの突起が貼付。隆線に刻みあり。頸部無文。渦巻き着。	
44	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好		高右巻	沈線	隆線	太さ6mmの沈線で渦巻きをつくる。	
45	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	左巻	熱赤	隆線	太さ8mmの隆線で楕円区画。口縁に沿って巾7mmの刻みのある平行沈線が通る。	
46	φ1mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部を太さ6mmの隆線が弧状に区画。区画間には双円の渦巻き文の突起がつくられる。頸部下は太さ4mmの垂線。内面良く磨かれる。	
47	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	不良			熱赤	隆線	太さ10mmの隆線で楕円区画。胎文に熱赤施文。内面黒色。磨き。	
48	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で楕円区画。区画間に渦巻きの貼付。頸部は無文。頸部に太さ3mmの沈線が通る。	
49	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好	Lr	高右巻	熱赤	隆線	太さ8mmの隆線で渦巻き。内面黒色。	
50	φ1mm以下の細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ6-8mmの隆線で楕円区画。胴部は区画交点から太さ5mmの垂下する線を引く。内面黒色。外面スス付着。	
51	細かい砂粒	5YR	灰褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ4-6mmの粘土状で弧状の区画。区画の交点から太さ4mmの沈線が垂下。内面良く磨かれる。	
52	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好				隆線	太さ12mmの隆線により「U」状に施文。内面良く磨かれる。	
53	φ1-2mmの小石	7.5YR	灰褐色	良好			沈線	隆線	胴部で口縁から頸部に至る屈曲部に沈線・刺突による施文。胴部以下無文。	
54	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	横位	縄文	沈線	太さ5mmの隆線を口縁部に弧状に施文。弧・隆線の交点から太さ3mmの沈線が2条垂下。内面スス付着。	
55	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が2条で弧状の区画。区画交点に渦巻き文施文。内面良く磨かれる。渦巻き着。	
56	φ1-2mmの小石	7.5YR	褐色	良好	Lr		熱赤	隆線	頸部に無文帯。胴部は太さ8mmの隆線で横位に区画され2本の隆線が垂下。横位隆線下に太さ5mmの沈線が3条平行に通る。垂下する隆線に刻みあり。太さ4mmの沈線が3条頸部に通る。内面黒色。刺突。	
57	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	右巻	熱赤	沈線	太さ12mmの隆線が頸部に横位に通る。内面に敲打痕のような丸い刻みあり。熱赤胎文下部は無文。内面黒色。	
58	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	R1		熱赤	隆線	太さ12mmの隆線が頸部に横位に通る。内面に敲打痕のような丸い刻みあり。熱赤胎文下部は無文。内面黒色。	
59	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	Lr	右巻	熱赤		熱赤を全面に施文。胴下部で底部に缺く。内面良く磨かれる。	
60	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	明赤褐色	普通	Lr	左巻	熱赤		熱赤を全面に施文。胴下部で底部に缺く。内面良く磨かれる。	
61	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	左巻	熱赤	隆線	頸部に太さ8mmの隆線が通る。以下は熱赤胎文。内面良く磨かれる。	
62	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	左巻	熱赤		全面に熱赤施文。外面スス付着。	
63	φ1mmの砂粒	5YR	褐色	普通	Lr	右巻	沈線	隆線	熱赤を施文。	
64	φ1mmの黒雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	右巻	熱赤	沈線	太さ6mmの沈線が4条横位に施文。同じ工具による垂線が3条施文。	
65	φ1mmの砂粒・雲母多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr		熱赤	沈線	太さ6mmの沈線が3条頸部に通る。胴部には同じ工具による沈線が曲線を施文。	
66	φ1mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	右巻	熱赤		内面黒色。灰火物付着。	
67	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	右巻	熱赤	沈線	太さ3mmの沈線が直線的・曲線的に垂下。	
68	φ1-2mmの小石・雲母多量	5YR	灰褐色	普通	Lr	右巻	熱赤	沈線	太さ6mmの沈線が3条横位に通る。同じ工具による沈線が3条垂下。	
69	φ1mmの砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	右巻	熱赤	隆線	太さ3mmの沈線が3条頸部に通る。表面スス付着。渦巻きの熱赤?	

## 第1章 出土物の概要

I区 4号住居土器観覧表

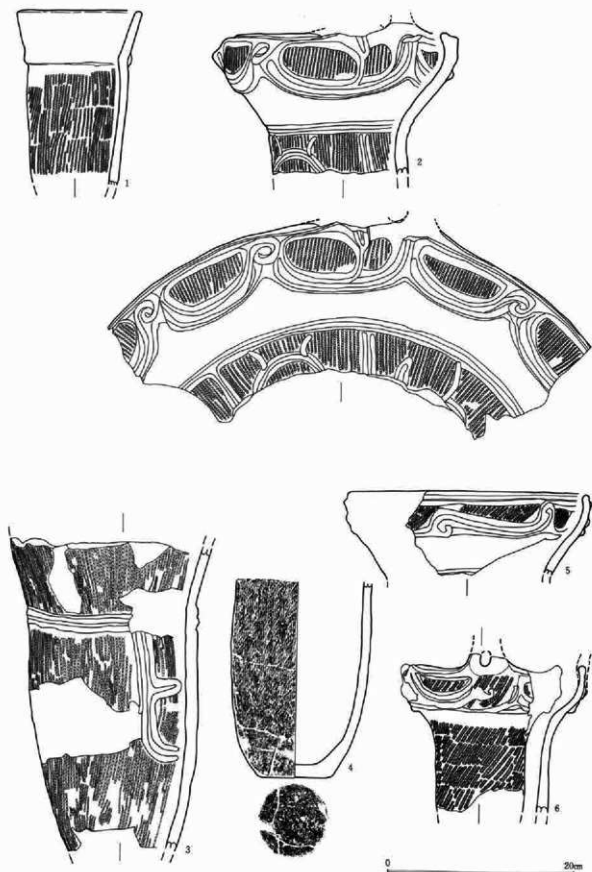
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
70	φ1mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	Lr	右巻	熟赤	沈線	太さ3mmの3条の沈線が連続状に施文。内面磨き。	
71	φ1mm以下の砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	右巻	熟赤	隆線	太さ3mmの沈線が横線・曲線。	
72	φ1-2mmの白色小石多量	7.5YR	褐色	普通	Lr	右巻	熟赤	隆線	巾6mmの横位の平行沈線。交互斜突による連続口の字文。	
73	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	明褐色	普通	Rl	右巻	熟赤		全面熟赤。内面スス付着。	
74	φ1mmの黒雲母	7.5YR	明褐色	普通			沈線		太さ1mmの沈線が頸部に横位に施文。頸部以下は縦位に施文。内外面スス付着。	
75	φ1mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			沈線		太さ1mmの沈線が縦位に施文。内外面スス付着。	
76	φ1-2mmの黒色砂粒	5YR	明赤褐色	普通			沈線		巾7mmの平行沈線が縦位に廻る。太さ2mmの沈線が縦位に施文。内面黒色、スス付着。	
77	φ1mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	Rl	左巻	熟赤	沈線	熟赤をまばらに施文。内面黒色。	
78	φ1mmの砂粒・雲母多量	5YR	褐色	普通			隆線		巾10mmの隆帯を3段につくり、巾6mmの平行沈線を隆帯以下に施文。内面黒色。	
79	φ1mmの小石・砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾3mmの沈線を縦位に直し、同じ工具で垂線を3条施す。内面黒色。	
80	φ1mmの小石	5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文		胴下部は縄文がまばらになる。内面黒色、磨き。	
81	φ1mm以下の細かい雲母	5YR	明赤褐色	不良			沈線	隆線	肩曲部に巾10mmの隆帯が廻る。隆帯上・下部とも細かい沈線が施文。内面黒色。	
82	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい明赤褐色	不良			沈線	隆線	口縁に沿って太さ12mmの隆帯が廻る。	
83	φ1mmの白色粒多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	巾6mmの平行沈線が縦位に廻る。胴部に縦線を細く。	
84	φ1mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR		縄文	沈線	太さ3mmの沈線をくびれ部に横位に施文。以下を垂線・曲線が施文。	
85	φ1mm以下の小石・雲母多量	7.5YR	にぶい褐色	不良			沈線		巾6mmの平行沈線が縦位に施文。底部近くは無文。内面黒色。	
86	φ1mmの砂粒・雲母多量	10YR	灰黄褐色	良好				隆線	印刷により隆線の文様を作り出す。外面スス付着。	
87	φ1mm以下の砂粒・雲母	10YR	灰黄褐色	普通			沈線	隆線	太さ10mmの隆帯の曲線の両側に巾9mmの平行沈線が施文。	
88	φ1mm以下の砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	右巻	熟赤		Lrの熟赤が縦に施文されるが、無文部を縦方向と底部側面を持つ。外面スス付着。	
89	φ1mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好				無文	全体にへら状のもので、縦位に磨きがかかる。	
90	φ1mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が3条垂下。垂線間を曲線が充填。	
91	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	にぶい褐色	良好			縄文	熟赤	軸縄に熟赤。内面黒色。	
92	φ1mmの小石・砂粒	5YR	明赤褐色	普通	Rl	左巻	熟赤		熟赤施文。内面黒色。	
93	φ1mm以下の砂粒・雲母多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr		熟赤		底面に網代肌。	
94	φ1mm以下の小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通				瓜形	巾6mmの瓜形文が施文。内外面黒色。	
95	φ1mm以下の砂粒	5YR	明赤褐色	不良				無文	内面黒色。	
96	φ1mm以下の砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	内面スス付着。	
97	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好				無文	内外面とも良く磨かれる。外面に円形の刺彫。口縁・内面赤色塗彩。浅鉢。	
98	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好				無文	内外面とも横位に磨かれる。外面に円形の刺彫。内面赤色塗彩。浅鉢。	
99	φ1-2mmの砂粒・小石・雲母	7.5YR	褐色	良好				無文	内外面良く磨かれる。	



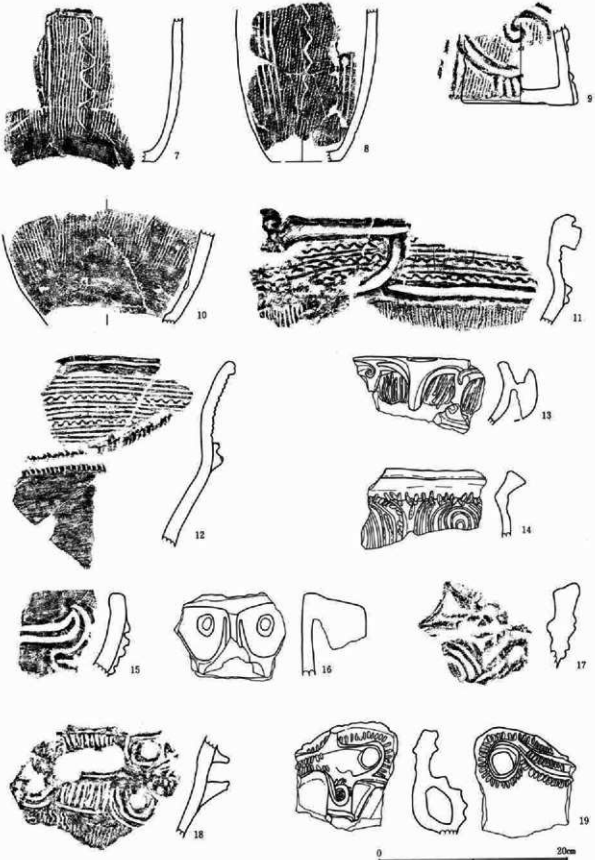
## 第1節 I地区の出土遺物

I区 4号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
100	φ1mm以下の白色粒	10YR	にぶい橙色	良好			無文		巾18mmの断面三角の罫がつく。罫の上部にφ6mmの穿孔が2箇所認められる。内外面良く磨かれる。有孔罫付き土器。	
101	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	良好			無文		内外面とも横位に磨かれる。内外面に赤色塗彩。洗鉢。	
102	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	褐色色	良好			無文		内外面とも横位に磨かれる。洗鉢。	
103	φ1mm以下の小石・雲母	7.5YR	にぶい橙色	普通			無文		内外面横位の磨き。外面スス付着。洗鉢。	
104	φ1-2mmの小石・雲母	10YR	浅黄橙色	普通			無文		内外面磨き。洗鉢。	
105	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	普通			無文		内外面横位の磨き。洗鉢。	
106	φ1mm以下の細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。内面円形の割離。外面スス付着。洗鉢。	
107	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄橙色	普通			無文		横位の擦痕を持つ。内面口縁スス付着。	
108	φ1-2mmの小石・砂粒多量	5YR	赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	巾6mmの隆帯で曲線文。頸部に無文帯を持ち太さ4mmの沈線を2条廻す。	
109	φ1-2mmの砂粒・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	頸部に無文帯を持つ。太さ3mmの沈線で頸部を区画。胴部は鉤状に同じ原体で沈線施文。内面黒色。	
110	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。洗鉢。	
111	φ1mm程の砂粒多量	7.5YR	橙色	不良			沈線	隆線	頸部に太さ7mmの隆線が斜格子。胴部は太さ2mmの沈線が縦位に施文。	
112	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が縦位に垂下。内面黒色。	
113	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	橙色	普通			無文	隆線	太さ8mmの隆線に刻み持つ。	
114	φ1mm以下の砂粒	5YR	橙色	普通	LR	縦位	赤糸		赤糸を底部付近まで、縦位に施文。	
115	φ1mm以下の細かい砂粒・雲母	7.5YR	橙色	普通			無文	隆線	口縁部にφ14mm程の円形の粘土柱と太さ8mmの刻みを持つ棒状を貼付。内面黒色。ミニチュア土器。	
116	φ1mm以下の砂粒	10YR	にぶい黄橙色	良好					耳無し。全面無文。	
117	細かい砂粒	5YR	にぶい橙色	良好					縦位方向にナダ。土製品。	

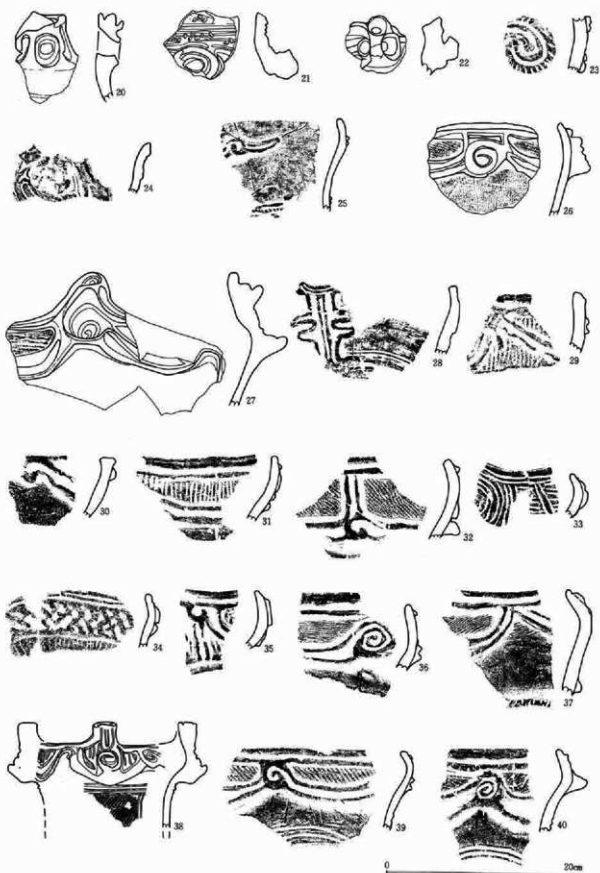


第6図 4号住居址出土遺物-1



第7図 4号住居址出土遺物-2

第1章 出土遺物の概要

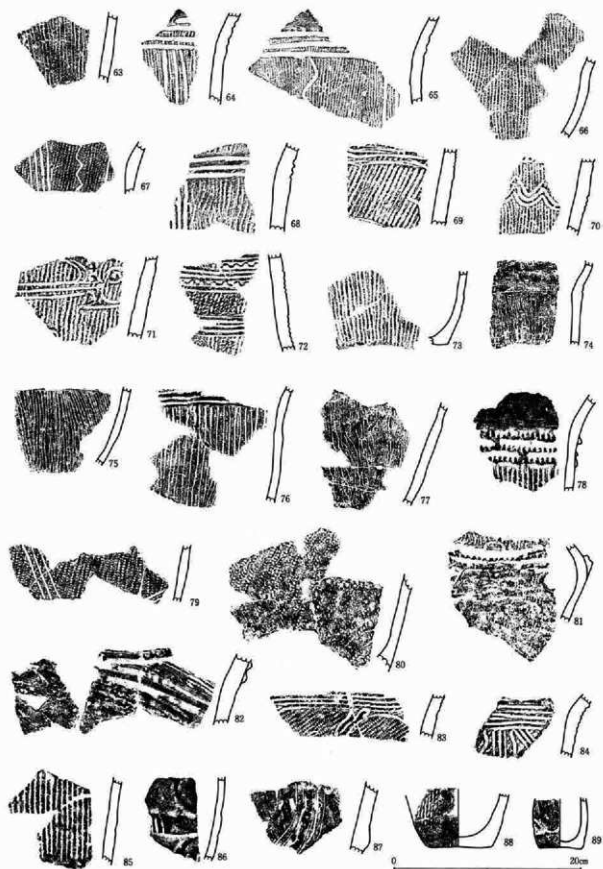


第8図 4号住居址出土遺物-3

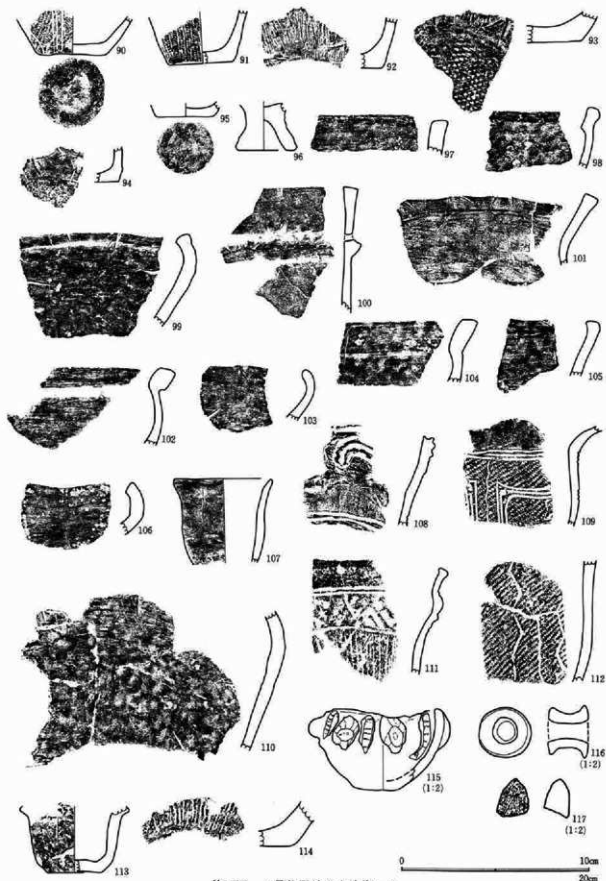


第9図 4号住居址出土遺物-4

第1章 出土遺物の概要



第10図 4号住居址出土遺物-5



第11图 4号住居址出土遺物-6

## 第1章 出土遺物の概要

I区 4号住居石器観覧表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	楕円形	角閃石安山岩	表面は平面で磨面。	23.8	17.5	7	4600	
2	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面は平面で磨面。	16.5	20.2	9.6	4300	欠損
3	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面は平面で磨面。	33.5	14.1	7.5	5600	
4	台石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面は平面で磨面。	26.3	10.5	9.5	4800	欠損
5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み多数。	28.7	21	15	10700	
6	台石	楕円形	角閃石安山岩	表面は平面で磨面。	23.5	18	6.5	4650	
7	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	10.7	8.2	3.1	440	
8	磨石	隅丸方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕。磨一筋。	9.9	7.8	4.6	540	
9	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	8.8	7.1	3.9	320	
10	台石	棒形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面を持つ。	25.8	10.4	8.7	3620	
11	台石	棒形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。	18.4	10.4	8.1	2160	欠損
12	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面は平面で磨面。	18	6.5	7.8	1600	
13	台石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表に敲打痕。裏に磨面。	21.3	13	6	2500	
14	石皿	楕円形	アイサイト	表面石皿で、作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み多数。	14.6	13.8	5.7	1360	欠損
15	磨石	三角柱形	粗粒輝石安山岩	各面に磨面を持つ。	12.6	5.2	5.1	360	
16	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏、側面に浅い凹み。表裏に磨面。凹一磨。	15.5	9.7	4.9	850	
17	台石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	19.9	13.9	6.6	2760	
18	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	全面磨面。敲打による割傷。	13.7	8.5	5.5	1030	一部欠損
19	磨石	棒形	粗粒輝石安山岩	各面に磨面を持つ。表面に敲打痕。	10.5	7.5	5.1	640	欠損
20	磨・敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕、表裏に磨面。	13.2	7.3	3.1	450	
21	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	10.9	7.4	4.8	530	
22	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	11.7	7.6	5.1	570	
23	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。	8.2	6.3	6.4	320	欠損
24	凹石	棒形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。裏に敲打痕。	13.9	6.5	5	640	
25	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	12.9	7.7	4.2	460	欠損
26	磨石	棒形	粗粒輝石安山岩	磨面を持つ。	4.2	5.2	3.9	160	欠損
27	敲石	扁平な棒形	黒色片岩	両側面に敲打痕。	10.2	4.2	1.4	80	先端欠損
28	敲石	棒形	黒色片岩	両側面に敲打痕。	10.3	1.9	2.1	90	先端欠損
29	丸石	棒形	粗粒輝石安山岩		5.7	4.5	4	140	
30	打製石斧	短棒形	砂質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	17.9	6.4	3.1	370	
31	打製石斧	撥形	砂質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	17.1	6.4	2.7	270	
32	打製石斧	撥形	埴頁頁岩	両面調整。刃部磨減。側面決り。横断面レンズ状。	13	5.1	1.3	100	
33	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.6	5.2	1.7	100	刃部欠損
34	打製石斧	短棒形	埴頁頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.3	4.3	1.5	70	刃部欠損
35	打製石斧	短棒形	埴頁頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.6	4.3	2	110	
36	打製石斧	撥形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面コマゴコ状。	10	4.7	2.1	90	
37	打製石斧	短棒形	頁岩	両面調整。刃部磨減はこぼれ。横断面レンズ状。	9.6	4.4	2.1	90	基部、刃部欠損
38	打製石斧	撥形	砂質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.1	4.6	2.1	100	刃部欠損
39	打製石斧	撥形	埴頁頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	8.3	6.3	0.9	90	基部欠損
40	打製石斧	撥形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.2	6.6	3.6	230	基部、刃部欠損

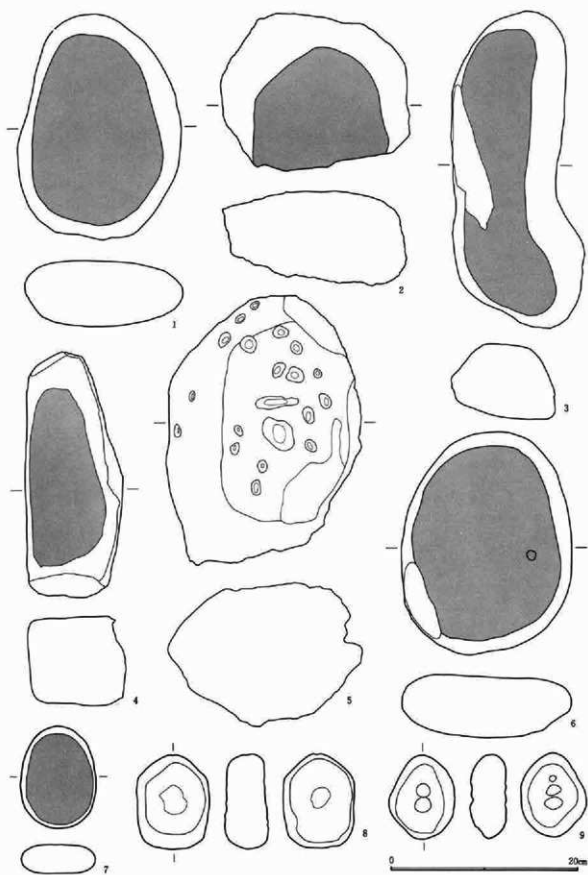


I区 4号住居石器観察表

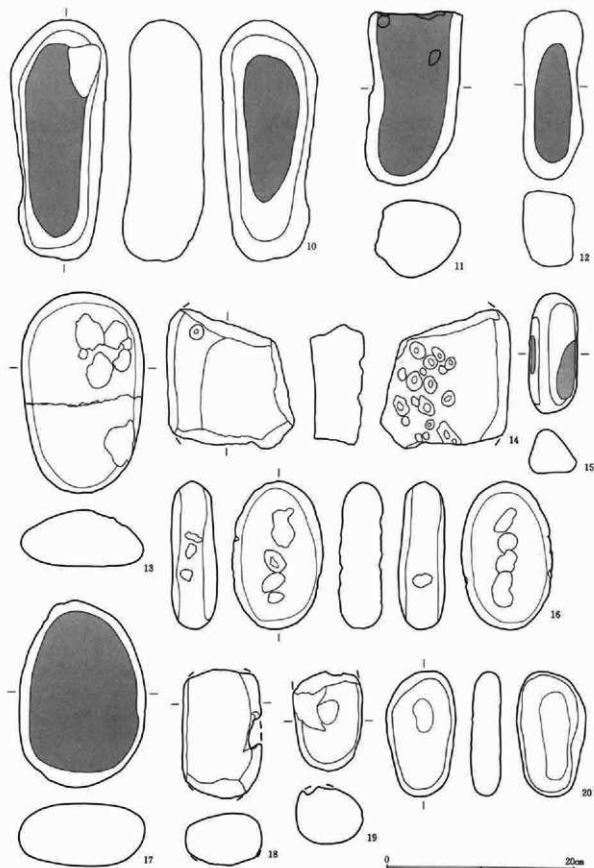
遺物 番号	種類	形状	石材	特 徴	縦 横	厚 さ	重 量	その他
41	打製石斧	楕形	砂質頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面カマゴコ状。	11.8 5.1	2	110	基部、刃部欠損
42	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.4 4.1	2	60	両端欠損
43	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	10.2 4.2	2	70	
44	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.9 4.7	3.3	150	基部欠損
45	打製石斧	短楕形	珪質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7.1 3.8	1.8	60	
46	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.6 4.8	1.4	40	刃部欠損
47	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5 4.1	2.1	50	刃部欠損
48	スクレイパー	縦長	頁岩	側面に片面刃部調整。	6.7 3.7	0.9	30	
49	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に片面刃部調整。	4.6 4.8	1.2	30	
50	スクレイパー	横長	細粒輝石安山岩	側面使用によるはこぼれ。	4 6.5	0.7	20	
51	スクレイパー	横長	硬質泥岩	側面に使用によるはこぼれ。	6.9 7.8	1.8	80	
52	スクレイパー	縦長	珪質頁岩	側面に両面刃部調整。	9.9 4.5	1.2	50	
53	スクレイパー	横長	珪質頁岩	側面に両面刃部調整。	4.8 11.3	1.1	50	
54	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両面調整。把手部に挟りが入る。	9.7 2.7	0.9	20	
55	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に使用によるはこぼれ。	7.6 4.1	1.5	40	
56	スクレイパー	横長	硬質泥岩	側面に両面刃部調整。	7.7 8.1	1.7	80	
57	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に両面刃部調整。	5.2 6.1	1	40	
58	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に使用によるはこぼれ。	5.5 7.9	1.7	70	
59	スクレイパー	縦長	珪質頁岩	側面に使用によるはこぼれ。	6.8 6.3	1.6	60	
60	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面使用によるはこぼれ。	4.7 6.1	0.8	20	
61	スクレイパー	縦長	硬質泥岩	側面に使用によるはこぼれ。	3.9 4	0.8	10	
62	石鏝	平基無基鏝	黒曜石	側面に押圧刻離。横断面カマゴコ状。	3 2.2	0.8	3.8	基部欠損
63	石鏝	凹基無基鏝	黒曜石	側面に押圧刻離。横断面カマゴコ状。	2.1 1.6	0.4	0.8	基部欠損
64	石鏝	凹基無基鏝	黒色頁岩	側面に押圧刻離。横断面カマゴコ状。	2.3 1.6	0.4	1	
65	磨製石斧	定角式	蛇紋岩	表裏側面を研磨して稜をもつ。横断面隅丸長方形。	9.7 4.9	2.2	170	刃部欠損
66	磨製石斧	定角式	実質蛇紋岩	両側、頂部に研磨・稜をつくる。刃部はこぼれ。横断面隅丸長方形。	5.7 3.6	1.4	50	

I区 5号住居土器観察表

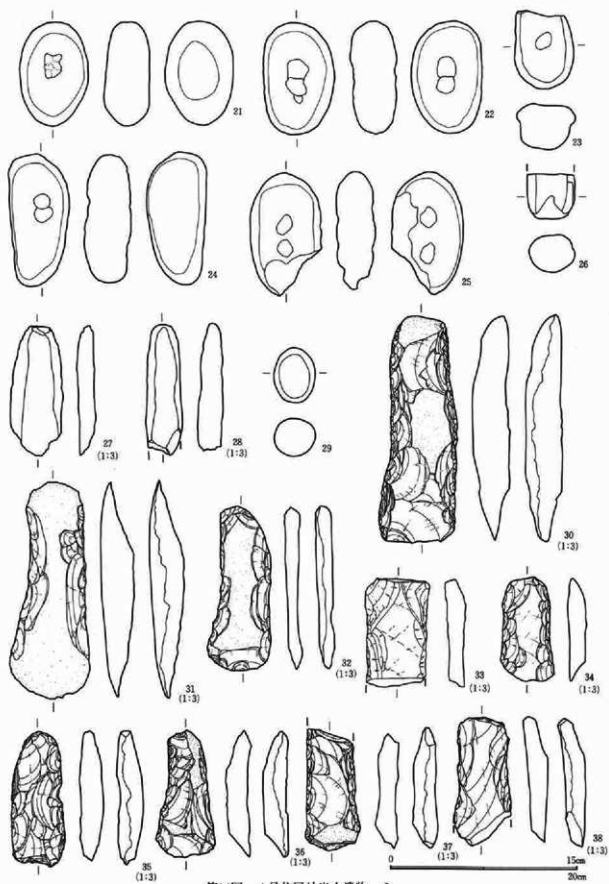
番号	胎土	色記号	色 調	焼成	施文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文 様 の 特 徴	時期・備考
1	細砂粒・黒色雲母	2.5YR	灰赤色	普通			爪形		半截竹管による爪形文。粘土粒による隆帯に削みを持つ。	
2	細砂粒少量	2.5YR	暗赤褐色	普通	凹	右巻	悉糸		口唇部折り返している。無文帯を持つ。内面スス付着。	
3	φ1~2mmの小石・黒雲母・長石	5YR	明赤褐色	普通			爪形	沈線	半截竹管の平行沈線。縦位区画内に横位の平行線。波状線を施文。内面スス付着。	
4	φ1mmの白色石・黒雲母	5YR	橙色	普通			爪形		巾10mmの大型爪形文。巾4mmの刺突文。	



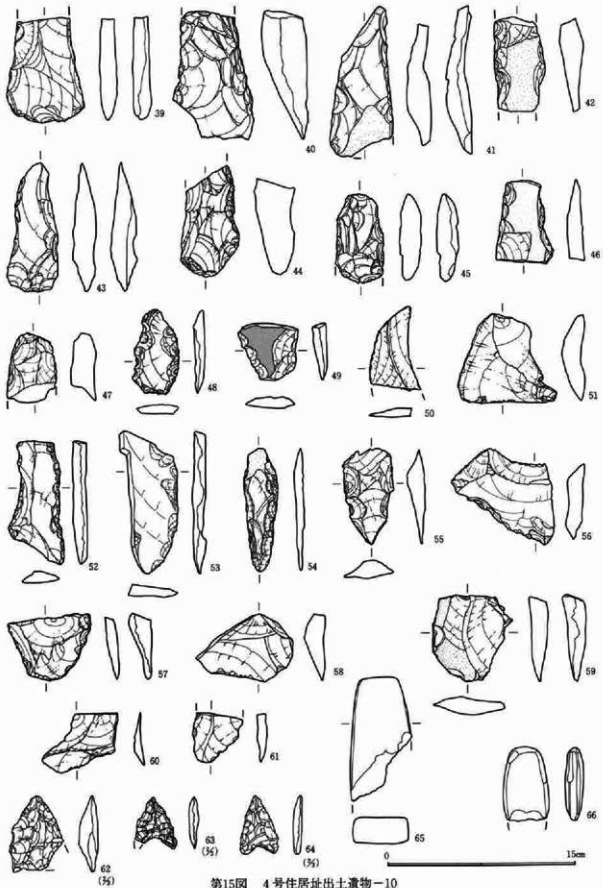
第12図 4号住居址出土遺物-7



第13图 4号住居址出土遺物-8



第14図 4号住居址出土遺物-9



第15図 4号住居址出土遺物-10

第1章 出土遺物の概要



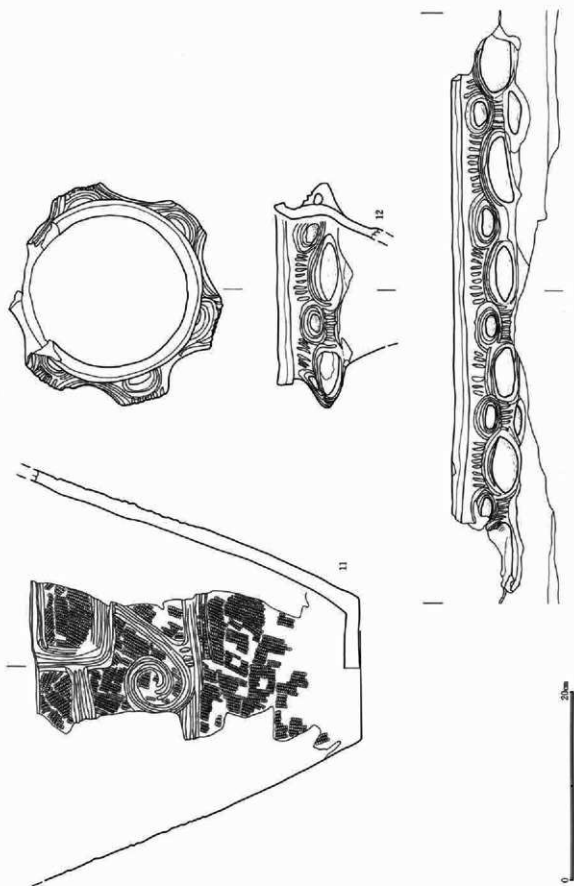
第16図 5・6号住居址出土遺物

I区 6号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	砂粒・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通			爪形	沈線	太さ4mm程の沈線が施文。把手は透かしが入る。把手下に粘土紐による双円貼付。	阿玉台
2	φ1mmの砂粒	5YR	褐色	普通			爪形	無文	隆帯上に刻み。隆帯で楕円状に区画した内を沈線で充填。	
3	φ1～2mmの砂粒	2.5Y	黒褐色	普通	LR		爪形	無文	表面は無文。内面は縄文施文。	
4	φ1～2mmの砂粒・白雲母	10YR	黒褐色	普通			爪形	無文	隆帯で楕円区画。区画内に沿って半截竹管の押し引き文と波状文が施文。	
5	砂粒多量	2.5YR	暗赤褐色	普通	RL・L		縄文	無文	太さ7mmの沈線で楕円区画。羽状縄文。	
6	φ2～3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好			爪形	沈線	縦の隆帯に刻み。平行沈線の長方形の区画内を沈線が斜位に充填。	
7	砂粒・雲母多量	10YR	にぶい黄褐色	良好			爪形	無文	無文。若干横位の擦痕。	
8	φ1～2mmの小石	7.5YR	明褐色	普通			爪形	無文	無文。口縁部肥厚。	
9	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文	無文	無文。表面丁寧に整形。	
10	細かい砂粒・黒雲母	2.5YR	赤褐色	普通			爪形	沈線	縦位の隆帯間に平行して沈線を施文。	
11	φ1～3mmの小石	5YR	黒褐色	普通	RL	縦・横	縄文	沈線	底部付近に無文帯。 太さ4mmの沈線で方形・渦巻き文様を描く。外面スス付着。	
12	φ1～3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	良好			隆・沈	隆・沈	口縁部に隆線でえら状に強った横位の把手を持つ。把手の間を沈線が縦位に充填される。頸部は無文帯になる。	

I区 6号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	不定形の凹みが付く。	17.8	13.5	10.5	2200	
2	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に円錐状の凹み。表裏に磨面。凹一磨。	6.6	6.3	3.9	210	欠損
3	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏に磨面。凹一磨。	6.2	9.4	4.7	340	欠損
4	磨製石斧	定角式	安輝緑岩	両面研磨し稜をつくる。横断面隅丸方形。	10.6	5.3	4.6	270	刃部欠損
5	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側面に片面刃部調整。	6.4	2.8	1.1	20	
6	スクレイパー	縦長	硬質泥岩	一側面に片面刃部調整。	6.3	3.5	2	40	



第17図 6号住居基出土遺物



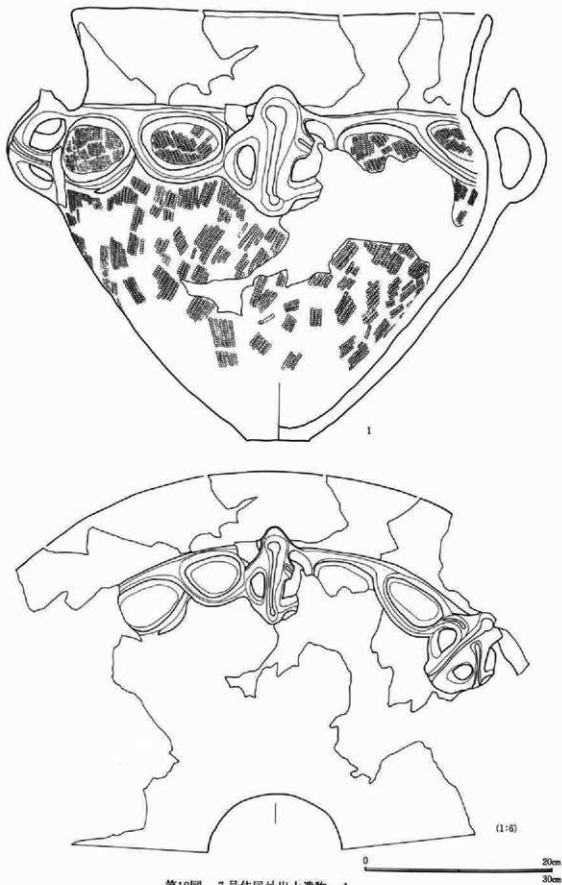
## 第1節 I地区の出土遺物

I区 7号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1~3mmの小石	5YR	橙色	普通	KL	縦位	縄文	隆線	口縁部は無文帯。頸部に隆線で楕円区画。横状把手が付く。 太さ12mmの沈線で高巻き。楕円状に施文。縄文の撚りは表面が密着し、撚りとしが分からない。全体が磨減激しい。太さ8mmの隆線を口縁に沿って廻らし垂下。隆帯に刻みを持つ。内面スス付着。	加普利E式土器出土。
2	φ1~5mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良	LRL		縄文	沈線	太さ8mmの隆線を口縁に沿って廻らし垂下。隆帯に刻みを持つ。内面スス付着。	
3	φ1mmの砂粒・雲母	2.5Y	浅黄色	良好	Lr	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線を口縁に沿って廻らし垂下。隆帯に刻みを持つ。内面スス付着。	
4	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	粘土練による渦巻き。口唇部に1条の沈線。	
5	φ1~3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横・斜	縄文	隆線	中の太い沈線の下に縄文が施文される。	
6	φ1~2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良			沈線	隆線	φ10mmの平行沈線で渦巻き状に施文。中心部に粘土層を貼付。文様内に沈線を施すが磨減が激しくよくわからない。	
7	砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	KL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線を35mm間隔で縦位に施文。沈線間には縄文を撚り消している。	
8	φ1mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好	I	縦位	擦糸	隆線	擦糸を縦位に施文。太さ12mmの隆帯を横位に施文。	
9	φ1~3mmの小石・黄色軽石	2.5YR	橙色	良好	Lr	縦位	擦糸	隆・沈	太さ6mmの隆線で胴部を縦位に区画。沈線による文様を施文。内面スス付着。集合条線化した沈線を縦位の施文。太さ3mmの沈線弧状に施文。	
10	φ1mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線		中の6mm間隔の平行沈線が垂下。沈線間にコンパス状の交互刻みを加える。	
11	φ1~2mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	良好		爪形	沈線			

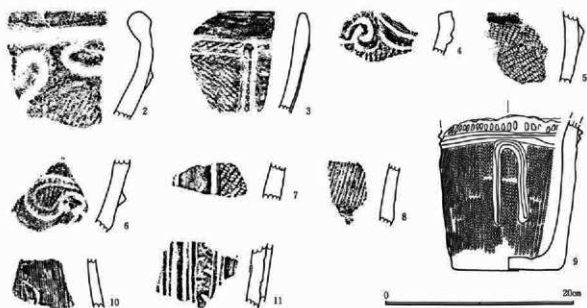
I区 7号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	21.5	27.8	14.3	8800	
2	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	22.7	11	7.8	2500	
3	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	ほぼ中央に円錐形の凹み。	14.3	14	8.2	2050	
4	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み多数。	14.5	19.3	6.5	1900	
5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	21.8	17.5	6.8	3100	
6	合石	楕円形	粗粒輝石安山岩	最打痕の浅い凹み。	13	10	4.6	950	
7	スクレイパー	縦長	頁岩	一側面に片面刃部調整。	5.4	4.9	1.3	40	

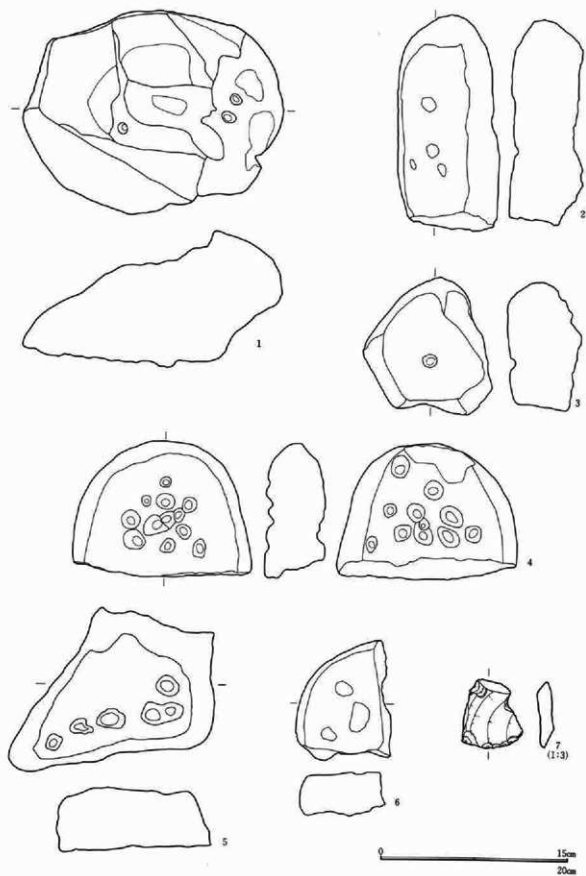


第18図 7号住居址出土遺物-1

第1節 1地区の出土遺物



第19図 7号住居址出土遺物-2

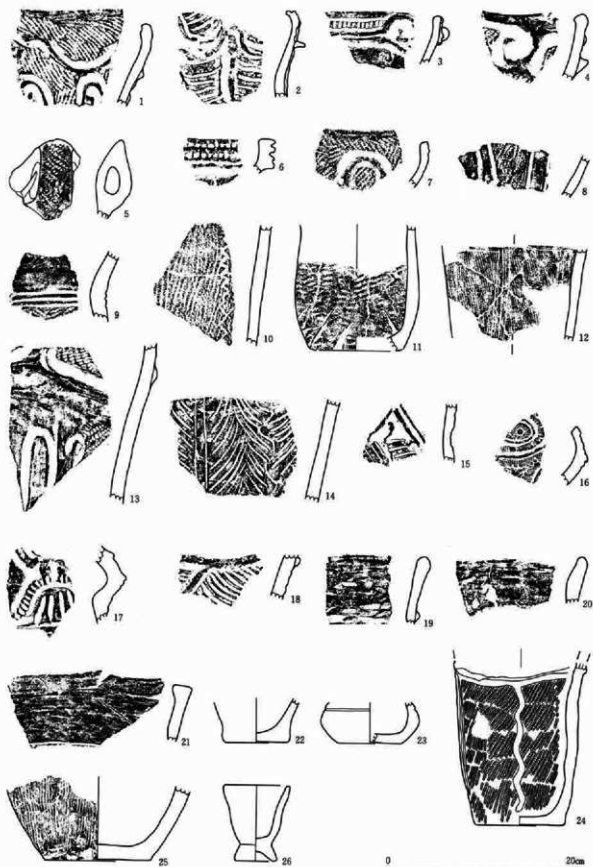


第20図 7号住居址出土遺物-3

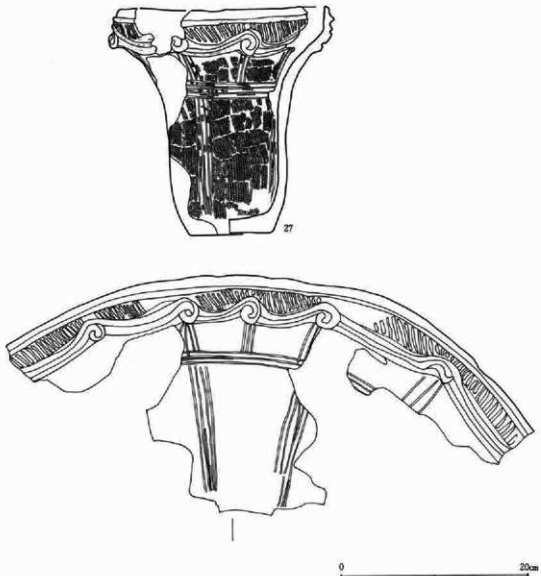
I区 8号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1mmの小石多量	5YR	灰褐色	普通	RI	横位	縄文	隆・沈	太さ12mmの隆帯が口縁に時に弧状に貼付。隆帯の側面をナデる。頸部は10mm位の沈線を弧状に施文。沈線間が隆帯状に盛り上がる。	
2	φ1-3mmの小石	5YR	灰褐色	良好			沈線	隆線	巾8mmの隆帯が口縁に弧状に貼付。垂下する隆帯で文様帯を区画。区画内は連続して弧状の沈線が充填。	
3	φ1-7mmの小石	5YR	にぶい褐色	良好			沈線	隆線	粘土層による渦巻き文。口縁との区画内には太さ4mmの沈線が施文。内面スス付着。	
4	砂粒	7.5YR	灰褐色	良好	LR		縄文	隆線	隆帯を渦巻き状に施文。隆帯内外を縄文が施文。	
5	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	横状把手上に縄文施文。波状口縁。内面スス付着。	
6	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通			沈線		口縁に平行に沈線が3条引かれる。口縁より2条の沈線にはφ3mmの円形刺突。内面に黒斑。	
7	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	褐色	普通	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ8mmの沈線で渦巻き文。	
8	φ1-2mmの細かい小石	2.5YR	にぶい赤褐色	良好	LR		縄文	隆線	太さ6mmの沈線が垂下。沈線間が磨消縄文。内外面良く磨かれる。内面黒色。	
9	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	不良			縄文	沈線	頸部に太さ3mmの沈線が3条廻り、それ以下に縄文を施す。磨滅が多く縄文の熟り不明。	
10	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	不良	I		熟糸	沈線	太さ2-3mmの沈線が断面状に垂下。内面良く磨かれる。	
11	φ1-2mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	不良	Lr		縄文	沈線	巾6mmの平行沈線を垂下させ「U」字状に施文。地文の縄文磨滅が多くはっきりしない者が多くのLr。内面黒色。良く磨かれる。	
12	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	不良	Lr	縦位	縄文	隆線	巾5-6mmの平行沈線を頸部に1周させ、両側を持ち垂下。内面磨き、剥離。太さ20mmの隆帯が頸部に廻る。口縁部は楕円区画。胴部は太さ12mmの沈線が「U」字状に施文。頸部下に磨消縄文の無文帯。内面磨き。	
13	φ1-3mmの小石・黒雲母	7.5YR	灰褐色	良好	RL・LR	横位	縄文	隆・沈	太さ20mmの隆帯が頸部に廻る。口縁部は楕円区画。胴部は太さ12mmの沈線が「U」字状に施文。頸部下に磨消縄文の無文帯。内面磨き。	
14	砂粒・黒雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通			沈線		太さ2-3mmの沈線を直線や波状に垂下。その間を弧状に沈線が充填。	
15	φ1-3mmの小石・緑泥片岩	5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ8mmの隆帯が弧状に貼付。その間に波状に隆帯が垂下。隆帯間は太さ3mmの沈線が充填。	
16	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			爪形		隆帯に連続爪形文。巾6mmの平軌竹管による刺突。	
17	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			爪形		巾12mmの隆帯を弧状にうねらせ貼付。隆帯に刺突。太さ6mmの沈線。内面黒色。	
18	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	不良			沈線	隆線	巾10mmの隆帯を貼付。太さ5mmの沈線が弧状に充填。内面良く磨かれる。	
19	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		頸部に巾12mmの隆帯が貼付。内外面横方向に磨痕あり。	
20	φ1-2mmの小石	5YR	褐色	良好			無文		内外面横方向にナデ。	
21	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		頸部に太さ3mmの沈線が廻る。横方向にナデがみられる。	
22	φ1-2mmの砂粒多量・雲母	5YR	にぶい褐色	普通			無文		表面は良くナデられる。赤色微影の部分あり。内面灰黒色。	
23	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		太さ2mmの沈線が廻る。表面良く磨かれる。内面黒色。	
24	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの隆帯が横位にまわり波状の沈線が垂下。内面スス付着。	
25	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	r		熟糸		熟糸施文。内外面にスス付着。	

第1章 出土遺物の概要



第21図 8号住居址出土遺物-1

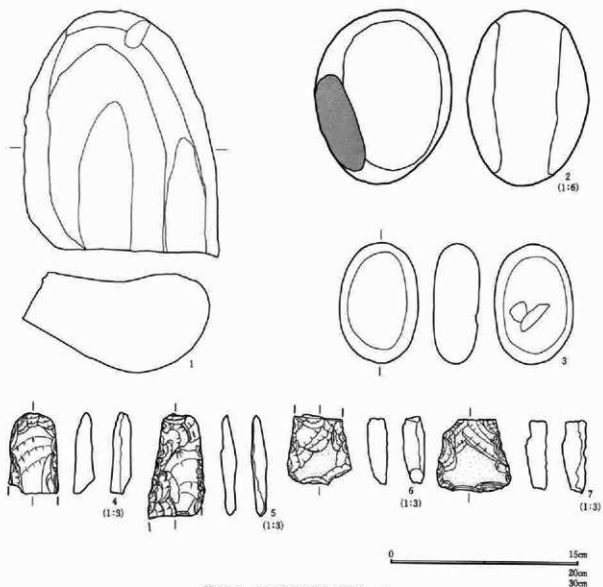


第22図 8号住居址出土遺物-2

I区 8号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原体	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
26	φ1-2mmの小石	SYR	にぶい赤褐色	良好				無文	指頭による圧痕。内面横位のナデ。外部に一部黒斑あり。底部上げ底、ミニチュア土器。	
27	φ1-3mmの小石・ 雲母・黄色軽石	SYR	褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で口縁部に半円状の区画と渦巻きをつくる。区画内に沈線が充填。頸部と胴部は巾6mmの平行沈線で区画しそれぞれ縦位に分割される。	

第1章 出土遺物の概要



第23図 8号住居址出土遺物-3

I区 8号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	26	21	10.5	8500	欠損
2	丸石	球形	角閃石安山岩	表面に磨面。	27.5	22	19.5	13400	
3	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	12.7	8.5	4.8	790	
4	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.4	4	1.6	50	刃部欠損
5	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	片面調整。横断面レンズ状。	8.9	4.6	1.2	50	刃部欠損
6	打製石斧	楕円形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	5.3	5.1	1.5	60	基部欠損
7	打製石斧	楕円形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	5.7	5.9	1.8	70	基部欠損



## 第1節 I地区の出土遺物

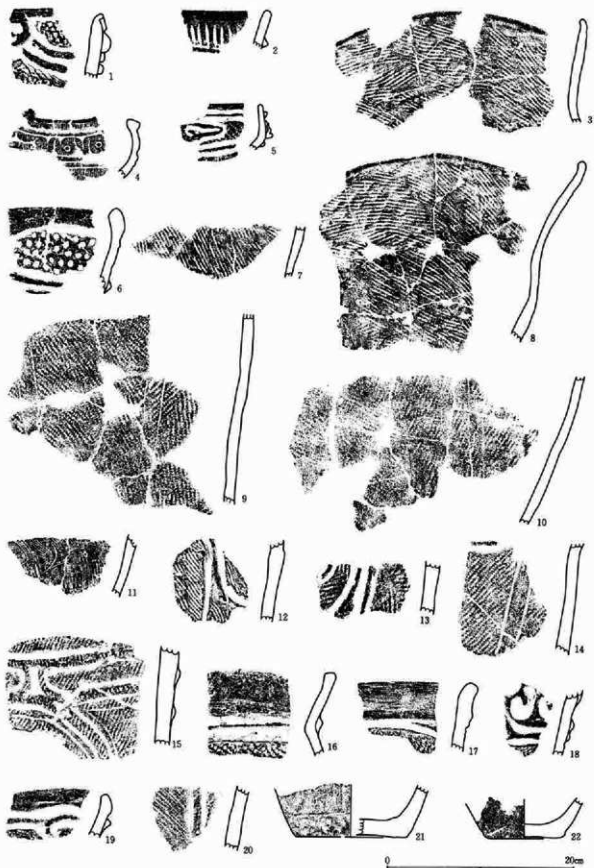
I区 9号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-5mmの小石	10YR	暗褐色	普通	RL・ LRL		縄文	隆線	巾12mmの隆帯を縦状に口縁部に貼付。	
2	φ1mm以下の細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線	隆線	太さ4mmの沈線を口縁部に垂下。その下に隆帯を施す。	
3	φ1-2mmの小石	7.5YR	明褐色	不良	RL	縦・横	縄文		全体に磨減多い。原体はRL・LR。内面スス多量付着。	7-8と同一
4	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	褐色	不良			爪形		太さ1mm以下の鋭利な工具による連続した爪形文。文様体内を3又状に印刷。内面スス付着。	
5	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL		縄文	隆線	口縁部文様帯に上下2条の隆帯を施す。中に渦巻き状の隆線。縄文を充填。	
6	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	不良			沈線	隆線	隆線で楕円状区画、φ6mmの丸棒状工具による刺突が充填。	
7	φ1-2mmの小石	7.5YR	明褐色	不良	RL	縦・横	縄文		全体に磨減多い。原体はRL・LR。内面スス多量付着。	3-8と同一
8	φ1-2mmの小石	7.5YR	明褐色	不良	RL	縦・横	縄文		全体に磨減多い。原体はRL・LR。内面スス多量付着。	3-7と同一
9	φ1mmの小石・黒雲母	7.5YR	褐色	不良	RL	縦・横	縄文	沈線	全面に縄文。20mm間隔で沈線垂下。割下半にスス付着。	10と同一
10	φ1mmの小石・黒雲母	7.5YR	褐色	不良	RL	縦・横	縄文	隆線	全面に縄文。20mm間隔で沈線垂下。割下半にスス付着。	9と同一
11	φ1-2mmの小石	10YR	褐色	不良			沈線		巾10mmの5条単位の櫛状による流水文。	
12	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL		縄文	沈線	太さ7mmの太い沈線垂下。	
13	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	不良	RL		縄文	隆線	巾10mmの隆帯が楕円状に貼付。内側に縄文充填。	
14	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	灰黄褐色	不良	LR		縄文	沈線	20mmの間隔で平行沈線が垂下。隆帯が横位に貼付。	
15	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆線	巾20mmの隆帯が楕円状区画。全面に縄文が施文。外面スス付着。	
16	φ1-5mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	口縁部に無文帯を持つ。その下に隆線で楕円区画。区画内は縄文が施文。	
17	φ1mm程の砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	口縁部に無文帯を持ち隆線で無文帯を区画。文様は楕円区画と思われ縄文が充填。	
18	φ1mm程の砂粒	10YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	隆線により渦巻き文。	
19	φ1-3mmの小石・砂粒	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は縄文が充填。渦巻き。	
20	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	明褐色	不良			沈線	隆線	太さ10mmの隆線が2条貼付。施文に矢羽状の沈線。内面スス付着。	
21	φ1-2mmの小石・細かい雲母	5YR	赤褐色	良好			無文		ヘラ状のものでナメた痕跡あり。	
22	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			無文		無文。	

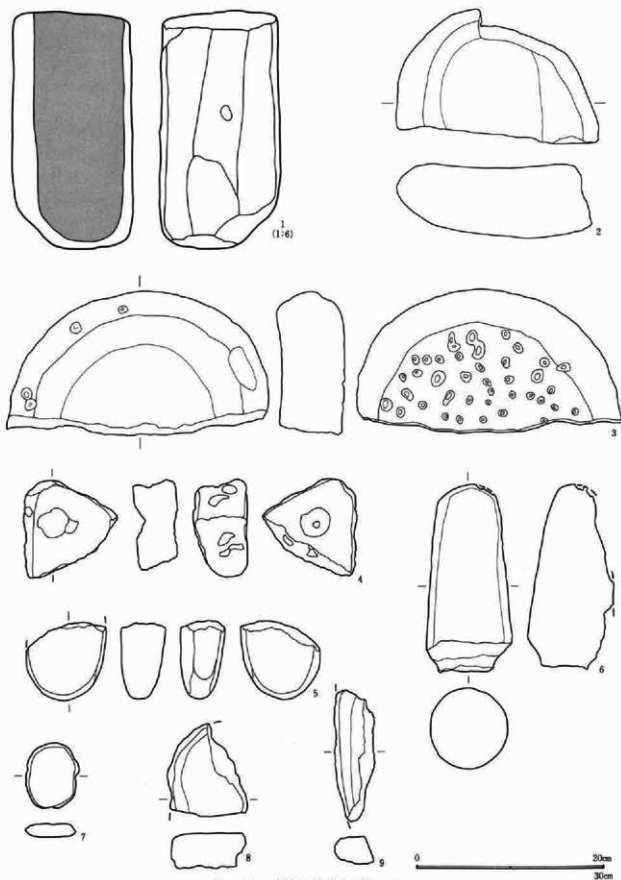
I区 9号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	37.5	19.3		18400	欠損
2	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面はわずかに凹面。	14.2	21.7	8	2800	欠損
3	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に浅い凹み多数。	15	28	7.3	4400	欠損
4	多孔石	三角形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に円錐形の凹み。	10.3	10.2	4.8	410	
5	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面と稜を持つ。	8.2	8.5	4.8	420	欠損
6	石棒	—	アイサイト	無頭で基部にくびれを持つ。横断面円形。	19.8	9.1	8.6	1680	

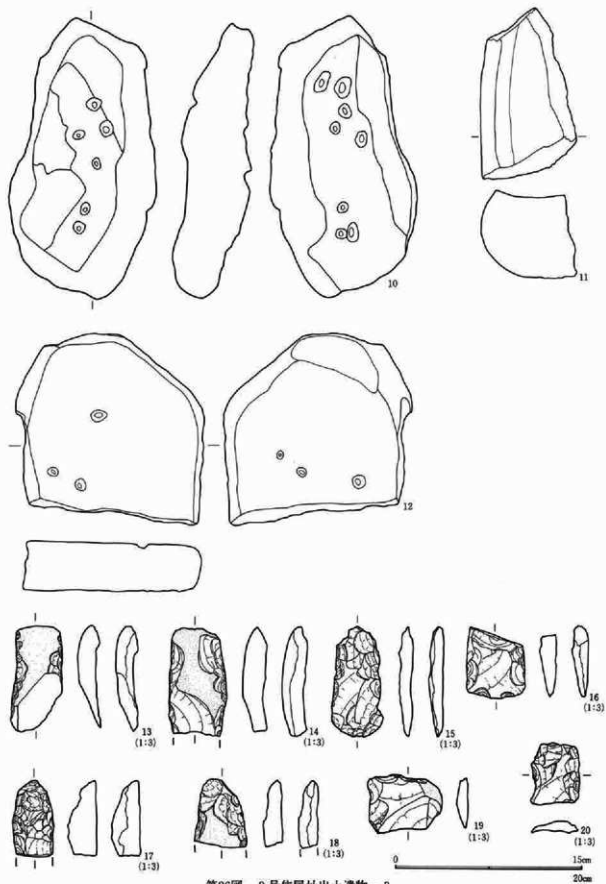
第1章 出土遺物の概要



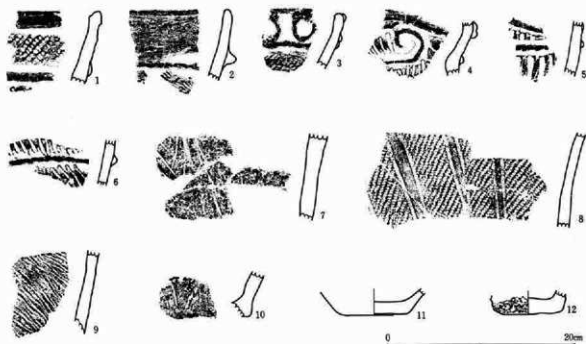
第24図 9号住居址出土遺物-1



第25図 9号住居址出土遺物-2



第26図 9号住居址出土遺物-3



第27図 10号住居出土遺物

I区 10号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	不良	LR	横位	縄文	波線	口縁部に上下2本の隆帯により区画。区画に縄文が充填。外面スス付着。	
2	φ1mm程の小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	波線	口縁部に無文帯。その下に隆帯を越す。隆帯以下に縄文施文。	
3	砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR		縄文	波線	巾9mmの隆帯で双円状に貼付。それ以下を縄文が施文。	
4	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好			沈線	波線	巾9mmの隆帯が渦巻状に貼付。隆帯の間に太さ3mmの沈線が施文。	
5	φ1mm程の小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	波線	巾8mmの隆帯と太さ6mmの沈線が施文。	
6	φ1mm程の砂粒・石英多量	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線	波線	巾10mmの隆帯を挟んで太さ4mmの沈線が施文。内面黒色。	
7	φ1-5mmの小石	7.5YR	明褐色	普通			沈線	波線	巾10mmの隆帯を下し太さ2mmの沈線が「U」字状に施文。内面黒色。	
8	φ1-3mmの小石・石英	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾12mmの間隔で太さ5mmの沈線を垂下。沈線間に縄文施文なし。	
9	φ1mm程の砂粒	5YR	赤褐色	普通	RI		縄文	沈線	RIの縄文施文。	
10	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通			沈線	沈線	太さ3mmの沈線が垂下。	
11	φ1-2mmの小石・石英	5YR	明赤褐色	不良			無文	無文	無文。	
12	φ1-3mmの小石・石英	5YR	赤褐色	普通			無文	無文	無文。	

## 第1章 出土遺物の概要

I区 11号住居土器類調査表

番号	胎土	色記号	色調	地産	地文 原状	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	黒褐色	不良	LR		縄文	隆線	太さ6mmの隆線で口縁部に長楕円形に施文。頸部以下は巾7mmの平行沈線が垂下。表面が剝落している。	
2	φ1mm以下の砂粒多量	10YR	灰黄褐色	普通	Lr		縄文	隆線	口縁部文様帯は地文に縄文が施され、太さ10mmの隆線も施文。頸部に無文帯。内外面に刺突痕あり。外面口縁部スス付着。	
3	φ1mm以下の細かい砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	RL		縄文	隆線	太さ8mmの隆線が口縁部に施文。頸部は無文。	
4	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆線	口縁部文様帯の上下に太い隆線が区画。口縁に沿って巾5mmの平行沈線を施文。沈線間に交互刺突。内面良く磨かれる。	
5	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	斜位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で口縁部文様帯を楕円区画。その間を渦巻き文のモチーフを彫り込み、隆帯上に浮き上がらせる。太さ12mmの粘土紐の隆線で口縁部文様帯を楕円区画。区画内はRLの縄文が施文。内面丁寧な磨き。	
6	φ1mm以下の砂粒・雲母・石英	7.5YR	褐色	普通	RL		縄文	隆線	口縁部文様帯に太さ8mmの隆線が施文。地文は熱赤。内外面とも良く磨かれる。外面の隆帯上にスス付着。	
7	φ1mm以下の細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	Lr		熱赤	隆線	口縁部文様帯に太さ8mmの隆線が施文。地文は熱赤。内外面とも良く磨かれる。外面の隆帯上にスス付着。	
8	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	不良	Rl		縄文	隆線	口縁部文様帯を太さ8mmの粘土紐で区画。その間を渦巻き・弧状に彫付。地文は熱赤で磨りははっきりしない。頸部は無文帯。	
9	φ1-2mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	口縁部文様帯を太さ10mmの隆線で楕円区画。内面φ6-8mmの円形に刺突。	
10	φ1mm以下の砂粒多量・黒雲母	7.5YR	褐色	普通	RL		縄文	隆線	口縁部文様帯に太さ7mmの粘土紐の隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。頸部に無文帯。沈線で胴部と区画。	
11	φ1-3mmの砂粒・黒雲母多量	7.5YR	明褐色	不良	LR		縄文	隆線	口縁部文様帯に太さ6mmの粘土紐で楕円形に区画。胴部には巾7mmの平行沈線が垂下。	
12	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆線	口縁に沿って低い隆帯が廻る。口縁に巾9mmの平行沈線が魚鱗状に施文。表面一部スス付着。	
13	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			縄文	隆線	口縁部文様帯に太さ6mmの粘土紐で楕円状に彫付。把手は双円状に粘土紐を付ける。内面黒色。	
14	φ1mm以下の細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			沈線	隆線	波状口縁でこれに平行するように太さ4mmの沈線が2条施される。三角印刺が施文。	
15	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	赤褐色	良好			沈線	隆線	口縁部は無文。頸部に交互刺突による「J」字状の文様がつく。内外面良く磨かれる。	
16	φ1mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	不良	Lr		熱赤	隆線	巾8mm程の隆線が胴部に横位に廻る。同じ隆線がこれから2条平行して胴部に4単位で垂下。地文にLrの熱赤文を施文。内面黒色。外面胴部スス付着。	
17	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	不良			沈線	隆線	太さ3mmの沈線を胴部に横位に廻し2段に文様を分割。同じ工具で縦位に施文。巾6mmの隆線が2条平行して垂下。内面黒色。黒灰。	
18	φ1mmの砂粒・雲母多量	7.5YR	明褐色	普通	LR		縄文	沈線	巾3mmの平行沈線が胴部に角状に施文。内面黒色。	
19	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆線	太さ3mmの沈線が3条胴部に廻る。それ以下を縦位に同じ工具で施文。内面黒色。	
20	φ1-2mmの小石・雲母多量	7.5YR	明褐色	良好	RL	縦位	縄文		縄文を縦位に施文。内面良く磨かれている。	
21	φ1-2mmの小石			不良	Lr	縦位	熱赤		熱赤縦位に施文。	

## 第1節 I地区の出土遺物

I区 11号住居土器観察表

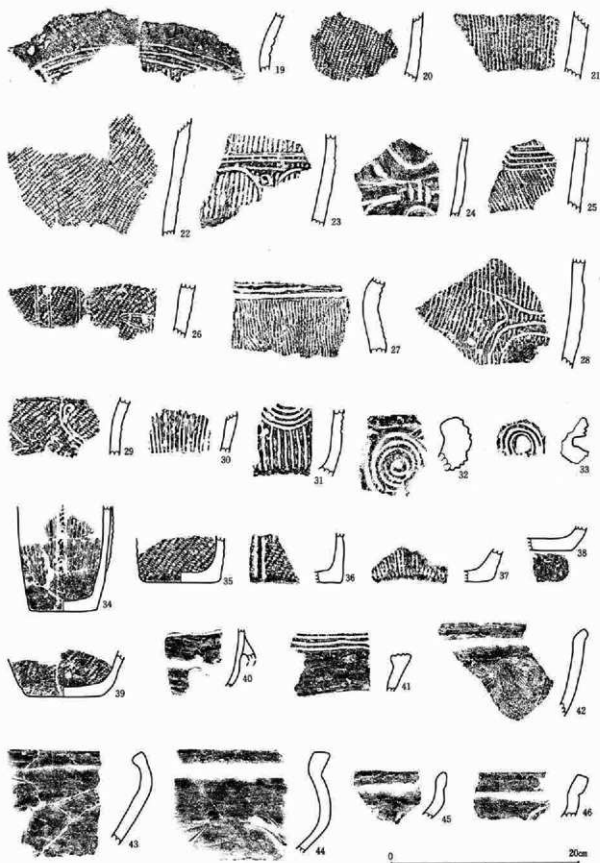
番号	粘土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
22	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	普通	LR	斜位	縄文		単筋LRが施文。内面良く磨かれている。	
23	φ1-3mmの小石	10YR	に太い黄褐色	不良			沈線	沈線	太さ4mmの工具で胴部を横位区画・渦巻き文を加える。上下に沈線垂下。内面削離。	
24	φ1mmの白色砂粒多量	10YR	灰黄褐色	良好			沈線		表面を削りだして文様をつくる。(中期?)内面磨き。	
25	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	明褐色	普通	Lr		熱赤		巾6mmの平行沈線で施文。地文は熱赤。	
26	φ1mmの砂粒・雲母多量	7.5YR	明褐色	普通	LR		縄文	沈線	巾3mmの平行沈線が胴部に鉤形に施文。内面黒色。	
27	φ1mmの砂粒・雲母多量	7.5YR	明褐色	普通	Lr		熱赤	沈線	太さ5mmの沈線を横位に施文。	
28	φ1mm以下の砂粒・雲母	5YR	褐色	普通	Lr		熱赤	沈線	太さ3mmの沈線で弧線文。内面黒色。	
29	φ1mmの砂粒	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で胴部にワラビ手状に施文。内面黒色。	
30	細かい砂粒	7.5YR	暗褐色	良好			沈線		太さ2mmの沈線を縦位に施文。内面にφ2-3mmの割離。	
31	φ1mm以下の砂粒	5YR	赤褐色	良好			沈線		太さ3mmの沈線で弧線と垂下する沈線。	
32	φ1mmの砂粒	5YR	褐色	不良			沈線		太さ3mmの沈線で渦巻き文。口縁部に突起。	
33	φ1-2mmの小石	5YR	赤褐色	良好			沈線		巾5mmの平行沈線で渦巻き文。口縁部に突起。	
34	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通			沈線	隆線	太さ1mmの鋭利な工具で沈線を引く。粘土紐を6単位に貼付。爪形文を施文。内面良く磨かれ一部にスス付着。	
35	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文		単筋縄文を横位に施文。内面黒色。	
36	φ1mm以下の砂粒・雲母	5YR	褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの粘土紐が垂直に貼付。内面黒色。	
37	φ1-2mmの砂粒	5YR	明赤褐色	不良	Lr	縦位	熱赤		熱赤縦位に施文。	
38	φ1mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好			無文		外面良く磨かれる。内面黒色。	
39	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通	LR	横位	縄文		縄文を横位に施文。φ5mm前後の斑点状に割離。内面黒色。	
40	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			無文		楕状把手つく。内外面良く磨かれる。浅鉢。	
41	φ1-2mmの小石	7.5YR	褐色	普通			沈線		太さ2mmの沈線が口縁に3条施文。外面に黒斑。浅鉢。	
42	φ1-4mmの小石・金雲母多量	2.5YR	明赤褐色	良好			無文		内外面良く磨かれる。浅鉢。	
43	φ1mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通			無文		内外面良く磨かれる。浅鉢。	
44	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	良好			無文		内外面良く磨かれる。内面やや灰色を帯びる。浅鉢。	
45	φ1mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好			無文		内外面良く磨かれる。黒色部分あり。浅鉢。	
46	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通			沈線		太さ3mmの沈線が弧状に施文。内外面良く磨かれる。浅鉢。	

第1章 出土遺物の概要



第28図 11号住居址出土遺物-1





第29図 11号住居址出土遺物-2

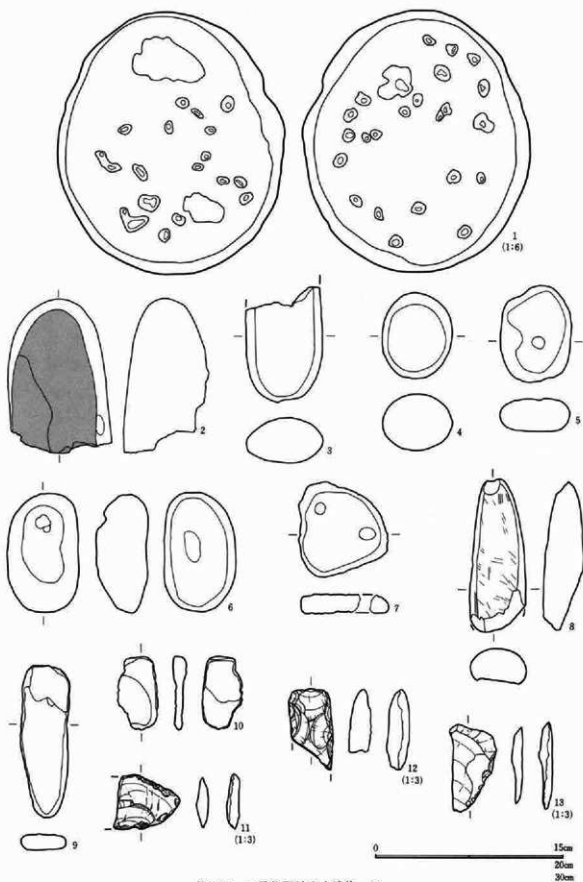
## 第1章 出土遺物の概要

I区 9号住居石器観覧表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
7	磨石	隅丸方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.9	5.6	1.5	80	
8	磨石	楕円形	テイスイト	表面に磨面。	9.8	8.6	3.7	310	欠損
9	石皿	長楕円形	緑色片岩	作業面は凹面になる。	13.8	4.4	2.9	250	欠損
10	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み多数。	29.6	15.9	8.8	3150	
11	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	18.2	10.3	9.2	2200	欠損
12	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で浅い凹み。	21.4	20.2	5	3300	欠損
13	打製石斧	短舟形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.4	4.1	1.8	60	刃部欠損
14	打製石斧	短舟形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.1	4.7	2	100	刃部欠損
15	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.1	4.1	1.1	40	
16	打製石斧	短舟形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.7	1.8	40	基部欠損
17	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	3.3	2.3	50	刃部欠損
18	打製石斧	短舟形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	4.2	1.5	40	刃部欠損
19	スクレイパー	横長	頁岩	一側面に片面刃部調整。	4.6	5.9	0.9	30	
20	スクレイパー	横長	頁岩	一側面に片面刃部調整。	4.9	4	1	20	

I区 11号住居石器観覧表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	円形	角閃石安山岩	扁平な板状の表裏に円錐形の凹み。	41.5	36.2		22500	
2	磨石	長楕円形	角閃石安山岩	表面に磨面。	15.2	11	9.2	2200	
3	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。側面に敲打痕。	12.1	8.8	4.7	680	
4	磨石	舟形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	9.2	7.5	6	550	
5	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面と敲打痕。磨→敲。	10.2	7.6	6	410	
6	磨・凹石	隅丸方形	粗粒輝石安山岩	表裏面に凹みと磨面。凹→磨。	12.6	7.7	5.4	870	
7	不明石製品	隅丸三角形	輝石	円形の孔が2カ所あく。	9.6	10.1	2.1	70	浮子?
8	磨製石斧	乳棒形	雲母石英片岩	刃部はこぼれ。横断面楕円形。	16.2	6.1	3.8	560	刃部欠損
9	敲石	扁平長楕円形	雲母石英片岩	両側面に敲打痕。	16	4.9	1.7	220	
10	スクレイパー	縦長	砂岩	一側面に使用によるほこぼれ。	7.8	4.4	1.5	40	
11	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側面に刃部調整。	3.6	7	1.1	30	
12	打製石斧	短舟形	砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.2	4.3	1	50	
13	スクレイパー	縦長	珪質頁岩	一側面に刃部調整。	6.9	3.5	1.9	30	



第30図 11号住居址出土遺物-3

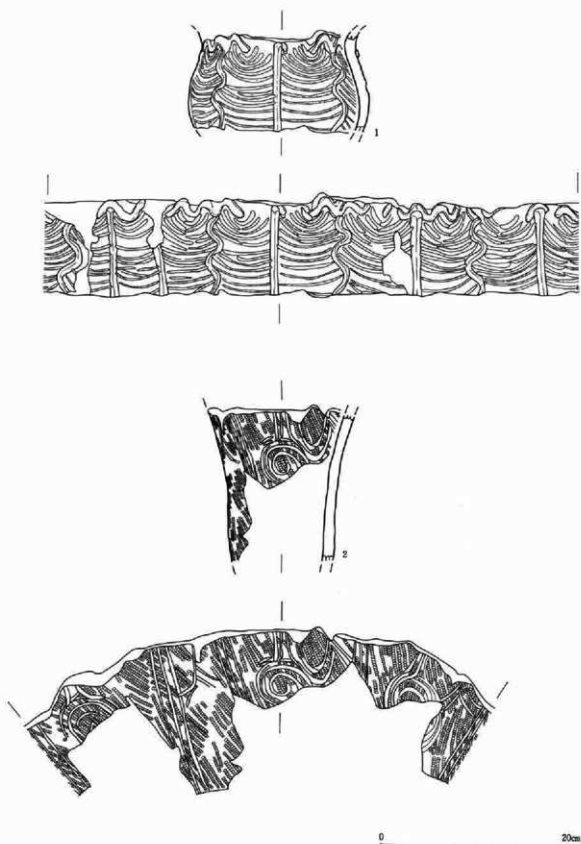
## 第1章 出土遺物の概要

I区 12号住居土器観察表

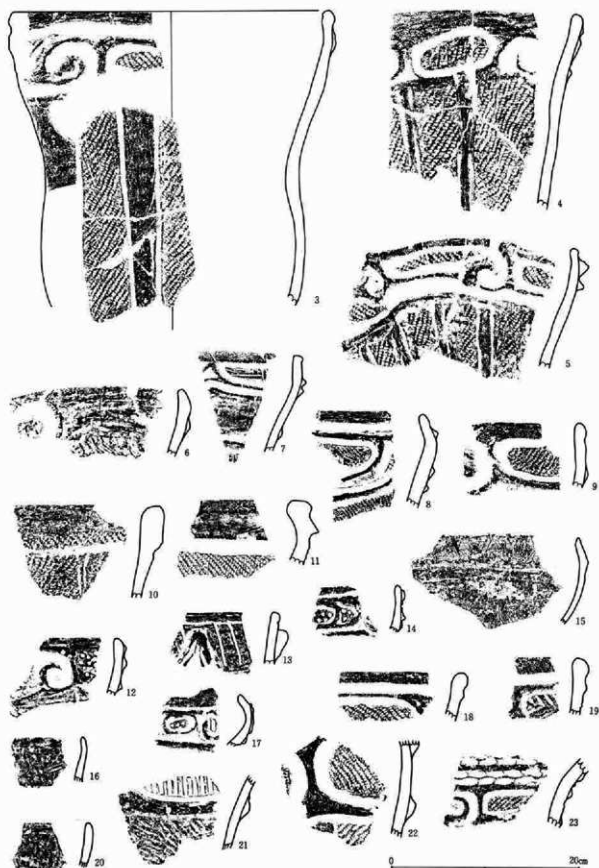
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい赤褐色	普通	沈線	横位	沈線	沈線	太さ4mmの沈線が渦巻状に施文。隆線は太さ5mmで縦位の区画や笠状に垂下。胴部に横位に鋸歯状の粘土紐を貼付。外面スス付着。	17と同一
2	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	LR	縦・斜	縄文	沈線	太さ4mmの浅い沈線3条で縦位に区画。区画間は沈線で渦巻き文を施す。	
3	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ15mmの沈線で口縁を横円区画・渦巻きをつくる。渦巻きにより器面を隆起。胴部は太さ5mmの沈線が2条対で垂下。その間は無文。渦巻き。内面スス付着。	
4	φ1-3mmの小石・砂粒多量	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線で横円区画。太さ8mmの隆線で渦巻き。口縁部文様帯から太さ5mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文。渦巻き。	
5	φ1-5mmの小石・砂粒	5YR	にぶい赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で横円区画。渦巻きは太さ15mmの隆帯でつくられる。口縁部文様帯以下は太さ3mmの沈線が2条対に垂下。沈線間は無文。渦巻き。内面磨き。	
6	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	良好	Lr	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線が渦巻きをつくる。口縁部文様帯以下はLrの縄文施文。渦巻き。	
7	φ1mm以下の細砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ6mmの隆線で口縁を横円区画。胴部は無文帯。	
8	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で横円区画し器面を隆起させる。	
9	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で横円区画し器面を隆起させる。	
10	φ1-5mmの小石・砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	縦・横	縄文	沈線	口縁部折返して厚くなる。太さ4mmの沈線が垂下。縄文は横位・縦位に施文し羽状をつくる。	
11	φ1mm以下の砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	口縁に沿って鈎状の隆帯が廻る。帯りはRL・0段多条。	
12	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好				隆線	太さ7mmの隆線で横円区画・渦巻きをつくる。横円区画内はφ4mmの円形刺突。渦巻き。	
13	φ1mm程の小石・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線		太さ3mmの沈線が口縁部区画内に縦位に施文。隆帯貼付。	
14	φ1-2mmの小石	5YR	赤褐色	普通				隆線	太さ5mmの隆線で横円区画。横円区画内はφ4mmの円形刺突。内面黒色。	
15	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		口縁部が肥厚。表面丁寧磨き。	
16	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	巾2mmの4条の平行沈線を流水状に施文し、縄文の縄文を帯り消している。内面黒色。	
17	φ1-2mmの小石	5YR	赤褐色	普通				隆線	太さ5mmの隆線で横円区画・渦巻きをつくる。横円区画内はφ4mmの円形刺突。	
18	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で横円区画し器面を隆起。	
19	φ1-2mmの砂粒・小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良			沈線	沈線	太さ4mmの隆線で横円区画し器面を隆起。区画内は矢羽状の沈線が充填。全面良く磨かれる。	
20	φ1mm以下の砂粒・雲母	7.5YR	暗褐色	良好			無文			
21	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線で横円区画。区画内を太さ4mmの沈線が縦位に施文。	
22	φ1-2mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ15mmの隆線で横円区画。区画内を横位に、区画下を縦位に施文。	
23	φ1-3mmの小石	5YR	灰褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で横円区画。区画内は隆線と交互刺突が施文。	

I区 12号住居土器観察表

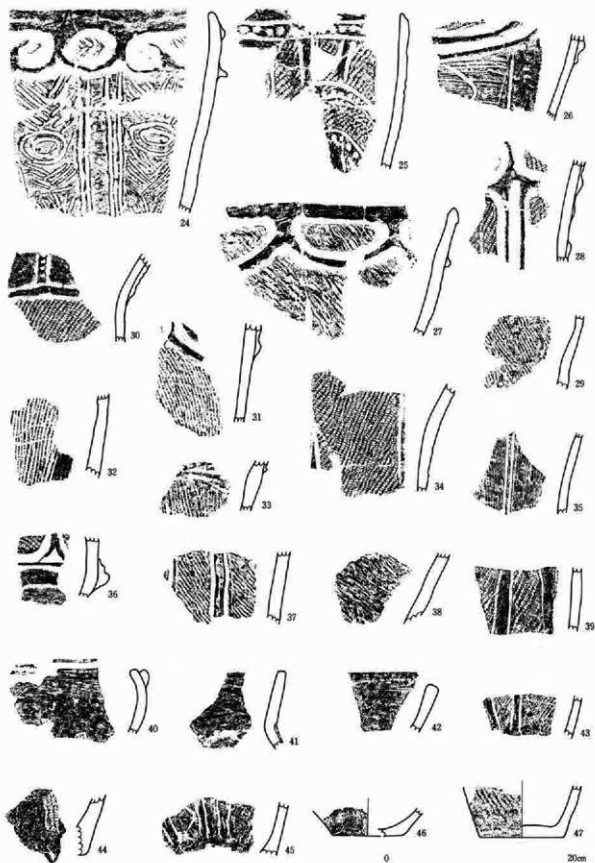
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
24	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	沈線	太さ8mmの隆線で口縁部に楕円区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文。区画部分は欠羽状・渦巻き状に沈線施文。渦は左・右巻き。外面スス付着。	
25	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で口縁部文帯帯を区画。胴部は2条対で垂下。渦線が引かれる。沈線間にφ6mmの円形刺突。	
26	φ1-2mmの小石多量・雲母	5YR	にぶい赤褐色	不良			沈線	沈線	細い沈線が横位に施文。太さ3mmの沈線垂下。	
27	φ1mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	RI	横位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線で口縁部を楕円区画。内面スス付着。	
28	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	暗褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で口縁部を楕円区画。胴部に2条の垂線施文。	
29	φ1-2mmの小石	5YR	黒褐色	良好	RI	横位	縄文	隆線	全面に縄文施文。内面良く磨かれる。	
30	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良	LR	横位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線が垂下。その縁と胴部を廻る縦線が施文。垂下する縁に刻みあり。	
31	φ1-2mmの小石・砂粒	7.5YR	暗褐色	普通	KI	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で楕円区画。	
32	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通	KI	左巻	熱赤	沈線	熱赤を施文。縦方向に無文帯をつくる。内面スス付着。	
33	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	暗褐色	良好	Lr	右巻	熱赤	隆線	太さ8mmの隆線が2条胴部に廻る。内面黒色。	
34	φ1-3mmの小石・砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	斜位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対にして垂下。沈線間は擦消して無文。	
35	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通		条痕	沈線	隆線	細かい条痕が縦位に施文。太さ3mmの沈線が2条対で垂下。	
36	φ1-2mmの細かい砂粒	7.5YR	明褐色	不良	KL	横位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で楕円区画。区画内を太さ7mmの沈線が隆線に沿って施文。胴部には太さ20-30mmの隆線が2段になって廻る。	
37	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	暗褐色	普通	RI	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文。	
38	φ1-2mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	縄文まぼらに施文。	
39	φ1mm以下の砂粒・雲母	7.5YR	褐色	普通	KL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文。	
40	φ1mm前後の細かい砂粒	2.5YR	灰白色	普通			無文		口唇部に太さ6mmの沈線廻る。全体に良く磨かれる。浅降。口唇部が黒色。	
41	φ1-2mmの小石	5YR	赤褐色	不良			無文		全体に良く磨かれる。スス付着。	
42	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通			無文		全体に磨き。赤色塗彩。	
43	φ1mm以下の砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	横位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文区画部分は地文に縄文を持ち、その上に太さ1mmの沈線が縦位に施文。	
44	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	KL	横位	縄文		胴下部片で良く磨かれる。	
45	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線		太さ3mmの沈線が2条対で垂下。沈線区画内を曲線が垂下。	
46	φ1-2mmの小石	7.5YR	黒褐色	良好			無文		全面良く磨かれる。内面スス付着。	
47	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	KL	横位	縄文		胴下部から底面は良く磨かれている。内面スス付着。	



第31図 12号住居址出土遺物-1



第32図 12号住居址出土遺物-2



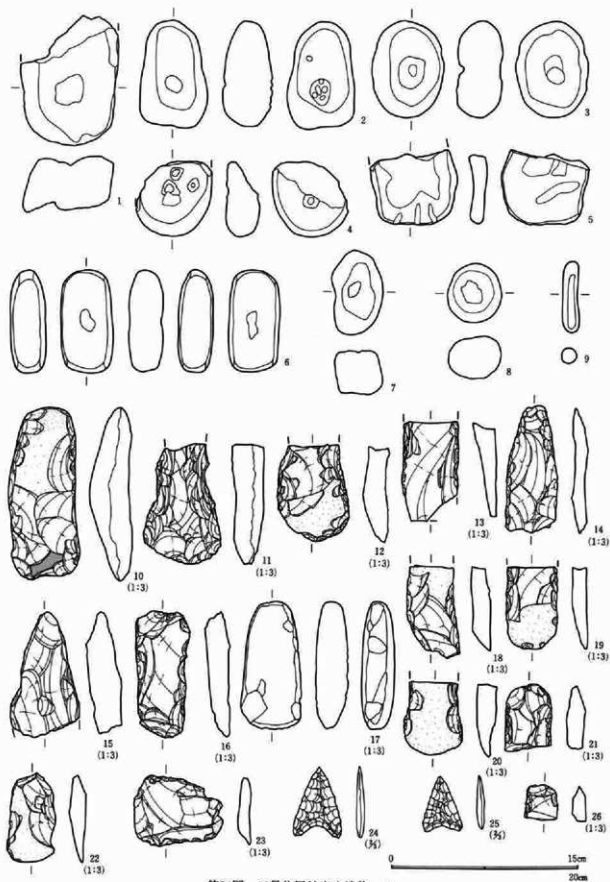
第33図 12号住居址出土遺物-3



I区 12号住居石器調査表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	13.7	10.6	7	1020	
2	敲石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に敲打痕。	10.4	7.4	5.2	620	
3	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹みと磨面。	10.2	7.8	5	490	
4	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。	8	8.2	3.7	280	欠損
5	砥石	方形	牛伏砂岩	中央部がやや凹む。側面に沿って細い溝がある。	8	9.4	2.1	180	欠損
6	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏・側面に磨面と稜を持つ。凹→磨	10.9	5.6	3.9	370	
7	敲石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。	8.5	5.6	4.7	280	
8	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕と磨面。	6.3	5.8	4.5	210	
9	砥石	棒形	砂岩	全面に作業面が付く。	7.6	1.8	1.7	40	
10	打製石斧	短冊形	安玄武岩	両面調整。横断面レンズ状。	13.5	5.8	3.8	300	
11	打製石斧	短冊形	頁岩	両面調整。両側に決り。横断面レンズ状。	9.6	6.1	2.6	160	上端欠損
12	打製石斧	短冊形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.6	5.8	2.1	120	基部欠損
13	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7.9	4.5	2.1	70	基部欠損
14	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10	4.1	1.3	70	
15	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.9	5.7	2.8	160	刃部欠損
16	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.9	4.2	2.1	100	刃部欠損
17	磨製石斧	定角式	安玄武岩	両面研磨し稜をつくる。表面が全体に荒れる。横断面隅丸方形。	10.1	4.9	2.7	220	
18	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7.2	4.4	1.5	60	両端欠損
19	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨面。横断面レンズ状。	6.5	4.1	1.3	50	基部欠損
20	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	3.8	1.5	60	基部欠損
21	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.7	1.7	40	刃部欠損
22	打製石斧	短冊形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7	3.9	1.4	40	
23	ステレノ	横長	硬質泥岩	一側面に両面調整の刃部。	5.6	7	1.7	50	
24	石鏃	凹基無茎鏃	黒曜石	鏃頭に押圧刺鏃。横断面レンズ状。	2.8	1.9	0.3	1.1	
25	石鏃	凹基無茎鏃	黒曜石	鏃頭に押圧刺鏃。横断面レンズ状。	2.2	1.6	0.3	0.6	
26	打製石斧	短冊形	硬質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	2.8	2.6	1.2	10	刃部欠損

第1章 出土遺物の概要



第34図 12号住居址出土遺物—4

I区 13号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原状	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通				沈線	太さ8mmの隆線が口縁部文様帯を区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。渦右巻き。内外面スチ付着。	
2	φ1-2mmの砂粒・雲母	2.5YR	明赤褐色	不良	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ4mmの隆線が椀口区画・渦巻き文をつくる。区画内は縄文が充填。胴部の縄文は施文方向を変える。口縁部スチ付着。	
3	φ1mm前後の砂粒	7.5YR	暗褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が口縁部に2条廻る。その間に同一工具と思われるφ5mmの刺突。口縁以下は弧状の沈線が数条加えられる。	
4	φ1mmの砂粒	10YR	灰黄褐色	普通	RI		熟糸	沈線	太さ8mmの沈線が椀口区画・渦巻き文をつくる。沈線による区画で器面より隆起する。渦左巻き。	
5	φ1mmの細かい砂粒	7.5YR	黒褐色	良好	Lr	右巻	熟糸	沈線	口縁部は無文。胴部に太さ5mmの沈線を2条廻す。内外面良く磨かれる。	
6	φ1-2mmの小石	2.5Y	灰黄色	良好	LR	横位	縄文	隆線	隆線により渦巻きをつくる。隆線は良くなされる。渦左巻き。	
7	φ1mm以下の細かい砂粒	2.5Y	浅黄色	普通				隆線	太さ10mmの隆線が弧状の区画・把手をつくる。区画内・隆線に太さ4mm長さ10mmの沈線を施文。渦右巻き。	
8	φ1mmの小石	2.5YR	明赤褐色	良好	RI	横位	縄文	沈線	太さ6mmの椀口区画。	
9	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	明褐色	普通				隆線	太さ6mmの隆線が斜割字目文がつくられる。	
10	φ1-2mmの小石	2.5YR	赤褐色	良好	LR		縄文	隆線	太さ12mmの隆線が椀口区画。	
11	φ1-2mmの砂粒多量	2.5YR	赤褐色	普通				沈線	太さ12mmの隆線が平円状に口縁部文様帯を区画。区画内は太さ4mmの沈線が充填。	
12	φ1-3mmの小石多量	5YR	明赤褐色	普通				沈線	太さ10mmの隆線が口縁部文様帯に平円状・渦巻きをつくる。区画内は太さ3mmの沈線が充填。渦右巻き。	
13	φ1-2mmの小石多量	2.5YR	にぶい赤褐色	不良				沈線	太さ6mmの沈線が把手部に渦巻きが施文。渦左巻き。	
14	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	褐色	普通				沈線	太さ3mmの沈線が口縁部文様帯を区画。胴部も同様の沈線が3条廻る。区画内は太さ1mmの沈線が矢羽状に充填。外近スチ付着。	
15	φ1mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	良好				沈線	太さ5mmの沈線が渦巻き状に施文。外面良く磨かれる。	
16	φ1-2mmの小石	5YR	褐色	不良	RI		熟糸	沈線	太さ5mmの沈線が通弧状に施文。	
17	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				隆線	太さ8mmの隆線が椀口区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ2mmの沈線が充填。	
18	φ1mm以下の細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	太さ2mmの沈線が渦巻きをつくる。渦右巻き。	
19	φ1mmの小石	7.5YR	灰褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線が文様帯を椀口状に区画。区画内は縄文が施文。区画下は太さ1mm以下の条線が施文。	
20	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通	Lr	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線が2条胴部に廻る。	
21	φ1mm以下の砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線が帯状区画。区画内は同一の工具で刺突が施文。	
22	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	暗赤褐色	良好				沈線	太さ1mmの沈線が条線になり施文。	
23	φ1mm以下の砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好				沈線	太さ2mmの沈線が縦位に施文。太さ5mmの隆線が2条対になり重下。隆線間を太さ2mmの沈線が充填。内面黒色。	
24	φ1mm以下の砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線重下。	
25	φ1-5mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で重下。沈線間は無文。	
26	φ1-5mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	良好				隆線	太さ7mmの隆線が2条重下。隆線に沿って「ハ」字状に施文。	

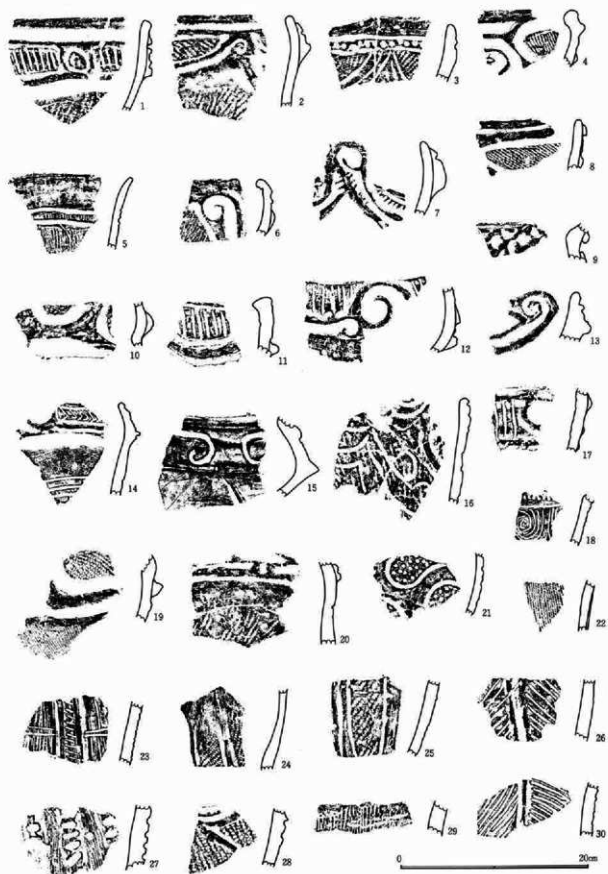
第1章 出土遺物の概要

I区 13号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
27	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線	隆線	太さ18mmの隆線が垂下。隆線から太さ7mmの筋み。	
28	φ1mm以下の砂粒多量	5YR	灰褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が渦巻きをつくる。	
29	φ1mm程の小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	捺糸		LRの捺糸が施文。	
30	φ1mm以下の砂粒	10YR	黒褐色	良好			沈線	隆線	太さ7mmの隆線が垂下。隆線から太さ3mmの沈線が「ハ」字状に施文。	
31	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	明褐色				沈線	沈線	太さ2mmの沈線が渦巻き文様をつくる。	
32	φ1-2mmの小石	2.5YR	明赤褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が垂下。	
33	φ1-2mmの小石	7.5YR	褐色	良好			無文		全体に良く磨かれる。台付き裏。	
34	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	褐色	普通			無文		内外面磨き。唇合。	
35	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ1-2mmの沈線が垂下。	
36	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			爪形		太さ3mmの筋みが底部に施文。	
37	φ1-2mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		無文。土製品。	

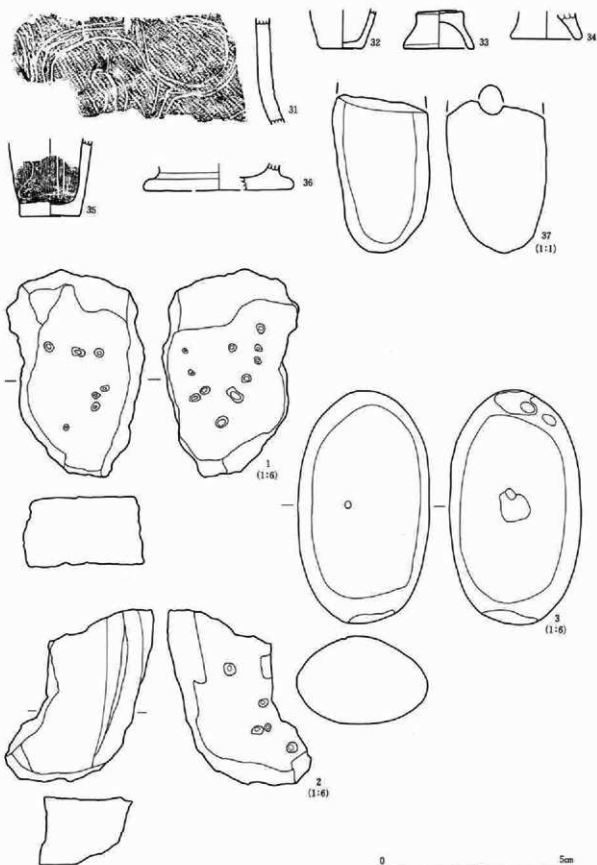
I区 13号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面は平皿で円錐形の凹み。	33.2	21.8	10.9	11300	
2	石皿・多孔	不定形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	27.2	23.5	10.7	5800	
3	台石	長楕円形	石英閃緑岩	表裏に磨面と凹み。	37	21	13.8	16200	
4	石皿・多孔	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	30	24	9.5	8600	欠損
5	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	5.9	8.7	4.7	290	欠損
6	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。表裏両側面に磨面と横を持つ。凹一磨。	8.9	5.3	4	400	欠損
7	石皿・多孔	不定形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は平皿。裏面に不定形の凹み。	16.5	19.2	6	2300	欠損
8	石皿・多孔	不定形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は平皿。裏面に円錐形の凹み。	19.5	19.2	4.5	2000	欠損
9	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏両側面に磨面と横を持つ。凹一磨。	11.5	8.4	5.4	810	欠損
10	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に凹みと磨打痕。裏面は磨面。	12.7	11.4	8	1420	欠損
11	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏面に円錐形の凹みと磨面。磨一磨。	8	7.4	4.8	320	
12	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。側面に磨打痕。凹一磨。	13.5	6.7	3.7	440	
13	凹・磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨打痕と磨面。磨一磨。	12.1	9.3	4.6	670	
14	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	8.4	8.4	5	510	欠損
15	凹・磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。側面に磨打痕。	10.9	6.4	3.7	350	
16	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カムゴック状。	16.7	6	2.9	280	
17	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.5	4.3	1.7	80	
18	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カムゴック状。	10	3.7	0.8	40	刃部欠損
19	打製石斧	楕形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.2	3.9	1.6	30	刃部欠損
20	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.6	4.6	1.3	30	刃部欠損
21	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.6	5.9	1.2	50	基部欠損
22	スケレナイバ	横長	黒色頁岩	一面面に使用によるはこぼれ。	4.5	8.2	0.7	30	
23	スケレナイバ	横長	珪質頁岩	一面面に使用によるはこぼれ。	4.9	5.9	1.4	40	
24	石鏝	—	黒色頁岩	つまみ部を持つ。先端部を押し刺し、基部は短長い。	4.3	2	0.8	4.4	
25	石鏝	—	粗粒輝石安山岩	先端部を押し刺し、基部は短い。	2.1	1.5	0.6	1.1	欠損
26	石鏝	凹基無蓋縁	黒色安山岩	側面に押し刺し。横断面レンズ状。	2.9	2.3	0.3	1.3	
27	石鏝	凹基無蓋縁	チャート	側面に押し刺し。横断面レンズ状。	2	1.5	0.3	0.7	基部欠損

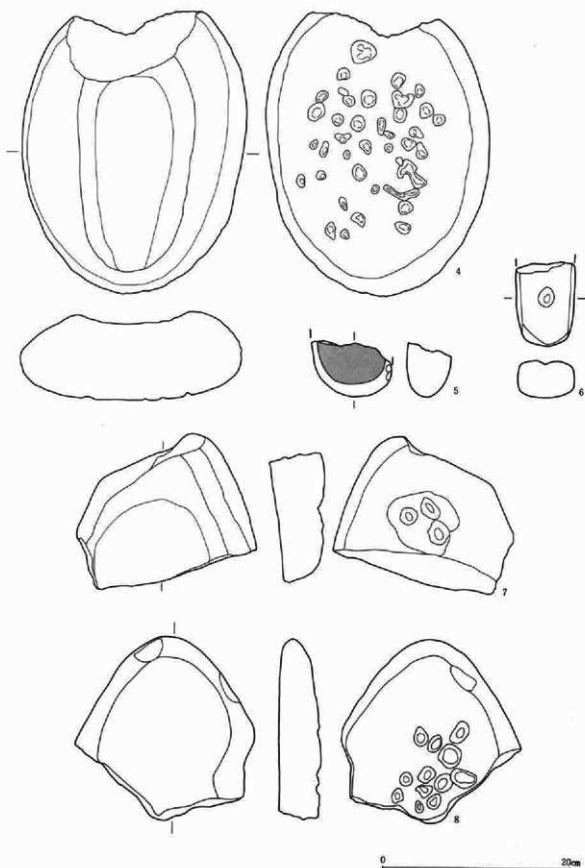


第35図 13号住居址出土遺物-1

第1章 出土遺物の概要

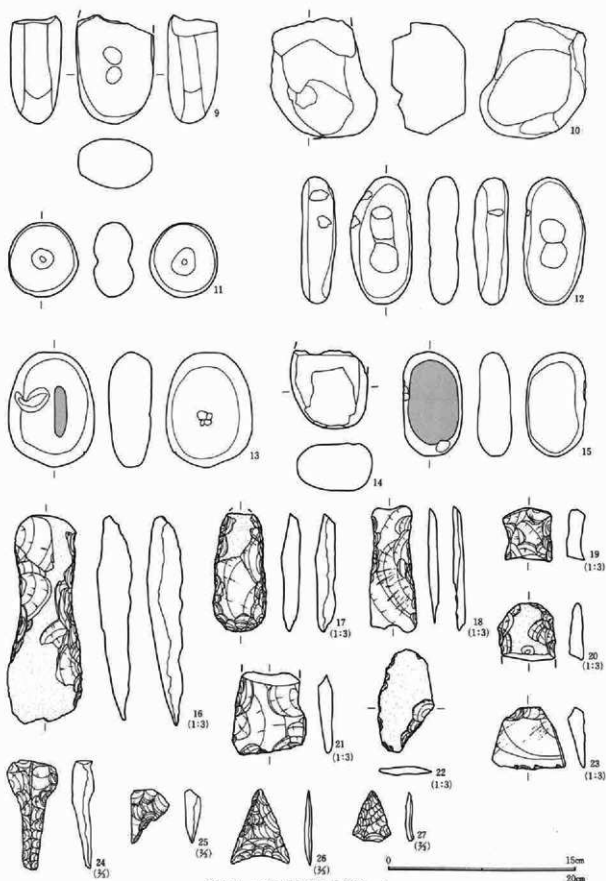


第36図 13号住居址出土遺物-2



第37図 13号住居址出土遺物-3

第1章 出土遺物の概要



第38図 13号住居址出土遺物-4



I区 14号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	良好	Lr	縦位	縄文	隆・沈	口縁部に粘土を附付し肥厚させ、沈線で楕円区画を作る。胴部は太さ4mmの沈線で縦位区画。	
2	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	条線	縦位	沈線	隆線	太さ4mmの沈線3条が口縁にまわる。胴部は太さ5mmの隆線で長楕円形の区画。口唇部に小突起が出来る。内面スス付着。	
3	φ1-3mmの小石・ 雲母・黄色軽石	2.5YR	暗赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁部に太さ7mmの隆線で半円状の区画。区画内は太さ4mmの沈線が充填。胴部は太さ4mmの沈線で縦位の区画。	
4	細かい砂粒	10YR	灰白色	良好	条線	縦・横	沈線	沈線	口縁部は太さ5mmの沈線で縦位の区画。胴部は長方形の区画。内面スス付着。	
5	細かい砂粒	7.5YR	浅黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ5mmの沈線で縦位の区画。区画間には太さ4mmの沈線が波状に垂下。内面スス付着。	
6	φ1-3mmの小石	2.5YR	赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文	沈線	胴部に太さ6mmの沈線2条が連弧文を描く。内面スス付着。	
7	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	Lr	縦位	熱赤		熱赤施文後、口唇部を横位に撫でる。	
8	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	2.5YR	赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き、スス付着。	
9	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太い隆線で渦巻き・楕円区画を作る。胴部は太さ6mmの沈線で縦位の区画と波状の垂線。	
10	細かい砂粒	2.5YR	赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	沈線	胴部は太さ5mmの沈線で横位に区画し、3条の沈線で連弧文を描く。	
11	φ1-3mmの小石・ 雲母	2.5YR	暗赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部はわずかに肥厚させ隆線と沈線で楕円区画と渦巻きを作る。胴部は太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。区画間に文様を描く部分あり。	
12	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	暗赤褐色	普通	Lr	斜位	熱赤	隆・沈	口縁部は太さ5mmの隆線で半円状の区画。区画内は沈線が楕円形に区画。区画内は縦位に沈線が充填。胴部は隆線で縦位の区画。	
13	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	暗赤褐色	不良	LRL	横位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ8mmの隆線が2条対で半円状の区画を作る。区画内は沈線が充填。胴部は太さ6mmの浅い沈線で区画し渦巻き文を描く。	
14	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	良好	条線		沈線	沈線	口縁部に太さ5mmの沈線3条を横位にまわし連弧文を描く。	
15		10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	沈線	太さ6mmの沈線で口縁部と胴部に連弧文を描く。胴部のくびれ部は横位の区画。	
16	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	良好	条線		沈線	隆・沈	太さ8mmの沈線で連弧文を描き、太さ10mmの隆線で縦位の区画と波状垂線を作る。内外面スス付着。	
17	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾8mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文。内面良く磨かれる。	
18	φ1-2mmの小石・ 雲母	5YR	明赤褐色	普通	沈線		沈線	隆線	太さ2mmの沈線を「ハ」字、肋骨状に施文。太さ7mmの隆線で楕円区画。区画内は矢羽根状に沈線が施文。内面スス付着。	
19	φ1mm前後の小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Rl	斜位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で楕円区画・渦巻きをつくる。胴部は2条対で垂下。沈線間は無文。内面良く磨かれる。	
20	φ1-2mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	良好			隆線		太さ10mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は熱赤が充填。胴部は無文。渦巻き。内面良く磨かれる。	
21	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好	条線	縦位	沈線	隆・沈	口縁部は、太さ6-8mmの隆線で半円状に区画し、沈線が充填される。胴部は巾8mmに4本の隆線。	

## 第1章 出土遺物の概要

I区 14号住居土器観察票

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
22	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	黒褐色	普通	沈線		沈線	沈線	太さ15mmの隆線で口縁部文様帯を弧状に区画。区画内は太さ4mmの沈線で文様を描く。頸部に割目を持つ隆線が廻る。胴部に平行沈線が条線状に施文。	
23	φ1-3mmの小石・細かい雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ15mmの隆線が弧状区画。胴部は同じ隆線が曲線を持ち垂下。区画内は太さ3mmの沈線が充填。外面にスス付着。	S3と同一
24	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰褐色	普通	沈線		沈線	隆線	太さ5mmの隆線で横円区画。太さ1mmの沈線が条線状に引かれる。地文に細かい沈線が施文。内外面スス付着。	
25	φ1-5mmの小石・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	良好	Lr	右・横	熱赤	沈線	外面口縁部に熱赤が施文。内面5mmの沈線施文。体部は良く磨かれている。	
26	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Rl	右巻	熱赤	沈線	太さ2mmの沈線で口縁部文様帯に横円区画。区画内はφ3mmの円形刺突が充填。太さ2mmの沈線が波頂部から垂下。渦左巻き。	
27	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	左巻	熱赤	沈線	太さ3mmの沈線で口縁に沿って2条廻る。波頂部に双円の透かし。	
28	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ12mmの沈線で横円区画・渦巻きをつくる。口縁部文様帯は胴部より肥厚。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文。垂線の間に「S」字状の沈線が施文。内面良く磨かれる。	
29	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文・沈	沈線	太さ8mmの隆線で口縁部文様帯を半円状に区画する。区画内を沈線が縦位の区画と波状文を描く。	
30	φ1-3mmの小石・φ1mm以下の砂粒	7.5YR	褐色	普通	LRL	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線で横円区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ5mmの沈線が2条対で垂下。内面黒色。	
31	φ1-5mmの小石	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	熱赤		熱赤を施文後、口縁部をナデで無文帯をつくる。内面良く磨かれる。	32と同一
32	φ1-5mmの小石	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	熱赤		熱赤を施文後、口縁部をナデで無文帯をつくる。内面良く磨かれる。	31と同一
33	φ1mm以下の砂粒	5YR	赤褐色	良好			無文		外面良く磨かれる。内面下半黒色。	
34	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で口縁部文様帯に横円区画・渦巻きをつくる。胴部は曲線が垂下。区画内は太さ3mmの沈線が施文。	
35	φ1-3mmの小石	2.5YR	オリーブ褐色	普通	Lr	左巻	熱赤	隆線	太さ8mmの隆線で横円区画・渦巻きをつくる。区画内は熱赤が充填。胴部は無文。	
36	φ1-3mmの砂粒	5YR	暗赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で横円区画。沈線により文様帯部分が肥厚。	
37	φ1-2mmの砂粒	10YR	灰黄褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で口縁部文様帯に横円区画。内面黒色。	
38	φ1mm以下の砂粒	10YR	褐灰色	普通	LR	斜位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線が横円区画・渦巻きをつくる。渦左巻き。	
39	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線で横円区画・渦巻きをつくる。区画内は沈線が充填。胴部以下は太さ2mmの沈線が波頂部から垂下。渦右巻き。内面良く磨かれる。	
40	φ1-3mmの小石多量	5YR	褐灰色	普通	条線	縦位	沈線	沈・沈	太さ12mmの隆線が弧状の区画。区画内は太さ1mmの沈線が施文。沈線間の渦巻きは太さ5mmの沈線。内面良く磨かれる。外面スス付着。条線は、φ15mm。	
41	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	太さ7mmの沈線で横円区画・渦巻きをつくる。沈線により区画を縁面から隆起。	
42	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	褐色	不良			沈線		太さ4mmの沈線で渦巻きをつくる。内面スス付着。	

## 第1節 I地区の出土遺物

I区 14号住居土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	地成	地文 原体	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
43	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	LR	横・斜	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で楕円区画・渦巻きをつくる。沈線により区画を器面から隆起。渦巻きも。	
44	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	褐色	普通				隆線	太さ10mmの隆線で渦巻きをつくる。内面黒色。外面スス付着。	
45	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RI	横位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で平円状の区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	
46		7.5YR	黒褐色	良好				隆線	太さ10mmの隆線で平円状の区画。区画内は太さ7mmの沈線が充填。	
47	φ1mmの砂粒・金雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ7mmの隆線で平円状の区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。区画の交点部から太さ4mmの沈線が2条垂下。外面スス付着。	
48	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	不良	条線	縦位	沈線	隆線	太さ4mmの沈線で渦巻きをつくる。巾2-3mmの条線施文。	
49	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆線	太さ6mmの沈線が口縁に廻る。胴部には地文に条線を施文。内面良く磨かれる。	
50	φ1-3mmの小石	2.5YR	赤褐色	普通	RI	横位	縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線が弧状に区画。区画内は太さ2mmの沈線が斜位に充填。外面スス付着。	57と同一
51	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	2mm間隔の条線を施文。太さ6mmの沈線が口縁に2条廻る。胴部に太さ5mmの沈線が波状に施文。	
52	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	灰褐色	良好	RRL	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が2条で楕円区画。沈線間は器面より隆起。原体はRRLの複形。	
53	φ1-3mmの小石・細かい雲母	7.5YR	黒褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ15mmの隆線で弧状区画。胴部は同じ隆線が曲線を持ち垂下。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	23と同一
54	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	左巻	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が口縁に3条廻る。沈線間に「D」字爪形文が施文。内面良く磨かれる。	
55	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ15mmの隆線で楕円区画。	
56	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通				隆線	太さ6mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は2mmの沈線が充填。胴部以下は沈線が2条付で垂下。	
57	φ1-3mmの小石	2.5YR	赤褐色	普通	RI	横位	縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線が弧状に区画。区画内は太さ2mmの沈線が斜位に充填。外面スス付着。	50と同一
58	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ15mmの隆線で口縁部に楕円区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。区画下は太さ3mmの沈線が3条付で施文。	
59	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい橙色	不良	条線			沈線	太さ1mmの沈線が胴部に波状に施文。口縁部に太さ8mmの隆線が波状に施文。	
60	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰褐色	良好				沈線	太さ3mmの沈線が口縁に沿って2条廻る。胴部に沈線が3条垂下。	
61	φ1mm程度の砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				隆・沈	太さ12mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	
62	φ1mm以下の小石多量	5YR	にぶい赤褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ13mmの隆線で楕円区画。隆線状に7mmの沈線を施文し、隆線を2条に分ける。区画内、胴部は太さ3mmの沈線が施文。	
63	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通				沈線	太さ8mmの隆線が2条で区画。その内を太さ2mmの沈線が充填。	
64	φ1mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通				沈線	太さ5mmの隆線が口縁に2条廻る。口縁部に太さ1mmの沈線が矢羽根状に施文。胴部に太さ3mmの沈線が波状に施文。内面スス付着。	
65	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線が重弧状に施文。口縁の折り返し部分は太さ7mmの沈線が斜位に施文。	

## 第1章 出土遺物の概要

I区 14号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴		時期・備考
									文様	特徴	
66	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線	沈線	沈線	太さ12mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	
67	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	沈線		沈線	隆線	隆線	太さ8mmの隆線が楕円区画・渦巻きをつくる。太さ2mmの沈線が充填。内面スス付着。	
68	φ1mm以下の砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	沈線		沈線	隆線	隆線	太さ10mmの隆線が口縁に沿って廻る。口縁に条線が施文。	
69	φ1mmの小石	5YR	灰褐色	普通	沈線		沈線	沈線	沈線	太さ10mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ5mmの沈線が矢羽根状に施文。	
70	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	灰褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	隆線	太さ6mmの隆線が楕円区画。隆線に沿って太さ4mmの沈線が施文。	
71	φ1mmの白色小石多量・雲母	7.5YR	黒褐色	普通				沈線	沈線	太さ5mmの沈線が2条平行に放状をつくる。	
72	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通				沈線	沈線	太さ2mmの沈線が矢羽根状に施文。胴部に太さ8mmの隆線が施文。	
73	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい褐色	普通	Lr		熱赤			口縁部ナデで無紋部をつくる。胴部に熱赤施文。	
74	φ1mmの白色砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	不良			爪形			巾15mm、太さ2mmの沈線が口縁に沿って横位・弧状に施文。	
75	φ1mm以下の砂粒	5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	沈線	太さ4-8mmの沈線が楕円区画・渦巻きをつくる。沈線により区画内の器面を隆起。楕円区画内は太さ1mmの沈線が充填。内面横位磨き。	
76	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	Lr	縦位	縄文	隆線	隆線	太さ8mmの隆線が楕円区画・渦巻きをつくる。	
77	φ1-2mmの小石	7.5YR	灰褐色	普通			沈線	沈線	沈線	太さ4mmの沈線が重環状に施文。	
78	φ1mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文	隆線	隆線	口縁部は粘土を貼付し渦巻きをつくる。胴部に太さ4mmの沈線が2条垂下。渦巻き。	
79	φ1mm以下の砂粒・雲母	7.5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線	隆線	隆線	太さ10mmの隆線で渦巻きをつくる。渦巻き。	
80	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	沈線		沈線	隆線	隆線	太さ3mmの沈線が口縁部文様帯を区画。矢羽根状に施文。太さ6mmの隆線で渦巻きをつくる。内面に隆線を持つ。渦巻き。	
81	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	沈線	太さ5-8mmの沈線が楕円区画・渦巻きをつくる。区画部分は器面より隆起する。胴部に沈線が2条垂下。渦巻き。	
82	φ1-2mmの小石	7.5YR	灰褐色	普通			沈線	沈線	沈線	太さ4mmの沈線が口縁に2条廻る。胴部に同じ原形が垂下。	
83	φ1mmの白色砂粒多量	7.5YR	灰褐色	普通			沈線	沈線	沈線	太さ5mmの沈線が放状に施文。橋状把手。	
84	φ1-3mmの小石・石英	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	沈線	太さ6mmの沈線が縦位に施文。渦巻き。橋状把手。	
85	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	右巻	熱赤	沈線	隆線	胴部に突起が廻る。胴部に太さ4mmの沈線が弧状に施文。	
86	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆線	隆線	太さ2mmの沈線が口縁部に縦位に施文。	
87	φ1-2mmの小石・砂粒	7.5YR	にぶい黄褐色	普通	沈線		沈線	沈線	沈線	太さ5mmの沈線が口縁に沿って廻る。補修孔はφ8mm。	
88	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	灰褐色	良好				沈線	沈線	太さ8mmの沈線が口縁部に縦位に施文。下半部は良く磨かれる。	
89	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	灰褐色	普通			爪形	隆線	隆線	太さ6-8mmの隆線が楕円区画。隆線の中を太さ2mmの沈線が施文。	
90	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	沈線	太さ6mmの沈線が楕円区画・渦巻きをつくる。胴部に2条対で垂下。	
91	φ1mm以下の砂粒多量	5YR	にぶい褐色	普通			沈線	隆線	隆線	太さ5-6mmの隆線で渦巻き区画をつくる。区画間には太さ4mmの沈線が充填。太さ12mmの隆線を持つ。器面丁寧な磨き。	
92	φ1-3mmの小石	2.5YR	暗赤褐色	良好				無文	無文	太さ12mmの隆線を持つ。器面丁寧な磨き。	
93	φ1mm以下の細かい砂粒	2.5YR	黒褐色	普通			爪形	沈線	沈線	太さ2mmの沈線が幾何学文。	

I区 14号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
94	φ1~2mmの小石・砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	帯赤	沈線	太さ4mmの沈線が渦巻き・点状の文様をつくる。渦巻きも、内面スス付着。太さ8mmの隆線が支線帯を区画。その間に太さ4mmの沈線が充填。内面黒色。太さ8mmの隆線で幾何学文。内面削り痕あり。	96と同一
95	φ1~3mmの小石	7.5YR	灰褐色	普通				沈線	縄文	
96	φ1~2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	左巻	帯赤	隆線	太さ8mmの隆線が幾何学文。内面削り痕あり。	96と同一
97	φ1mmの砂粒・雲母多量	5YR	明赤褐色	不良	Lr	左巻	帯赤	隆線	太さ6mmの隆線が貼付。	
98	φ1~2mmの小石	7.5YR	褐色	普通	Lr	左巻	帯赤	隆線	太さ8mmの隆線が幾何学文。内面削り痕あり。	96と同一
99	φ1~5mmの小石	2.5YR	赤褐色	良好				沈線	隆線	
100	φ1~3mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通				沈線	隆線	
101	φ1~3mmの砂粒・雲母多量	5YR	赤褐色	普通	Rl	左巻	帯赤	沈線	太さ4mmの沈線が弧状に施文。	
102	φ1~3mmの砂粒	2.5YR	赤褐色	良好	条線	縦位	沈線	沈・条	巾8mmに4本の条線。太さ7mmの沈線が弧状に施文。太さ8mmの隆線も一部みられる。内外面スス付着。	
103	φ1~5mmの小石	2.5YR	暗赤褐色	良好	条線			沈線	隆線	
104	φ1mmの砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	Rl	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの隆線が胴部を廻る。太さ3mmに沈線が隆線上に縦位に、胴部に曲線を持ち施文。	
105	φ1mmの砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線で楕円区画。区画内は太さ4mmの円形刺突。	111と同一
106	φ1mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好	Lr	右巻	帯赤		内面良く磨かれる。	
107	φ1~3mmの砂粒・小石	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で縦位区画。内面スス付着。	
108	φ1~2mmの小石多量	5YR	赤褐色	良好	Lr	右巻	帯赤	沈線	太さ4mmの沈線が「コ」字状に施文。沈線間は無文。内面良く磨かれる。	
109	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通	Rl	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で直線・曲線になり垂下。沈線間は無文。	
110	φ1~3mmの細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	Rl	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で楕円・波状の文様をつくる。	
111	φ1mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線で楕円区画。区画内は太さ4mmの円形刺突。	105と同一
112	φ1~3mmの砂粒多量	2.5YR	明赤褐色	普通	条線	縦位	沈線		巾6mmに3本の条線。全面に条線が引かれる。	
113	φ1~5mmの小石・砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	Rl	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で直線を垂下させ縦位区画。直線間は無文。縦位区画内は同じ太さの沈線を波状に垂下。太さ6mmの隆線が弧状に垂下。	
114	φ1mmの砂粒・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	Rl	縦位	縄文	隆線		
115	φ1~3mmの小石	7.5YR	黒褐色	普通				沈線	隆線	
116	φ1~2mmの砂粒	5YR	赤褐色	普通	RlR	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が直線・渦巻きをつくる。隆線の中に太さ5mmの沈線が充填。太さ6mmの沈線が直線・曲線で垂下。沈線間は磨消で無文。内面良く磨かれる。	
117	φ1mm以下の細かい砂粒	2.5YR	赤褐色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が垂下。	
118	φ1~3mmの小石	5YR	にぶい褐色	不良	LR	斜位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で楕円区画・縦位区画をつくる。楕円区画は沈線により器面が隆起。縦位区画の沈線間は無文。	
119	φ1~3mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条垂下。	
120	φ1mm程の砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	帯赤	沈線	太さ3mmの沈線が渦巻きをつくり、沈線が充填。内面良く磨かれる。	

## 第1章 出土遺物の概要

I区 14号住居土器観察表

番号	粘土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
121	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	ぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位区画。 沈線間は無文。縦位区画内は波状の沈 線が施文。	
122	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通	条線		沈線	沈線	太さ3mmの沈線が曲線を持ち垂下。条 線は巾10mmで5本ある。内面スス付着。 太さ8mmの隆線が波状に垂下。巾6mm 4本の条線が波状に垂下。内外面黒色 部多い。	126と同一
123	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線が弧状に貼付。内面に 黒斑あり。	
124	φ1-2mmの砂粒・ 雲母	7.5YR	褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位区画。 沈線間は波状の沈線。	
125	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	不良	Lr	縦位	熟赤	隆線	太さ8mmの隆線を弧状に貼付。内面に 黒斑あり。	
126	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線が波状に垂下。巾6mm 4本の沈線が波状に垂下。内外面黒色 部多い。	123と同一
127	φ1-3mmの小石・ 砂粒	7.5YR	ぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線を弧状・渦巻きをつく る。	
128	φ1mm以下の砂粒・ 雲母	7.5YR	ぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が縦位区画・横円区画 をつくる。縦位区画は沈線が2条対に なる。沈線間は無文。	
129	φ1mm以下の砂粒	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で垂下。内面 黒色。	
130	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆線	太さ3mmの隆線により縦位区画。それ を中心に太さ3mmの沈線が環状に施 文。内面スス付着。	
131	φ1mm前後の砂粒・ 雲母	10YR	ぶい黄褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ4mmの沈線が横位区画。区 画間は波状の沈線。	
132	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	褐色	普通			沈線	沈線	巾10mmの6本の条線による波状文。内 外面スス付着。	138と同一
133	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	明褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線が2条で縦位区画。	
134	φ1-3mmの砂粒・ 雲母	7.5YR	黒褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	巾7mmの4本の沈線が波状に垂下。こ れに平行するように7mmの隆線が波 状に垂下。	
135	φ1-2mmの砂粒多 量	5YR	暗赤褐色	不良	Lr	縦位		沈線	太さ4mmの沈線が幾何学文・渦巻きを つくる。	
136	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好			沈線	隆線	太さ6mmの隆線により縦位区画。それ を中心に太さ4mmの沈線が環状に施 文。内面黒色。	
137	φ1-3mmの砂粒・ 雲母	10YR	ぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で垂下し縦位 区画。垂線間は無文。区画間は波状の 沈線が施文。	
138	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	明褐色	普通			沈線	沈線	巾10mmの6本の条線による波状文。内 外面スス付着。	132と同一
139	φ1mmの砂粒	7.5YR	明褐色	不良	Lr	右巻	沈線	沈線	太さ3mmの沈線が縦位に施文。	
140	φ1mm以下の細かい 砂粒	5YR	ぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が垂下し縦位区画。沈 線間は無文。	
141	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	ぶい褐色	普通			沈線	隆線	太さ8mmの隆線が横円区画・渦巻きを つくる。区画内を太さ2mmの沈線が充 填。	
142	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	暗褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が弧状に文様を区画。	
143	φ1mm以下の砂粒・ 雲母	2.5YR	赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ6mmの隆線を弧状に施文。巾6mm の4本の条線が弧状に施文。	
144	φ1mmの細かい砂 粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が縦位区画。	
145	φ1-2mmの細かい砂 粒	2.5YR	赤褐色	不良	Lr		熟赤		まばらに熟赤が施文。	
146	φ1-5mmの小石・ 雲母	5YR	明赤褐色	良好			沈線		太さ4mmの沈線により幾何学文。区画 内は沈線が充填。	
147	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			無文		外面磨き、指頭圧痕が残る。内外面に 朱のようなものが塗られる。浅鉢。 太さ10mmの沈線が弧状に施文。薄平の 土器。	
148	φ1mmの砂粒多量	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線			

I区 14号住居土器観察表

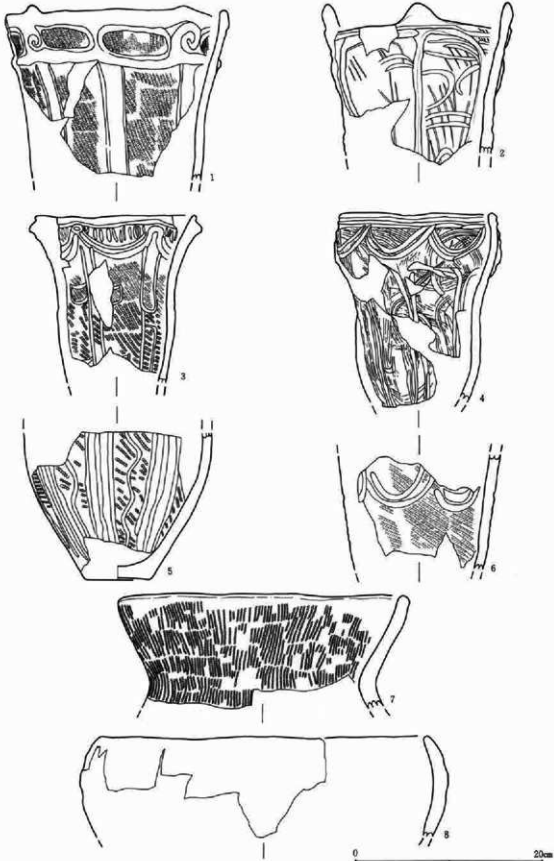
番号	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
149	φ1-3mmの砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	縦線	太さ6mmの縦線が2条対で垂下。内面スス付着。	
150	φ1mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で波状に施文。	
151	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	Lr	右巻	沈線	縦線	内面良く磨かれる。	
152	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい橙色	普通	KLR	斜位	縄文	縦線	太さ7mmの縦線が波状に垂下。	
153	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文	縦線	無文。内外面とも良く磨かれる。浅鉢。	
154	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で精円区画。内外面良く磨かれる。浅鉢。	
155	φ1-3mmの小石	5YR	褐灰色	良好			無文	縦線	無文。内面黒色。内外面とも良く磨かれる。浅鉢。	
156	φ1-3mmの砂粒・小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文	縦線	横位の磨き。浅鉢。	
157	φ1-5mmの小石	2.5YR	明赤褐色	良好			無文	縦線	内面赤色塗彩。内外面とも良く磨かれる。浅鉢。	
158	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文	縦線	内外面横位の施文。外面スス付着。浅鉢。	
159	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良			無文	縦線	無文。内面赤色塗彩。内外面良く磨かれる。	
160	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文	縦線	内外面とも横位磨き。	
161	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文	縦線	頸部にφ6mmの孔あり。内面良く磨かれる。浅鉢。	
162	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文	縦線	無文。内外面とも良く磨かれる。浅鉢。	
163	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	良好			無文	縦線	頸部にφ6mmの孔あり。内外面良く磨かれる。浅鉢。	
164	φ1mm前後の砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好			無文	縦線	内外面とも横位磨き。外面赤色塗彩。浅鉢。	
165	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文	縦線	内外面とも横位磨き。浅鉢。	
166	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文	縦線	内外面横位の磨き。浅鉢。	
167	φ1mm以下の細かい小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文	縦線	内外面とも横位磨き。	
168	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文	縦線	内外面とも横位磨き。	
169	φ1mm以下の砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好			無文	縦線	無文。内外面とも良く磨かれる。内外面スス付着。浅鉢。	
170	φ1mm以下の小石・雲母	10YR	灰黄褐色	良好			無文	縦線	内外面横位の磨き。内外面スス付着。浅鉢。	
171	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい褐色	普通			無文	縦線	内外面横位の磨き。内面黒色。浅鉢。	
172	φ1mm以下の砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文	縦線	内外面横位の磨き。浅鉢。	
173	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	不良			無文	縦線	外面良く磨かれる。外面黒色。浅鉢。	
174	φ1-5mmの小石	10YR	明黄褐色	不良			無文	縦線	表面が磨減。浅鉢。	
175	φ1mm程度の砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線	縦線	太さ8mmの縦線で精円区画・渦巻きをつくる。精円区画内は太さ4mmの沈線が充填。	
176	φ1mmの砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	良好			無文	縦線	内外面横位に磨き。	
177	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	良好			無文	縦線	内外面とも丁寧に磨かれる。	
178	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通			無文	縦線	底面網代。	
179	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	不良			無文	縦線	太さ2mmの沈線が縦位区画・波状に施文。	
180	φ1-3mmの砂粒	5YR	にぶい橙色	不良			無文	縦線	外面良く磨かれる。	
181	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	不良	RL	縦位	縄文	縦線	太さ8mmの縦線で波状に施文。	
182	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文	縦線	太さ3mmの沈線で縦位区画・波状をつくる。内面黒色。磨減多い。	
183	φ1-5mmの小石	5YR	赤褐色	普通			沈線	縦線	太さ2mmの沈線が垂下。	
184	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	縦線	外面磨き。	
185	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文	縦線	外面縦位にナテ。	
186	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通			無文	縦線	外面良く磨かれる。	

## 第1章 出土遺物の概要

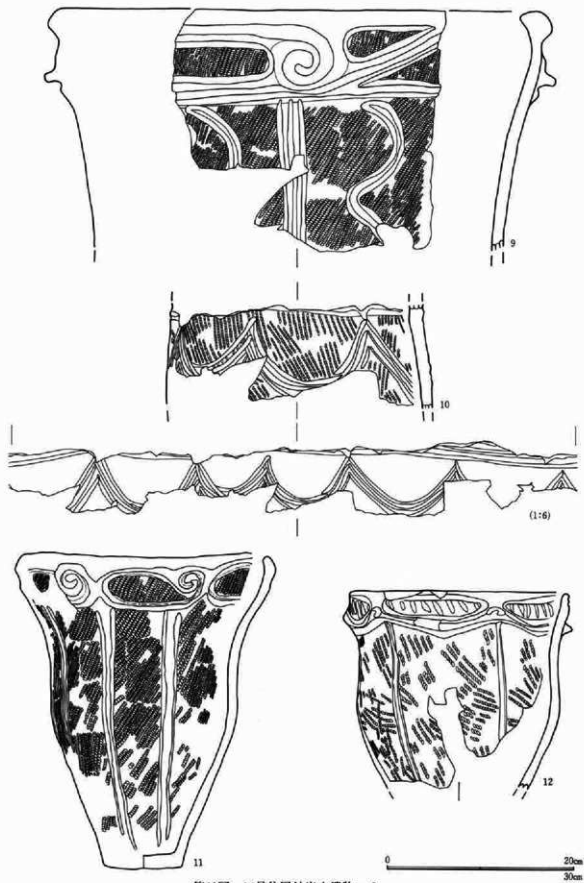
I区 14号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
187	φ1-5mmの小石・ 雲母	5YR	暗赤褐色	良好				無文	外面縦位に良く磨かれる。	
188	φ1mm以下の細かい 砂粒	7.5YR	褐色	良好				無文	内外面とも斜位に磨かれる。外面黒色。	
189	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文	無文	内面スス付着。	
190	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	内外面とも良く磨かれる。外面黒色。	
191	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好				無文		
192	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通				無文	内面黒色。	
193	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好				無文		
194	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好				無文	内外面良く磨かれる。	
195	φ1-5mmの小石	5YR	赤褐色	普通	KL	斜位	縄文	沈線	内面良く磨かれる。	
196	φ1-3mmの小石多 量	5YR	赤褐色	良好				隆線	太さ1mmの沈線が縦位に施文。太さ 8mmの隆線が縦位に施文。	
197	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	KL	横位	縄文	無文	底面丁寧に磨かれる。	
198	φ1-3mmの砂粒・ 雲母	5YR	暗赤褐色	普通	KL	斜位	縄文	無文	底面磨代。	
199	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通				無文	土製円盤。底部破片の転用。	
200	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	普通				無文		
201	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				無文	土製円盤。底部破片の転用。	
202	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通				無文	太さ1mmの沈線で対弧状に施文。耳動 り。	
203	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	内外面丁寧に磨き。内面黒色。浅鉢。	

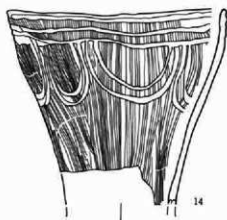




第39図 14号住居址出土遺物-1

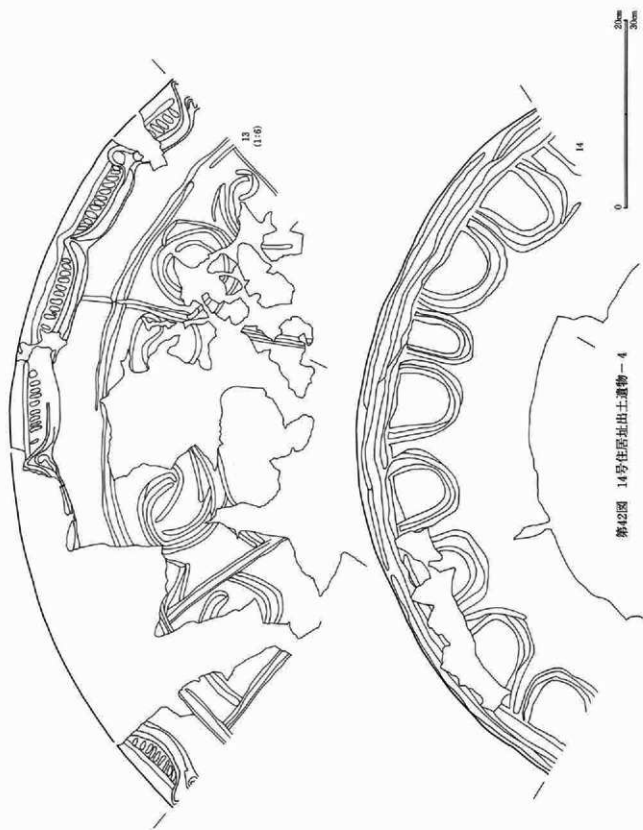


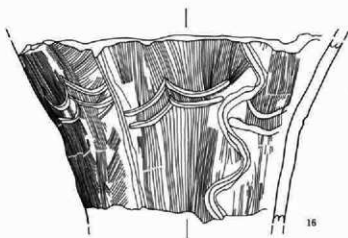
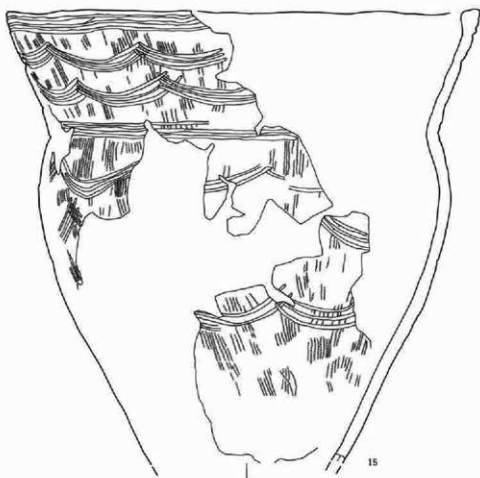
第40図 14号住居址出土遺物-2



0 20cm

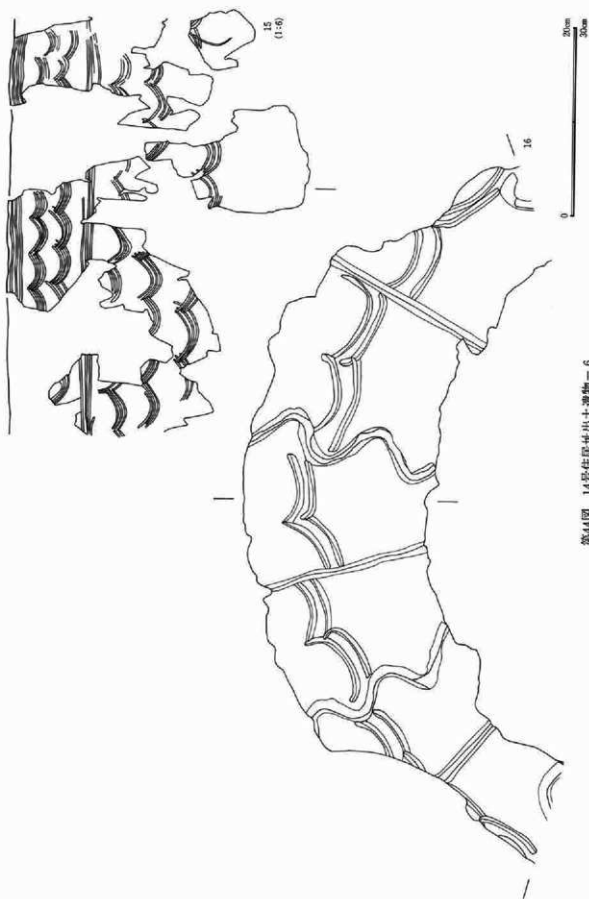
第41図 14号住居址出土遺物-3



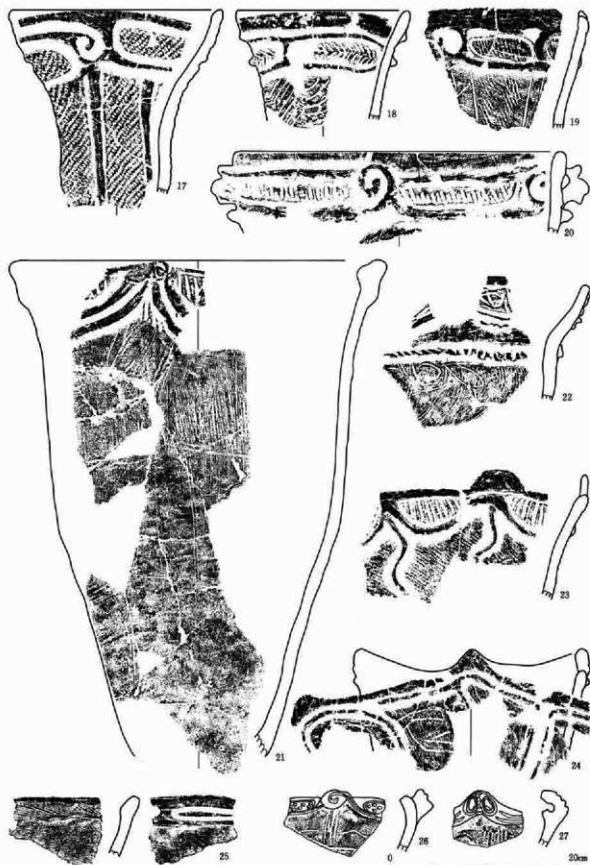


0 20mm

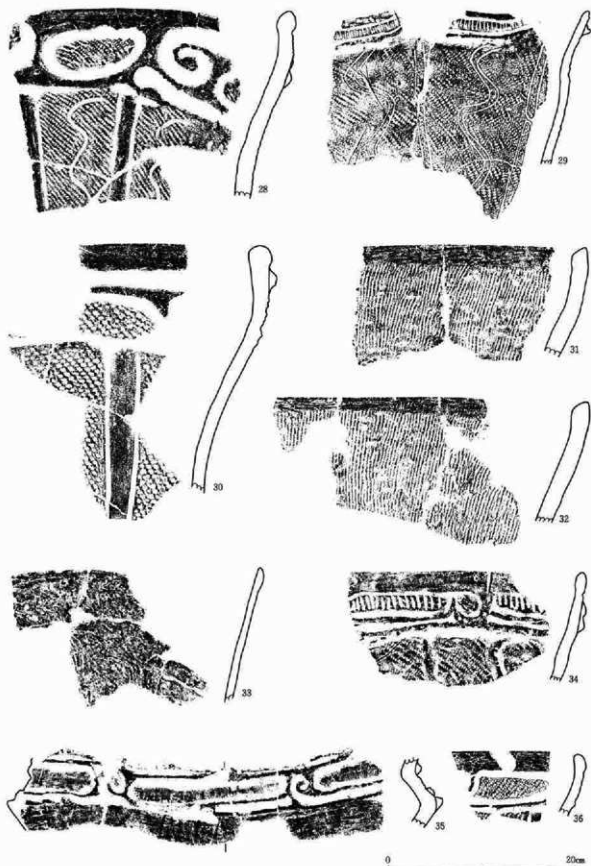
第43图 14号住居址出土遺物-5



第44図 14号住居址出土遺物-6



第45图 14号住居址出土遺物-7



第46図 14号住居址出土遺物-8



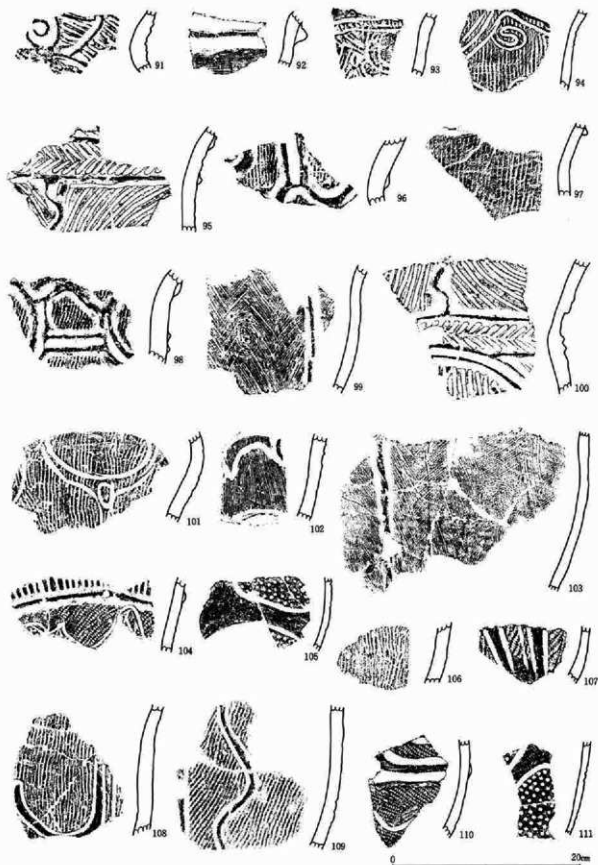


第47図 14号住居址出土遺物-9

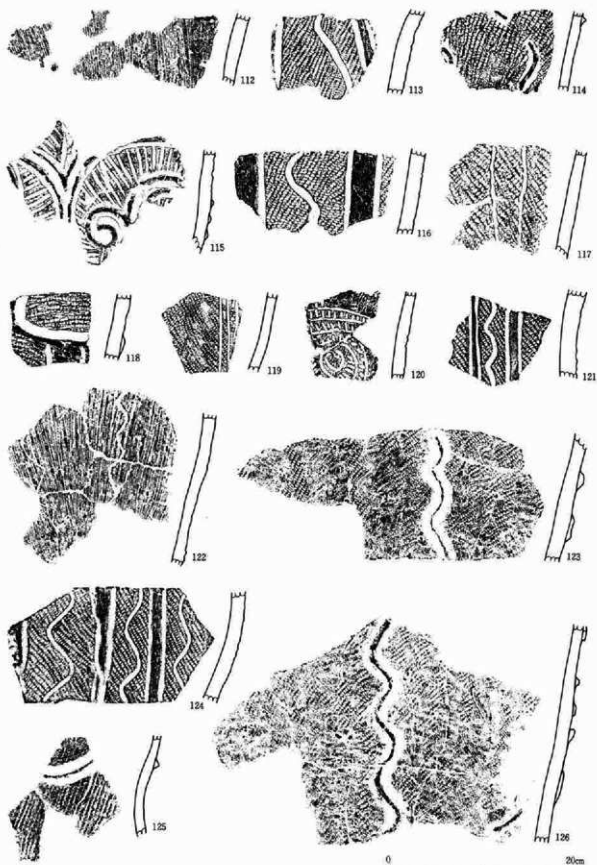
第1章 出土遺物の概要



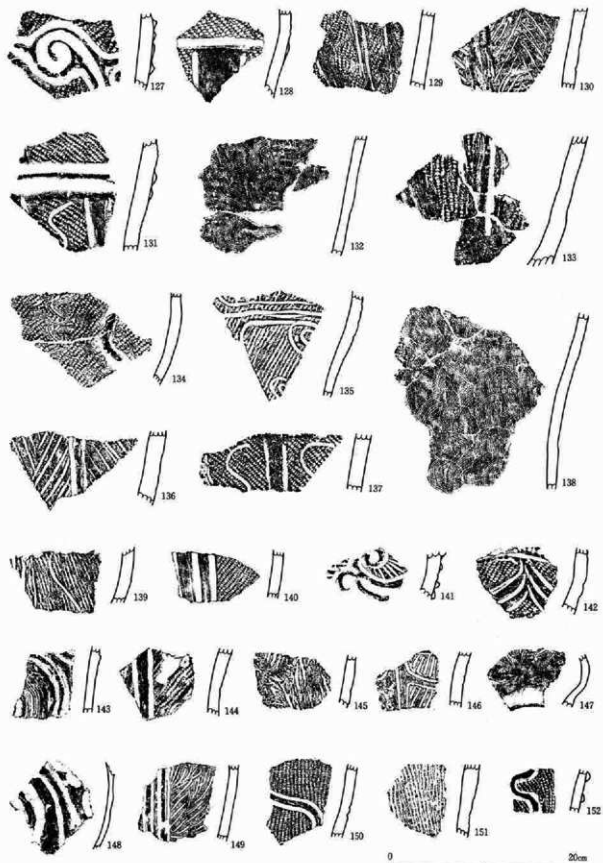
第48図 14号住居址出土遺物-10



第49図 14号住居址出土遺物-11

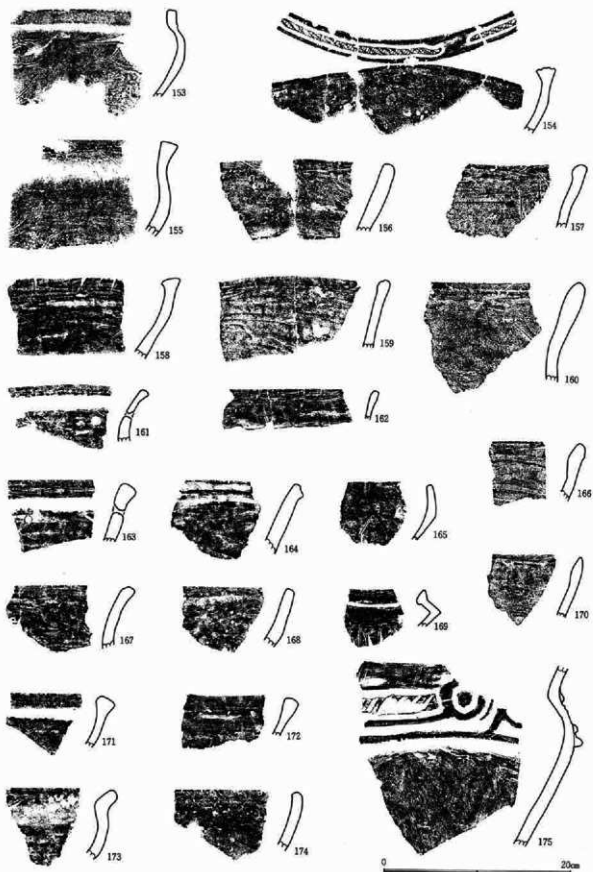


第50図 14号住居址出土遺物-12



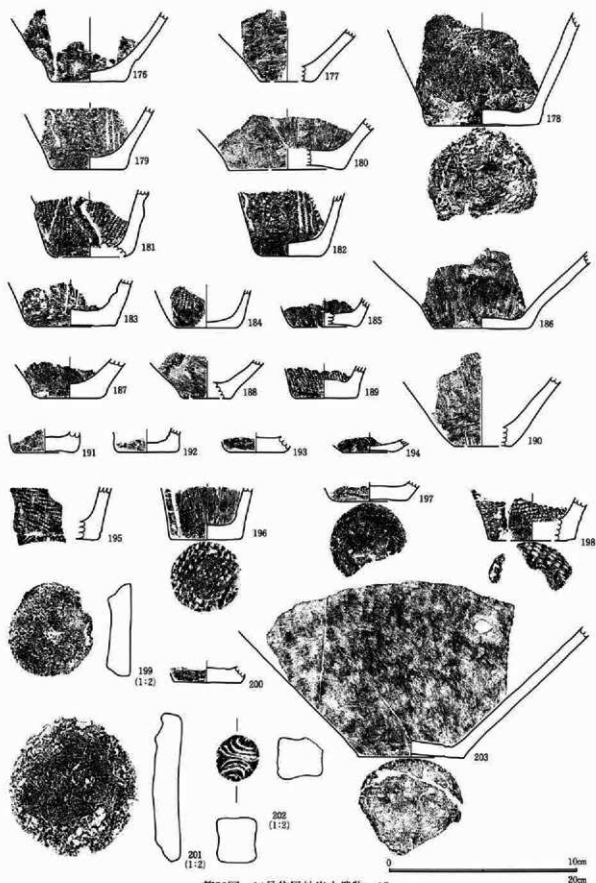
第51図 14号住居址出土遺物-13

第1章 出土遺物の概要



第52図 14号住居址出土遺物-14

第1節 I地区の出土遺物



第53図 14号住居址出土遺物-15

## 第1章 出土遺物の概要

I区 14号住居石器観察表

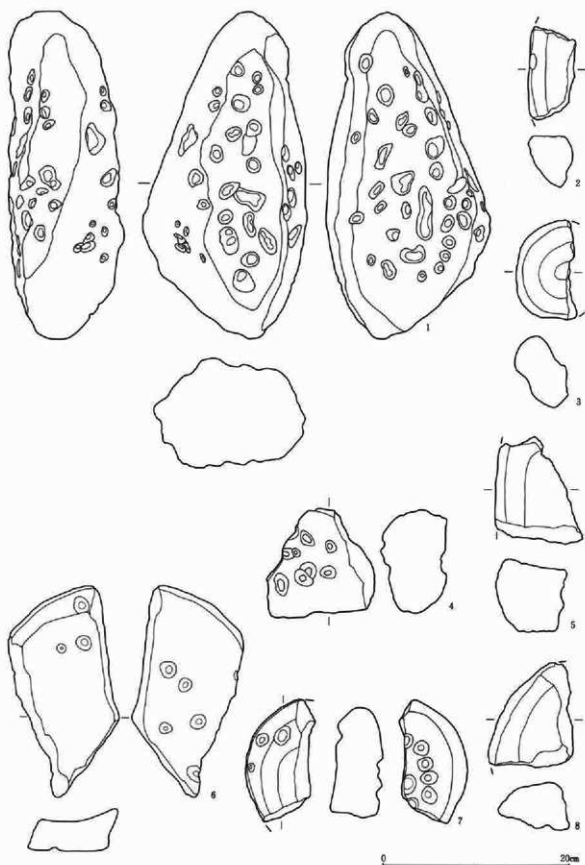
遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏側面に円錐形・不定形の凹み。	34.5	17.5	11.6	5550	
2	石	一	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。	9.8	5.1	5.4	280	欠損
3	乳鉢状四石	円形	粗粒輝石安山岩	作業面は大きな円錐形の凹みを持つ。	10.5	6.6	5.7	450	欠損
4	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹みを持つ。	7.9	14.4	6.1	810	
5	石	一	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。	11.5	9.4	7.9	940	欠損
6	石皿・多孔石	一	緑色片岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	22.4	12	4.3	1550	欠損
7	石皿・多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏の円錐形の凹み。磨一凹。	13	7.1	5.6	490	欠損
8	石	一	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。	11.1	9.1	4.9	480	欠損
9	多孔石	方形	粗粒輝石安山岩	表裏・両側面に円錐形の凹みを持つ。	11.6	11.4	7	840	
10	磨・敲石	楕形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。裏に敲打痕。磨一敲。	7.4	6	3.7	280	
11	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹みを持つ。	13.2	10.1	7.1	810	
12	石	一	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。	7.3	7.1	5	300	欠損
13	磨・敲石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏側面に磨面で縁を持つ。表に敲打痕。磨一敲。	10.5	8	4.1	500	
14	磨・敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕。裏は敲打による剥落。磨一敲。	10.9	8.1	4.4	590	
15	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	11.1	7.3	3.8	500	
16	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹みと磨面。	10.2	6.9	12.7	240	欠損
17	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏側面に磨面で縁を持つ。	12.3	7	4.4	620	
18	磨・凹石	楕形	粗粒輝石安山岩	表裏面に浅い凹み。凹一磨。	7.3	6.5	5.1	300	
19	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏側面に磨面・縁を持つ。	8.5	6.5	4.3	300	欠損
20	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏側面に磨面。表に擦痕。	9.3	5	2.8	190	
21	敲石	楕形	緑色片岩	両側面に敲打痕。	10.7	3	1.9	110	
22	磨石	孔楕形	粗粒輝石安山岩	表裏側面に磨面。下端に敲打痕。	9.9	4.1	3.5	190	
23	投擲	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.2	5.5	4.2	210	
24	投擲	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	4.6	3.7	3	70	
25	投擲	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	5.1	5.2	2.9	90	
26	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏面に浅い凹み。表裏側面に磨面・縁を持つ。凹一磨。	7.5	7.4	4.8	310	
27	磨石	楕形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	4.6	2.6	1.9	40	欠損
28	打製石斧	短舟形	黑色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	4.5	1.6	60	刃部欠損
29	打製石斧	短舟形	実質玄武岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	4.8	2.7	90	刃部欠損
30	打製石斧	短舟形	黑色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	13.9	4.5	2.2	130	
31	打製石斧	短舟形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	12.2	5.2	2.6	190	
32	打製石斧	短舟形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。鋭角。横断面カマゴコ状。	10.2	4.1	1.6	90	
33	打製石斧	短舟形	黑色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.4	4.2	1.9	90	
34	打製石斧	楕形	硬質泥岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	11.7	5	2	120	
35	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。鋭角。横断面カマゴコ状。	10.1	3.9	1.6	70	
36	打製石斧	短舟形	実質玄武岩	両面調整。刃部鋭角。横断面カマゴコ状。	12	4.3	2.7	200	
37	打製石斧	短舟形	黑色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.3	4.9	2.3	140	
38	打製石斧	短舟形	黑色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	9.7	5.7	1.7	120	
39	打製石斧	短舟形	黑色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.6	4	1.5	70	
40	打製石斧	短舟形	硬質泥岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	9.7	4.6	2	100	
41	打製石斧	短舟形	黑色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.9	3.8	1.8	80	
42	打製石斧	短舟形	黑色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	4.4	1.9	90	
43	打製石斧	短舟形	黑色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.6	3.8	1.4	60	
44	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	9.6	5.2	3	140	
45	打製石斧	短舟形	硬質泥岩	片面調整。刃部はこぼれ。横断面カマゴコ状。	8.6	3.8	1.4	40	
46	打製石斧	短舟形	黑色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	7.9	3.9	1.6	50	
47	打製石斧	短舟形	珪質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面カマゴコ状。	8.4	4	1.5	60	
48	打製石斧	短舟形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.2	4.7	1.1	60	刃部欠損
49	打製石斧	短舟形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	5.7	2.3	130	刃部欠損



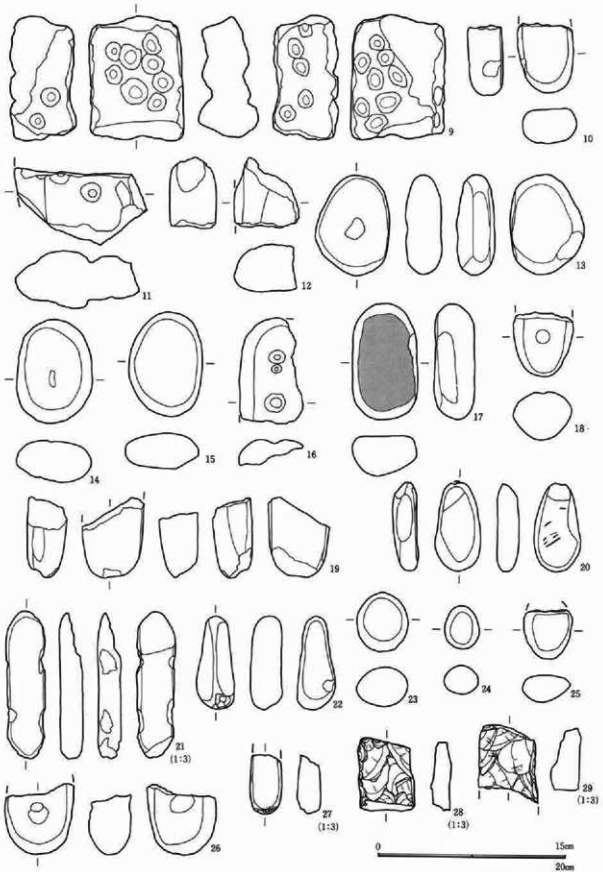
## 第1節 I地区の出土遺物

I区 14号住居石器観察表

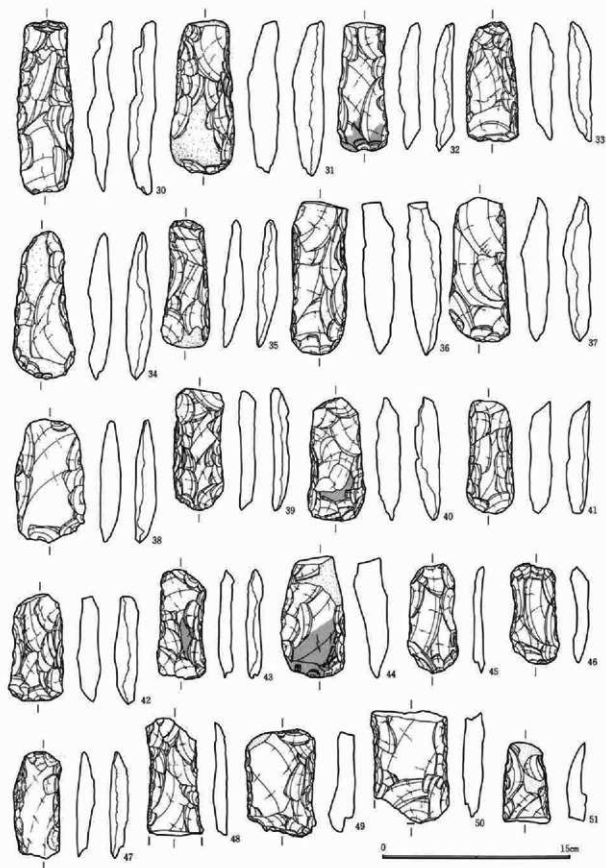
遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
50	打製石斧	短筒形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.7	6.2	1.3	140	両端欠損
51	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	3.7	1.6	50	刃部欠損
52	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.1	1.4	40	刃部欠損
53	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.7	4.4	2.2	60	刃部欠損
54	打製石斧	短筒形	輝綠石	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.2	1.7	60	刃部欠損
55	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	3.6	2	40	基部欠損
56	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	3.9	2.2	50	刃部欠損
57	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.1	4.7	1.8	70	刃部欠損
58	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	3.6	1.5	30	刃部欠損
59	打製石斧	短筒形	珩質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	4.2	1.2	50	刃部欠損
60	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	5	2.7	120	両端欠損
61	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	4.1	1.5	50	刃部欠損
62	打製石斧	短筒形	珩質頁岩	片面調整。刃部片面調整・鋭角。横断面カマゴコ状。	7.3	4.3	1.3	50	基部欠損
63	打製石斧	短筒形	安玄武岩	両面調整。刃部片面調整・鋭角。表面割離。横断面カマゴコ状。	8	5.1	1.7	120	基部欠損
64	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.5	5.1	2.2	100	基部欠損
65	打製石斧	短筒形	頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	9.1	4.2	1.4	70	基部欠損
66	打製石斧	短筒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.2	4.3	1.7	70	刃部欠損
67	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	片面調整。刃部鋭角。横断面カマゴコ状。	5.5	4.6	1.5	40	基部欠損
68	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	4.4	2	70	両端欠損
69	打製石斧	短筒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	4.8	1.6	70	両端欠損
70	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7	4.2	1.4	50	刃部欠損
71	打製石斧	楕形	点紋頁岩	両面調整。刃部片面調整・鋭角・はこぼれ。横断面カマゴコ状。	7.6	4.9	2.2	80	基部欠損
72	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	6.9	5.1	1.6	60	基部欠損
73	打製石斧	短筒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	4.5	2.1	90	両端欠損
74	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整・鋭角。横断面カマゴコ状。	6.8	5	2	70	
75	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4	6.7	2	70	両端欠損
76	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.4	4.6	2	50	両端欠損
77	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	4.5	5.2	1.4	40	両端欠損
78	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.2	4.3	1.6	40	両端欠損
79	打製石斧	短筒形	硬質花岩	両面調整。横断面カマゴコ状。	3.8	5	1	40	
80	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	側面に押圧割離。	2.1	3.9	0.6	4.5	
81	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	一側面の使用によるはこぼれ。	3.3	6.4	1.2	20	
82	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	一側面の使用によるはこぼれ。	4	9.3	1.1	40	
83	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	一側面の使用によるはこぼれ。	4.5	7	0.9	30	
84	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	一側面の使用によるはこぼれ。	4.8	3.3	1.2	20	
85	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	一側面の使用によるはこぼれ。	7.9	4.3	1.1	40	
86	スクレイパー	狭長	硬質泥岩	一側面の使用によるはこぼれ。	5.7	8	1.1	30	
87	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	一側面の使用によるはこぼれ。	7.7	5.8	1.3	60	
88	石鏝	四角無玉鏝	黒曜石	側面に押圧割離。基部は方形。横断面レンズ状。	1.5	1.8	0.3	0.6	先端基部欠損
89	石鏝	平基無玉鏝	黒色安山岩	側面に押圧割離。横断面レンズ状。	2.9	2.8	0.7	5.4	
90	石鏝	平基無玉鏝	粗粒輝石安山岩	側面に押圧割離。横断面レンズ状。	2.5	1.7	0.4	1.9	
91	石鏝	四角無玉鏝	黒曜石	側面に押圧割離。横断面レンズ状。	1.5	1.4	0.3	0.4	基部欠損
92	石鏝	四角無玉鏝	黒色安山岩	側面に押圧割離。横断面レンズ状。	2.4	1.9	0.3	1	
93	石鏝	平基無玉鏝	黒色頁岩	側面に押圧割離。横断面レンズ状。	2.4	2	0.4	1.8	
94	石鏝	平基無玉鏝	黒色安山岩	側面に押圧割離。横断面レンズ状。	3.3	2.5	1	8	
95	石鏝	四角無玉鏝	黒曜石	側面に押圧割離。横断面カマゴコ状。	1.8	1.5	0.5	0.7	
96	石匙	縦長	黒色頁岩	側面に押圧割離。つまみ部に決り。横断面カマゴコ状。	5.7	2.2	0.7	7.3	



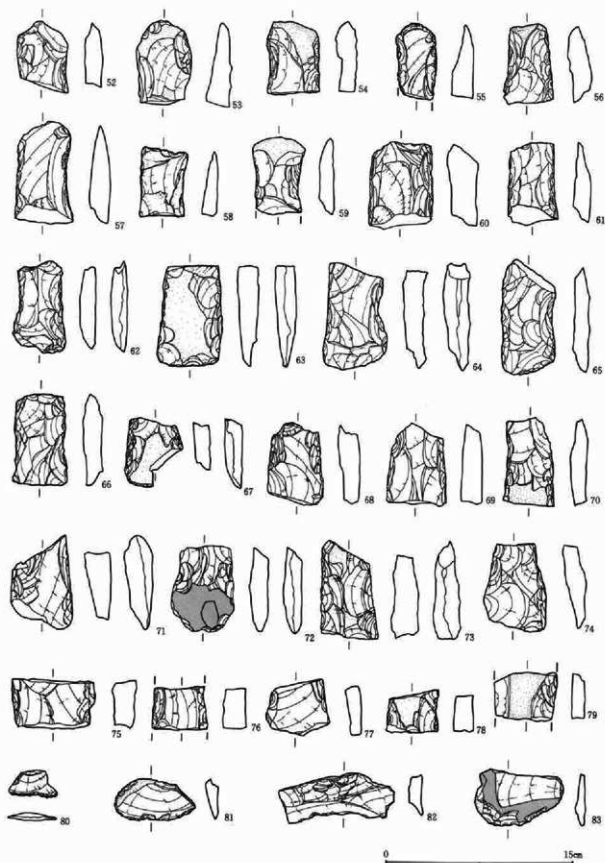
第54図 14号住居址出土遺物-16



第55図 14号住居址出土遺物-17

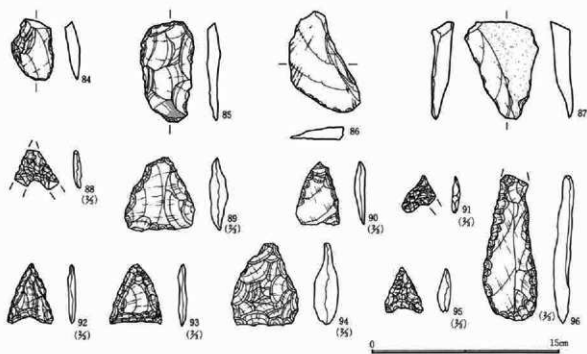


第56図 14号住居址出土遺物-18



第57図 14号住居址出土遺物-19

第1章 出土遺物の概要



第58図 14号住居址出土遺物-20

I区 15号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	暗褐色	良好			沈線	隆・沈	太さ4mmの沈線を「ハ」の字状に施文し、隆線が口縁部と胴部を区画する。沈線が胴部を垂下する。口縁部は無文。	
2	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	暗褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部に太さ5mmの隆線で横円区画と渦巻きを作る。胴部は太さ4mmの沈線で文様を描くが反面のみ施文。内外面スス付着。	
3	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好	RL	縦・横	縄文	沈線	口縁部は無文帯。胴部に太さ5mmの沈線と交互刺突がまわる。胴部は沈線による渾弧文と渦巻き文に縦位の交互刺突の沈線が加えられる。	
4	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ10mmの隆線で半円区画・渦巻きをつくる。胴部以下は渦巻きより太さ3mmの沈線が3条垂下。内外面スス付着。	
5	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	口縁部は交互刺突による連続「コ」字文と巾6mmの平行沈線で渦巻きが施文。胴部は無文帯。胴部に巾6mmの平行沈線が通る。口縁外面にスス付着。	
6	φ1-5mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ11mmの沈線が口縁部に横円区画。	
7	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			隆線		太さ8mmの隆線が波状に施文。外面スス付着。	
8	φ1-2mmの砂粒	5YR	明赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ8-12mmの隆線で横円区画。区画内は太さ2mmの沈線が矢羽状に充填。	
9	φ1mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ8mmの隆線が横円に施文。胴部は太さ4mmの沈線が垂下。	
10	φ1mm以下の砂粒多量	2.5YR	明赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ10mmの隆線で横円区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	
11	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	明赤褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が半円に貼付。	
12	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で半円区画。胴部無文帯を持つ。内面横位に磨き。	
13	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			隆線		太さ6mmの隆線で半円区画・渦巻きをつくる。胴部無文。外面スス付着。	
14	φ1-2mmの砂粒	10YR	黒褐色	良好			沈線	隆線	太さ7mmの隆線が曲線状に施文。隆線間には太さ2mmの沈線が施文。	
15	φ1mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ12mmの太い沈線が口縁部に施文。	
16	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい黄褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が渦巻き状に貼付。内面横位に磨き。	
17	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	LR	右巻	熟赤	沈線	太さ3mmの沈線が半円状に区画。区画内は熟赤文が施文。胴部は無文帯。	
18	φ1mmの細かい砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好	LR	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で半円区画・渦巻きをつくる。半円区画内は縄文が充填。	
19	φ1-2mmの小石	5YR	赤褐色	良好			沈線		太さ12mmの沈線が横円区画・渦巻きをつくる。	
20	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で横円・渦巻きをつくる。	
21	φ1-3mmの小石・雲母多量	10YR	黒褐色	普通			沈線		太い沈線で器面に渦巻きをつくる。	
22	φ1-3mmの小石・砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線		太さ10mmの沈線で渦巻きをつくる。	
23	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			沈線	隆線	太さ6-8mmの隆線で横円区画。区画内は太さ3mmの沈線が施文。	
24	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			沈線		太さ4mmの沈線で渦巻きを描く。口縁部を肥厚。	
25	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文		口唇部に巾10mmの無文帯をつくり縄文を施文。	
26	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	明赤褐色	普通			熟赤		口唇部に巾10mmの無文帯をつくり熟赤を施文。	
27	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通			熟赤	隆線	太さ3mmの沈線で横線状に施文。太さ8mmの隆線が口縁部文様帯を区画。	

## 第1章 出土遺物の概要

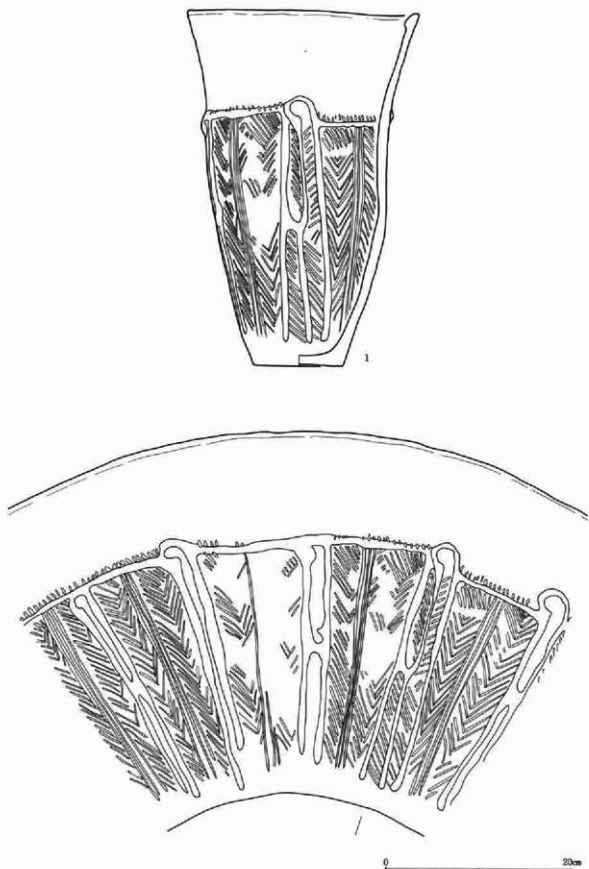
I区 15号 住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
28	φ1mm前後の砂粒多量	5YR	橙色	普通	Lr		熱赤	沈線	太い隆線で口縁部文様帯に横円区画・渦巻きをつくる。頸部に太さ6mmの沈線が2条廻る。胴部は熱赤を施文。内面スス付着。	
29	φ1mm前後の砂粒多量	7.5YR	にぶい橙色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ25mmの隆線に太さ8mmの沈線を2条加える。	
30	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通	RL	右巻	熱赤	隆線	太さ3mmの隆線を波状に横位・縦位に施文。	
31	φ1-3mmの小石	2.5YR	赤褐色	不良				沈線	太さ4mmの沈線で横円区画・渦巻きをつくる。口縁部は肥厚。胴部に縦位の施文。	
32	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	黒褐色	良好				沈線	太さ5mmの沈線が3条で縦位区画。区画内は判突・沈線が施文。沈線間は無文。	
33	φ1-2mmの砂粒多量	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	右巻	熱赤		内面黒色。	
34	φ1mm以下の細かい砂粒	2.5YR	暗赤褐色	良好	Lr	縦位	熱赤	隆線	太さ7mmの隆線が横位に施文。隆線に判突あり。	
35	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	熱赤		地文に右巻きの熱赤文を縦位に施文。	
36	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤		地文に右巻きの熱赤文をまばらに縦位に施文。	
37	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい橙色	普通	Lr	縦位	熱赤	沈線	地文の熱赤は、右巻きで、文様は、太さ4mmの沈線が3条横位に施文。	
38	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	沈線	地文の熱赤文は、右巻きで縦位に施文。太さ3mmの沈線が垂下。内面黒色。	
39	φ1mm前後の砂粒	5YR	橙色	良好	LRL	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線を胴部くびれ部に2条施文。沈線間にφ7mmの円形判突。外面に赤色塗彩?	
40	φ1mm以下の砂粒	2.5YR	橙色	良好	LR	横位	縄文	沈線	内面黒色。	
41	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	RI	縦位	熱赤	沈線	巾6mmの行沈線を胴部に廻す。	
42	φ1mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	普通	RI	縦位	熱赤	沈線		
43	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	良好				沈線	太さ1mmの沈線を縦位に施文。	
44	φ1-3mmの小石多量	5YR	赤褐色	良好	Lr	縦位	左巻	沈線	地文の熱赤文は、右巻きで縦位に施文。太さ4mmの沈線で幾何学文。	
45	φ1-3mmの小石	5YR	黒褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線が扇状に施文。地文に太さ1mmの沈線が条線状に施文。	
46	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で胴部に幾何学文・渦巻きを描く。外面の一部黒色。	
47	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	Lr		縄文	沈線	太さ3mmの沈線が縦位に施文。磨減多くはつきりしない。外面の一部黒色。	
48	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤		地文の熱赤文は、右巻きで縦位に施文。	
49	φ1mmの砂粒多量	5YR	明赤褐色	不良	RL	縦位	縄文		内面黒色。	
50	φ1mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		内面黒色。	
51	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	赤褐色	不良	Lr	縦位	熱赤		地文の熱赤文は、右巻きで縦位に施文。内面黒色。	
52	φ1mmの砂粒	5YR	暗赤褐色	良好	条線			沈線	隆線	地文は太さ1mmの条線。太さ10mmの隆線で口縁部文様帯をつくる。その中に太さ4mmの沈線が充填。内面良く磨かれる。
53	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	橙色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条で縦位区画。沈線間は無文。	
54	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	普通				沈線	太さ2mmの沈線で施文。胴部には爪形文が施文。	
55	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で曲線文。内面判刺が多い。	
56	φ1mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通				爪形	太さ7mmの隆線に爪形文を施文。	
57	φ1-3mmの小石	2.5YR	橙色	普通				爪形	太さ12mmの隆線で渦巻きをつくる。隆線の上に爪形文を施文。	
58	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通				無文	粘土粒による把手が貼付。	

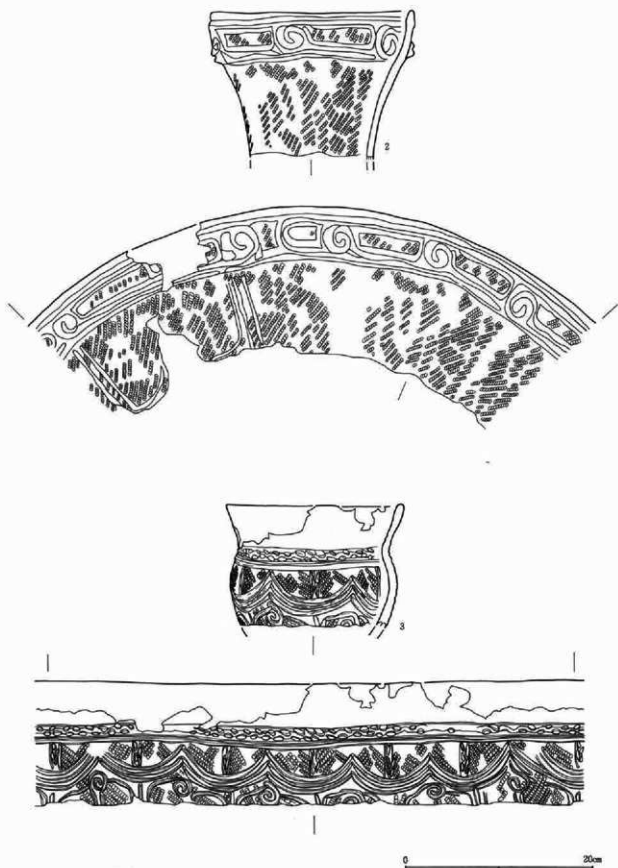


I区 15号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特長	時期・備考
59	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好			沈線	隆線	太さ7mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ1mmの沈線が充填。粘土粒による把手が附付。 太さ3mmの沈線で施文、把手は双円状。	
60	φ1mm以下の細かい砂粒・金粟母	2.5YR	明赤褐色	良好			沈線		太さ12mmの沈線で渦巻き。	
61	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良			沈線		太さ10mmの沈線で渦巻き。	
62	φ1mmの細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良			沈線		内外面とも横位に丁寧な磨き。浅鉢。	
63	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内外面とも横位に丁寧な磨き。内面黒色。浅鉢。	
64	φ1mmの細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			無文		内外面とも横位に丁寧な磨き。外面波彫。浅鉢。	
65	φ1mmの細かい砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好			無文		体部下半に縦位の磨き。内外面スス付着。浅鉢。	
66	φ1-2mmの小石	5YR	褐色	普通			無文		内外面とも横位に丁寧な磨き。浅鉢。太さ5mmの沈線が口唇部に2条施文。沈線間はφ5mmの円形刺突。体部は内外面とも横位に丁寧な磨き。浅鉢。	
67	φ1-2mmの小石	2.5YR	明赤褐色	良好			無文		内外面とも横位に丁寧な磨き。内面黒色。浅鉢。	
68	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線		内外面とも横位に丁寧な磨き。内面黒色。外面赤色波彫。浅鉢。	
69	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		内外面とも横位に丁寧な磨き。内面黒色。外面赤色波彫。浅鉢。	
70	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	赤褐色	良好			無文		内外面とも横位に丁寧な磨き。内面黒色。外面赤色波彫。浅鉢。	
71	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	黒色	良好			無文		内外面とも横位に丁寧な磨き。浅鉢。	
72	φ1mm以下の砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		内外面スス付着。	
73	φ1-3mmの小石・繊維	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文	隆線	巾18mmの5条単位の櫛条工具で刺突、巾2mmの平行沈線で菱形をつくる。	
74	φ1-3mmの小石	5YR	極暗赤褐色	普通	KI	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で半円状区画。区画内は太さ2mmの沈線が充填。胴部は隆線が垂下し渦巻きをつくる。内部は縦位に良く磨かれる。	76と同一
75	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で頸部に楕円区画。口唇部に無文帯。	
76	φ1-3mmの小石	5YR	極暗赤褐色	普通	RI	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で半円状区画。区画内は太さ2mmの沈線が充填。胴部は隆線が垂下し渦巻きをつくる。内部は縦位に良く磨かれる。	74と同一
77	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通			縦線	縦線	平盤竹管内側の両端で爪形を刺突。櫛状工具による施文。	
78	φ1mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		胴部に太さ4mmの沈線が横位に廻る。胴部内面下半にスス付着。	
79	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	良好	Lr	縦位	熱赤	沈線	太さ3mmの沈線が垂下。底部近くに無文帯をつくる。	
80	φ1-2mmの小石多量	2.5YR	赤褐色	良好	KL	縦位	縄文	沈線	内外面とも横位に丁寧な磨き。内面黒色。底部近くは横位に磨かれる。	
81	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	褐色	普通			無文		地文の熱赤文は、右巻きで縦位に施文。底部近くは無文帯。	
82	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	熱赤		
83	φ1-3mmの小石	2.5YR	赤褐色	良好	RI	横位	熱赤			
84	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通	Lr	縦位	熱赤			
85	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	明赤褐色	不良			無文			
86	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤			
87	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	隆線		



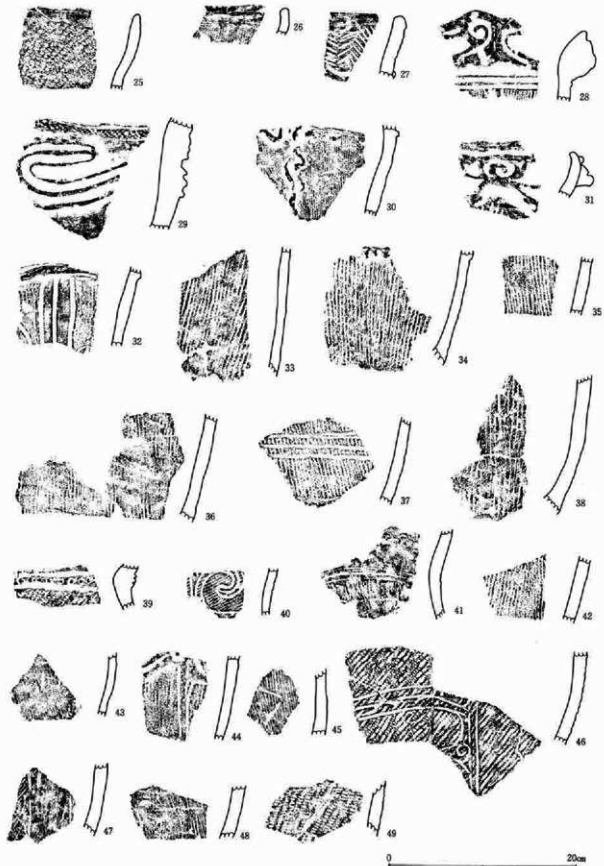
第59図 15号住居址出土遺物-1



第60図 15号住居址出土遺物-2

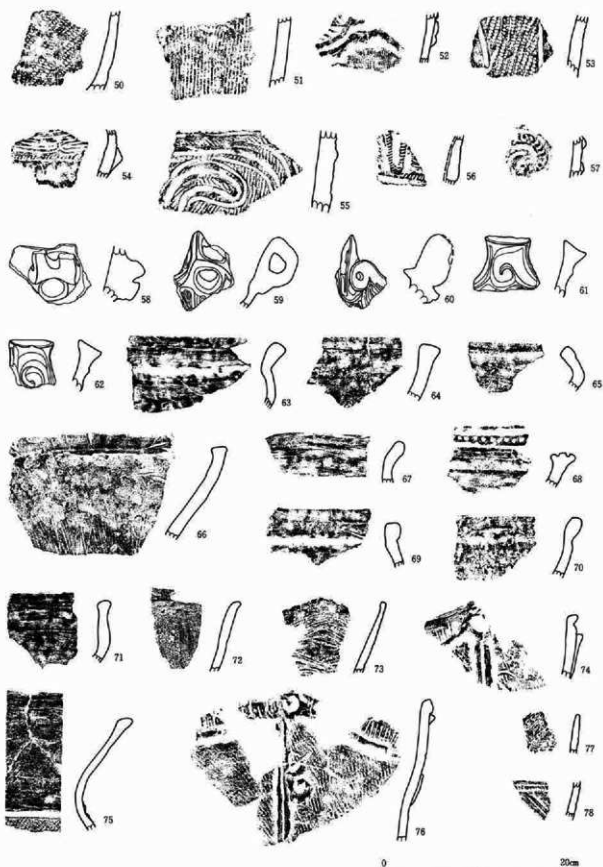


第61図 15号住居址出土遺物-3



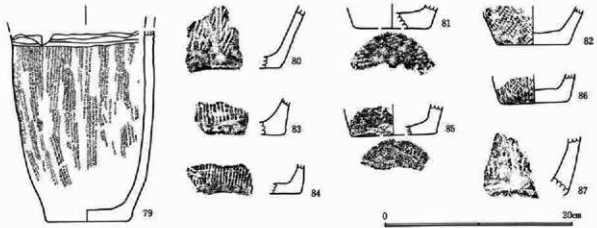
第62図 15号住居址出土遺物-4

第1章 出土遺物の概要



第63図 15号住居址出土遺物-5

第1節 I地区の出土遺物



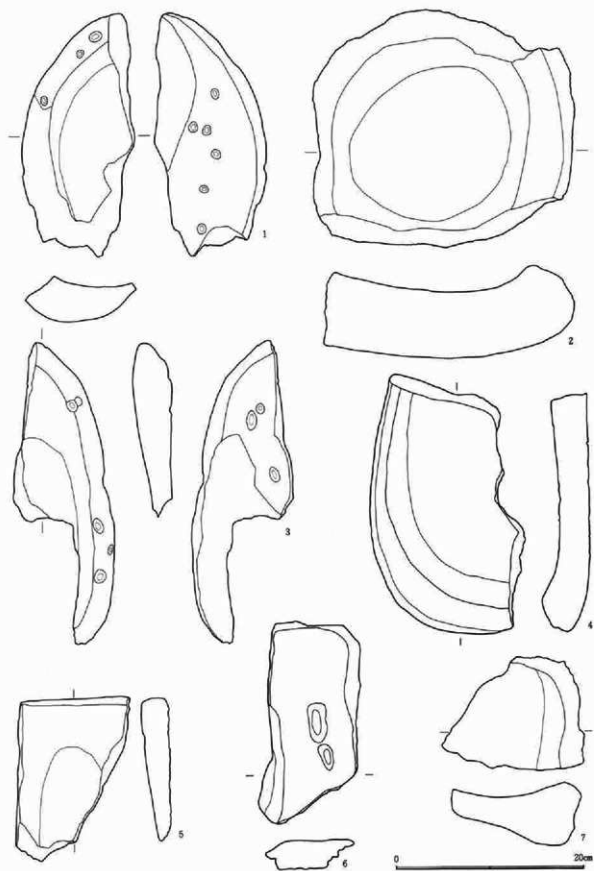
第64図 15号住居址出土遺物-6

## 第1章 出土遺物の概要

I区 15号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿・多孔石	楕円形	緑色片岩	石皿作業面は凹面。表面に円錐形の凹み。	25.8	12.1	4.8	1850	欠損
2	石皿	楕円形	角閃石安山岩	石皿作業面は凹面。	25.2	28	9.8	8900	欠損
3	石皿・多孔石	長楕円形	緑色片岩	石皿作業面は凹面で円錐形の凹み。	32.1	10.7	4.1	1300	欠損
4	石皿	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	16.5	27.6	5.2	2950	欠損
5	石皿	長方形	緑色片岩	石皿作業面は平面。	17.5	12.2	2.9	1000	欠損
6	石皿・多孔石	—	緑色片岩	石皿作業面は凹面で、円錐形の凹み。	21.7	11.2	3	1200	欠損
7	石皿	—	牛伏砂岩	表裏の石皿作業面は凹面。	11.9	14.9	6.6	1100	欠損
8	台石	長楕円形	角閃石安山岩	表裏に作業面。	22.2	16.8	6.200		
9	台石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に使用痕。	26	17.8	9.5	5700	欠損
10	台石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に使用痕と磨面。	19.8	10.2	6.5	2100	
11	台石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏は平坦な磨面。	14.2	12.1	8	2150	欠損
12	台石	長楕円形	角閃石安山岩	表面は平坦な磨面。	23.6	13.6	12.8	5550	欠損
13	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面は平坦な磨面。	17.9	7.6	6	1300	
14	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	11.6	5.7	3.3	350	
15	多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	18.5	10.4	7.8	1100	欠損
16	多孔石	不定形	緑色片岩	表面に円錐形の凹み。	14.8	8.2	1.9	370	
17	多孔石	—	緑色片岩	作業面は凹面。	8.5	8.2	3.8	320	
18	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	8.2	7	3	150	
19	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。側面に敲打痕。凹一磨。	12.1	9	4.5	640	
20	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	7.5	4.8	4.4	200	
21	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	12.1	7.5	6	740	
22	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹みと敲打痕。表裏に磨面。磨一凹。	9.9	7.8	2.9	250	
23	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	5.5	5.7	1.7	60	
24	磨・凹石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。側面に敲打痕。凹一磨。	8.6	9	4.9	560	
25	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。側面に溝状の凹み。	6.7	6.3	3.4	220	
26	砥石	不定形	牛伏砂岩		11.7	7.4	1.9	180	
27	スクレイパー	縦長	頁岩	両側面に両面調整。	9.5	3	0.7	30	
28	打製石斧	短楕形	灰色安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	11.6	4.5	1.8	120	
29	打製石斧	短楕形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11	4.5	1.9	120	
30	打製石斧	短楕形	ホルンフェルス	両面調整。横断面レンズ状。	10.1	4.2	2.5	100	刃部欠損
31	打製石斧	短楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.3	4	1.5	60	刃部欠損
32	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	6.2	3.7	1.7	50	基部欠損
33	スクレイパー	横長	灰色安山岩	一側面に使用によるほこぼれ。	5	6.4	0.7	20	
34	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5	4.5	0.9	30	基部欠損
35	磨製石斧	定角式	かんらん岩	表裏・側面研磨し稜をつくる。敲打痕多い。横断面隅丸方形。	11.9	5.5	3	360	
36	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	10.1	4	2	100	
37	スクレイパー	横長	硬質泥岩	一側面に片面調整の刃部。	3.2	9	1.1	40	
38	石匙	横長	黒色頁岩	つまみ部にくぼれが入る。片面調整の刃部。	5.9	10.3	0.5	50	
39	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側面に両面調整の刃部。	7.3	11.5	1.8	180	
40	スクレイパー	横長	灰色安山岩	一側面に片面調整の刃部。	7.8	10.3	1.6	150	

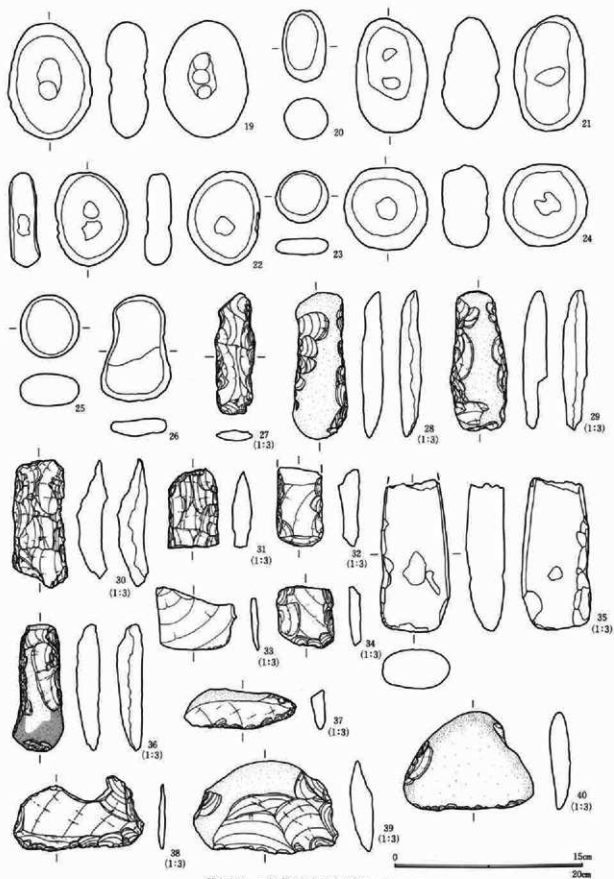




第65図 15号住居址出土遺物-7



第66図 15号住居址出土遺物-8



第67図 15号住居址出土遺物-9

## 第1章 出土遺物の概要

I区 16号住居土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	Ri		熟赤	沈線	太さ5mmの沈線が樽内区画・渦巻きをつくる。胴部に無文帯。渦巻き。太さ6mmの沈線が樽内区画・渦巻きをつくる。渦巻き。スス付着。	
2	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が2条で樽内区画。区画内は太さ2mmの沈線が充填。太さ9mmの沈線が口縁に廻る。太さ2mmの沈線が施文。	
3	φ1-3mmの小石多量	10YR	暗褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	太さ6mmの沈線が口唇部内側に廻る。内外面とも良く磨かれる。外面赤色塗彩。浅鉢。	
4	φ1-2mmの小石	10YR	灰黄褐色	良好	条線			隆線	太さ6mmの沈線が2条垂下。内外面スス付着。	
5	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好				沈線	太さ6mmの隆線が2条垂下。外面スス付着。	
6	φ1-3mmの小石	2.5YR	黄灰色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が2条垂下。内外面スス付着。	8-9-11と同一?
7	φ1-3mmの砂粒・小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL・LR	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が3条垂下。内外面スス付着。	7-9-11と同一?
8	φ1-3mmの砂粒・小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL・LR	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が3条垂下。内外面スス付着。	7-8-11と同一?
9	φ1-3mmの砂粒・小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL・LR	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が3条垂下。内外面スス付着。	7-8-11と同一?
10	φ1-3mmの砂粒・小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が2条垂下。外面スス付着。	7-8-9と同一?
11	φ1-3mmの砂粒・小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL・LR	縦位	縄文	隆線	太さ3mmの沈線が重下。内面スス付着。	13-14-15と同一?
12	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	Ri	左巻	熟赤	隆線	太さ3mmの沈線が重下。内面スス付着。	12-14-15と同一?
13	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	不良	Ri	左巻	熟赤	隆線	太さ3mmの沈線が重下。内面スス付着。	12-13-15と同一?
14	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	Ri	左巻	熟赤	隆線	太さ3mmの沈線が重下。内面スス付着。	12-13-14と同一?
15	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	Ri	左巻	熟赤	隆線	太さ3mmの沈線が重下。内面スス付着。	
16	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr		熟赤	沈線	太さ2mmの沈線と太さ5mmの沈線が重下。内面黒色。	
17	φ1mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ3mmの沈線が波状に施文。内面黒色。	
18	φ1mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ7mmの隆線に爪形を施文。地文にも爪形を施文。縄文施文後縄文を磨り消す。	
19	φ1mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	太さ3mmの沈線が縦位に施文。内面横位に丁寧な磨き。	
20	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	内面丁寧な磨き。太さ6mmの隆線が2条対で重下区画。	
21	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部文様帯は、隆線が弧状区画され横状把手がつくれる。胴部に太さ4mmの沈線が渦巻き弧線上に施文。太さ4mmの沈線が樽内区画・渦巻きをつくる。深鉢把手。	
22	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	右巻	熟赤	隆線	口縁部にφ36mmの孔があげられる。胴部には太さ4mmの沈線が2条胴部文様との区画としてつけられる。渦巻き。	28-29-30と同一
23	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL・LR	縦位	縄文	隆線	波頂部は太さ4mmの沈線で渦巻き。渦巻き。	27-29-30と同一
24	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	右巻	熟赤	隆線	波頂部に太さ4mmの沈線で渦巻き。渦巻き。	27-28-30と同一
25	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	右巻	熟赤	隆線	波頂部に太さ4mmの沈線で渦巻き。渦巻き。	27-28-29と同一
26	φ1-3mmの小石	2.5YR	暗赤褐色	良好				沈線	太さ5mmの沈線が波状に施文。内面横位に施文。	
27	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通	Ri		熟赤	隆線		
28	φ1mm以下の細かい砂粒	10YR	明黄褐色	普通	Ri		熟赤	隆線		
29	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	Ri		熟赤	隆線		
30	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通	Ri		熟赤	隆線		
31	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通	Lr	左巻	熟赤	隆線		

## 第1節 I地区の出土遺物

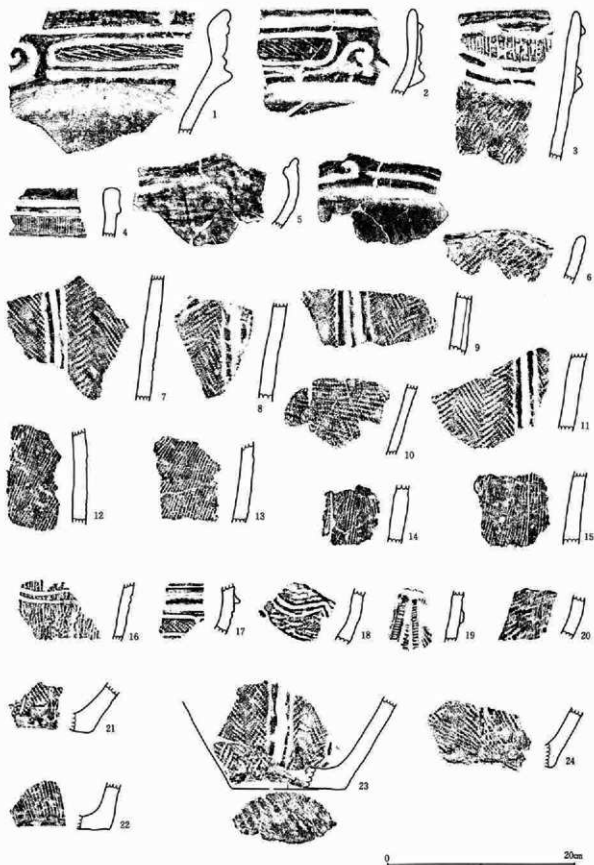
I区 16号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原状	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
32	φ1-3mmの小石・ 茶母	SYR	橙色	普通	RL	横位	縄文		台付き深鉢の脚部。	
33	φ1-3mmの白色小 石	SYR	橙色	良好	Lr		熟糸	沈線	太さ6mmの沈線で渦巻き・弧状に施 文。	
34	φ1-2mmの白色小 石多量	SYR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文			

I区 16号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	長方形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で磨打痕。	16.6	16.3	10.1	3850	欠損
2	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	17.1	20.5	8.5	3100	欠損
3	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	13.2	9.6	3.8	820	
4	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は平坦。	12.5	6.2	4.3	450	欠損
5	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏側面に深い凹み。	15.4	7	4.5	550	
6	磨石	乳楕形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	12.4	4.7	4.2	440	
7	磨・凹石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹→磨。	8.8	8.3	4.3	440	欠損
8	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏両側面に凹みと磨面で縁を持つ。 凹→磨。	12.2	6.2	4.5	510	
9	磨・凹石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹みと磨面。磨→凹。	7.9	8	3.6	290	
10	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。	5.6	4.2	2.2	50	刃部欠損

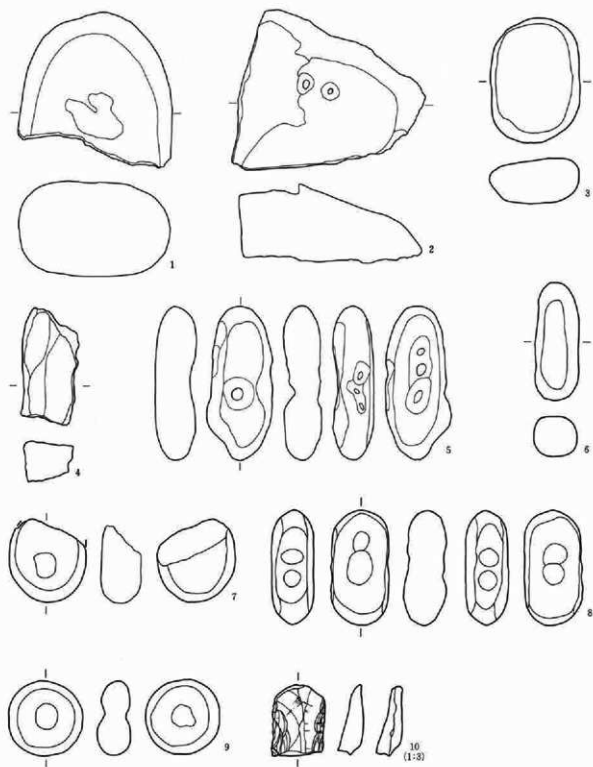
第1章 出土遺物の概要



第68図 16号住居址出土遺物-1



第69図 16号住居址出土遺物-2



0 15cm 20cm

第70図 16号住居址出土遺物-3



I区 17号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの砂粒多量	2.5YR	赤褐色	普通	RI	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。 ヘラ上の削り痕がある。不明土製品。	8と同一
2	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	良好					市2mmの沈線。太さ12mmの沈線が口縁に貼る。内面横位の磨き。	
3	φ1-5mmの小石・雲母・石英	5YR	橙褐色	普通					太さ3mmの沈線が2条対で「冂」状の文様をつくる。	
4	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	橙褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が2条対で口縁部に波状に施文。胴部は縦位区画されワラビ手状の沈線が施文。沈線間は磨消縄文。	
5	φ1-3mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの隆線で楕円区画。胴部は縦位の区画線を貼付。内面横位の磨き。太さ5mmの沈線で楕円区画。胴部は磨消縄文。	
6	φ1-3mmの小石	7.5YR	橙褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。	1と同一
7	φ1-2mmの小石・雲母・石英	2.5YR	暗赤褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ7-20mmの沈線で楕円区画・渦巻きをつくる。口縁部は磨面より肥厚。	
8	φ1-3mmの砂粒多量	2.5YR	赤褐色	普通	RI	横位	縄文	隆線	太さ5mmの沈線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ3mmの沈線が充填。口縁部は磨面が肥厚。胴部は沈線で縦位区画。渦巻き。	
9	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ7-20mmの沈線で楕円区画・渦巻きをつくる。口縁部は磨面より肥厚。	
10	φ1-3mmの小石	5YR	橙褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ3mmの沈線が充填。口縁部は磨面が肥厚。胴部は沈線で縦位区画。渦巻き。	
11	φ1-5mmの砂粒	10YR	明黄褐色	不良	RLR	横位	縄文	隆・沈	市2mmの平行沈線。太さ4mmの沈線が4条連続弧状に施文。	20-26-62-89 -94と同一
12	φ1-5mmの小石多量	5YR	明赤褐色	普通					太さ13mmの隆線で半円区画。区画内は太さ3mmの沈線が施文。胴部は太さ7mmの隆線が垂下し太さ3mmの沈線が施文。	16と同一
13	φ1mm以下の砂粒	5YR	橙褐色	良好					太さ10mmの隆線がワラビ手状に貼付。内面横位に施文。	
14	φ1-3mmの小石多量	5YR	暗赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ4mmの沈線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画部は磨面より肥厚。区画内は沈線が充填。同じ沈線が2条対で縦位区画。	19と同一
15	φ1mmの砂粒多量・小石・雲母	5YR	橙褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ13mmの隆線で半円区画。区画内は太さ3mmの沈線が施文。胴部は太さ7mmの隆線が垂下し太さ3mmの沈線が施文。	
16	φ1mm以下の砂粒	5YR	橙褐色	良好					市10mm4条の条線。太さ8mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。渦巻き部から条線が流水状に施文。渦巻き。太さ10mmの隆線で区画。	13と同一
17	φ1-5mmの小石・石英	5YR	暗赤褐色	良好	条線				太さ10mmの隆線がワラビ手状に貼付。内面横位に施文。	
18	φ1-3mmの白色小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ2mmの平行沈線。太さ4mmの沈線が重連弧状に施文。	14と同一
19	φ1-3mmの小石多量	5YR	暗赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で楕円区画。区画内は縄文が充填。	
20	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通					市2mmの平行沈線。太さ4mmの沈線が重連弧状に施文。	12-26-62-89 -94と同一
21	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい橙褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆線	市15mmの無文帯を口縁につくる。	23と同一
22	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	RI				市15mmの無文帯を口縁につくる。	22と同一
23	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	RI				市3mmの平行沈線。太さ10mmの隆線が弧状に貼付。沈線は縞形に施文。	
24	φ1-2mmの砂粒・雲母・石英	2.5YR	明赤褐色	普通					原形不明。太さ7mmの隆線を貼付。	
25	φ1-3mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	普通					太さ4mmの沈線が重連弧状に施文。	12-20-62-89 -94と同一
26	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通					市10mm5条の条線が胴部を持ち施文。	
27	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	条線				2mm間隔の条線が全面に施文。	
28	φ1-3mmの小石	10YR	濁灰色	不良	条線					

## 第1章 出土遺物の概要

I区 17号住居土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
29	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	良好	条線		沈線	沈線	2mm間隔の条線。太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。沈線間は地文。	
30	φ1-2mmの砂粒・雲母	2.5YR	ぶい赤褐色	普通	条線		沈線	隆線	巾6mmで4条の条線。内外面スス付き。	
31	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	ぶい赤褐色	普通	沈線		沈線	隆線	巾6mmで4条の条線。太さ10mmの隆線が貼付。内面横位に磨き。	
32	φ1-3mmの砂粒多量	7.5YR	ぶい褐色	不良	Lr	縦位	縄文	隆線	口縁部に太さ3mmの隆線起線を貼付。口縁部は無文帯。胴部に太さ12mmの隆線が垂下。	
33	φ1-2mmの小石・雲母多量	7.5YR	ぶい褐色	普通	Lr	縦位	縄文	隆・沈	太さ12mmの隆線で口縁部文帯帯を区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	
34	φ1-2mmの小石・雲母多量	7.5YR	ぶい褐色	普通			沈線	隆・沈	太さ5mmの沈線で横円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	
35	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	ぶい褐色	不良	Lr	縦位	熱赤	隆線	太さ5mmの隆線で横円区画・波状垂線。区画内は太さ2mmの沈線が充填。表面磨減多く、底形不明。	
36	φ1mm以下の砂粒・雲母	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線	隆線	太さ8mmの隆線で横円区画。区画内は太さ6mmの浅い沈線が充填。胴部も同じ沈線が施文。	
37	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	灰褐色	良好			沈線		太さ5mmの沈線が口唇部に磨る。太さ6-8mmの隆線が貼付。内面横位に磨き。	
38	φ1mmの細かい砂粒	10YR	ぶい黄褐色	不良	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で横円区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ3mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文。	
39	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	良好			沈線	隆線	巾6mmの平行沈線が山形・横位に施文。胴部は太さ5mmの隆線が扇状に貼付。胴部は無文。内面横位に磨き。	
40	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	ぶい赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ6mmの隆線で横円区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。内面横位に磨き。	
41	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好	RI	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で横円区画。内面横位に磨き。	
42	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で横円区画。区画内は縄文が充填。	
43	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	普通	条線		沈線	沈線	施文に巾5mmの平行沈線が施文。巾7mmの平行沈線が横位・弧状に施文。	
44	φ1mm以下の砂粒・雲母	2.5YR	暗灰褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線で横円区画。区画内は縄文が充填。	
45	φ1-2mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	良好	RLR	縦・横	縄文	沈線	太さ7mmの沈線がワラビ手状に施文。外面スス付き。	
46	φ1-2mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好	RI	右巻	熱赤	沈線	太さ7mmの浅い沈線が横位に施文。内面横位に磨き。	
47	φ1-5mmの小石・雲母	10YR	ぶい黄褐色	不良			沈線	隆線	太さ8mmの隆線で横円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	
48	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線	隆線	太さ10mmの隆線で平円状に区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	
49	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	ぶい赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ5mmの沈線と太さ8mmの隆線で横円区画。区画内は沈線が充填。	
50	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	不良			沈線	隆線	太さ5mmの沈線が横位に施文。	
51	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	普通	条線		沈線	沈線	太さ10mmの沈線で横円区画。区画内を太さ2mmの沈線が充填。太さ2mmの条線が胴部に施文。	
52	φ1-2mmの砂粒	5YR	ぶい赤褐色	良好	条線		沈線	隆線	巾8mm4条の条線が扇状に区画をあけて施文。	
53	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	ぶい赤褐色	良好	条線		沈線		巾2mm間隔の条線が線状に施文。	
54	φ1-3mmの小石	5YR	ぶい赤褐色	普通	条線		沈線		巾7mmの条線が流水文状に施文。	88と同一?
55	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	ぶい赤褐色	普通	Lr		熱赤	沈線	太さ2mmの沈線が方形に区画。	
56	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	普通			沈線	隆線	太さ13mmの隆線で横位区画。区画内は太さ4mmの沈線が斜位に施文。	

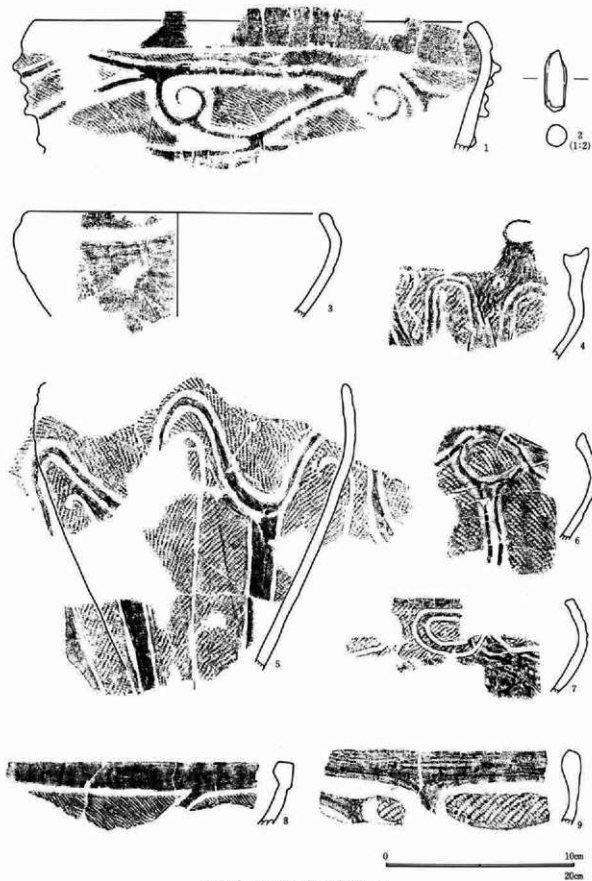
I区 17号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
57	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ8mmの隆線が巴状に貼付。それに平行するように太さ4mmの沈線が施文。	
58	φ1mmの砂粒	5YR	にぶい橙色	良好	条線		沈線	隆線	太さ6mmの隆線が2条対で縦位区画。内面ス入付着。	
59	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文		縄文がまばらに施文。	
60	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太さ9mmの浅い沈線で縦位区画。沈線間は磨消縄文。内面横位の磨き。	
61	φ1-2mmの砂粒	10YR	明黄褐色	不良	RL	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が重連弧状に施文。巾2mmの平行沈線。	12-20-26-89
62	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ8mmの隆線が弧状に貼付。取付不明。	67と同一
63	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	普通			縄文	隆線	太さ8mmの沈線で縦位区画。内面横位の磨き。	
64	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	橙色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線で縦位区画。内面横位の磨き。	
65	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	褐色	普通			無文	沈線	無文	
66	φ1-3mmの小石	5YR	橙色	普通		沈線	沈線		巾2mmの平行沈線。	
67	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	普通			縄文	隆線	太さ8mmの隆線が弧状に貼付。取付不明。	63と同一
68	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	橙色	普通			縄文	沈線	太さ3mmの沈線で縦位区画。取付不明。	
69	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文			
70	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい橙色	普通	Ri	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で区画。区画内は縄文が充填。内面横位に磨き。	
71	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			縄文	沈線	太さ2mmの沈線が2条曲線に施文。縄文は磨滅して不明。	
72	φ1mm以下の砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。区画内は縄文が充填。沈線間は無文。	
73	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で縦位区画。内面横位に磨き。	
74	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ12mmの浅い沈線で文様帯を区画。内面横位に磨き。	
75	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	熱点	沈線	太さ3mmの沈線が2条縦位に施文。	
76	φ1-2mmの小石多量	5YR	にぶい橙色	不良	LR	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が2条対で縦位に施文。	
77	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位区画。	
78	φ1-5mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が2条対で縦位区画。沈線間は無文。	
79	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr		縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線で文様帯を区画。区画内はφ4mmの円形刺突。胴部に太さ4mmの沈線が波状に施文。	
80	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	明褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ9mmの浅い沈線が3条対で縦位区画。内面横位の磨き。	
81	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	明褐色	不良	沈線		沈線	隆線	太さ1mmの沈線。太さ8mmの隆線が縦位に施文。	
82	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線		沈線		巾8mm4本の条線が流水文状に施文。	
83	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	不良	条線		沈線		2mm間隔の条線が全面に施文。	
84	φ1-2mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通	沈線		沈線		巾3mmの平行沈線が数回重ねて波状に施文。	
85	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線		沈線	沈線	巾12mmの4本条線で流水文状に施文。太さ4mmの沈線で縦位区画。	
86	φ1-3mmの小石多量・雲母	2.5YR	明赤褐色	不良	条線		沈線		巾8mm4本の条線。条線で流水文状に施文。	
87	φ1mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	条線		沈線		巾7mm3本の条線が青灰波状に施文。	
88	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線		沈線		巾7mm4本の条線が流水文状に施文。	54と同一?
89	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	沈線		沈線	隆線	巾2mmの平行沈線。太さ4mmの沈線が重連弧状に施文。	12-20-26-82
90	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通	Ki	左巻	熱点	隆線	太さ14mmの隆線による渦巻き・波状を貼付。内面横位に施文。	84と同一

## 第1章 出土遺物の概要

I区 17号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
91	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	明赤褐色	普通	RI	左巻	熟赤	隆線	太さ12-14mmの隆線が波状垂線に貼付。内面横位に施文。	12-20・26・62-89と同
92	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	R/R	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条対で縦位区画。	
93	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	不良			熟赤	隆線	太さ12mmの隆線で渦巻き。磨減が多く原形不明。	
94	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	明褐色	普通	沈線			沈線	巾2mmの平行沈線。太さ4mmの沈線が4条連続状に施文。	
95	φ1-5mmの小石	2.5YR	赤褐色	普通	条線		沈線	沈線	巾10mm4条の条線。条線より流水状に施文。	
96	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの浅い沈線が2条で縦位区画。沈線間は磨消縄文。	
97	φ1-5mmの小石	5YR	褐色	普通			熟赤	隆線	太さ12mmの隆線で渦巻き。磨減が多く原形不明。	
98	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	不良	RL	斜位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位区画。	
99	φ1-2mmの白色小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で楕円区画。	
100	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	L/R	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が2条対で縦位区画。沈線間は無文。	
101	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線で縦位区画。沈線間は無文。内面横位の磨き。	
102	φ1-2mmの砂粒	10YR	灰黄褐色					無文	深鉢の把手。	
103	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	条線			沈線	巾6mm3条の条線が間隔をもち縦位に施文。	
104	φ1-5mmの小石多量	5YR	にぶい褐色	普通	RI		熟赤	隆線	太さ6mmの隆線が縦位区画。底面近くは擦痕。	
105	φ1-2mmの小石	7.5YR	褐色	不良			縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位区画。内面スス付着。縄文原形不明。	
106	φ1-3mmの小石・雲母・石英	2.5YR	赤褐色	良好	沈線		沈線	沈線	巾3mmの平行沈線で条線状に施文。	
107	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	外面丁寧に磨かれる。	
108	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通				無文	外面良く磨かれる。	
109	φ1-3mmの小石	2.5YR	褐色	普通				無文	底面スス付着。	
110	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通				無文	底面片を磨き土製円盤にしている。	
111	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	不良				沈線	太さ3mmの沈線が線杓状に施文。	
112	φ1-5mmの小石	5YR	赤褐色	普通				無文	内面スス付着。	
113	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好				無文	表面に擦痕。底面に網代痕。	
114	φ1-3mmの小石多量・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	外面良く磨かれる。	
115	φ1-5mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	内面横位の磨き。浅鉢。	
116	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい褐色	普通				無文	内外面横位の磨き。内面赤色塗彩。浅鉢。	
117	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい褐色	普通				無文	内面横位の磨き。外面赤色塗彩。浅鉢。	
118	φ1-5mmの小石	5YR	明赤褐色	普通				無文	内外面磨き。外面スス付着。浅鉢。	

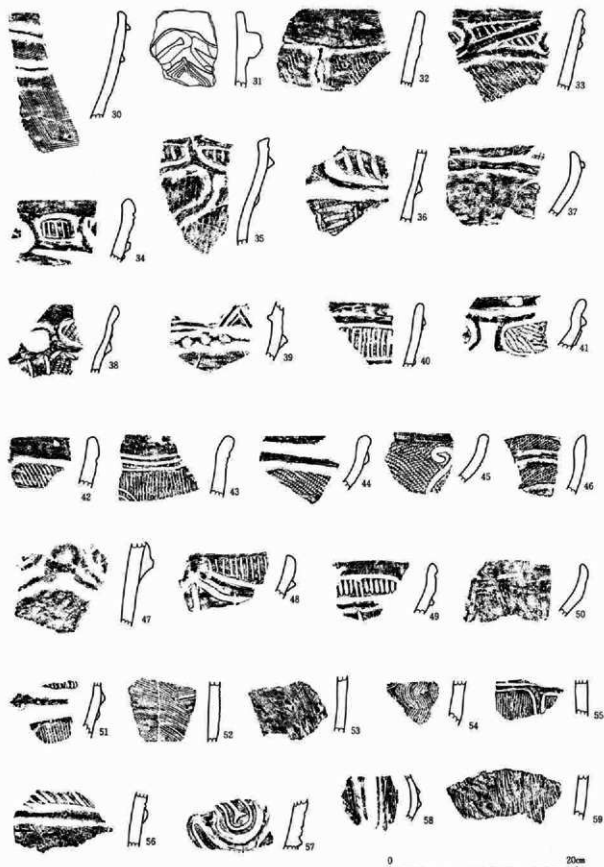


第71図 17号住居址出土遺物-1

第1章 出土遺物の概要

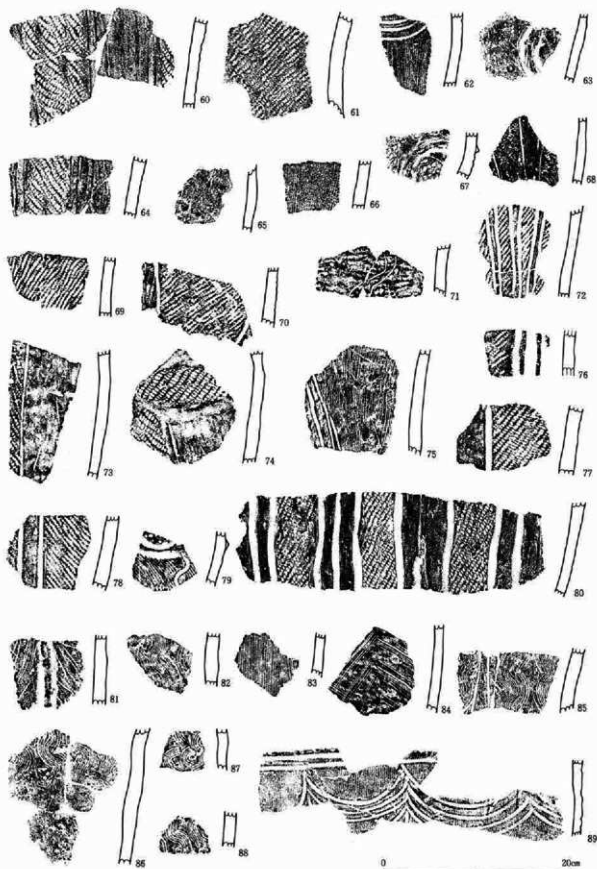


第72図 17号住居址出土遺物-2



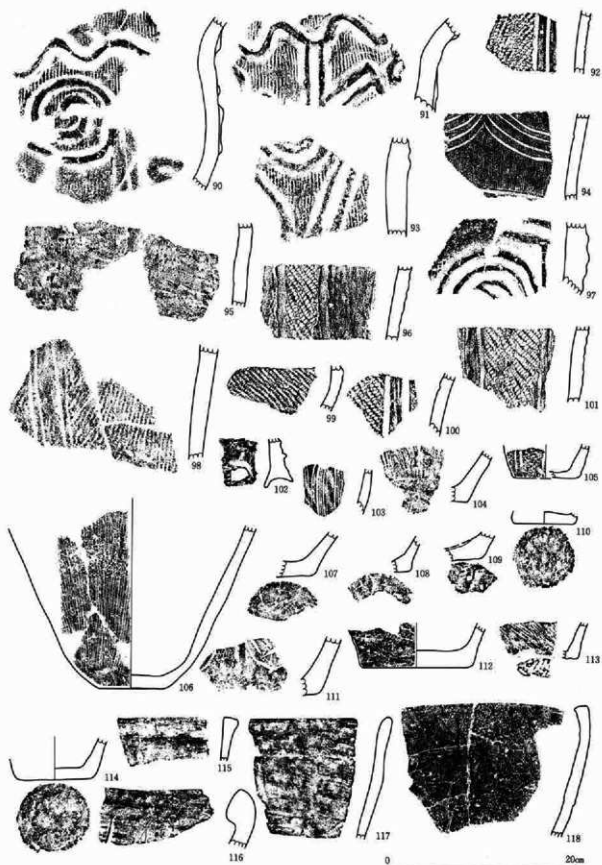
第73図 17号住居址出土遺物-3

第1章 出土遺物の概要



第74図 17号住居址出土遺物-4



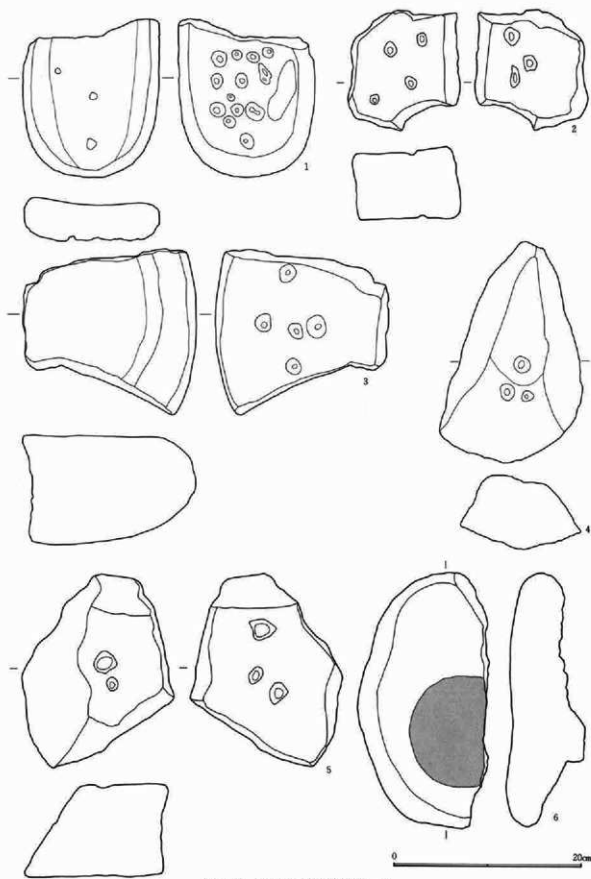


第75图 17号住居址出土遺物-5

## 第1章 出土遺物の概要

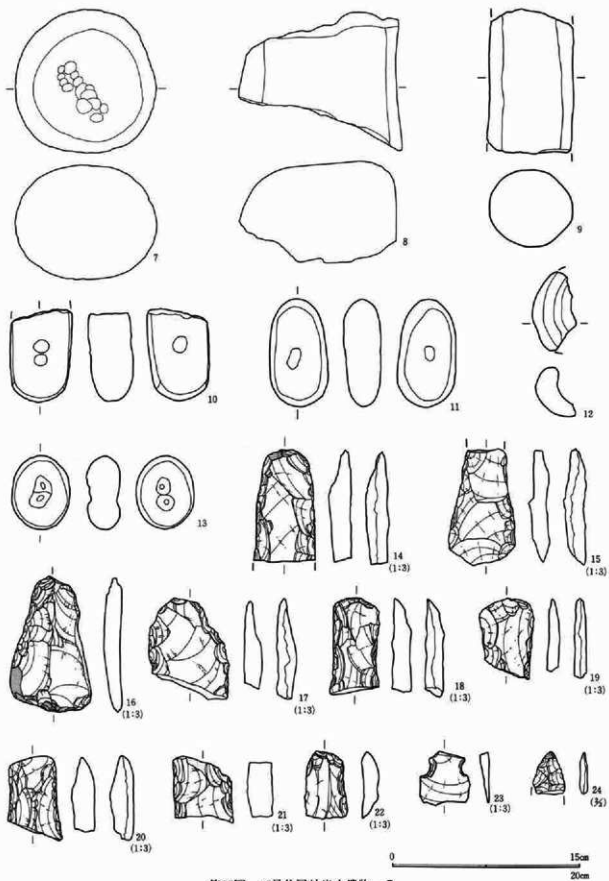
1区 17号住居石器観覧表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿・多孔石	楕丸長方形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は浅い凹面。裏面は円錐形の凹み。	16.6	14.5	4.8	1700	欠損
2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	平坦面に円錐形の凹み。	12.7	12	7.7	1850	欠損
3	石皿・多孔石	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は浅い凹面。裏面は円錐形の凹み。	17.5	18.3	11.6	4800	欠損
4	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	23.3	15.2	8	2000	欠損
5	多孔石	不定形	角閃石安山岩	平坦面に円錐形の凹み。	20.1	15.4	9.8	3650	欠損
6	石皿	不定形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面はわずかに凹む。	27.2	13.8	8.5	3250	欠損
7	丸石	球形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。	15.4	15	12.1	3900	
8	台石	—	粗粒輝石安山岩	台石作業面は平坦。	14.7	17.4	10.6	3500	欠損
9	石棒	円筒形	アイサイト		15.2	9.2	8.2	1750	
10	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に敲打による凹み。表裏・側面とも縁を持つ。凹一磨。	9.8	6.6	4	530	1/3欠損
11	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に敲打による凹み。凹一磨。	11.5	6.3	4	430	
12	孔鉢状凹石	円形	粗粒輝石安山岩	中央に大きく匙鉢状の凹みを持つ。	8.3	4.7	5.2	70	3/4欠損
13	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に敲打による凹み。磨一凹。	7.8	6.2	3.6	210	
14	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.7	4.9	1.9	100	先端部欠損
15	打製石斧	楕形	硬質頁岩	両面調整。刃部磨減。先端部磨減。横断面レンズ状。	9.1	5.4	1.9	90	
16	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。先端部磨減。横断面レンズ状。	10.8	6.5	1.5	110	
17	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8	6.4	1.6	80	先端部欠損
18	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.7	3.9	1.5	60	先端部欠損
19	打製石斧	短冊形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	4.4	1	50	基部欠損
20	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.9	4.4	1.9	60	先端部欠損
21	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	4.8	2	70	基部・先端部欠損
22	打製石斧	短冊形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.4	3.4	1.3	30	先端部欠損
23	石匙	扇状	黒色頁岩	内面は一回の刻磨。	4.3	3.9	0.8	10	
24	石鏃	—	黒曜石	側面に押圧刻磨。横断面レンズ状。	1.7	1.3	0.3	0.4	基部欠損



第76図 17号住居址出土遺物—6

第1章 出土遺物の概要



第77図 17号住居址出土遺物-7

## 第1節 I地区の出土遺物

I区 18号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい橙色	不良	Lr	縦位	熟赤	隆線	口唇に4単位突起。口縁部に太さ8mmの隆線が渦巻きと横円区画をつくる。区画内は沈線が縦位に充填。胴部に横位に隆線が回り無文帯をつくる。胴部は隆線で縦位の区画、内外面スス付着。太さ2mmの沈線の渦巻き。	
2	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	灰黄褐色	不良				沈線		
3	φ1mm以下の細かい 砂粒	7.5YR	にぶい橙色	普通				沈線	太さ3mmの沈線で横円区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。内面スス付着。太さ10mmの沈線の渦巻き。	
4	φ1-2mmの小石・ 雲母	5YR	橙色	良好				沈線		
5	φ1-2mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい橙色	良好				隆線	太さ8mmの隆線の渦巻き。	
6	φ1-3mmの小石	5YR	褐灰色	良好			沈線	隆線	太さ10mmの隆線で半円状の区画。区画内は太さ1mmの隆線が縦位に充填。太さ10mmの隆線で横円区画・渦巻きをつくる。区画内は7mmの沈線が矢羽旗状に充填。	
7	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい橙色	良好				隆線		
8	φ1-2mmの砂粒	5YR	灰褐色	普通			沈線	隆線	太さ8mmの隆線で遠弧状の区画。区画内は太さ3mmの沈線・渦巻き・刺突を加える。	
9	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい橙色	良好	Lr		縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で横円区画・縦位区画をつくる。隆線に爪形文が加えられる。区画内は太さ2mmの沈線が充填。太さ10mmの隆線で横円区画。太さ13mmの沈線で「∩」状をつくる。	
10	φ1-5mmの小石	10YR	灰黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線で横円区画。太さ13mmの沈線で「∩」状をつくる。内面横位の巻き。	
11	φ1-3mmの砂粒・ 軽石粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	斜位	縄文			
12	φ1mm以下の細かい 砂粒	5YR	橙色	普通	RL	斜位	縄文	隆・沈	太さ6mmの隆線で縦位区画。太さ4mmの沈線が横位に引かれる。	
13	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位区画。外面スス付着。	
14	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	灰褐色	普通	LRL	縦位	縄文	沈線	巾4mmの平行沈線で胴部文様帯を縦位区画。胴部は無文。	
15	φ1-5mmの小石	5YR	褐灰色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で縦位区画。巾2mmの沈線。太さ3mmの沈線で波状状線。太さ7mmの隆線3本で縦位区画。内面スス付着。	
16	φ1-2mmの小石・ 軽石・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	良好	沈線		沈線	隆線	巾2mmの沈線。太さ3mmの沈線で波状状線。太さ7mmの隆線3本で縦位区画。内面スス付着。	
17	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい褐色	不良	RI		熟赤	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で胴部と胴部を区画。胴部に縦位区画をつくる。	
18	φ1-3mmの砂粒・ 雲母	5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が3条で縦位区画。	
19	φ1-3mmの小石	7.5YR	橙色	不良	Lr		熟赤			
20	φ1mmの砂粒・雲 母	7.5YR	灰褐色	普通			沈線	隆線	太さ6mmの隆線で横円区画。区画内は太さ4mmの沈線が充填。	
21	φ1mm以下の砂粒多 量	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位区画・波状。	
22	φ1-2mmの砂粒・ 軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好	沈線		沈線	隆線	太さ4mmの隆線が波状に廻る。胴部は縦位に区画され沈線が縦位に施す。	
23	φ1-3mmの砂粒・ 雲母	5YR	にぶい橙色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの浅い沈線が2条で縦位区画。区画内は磨消縄文。	
24	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			爪形		巾10mmの爪形文を施した隆線を爪形に貼付。その中に突起を付ける。	
25	φ1mm以下の細かい 砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾4mmの平行沈線が2条対で縦位区画。太さ4mmの沈線が縦位区画を縦位に切る。	
26	φ1-2mmの細かい 砂粒・雲母	5Y	オリーブ黒色	良好	LR	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で横円区画。内面横位の細かい巻き。	
27	φ1-2mmの砂粒・ 雲母	5YR	明赤褐色	普通	LR	縦・横	縄文			
28	φ1-3mmの小石・ 軽石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	Lr	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条で縦位区画。沈線間は無文。	

## 第1章 出土遺物の概要

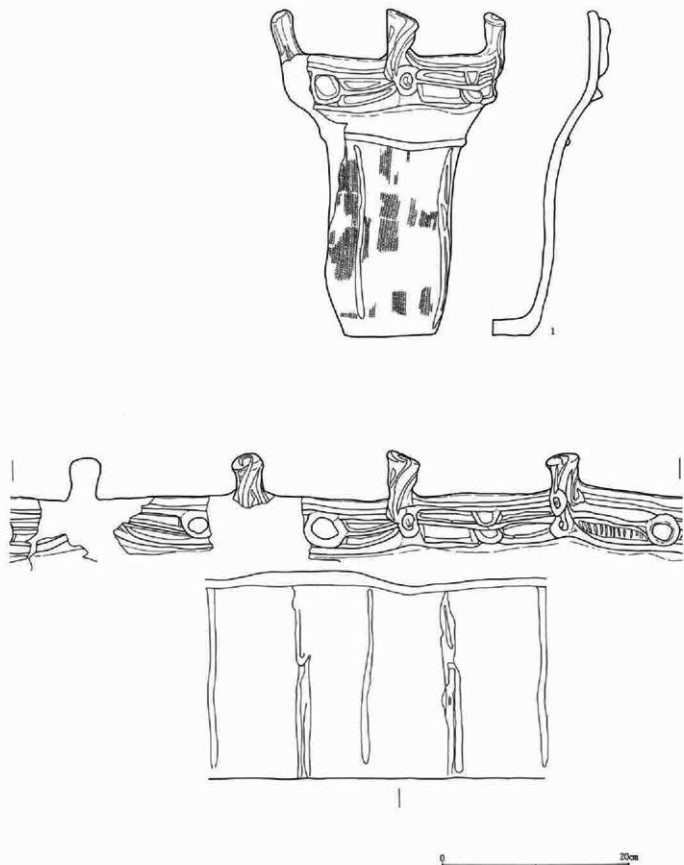
I区 18号住居土器類調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考	
29	φ1mm以下の細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好	RI		沈線	沈線	太さ3mmの沈線で縦位区画。内面縦位の磨き。		
30	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	沈線		沈線	沈線	太さ2mmの沈線。巾6mmの沈線が縦位方向に扇状に施文。 内外面とも横位の磨き、赤色塗彩。		
31	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		内外面横位の細かい磨き。浅鉢。		
32	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。内面黒色。 口縁に太さ4mmの沈線で楕円状・渦巻きをつくる。赤色塗彩。		
33	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文	沈線	内外面横位の磨き。外面やや割離。内面黒色。		
34	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。外面やや割離。内面黒色。		
35	φ1-2mmの小石	5YR	褐色	普通			無文		浅鉢。		
36	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。浅鉢。		
37	φ1-2mmの砂粒多量	2.5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。浅鉢。		
38	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		内面細かい磨き。外面巾4mmの横位の磨き。		
39	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい褐色	普通			沈線	沈線	太さ3mmの沈線で楕円区画・渦巻きをつくる。口縁把手部。		
40	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内外面横位の細かい磨き。		
41	φ1-3mmの小石・軽石・雲母	5YR	褐色	良好			無文		内外面横位の細かい磨き。赤色塗彩。 浅鉢。		
42	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい褐色	普通			無文		底面に木葉痕。内面黒色。		
43	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		縦位の磨き。		
44	φ1mmの砂粒少量	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文				
45	φ1-3mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR		横位	横位	太さ2mmの沈線で縦位区画。内面スス付着。		
46	φ1mmの砂粒	7.5YR	褐灰色	良好			無文				
47	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文				
48	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通	RL		縦位	縦位	横位	横位	
49	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	沈線		沈線	沈線	横位把手の一部?外面丁寧な磨き。 口縁部に太さ12mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ3mmの沈線が2条対で縦位区画。沈線裏は無文。		
50	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL		斜位	縦位	沈線	口縁部は太さ6mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ5mmの沈線が先填。胴部は巾4mmの平行沈線で区画。	51-55と同
51	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL		斜位	縦位	沈線	口縁部は太さ6mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ5mmの沈線が先填。胴部は巾4mmの平行沈線で区画。	50-55と同
52	φ1-3mmの砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文	沈線	太さ8mmの隆線で半円区画。区画内は3mmの沈線が縦位に先填。胴部は無文。		
53	φ1mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き。外面スス付着。浅鉢。		
54	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良			無文	沈線	太さ7mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ2mmの沈線が縦位に先填。		
55	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL		斜位	縦位	沈線	口縁部は太さ6mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ5mmの沈線が先填。胴部は巾4mmの平行沈線で区画。	50-51と同
56	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR		横位	縦位	隆線	太さ8mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。胴部は無文。	
57	φ1mmの砂粒	7.5YR	浅黄褐色	不良	LR		横位	縦位	沈線	太さ3mmの沈線で口縁部を区画。胴部は縦位区画と波状線を施文。内面スス付着。	
58	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好			無文	沈線	太さ10mmの隆線で半円状の区画。その中を太さ3mmの沈線が先填。		
59	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL		縦位	縦位	沈線	太さ3mmの沈線で文様区画。	
60	φ1-2mmの砂粒	5YR	褐色	普通	LR		縦位	縦位	沈線	太さ5mmの沈線で口縁部に楕円区画。胴部は沈線が3条で縦位区画。	

## 第1節 I地区の出土遺物

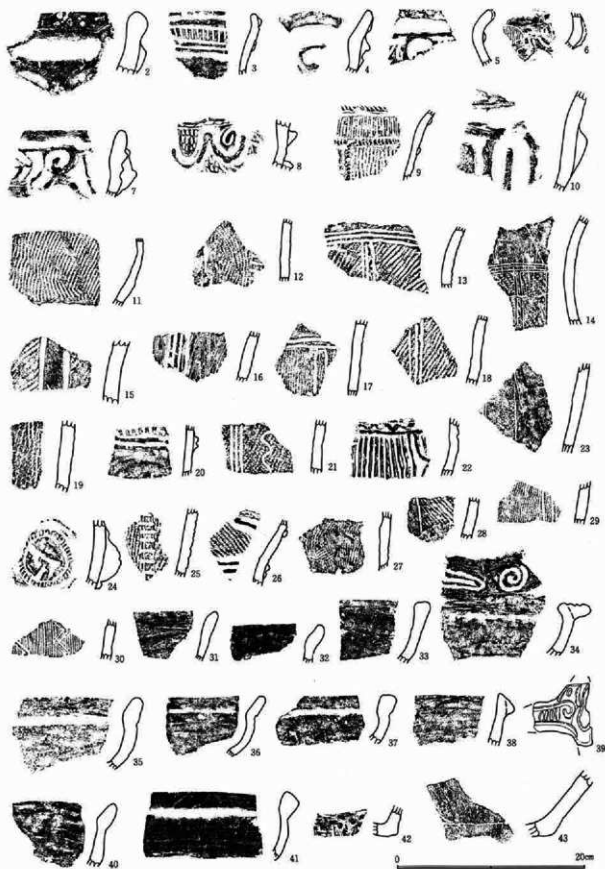
I区 18号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
61	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良			沈線		太さ2mmの沈線で渦巻きなどの文様をつくる。頸部は太さ10mmの隆帯が通る。頸部は無文。	
62	φ1-3mmの砂粒	5YR	明赤褐色	普通	RI		帯赤 隆線		太さ7mmの隆線で半円区画・渦巻きをつくる。内面スス付着。	
63	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい褐色	普通	R/L	縦位	縄文 隆線		頸部に太さ8mmの刺突を持つ隆線が通る。内面スス付着。	
64	φ1mmの砂粒	5YR	明赤褐色	良好	L/R	縦位	縄文 隆線		太さ8mmの隆線が2本通る。外面赤色塗彩。	
65	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RI	左巻	帯赤 隆・沈		太さ8-12mmの隆線で半円区画・渦巻きをつくる。頸部は無文。胴部の区画に太さ5mmの沈線が通る。	
66	φ1mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文 沈線		太さ2mmの沈線で胴部文様帯を区画。口縁部は無文。	
67	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	LR	横位	縄文 隆線		太さ5mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。頸部は無文。	
68	φ1mmの細かい砂粒	7.5YR	褐灰色	普通	LR	横位	縄文 隆・沈		口縁部は太さ7mmの隆線で文様帯を区画。頸部は無文で胴部と太さ3mmの沈線を差し区画。	
69	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	良好	L/R	横位	縄文 隆・沈		太さ10mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ2mmの沈線が充填。	
70	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	明赤褐色	不良	RL	縦位	縄文 沈線		太さ3mmの沈線が胴部を通る。	72と同一
71	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	L/R	横位	縄文 沈線		太さ2mmの浅い沈線が3-4条で縦位区画。区画内は波状の沈線が施文。	
72	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	赤褐色	不良	RL	縦位	縄文 沈線		太さ3mmの沈線が胴部を通る。	70と同一
73	φ1-2mmの小石・軽石	5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文		底面に木葉文。	
74	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	不良	LR	横位	縄文			
75	φ1-5mmの小石・軽石	7.5YR	黒褐色	普通			無文		内外両良く磨かれる。底面網代文。浅鉢。	
76	φ1-2mm	5YR	褐色	普通			無文			
77	φ1mmの砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文			
78	φ1-2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文 沈線		太さ4mmの沈線で縦位区画。	
79	φ1mm以下の砂粒・雲母	2.5YR	褐色	良好	RL	縦位	縄文 沈線		太さ3mmの沈線が垂直線・波状線に施文。内面黒色。	
80	φ1-3mmの砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好			沈線		太さ1mmの沈線が縦位に施文。	
81	φ1-3mmの砂粒	5YR	赤褐色	不良	RL	横位	縄文		内面黒色。胴体磨滅のため不明。	
82	φ1-5mmの小石・軽石	5YR	褐色	不良			無文		横位の磨き。内面黒色。浅鉢。	
83	φ1-5mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			無文		底面にヘラ状工具の刮り痕。	
84	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通			無文		外面斜位の磨き。	

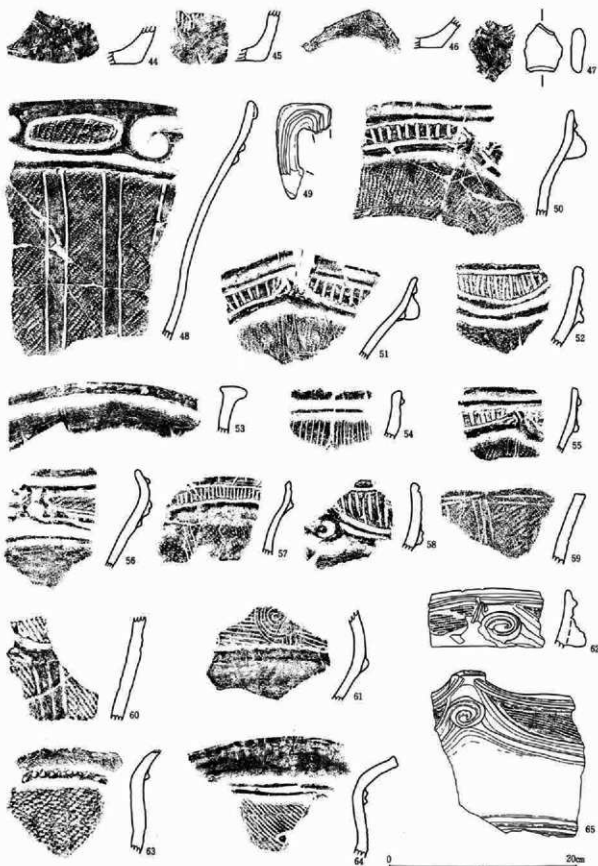


第78図 18号住居址出土遺物-1

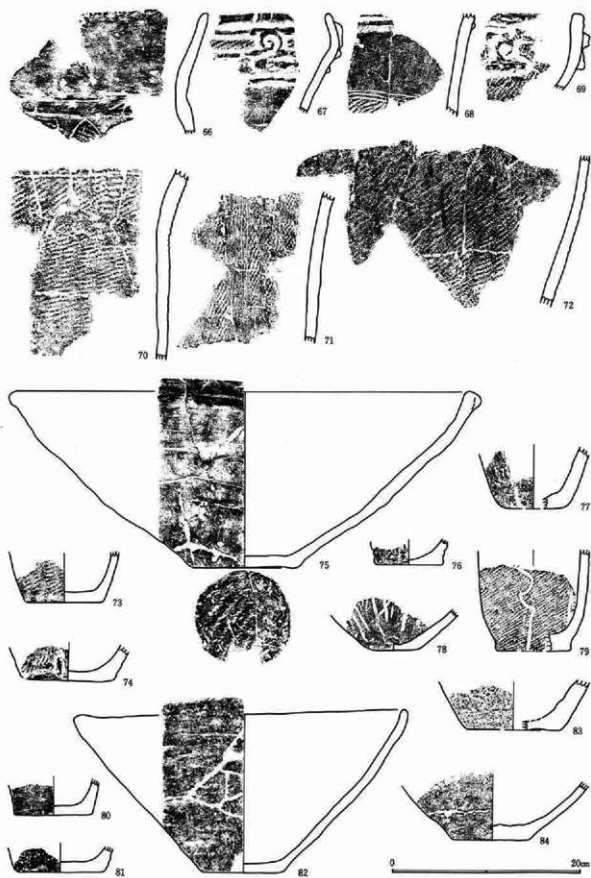




第79図 18号住居址出土遺物-2



第80図 18号住居址出土遺物-3

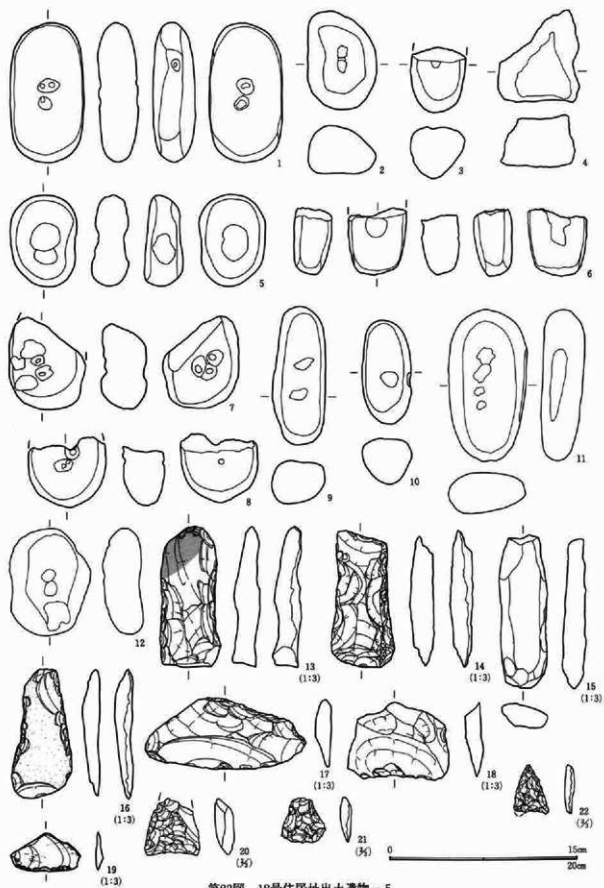


第81図 18号住居址出土遺物-4

## 第1章 出土遺物の概要

I区 16号住居石器観覧表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に敲打による凹み。表裏・側面に磨面と稜を持つ。凹一處。	14.7	7.9	4.5	770	
2	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	片面に凹みと磨面。凹一處。	10.3	7.4	5.1	570	1/3欠損
3	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表に凹み。三面に磨面。凹一處。	6.7	6	5.4	250	1/2欠損
4	石皿	—	粗粒輝石安山岩	周辺欠損し磨面が一部残る。	9.7	8.8	5.5	510	欠損
5	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹み。表裏に磨面。磨一凹。	9.7	7	4	250	
6	磨・凹石	長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと、表裏・側面に稜を持つ。全面に磨面。磨一凹。	7.1	6.2	4	250	1/2欠損
7	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	9.7	8.1	4.8	470	
8	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一處。	7.4	8.3	4.5	330	1/3欠損
9	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	片面に凹みと磨面。凹一處。	14.6	5.7	4.6	560	
10	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	片面に凹みと磨面。凹一處。	10.9	5.3	4.7	340	
11	磨・敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面は側面に敲打痕。表裏に磨面。磨一處。	15	8.5	4.5	1000	
12	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	9	11.4	4	550	
13	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.1	4.8	2.3	150	
14	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.8	5.7	1.9	130	
15	敲石	棒形	黒色片岩	両側縁に敲打痕を持つ。	12.2	3.9	1.9	130	
16	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.7	4.8	1.5	80	刃部欠損
17	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	一側面に刃部を持つ。	5.5	12.7	1.4	90	
18	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	一側面に刃部を持つ。	6.2	8.2	1.5	90	
19	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	一側面に刃部を持つ。	3.1	5	0.6	10	
20	石鏃	平基無茎鏃	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.3	2.2	0.8	3	
21	石鏃	平基無茎鏃	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面カマゴコ状。	1.8	1.8	0.4	1	
22	石鏃	平基無茎鏃	黒色安山岩	側面に押圧刻線。横断面カマゴコ状。	2	1.4	0.4	0.8	



第82図 18号住居址出土遺物-5

## 第1章 出土遺物の概要

I区 19号住居土器観察表

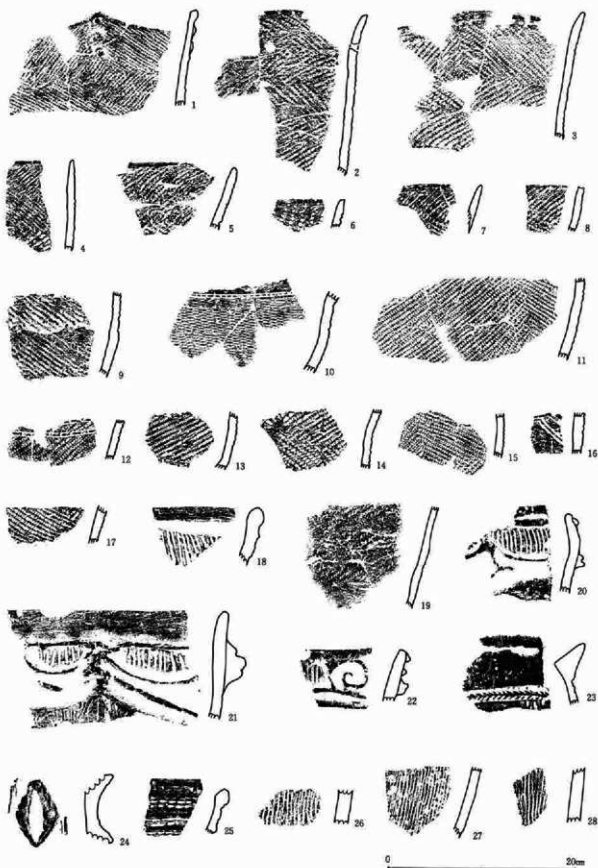
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原休	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	織織		波状を呈し波頂部からφ5mmの粘土層が3段に貼付。縄文により菱形を構成。LR・Lの付加条1條。織織土器。	
2	φ1-3mmの小石・ 織織	10YR	明赤褐色	普通	RL	横位	織織		縄文により菱形を構成。φ7mmの孔がある。織織土器。	
3	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	織織		RL・0段多条のLR。縄文により菱形を構成。織織土器。	
4	φ1-2mmの砂粒・ 織織	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	織織		縄文により菱形を構成。織織土器。	
5	φ1-5mmの小石・ 雲母・織織	7.5YR	黒褐色	普通	RL	横位	織織		L<R・Lの直前段合器とRL。縄文により菱形を構成。織織土器。	
6	φ1-2mmの小石・ 織織	7.5YR	褐色	普通	RL		織織		巾18mm 3本の櫛歯状工具の刺突。織織土器。	
7	φ1-2mmの砂粒・ 織織	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	織織		縄文により菱形を構成。LRにφの附加条1條とRLで羽状縄文をつくる。織織土器。	
8	φ1mm以下の砂粒・ 織織	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	織織		縄文を施文して菱形を構成する。	
9	φ1-2mmの小石多量・ 織織	7.5YR	明褐色	普通	RL	横位	織織		織織土器。	
10	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	褐色	普通		横位	織織		巾5mmの竹管による爪形文が頸部くびれ部に廻る。胎赤文を施文。原休不明。織織土器。	
11	φ1-3mmの砂粒・ 片岩・織織	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	織織		0段多条の羽状縄文。縄文で菱形を構成。織織土器。	
12	φ1-2mmの小石・ 織織	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	織織		巾6mmの半截竹管で平行沈線を引く。裏側をあけて刺突。織織土器。	
13	φ1mmの砂粒・ 織織	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	織織		織織土器。	
14	φ1mmの砂粒・ 織織	2.5Y	黒褐色	普通	RL	横位	織織		0段多条の羽状縄文。縄文で菱形を構成。織織土器。	
15	φ1mmの砂粒・ 織織	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	織織		0段多条の羽状縄文。縄文で菱形を構成。織織土器。	
16	φ1-3mmの砂粒・ 織織	7.5YR	暗褐色	普通			織織		巾6mmの平行沈線で櫛歯状に施文。織織土器。	
17	φ1mmの砂粒・ 織織	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	織織		0段多条の羽状縄文。縄文で菱形を構成。織織土器。	
18	φ1-5mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	良好			沈線	沈線	太さ2-3mmの沈線が口縁部文様帯区画内に充填。	
19	φ1-5mmの小石・ 織織	5YR	赤褐色	普通	Lr		織織		縄文がまばらに施文。内面スス付着。織織土器。	
20	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ8mmの隆線で口縁部文様帯を横円区画。区画内は太さ2mmの沈線が充填。口縁部は無文。	
21	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	良好	Ri	左巻	隆線	隆・沈	太さ15mmの隆線で半円区画・渦巻き。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	
22	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	不良			沈線	隆線	太さ6-8mmの隆線で横円区画・渦巻き。区画内は巾2mmの平行沈線が充填。	
23	φ1mmの砂粒	7.5YR	褐色	良好			爪形		巾6mmの原休で矢羽根状に刺突を加える。	
24	φ1mmの砂粒	5YR	明赤褐色	良好			爪形		巾6mmの平行沈線が縦位に施文。	
25	φ1mmの砂粒・金雲母多量	7.5YR	にぶい褐色	良好			爪形		巾6mmの竹管で押し引き文。	
26	φ1-3mmの小石	10YR	褐色	普通	Ri		點赤			
27	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	Lr		點赤			
28	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	明赤褐色	普通	Ri	右巻	點赤			
29	φ1-2mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	Ri	左巻	點赤	沈線	内面黒色。 太さ4mmの沈線が2条対で渦巻き。	
30	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	褐色	普通			織織		巾6mmの半截竹管による爪形文を横位に施文。	
31	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	織織			

I区 19号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
32	φ1~3mmの小石・ 織紐	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦	縦	縦	付加糸1種の織文で羽状に施文し変形を構成。 0段多糸の羽状織文。上げ底。織紐土器。	
33	φ1~5mmの小石・ 織紐	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦	縦	縦	羽状織文で変形を構成。	
34	φ1~3mmの小石・ 織紐	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横	横	横	無文の土器。器面が荒れている。	
35	φ1~3mmの小石・ 織紐	7.5YR	褐色	不良	RL	横	横	横	無文の土器。器面が荒れている。	
36	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			縦	縦	無文の土器。器面が荒れている。	
37	φ1mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	普通			縦	縦	原形不明。縄文施文。若干の上げ底。織紐土器。	
38	φ1~3mmの小石・ 織紐	5YR	明赤褐色	普通	RL	横	縦	縦	0段多糸の羽状織文。織紐土器。	
39	φ1~3mmの小石・ 織紐	7.5YR	褐色	普通			縦	縦	上げ底土器の高台部。織紐土器。	
40	φ1~3mmの砂粒・ 織紐	2.5YR	赤褐色	普通	RL	横	縦	縦	0段多糸の羽状織文。若干の上げ底。織紐土器。	

I区 19号住居石器観察表

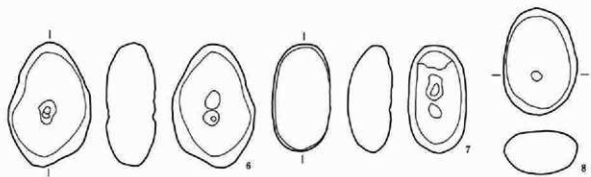
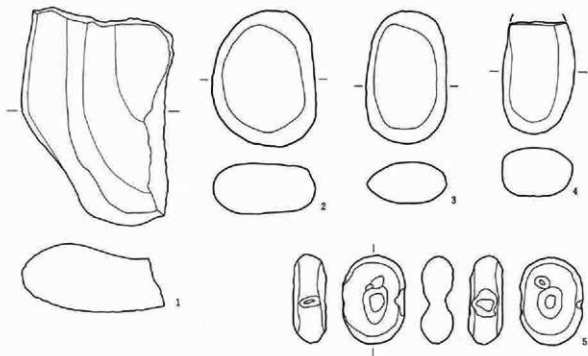
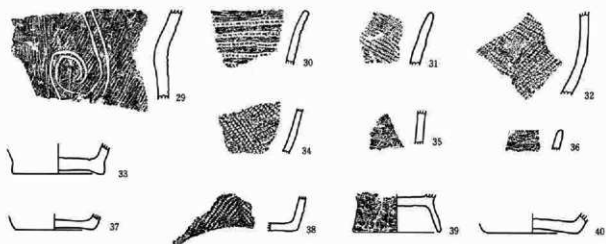
遺物 番号	種類	形状	石材	特 徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作表面は凹面。	22.8	15.2	7	3400	欠損
2	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	14.6	11.1	5.3	1300	
3	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	14.1	8.5	4.4	840	
4	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	11.9	7.7	5.1	830	欠損
5	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。両側に敲打痕。磨一凹。	9.3	6.7	3.4	250	
6	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	13.1	8.8	5.3	850	
7	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	片面に凹み。表裏に磨面。凹一磨。横断面カマゴコ状。	11.3	6.3	4.7	500	
8	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	片面に凹み。表裏に磨面。凹一磨。	11.2	7.8	4.7	580	
9	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	11.3	6.6	2.9	350	
10	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	11	7	4.1	470	
11	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.7	4.9	3.6	140	
12	磨石	長楕円形	緑色片岩	表裏に磨面。	8.1	3.4	1.2	60	
13	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。両側に敲打痕。磨一凹。	8.5	7	4.4	360	
14	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表裏に細長い擦痕がある。	7.1	5.5	5.1	220	
15	磨石	長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面と横を持つ。片面に敲打痕。	10.7	8.4	5.1	650	
16	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	8.4	7.2	4.2	350	
17	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	6.4	7.6	4.8	280	
18	磨石	長方形	実玄武岩	一側面に擦痕。	10.6	3.8	1.3	80	
19	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.4	5.9	2.9	80	基部欠損
20	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	一側面に刃部。	7.6	4.5	1.9	70	
21	スクレイパー	縦長	硬質泥岩	両側面に調整。	8.5	4.1	2.3	80	
22	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両側面に片面調整。	5.1	2.7	0.8	10	
23	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	三側面に片面調整。	4.9	3.6	0.9	20	
24	石匙	三角形	埴質頁岩	つまみ部と2側面に片面調整。	4.9	5.1	0.8	10	
25	スクレイパー	三角形	黒色頁岩	一側面に片面調整。	3.6	5.4	0.8	30	
26	磨製石斧	乳棒形	実玄武岩		13.2	2.9	2	110	刃部欠損
27	スクレイパー	縦形三角形	硬質泥岩	一側面に刃部	5.2	6.9	0.8	40	
28	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両側面に両面調整。	4.9	1.8	0.8	10	
29	スクレイパー	三角形	黒色頁岩	片面調整。	7.1	3.2	1.8	40	



第83図 19号住居址出土遺物-1

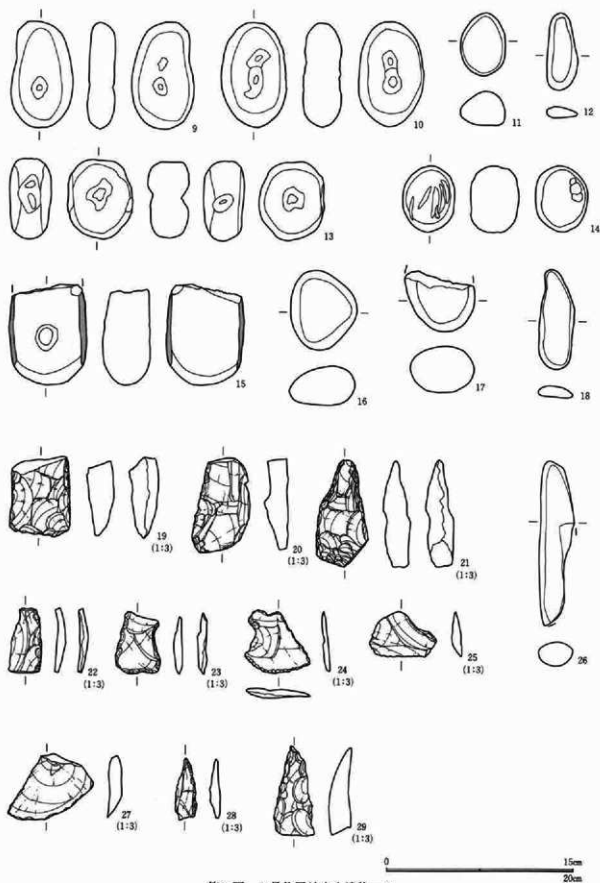


第1節 I地区の出土遺物



0 20cm

第84図 19号住居址出土遺物-2



第85図 19号住居址出土遺物-3

I区 20号住居土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	淡黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口唇部と口縁部に無文帯を持つ。両は交互斜突が沈線と交互に施され、4単位の横状把手が付く。胴部は太さ4mmの沈線による文様区画。 太さ8-10mmの沈線で横円区画。胴部は太さ5mmの沈線が3条で縦位区画。沈線間は無文帯。	
2	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	R/LR	縦位	縄文	沈線	巾6mmの浅い沈線で文様帯をつくる。沈線間は無文帯。	
3	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	巾6mmの浅い沈線で文様帯をつくる。沈線間は無文帯。	
4	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	R/LR	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で横円区画・渦巻きをつくる。渦巻き。	
5	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ12mmの沈線で横円区画。区画間は厚くなる。	
6	φ1-3mmの小石・軽石・雲母	2.5YR	にぶい黄色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が2条対で渦巻き文。沈線間は無文帯。	
7	φ1-3mmの小石・軽石	7.5YR	褐色	不良				沈線	太さ10mmの沈線で渦巻き。	
8	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの浅い沈線で「∩」状に施文。文様間は無文帯。	
9	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの浅い沈線で渦巻き。内外面スプス付着。	
10	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3-6mmの沈線で弧状・渦巻きを施文。	
11	φ1-3mmの小石・雲母多量	10YR	灰黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ3-6mmの隆線で弧状・渦巻きを施文。	
12	φ1mm以下の砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			沈線	隆線	太さ2mmの沈線と太さ15mmの隆線で半円状区画。区画内は沈線が充填。 太さ5mmの沈線でワラビ手状・「∩」状の文様をつくる。赤色塗彩。	
13	φ1-3mmの小石・軽石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ10mmの浅い沈線で渦巻き。	
14	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄褐色	良好			沈線	沈線	太さ7mmの沈線で横円区画。	
15	φ1-3mmの小石・軽石	2.5YR	黄灰色	良好	RL	横位	縄文	沈線	外面磨き。	
16	φ1-3mmの小石・軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文			
17	φ1mmの砂粒・雲母多量	10YR	灰黄褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆線	太さ9mmの浅い隆線で渦巻き・弧状文様。	
18	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で縦位区画。沈線間は無文帯。	
19	φ1-3mmの小石・軽石・雲母	10YR	灰黄褐色	普通	R/LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線を縦位に施し区画する。沈線間は無文帯。内面横位の磨き。	
20	φ1-3mmの砂粒・雲母	2.5YR	にぶい黄色	普通	RL	横・斜	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で横円区画。胴部は「∩」状の文様。	
21	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	R/LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ8mmの隆線で横円区画。胴部は太さ5mmの沈線が縦位区画。沈線間は無文帯。	
22	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で横円・縦位区画をつくる。	
23	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			隆線	隆線	太さ5mmの隆線を2条を長楕円状に貼付し胴部と区画。胴部は無文帯。	
24	φ1-2mmの砂粒・雲母	5Y	灰色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太さ12mmの沈線で縦位区画。太さ5mmの沈線で縦位区画。区画内は無文帯。ワラビ手状の沈線が施文。	
25	φ1-3mmの小石多量・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		外面は塗彩。浅鉢。	
26	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文			
27	φ1-3mmの小石・軽石・雲母	10YR	灰褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ5mmの隆線が2条で縦位区画。隆線間は無文帯。	
28	φ1-3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ6-10mmの沈線で横円区画。	
29	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ9mmの沈線で縦位区画。内面横位の磨き。	
30	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が縦位区画。	

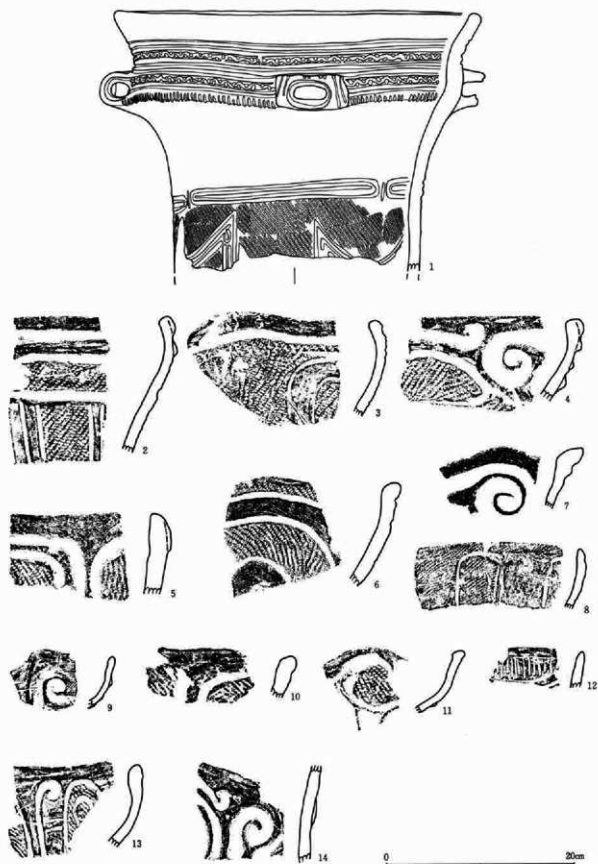
第1章 出土物の概要

I区 20号住居土器観察表

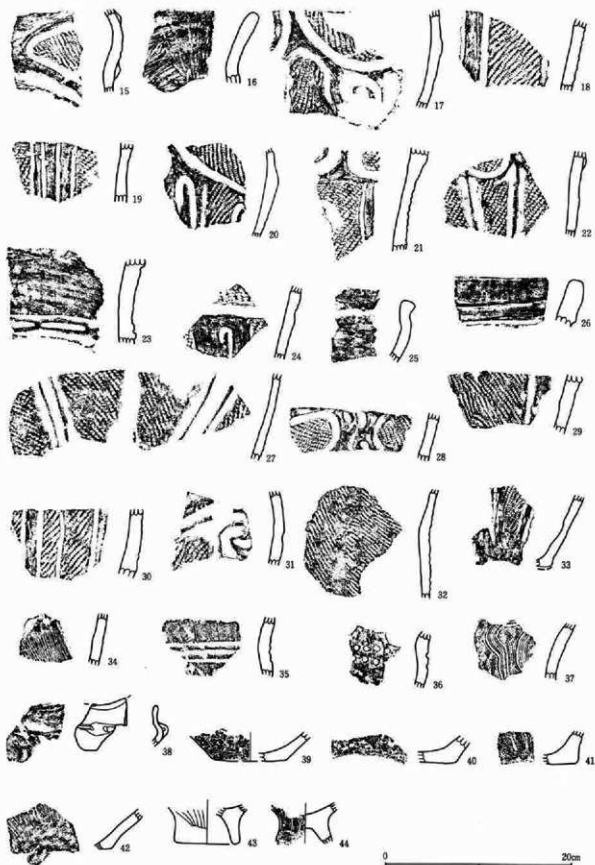
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
31	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	灰黄色	良好	LR	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。	
32	φ1-5mmの小石・軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	縦位	縄文		内面縦位の磨き。	
33	φ1mmの細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆・沈	太さ5mmの沈線と隆線で縦位区画。	
34	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好	沈線		沈線	沈線	巾5mmの3本の沈線が条線状に施文。	
35	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	にぶい黄色	不良	条線		沈線	沈線	巾2mmの条線。太さ4mmの沈線が裏部に3本廻る。胴部は条線が施文。	
36	φ1-2mmの小石	7.5YR	明褐色	良好			沈線	沈線	沈線で文様帯を区画。φ6mmの刺突が施文。	
37	φ1-5mmの小石・軽石	7.5YR	灰褐色	普通	条線		沈線	沈線	巾10mm4本の条線が施文。	
38	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	不良			無文	無文	内面塗彩。髷付き土器。	
39	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良			無文	無文		
40	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良			無文	無文		
41	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文	無文		
42	φ1-3mmの小石・金雲母	2.5YR	黄褐色	普通	条線		沈線	沈線	巾2mmの条線。	
43	φ1mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文	無文	内面縦位の磨き。外面縦位の磨き。	
44	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良			無文	無文	高台状になる。内面黒色。	

I区 20号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。表裏面に凹み。	22.5	13.5	7.6	2310	左上半部欠損
2	打製石斧	短筒形	灰色安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	5.4	5.1	1.8	60	基部欠損
3	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	5	2	80	両端部欠損
4	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	片面凹み。表裏・側面は磨面と棱を持つ。側面敲打痕。磨一凹。	10.7	6.7	4	440	
5	磨石	乳棒形	粗粒輝石安山岩	表面に細長い擦痕。	8.7	3.6	2.8	140	欠損
6	磨石	餅形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	7.1	5.9	5.2	260	

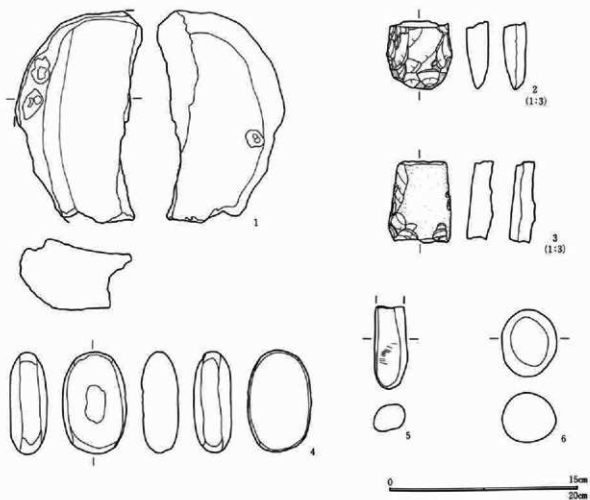


第86図 20号住居址出土遺物-1



第87図 20号住居址出土遺物-2

第1節 I地区の出土遺物



第88図 20号住居址出土遺物-3

第1章 出土遺物の概要

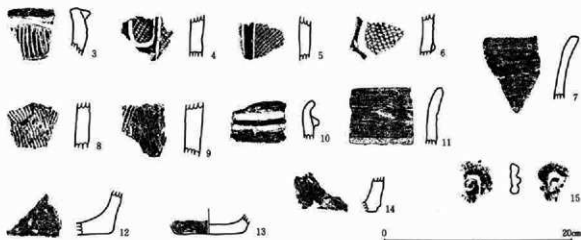
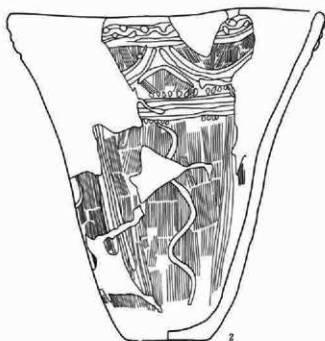
I区 21号住居土器観察表

番号	粘土	色記号	色調	焼成	施文 原体	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	糸織	縦位	沈線	沈線	器面全体を糸織が縦位に施文。	
2	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	糸織		沈線	沈線	口縁部は太さ5mmの沈線が横位に区画。区画内を交互刺突と窪弧文が施文。胴部は縦位の区画と波状の沈線が垂下する。内面スス付き。	
3	φ1mm前後の砂粒	7.5YR	黒褐色	良好			沈線	隆線	隆線で横円区画。太さ2mmの沈線が充填。	
4	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で胴部に長楕円区画。その中に縄文が充填。	
5	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの浅い沈線が2条対で垂下。	
6	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい褐色	普通	LRL	縦位	縄文	隆・沈	太さ5mmの沈線で横円区画。区画内は縄文が充填。	
7	φ1-2mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通				無文		
8	φ1mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	斜位	縄文		捺赤がまばらに施文。	
9	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい褐色	不良	Lr	左巻	捺赤		胴部分にφ4mm孔あり。有孔押付き土器。	
10	φ1-2mmの小石	2.5YR	赤灰色	良好				無文	胴部に太さ6mmの浅い沈線。内外面横位の磨き。	
11	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好				無文		
12	φ1-5mmの小石・輝石	5YR	褐色	不良				無文		
13	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	普通				無文		
14	φ1-2mmの砂粒	5YR	明赤褐色	良好				無文		
15	φ1mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通					太さ4-7mmの粘土粒で褐色き。土製品。	

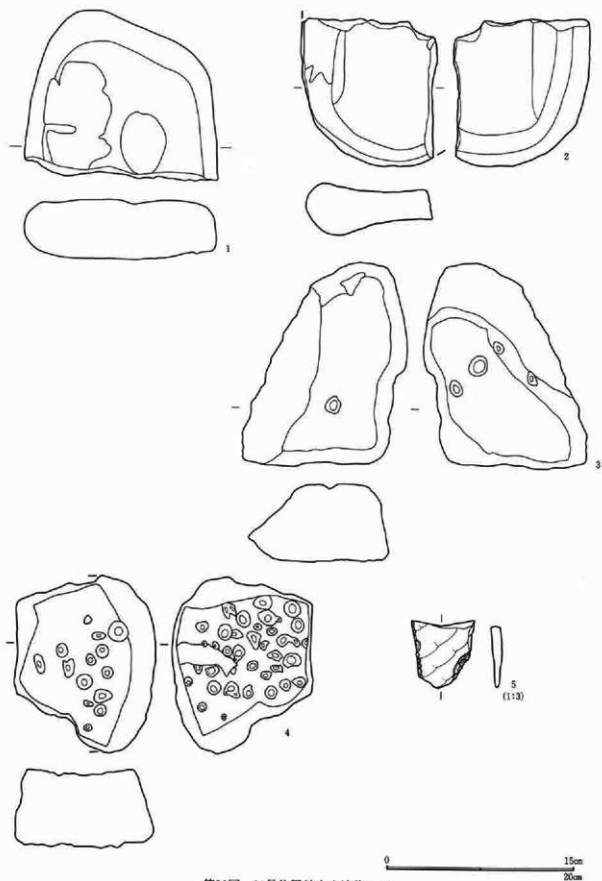
I区 21号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	宍石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で敲打痕。	18	20.6	6	3950	
2	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は両面で四面になる。	15.7	14.7	5.5	1370	
3	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	平坦面に円錐形の凹み。	21.4	17.5	8.2	3800	
4	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	両面に凹みを持つ。	18.3	15.3	8.3	2270	
5	スタレイヤー	腹長	黒色頁岩	一側面に片面調整。	5.3	5.1	0.9	30	





第89図 21号住居址出土遺物-1



第90図 21号住居址出土遺物-2

I区 22号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が口頸部と胴部の文様帯を区画。頸部は無文。胴部は弧状と直線が文様を描く。	
2	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	LR		熱赤	隆・沈	頸部には太さ6-7mmの隆線が2条廻り文様帯を区画。胴部は太さ3mmの沈線が3条垂下し4単位に縦位区画。口縁部は無文帯。	
3	φ1-3mmの小石・軽石	10YR	黄褐色	不良	RL	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位区画し口縁を連弧状に施文。	
4	φ1mmの砂粒多量	7.5YR	灰褐色	普通			無文	隆線	口頸部に3mm程の突起。頸部に隆線を持つ。	
5	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部に太さ8mmの隆線が9条で半円状の区画と、渦巻き状の突起を付ける。胴部は太さ4mmの沈線が9条で区画し無文帯になる。胴部は縄文の施文のみ。全体に磨滅。	
6	φ1-3mmの砂粒・小石・軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好	Ri	左巻	熱赤		口縁部に巾3mmの無文帯。胴部は熱赤が施文。底面近くも熱赤を磨り消している。内面スス付着。	
7	φ1-3mmの小石・軽石	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文	隆線	口縁部に太さ6-8mmの隆線を連弧状に貼付。内面黒色、スス付着。	
8	φ1-3mmの小石・砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ6-8mmの隆線が横位区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。胴部は無文帯。頸部は太さ3mmの沈線が横位に廻り縦位に区画。	
9	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			隆・沈	隆線	太さ7mmの隆線で半円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ3mmの沈線が充填。胴部は無文。外面スス付着。	
10	φ1-2mmの砂粒	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が口頸部に廻る。内面横位の磨き。内外面スス付着。	
11	φ1mmの砂粒	5YR	暗赤褐色	良好	Ri	左巻	熱赤	隆線	太さ8mmの隆線が頸部に廻る。口縁部は無文。外面スス付着。	
12	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	不良			隆・沈	隆線	太さ5-6mmの隆線で渦巻き・弧状をつくる。隆線間は太さ2mmの沈線が充填。胴部は無文。	
13	φ1-5mmの小石・軽石	7.5YR	明褐色	普通			沈線	隆線	太さ6-9mmの隆線で横位区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ2mmの沈線が充填。胴部は無文。外面スス付着。まばらに施文。	
14	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Ri	縦位	熱赤		太さ7mmの隆線が横位区画。区画内は縦位に施文。胴部に縄文が施文。	30と同一
15	φ1mmの砂粒	5YR	にぶい褐色	不良	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で口縁部文様帯を区画。区画内は太さ3mmの沈線が渦巻き・斜位に充填。	
16	φ1-3mmの小石・軽石・雲母	10YR	黒褐色	普通	沈線	隆線	隆線	隆線	太さ6-8mmの隆線で横位区画。区画内は太さ6mmの沈線が充填。	
17	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ6-8mmの隆線で横位区画。区画内は太さ6mmの沈線が充填。	
18	φ1mmの砂粒	5YR	褐色	普通	Ri	左巻	熱赤	隆線	太さ7mmの隆線で横位区画・渦巻きをつくる。	
19	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通			沈線	隆線	太さ8mmの隆線で横位区画。区画内は太さ2mmの沈線が充填。胴部は無文。	
20	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆線	太さ6-8mmの隆線で横位区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ4mmの縄文が充填。	
21	φ1-3mmの小石・石英	5YR	赤褐色	普通	Lr		熱赤	隆線	巾7mmの隆線で渦巻き。	
22	φ1mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ5mmの隆線で横位区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ2mmの沈線が充填。内面黒色。内外面スス付着。	
23	φ1mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ3mmの沈線で渦巻き。	
24	φ1-3mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	不良			沈線	隆線	太さ5-10mmの隆線で横位区画・渦巻きをつくる。胴部は無文。	
25	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ6-8mmの隆線で横位区画。区画内は縄文が施文。胴部は無文帯。	

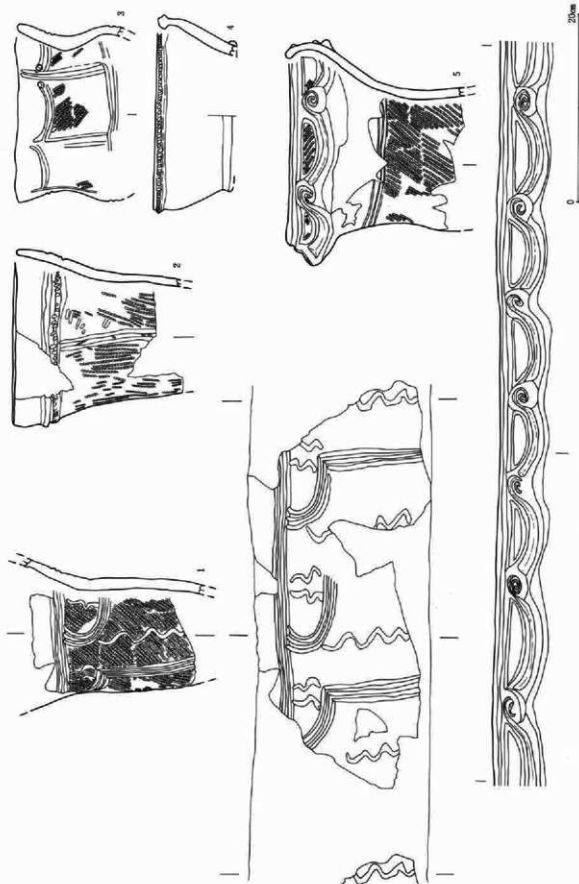
## 第1章 出土遺物の概要

I区 22号住居土器調査表

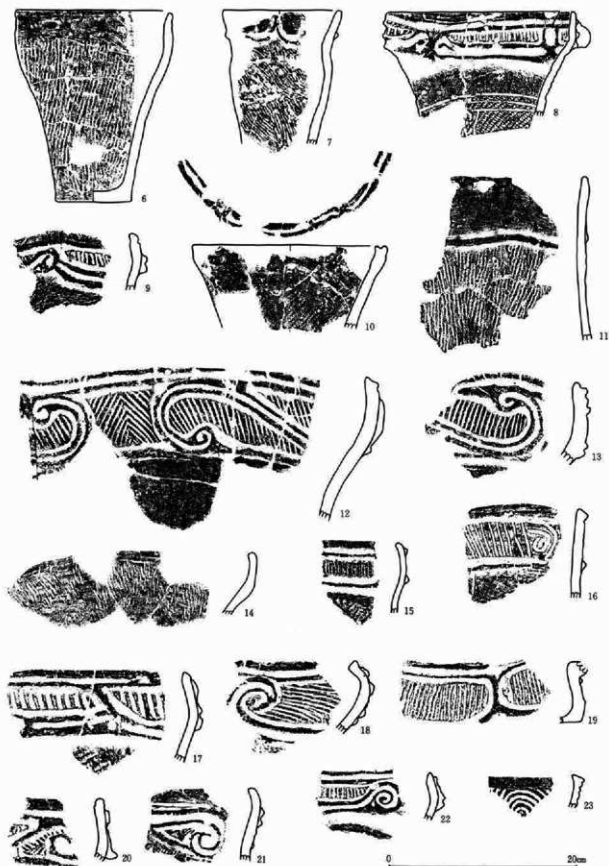
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
26	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3-6mmの隆線で口縁部を区画。区画内は縄文が充填。	15と同一
27	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好	Lr	右巻	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で口縁部を区画。胴部は縦位区画・渦巻き文。胴部は無文。内面黒色。	
28	φ1-2mmの小石多量	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ6-7mmの隆線で平円区画。区画内は太さ1mmの沈線が充填。胴部は太さ4mmの沈線が垂下。	
29	φ1mmの砂粒	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で平円区画。	
30	φ1mmの砂粒	5YR	褐色	不良			縄文	隆・沈	太さ7mmの隆線で楕円区画。区画内は縦位の沈線が充填される。	
31	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ6-7mmの隆線で口縁部を区画。胴部は縦位区画・波状区画。	
32	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RI		縄文	隆線	太さ7mmの隆線で口縁部文様帯を区画。内面良く磨く。	
33	φ1-2mmの小石	5YR	赤褐色	良好	条線		沈線	隆線	巾7mm4条の条線。断面山形の楕円区画内に曲線が流水状に引かれる。	
34	φ1-3mmの小石	2.5YR	赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ7mmの隆線で円形・波状の垂線。太さ2mmの沈線で文様を区画。	
35	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RI	右巻	縄文	沈線	巾6mmの平行沈線が横位に走る。	
36	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条で縦位区画。区画内に沈線が波状に施文。	
37	φ1-5mmの小石・軽石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8-10mmの沈線が縦位区画。内面磨き。	
38	φ1mmの砂粒多量・雲母	10YR	褐色	普通	LR	斜位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で文様区画。	
39	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が3条走る。内面黒色。スス付着。	
40	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位・渦巻き文の沈線を施文。	
41	φ1-3mmの小石・軽石	7.5YR	黒褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で文様を区画。	
42	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	沈線		沈線	隆線	太さ6-8mmの隆線が弧状に貼付。地文に沈線が充填。	
43	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆線	太さ7-8mmの隆線が2条対で文様帯を区画。	
44	φ1-3mmの小石多量	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線が「J」状に貼付。	
45	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通			沈線	隆線	巾4-5mmの沈線が斜位に施文。太さ5mmの隆線が貼付。	
46	φ1mmの砂粒	2.5YR	明赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ7mmの隆線で縦位区画。その間に太さ2mmの沈線と巾7mmの結節を持つ沈線が施文。	
47	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆線	太さ4mmの沈線で弧を描く。太さ7mmの隆線が弧状に貼付。	
48	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位区画。	
49	φ1mmの砂粒多量	5YR	黒褐色	普通	Lr	左巻	縄文	沈線	巾6mmの平行沈線が縦位に施文。	
50	φ1-3mmの砂粒・軽石・雲母	5YR	赤褐色	良好	Lr	左巻			捻糸。内面黒色。	
51	φ1-2mmの小石・軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良				隆線	交互刺突で連続刺突文。	
52	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線	縦位	爪形	沈線	巾8mm4条の条線。巾8mmの平行線を引きその上に条線を引く。	
53	φ1-3mmの小石・金雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	沈線		沈線	隆線	胴部は太さ3mmの沈線と隆線による縦位区画。胴部と胴部は太さ8mmの隆線で区画。	
54	φ1-3mmの砂粒・軽石・雲母	5YR	灰褐色	普通	条線		沈線	沈線	巾8mmの沈線2条で縦位区画。区画間は条線が矢羽根状に施文。	
55	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	不良	LR	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で文様を描く。	

I区 22号住居土器類審査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
56	φ1-3mmの小石・ 軽石	7.5YR	ぶい褐色	不良	Lr	右巻	熟赤		内面スス付着。	
57	φ1-3mmの砂粒・ 軽石	7.5YR	ぶい褐色	普通		条線	沈線	沈線	太さ4mmの沈線が波状に施文。地文に 太さ2mmの条線が施文。	
58	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	ぶい褐色	普通	LR	横位	縄文		胴下半は無文で縦位の磨き。内面丁寧 な磨き。外面スス付着。	
59	φ1-3mmの小石・ 軽石	10YR	ぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で波状に施文。内面黒 色、スス付着。	
60	φ1mmの砂粒	7.5YR	褐色	普通			縄文		縄文磨成のため不明。胴部下半は磨か れて無文。内面良く磨かれる。	
61	φ1-2mmの小石・ 雲母	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線	隆線	太さ4mmの沈線で波状に施文。胴部 上半は太さ10mmの隆線が弧状に施文。	
62	φ1-2mmの小石・ 軽石	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条で3単位に縦位 区画。	
63	φ1-3mmの小石	2.5YR	ぶい赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ4mmの隆線が2条対で縦位区画。 区画間は太さ2mmの沈線が充填。 縄文原体磨成のため不明。底面ヘラ状 の整形痕あり。	
64	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	ぶい褐色	普通			縄文		太さ8mmの隆線で縦位区画。内面黒色。 太さ2mmの沈線で縦位区画。内面黒色。	
65	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	不良	Lr		熟赤	隆線		
66	φ1-3mmの小石・ 軽石	5YR	明赤褐色	良好	Lr	左巻	熟赤	沈線		
67	φ1-3mmの小石・ 軽石	5YR	ぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		内面黒色、スス付着。底面に磨痕あり。	
68	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	Lr		熟赤		底面スス付着。	
69	φ1-2mmの小石多 量	10YR	ぶい黄褐色	普通			隆線		隆線で双円・渦巻きの文様。	
70	φ1-2mmの砂粒	5YR	褐色	良好	Lr	縦位	熟赤			
71	φ1mmの砂粒	5YR	褐色	普通			無文		沈線。	
72	φ1mmの砂粒	10YR	ぶい黄褐色	普通			無文		沈線。	
73	φ1-2mmの小石・ 繊維	10YR	黒褐色	普通	RL・ LR		縄文		RL・LRの羽状文。土製品。	
74	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	灰褐色	良好			無文		内面スス付着。外面横位の擦痕、ナデ。 器型がややあれている。	
75	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	良好			無文		胴部は縦位の磨き。内外面口縁部に横 位の磨き。	
76	φ1-5mmの小石・ 軽石	2.5YR	ぶい赤褐色	良好			無文		口縁部内外面に塗彩、横位の磨き。沈 線。	
77	φ1-5mmの小石	2.5YR	赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。赤色塗彩。沈線。 内外面横位の磨き。内面黒色。外面赤 色塗彩。沈線。	
78	φ1mm前後の砂粒	7.5YR	ぶい褐色	普通			無文		外面赤色塗彩。沈線。	
79	φ1-2mmの小石多 量・雲母	10YR	明黄褐色	普通			無文		内外面横位の施文。内面黒色。沈線。	
80	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	ぶい褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。赤色塗彩。沈線。 内外面横位の磨き。赤色塗彩。沈線。 内外面横位の磨き。沈線。	
81	φ1-3mmの小石多 量	5YR	明赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。赤色塗彩。沈線。	
82	φ1-3mmの小石	5YR	ぶい赤褐色	良好			無文		内外面に横位の擦痕あり。外面スス付 着。沈線。	
83	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。赤色塗彩。沈線。 内外面横位の磨き。沈線。	
84	φ1mmの砂粒・雲 母	5YR	赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。沈線。	
85	φ1-2mmの砂粒・ 雲母	5YR	明赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。沈線。	
86	φ1mmの砂粒・雲 母	7.5YR	ぶい褐色	不良			無文		沈線。	
87	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。内面黒色。沈線。 内面横位の磨き。沈線。	
88	φ1-2mmの砂粒・ 小石	7.5YR	褐色	普通			無文			
89	φ1-3mmの小石	5YR	ぶい赤褐色	普通			無文		外面ヘラ状工具の縦位の擦痕。スス付 着。	
90	φ1-2mmの砂粒	5YR	明赤褐色	不良	LR	横位	縄文		全体に磨成。内面黒色。	
91	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	普通			無文			



第91図 22号住居址出土遺物-1



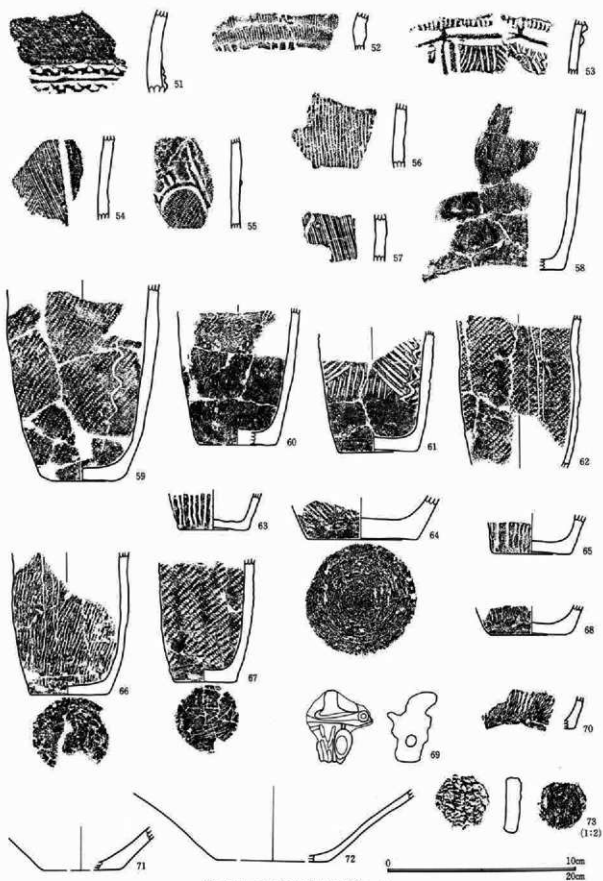
第92図 22号住居址出土遺物-2

第1章 出土遺物の概要

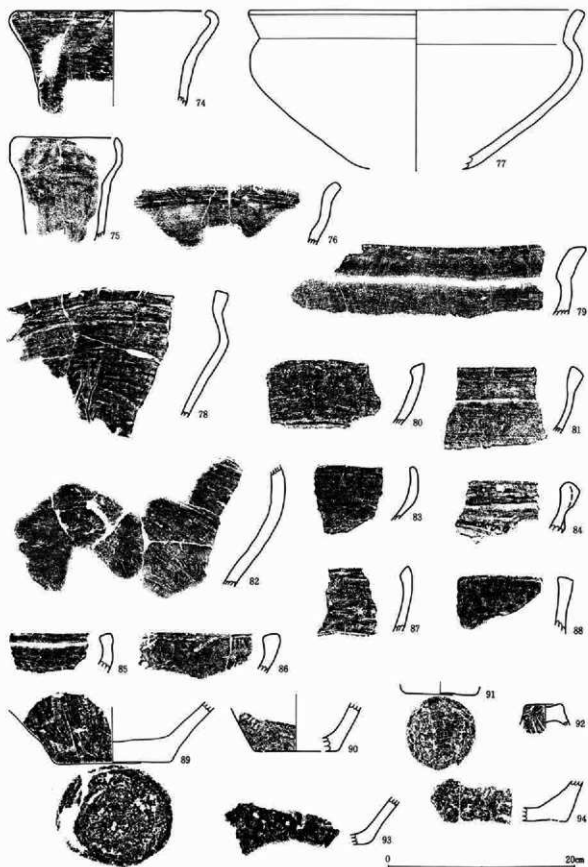


第93图 22号住居址出土遺物-3





第94図 22号住居址出土遺物-4



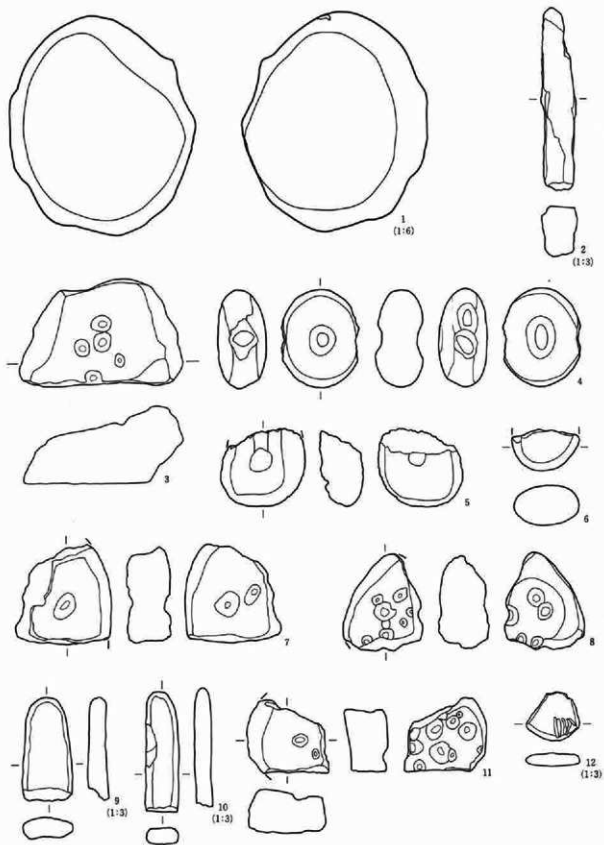
第95図 22号住居址出土遺物-5

I区 22号住居石器観察表

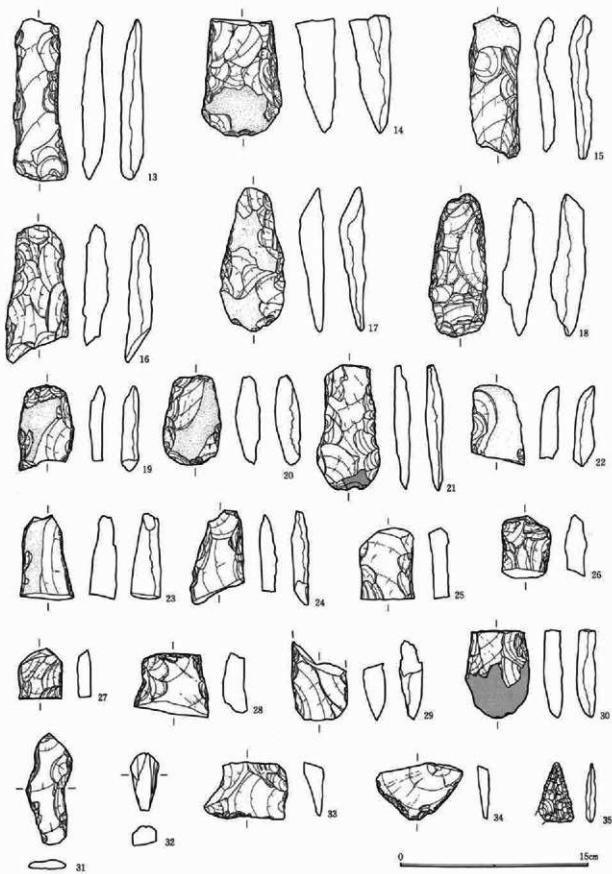
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
92	φ1-2mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良				沈線	太さ3mmの沈線で文様を描く。	
93	φ1-3mmの小石・ 軽石	7.5YR	黒色	普通				無文		
94	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通				縄文	内面ス付着。	

I区 22号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	楕円形	角閃石安山岩	作業面は平坦。	29.5	30		13600	
2	敲石	棒形	粗粒輝石安山岩	縁辺にわずかに敲打痕がある。	14.4	2.8	4	220	
3	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円盤形の凹み。	11.4	17.5	7.5	1900	
4	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面・両側に凹み。縁辺に敲打痕。表面に磨面。磨→凹。	10.4	8.2	5.2	580	
5	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹→磨。	8.2	9.1	4.7	420	欠損
6	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	4.4	7.3	4.2	150	欠損
7	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に凹みを持つ。	10.5	10.5	4.7	600	欠損
8	多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に多数の凹みを持つ。	10.2	8.6	5.4	410	欠損
9	敲石	棒形	雲母石英片岩	両側面に敲打痕。	8.1	4.1	1.6	80	欠損
10	敲石	棒形	黒色頁岩	両側面に敲打痕あり。	9.5	2.8	1.5	70	欠損
11	石皿・多孔	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹みを持つ。表面は石皿の磨面。磨→凹。	7.8	8.8	4.6	340	欠損
12	砥石	不定形	牛伏砂岩	細長い砥面が数ある。	3.9	4.4	1	20	欠損
13	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	12.8	4.2	1.8	130	
14	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。横断面カマゴコ状。	9.4	6.8	3.3	230	基部欠損
15	打製石斧	短斧形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.3	3.8	1.9	80	刃部欠損
16	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.9	4.9	2.1	100	刃部欠損
17	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	11.4	5.2	2.1	110	
18	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.4	4.6	2.7	150	
19	打製石斧	短斧形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	4.4	1.4	50	欠損
20	打製石斧	短斧形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.1	4.6	2	80	基部欠損
21	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	9.9	5	1.4	80	
22	打製石斧	短斧形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.3	4.2	1.6	50	刃部欠損
23	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.7	4.3	2.4	70	刃部欠損
24	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	7.5	4.3	1.4	50	刃部欠損
25	打製石斧	短斧形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	4.3	1.6	60	刃部欠損
26	打製石斧	短斧形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.9	3.9	1.8	40	刃部欠損
27	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4	3.4	1.2	20	刃部欠損
28	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。片面に抉りがはいる。横断面レンズ状。	5.1	6	1.9	80	両端欠損
29	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.3	4.4	1.9	50	基部欠損
30	打製石斧	短斧形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	6.9	5	1.6	70	基部欠損
31	スクレイパー	短長	黒色頁岩	両側面に両面調整の刃部。	8.8	3.7	0.7	30	
32	不明石製品	一	黒色頁岩	動物の爪先状の形をし磨面がある。	4.5	2.1	1.6	20	
33	スクレイパー	短長	黒色頁岩	一側面に両面調整の刃部。	4.5	6.7	1.6	50	
34	スクレイパー	短長	黒色頁岩	三角形の2側面に両面調整の刃部。	4.5	6.9	0.9	20	
35	石鏝	四角無蓋	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.3	1.5	0.4	1	基部欠損



第96図 22号住居址出土遺物-6



第97図 22号住居址出土遺物-7

## 第1章 出土遺物の概要

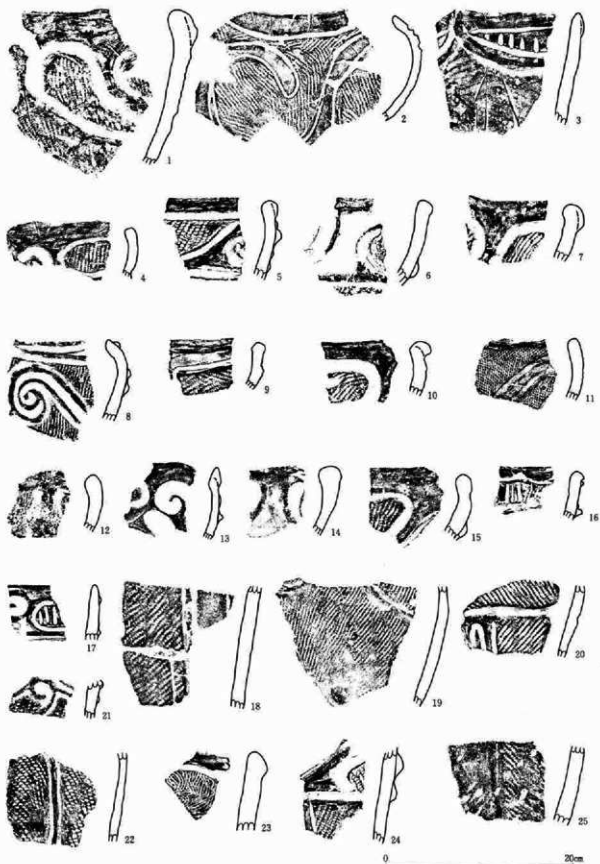
I区 23号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-5mmの小石・ 軽石	7.5YR	ぶい褐色	良好	RL	斜位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線で楕円区画。口縁部の 区画は肥厚する。	
2	φ1-3mmの小石・ 軽石	2.5YR	黒褐色	良好	LR	横・縦	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で弧状・渦巻きをつくる。 沈線間は磨消縄文。内面縦位の磨 き。	
3	φ1-3mmの小石・ 軽石多量	7.5YR	ぶい褐色	普通				沈線	太さ5mmの沈線と太さ15mmの半円状と で区画。区画内は縄文が縦位に充填。 頸部は無文。	
4	φ1-3mmの小石	2.5YR	暗灰黄色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で楕円区画。口縁区画 は肥厚。	
5	φ1-3mmの小石・ 軽石	10YR	ぶい黄褐色	普通	RRL	縦位	縄文	隆・沈	太さ7mmの沈線と太さ7-13mmの隆線 で楕円区画・渦巻きをつくる。	
6	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	ぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつ くる。	
7	φ1-2mmの小石・ 雲母	5YR	ぶい赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの沈線と隆線で文様を区画。 口縁部を肥厚。	
8	φ1-5mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	普通	RI	左巻	磨消	隆線	太さ7mmの隆線を2条対で渦巻き。	
9	φ1-2mmの小石・ 雲母	10YR	ぶい黄褐色	良好	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で楕円区画。	
10	φ1-2mmの小石・ 雲母	7.5YR	ぶい褐色	良好	LR	横・斜	縄文	隆・沈	太さ10mmの沈線と隆線で楕円区画。	
11	φ1-2mmの小石・ 雲母	7.5YR	灰褐色	良好	RI		磨消	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で曲線。	
12	φ1-2mmの小石・ 軽石	7.5YR	ぶい褐色	不良			沈線	隆線	太さ5mmの沈線で半円状区画。太さ 1mmの沈線が充填。	
13	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線	隆線	太さ10mmの沈線で渦巻き。	
14	φ1-3mmの小石・ 軽石	2.5Y	暗灰黄色	普通			隆・沈	隆線	太さ8mmの沈線と太さ6mmの隆線で楕 円区画。口縁部は肥厚。	
15	φ1-3mmの小石・ 軽石	2.5YR	ぶい黄色	不良	RL	縦・斜	縄文	隆・沈	太さ10mmの沈線と隆線で楕円区画。口 縁部は肥厚。	
16	φ1-3mmの小石・ 軽石	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線	隆線	太さ4mmの沈線で口縁部文様を区 画。	
17	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線	隆線	太さ7mmの隆線で楕円区画。区画内は 太さ5mmの沈線が充填。	
18	φ1-2mmの小石多 量	5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位区画。 沈線間は無文。	
19	φ1-5mmの小石・ 軽石	2.5Y	黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が弧状に施文。	
20	φ1-3mmの砂粒	10YR	ぶい黄褐色	普通	RL・ LR	横位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で縦位区画。「∩」状 の文様あり。	
21	φ1-3mmの小石・ 雲母	5Y	オリーブ黒色	不良				隆線	太さ6mmの隆線で渦巻き。縄文原形不 明。	
22	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	良好	LR	縦位	縄文	隆線	太さ5mmの隆線が縦位に施文。	
23	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線	沈線	巾3mmの平行沈線。太さ6mmの沈線で 楕円区画。区画内は渦巻き状に沈線が 充填。	
24	φ1-3mmの小石・ パミス	7.5YR	灰褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部は太さ10mmの沈線と隆線で楕円 区画。胴部は沈線が縦位に施文。	
25	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	ぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの低い隆線で縦位区画。隆線 間は無文。	
26	φ1-3mmの小石	5YR	ぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で縦位区画・弧線。区 画内は磨消縄文。	
27	φ1-5mmの小石多 量	7.5YR	灰褐色	良好			沈線	沈線	太さ4mmの沈線。	
28	φ1-5mmの小石	2.5YR	暗灰黄色	普通			沈線	沈線	巾4mmの平行沈線。沈線が縦位に施文。	
29	φ1-2mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で文様をつくる。	
30	φ1mmの砂粒	7.5YR	ぶい褐色	良好			条線	沈線	全面に3mm間隔の条線が施文。	
31	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	良好			沈線	隆線	太さ3mmの沈線で弧状・渦巻き文様。	
32	φ1-5mmの小石・ 軽石	10YR	ぶい黄褐色	良好			沈線	隆線	太さ5mmの沈線。削みを持つ太さ10- 12mmの隆線が「T」状に貼付。貼付後 沈線を縦位に施文。	
33	φ1-3mmの小石・ 軽石	7.5YR	ぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。	

I区 23号住居土器観察表

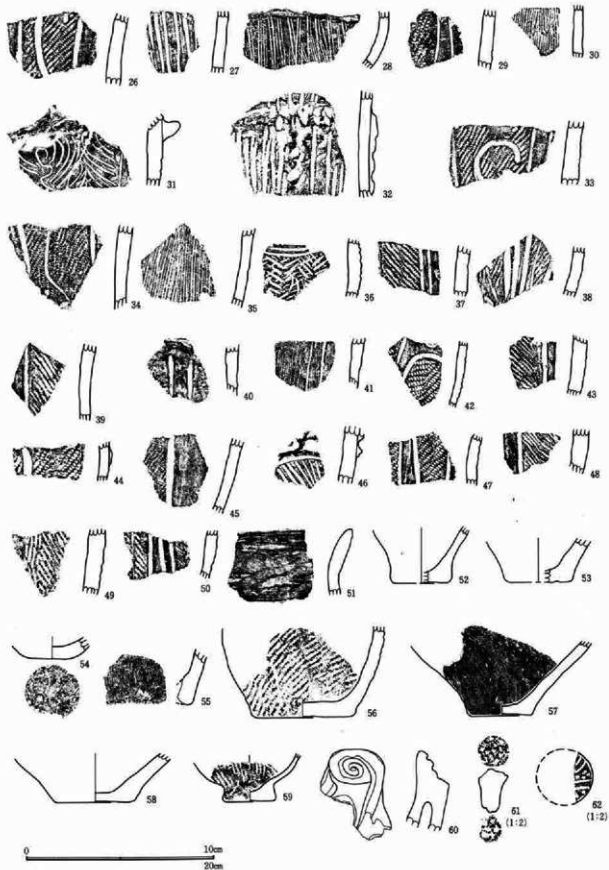
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
34	φ1-5mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい橙色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で文様を縦位区画。区画内は曲線が施文。沈線間は磨消縄文。3mm間隔の条線。	
35	φ1-5mmの小石・軽石・雲母	5Y	オリーブ黒色	良好	条線		沈線			
36	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい橙色	普通			縄文	沈線	太さ3mmの沈線が扇状に貼付。縄文原体不明。	
37	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が3条で縦位の区画。区画内は無文。	
38	φ1mmの砂粒	2.5YR	黄褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で縦位に施文。内面スス付き。	
39	φ1-5mmの小石・軽石	7.5YR	黒褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で縦位の区画をつくる。	
40	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰褐色	良好			沈線		太さ6mmの沈線が2条縦位に施文。	
41	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線				太さ6mmの沈線と太さ2mmの沈線が縦位に施文。	
42	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦・斜	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で文様帯を区画。沈線間は無文。	
43	φ1mmの砂粒・軽石	10YR	暗褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条縦位に施文。	
44	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が弧状に文様帯をつくる。	
45	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ9mmの沈線で縦位区画。	
46	φ1mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆線	太さ6mmの隆線と太さ4mmの沈線で口縁部文様帯を区画。文様体内は沈線が光積。	
47	φ1-2mmの砂粒・軽石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条で縦位区画。沈線間は磨消縄文。	
48	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条で縦位区画。沈線間は無文。	
49	φ1-2mmの小石・軽石	7.5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ4mmの沈線と太さ10mmの隆線で縦位区画。	
50	φ1-2mmの砂粒・軽石	7.5YR	明褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が3条で縦位区画。沈線間は磨消縄文。	
51	φ1-2mmの小石・軽石・雲母	10YR	灰黄褐色	普通			無文		内外面とも横位に擦痕。	
52	φ1-5mmの小石	10YR	明黄褐色	不良			無文		内面黒色。底面スス付き。	
53	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	にぶい赤褐色	不良			無文		内面黒色。	
54	φ1-5mmの小石・軽石	7.5YR	明褐色	普通			無文		内面黒色。	
55	φ1mmの砂粒	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		外面スス付き。	
56	φ1mmの砂粒	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		外面スス付き。	
57	φ1-5mmの小石・軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文			
58	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		内面黒色。	
59	φ1-3mmの小石・軽石	10YR	灰黄褐色	良好	RL	斜位	縄文		内面に擦痕。	
60	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線		太さ8mmの沈線の渦巻き。口縁部突起。	
61	φ1mmの砂粒	10YR	灰黄褐色	良好					φ2mmの刺突が加えられる。耳飾り。	
62	φ1mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好					φ1mmの刺突・弧線が加えられる。耳飾り。	

第1章 出土遺物の概要



第98図 23号住居址出土遺物-1



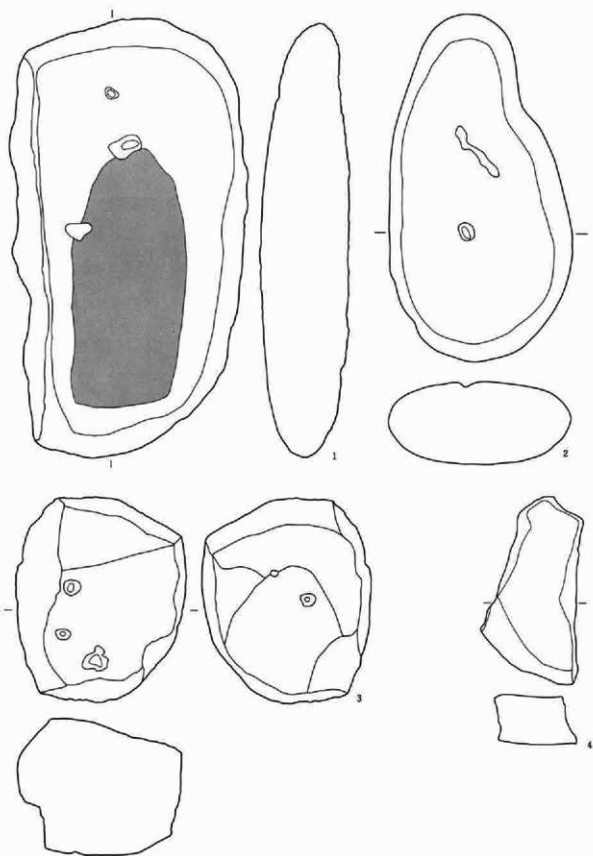


第99図 23号住居址出土遺物-2

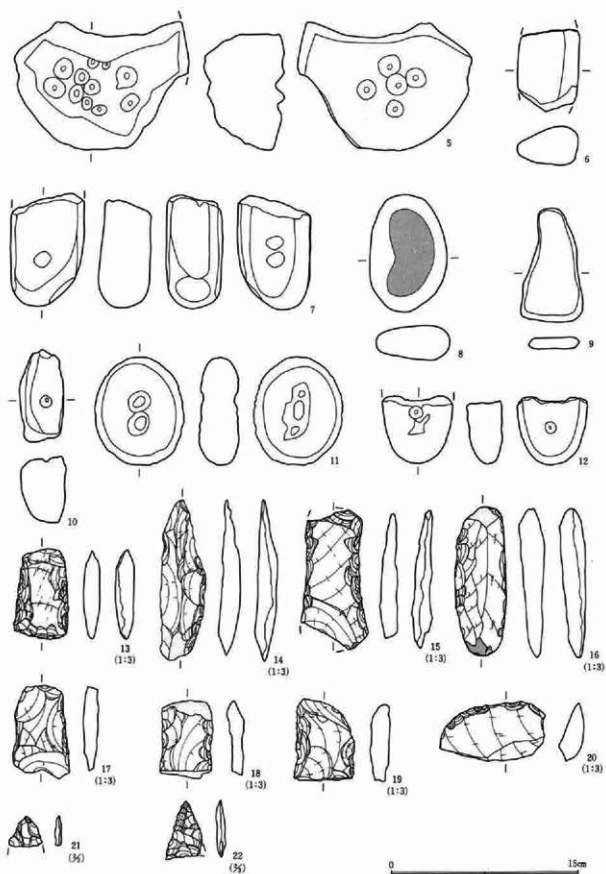
## 第1章 出土遺物の概要

I区 23号住居石器器種一覧表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	白石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦な磨面で円錐形の凹み。	46.4	25.6	9.6	15500	
2	白石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で円錐形の凹みと敲打痕。	36.6	19.6	8.8	8900	
3	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	21.8	18.2	14.2	6900	
4	石皿	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面はわずかに凹む。	19.8	11.2	5.3	1450	欠損
5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。円錐形の凹みを多数つくる。磨一凹。	13.6	18.7	8.6	2040	
6	磨石	長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	8.7	6.8	4.2	400	
7	磨・凹石	長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏・両側に磨面。凹→磨。	12	7.9	5.6	920	欠損
8	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	12.5	8.4	3.7	600	
9	砥石	楕形	砂岩	表面が平坦な磨面。	12.1	6.7	1.2	140	
10	石皿・多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面が凹面。表面に円錐形の凹み。	9.7	4.7	7	430	欠損
11	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏面に凹みと磨面。側辺部に敲打痕。磨一凹。	11.4	9.6	4.4	650	
12	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。側辺部に敲打痕。磨一凹。	7.1	7.6	3.9	280	欠損
13	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	4.3	1.5	60	
14	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	12.7	3.6	1.8	70	刃部欠損
15	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.1	5.6	1.6	100	刃部欠損
16	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	11.8	4.2	2.1	110	
17	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	片面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7.3	4.6	0.7	50	刃部欠損
18	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.3	1.5	50	刃部欠損
19	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	4.8	0.8	60	刃部欠損
20	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	両面調整。一側辺に刃部。	4.7	8.5	2	80	
21	石鏃	一	黒曜石	側辺に押圧刻線。横断面レンズ状。	1.3	1.4	0.3	0.3	
22	石鏃	平基無茎鏃	黒曜石	側辺に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.3	1.5	0.3	0.7	



第100図 23号住居址出土遺物-3



第101図 23号住居址出土遺物-4

I区 24号住居土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施工 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1~3mmの小石・ 軽石	5YR	明赤褐色	普通	RL・ LR	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で文様を区画。沈線間 は磨削縄文。内面スス付着。	
2	φ1~3mmの小石・ 軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR		縄文	沈線	太さ4mmの沈線で文様を施文。磨減多 い。内面スス付着。	
3	φ1mmの砂粒	2.5YR	明赤褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で椀口区画。	
4	φ1~5mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	横位	縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線で椀口区画・渦巻きを つくる。胴部は太さ8mmの沈線が2条 で縦位区画。沈線間は磨削縄文。	
5	φ1mmの砂粒・雲 母	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ6mmの沈線と太さ8~10mmの隆線 で文様を施文。	
6	φ1mmの砂粒・雲 母	7.5YR	褐色	普通	RLR	縦位	縄文	隆・沈	太さ8~10mmの沈線と太さ8~10mmの 隆線で椀口区画。	
7	φ1mm以下の細かい 砂粒	2.5Y	淡黄色	良好				隆線	太さ8mmの隆線で文様を区画。	
8	φ1~3mmの小石・ 雲母多量	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	太さ5mmの沈線で縦位区画。	
9	φ1mm以下の小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RI		縄文	沈線	太さ2mmの沈線で長椀口区画。区画内 は無文。口縁部は太さ6mmの沈線が廻 る。内面スス付着。楕状把手。	
10	φ1~3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線で文様を区画。区画内 は縄文を施文。	
11	φ1~3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線を縦位に廻す。隆線以 下を縄文が施文。	
12	φ1~3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL		縄文	沈線	太さ2mmの沈線が口縁部に波状に施 文。楕状把手。	
13	φ1~3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ12mmの沈線が口縁部に廻る。沈線 部以下を縄文が施文。	
14	φ1mm以下の細かい 砂粒	5YR	明赤褐色	普通	LRL	縦位	縄文	沈線	太さ12mmと2mmの沈線が2条口縁部に 廻る。沈線間は隆起し隆線状になる。 口頸部は縄文を施文。	
15	φ1~3mmの小石多 量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で口縁・胴部を椀口区 画・渦巻きをつくる。区画内を縄文が 充填。	
16	φ1~2mmの小石・ 雲母	5YR	褐色	普通	沈線		沈線	沈線	太さ6mmの沈線で胴部を縦位区画。地 文は巾3mmの平行沈線が条線状に施 文。	
17	φ1~3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	縄文	縄文	縄文を縦位に施文し胴部を縦位に区 画。	
18	φ1~3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	縦位	縄文	沈線	巾2mmの沈線で胴部に文様帯を区画。	
19	φ1~5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良				沈線	太さ1~2mmの沈線が2~3mm間隔で 条線状に施文。	
20	φ1~3mmの砂粒・ 雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	沈線		隆線	隆線	太さ10mmの隆線で文様帯を区画。区画 内は太さ4mmの沈線が矢羽根状に充 填。	
21	φ1~2mmの小石・ 雲母・砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	条線		沈線	沈線	巾12mmに6本の条線が流水状に施文。	
22	φ1~3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LRL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で巾12mmで胴 部を縦位区画。区画内は縄文を施文。 沈線間は無文。	
23	φ1~2mmの砂粒・ 雲母	2.5YR	赤褐色	普通	沈線		隆線	隆線	太さ2mmの沈線による条線。太さ5mm の隆線が3条で縦位に施文。条線は 「ハ」字状に施文。	
24	φ1~3mmの小石・ 雲母	5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線で椀口区画。区画内を 縄文が充填。	
25	φ1~2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR		縄文	沈線	太さ2~3mmの沈線で文様を区画。区 画内は縄文が施文。内面黒色。	
26	φ1~2mmの砂粒・ 雲母	5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が3条対で巾4mmほど の無文の縦位区画。区画内は縄文を施 文。	
27	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	2.5YR	褐色	普通				無文	底面ヘラによる調整。	
28	φ1~5mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	普通				無文	外面ヘラによるナデ度。	

## 第1章 出土遺物の概要

I区 24号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
29	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通			無文		外面ヘラによるナメ痕。	
30	φ1-2mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内外面ヘラによるナメ痕。	
31	φ1-2mmの砂粒・雲母	2.5YR	明赤褐色	良好	RL		縄文		底面ヘラによるナメ痕。	
32	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい褐色	良好			無文		内外面ヘラによるナメ痕。	
33	φ1-2mmの砂粒・小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		ヘラによるナメ痕。	
34	細かい砂粒	7.5YR	明褐色	普通					土製円盤。	

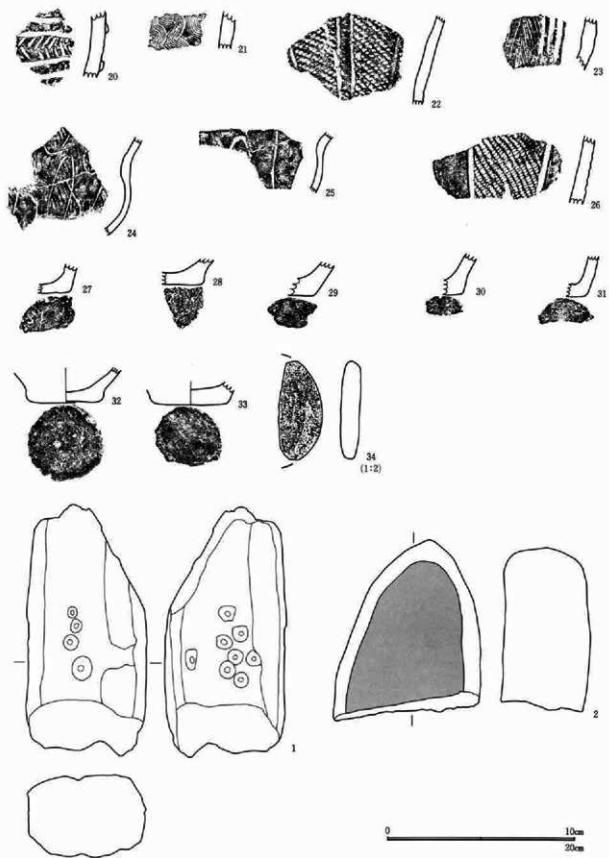
I区 24号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石棒	円錐形	緑色片岩	石棒に円錐形の凹み。	26.6	13	8.6	4950	両端欠損
2	合石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	19.4	15.8	9.4	4400	欠損
3	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	16.6	17.8	7	2500	
4	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	10.4	8.2	3.5	410	
5	磨石	乳棒形	粗粒輝石安山岩	表裏・両側・下面に磨面。敲打による割傷。	6.7	5.5	4.4	230	欠損
6	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏側面に磨面で稜を持つ。凹一磨。	6	6.7	4.4	280	
7	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏側面に磨面で稜を持つ。凹一磨。	11.4	7.1	4.2	490	
8	打製石斧	短斧形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11	5.5	2.5	140	刃部欠損
9	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.2	4.8	1.8	90	刃部欠損
10	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。刃部丸ノミ状。横断面カマボコ状。	15.2	6.1	3.8	410	
11	打製石斧	短斧形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	4.4	1.4	40	基部欠損
12	打製石斧	短斧形	緑質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.1	4.4	1.2	30	基部欠損
13	打製石斧	短斧形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.4	4.7	1.7	50	基部欠損
14	ステレノール	縦長	細粒輝石安山岩	両面調整。	5.5	3.6	1.2	30	
15	石鏝	凹基無茎鏝	黒曜石	側面に押圧割傷。横断面レンズ状。	2	1.5	0.3	0.7	
16	石鏝	凹基無茎鏝	黒曜石	側面に押圧割傷。横断面レンズ状。	1.8	1.2	0.2	0.5	
17	石鏝	凹基無茎鏝	黒曜石	側面に押圧割傷。横断面カマボコ状。	1.9	1.7	0.2	0.7	



第102図 24号住居址出土遺物-1

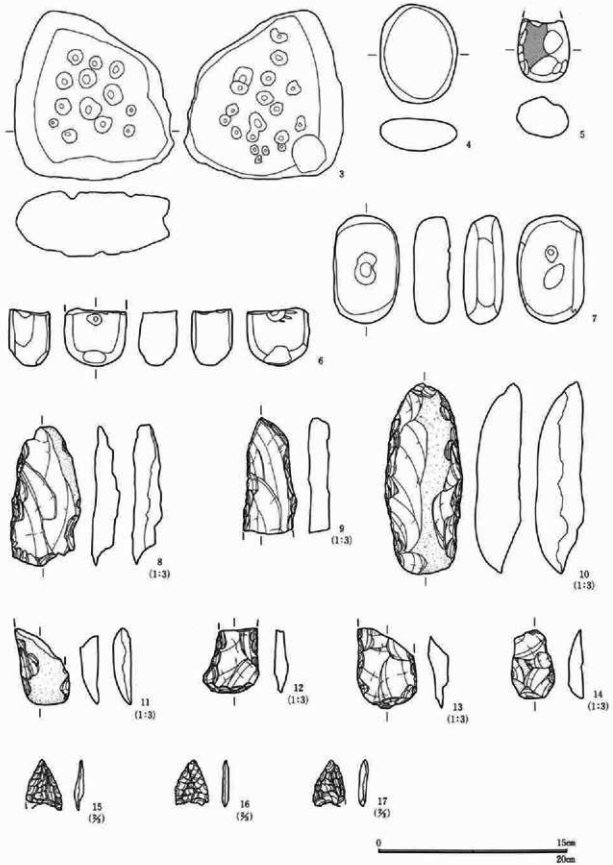
第1章 出土遺物の概要



第103図 24号住居址出土遺物-2



第1節 I地区の出土遺物

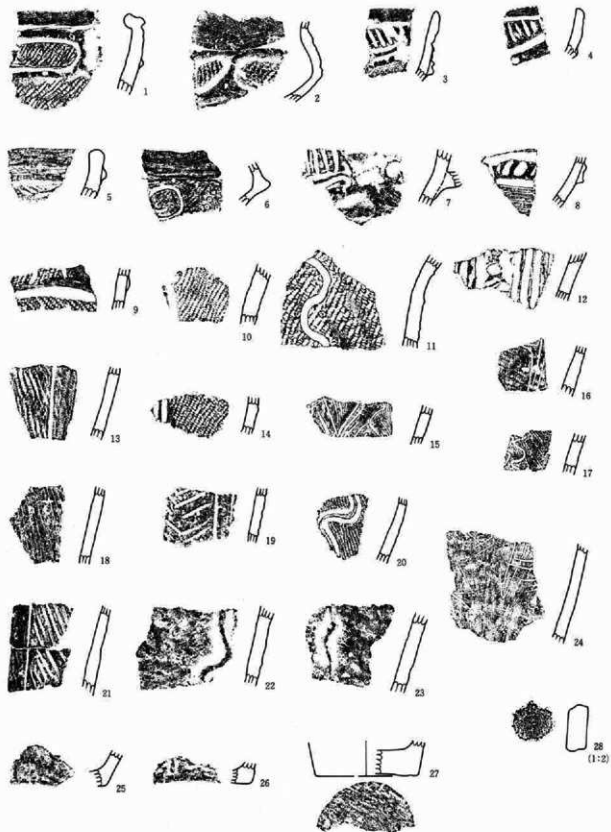


第104図 24号住居址出土遺物-3

## 第1章 出土遺物の概要

I区 25号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・雲母・軽石	7.5YR	ぶい橙色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が口縁部文様帯を横円区画。区画内は縄文が充填。横円区画内側は太さ5mmの沈線が廻る。	
2	φ1-2mmの小石・雲母	10YR	灰黄褐色	良好	LR		縄文	沈線	太さ7mmの沈線が横円区画。沈線の外側は隆起する。	
3	φ1-3mmの小石・軽石・雲母	10YR	灰黄褐色	不良			沈線	隆線	太さ12mmの隆線が2重で半円区画。太さ4mmの沈線が充填。	
4	φ1-2mmの小石	2.5YR	ぶい赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ6mmの沈線が横円区画。区画内は沈線が充填。内面良く磨かれる。	
5	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰褐色	良好	RL-LR		縄文	隆線	太さ10mmの隆線が口縁に廻る。頸部に縄文が施文。	
6	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	褐灰色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が渦巻き文。φ6mmの円形竹管による刺突。内面黒色。	
7	φ1-3mmの砂粒	5YR	ぶい赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ5mmの沈線が横円区画。渦巻き文をつくる。区画内は隆線に沈線が施文。頸部に太い隆線が貼付。	
8	φ1-2mmの砂粒・軽石	10YR	灰黄褐色	普通		条線	沈線	隆線	1-2mm間隔の条線。太さ18mmの刻みを持つ隆線が廻り条線が施文。	
9	φ1-5mmの小石・軽石	10YR	ぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が文様区画。	
10	φ1-3mmの小石・軽石・雲母	10YR	灰黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が縦位に施文。	
11	φ1-6mmの小石・雲母・軽石	10YR	灰黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が曲線になり垂下。	
12	φ1-2mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	普通			沈線	隆線	太さ7mmの沈線が縦位に施文。太さ2mmの刻みを持つ隆線が縦位に貼付。	
13	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	ぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2重で垂下した縦位区画。区画内は無文。内面スス付着。	
14	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	ぶい赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2重で縦位区画。	
15	φ1mmの砂粒	7.5YR	ぶい褐色	普通			沈線	隆線	太さ3mmの沈線が「ハ」の字状に施文。	
16	φ1-2mmの細かい砂粒・雲母	7.5YR	ぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が文様を区画。	
17	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	ぶい赤褐色	普通	RI	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が波状に垂下。	
18	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	明褐色	不良		沈線	沈線	隆線	沈線が条線状に施文。	
19	φ1-5mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	不良		沈線	沈線	隆線	太さ4mmの沈線が縦位区画。縦線状の施文。	
20	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	ぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条波状に垂下。	
21	φ1-2mmの小石	2.5YR	暗灰黄色	普通		沈線	沈線	隆線	太さ4mmの沈線が縦位区画。斜位の沈線が垂下。内面スス付着。	
22	φ1-3mmの小石・雲母・石英	5YR	ぶい褐色	普通		条線	沈線	隆線	巾5mm4本の条線。条線が波状に施文。太さ7mmの隆線が波状に垂下。	
23	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	ぶい赤褐色	普通		条線	沈線	隆線	巾5mm4本の条線。条線が波状に施文。太さ7mmの隆線が波状に垂下。内面スス付着。	
24	φ1-3mmの砂粒・軽石	7.5YR	ぶい褐色	普通		沈線	沈線	隆線	太さ2mmの沈線が乱雑に施文。内面スス付着。	
25	φ1mm以下の細かい砂粒・雲母	2.5YR	ぶい赤褐色	良好			無文		内外面良く磨かれる。	
26	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通			隆線		太さ4mmの隆線が貼付。	
27	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	ぶい赤褐色	良好			無文		内外面横位に磨き。底面網代。	
28	φ1mm以下の砂粒	10YR	ぶい黄褐色	良好			無文		土製円蓋。	



第105図 25号住居址出土遺物-1

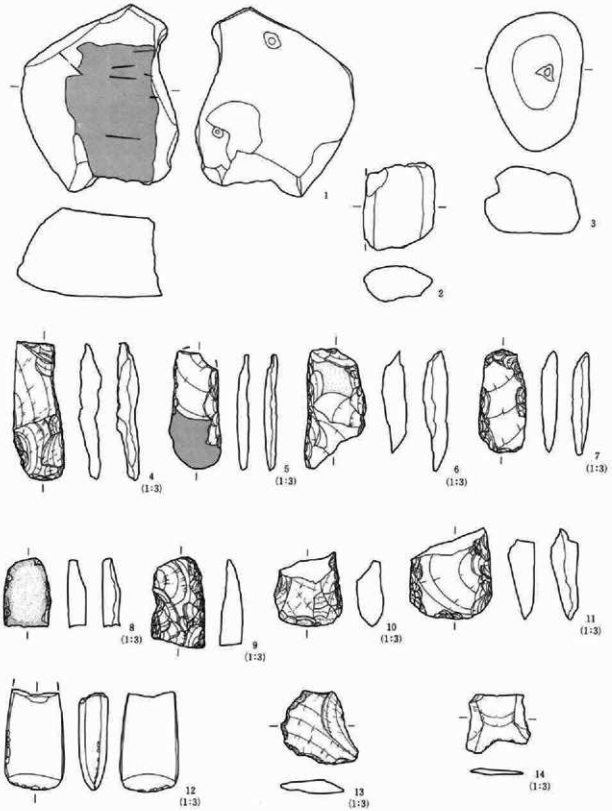
## 第1章 出土遺物の概要

I区 25号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿	—	粗粒輝石安山岩	作業面ほぼ平坦。裏面は円錐形の凹み。	20	17.1	9.3	3760	欠損
2	磨製石斧	定角式	緑色片岩	刃部はこぼれ。	9.3	7.7	4.9	380	基・刃部欠損
3	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏の平坦面に磨面と敲打痕。	14.7	10.3	7	1460	
4	打製石斧	短棒形	粗質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	11	4	1.8	90	
5	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	9.3	4.2	1	50	基部欠損
6	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.5	4.7	2	90	刃部欠損
7	打製石斧	短棒形	安山玄武岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.2	3.9	1.4	60	
8	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.1	3.8	1.4	40	刃部欠損
9	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.2	4.3	2.1	70	刃部欠損
10	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	5.4	2.3	80	基部欠損
11	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	6.6	2.2	120	基部欠損
12	磨製石斧	—	安輝緑岩	刃部はこぼれ。刃部両刃。	7.9	4.7	2.3	150	基部欠損
13	スクレイパー	横長	粗質頁岩	片面調整。一側面に刃部。	5.8	6.2	1.2	40	
14	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側面に使用痕のはこぼれ。	4.7	5.1	0.5	10	

I区 26号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	赤褐色	普通					3単位の横状把手に沈線による渦巻きと爪形文が施文。胴部にも横状把手が付けられていたが欠損している。内外面スス付着。香尹形土器。	
2	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部は太い隆線で渦巻きと楕円区画をつくる。頸部に太さ4mmの沈線で縦位の区画。胴部は沈線が縦位に区画。内面スス付着。	
3	細かい砂粒・雲母	7.5YR	明褐色	普通	RL	斜位	縄文		縄文施文。内外面スス付着。	
4	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	斜位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位の区画と曲線を描く。内外面スス付着。	
5	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ6-15mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。頸部は無文。	
6	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ3-5mmの隆線で文様帯を区画。頸部は無文。口縁部は横位。胴部は縦位方向。	
7	φ1mm前後の砂粒・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ10-20mmの隆線で渦巻き文。	
8	φ1mmの雲母多量	7.5YR	にぶい褐色	良好				隆線	太さ12mmの隆線で文様帯をつくる。外面スス付着。	
9		7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で口縁部に楕円区画。	
10	φ1-3mmの小石・軽石	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で口縁部に文様帯をつくる。	
11	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい褐色	良好				沈線	太さ7mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。頸部は無文。内面丁寧な磨き。	
12	φ1-2mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通				沈線	太さ5mmの隆線で口縁部文様帯をつくる。文様帯内は沈線が充満。	
13		5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で楕円区画。施文に縄文。	
14	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ4mmの隆線で口縁部文様帯をつくる。胴部は太さ3mmの沈線が縦位区画。	
15	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	RI	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が口縁部に施る。	



第106図 25号住居址出土遺物-2

## 第1章 出土遺物の概要

## I区 26号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
16	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。頸部は無文。	
17	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	にぶい赤褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で半円状区画・渦巻きをつくる。頸部は無文。	
18	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で楕円区画。区画内は無文が施文。	
19	φ1-2mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。	
20	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で口縁部文様帯を楕円区画。	
21	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で頸部と胴部を縦位に区画。頸部は無文。渦巻き。	
22	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ8-10mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。頸部は無文。渦巻き。	
23	φ1-3mmの小石・石英	10YR	にぶい黄褐色	良好	条線		沈線		巾6mm4条の条線が波状に施文。	
24	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	Lr		沈線		太さ5mmの沈線が横位に廻る。	
25	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	にぶい橙褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で文様を施文。	
26	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好			沈線		巾5mmの平行沈線が縦位に施文。同じ原形で押し引きの爪形文を施文。	
27	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい橙褐色	普通			沈線	隆線	太さ10mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ5mmの沈線が充填。	
28	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	黒褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ10mmの折みを持つ隆線が縦位に廻る。太さ7mmの隆線が胴部に縦位に施文。	
29	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で楕円区画。区画内に縄文を施文。	
30	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が縦位区画し施文。	
31	φ1-3mmの小石多量	10YR	灰黄褐色	普通	Lr		沈線		太さ5mmの沈線を2条弧状に施文。	
32	φ1-2mmの砂粒・雲母多量	10YR	灰黄褐色	普通	RI		沈線	隆線	太さ6-7mmの隆線が縦位に施文。	
33	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	灰褐色	普通	RI		沈線		太さ6mmの沈線が弧状に引かれる。	
34	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい橙褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で半円状に区画。頸部は太さ16mmの隆線で区画。頸部は無文。渦巻き。	
35	φ1mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条で垂下し縦位区画。沈線間は無文。区画内は縄文を施文。	
36	φ1-5mmの小石	7.5YR	明黄褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ5mmの隆線が2条垂下し縦位区画。隆線で曲線。RLを縦位、横位に施文し羽状をつくる。	
37	φ1-3mmの小石・砂粒	7.5YR	橙褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線が2条垂下し縦位に文様を区画。	
38	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ5mmの隆線が2条対で垂下。RLを横位、縦位に施文し羽状をつくる。	40と同一
39	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	縦・横	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が2条対で垂下。RLを横位、縦位に施文し羽状をつくる。	39と同一
40	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ3mmの沈線が対で垂下。内面横位の磨き。	
41	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	黒褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が対で垂下。内面横位の磨き。	
42	φ1-3mmの小石・軽石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ5-8mmの隆線で縦位区画。	
43	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。洗鉢。	
44	φ1-2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。内面に黒底。洗鉢。	
45	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。外面に黒色塗彩。洗鉢。	
46	φ1-2mmの小石	5YR	赤褐色	良好			無文		表面に赤色塗彩。洗鉢。	

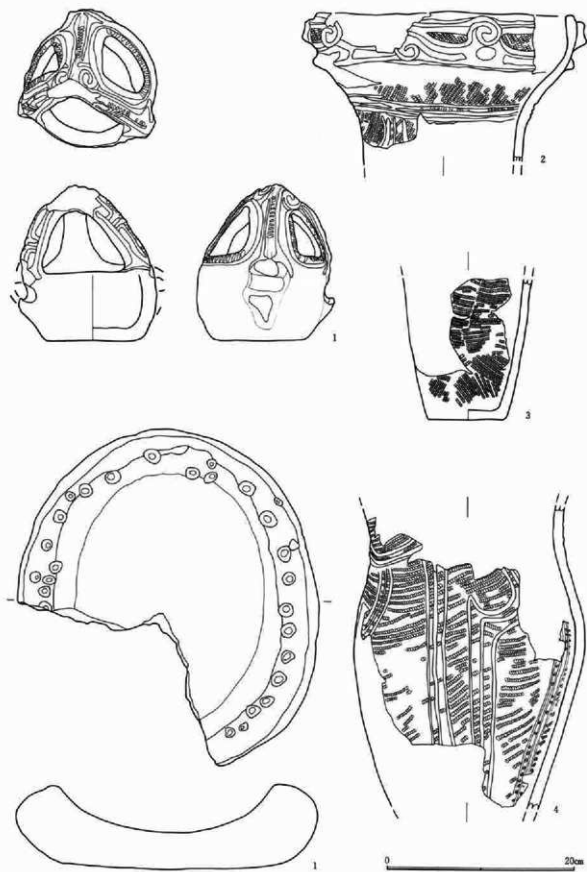
## 第1節 I地区の出土遺物

I区 26号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 底文	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
47	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	内面良く磨かれる。	
48	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	3mmの沈線を3条対で縦位区画。	
49	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ5mmの隆線が2条対で垂下。	
50	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		内面黒色。	
51	φ1mm以下の細かい砂粒	5YR	赤褐色	良好			無文		内外面良く磨かれる。内面黒色。浅鉢。	
52	φ1-2mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文		まばらに縄文が施文されている。	
53	φ1-2mmの小石	5YR	赤褐色	普通	RI		野糸		内面黒色。スス付き。	
54	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き。浅鉢。	

I区 26号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。縁辺に円錐形の凹み。	35.4	32	8.9	9600	欠損
2	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は表裏が凹面。	18.8	16.5	6.3	2200	欠損
3	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。欠損後凹石に転用。	9.4	11.9	8	1000	欠損
4	石皿・多孔	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は浅い凹面。裏面は円錐形の凹み。	15	10.8	8.2	1500	
5	磨石	乳棒形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面。	7.6	6.2	4.5	440	
6	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	11	7.9	4.7	610	
7	石皿	—	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。	7.2	10.3	5.7	530	欠損
8	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	10.4	8.2	5.3	690	
9	砥石	隅丸方形	牛伏砂岩	砥面は平皿で一部に細長い溝状の砥面がある。	9.7	8	1.2	100	
10	磨製石斧	定角式	雲立武岩	刃部は両刃。	6.7	3.1	1.2	50	
11	打製石斧	短冊形	埴質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.6	3.7	1.6	80	
12	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.5	5	1.9	90	
13	打製石斧	撥形	埴質頁岩	両面調整。両側に抉りが入る。横断面レンズ状。	8.1	4.2	1.2	60	
14	ステレィバー	縦長	硬質泥岩	一側面に片面調整。	7.6	5	1.4	40	
15	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	3.8	2	60	刃部欠損
16	ステレィバー	縦長	埴質凝灰岩	両側面に両面調整の刃部。	4.7	4	0.9	30	下半部欠損
17	ステレィバー	縦長	黒色頁岩	一側面に片面調整。	4	3.4	0.9	20	



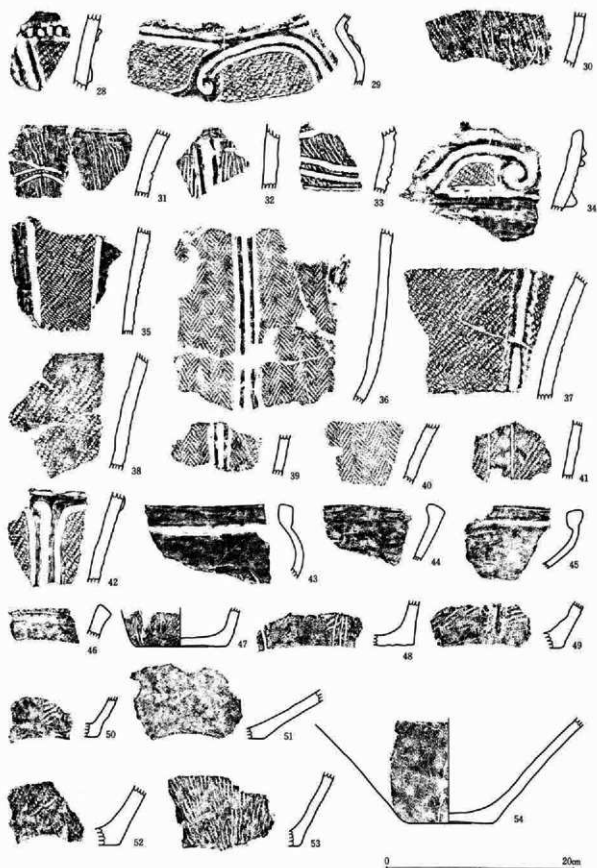
第107図 26号住居址出土遺物-1





第108図 26号住居址出土遺物-2

第1章 出土遺物の概要



第109図 26号住居址出土遺物-3



第110図 26号住居址出土遺物-4

## 第1章 出土遺物の概要

I区 27号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 主体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの小石・石英・織線	5YR	ぶい赤褐色	普通	RL	縦位	織線		縄文を横位に施文。内面良く磨かれている。	
2	φ1-3mmの小石・軽石・織線	7.5YR	ぶい橙褐色	普通	RL	縦位	織線		器面が荒れている。	
3	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	良好			竹管 浮線文		波状口縁。縦8mm、横12mmの粘土面を貼付。太さ4mmの浮線で渦巻き文。	
4	φ1-2mmの砂粒	10YR	ぶい黄褐色	良好			竹管 浮線文		波状口縁に散面状の突起が付く。太さ4mmの浮線で弧状の入り組み文。内面横位の磨き。	
5	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい橙褐色	良好			竹管 浮線文		太さ4mmの浮線文に刺突が加えられ弧状、平行に施文。	
6	φ1-2mmの小石・石英	7.5YR	ぶい橙褐色	良好			竹管 浮線文		波状口縁。φ12mmの粘土面を貼付。浮線に形みを増す。	
7	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰褐色	良好			竹管 浮線文		太さ4mmの浮線で弧状・渦巻きの施文。浮線に刺突が加えられる。	
8	φ1-2mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	普通			竹管 浮線文		巾5mmの平行浮線が弧状に施文。	
9	φ1-2mmの小石	5YR	ぶい橙褐色	普通	RL	縦位	竹管 浮線文		太さ3mmの浮線で横位の施文。	
10	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	ぶい灰黄褐色	良好	RL	縦位	竹管 浮線文		太さ4mmの浮線で横位・弧状の施文。内面横位の磨き。	
11	φ1-2mmの小石	2.5YR	ぶい赤褐色	良好	RL	縦位	竹管 浮線文		太さ4mmの浮線で横位に施文。	
12	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	ぶい橙褐色	良好	RL	縦位	竹管 浮線文		横位に施文。	
13	φ1-3mmの金雲母多量	7.5YR	ぶい褐色	普通			爪形		太さ7mmの隆線で楕円区画。巾7mmの連続する爪形文。	
14	φ1-3mmの小石・金雲母	5YR	ぶい赤褐色	普通			爪形		太さ10mmの隆線で三角区画。隆線に沿ってキタビラ文が施文。	
15	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	ぶい褐色	普通			沈線	隆線	太さ6mmの隆線で文様区画。太さ3mmの沈線が充満。	
16	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	ぶい赤褐色	良好			隆線		太さ7mmの隆線で楕円区画。	
17	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	ぶい褐色	良好			爪形		太さ7mmの隆線が垂下し弧状に貼付。太さ2mmの沈線がそれに沿う。隆線と器面に爪形文が施文。口縁を肥厚させる。それによって結節の沈線が施文。	
18	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	ぶい橙褐色	良好			爪形		太さ7mmの隆線が「Y」字状に貼付し楕円区画。区画内は巾6mmの平行沈線が充満。	
19	φ1-2mmの金雲母	7.5YR	黒褐色	良好			爪形		太さ7mmの隆線が「Y」字状に貼付し楕円区画。区画内は巾6mmの平行沈線が充満。	
20	φ1-2mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	良好	RL		竹管 隆線		太さ4mmの隆線を横位に施文した後円形刺突を加える。胴部は斜行沈線。	
21	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	ぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文 沈線		太さ5mmの沈線2条が口縁にそって走る。	
22	φ1-3mmの小石・金雲母	7.5YR	灰褐色	良好			爪形		太さ8mmの隆線で三角区画。結節沈線が2条隆線で隆線にそって施文。	
23	φ1-3mmの小石・金雲母多量	7.5YR	灰褐色	良好	RL	縦位	縄文		縄文を施文。	
24	φ1-2mmの小石	10YR	灰黄褐色	良好	RL	縦位	縄文 沈線		口縁部は肥厚する。太さ6mmの沈線が口縁から垂下。	
25	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	良好			竹管 浮線文		太さ4mmの浮線で平行弧状に施文。	
26	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄褐色	普通	RL	斜位	縄文 沈線		太さ5mmの沈線2条が横位に施文。	
27	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	普通			沈線	隆線	太さ15mmの隆線で弧状に文様区画。隆線にそって太さ6mmの沈線を施文し渦巻き文をつくる。弧状区画内は太さ4mmの沈線が充満。胴部は隆線が垂下し沈線を施文。外面スス付着。	
28	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰褐色	良好			沈線		太さ3mmの沈線が口縁に沿って波状に施文。口縁部突起。	
29	φ1-3mmの小石・金雲母	10YR	ぶい黄褐色	良好			爪形		底面近くにはペン先状の爪形文が横位に施文。	
30	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	不良	RL		縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条で縦位区画。	
31	φ1mmの砂粒	7.5YR	褐色	良好			無文		高台形の底部になる。	
32	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰褐色	良好			無文		内外面磨き。浅鉢。	

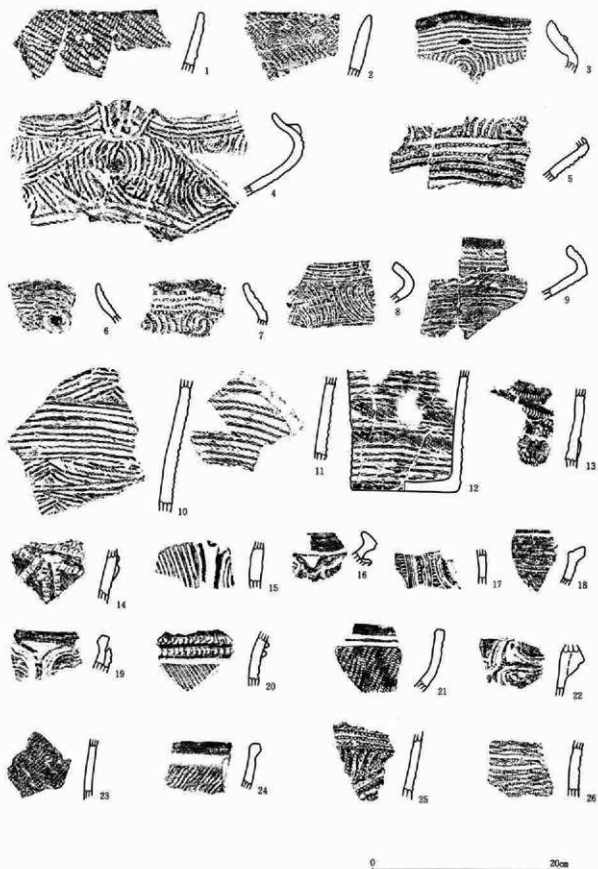
I区 27号住居土器観覧表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	支線 分類	文様の特徴	時期・備考
33	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		太さ12mmの粘土紐がくびれ部に巻かれる。胴部にφ12mmの孔が両側からあけられる。	
34	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通					無文。土製円盤。	
35	φ1mmの砂粒	5YR	明赤褐色	良好			無文		内湾している不明土製品。外面磨き痕あり。	
36	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通					φ50mm太さ2mmの泥線が目の廻りに描かれる。鼻筋、鼻孔あり。赤色地肌。土偶。	
37	φ1mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好					器面全体が丁寧な磨き。土製品。	

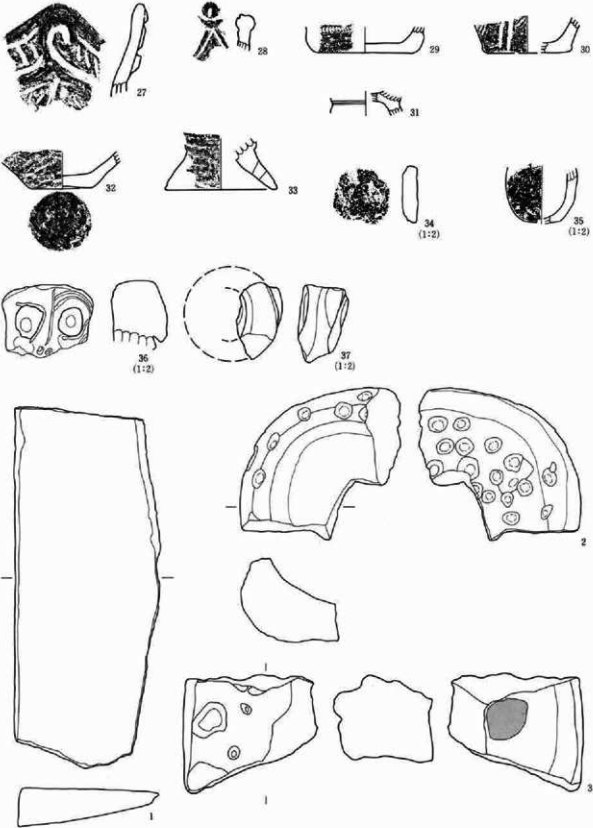
I区 27号住居石器観覧表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	長方形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。	38	15.6	4	3900	
2	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	17.4	16.2	8.9	1700	欠損
3	多孔石	—	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹みと磨面。	12.5	14.4	10.8	2500	欠損
4	多孔石	隅丸長方形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	21.8	15.8	11.2	5200	
5	丸石	卵形	石英閃緑岩	表面に磨面。	15.4	12	10	2650	
6	丸石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	11.8	15.2	12.5	4500	
7	石皿	楕円形	緑色片岩	石皿作業面は浅い凹面。	25	10.5	4.6	1450	
8	磨・凹石	隅丸長方形	角閃石安山岩	表裏に浅い凹み。凹一磨。	13.6	8.4	4.5	800	
9	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏側面に磨面。凹一磨。	13.6	5.8	4	600	
10	台石	隅丸長方形	角閃石安山岩	表裏の作業面は平坦で円錐形の凹み。	18.4	13.4	10.2	3650	
11	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	10.6	8.6	5.7	850	
12	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に深い凹みと磨面。側縁下面に細長い凹み。磨一凹。	11.7	7	4.7	600	
13	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。側縁に敲打痕。磨一凹。	10.3	7.6	5.1	480	
14	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	7.8	6.9	3	220	
15	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏に磨面。磨一凹。	6	6.5	3	190	
16	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	9.1	7.8	4.2	380	
17	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	浅い凹みを持つ。	15.4	6.7	4.5	720	
18	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。表面に敲打痕。	7	5.8	5.1	270	
19	磨石	楕形	頁岩	表面に磨面。	8.8	4	2.1	80	裏面一部欠損
20	打製石斧	短菱形	実質玄武岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.2	4	2.4	100	
21	打製石斧	短菱形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.2	4.7	2	80	基部欠損
22	打製石斧	短菱形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	6.9	4.1	2	80	
23	打製石斧	短菱形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.1	5.4	2.1	140	刃部欠損
24	打製石斧	短菱形	ホルンフェルス	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.1	1.1	30	刃部欠損
25	打製石斧	短菱形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	3.8	1.9	50	刃部欠損
26	打製石斧	短菱形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	3.2	1.2	30	刃部欠損
27	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一面面に片面調整。	2.9	5	3.1	20	

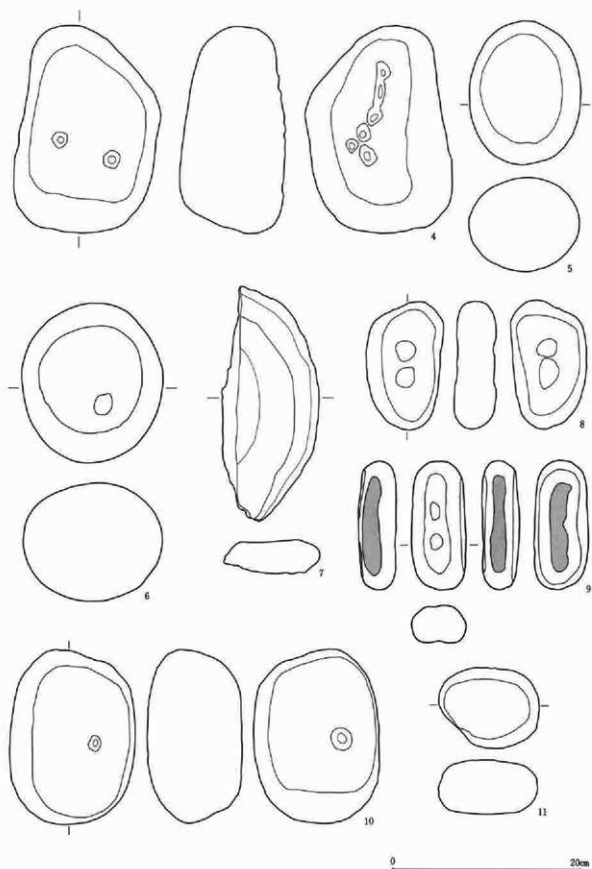
第1章 出土遺物の概要



第111図 27号住居址出土遺物-1

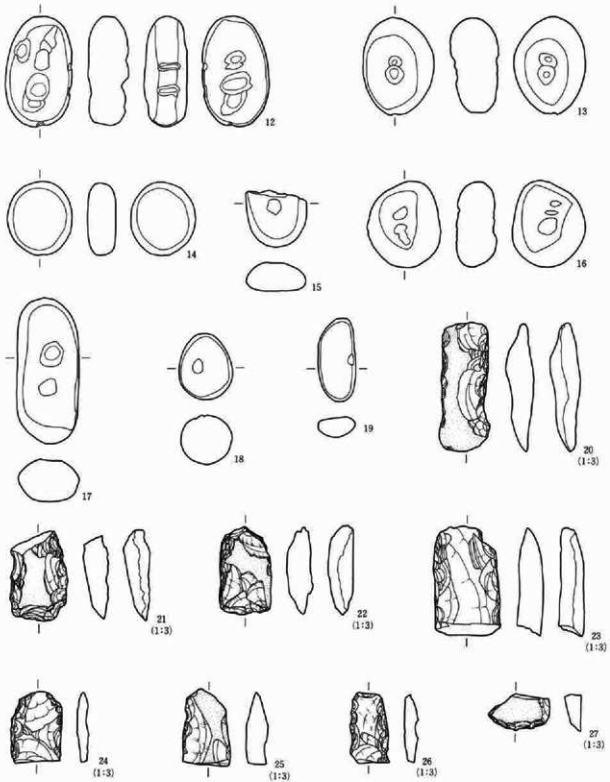


第112図 27号住居址出土遺物-2



第113図 27号住居址出土遺物-3





0 15cm  
20cm

第114図 27号住居址出土遺物-4

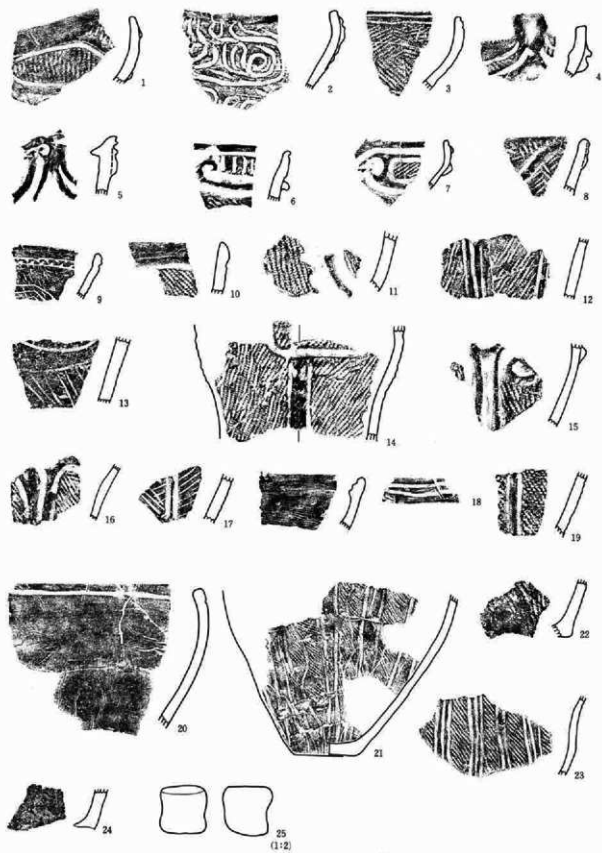
## 第1章 出土遺物の概要

I区 72号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・雲母多量	7.5YR	褐色	不良			縄文	沈線	口縁部文様帯を肥厚させる。太さ3mmの沈線で梅円区画。区画は縄文が施文。原形は磨減する。	
2	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通			縄文	沈線	太さ5mmの沈線で口縁部文様帯に曲線・渦巻を描く。	
3	φ1-3mmの小石・砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦・横	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で2条口縁にそって廻る。	
4	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			縄文	隆線	太さ5mmの隆線で口縁を弧状に区画。区画内は沈線が斜位に光輝。太さ12mmの隆線を波状に貼付し口縁と頸部を区画。	
5	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通			縄文	隆線	太さ7-9mmの隆線を波頂部によって波状に貼付。	
6	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通			縄文	隆線	太さ8mmの隆線が弧状に貼付。区画内は太さ4mmの沈線が充填。頸部に縄文を施文。	
7	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ4-7mmの隆線で梅円区画・渦巻きをつくる。区画内は縄文が充填。隆線にそって沈線が施文。	
8	φ1-3mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良			沈線	沈線	太さ8mmの隆線が貼付。沈線で文様をつくる。原形磨減多い。	
9	φ1-3mmの小石	5YR	灰褐色	良好			沈線	沈線	口縁に沿って連続「コ」字が施文。頸部は太さ2mmの沈線が扇状に施文。	
10	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が口縁に沿って廻る。口縁部は肥厚する。	
11	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線が弧状に貼付。	
12	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条対で縦位区画。太さ4mmの沈線が施文。	
13	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で頸部上に梅円区画。頸部は2条対で縦位区画し沈線を波状に垂下。	
14	φ1-5mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの隆線で縦位の施文、円形区画をつくる。	
15	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で文様を区画。区画内は縄文が施文。	
16	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が施文。太さ6mmの隆線が貼付。	
17	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ4mmの沈線が2条口縁内側に廻る。下半部に太さ2mmの沈線が条線状に廻る。	
18	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ9mmの隆線が垂下。隆線にそって太さ3mmの沈線が施文。	
19	φ1-5mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通	LRL	縦位	縄文	隆線	太さ5mmの沈線が口縁に1条廻る。内面黒色。	
20	φ1-2mmの小石	7.5YR	暗褐色	良好			沈線	沈線	原形は太さ2mm、2mm間隔の条線。太さ5mmの沈線が2条対で縦位区画。区画内は波状の垂線も施文。	
21	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線		沈線	沈線	内面黒色、スス付着。	
22	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条対で縦位区画。内面黒色、スス付着。	
23	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	内面黒色、スス付着。	
24	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	明褐色	不良			無文	無文	内面黒色、スス付着。	
25	φ1-2mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好					太さ1mmの沈線が弧状に施文、耳飾り。	

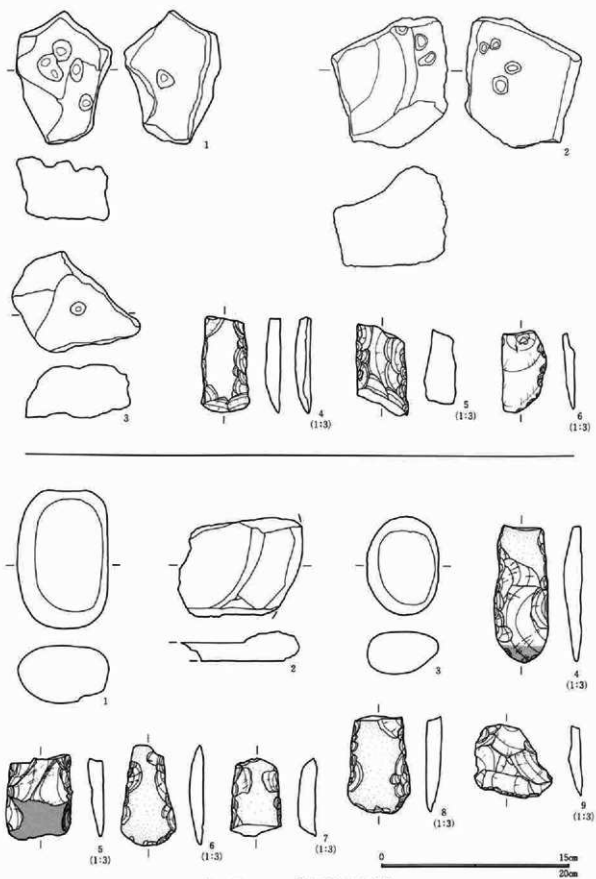
I区 72号住居土器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏面に円錐形の凹み。	14	10.4	10.4	1000	
2	石皿・多孔石	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。円錐形の凹み。	13.8	12.4	10.5	1960	
3	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	10.8	13.8	5.8	600	
4	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.6	3.9	1.2	50	
5	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	4.2	2.5	100	両端欠損
6	ステレィター	横長	黒色頁岩	一端辺に片面調整の劣部。	6.4	3.5	1	30	



第115图 72号住居址出土遺物

第1章 出土遺物の概要



第116図 72・77号住居址出土遺物

## 第1節 I地区の出土遺物

I区 77号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの砂粒・ 雲母多量	5YR	にぶい赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ5-10mmの隆線で口縁部に横円区 画・渦巻きをつくる。隆線にそって沈 線が加えられる。胴部は太さ5mmの沈 線が2条対で縦位区画。	
2	φ1-3mmの砂粒・ 雲母多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	r	斜位	赤糸	隆線	太さ8-10mmの隆線で渦巻きを中心に 文様を区画。区画内は沈線が充填。 太さ6mmの沈線で口縁部に廻す。	11と同一
3	φ1-2mmの砂粒	5YR	明赤褐色	不良	LR	斜位		隆線	太さ6mmの隆線で口縁部に廻す。	14と同一
4	φ1mm前後の砂粒・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通			沈線	隆線	太さ8mmの隆線で横円区画・渦巻きを つくる。区画内は縄文が充填。	
5	φ1mmの砂粒多量	2.5YR	赤褐色	普通	RRL		縄文	沈線	太さ4mmの沈線で横円区画。直前段反 照り。	
6	φ1-3mmの小石多 量	2.5YR	明赤褐色	不良	RL	縦・横	縄文	隆・沈	太さ6-8mmの隆線とそれによって施 す沈線で横円区画・渦巻きをつく る。胴部は太さ5-8mmの沈線で縦位 区画。	
7	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	隆線と沈線で横円区画・渦巻きをつく る。胴部は太さ5mmの沈線が2条対で 縦位区画。	
8	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良			沈線	隆線	口縁部は太さ6mmの隆線で横円区画・ 渦巻きをつくる。胴部は太さ4mmの沈 線が2条対で縦位区画。区画内は矢羽 根状の沈線が施文。	
9	φ1-2mmの小石多 量	2.5YR	赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆線	太さ6-8mmの隆線で口縁部に文様を つくる。隆線にそって沈線が施文。	
10	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ6mmの隆線で渦巻き、太 さ7mmの沈線で横円区画をつくる。胴 部は太さ4mmの沈線が縦位に垂す。	
11	φ1-3mmの砂粒・ 雲母多量	5YR	明赤褐色	普通	r	斜位	赤糸	隆線	太さ8-10mmの隆線で渦巻きを中心に 文様を区画。区画内は沈線が充填。	2と同一
12	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ8-12mmの隆線で横円区画・渦巻 きをつくる。胴部は太さ5mmの沈線 が2条対で縦位区画。	
13	φ1-2mmの小石・ 雲母	5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線を胴部に貼付し渦巻き をつくり口縁部を区画。胴部は太さ 5mmの沈線が2条対で縦位区画。	
14	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	赤褐色	不良	LR	斜位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線を口縁部に廻す。	3と同一
15	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	良好			沈線	隆線	把手部は渦巻き状になる。	
16	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ8-10mmの隆線で横円区画・渦巻 きをつくる。	
17	φ1-2mmの小石	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆線	太さ8mmの隆線で縦位区画。区画内は 太さ2mmの沈線が斜位に施文。	
18	φ1-2mmの小石・ 軽石	5YR	赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ12mmの隆線で口縁と胴部を区画。 口縁部文様は隆線の渦巻きと太さ4mm の沈線の矢羽根状の施文からなる。胴 部は沈線が2条対で縦位区画。	
19	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ4mmの沈線で縦位区画。区画内は 縄文と太さ1mmの沈線の条線が充填。 太さ12mmの沈線を縦位に施文し胴部を 区画。	
20	φ1-2mmの小石多 量	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で横位区画。区画内 に太さ3mmの沈線が縦位に施文。	
21	φ1mmの砂粒多量	5YR	赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位区画。 区画内は長横円区画をつくる。区画内 に縄文を施文する部分としない部分があ る。	
22	φ1-2mmの小石・ 軽石・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	LRL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの隆線が垂下し縦位区画。原 体反照り。外面スス付着。	
23	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線で縦位区画。外面黒色。	
24	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの隆線が流状に垂下し胴部に 貼付。隆線間には太さ3mmの沈線が矢羽 根状に施文。内面黒色。	26と同一
25	φ1mmの砂粒・軽 石	7.5YR	にぶい褐色	普通			沈線	隆線		

## 第1章 出土遺物の概要

I区 77号住居土器観察表

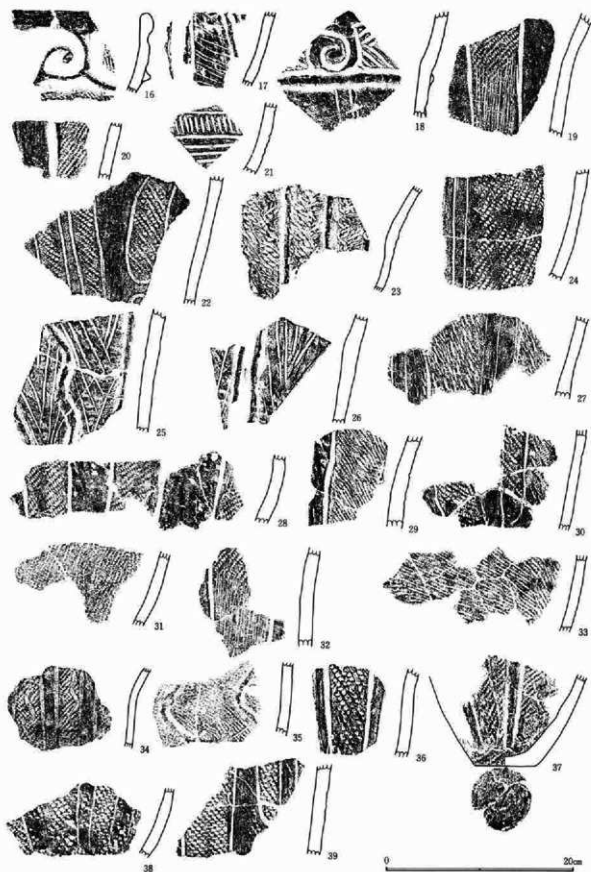
番号	胎土	色記号	色調	焼成	胎文 原形	胎文 方向	胎文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
26	φ1mmの砂粒・軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通					太さ8mmの隆線が縦状に垂下し胴部に貼付。隆線間には太さ3mmの沈線が矢羽根状に施文。内面黒色。	25と同一
27	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	赤褐色	普通	LL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が3条対で縦位区画。原体反照り。	
28	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	明褐色	普通	RL		縄文	沈線	太さ5mmの沈線で縦位区画。交互に縄文と無文部をつくる。縄文原体は、0段多条。	
29	φ1-2mmの砂粒・軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。原体縄文多条。	
30	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位区画。	
31	φ1mmの砂粒多量	5YR	赤褐色	不良	RL	縦位	縄文			
32	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位区画。区画間には縄文と太さ1mmの沈線の委縮が充填。原体は縄文多条。内面黒色。	
33	φ1-2mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文			
34	φ1-2mmの小石・雲母多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。区画間に波状の沈線が施文。	
35	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が波状に貼付。内面黒色。	
36	φ1mmの砂粒	7.5YR	褐色	普通	LRL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。原体塊節。	
37	φ1-3mmの小石多量	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。外面スス付着。	
38	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	明赤褐色	普通	LRL		縄文	沈線	太さ3mmの沈線2条対で縦位区画。原体塊節。内面黒色。	
39	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	LRL		縄文	沈線	太さ5mmの沈線で縦位区画・長楕円形区画。縄文原体は塊節。	
40	φ1-2mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口縁隆線と楕円区画・高巻きをつくる。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。	
41	φ1-5mmの小石・黄色軽石	2.5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈		
42	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。内面スス付着。	
43	φ1-5mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	RI	横位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ8mmの隆線による高巻きと楕円区画。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
44	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		原体0段多条のRL。内外面スス付着。	
45	φ1-3mmの小石多量	10YR	明黄褐色	不良			無文		磨滅多く文様不明。内面スス付着。	
46	φ1-2mmの砂粒	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文		内面黒色。	
47	φ1-2mmの砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	不良			無文		全体に磨滅多く不明。	
48	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	不良			沈線		太さ4-6mmの沈線で縦位区画。	
49	φ1-5mmの小石	5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で縦位区画。	
50	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位区画。	
51	φ1-2mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線		太さ4mmの沈線で縦位区画。	

I区 77号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	磨石	長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	14.7	9.6	6.2	1480	
2	石皿	一	緑色片岩	作業面は凹面。	10.6	13.2	3.2	600	欠損
3	磨石	長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	10.4	7.7	4.5	530	
4	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	10.9	4.3	1.5	90	
5	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	5.2	1.3	60	基部欠損
6	打製石斧	短筒形	砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.9	4.4	1.1	40	
7	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	4	1.5	50	刃部欠損
8	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.7	5	1.2	70	基部欠損
9	スクレイパー	横長	粗粒輝石安山岩	一側面に片面調整の刃部。	5.9	6.2	1.1	40	刃部欠損

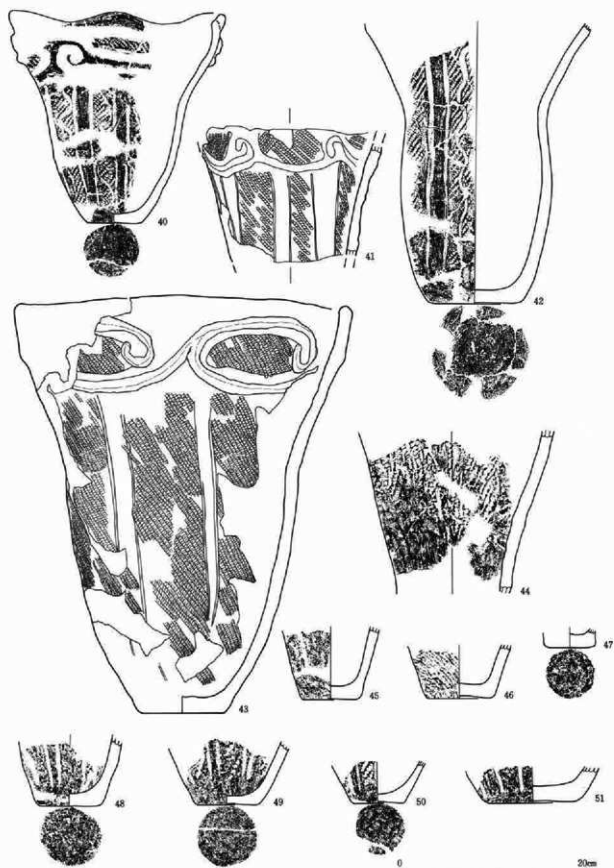


第117図 77号住居址出土遺物-1



第118図 77号住居址出土遺物-2



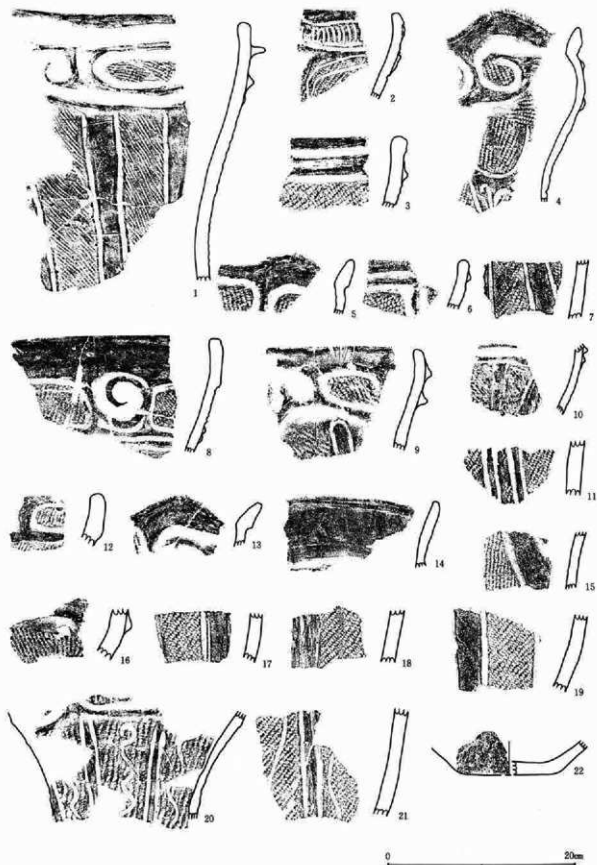


第119図 77号住居址出土遺物-3

## 第1章 出土遺物の概要

I区 70号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・雲母・軽石	5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	原形RLにrの附加条1條。口縁部は太さ7-10mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。隆線にそって太さ10mmの沈線が通る。胴部は太さ7mmの沈線が2条対で縦位区画。沈線間は無文。	
2	φ1mmの砂粒多量	10YR	暗褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部に太さ4mmの沈線で楕円区画。区画内は沈線が縦位に光頭。胴部と胴部に太さ7mmの隆線が貼付。	
3	φ1-3mmの小石・砂粒	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	口縁に沿って沈線が2条施文。沈線間は太さ7mmの隆線を施文。	
4	φ1-2mmの砂粒多量	10YR	黒褐色	不良	RL	縦・横	縄文	隆・沈	太さ4-7mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。太さ7mmの沈線が隆線にそって通る。胴部は太さ6mmの沈線による文様。	
5	φ1-2mmの砂粒・雲母	2.5Y	黒褐色	不良	RL	斜位	縄文	沈線	口縁部は肥厚する。太さ7mmの沈線を楕円形に施文。	
6	φ1-2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	L&L	横位	縄文	隆・沈	太さ7mmの隆線で楕円区画。隆線にそって沈線が通る。	
7	φ1-3mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位区画。沈線間は無文。	
8	φ1-3mmの小石・軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	横位	縄文	隆・沈	口縁に太さ6mmの隆線で楕円・渦巻きの文様をつくる。隆線にそって太さ3mmの沈線が施文。	
9	φ1-2mmの砂粒多量	2.5Y	黒褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ5-6mmの隆線で楕円区画。隆線にそって沈線が施文。胴部は太さ5mmの沈線が施文。内面スス付着。	
10	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	口縁を太さ6mmの隆線で区画。胴部は太さ4mmの沈線が縦位に施文。	
11	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	黒褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。	
12	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線で楕円区画。隆線にそって太さ4mmの沈線が楕円区画。	
13	φ1-3mmの砂粒多量	10YR	黒褐色	普通				沈線	沈線で楕円・渦巻きの文様をつくる。	
14	φ1-2mmの砂粒多量	2.5Y	黄褐色	普通				無文	胴部に沈線が1条通る。	
15	φ1-2mmの砂粒多量	2.5Y	黒褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で文様を区画。	
16	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	暗褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線で文様を区画。	
17	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	橙色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。	
18	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	灰褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位区画。	
19	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位区画。	
20	φ1-3mmの小石・雲母・軽石	5YR	赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ6mmの沈線と太さ8mmの隆線で文様を区画。胴部は太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。区画間には波状の沈線が垂下。	
21	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で縦位区画。区画間に波状の垂線を施文。	
22	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良				無文		

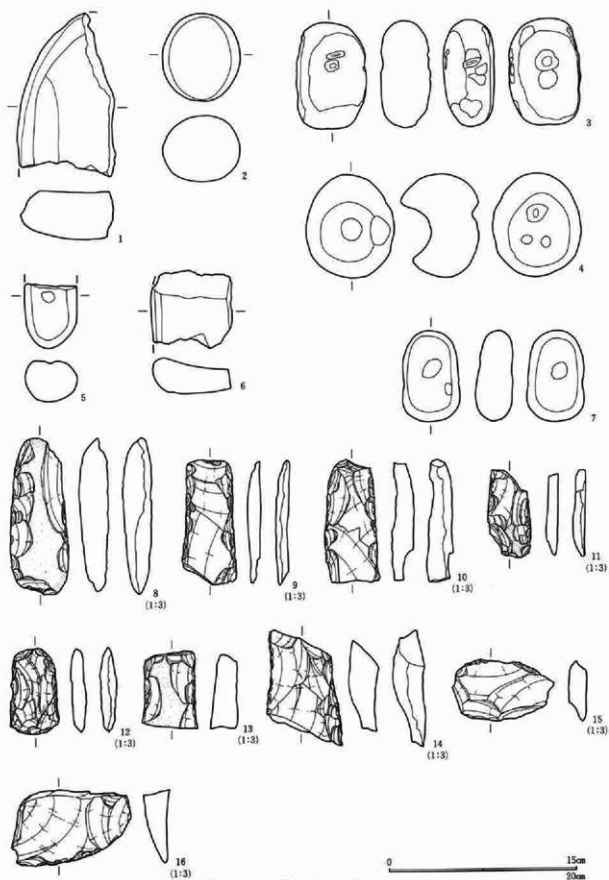


第120図 78号住居址出土遺物-1

## 第1章 出土遺物の概要

I区 70号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。	17.4	10.5	5.2	1250	欠損
2	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	9.2	8.3	7.1	770	
3	磨・凹石	隅丸方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面にやや浅い凹み。表裏に磨面。側面に敲打痕。凹→磨。	11.2	7.6	5.5	730	
4	乳鉢状凹石	乳鉢形	粗粒輝石安山岩	表面に乳鉢状の大きな凹み。裏面に円錐形の凹み。	10.9	9.5	8.2	660	
5	凹石	楕形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。	6.8	5.6	4.4	220	欠損
6	石皿	楕円形	緑色片岩	作業面は凹面。	8.2	8.8	3.8	340	欠損
7	凹石	隅丸方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。側面に敲打痕。	9.6	6.1	4.1	340	
8	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	12.2	4.6	2.4	160	
9	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.9	4.3	1.2	60	
10	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.7	4.3	2.2	100	刃部欠損
11	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7	2.9	1	30	基部欠損
12	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	6.8	3.9	1.3	50	
13	打製石斧	短冊形	砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	6	4.4	2.2	90	刃部欠損
14	打製石斧	短冊形	硬質泥岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9	6.1	2.7	120	両端部欠損
15	スクレイパー	横長	粗粒輝石安山岩	一側面に両面調整の刃部。	4.8	8.1	1.4	60	
16	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側面に両面調整の刃部。	5.9	9.6	2.1	130	



第121图 78号住居址出土遺物-2

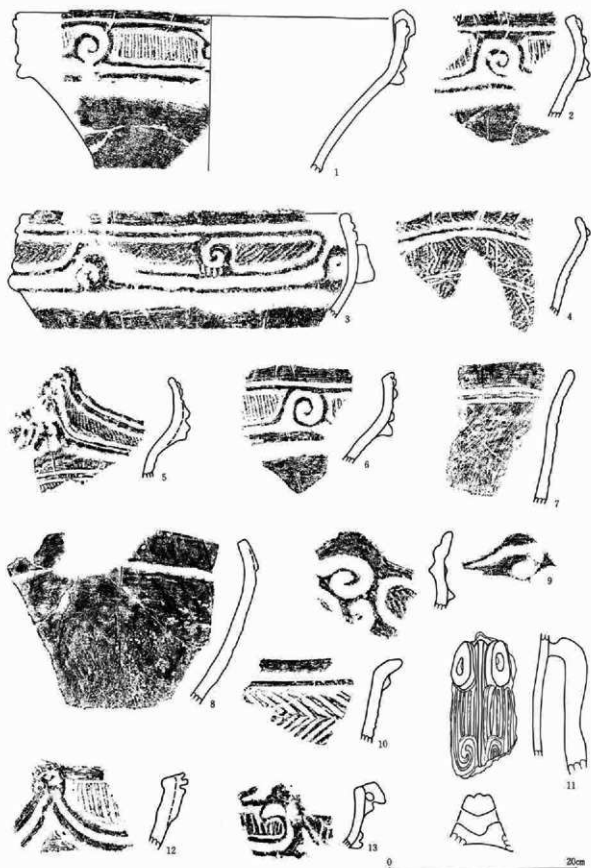
## 第1章 出土遺物の概要

I区 80号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの小石	10YR	褐色	普通				隆・沈	太さ6mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ3mmの沈線が縦位に充填。頸部は太さ10mmの隆帯で区画。頸部は無文。	
2	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通				隆・沈	太さ7mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ3mmの沈線が縦位に施文。頸部は無文。	
3	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。頸部は無文。	
4	φ1-3mmの砂粒・小石	7.5YR	褐色	不良	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で頸部以下を区画。口縁部に太さ10mmの隆線が廻る。内面黒色。	
5	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ7mmの隆線で把手・口縁部文様を区画。太さ5mmの沈線が隆線にそって廻る。頸部は無文で太さ6mmの沈線で区画。	
6	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	良好				沈線	太さ6mmの隆線で口縁部文様区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ3mmの沈線が充填。頸部は太さ10mmの隆線が廻る。	
7	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	暗赤褐色	普通	KI	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条頸部に廻る。頸部は縄文が施文。	
8	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通				無文	口縁部が約30mmほど肥厚する。浅鉢。	
9	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ12mmの沈線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は縄文を施文。内面も渦巻きを施文。	
10	φ1-3mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	口縁部に太さ8mmの隆線が廻る。それ以下は太さ8mmの沈線が矢羽根状に施文。	
11	φ1-3mmの砂粒	5YR	明赤褐色	良好				沈線	太さ5mmの沈線で渦巻き・双円の文様をつくる。	
12	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好				沈線	太さ8mmの隆線が2条対で楕円形の文様を区画。区画内は太さ4mmの沈線が充填。内面横位の巻き。	
13	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	不良				沈線	太さ10mmの隆線で口縁部に文様区画・小突起をつくる。区画内は太さ2mmの沈線が充填。	
14	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で楕円区画。区画内は縄文を施文。	
15	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通				沈線	太さ4-8mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ6mmの沈線が矢羽根状に施文。	
16	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	暗褐色	良好	RL	縦位	縄文	縄文	小波状口縁の土器。	
17	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	赤褐色	不良	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ5-7mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。隆線にそって太さ5mmの沈線が施文。区画内は縄文が充填。	
18	φ1-2mmの小石多量・雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	巾9mmの平行沈線で弧状区画。	
19	φ1-2mmの小石	7.5YR	褐色	普通				沈線	巾6mm4本の条線。太さ6mmの隆線と巾3mmの平行沈線で楕円区画。区画内は原形の沈線が充填。頸部は筒をあけて条線を施文。	
20	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	条線			沈線	口縁部を太さ7-8mmの隆線で横位に区画。区画内を太さ4mmの沈線が矢羽根状に施文。口縁部に粘土紐が縦位に貼付。2-3mm間隔の条線。	
21	φ1-2mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通				沈線	太さ7mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ10mmの沈線が矢羽根状に充填。頸部は無文。内面スス付着。	
22	φ1-2mmの砂粒	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	縄文	縄文を乱雑に施文。	

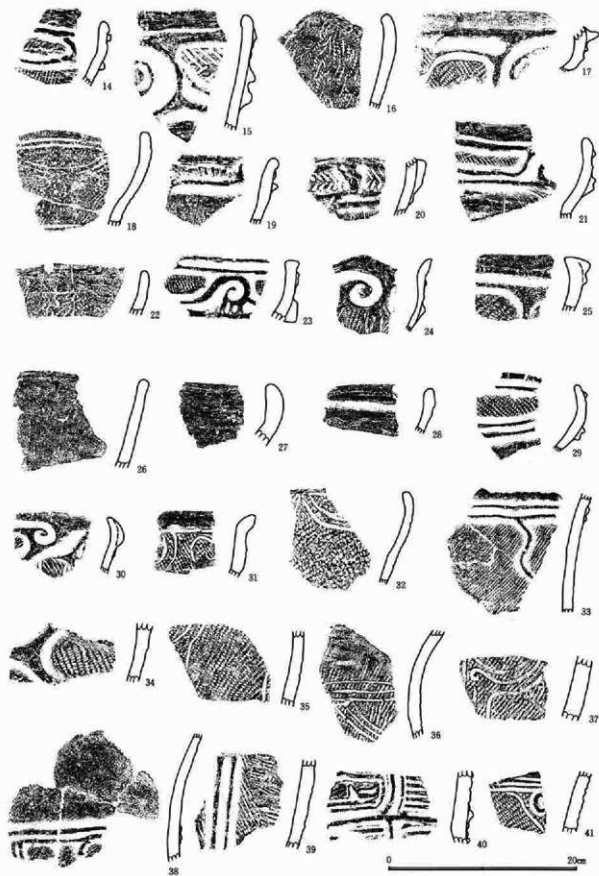
I区 30号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
23	φ1-2mmの砂粒多量・雲母	7.5YR	明褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で渦巻き・弧状の区画をつくる。区画内は縄文が施文。	
24	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線で渦巻き。胴部は太さ3mmの沈線が2条対で垂下。	
25	φ1-3mmの砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	口縁部を肥厚させ太さ8mmの沈線で横円区画。	
26	φ1-5mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		外面に縦位の磨き。	
27	φ1-5mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。	
28	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	
29	φ1mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ6-12mmの隆線で横円区画。区画内は縄文が施文。胴部は無文。	
30	φ1-3mmの砂粒多量	5YR	赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ8mmの沈・隆線で渦巻き。胴部は太さ4mmの沈線が縦位に垂下。	
31	φ1-2mmの小石・雲母	2.5YR	赤褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	口縁部屈曲部に沈線が縦位に連す。太さ3mmの沈線で渦巻き文。口縁部に無文帯。	
32	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で弧状の文様をつくる。	
33	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線が2条横位に連る。波状の隆線が縦位に貼付。	
34	φ1-3mmの砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で横円区画。	
35	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が施文。	
36	φ1-3mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条対で文様をつくる。	
37	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	黒褐色	普通	RL	縦位			太さ4mmの沈線で渦巻き・文様を施文。	
38	φ1-2mmの砂粒多量	10YR	褐色	不良	KL	縦位	縄文	隆線	太さ5mmの隆線で頸部と胴部を区画、胴部に縦位に貼付。	
39	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	Lr	横位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線が2条貼付。	
40	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	隆線	太さ6mmの隆線と太さ3mmの沈線で幾何学文。	
41	φ1-5mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ5mmの沈線で横位の施文。太さ5mmの隆線を貼付。	
42	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線		沈線		巾10mm 4本の条線が周縁をもって施文。	
43	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が3条対で方形区画・渦巻きをつくる。	
44	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位区画・弧線をつくる。	
45	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	良好			沈線		太さ6mmの沈線で渦巻き。	
46	φ1-2mmの砂粒・雲母多量	10YR	暗褐色	普通	LR	斜位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が施文。	
47	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で渦巻き。	
48	φ1-2mmの砂粒多量	10YR	黒褐色	不良			捺糸		磨減多く不明。	
49	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	普通	Lr		捺糸	隆線	太さ6mmの隆線が波状に貼付。	
50	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	赤褐色	普通	Lr	左巻	捺糸	沈線	太さ3mmの沈線で横位区画。波状の沈線を施文。	
51	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で頸部を区画。渦巻き文を施文。渦巻きに形あり。	
52	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。赤色微形。浅鉢。	
53	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。浅鉢。	
54	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き。浅鉢。	

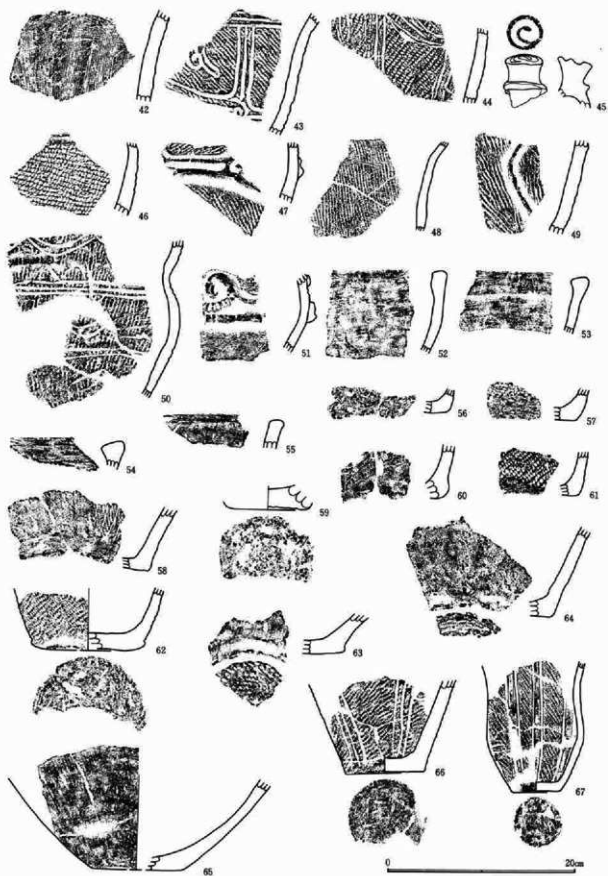


第122図 80号住居址出土遺物-1





第123図 80号住居址出土遺物-2



第124図 80号住居址出土遺物-3

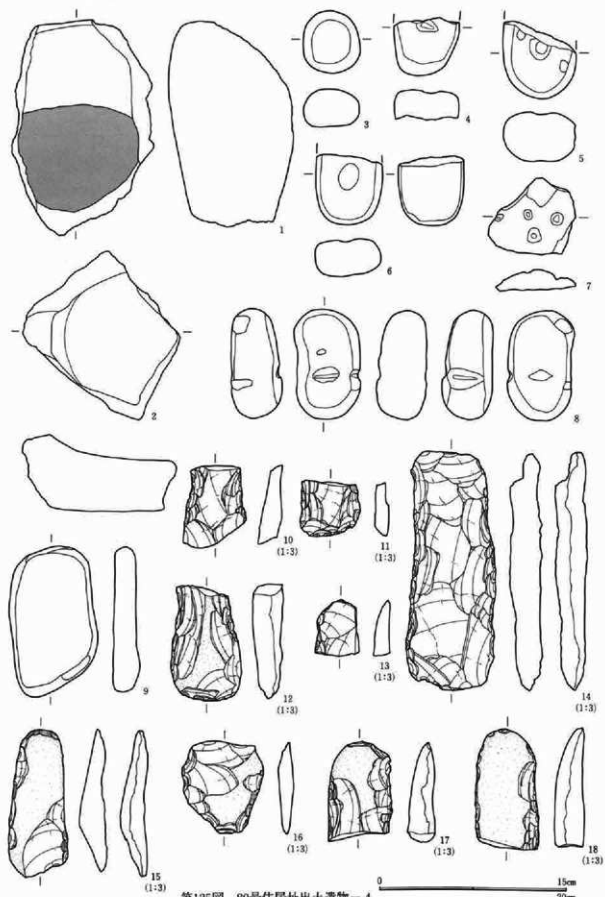
I区 80号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
55	φ1-3mmの小石・石英・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き、黒斑、浅鉢。	
56	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通			無文		全体に磨減。	
57	φ1-2mmの小石	2.5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		下部側面近く横ナテ。内面黒色。	
58	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太き2mmの沈線を縦位に施文。内面黒色、スス付着。 内面一部に黒色がみられる。	
59	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	褐色	良好			無文			
60	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	褐色	不良	LR		縄文		全体に磨減多い。内面黒色。	
61	φ1mmの細かい砂粒	5YR	褐色	良好	LR	横位	縄文		下部側面近く横の磨き。	
62	φ1-3mmの小石多量	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		内面黒色。	
63	φ1-2mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好			無文		底面に網代痕あり。	
64	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	良好			無文		外面磨き。	
65	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		外面縦位の磨き。	
66	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太き3mmの沈線が3条対で縦位文様を区画。	
67	φ1-5mmの小石・軽石	2.5YR	赤褐色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太き3mmの沈線が2条対で縦位区画。内面黒色。	

I区 80号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	白石	一	角閃石安山岩	表面に磨面。	22.8	15.3	13.2	7000	欠損
2	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	17.8	16.8	8	2350	
3	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.7	6.1	4.1	260	
4	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。	6.1	7	3.1	250	欠損
5	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏・両側面に磨面。下端に敲打痕。凹→磨。	8.3	7.8	5.5	400	欠損
6	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏・両側面に磨面。下端に敲打痕。凹→磨。	7.5	7	4.1	350	
7	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐状の凹みを持つ。	8.1	9.4	2.2	200	
8	凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・両側面に横長の凹み。	11.7	7.2	5.5	610	
9	磨石	隅丸長方形	閃緑岩	表面に磨面。	16	9.4	2.8	800	
10	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	5	2	60	両端欠損
11	打製石斧	短帯形	珉質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.5	4.9	1.3	30	基部欠損
12	打製石斧	楕形	硬質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.2	5.7	2.5	150	基部欠損
13	打製石斧	短帯形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5	3.5	1.3	30	刃部欠損
14	打製石斧	短帯形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	18.9	7.1	2.6	450	
15	打製石斧	短帯形	珉質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.8	4.7	2.3	120	
16	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側面に片面調整の刃部。	7.4	6.6	1.3	70	
17	打製石斧	短帯形	硬質泥岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8	5.1	2.3	110	刃部欠損
18	打製石斧	短帯形	硬質泥岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.6	5.1	2.4	160	刃部欠損

第1章 出土遺物の概要



第125図 80号住居址出土遺物-4

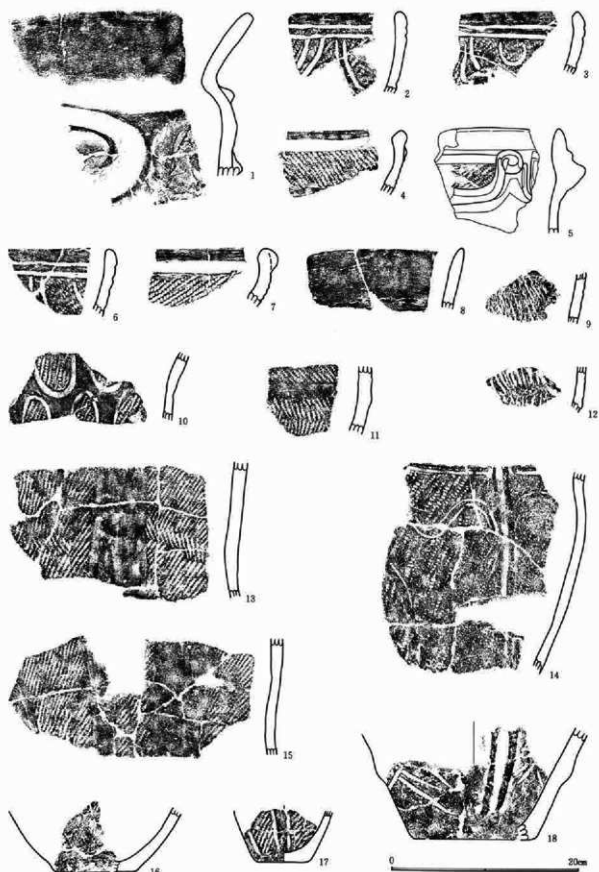
## 第1節 I地区の出土遺物

I区 94号住居土器観察表

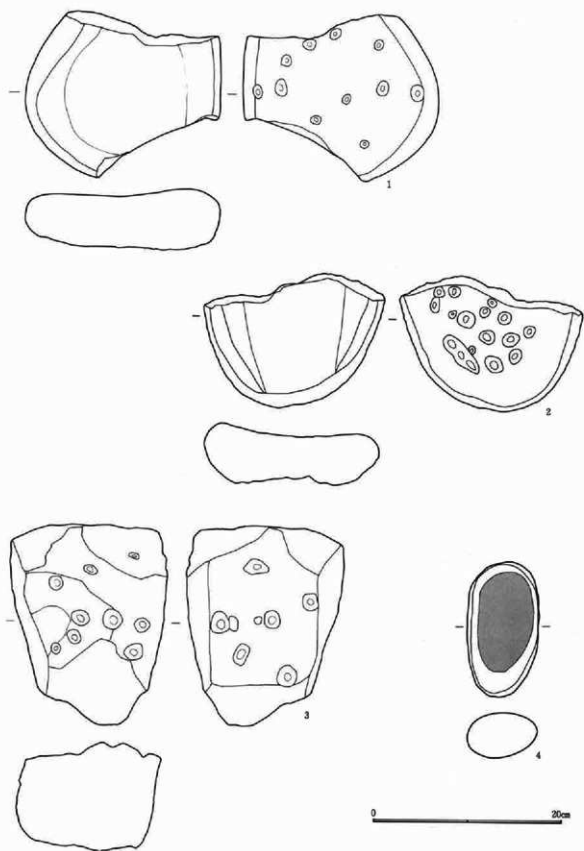
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの砂粒・小石	5YR	にぶい赤褐色	良好				隆線	口縁部は無文帯。太さ8-12mmの隆線が胴部ふくらみ部に横門・渦巻きを施文。	3-6と同一
2	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で横門区画。	
3	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で横門区画。口縁の外側にスス付着。	2-6と同一
4	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が口縁に廻る。	
5	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	太さ18mmの隆線が横門区画・渦巻きをつくる。隆線に太さ6mmの沈線が施文。	2-3と同一
6	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で横門区画。内面スス付着。	
7	φ1mmの細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	LRL	横位	縄文	沈線	太さ12mmの沈線が口縁部を廻る。	
8	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	不良			無文		内外面横位の磨き。外面赤色塗彩。	
9	φ1-2mmの小石・雲母	2.5YR	赤褐色	良好	Rl	斜位	熱赤			
10	φ1-2mmの砂粒・軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL		縄文	沈線	太さ6mmの沈線が横門区画。区画内は縄文が施文。	
11	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	にぶい黄色	普通	RL	横・斜	縄文	隆線	わずかに隆起させた隆線が胴部に廻る。それ以下は縄文が施文。	
12	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好	Lr		熱赤	隆線	太さ9mmの隆線が文様。	
13	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ8mmの浅い沈線で巾45mmの無文帯を縦位につくる。	
14	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が縦位区画・渦巻きをつくる。	
15	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	巾4mmの縦位の無文帯で区画。沈線は浅い。	
16	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き。	
17	φ1-3mmの軽石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。内面黒色。	
18	φ1-5mmの小石	5YR	赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ4mmの沈線で縦線状に施文。太さ6mmの隆線が縦位区画。	

I区 94号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿	楕円形	角閃石安山岩	石皿作業面は浅い凹面。	17.8	20.9	6.8	3300	欠損
2	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面は円錐形の凹み。	14.4	19.6	6.8	1850	欠損
3	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	21.3	16.7	11.6	5300	欠損
4	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	14.4	8.5	4.8	850	
5	磨石	隅丸長方形	角閃石安山岩	表裏・側面に磨面で縁を持つ。	16.2	8.4	5.4	1350	
6	磨・敲石	隅丸長方形	角閃石安山岩	表裏・側面に磨面と敲打面。磨→敲。	10	7	4.8	600	
7	多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	17.4	13.8	6.8	1900	
8	磨石	長楕円形	角閃石安山岩	表裏に磨面。	11	7.8	5.2	700	
9	打製石斧	分銅形	珩質頁岩	両面調整。両刀部はこぼれ。	10	4.6	1	60	
10	打製石斧	短斧形	粗粒輝石安山岩	両面調整。	7.4	3.7	1.5	50	刃部欠損
11	打製石斧	分銅形	粗粒輝石安山岩	両面調整。中央部に抉り。	11.6	6.3	2.6	210	片方刃部欠損
12	スクレイパー	縦長	黒色安山岩	一側面に片面調整の刃部。	4.1	8.2	1.6	50	
13	スクレイパー	横長	珩質頁岩	一側面に片面調整の刃部。	3.9	11.1	1.4	50	

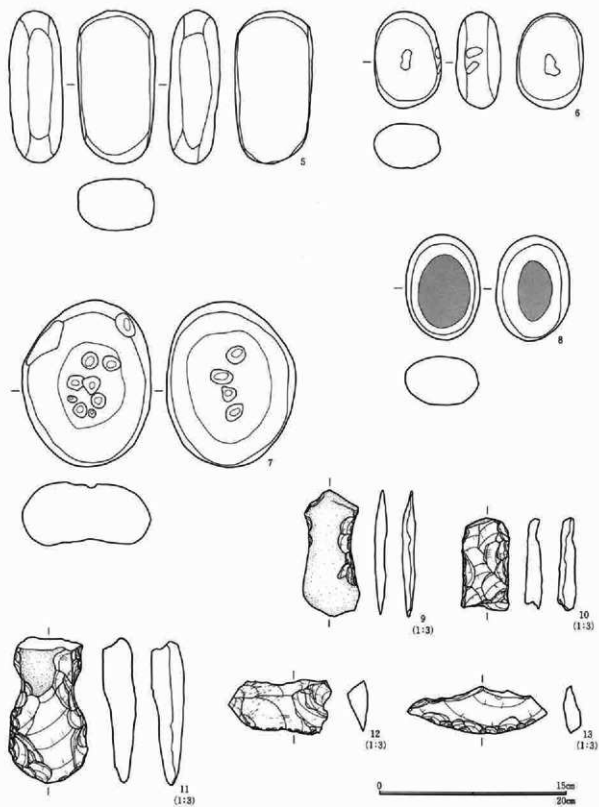


第126図 94号住居址出土遺物-1



第127図 94号住居址出土遺物-2

第1章 出土遺物の概要



第128図 94号住居址出土遺物-3



## 第1節 I地区の出土遺物

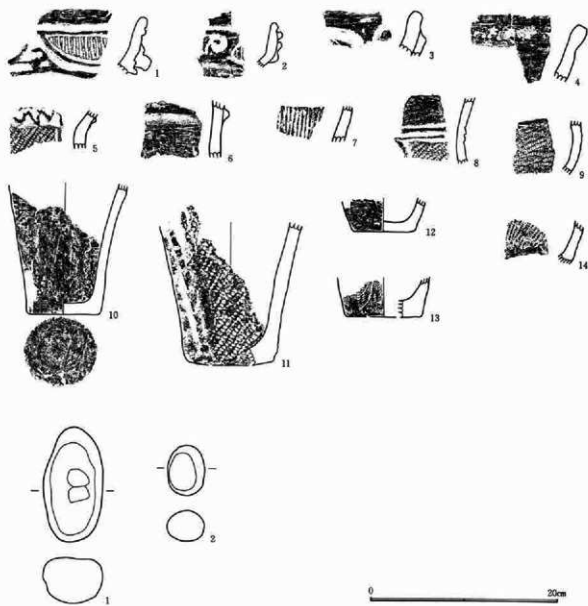
I区 136号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-5mmの砂粒・雲母	5YR	褐灰色	良好				魚・沈	太さ7mmの隆線で半円状の区画。隆線の内側、区画内は太さ3mmの沈線が施文。半円区画内は渦巻き状の文様が把手状につく。口縁部以下は無文帯。	
2	φ1-3mmの砂粒・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	普通				魚・沈	太さ7mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ3mmの沈線が充填。口縁部以下は無文。	
3	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通				隆線	太さ10mmの隆線で文様を区画。	
4	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	浅鉢。	
5	φ1-3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	魚・沈	太さ8mmの隆線が渦巻状に貼付。胴部は太さ3mmの沈線が垂下。	
6	φ1-5mmの小石・黄色軽石粒	7.5YR	にぶい褐色	普通				無文	頸部は無文帯。上部に隆線が廻る。	
7	φ1-5mmの小石・雲母	5YR	褐色	普通	Lr		熟糸		内面黒色。	
8	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	頸部と胴部の間に2条の隆線が引かれる。胴部は渦巻き状の貼付。	
9	φ1-5mmの砂粒多量	5YR	灰褐色	普通	LR	横位	縄文			
10	φ1-3mmの砂粒・石英	5YR	赤褐色	良好				無文	表面に擦痕状のものが認められる。内面黒色。	
11	φ1-6mmの小石・砂粒多量	5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が2条付で垂下。隆線の左右は縄文が磨り消される。	
12	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	良好				無文	外面磨き。	
13	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で施文。内面黒色。	
14	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦位	縄文			

I区 136号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	凹石	棒形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。	12.2	6.5	4.9	570	
2	磨石	棒形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	5.4	3.9	3.3	80	

第1章 出土遺物の概要



第129図 136号住居址出土遺物

I地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文原体	施文方向	地文分類	文様分類	文様の特徴	時期-番号
1	1	φ1-3mmの砂粒多量	15YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位			太さ5mmの隆線が垂下。内面黒色。	
6	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	2.5Y	明黄褐色	不良	RL	縦位			太さ4mmの沈線で楕円形を描く。全体に磨減。	
7	1	φ1-3mmの小石・繊維	7.5YR	灰褐色	不良	縦線	縦位	縦線		巾9mmの平行沈線で渦巻き、口縁部は歯齧状になる。 波状縄文で変形をつくる。	
7	2	φ1-5mmの小石・繊維	5YR	にぶい赤褐色	不良	RL・LR	縦位	縦線		巾10mmの平行沈線と爪形文を交互に施文。	
7	3	φ1-3mmの小石・繊維	7.5YR	灰褐色	不良	RL・LR	縦位	縦線		波状縄文。若干上げ底になる。内面黒色。	
7	4	φ1-3mmの砂粒・繊維	5YR	にぶい赤褐色	不良	RL・LR	縦位	縦線		巾6mmの平行沈線と刺状突起の爪形文。	
7	5	細かい砂粒・若干の繊維	10YR	にぶい黄褐色	良好			縦線			
8	1	φ1mm以下の砂粒・繊維	10YR	灰黄褐色	不良	Lr	横位	縦線			
8	2	φ1-3mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	不良	RL・LR	縦位	縦線		内面スス付着。	
8	3	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通			沈線		巾8mmの平行沈線で楕円区画。区画内は沈線が縦位に光填。	
10	1	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が口縁を廻る。波状沈線を施文。	
10	2	φ1-3mmの砂粒	2.5YR	赤褐色	良好			隆・沈		太さ8mmの隆線で平円区画。区画内は太さ3mmの沈線が光填。	
10	3	φ1-5mmの小石・軽石	5YR	明赤褐色	良好			沈線		頸部に隆線が廻る。胴部は太さ3-4mmの沈線で縦位区画・矢羽根状に施文。	
10	4	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	橙色	不良	LR	横位			太さ8mmの隆線が垂下。	
10	5	φ1-3mmの砂粒	2.5YR	赤褐色	普通	Lr	斜赤	隆線		太さ6mmの隆線が2本で垂下。内面黒色。	
10	6	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	Lr	斜赤	沈線		太さ2mmの波状沈線が施文。	
10	7	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	明赤褐色	良好			沈線		巾5mm3本の歯齧状工具の沈線で曲線を描く。	
10	8	φ1-3mmの砂粒多量・雲母	7.5YR	にぶい橙色	普通			無文		内面黒色。横位の磨き。浅鉢。	
11	1	φ1mm前後の砂粒・雲母	5YR	灰褐色	普通			隆・沈		太さ7mmの隆線で平円状の区画。区画内は太さ2mmの沈線が光填。	
11	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	沈線	太さ5mmの沈線で渦巻き、隆線で渦巻きを貼付。	
12	1	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	斜赤	隆線		太さ7-8mmの隆線が2本縦位に貼付。	2と同一
12	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	斜赤	隆線		太さ7-8mmの隆線が2本縦位に貼付。	2と同一
12	3	φ1-2mmの砂粒・雲母多量	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。浅鉢。	
13	1	φ1-5mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい橙色	普通			隆・沈		口頸部は無文帯。口縁部は隆線による渦巻き文。沈線が光填。	
13	2	φ1-2mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線		沈線	隆線	巾1mm間隔の細かい条線を地文に持たせ、太さ5mmの沈線が横位に施文。	3と同一
13	3	φ1-2mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線		沈線	隆線	巾1mm間隔の細かい条線を地文に持たせ、太さ5mmの沈線が横位に施文。 口縁部は巾7mmの爪形文で方形の区画を作る。胴部は無文帯。太い隆線で区画し、胴部は沈線と竹管の外側による連続刺状の文様を施文。	2と同一
14	1	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい橙色	普通			爪形			

## 第1章 出土遺物の概要

I地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文原体	地文方向	地文分類	文様分類	文様の特徴	時期・備考
14	2	φ1~2mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通			無文		外面スス付着。調整の痕跡。	
14	3	金雲母多量	10YR	黒褐色	良好			爪形		巾7mmの半軟竹管で細かい押し引きの爪形文。 外面丁寧な磨き。浅鉢。	
14	4	φ1~3mmの軽石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文			
16	1	φ1mm前後の細かい砂粒	2.5Y	黄褐色	良好			隆・沈	隆・沈	太さ14mmの隆線で半円形の区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。区画にそってφ4mmの穿孔。太さ5mmの隆線が縦位に施文。内外面スス付着。太さ5mmの沈線が施文。	
16	2	φ1~4mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線		沈線	沈線		
16	3	φ1~3mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	縄文		
16	4	φ1~3mmの小石・雲母	7.5YR	明褐色	普通			無文		内面黒色。	
17	1	φ1~3mmの小石・石英	5Y	灰オリーブ色	良好			爪形		太さ12mmの粘土柱を貼付。粘土柱に綾杉状の形み。外面スス付着。	
17	2	φ1~2mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好			爪形		口縁部は無文。頸部に粘土柱で文様を施文。	
17	3	φ1mmの細かい砂粒	10YR	暗褐色	良好			爪形		太さ12mmの隆線が垂下。巾7mmの爪形文が収状口縁に沿って施文。	
17	4	φ1~2mmの砂粒多量	5YR	明赤褐色	普通			爪形		隆線で文様。綾杉状の沈線。	
19	1	細かい砂粒	7.5YR	浅黄褐色	不良			沈線		口縁は無文。胴部に太さ4mmの沈線が渦巻き状の文様をつくる。肩付きの浅鉢。	
19	2	φ1~3mmの小石多量	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ6~8mmの隆線で半円状区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ3mmの沈線が2条対で縦位区画。沈線間は無文。	
20	1	φ1~3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			沈線		口縁部に太さ3mmの沈線が施文。内面軟位の磨き。浅鉢。	
21	1	φ1~2mmの小石	7.5YR	暗褐色	普通			隆・沈	隆・沈	口縁部に太さ2mmの沈線と太さ5mmの隆線が2条対で施文。	
21	2	φ1mmの砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が縦位区画。	
23	1	φ1~3mmの小石	5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が扇歯・弧状に施文。	
25	1	φ1~2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	口縁部に太さ6mmの沈線が廻る。	報告書未掲載
25	2	φ1~3mmの小石・軽石	2.5Y	暗灰黄色	良好	条線		沈線		巾2~3mmの条線が縦位に施文。	報告書未掲載
25	3	φ1~3mmの砂粒多量	5YR	明赤褐色	不良			縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位区画。	報告書未掲載
25	4	φ1~3mmの小石・軽石・雲母	5YR	赤褐色	不良			隆線		口縁部を肥厚させ隆線で横円区画・渦巻きをつくる。隆線に沿って太さ6~8mmの隆線が施文。	報告書未掲載
25	5	φ1~2mmの砂粒・雲母多量	7.5YR	褐色	不良			無文			報告書未掲載
26	1	φ1mm前後の小石・軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ6mmの隆線が弧状に施文。胴部は巾7mmの沈線が廻る。	
26	2	φ1~2mmの砂粒・雲母多量	7.5YR	褐色	普通			隆・沈	隆・沈	太さ3mmの隆線が2条対で胴部に縦位に貼付。地文に太さ2mmの沈線が斜位に施文。	
26	3	φ1~2mmの小石	7.5YR	褐色	不良	LR	熱赤			太さ4mmの沈線が弧状に施文。	
28	1	φ1~3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		巾12mmの隆線が頸部に廻る。隆線に形み。口縁部は無文。	

I地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	地成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
28	2	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	口縁部に段を持つ。内外面横位の磨き、スス付着。	
28	3	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好				爪形	太さ4mmの沈線と太さ8mmの刻みを持つ沈線。	
28	4	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	不良	条線			沈線	巾2mmの条線。	
29	1	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RI			燃赤	太さ5mmの沈線が縦位に施文。	
29	2	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	不良	Lr			燃赤		
30	1	φ1-3mmの小石 多量・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通				段線	太さ5-12mmの段線で楕円区画。	
30	2	φ1-2mmの砂粒・軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL			縄文	途中段を持つ胴部に太さ4mmの沈線で渦巻き。	
30	3	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良				無文	φ10mmの刺突がつく。	
30	4	φ1-2mmの小石・軽石	5YR	赤褐色	良好	LR	横位		縄文	太さ5mmの沈線を縦位に施文。内面黒色。	
30	5	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線			沈線	巾2mmの条線を持ち太さ5mmの沈線が縦位区画。内面黒色。	
30	6	φ1-2mmの砂粒	10YR	暗褐色	良好	RL			縄文	太さ6mmの沈線で文様。同じ原体で刺突。	
30	7	φ1mm以下の砂粒	10YR	灰黄褐色	良好	LR					
31	1	φ1-3mmの砂粒 多量	10YR	暗褐色	不明	RL	縦位		縄文	太さ6mmの段線が縦位に貼付し縦位区画。	
34	1	φ1-3mmの小石 黄色軽石	2.5YR	橙色	良好	LR	横位		縄文・沈	口縁部は太さ8mmの段線で半円形の区画と渦巻き。区画内は沈線が充填。胴部は太さ3mmの沈線が3条対で縦位の区画と弧線で波状線を描く。全面に無節の縄文を施文。内面にスス付着。	
35	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	7.5YR	にぶい橙色	普通	Lr	縦・横		縄文		
36	1	φ1-2mmの小石・軽石	7.5YR	明褐色	普通	Lr			爪形	太さ3mmの沈線が4条で縦位区画。胴下部で太さ15mmの刻みのある粘土紐を施す。Lrの黒点の地文。	
37	1	φ1-2mmの小石 多量	7.5YR	褐色	不良	条線			段・沈	地文に2-3mm間隔の条線。口縁に太さ8mmの段線が廻る。口縁部に条線が施文。	
37	2	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	暗褐色	良好				段・沈	太さ9mmの段線が口縁に廻る。口縁部に太さ3mmの沈線が施文。	
37	3	φ1-3mmの小石・軽石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦位		縄文	太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。	
37	4	φ1mm前後の細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通				無文	丁寧な磨き。浅鉢。	
37	5	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通				無文	内外面磨き。浅鉢。	
38	1	φ1-2mmの小石 ・雲母	7.5YR	褐色	普通	LRL	縦位		縄文・沈	口縁部は太さ12mmの段線で上下区画・渦巻きをつくる。	
38	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	橙色	不良	RL	縦位		縄文・沈	口縁部は太さ7-8mmの段線で楕円区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。太さ6mmの沈線で口縁部文様帯を区画。区画内は太さ4mmの沈線が施文。	
38	3	φ1-2mmの小石・軽石・雲母	5YR	赤褐色	良好				沈線	太さ8mmの沈線で楕円区画。区画内を太さ5mmの沈線が充填。胴部と同じ工具で沈線が波状に施文。内面黒色。	
38	4	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好				段・沈		
38	5	φ1-2mmの小石 ・雲母	5YR	赤褐色	普通				沈線	巾2mmの平行沈線を条線状に縦位に施文。	
38	6	φ1-2mmの小石 ・雲母	7.5YR	橙色	普通	LR	縦位		縄文	太さ6mmの段線で弧状区画・渦巻き文をつくる。	

## 第1章 出土遺物の概要

I地区 土坑土器調査表

土坑 番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
38 7	φ1mmの砂粒・雲母多量	7.5YR	黄褐色	不良	RL	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。区画間に太さ6mmの沈線が波状に垂下。内面黒色。	
38 8	φ1mm以下の細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好				隆線	太さ10~12mmの隆線で渦巻き文。隆線は沈線で2条に分けられる。口唇にスス付着。	
38 9	φ1~2mmの小石・雲母・片岩多量	7.5YR	褐色	普通			瓜形		巾9mmの平行沈線が縦位に施文。横位の隆線下に巾10mmのキタビラ文・ベン先刺突文が沿う。	
38 10	φ1~2mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線が波状に貼付。	
38 11	φ1~2mmの小石・雲母多量	10YR	明黄褐色	普通			無文		内外面磨き。浅鉢。	
39 1	φ1~3mmの小石・砂粒	5YR	赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	口頸部を太さ16mmの隆帯で区画し太さ7mmの沈線で横位文様区画をつくる。胴部は太さ5mmの沈線が渦巻き状の文様を施文。	2-3・4-10 と同一
39 2	φ1~3mmの小石・砂粒	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁部を太さ16mmの隆帯で区画し太さ7mmの沈線で横位文様区画をつくる。胴部は太さ5mmの沈線が渦巻き状の文様を施文。	1-3・4-10 と同一
39 3	φ1~3mmの小石・砂粒	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	口頸部を太さ16mmの隆帯で区画し太さ7mmの沈線で横位文様区画をつくる。胴部は太さ5mmの沈線が渦巻き状の文様を施文。	1-2・4-10 と同一
39 4	φ1~3mmの小石・砂粒	5YR	赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	口頸部を太さ16mmの隆帯で区画し太さ7mmの沈線で横位文様区画をつくる。胴部は太さ5mmの沈線が渦巻き状の文様を施文。	1-2・3-10 と同一
39 5	φ1~2mmの細かい小石・雲母	10YR	暗褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆・沈	口縁部と頸部を太さ15mmの隆線で区画。口縁部は太さ4mmの沈線で区画しその中を太さ4mmの沈線が充填。胴部は縄文。	
39 6	φ1~3mmの小石多量	7.5YR	にぶい棕色	普通	沈線		沈線		巾4mmの平行沈線の条線。	
39 7	φ1~3mmの小石多量	10YR	黒褐色	普通	RL	縦位	縄文			
39 8		7.5YR	褐色							
39 9	φ1~3mmの小石・軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が3条対で縦位区画。	
39 10	φ1~3mmの小石・砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁部を太さ16mmの隆帯で区画し太さ7mmの沈線で横位文様区画をつくる。胴部は太さ5mmの沈線が渦巻き状の文様を施文。	1-2・3-4 と同一
39 11	φ1~3mmの小石・軽石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条対で胴部に縦位区画。	
39 12		7.5YR	にぶい褐色							
39 13	φ1~2mmの小石	5YR	灰褐色	普通	RL	斜位	縄文			
39 14	φ1~3mmの小石・軽石	7.5YR	褐色	普通			縄文	隆・沈	太さ20mmの隆線で口縁部文様帯を区画。隆線に沿って沈線が横位区画。胴部は太さ5mmの沈線が縦位に施文。	
39 15	φ1~3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良			無文		内面黒色。浅鉢。	
40 1	φ1~3mmの小石多量	2.5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾4mmの沈線が2条対で縦位区画。	
41 1	φ1~2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	Lr	斜位	熟赤	隆・沈	太さ12mmの隆線を頸部に廻して区画。胴部は太さ7mmの沈線が3条対で縦位区画。	

I地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
41	2	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	不良				隆・沈	隆線で横位の文様帯。その間に太さ6mmの沈線が施文。	
41	3	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	隆線	巾5mmの沈線が条線状に施文。	
42	1	φ1mm前後の細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好	RL	縦位	隆線	隆線	太さ6mmの隆線が2条側部に廻り胴部に波状に垂下。	
42	2	φ1mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好	Lr	横位	隆線	沈線	太さ3mmの沈線が胴部に廻り胴部を縦位に区画。	
42	3	φ1mm前後の細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好					口縁内側に太さ3mmの沈線を2条引きその間に刻みを施す。浅鉢。	
43	1	φ1mm前後の砂粒	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	横位	隆線	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位区画。外面スス付着。	
45	1	φ1-2mmの小石	5YR	黒褐色	良好	Lr	斜位	隆線	沈線	太さ5mmの沈線が胴部に廻る。胴部は方形区画。	
46	1	φ1mm前後の砂粒・雲母	7.5YR	暗褐色	良好			隆・沈		太さ7mmの隆線が口縁を上下に区画。その中に太さ4mmの沈線が充填。	報告書未掲載
46	2	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	隆線	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位区画。	報告書未掲載
47	1	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	隆線	沈線	太さ4mmの沈線で縦位区画。	
50	1	φ1-2mmの小石多量	5YR	暗赤褐色	普通			隆線	沈線	太さ3-4mmの沈線で渦巻き。縄文薄く不明。	
51	1	φ1-2mmの小石・繊維	5YR	にぶい赤褐色	良好			横線		太さ4mmの竹管で沈線と爪形文の變形。	
52	1	φ1-5mmの小石・軽石	7.5YR	にぶい褐色	不良			無文		横位の筋き。浅鉢。	
56	1	φ1mm前後の砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	斜位	隆線	隆線	太さ7mmの隆線で渦巻き・文様区画。	2と同一個体
56	2	φ1mm前後の砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	斜位	隆線	隆線	太さ7mmの隆線で渦巻き・文様区画。	1と同一個体
61	1	φ1mmの細かい砂粒・繊維	5YR	黒褐色	良好	LR	横位	横線	横線	隆線と横線を帯状に交互に施文。	
63	1	φ1-5mmの小石・軽石	5YR	明赤褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き。浅鉢。	
63	2	φ1-2mmの小石	7.5YR	褐色	良好				隆線	隆線で渦巻き・双円文様を口縁部に施文。	
63	3	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	良好	LR	縦位	隆線	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。区画間に波状の沈線が施文。内面丁寧な磨き。	
64	1	φ1-5mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好	Rf	横位	隆線	隆・沈	口縁部に太さ9mmの隆線で楕円区画と渦巻きをつくる。区画内は縄文施文の区画としない区画がある。φ4mmの円形突起が加えられる。胴部は沈線による縦位の区画。	
65	1	φ1-3mmの砂粒多量	5YR	明赤褐色	不良			隆・沈		隆線で渦巻き。	
66	1	φ1-3mmの小石・軽石	7.5YR	褐色	良好			隆線		口縁部に太さ8mmの隆線が付きφ4mmの孔が2ヶ単位であけられる。胴部は太さ4mmの沈線が施文。有孔筒付き土器。	
66	2	φ1-3mmの石英・小石・軽石	7.5YR	褐色	良好			隆線		太さ4mmの沈線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は沈線が縦位に施文。	
67	1	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通			隆・沈		隆線で楕円区画・双円状の文様を付ける。隆線に巾4mmの半截竹管で爪形文が施文。胴部は太さ4mmの沈線が横位に廻る。	
67	2	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	隆線	隆線	太さ6mmの隆線が波状に貼付。	

## 第1章 出土遺物の概要

I地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原状	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
67	3	φ1-3mmの小石・軽石	5YR	明赤褐色	普通	RI	横位	縄文		内面丁寧な磨き。	
68	1	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	不良			沈線		巾7mmの平行沈線が縦位区画後横位に施文。	
68	2	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	不良	Lr		燃赤	沈線	太さ4mmの沈線が横位区画。その間を波状沈線が施文。	
69	1	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	良好			沈線		太さ4mmの沈線が弧状に文様区画。その中を沈線が縦位に充填。内面横位の磨き。	
69	2	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	良好			沈線		太さ4mmの沈線で乱雑に横位区画。その中を沈線が縦位に施文。	
69	3	φ1mm前後の細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好			隆・沈		太さ5mmの隆線が手円状区画。区画内は太さ3mmの沈線が矢羽根状に施文。	
69	4	φ1-3mmの小石	2.5YR	赤褐色	良好	沈線		沈線		巾2mmの平行沈線を条線状に施文。	
69	5	φ1-3mmの小石・軽石	7.5YR	黒褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。	
69	6	φ1mm前後の砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	巾6mm4本の条線を波状に施文。	
69	7	φ1-5mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通			無文			
69	8	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	黒褐色	良好			無文		底面に網代文。	
70	1	φ1-3mmの小石・雲母・黄色軽石	2.5YR	赤褐色	普通	条線		沈線	沈線	太さ6mmの沈線で口縁部文様帯と胴部文様帯を区画。胴部は沈線の縦位区画間に条線が施文。	
70	2		7.5YR	褐色						三角柱状土製品	
70	3	φ1-3mmの小石・片岩・金雲母	7.5YR	褐色	良好	RL	縦位	爪形		太さ10mmの隆線が横位に廻り口縁部と胴部を区画。区画内は太さ3mmの沈線を波状に施文し部分的に爪形文が加えられる。胴部に太さ8mmの隆線が縦位に施文。	
70	4	φ1-3mmの小石・雲母多量	7.5YR	褐色	不良			爪形		太さ5mmの隆線と5mmの平行沈線で弧状文様。	
70	5	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線を縦位に貼付し胴部を区画。	
70	6	φ1-2mmの小石・金雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	爪形		太さ4mmの沈線が口唇に沿って廻り口縁部に弧状に施文。	
70	7	φ1mm前後の砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好			爪形		太さ6mmの隆線と3mmの結節沈線で渦巻き・幾何学文をつくる。	
70	8	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通			爪形		太さ3mmの沈線が横位・斜位に施文。	
70	9	φ1mm以下の細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			無文		外面スス付着。	
73	1	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			隆・沈		太さ12mmの隆線が横位に廻る。太さ2mmの沈線が縦位に施文。	
73	2	φ1mmの細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部に太さ4mmの沈線を2条引く。その間をφ6mmの円形刺突が施文。	
73	3	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	暗褐色	不良	RL	縦位	縄文		結節文様が2条縦位に施文。	中期初頭
73	4	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が横位に廻り2条対で縦位区画。	
75	1	φ1-5mmの小石		褐色	普通	RI		燃赤	沈線	太さ4mmの沈線を口唇部に廻し口縁部と胴部の文様帯を区画。口縁部は沈線が2条対で波状に、胴部は沈線が縦位に施文。	



I地区 土坑土器観察表

土坑 番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
75	2	φ1~3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線		太さ4mmの沈線で口縁部に渦巻き・弧線文を施文、内外面良く磨かれる。内面スス付着。洗鉢。	6と同一
75	3	細かい砂粒	5YR	褐色	良好	RL	横・斜	縄文	隆線	口縁部文線帯は太さ8mmの隆線が6条で半円状の区画と渦巻き。区画内は沈線が縦位に充填、内外面スス付着。口縁を肥厚させ太さ10mmの沈線で削り込むように横凹区画する。区画内は縄文が施文。	
75	4	φ1~3mmの砂粒・小石	5YR	明赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	口縁部は太さ7mmの隆線で弧状区画・太さ6mmの沈線で渦巻きをつくる。そこから沈線が2条対で胴部を縦位区画、内面黒色。	
75	5	φ1~2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ4mmの沈線で口縁部に渦巻き・弧線文を施文、内外面良く磨かれる。内面スス付着。洗鉢。	2と同一
75	6	φ1~3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線		太さ4mmの沈線で口縁部に渦巻き・弧線文を施文、内外面良く磨かれる。内面スス付着。洗鉢。	
75	7	φ1~2mmの砂粒・小石	7.5YR	褐色	良好			爪形		太さ10~14mmの隆線を弧状に貼付。隆線は割み・連続「コ」字状の割みがある。スス付着。	
75	8	φ1~3mmの小石・軽石	5YR	褐色	不良			縄文	沈線	太さ4mmの沈線が連弧状に施文。弧の接点に渦巻きが施文。内面黒色、スス付着。	
75	9	φ1~3mmの軽石	5YR	明赤褐色	良好			沈線	沈線	太さ3mmの沈線が3条対で縦位区画、区画内は沈線が矢羽根状に充填、口縁付近にスス付着。洗鉢。	
75	10	φ1~2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		内外面スス付着。洗鉢。	
75	11	φ1mm前後の砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		内外面スス付着。洗鉢。	
76	1	φ1~3mmの小石・軽石多量	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で縦位区画。内面丁寧な磨き。	
76	2	φ1mm以下の細かい砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好			沈線	沈線	全面に2~3mm間隔の沈線が条線状に施文。内面黒色。	
79	1	φ1~3mmの小石多量	5YR	赤褐色	普通			縄文	隆・沈	太さ12mmの隆線が口縁部を巡る。それ以下を太さ4mmの沈線が施文。	
79	2	φ1~3mmの小石	10YR	明黄褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で弧状区画。	
81	1	φ1~3mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	良好			沈線	沈線	太さ2mmの沈線が縦位の区画。区画間を沈線が縦位に施文。	
82	1	細かい砂粒・雲母	2.5YR	明赤褐色	良好			爪形		ペン先状の割突。	
82	2	φ1~2mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			爪形		巾6mmの平行沈線を縦位に施文。沈線間に隆線を貼付し爪形に形みを付ける。	
82	3	φ1~2mmの小石・金雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			爪形		巾7mmの平行沈線を施文。巾8mmの隆線を貼付し半截竹管の爪形文を施文。	
83	1	φ1~2mmの小石・繊維	7.5YR	明褐色	良好			縦線		φ13mmの注口を持つ。注口の廻りに粘土粒を貼付。粘土粒のまわりは爪形文を施文。注口土器。(関山)	
85	1	φ1~2mmの砂粒・繊維	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL・LR	横位	縦線		RL・LRの羽状縄文を施文。底部若干上げ底になる。	
86	1	φ1~2mmの砂粒・繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL・LR	横位	縦線		底部若干上げ底になる。	
87	1	φ1~2mmの小石・繊維	7.5YR	黒褐色	普通	RL・LR	横位	縦線		RL・LRの羽状縄文を施文。	
87	2	φ1~2mmの小石・繊維	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL・LR	横位	縦線		RL・LRの羽状縄文を施文。	
88	1	φ1~2mmの砂粒・繊維	10YR	暗褐色	普通			縦線		巾5mmの半截竹管の平行沈線と爪形文が交互に施文。	

## 第1章 出土遺物の概要

## I地区 土坑土器調査表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文原体	地文方向	地文分類	文様分類	文様の特徴	時期・備考
88	2	φ1-5mmの小石・織維	10YR	にぶい黄褐色	不良			縦維		巾6mmの半截竹管で爪形文・変形をつくる。	
88	3	φ1-3mmの小石・織維	10YR	黄褐色	普通			縦維		巾7mmの半截竹管で爪形文・変形をつくる。	
88	4	φ1-3mmの小石・織維	7.5YR	明褐色	普通	RL・LR	横位	縦維		羽状縄文で変形をつくる。	
88	5	φ1-5mmの砂粒・織維	7.5YR	にぶい褐色	普通			縦維		斜行縄文。表面やや磨滅している。	
88	6	φ1-5mmの砂粒・織維	7.5YR	暗褐色	普通	RL・LR	横位	縦維		附加糸2種の然りと単節LRの縄文を羽状縄文ふうに施文。	
88	7	φ1-5mmの小石・織維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL・LR	縦位	縦維		RL・LRの羽状縄文で変形をつくる。	
89	1	φ1-2mmの小石・織維	7.5YR	にぶい褐色	普通			縦維		口縁に磨歯状工具で刺突。その下に巾8mmの半截竹管で爪形文を施文。	
89	2	φ1-2mmの細かい砂粒・織維	7.5YR	にぶい褐色	普通			縦維		巾7mmの半截竹管で爪形文を施文。	
89	3	φ1-2mmの砂粒・織維	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縦維		地文にLRの縄文を施文。その後巾9mmの半截竹管で爪形文を施文。無文で表面に擦痕あり。	
89	4	φ1-2mmの砂粒・織維	10YR	褐色	普通			縦維			
89	5	φ1-2mmの小石・織維	7.5YR	暗褐色	普通	RL・LR	横位	縦維		RL・LRの羽状縄文で変形をつくる。	
89	6	φ1-2mmの小石・織維	7.5YR	褐色	普通	RL・LR	横位	縦維		RL・LRの羽状縄文で変形をつくる。	
89	7	φ1-3mmの小石・織維	7.5YR	暗褐色	不良			縦維		無文。表面に擦痕多く節面があられている。	
89	8	φ1-2mmの小石・織維	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縦維		斜行縄文。底部若干上げ底になる。	
89	9	φ1-2mmの細かい砂粒・織維	7.5YR	明褐色	普通			縦維		無文。表面に擦痕がある。土製品。	
90	1	φ1-3mmの小石・織維	7.5YR	褐色	普通			縦維		巾8mmの半截竹管で爪形文・変形をつくる。爪形文の交点にも粘土層が貼付。	報告書未掲載
90	2	φ1-3mmの小石・織維	7.5YR	褐色	普通			縦維		巾10mmの半截竹管で爪形文・変形をつくる。	報告書未掲載
90	3	φ1-3mmの小石多量	5YR	赤褐色	普通			無文			報告書未掲載
91	1	φ1-2mmの細かい砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	普通			縄文	隆線	隆線による突起。	
91	2	φ1-3mmの小石・黒雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通			縄文	隆線	高さ5mm程の隆線で楕円状文様。隆線は低く厚みない。	
91	3	φ1-3mmの小石・黒雲母・軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR		縄文	沈線	縄文を施文後高さ8mmの沈線で楕円区画。	
91	4	φ1-2mmの細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		外面スス付着。表面丁寧な磨き。器台。	
92	1	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	高さ10mmの沈線で楕円区画。沈線周りは肥厚し磨かれる。縄文が縦位に施文。	
92	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	高さ15mmの沈線で楕円区画。沈線周りは肥厚し磨かれる。縄文が横位に施文。	
92	3	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	高さ10-15mmの沈線で楕円区画。区画内は縄文が縦位に施文。	
92	4	φ1-2mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	高さ10-15mmの沈線で楕円区画。区画内は縄文が縦位に施文。	
92	5	φ1-3mmの砂粒・黄色軽石粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦・横	縄文	沈線	φ7-10mmの刺突が口縁にそろう。高さ4mmの沈線が口縁を半円状に区画。区画内に「∩」形の文様を施文。	

I地区 土坑土器観察表

土坑 番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
92	6	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ12mmの沈線で横内区画。沈線間は肥厚。	
92	7	φ1-3mmの砂粒・黄色軽石粒	5YR	明赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が口縁に平行して通る。沈線の両側は肥厚。	
92	8	φ1-2mmの砂粒・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通			沈線	隆・沈	太さ7mmの隆線で口縁を平円状に区画。区画内は太さ4mmの沈線が充填。頸部以下に同じ沈線が垂下。	
92	9	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が縦位に施文。	
92	10	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	にぶい橙色	普通				沈線	太さ10mmの沈線が垂下。沈線間は良く磨かれる。	
92	11	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい橙色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文帯。	
92	12	φ1-2mmの砂粒・黒雲母	5YR	赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ12mmの沈線が垂下。	
92	13	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	隆・沈	太さ7mmの隆線で文様を区画。その間を太さ5mmの沈線が充填。	
92	14	φ1-2mmの砂粒・小石	2.5Y	黒褐色	普通			沈線	隆・沈	巾10mm6本のハケ状の工具で条線を引く。	
92	15	φ1-2mmの砂粒	2.5Y	黒褐色	普通			無文		内面黒色。外面磨かれる。	
92	16	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	不良			無文		内面黒色。	
92	17	φ1-2mmの砂粒・繊維	7.5YR	褐色	不良			縦線		巾5mmの半截竹管の爪形文を菱形に文様をつくる。	
93	1	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	普通				沈線	太さ4mmの沈線で口縁部を平円状に区画。区画内を同じ沈線が充填。区画外側は太さ12mmの隆線が貼付。	
93	2	φ1-2mmの砂粒	5YR	暗赤褐色	良好				隆・沈	口縁部を隆線と沈線で平円状に区画。区画内頸部に太さ3mmの沈線が施文。	
93	3	φ1-2mmの砂粒・黄色パミス	5YR	赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁部を隆線と沈線で平円状に区画。区画内は縄文が充填。	
93	4	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい橙色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で口縁部に平円状の文様区画。	
93	5	φ1-2mmの砂粒多量・雲母・軽石	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	口縁に沿って太さ4mmの沈線が2条横位に通る。	
93	6	φ1-2mmの砂粒多量・雲母・軽石	10YR	褐色	不良	Lr	右巻	熱点	沈線	口縁に太さ5mmの沈線が2条通る。沈線間にφ3mmの円形刺突を施す。	
93	7	φ1-3mmの砂粒・黄色軽石	10YR	淡黄褐色	普通				隆・沈	太さ7mmの隆線が垂下。太さ4mmの沈線が縦位・弧状に施文。	
93	8	φ1-2mmの砂粒・雲母・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	条線		沈線	沈線	地文に条線を伴った太さ7mmの沈線が弧状に施文。	
93	9	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RRL	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が縦位に施文。沈線間は無文帯。縄文原体残跡。	
93	10	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	普通	RL	縦・斜	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が縦位に施文。	
93	11	φ1-3mmの砂粒・黄色軽石	5YR	暗赤褐色	普通	RI		熱点	沈線	太さ5mmの沈線を横位に施文。	
93	12	φ1-2mmの砂粒多量・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通				隆線	太さ30mmの粒土線を横位に貼付。太さ8mmの沈線を2条引く。	
93	13	φ1-2mmの砂粒・黄色軽石	7.5YR	にぶい橙色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ10mmの沈線で渦巻き。口縁部は肥厚。	
93	14	φ1-2mmの砂粒・黄色軽石	7.5YR	暗褐色	普通			爪形		巾14mmの爪形文で渦巻きをつくる。	
93	15	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		内面黒色。浅鉢。	

## 第1章 出土遺物の概要

## I地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期-備考
93	16	φ1-5mmの小石・石英・黄色軽石	7.5YR	にぶい橙色	良好				無文	内外面丁寧な磨き。黒炭を持つ。透鉢。	
97	1	φ1-3mmの砂粒多量	2.5YR	暗赤灰色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ10-15mmの沈線が口縁部を横円区画。沈線間は肥厚。	
97	2	φ1-2mmの砂粒・黒雲母	5YR	明赤褐色	普通				沈線	太さ6mmの沈線で文様帯を区画。区画内は斜位の沈線が充填。	
97	3	φ1-3mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通				沈線	口縁に沿って太さ8mmの隆線が貼付。隆線以下は巾4mmの平行沈線が横位に施文。	
97	4	φ1-3mmの砂粒・黄色軽石	5YR	にぶい橙色	普通				隆線	太さ8-15mmの隆線で渦巻きを描く。	
97	5	φ1-3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文		胴部全体に縄文を斜位に施文。	
97	6	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい橙色	普通				隆・沈	太さ7mmの隆線と太さ2mmの沈線で文様。	
97	7	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	条線			沈線	巾12mm6本の纏帯状の条線の曲線。	
97	8	φ1-2mmの砂粒	10YR	灰黄褐色	良好				隆・沈	太さ9mmの隆線が横位に貼付。隆線間を太さ2mmの沈線が横斜状に施文。	
97	9	φ1-2mmの砂粒・雲母・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦・斜	縄文	沈線	太さ6mmの沈みの沈線が横位に施文。沈線間は無文部と縄文施文部が交互につくられる。底部近くは全体に磨かれ無文。	
97	10	φ1-3mmの砂粒・黄色軽石	7.5YR	橙色	普通	RL			隆・沈	太さ6mmの隆線で長楕円の区画。区画内は隆線に沿って太さ6mmの沈線が廻る。	
97	11	φ1-3mmの砂粒・黄色軽石	7.5YR	橙色	普通	Lr	縦・斜	縄文	沈線	太さ8mmの隆線で胴部無文部と縄文施文部の文様をつくる。	
97	12	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	明黄褐色	不良				隆線	太さ10-20mmの隆線で渦巻き文。	
97	13	φ1-5mmの砂粒・小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が垂下し縄文部と無文部を区画。	
97	14	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR			縄文	太さ7-10mmの沈線で文様を区画。	
99	1	φ1-5mmの砂粒・黒雲母多量	2.5YR	にぶい赤褐色	普通				隆線	太さ15mmの隆線が横位に口縁を廻る。	
99	2	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	普通				爪形	隆線と太さ2mmの沈線で幾何学文をつくる。	
99	3	φ1-3mmの砂粒・黒雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好				無文		
99	4	φ1-2mmの砂粒・黄色軽石	5YR	橙色	普通				無文		
100	1	φ1-2mmの砂粒	2.5Y	浅黄色	良好	RLR	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文部。	
101	1	φ1-3mmの小石・繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	縦線	ループ文が帯状に施文。	
101	2	φ1-2mmの小石・繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通				縦線	巾9mmの平截竹管で爪形文。	
102	1	φ1-3mmの砂粒	5YR	明赤褐色	不良					渦巻き状の文様を持つ把手。	
102	2	φ1-3mmの砂粒・雲母多量	10YR	にぶい黄褐色	普通				隆線	太さ8mmの隆線が弧状に施文。	
102	3	φ1-2mmの砂粒・黒雲母	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で垂下。	
102	4	繊維・軽石	10YR	黄褐色						軽石製品。	
102	5	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	にぶい橙色	不良				無文		
103	1	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい橙色	普通	Lr	熱赤	隆線		太さ7mmの隆線が横位に廻る。	

I地区 土 土 土 器 観 察 書

土坑 番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 取付	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
103	2	φ1~2mmの砂粒	7.5YR	にぶい黄色	普通			赤赤	沈線	巾15mmの平行沈線間に刺突を加える。	
103	3	φ1~2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	斜位	縄文	沈線	太さ5~12mmの沈線が縦位に施文。	
103	4	φ1~2mmの砂粒・繊維	7.5YR	褐色	普通	粗粒		縄文	横線	粗み紐縄文が施文。	
106	1	φ1~3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい黄色	普通				沈線	太さ10~15mmの沈線で渦巻き。	
110	1	φ1~3mmの小石・雲母・砂粒	10YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は隆線と沈線で楕円区画・渦巻き状の文様をつくる。胴部は太さ7mmの沈線が縦位区画し波状に垂下する。	
110	2	φ1~2mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	縦・横	縄文	隆線	口縁部に太い隆線で楕円区画を作り、横状把手を付ける。区画内は刺突が充満。	
110	3	φ1~3mmの砂粒・黄色軽石	2.5Y	暗オリーブ色	普通	赤線		沈線	沈線	口縁部に太さ8mmの沈線を横位に返しφ7mmの刺突を指す。	
110	4	φ1~5mmの小石多量	10YR	暗褐色	普通	赤線		隆・沈	隆・沈	太さ15mmの隆線が縦位に貼付。隆線上に筋みあり。	
110	5	φ1~2mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線で渦巻き文。胴部以下は太さ4mmの沈線が縦位に施文。隆帯で胴部に横状把手をつくる。口縁部は無文。	
110	6	φ1~3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通				隆・沈	巾15mm 6本の赤線が全面に引かれる。	
110	7	φ1~3mmの砂粒・雲母	2.5Y	黒褐色	良好	赤線		沈線		内面黒色。	
110	8	φ1~3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良				無文		
112	1	φ1~3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆線	口縁部に太さ8mmの隆線で渦巻きと楕円区画を作る。胴部は縄文施文の区画を明け縦位の区画を作る。内面黒色付着。	
113	1	φ1~3mmの小石多量・雲母	7.5YR	褐色	普通				爪形	太さ12mmの隆線と太さ4mmの沈線で弧状の文様をつくる。	
113	2	φ1~3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好				爪形	太さ5~6mmの沈線が弧状・方形に施文。区画間に粘土粒の隆帯がみられる。	
113	3	φ1~3mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好				爪形	太さ5~6mmの沈線で弧状に文様が描かれる。	
113	4	φ1~3mmの砂粒・雲母	7.5YR	明褐色	良好				爪形	太さ5~6mmの沈線で胴部文様帯を方形に区画。区画内は太さ3~4mmの沈線が矢羽根状に充満。口縁部に粘土粒の円形刺突がつく。	
113	5	φ1~3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	不良				爪形	太さ5~10mmの沈線が施文。	
113	6	φ1~5mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	太さ4mmの沈線と太さ6mmの隆線で弧状の文様をつくる。	
113	7	φ1~2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	太さ6mmの沈線が弧状に引かれる。	
113	8	φ1~2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL		爪形	爪形	太さ4mmの沈線が縦位・弧状に文様をつくる。	
113	9	φ1~2mmの砂粒	10YR	黒褐色	良好				爪形	巾8mmの平行沈線が縦位に施文。突起に筋みがある。	
113	10	φ1~2mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	普通				沈線	太さ4mmの沈線が縦位に施文。	
113	11	φ1~2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通				無文	内外面巻き。	
113	12	φ1~3mmの砂粒・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通				無文		
114	1	φ1~3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好				沈線	隆線と沈線を組み合わせ楕円状・渦巻き文様をつくる。深澤突起。	

## 第1章 出土遺物の概要

## I地区 土坑土器類調査

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	胎文 原形	胎文 方向	胎文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
121	1	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	隆線	巾18mmの隆線が縦位に垂下。隆線上は沈線が2条縦位に引かれる。	
121	2	φ1-2mmの砂粒・雲母多量	7.5YR	にぶい褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で渦巻き。	
122	1	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	縄文	沈線	太さ7-9mmの浅い沈線を縦位に施文。	
123	1	φ1-2mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好	Rl		縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位区画・渦巻きをつくる。	
123	2	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良				沈線	太さ5mmで2-3mmの間隔を持つ浅い沈線で縦位区画。	
123	3	φ1-5mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線		巾2-3mmの平行沈線。	
124	1	φ1-2mmの砂粒・小石	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が縦位に廻る。	
124	2	φ1-3mmの小石・砂粒多量	7.5YR	暗褐色	良好			隆・沈		巾6mmの隆線が3本で弧状に貼付。胎文は太さ2mmの沈線が施文。	
124	3	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	不良	Rl		隆・沈	沈線	太さ5mmの沈線が3条施文。	
124	4	φ1-5mmの砂粒・小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	縄文胎文部と2mm間隔の沈線が縦位に施文。	
126	1	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通				隆線	有孔脚付き土器。口縁は、ほぼ垂直に立ち上がる。頸部に筒が廻り2半位の橋状の把手を持つ。筒には、把手側を二分する位置に2対の孔があらられる。胴部は、太さ7mmの隆線が弧状に貼付。	
127	1	φ1-2mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ10-20mmの隆線で渦巻き状の文様。胴部は太さ5mmの沈線が2条対で垂下。沈線間は無文帯。内外面良く磨かれる。	
127	2	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		太さ12-16mmの沈線が2条対で縦位区画。内面下半黒色。	
128	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ12mmの沈線が口縁に沿って1条廻る。	
128	2	φ1-5mmの小石・黄色軽石・雲母	7.5YR	灰褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	口縁部は小波状を呈する。口唇部は無文。太さ10mmの沈線が口縁に沿って廻る。	
128	3	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	灰赤色	良好	RL		縄文	沈線	口縁部は小波状を呈する。口唇部は無文。太さ10mmの沈線が口縁に沿って廻る。	
128	4	φ1-5mmの砂粒・小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RLR		縄文	隆線	太さ10mmの隆線が胴部文様を方形に区画。	
128	5	φ1-5mmの砂粒・小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL		縄文	隆線	太さ15mmの隆線が口縁部文様帯を楕円形に区画。	
129	1	φ1-3mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR		縄文	隆・沈	太さ10-20mmの隆線が口縁、胴部に渦巻き文様をつくる。隆線の両側に太さ10mmの沈線が施文。	
129	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で楕円区画。	
129	3	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LRL	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が2条対で垂下。	
129	4	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	LR		縄文	隆・沈	太さ5-10mmの沈線で渦巻き文様。沈線間は隆線になる。	
130	1	φ1-5mmの砂粒・雲母	10YR	灰黄褐色	不良			隆・沈		沈線と隆線で渦巻き。口縁部に橋状の把手がつく。浅鉢型土器。	
130	2	φ1-5mmの小石・砂粒	10YR	灰黄褐色	普通	RL		縄文	沈線	太さ8mmの沈線で口縁部に楕円形の区画。	
130	3	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通				沈線	浅い沈線で口縁部に文様帯を区画。	
130	4	φ1-3mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		指頭による横位のナダ。内面黒色。	
131	1	φ1-5mmの砂粒多量	2.5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾6mmの平行沈線がくびれ部に施文。内面黒色。	

I地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考	
131	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が口縁に平行に廻る。		
131	3	φ1mm以下の細かい砂粒多量	7.5YR	灰褐色	普通				沈線	太さ10mmの沈線が口縁下に廻る。		
131	4	φ1-6mmの小石・雲母	5YR	にぶい橙色	普通	条線			沈線	巾2mmの平行沈線の条線。		
131	5	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	橙色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。沈線間に無文と縄文帯をつくる。		
131	6	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	灰黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの太い沈線で胴部文様帯を区画。		
131	7	φ1-5mmの砂粒・小石	7.5YR	橙色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が縦位に施文。沈線間は無文。		
131	8	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	にぶい橙色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で縦位区画・放状をつくる。		
131	9	φ1-2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で縦位区画。		
131	10	φ1-2mmの砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位区画。		
131	11	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	LR	縦位	縄文	隆線			
131	12	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	良好	条線			沈線	巾6mmのハケ状の原形が横位に施文。ハケ状の沈線は浅い。φ5-10mmの孔が表裏から穿たれるが普通しない。		
131	13	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	内外面良く磨かれる。		
131	14	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	無文。内外面良く磨かれる。		
132	1	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線で縦位に文様を区画。		
132	2	φ1-2mmの砂粒	10YR	灰黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が対で縦位区画。沈線間に無文帯を持つ。		
132	3	φ1-2mmの砂粒	5YR	灰褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線で文様を区画。		
132	4	φ1-6mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	条線			沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位区画。		
132	5	φ1-2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ8mmの沈線が3条対で垂下し縦位区画。沈線間は隆起する。		
133	1	φ1-3mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	条線			沈線	隆線	巾3mmの沈線を条線にする。巾広の隆線で楕円区画。区画内を条線が光環。	
133	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	灰黄褐色	良好	条線			沈線	隆線	巾3mmの条線を施文。	
133	3	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい橙色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線で文様を区画。		
133	4	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい橙色	普通	条線			沈線	隆線	巾6mmの平行沈線の条線。太さ12mmの沈線が2条対で縦位区画。	
134	1	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	不良				沈線	太さ18mmの沈線で渦巻き文様。渦巻き内に赤色塗彩。	2と同一	
134	2	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	不良				沈線	太さ18mmの沈線で渦巻き文様。渦巻き内に赤色塗彩。	1と同一	
135	1	φ1-5mmの砂粒・黄色軽石	7.5YR	橙色	不良	LR	縦位	縄文	隆・沈	隆線と沈線で口縁部を楕円区画。口縁部文様下に太さ18mmの沈線が廻る。		
135	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RLR	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの沈線で楕円区画・渦巻き文様をつくる。縄文取付は複筋。		
135	3	φ1-3mmの砂粒	2.5YR	にぶい黄色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線に沈線が沿うように半円区画・渦巻き文様をつくる。		
135	4	φ1-5mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい橙色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部に太さ6mmの沈線で楕円・渦巻き文様をつくる。頸部以下は同じ太さの沈線が放状・直線に垂下。		

## 第1章 出土遺物の概要

## I地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文原体	地文方向	地文分類	文様分類	文様の特徴	時期・備考
135	5	φ1-5mmの砂粒・小石	7.5YR	橙色	不良	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で口縁部に渦巻も状の文様。口縁部以下に太さ6mmの沈線が2条垂下。	
135	6	φ1-3mmの小石	7.5YR	橙色	不良	条線		沈線	沈線	巾2mmの平行沈線の条線。太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。	
135	7	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が3条対で胴部を垂下。	
135	8	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	にぶい橙色	不良	LRL	縦位	縄文		縄文原体は復節。	
130	1	φ1-3mmの細かい砂粒・雲母	7.5YR	灰褐色	普通				隆・沈	太さ8mmの隆線で文様を区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。胴部との区画に太さ12mmの隆線が廻る。胴部は無文帯をつくる。	
130	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	灰褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で口縁部を廻る。沈線間にはφ9mmの円形刺突が加えられる。	
130	3	φ1-4mmの小石多量	7.5YR	灰褐色	良好	条線		沈線	沈線	巾2mmの沈線を条線状に施文。口縁下に太さ9mmの沈線が1条施文。	
130	4	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で口縁部文様帯を区画。口縁に沿って沈線が廻る。沈線内は刺突が加えられる。	
130	5	φ1-2mmの砂粒・黄色軽石	3.5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	斜位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が横位に廻る。	
130	6	φ1-3mmの砂粒・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が垂下。	
130	7	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい橙色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で垂下。	
130	8	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で文様を施文。	
140	1	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁を太い隆線で楕円区画し、渦巻きを付ける。区画内は縄文を充填。胴部は太さ3mmの沈線が縦位に区画。	
140	2	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	明褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が2条対で縦位区画。区画間は無文。	
140	3	φ1-2mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ6mmの隆線で半円状の文様区画。隆線の両側に太さ5mmの沈線が施文。	
140	4	φ1-3mmの砂粒・雲母・黄色軽石	5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5-7mmの沈線で長楕円の文様。区画内は縄文が充填。内面黒色。	
140	5	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	明褐色	普通				隆・沈	太さ10mmの沈線と隆線で渦巻も状の文様。	
140	6	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通				無文	太さ10mmの沈線が2条で横位に廻し沈線間を隆起させる。	
141	1	φ1-5mmの砂粒・小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ10mmの沈線と隆線で楕円区画・渦巻も文様をつくる。内外面割成付着。	
141	2	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	良好				隆・沈	隆線が横位把手をつくる。	
141	3	φ1-2mmの砂粒	5YR	橙色	良好				隆線	太さ10mm以上の隆線で渦巻も・把手などをつくる。	
141	4	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部文様帯は太さ8-10mmの沈線と隆線により楕円区画・渦巻もをつくる。口縁部に沈線が1条廻る。胴部は太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。内面良く磨かれる。	
141	5	φ1-3mmの砂粒多量	5YR	明赤褐色	普通	RLR	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位に施文。沈線間は無文。内面スス付着。	
141	6	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	橙色	不良				無文		



I地区 土坑土器類表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
144	1	φ1~3mmの小石・繊維	7.5YR	明褐色	良好	RL・LR		縦線	縦線 土器	RL・LRの羽状縄文。巾6mmの平行沈線と巾2mmの半載竹管を2本合わせた条線でコンパス文を交互に施文。口縁部以下を羽状縄文が施文。	2-3-4と同一
144	2	φ1~3mmの小石・繊維	7.5YR	暗褐色	良好	RL・LR		縦線	縦線 土器	RL・LRの羽状縄文。巾6mmの平行沈線と巾2mmの半載竹管を2本合わせた条線でコンパス文を交互に施文。口縁部以下を羽状縄文が施文。	1-3-4と同一
144	3	φ1~3mmの小石・繊維	7.5YR	暗褐色	良好	RL・LR		縦線	縦線 土器	RL・LRの羽状縄文。巾6mmの平行沈線と巾2mmの半載竹管を2本合わせた条線でコンパス文を交互に施文。口縁部以下を羽状縄文が施文。	1-2-4と同一
144	4	φ1~3mmの小石・繊維	7.5YR	暗褐色	良好	RL・LR		縦線	縦線 土器	RL・LRの羽状縄文。巾6mmの平行沈線と巾2mmの半載竹管を2本合わせた条線でコンパス文を交互に施文。口縁部以下を羽状縄文が施文。	1-2-3と同一
145	1	φ1~2mmの砂粒・雲母	2.5YR	赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ4mmの沈線が口縁を楕円状に区画。区画内は沈線が縦位に施文し光塊。頸部との区画に太さ10mmの隆帯が横位に通る。	
145	2	φ1~5mmの小石・砂粒	5YR	黒褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で文様を区画。内面黒色。	
145	3	φ1~3mmの砂粒	5YR	暗赤褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き。浅鉢。	
145	4	φ1~2mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き。	
147	1	φ1~3mmの砂粒	7.5YR	明褐色	普通	Lr	縦位	隆帯	隆帯	太さ6mmの隆帯で渦巻きの文様。内面スス付き。	
147	2	φ1~3mmの砂粒・雲母・黄色軽石	5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	隆帯	太さ6~8mmの隆帯が2条対で縦位に施文。	
147	3	φ1~3mmの砂粒・黄色軽石	5YR	明赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆帯	太さ6~8mmの隆帯が2条対で縦位に施文。	
148	1	φ1~5mmの砂粒・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が3条で縦位に施文。内面良く磨かれる。スス付き。	
148	2	φ1~3mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線		太さ4mmの沈線が渦巻状になる。	
148	3	φ1~3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ8~10mmの隆帯で文様。頸部に太さ9mmの沈線が縦位に文様を施文。	
149	1	φ1~3mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	条線		沈線	沈線	巾2mmの平行沈線で地文を条線状に施文。太さ5mmの沈線で半円状に文様を施文。内面スス付き。	報告書未掲載
149	2	φ1~2mmの砂粒 多数	5YR	にぶい赤褐色	不良	LR	縦位	縄文	隆帯	太さ6~8mmの隆帯が2条対で弧状に縦位に貼付。	報告書未掲載
149	3	φ1~5mmの砂粒・小石	5YR	にぶい褐色	良好			縄文	沈線	太さ4mmの沈線で文様。内面スス付き。	報告書未掲載
149	4	φ1~3mmの砂粒・小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		内面良く磨かれる。	報告書未掲載
149	5	φ1~2mmの砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	報告書未掲載
150	1	φ1~3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部に太さ12mmの沈線が横位に通る。	
150	2	φ1~3mmの小石	10YR	明赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条で「U」字状に文様を描く。	
153	1	φ1~2mmの砂粒・繊維	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL・LR		縄文		羽状縄文を施文し菱形をつくる。内面黒染。	
154	1	φ1~3mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6~8mmの沈線が垂下し縦位の区画。沈線間は無文帯。	報告書未掲載
156	1	φ1~2mmの砂粒	5YR	灰褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が3重で口唇に沿って放射状に施文。	報告書未掲載

## 第1章 出土遺物の概要

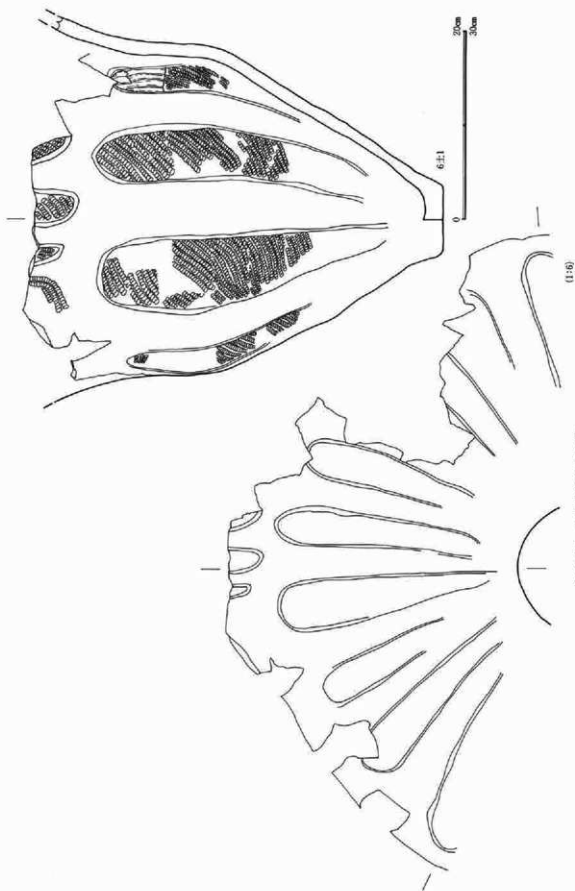
## I地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
156	2	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文		縄文を乱雑に施文。	報告書未掲載
158	1	φ1-5mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		縦位にへら削り状のナデ。内面スス付き。	
159	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4-6mmの沈線で椀口の区画。区画内に縄文が充填。口唇に把起を伴つ。	報告書未掲載
159	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で頸部に縦位の区画。区画間にワラビ手状の文様。	報告書未掲載
159	3	φ1-2mmの砂粒	5YR	明赤褐色	普通			無文			報告書未掲載
163	1	φ1-5mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆線	縄文を羽状に施文。太さ7mmの隆線で縦位・渦巻き状の文様を貼付。内面スス付き。	
165	1	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい橙色	普通	Lr	縦位	赤赤	無文	全体に良く磨かれる。内面黒色。洗鉢。	
167	1	φ1-2mmの砂粒・黄色軽石	2.5YR	明赤褐色	良好			無文			
167	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位区画。	
168	1	φ1-2mmの砂粒・雲母・繊維	7.5YR	褐色	普通	RL+RI	横位	縦線		付加糸1種の縄文が施文。	
168	2	φ1-2mmの砂粒・石英・雲母・繊維	7.5YR	褐色	普通	RL/LR	横位	縦線		羽状縄文で変形をつくる。内面良く磨かれる。	
168	3	φ1-3mmの砂粒・繊維	5YR	明赤褐色	不良	RL/LR	横位	縦線		羽状縄文で変形をつくる。内面黒色。	
170	1	φ1-3mmの砂粒・雲母・繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通			縦線	繊維	巾8mmの帯状工具で削突。口唇に垂直。口縁に変形をつくる。	
170	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線		沈線		巾2mmの平行沈線を条線状に施文。	
170	3	φ1-2mmの砂粒・石英・繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL/LR	縦位	縦線	繊維	羽状縄文で変形をつくる。	
170	4	φ1-3mmの砂粒	5YR	赤褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ6-9mmの隆線で口縁を椀口区画・渦巻き文様をつくる。区画内は太さ7mmの沈線が充填。頸部以下は隆線が2本で垂下し縦位区画。	
173	1	φ1-2mmの砂粒・雲母	2.5YR	暗赤褐色	良好			無文		口唇直下に太さ15mmの沈線が廻る。内外面横位に良く磨かれる。洗鉢。	報告書未掲載
173	2	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8-10mmの隆線で椀口・渦巻きをつくる。	報告書未掲載
173	3	φ1-3mmの砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5-6mmの沈線が2条垂下し縦位の区画。	報告書未掲載
173	4	φ1-3mmの小石	7.5YR	橙色	不良	LR	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線を波状に貼付し垂下。	報告書未掲載
173	5	φ1-3mmの砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条垂下し縦位の区画。沈線間は無文。	報告書未掲載
173	6	φ1-3mmの砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が3条垂下し縦位の区画。沈線間は無文。	報告書未掲載
173	7	φ1-3mmの砂粒・黄色軽石	7.5YR	明褐色	不良			無文		全体に磨滅している。	報告書未掲載
174	1	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	明褐色	良好				沈線	太さ10mmの沈線で渦巻き文。内面黒色。	報告書未掲載
174	2	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で垂下し縦位の区画。沈線間は無文。	報告書未掲載
174	3	φ1-2mmの砂粒・雲母	2.5Y	黒褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が口縁部に廻る。	報告書未掲載
174	4	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	沈線による渦巻き。	報告書未掲載
174	5	φ1-5mmの小石多量	10YR	黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で垂下し縦位の区画。沈線間は無文。	報告書未掲載

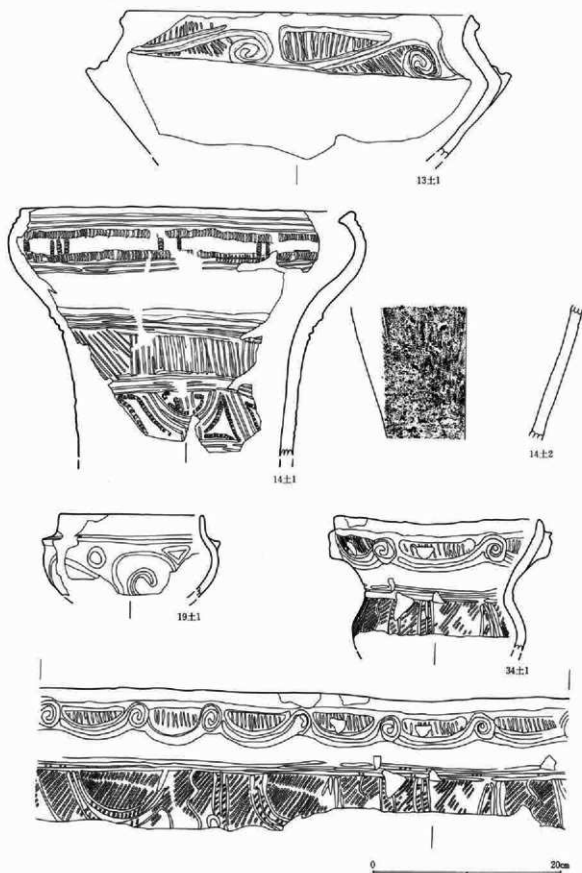
## 第1節 I地区の出土遺物

I地区 土坑土器観察表

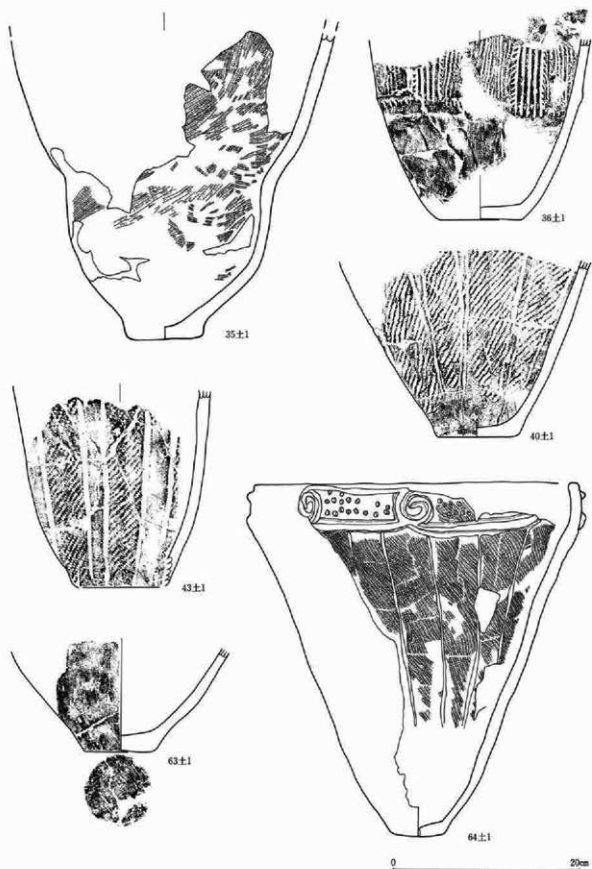
土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文原体	施文方向	地文分類	文様分類	文様の特徴	時期・備考	
174	6	φ1-3mmの小石	10YR	黄褐色	不良	RL		縦位	縄文	沈線	大き10mmの沈線で口縁部に文様帯を区画。胴部は大き8mmの沈線が2条対で垂下し縦位の区画。	報告書未掲載
174	7	φ1-3mmの小石	10YR	明黄褐色	不良				隆線	大き10-15mmの隆線で楕円区画。全体に磨滅が多い。	報告書未掲載	
174	8	φ1-3mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL		縦位	縄文	沈線	大き6mmの沈線が垂下し縦位の区画。	報告書未掲載
175	1	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	明褐色	良好	RL		縦位	縄文	隆線	大き8mmの隆線が波状に貼付され垂下。内面スス付着。	報告書未掲載
178	1	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	褐色	良好	LR		縦位	縄文	沈線	大き6mmの沈線で口縁部に楕円の文様帯区画。胴部は2条対で垂下し縦位の区画。外面スス付着。	報告書未掲載
178	2	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	沈線	大き3mmの沈線が斜位・波状に施文。	報告書未掲載
178	3	細かい砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR		縦位	縄文	沈線	大き6mmの沈線が2条対で垂下し縦位の区画。区画内は波状の沈線が垂下。内外面に黒煤。4・6と同一個体。	報告書未掲載
178	4	細かい砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR		縦位	縄文	沈線	大き6mmの沈線が2条対で垂下し縦位の区画。区画内は波状の沈線が垂下。内外面に黒煤。5・6と同一個体。	報告書未掲載
178	5	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良				縄文	隆・沈	沈線と隆線で口縁部文様帯を区画。全体に磨滅が多く態り不明。	報告書未掲載
178	6	細かい砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR		縦位	縄文	沈線	大き6mmの沈線が2条対で垂下し縦位の区画。区画内は波状の沈線が垂下。内外面に黒煤。4・5と同一個体。	報告書未掲載
178	7	φ1-3mmの小石・雲母・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	良好				無文		内面良く磨かれる。底外面中心部は磨っているような感じ。	報告書未掲載



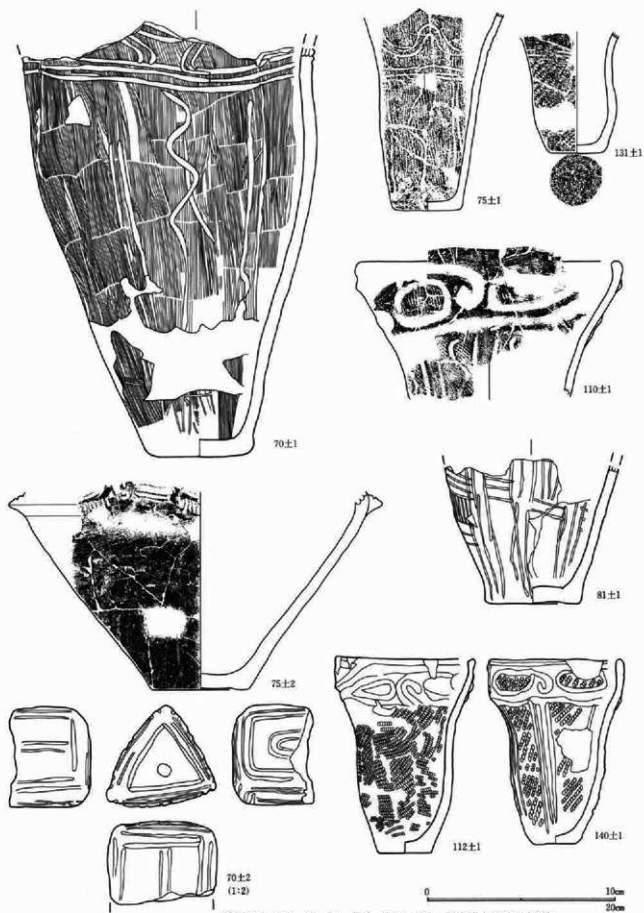
第130図 6号土坑出土遺物



第131図 13・14・19・34号土坑出土遺物



第132図 35・36・40・43・63・64号土坑出土遺物

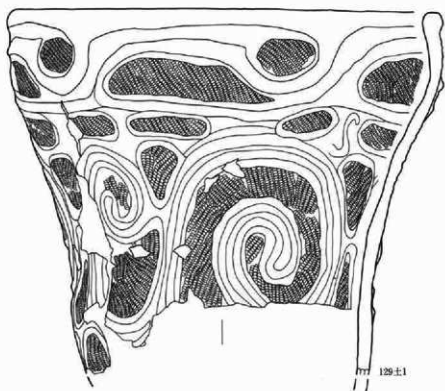
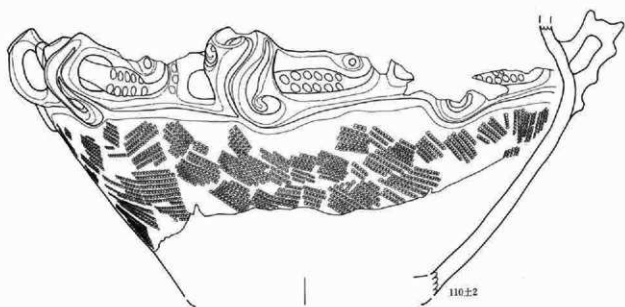


第133图 70·75·81·110·112·131·140号土坑出土遗物



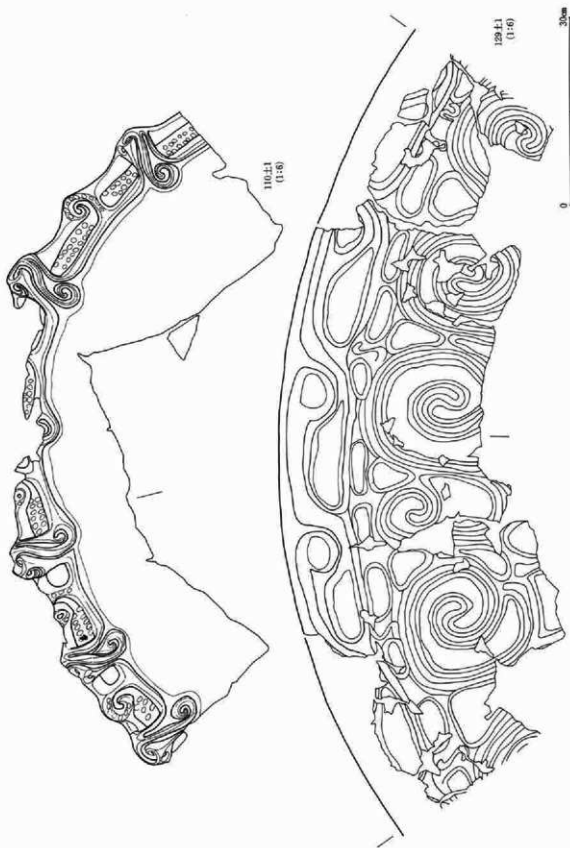
第134図 75・127・128・140号土坑出土遺物





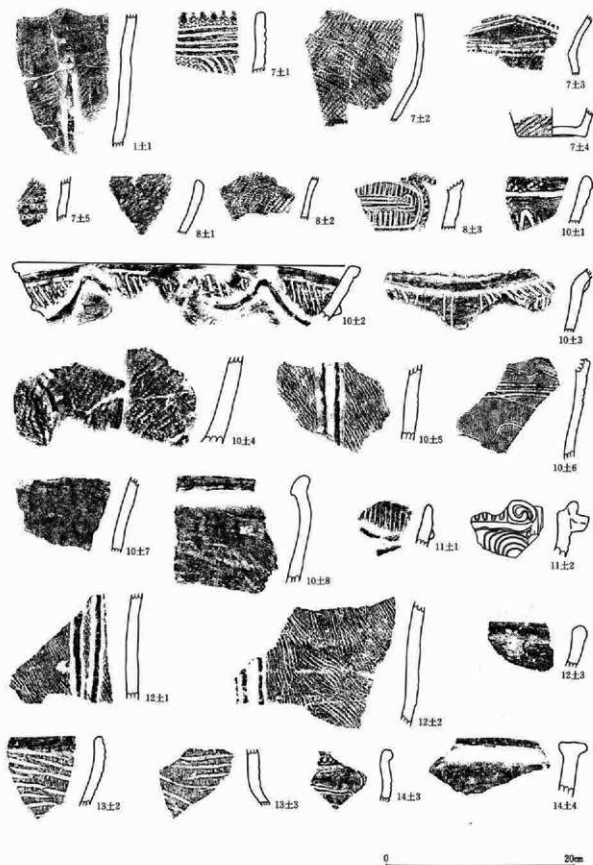
0 20cm

第135図 110・129号土坑出土遺物



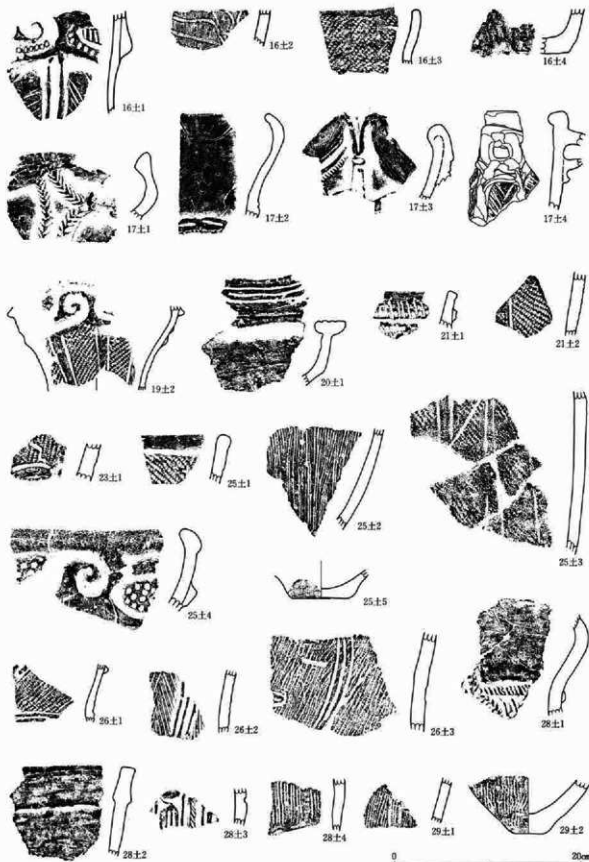
第136図 110・129号土坑出土遺物

第1節 I地区の出土遺物

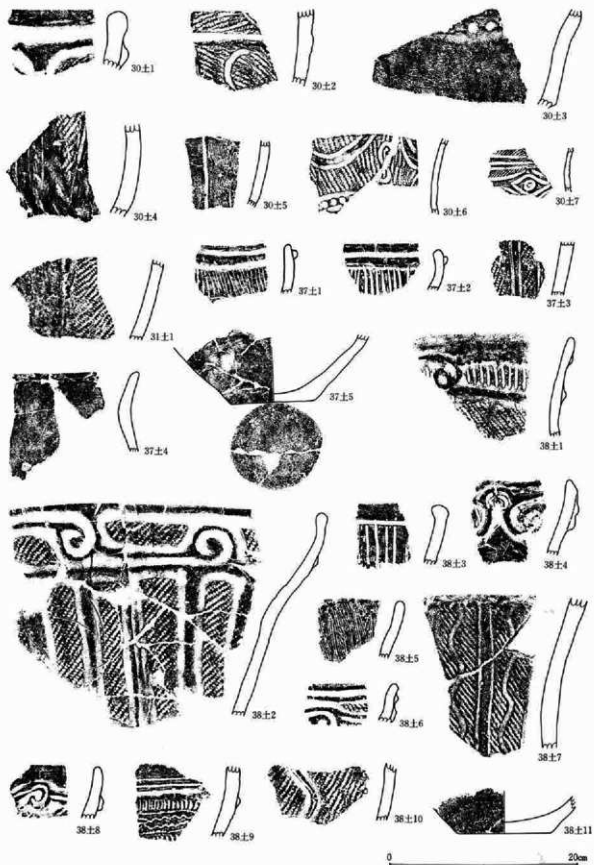


第137图 1・7・8・10-14号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



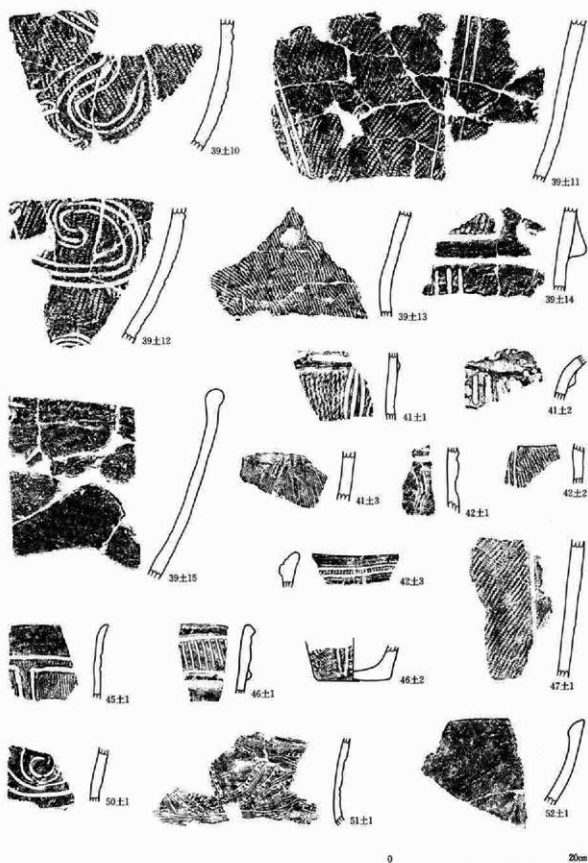
第138図 16・17・19～21・23・25・26・28・29号土坑出土遺物



第139図 30・31・37・38号土坑出土遺物

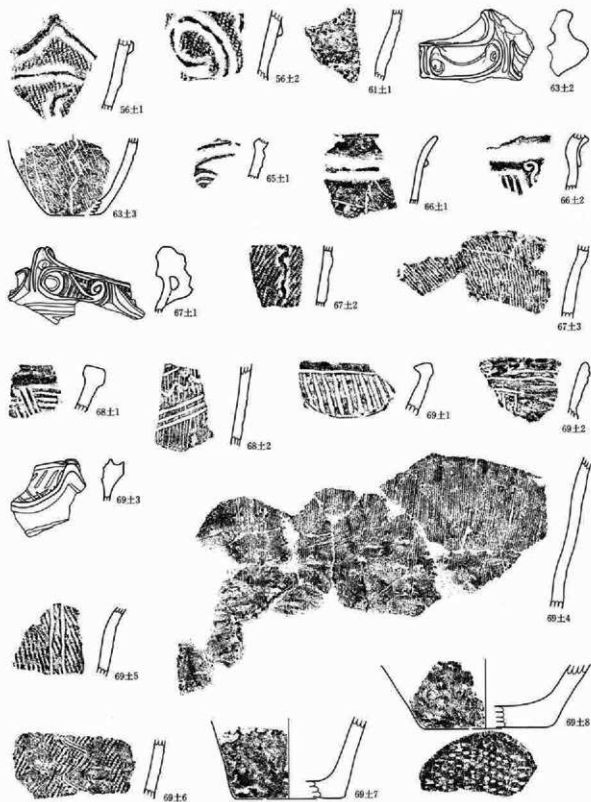


第140図 39号土坑出土遺物



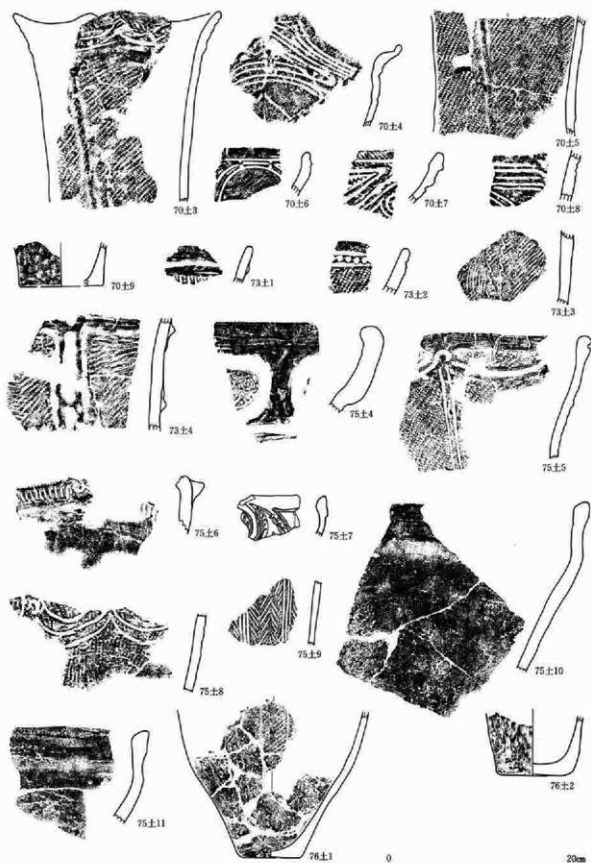
第141図 39・41・42・45~47・50~52号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



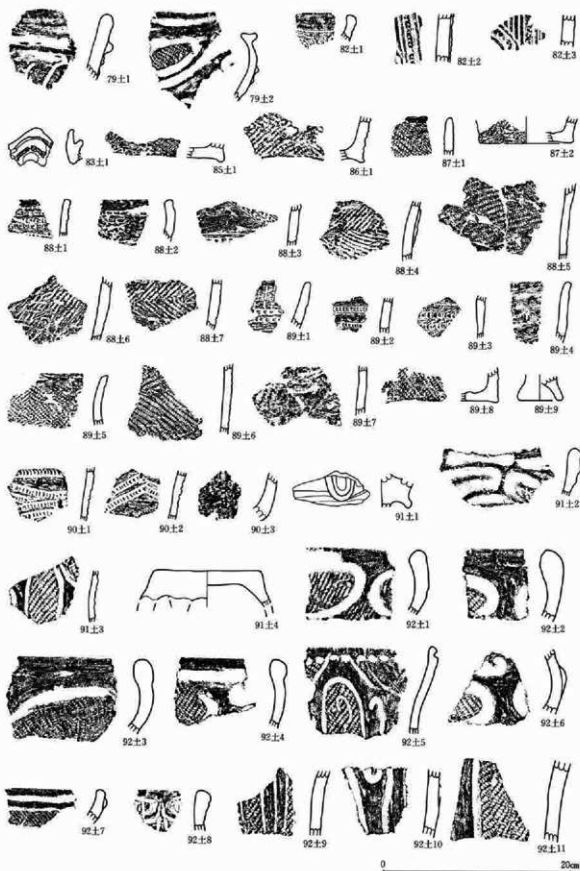
第142図 56・61・63・65～69号土坑出土遺物



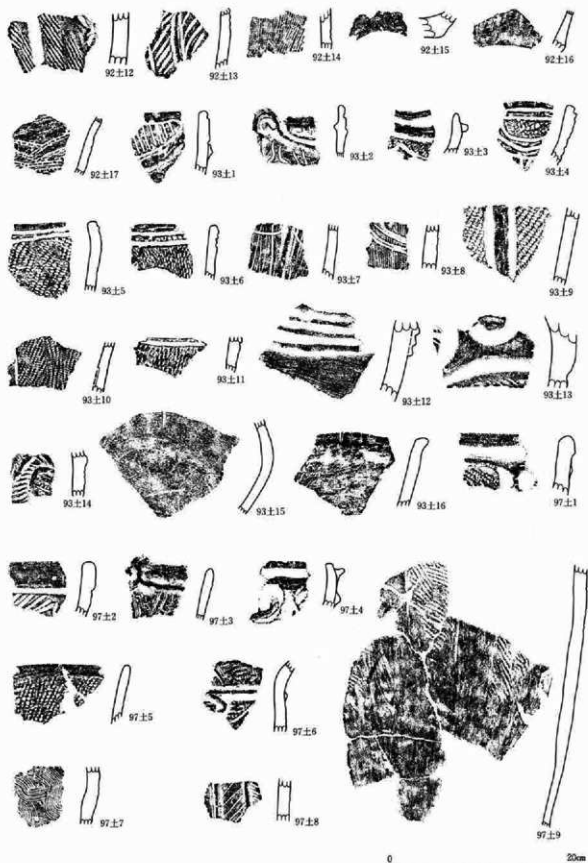


第143图 70・73・75・76号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要

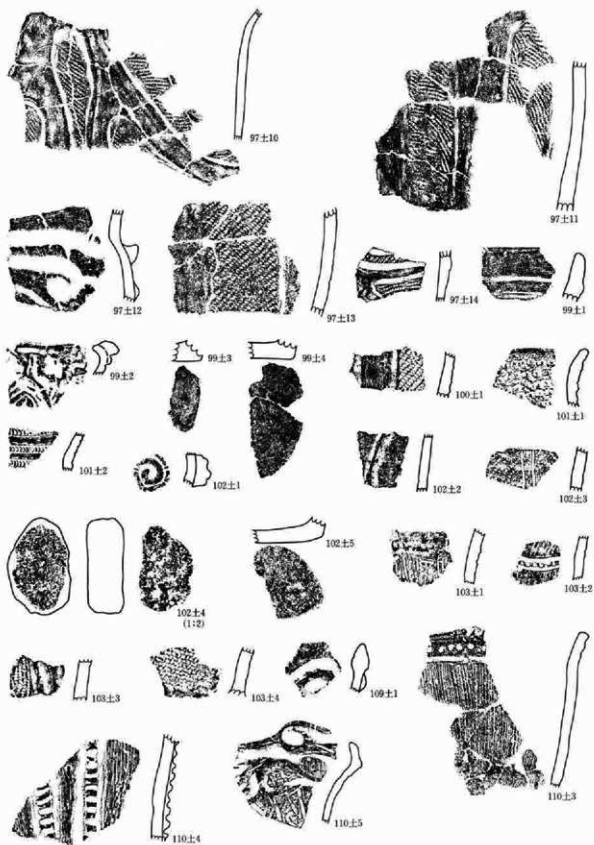


第144図 79・82・83・85-92号土坑出土遺物

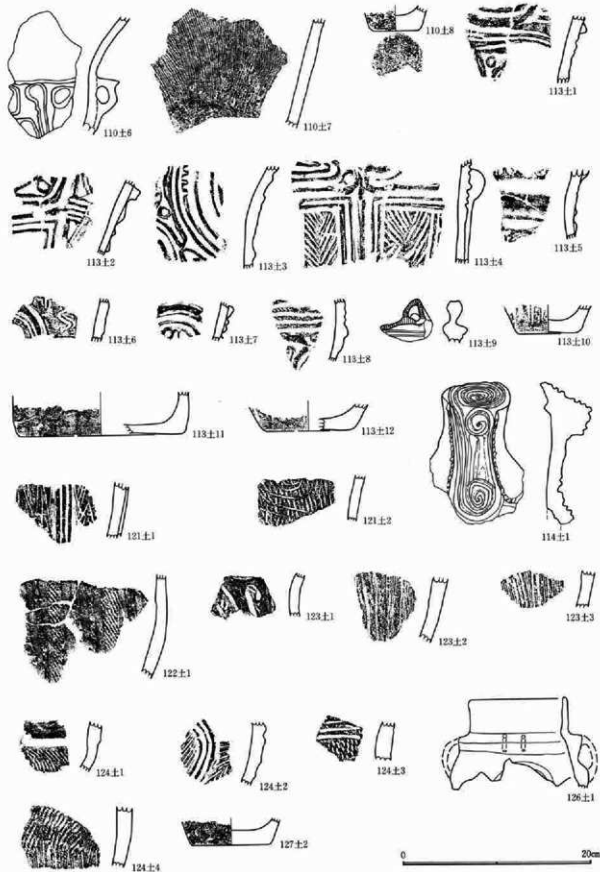


第145図 92・93・97号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要

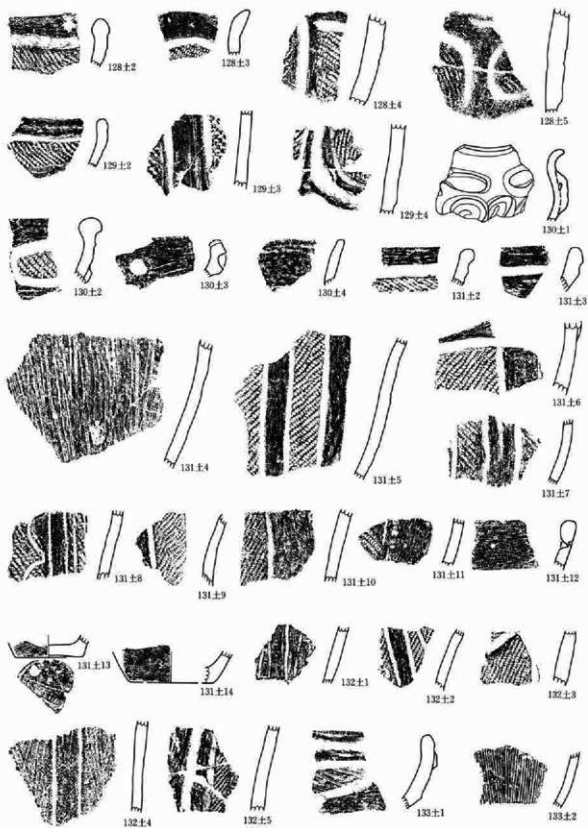


第146図 97・99-103・109・110号土坑出土遺物

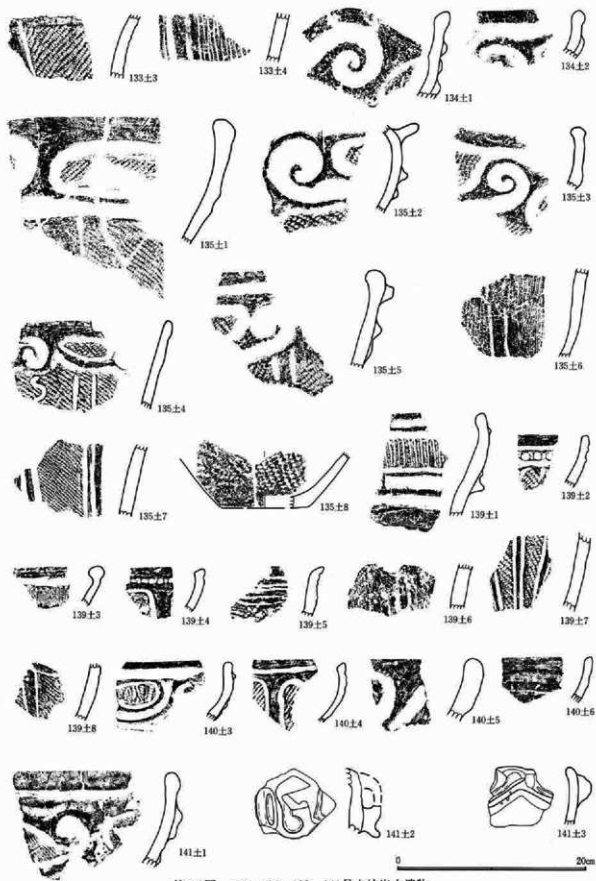


第147図 110・113・114・121～124・126・127号土坑出土遺物

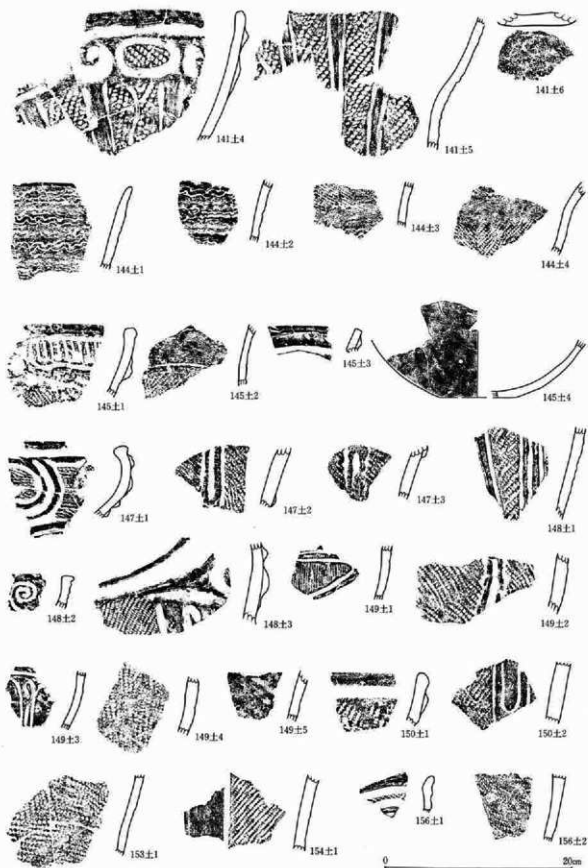
第1章 出土遺物の概要



第148図 128~133号土坑出土遺物

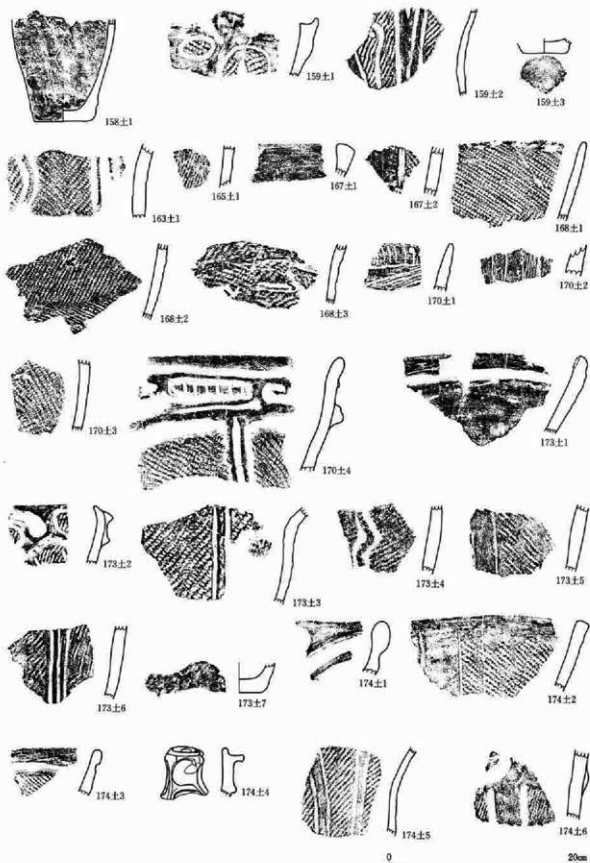


第149図 133~135・139~141号土坑出土遺物



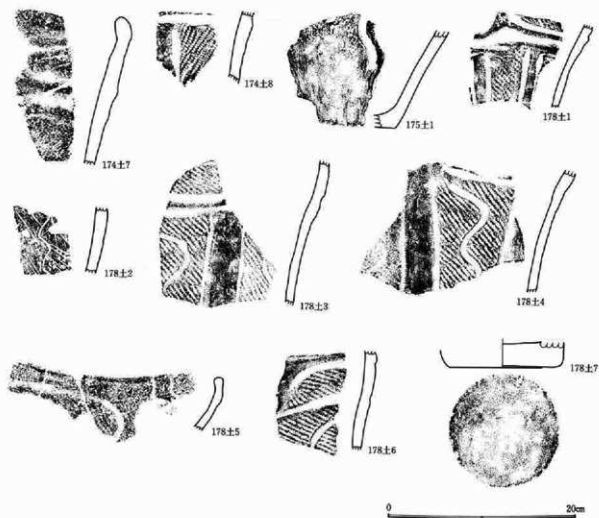
第150図 141・144・145・147～150・153・154・156号土坑出土遺物





第151図 158・159・163・165・167・168・170・173・174号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



第152図 174・175・178号土坑出土遺物

I地区 土 土 器 観 察 表

土坑番号	遺物番号	種類	形状	石材	特 徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	1	磨・四石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み・磨面。	10.9	7.8	4.3	460	
10	1	磨石	棒形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	15.7	7.7	7.1	1300	
10	2	石皿・多孔石	楕円形	緑色片岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	29.8	14.5	5.2	2800	
10	3	磨・四石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。	11	7.7	4.6	510	
10	4	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	15.4	15.1	7.3	2150	
10	5	磨・四石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。	5.3	7.5	5.3	250	欠損
10	6	スクレイパー	楕長	珪質頁岩	一側面に使用による溝こぼれ。	4.8	6.8	1.6	60	
10	7	打製石斧	楕形	珪質頁岩	両面調整。	10.2	6.4	1.4	120	
11	1	磨・最石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。側面に磨面と稜を持つ。	12.6	5.8	6.3	660	
12	1	石皿・多孔石	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	20.9	18.6	8.6	2600	欠損
12	2	磨・四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏・側面に磨面。	13	8.8	4.6	800	
13	1	磨製石斧	乳楕形	安輝緑岩	刃部はこぼれ。横断面楕円形。	13	4.9	3.1	310	
14	1	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.6	4.7	1.7	50	両端欠損
17	1	スクレイパー	楕長	粗粒輝石安山岩	両側面に使用による溝こぼれ。	7.2	3.1	1.1	20	
19	1	砥石	不定形	牛伏砂岩	細長い薄状の稜面。	13.6	4.1	2.4	150	
21	2	磨石	長楕円形	雲母石英片岩	表面に磨面。	10.5	10.5	6.5	1000	欠損
21	1	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.6	4.8	1.7	70	刃部欠損
29	1	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹みと磨面。磨一凹。	28	9.4	7.4	3000	
30	1	打製石斧	楕形	珪質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.2	4.5	1.5	60	
30	2	打製石斧	短楕形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.6	3.6	1.3	50	
30	3	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.3	5.4	1.1	40	
30	4	打製石斧	楕形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.9	4.6	2.2	100	基部欠損
30	5	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	4.6	1.3	50	
30	6	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	4.1	1.7	50	刃部欠損
30	7	石鏃	凹差無茎鏃	黒曜石	側面に押圧刻痕。横断面レンズ状。	2	1.5	0.5	0.6	
30	8	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	12.3	18.6	4.8	1750	欠損
30	9	台石	不定形	緑色片岩	表面に磨面。	17.9	13.5	7	1850	欠損
30	10	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	18.4	24.3	8.6	5200	欠損
30	11	四石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。	11.6	7.3	3.6	500	
32	1	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。凹一磨。	12.4	7.2	4.2	540	
35	1	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.2	5.1	0.9	50	
37	1	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。	11	5.1	2	120	
37	2	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。	10.2	5.3	2.9	190	
37	3	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面による稜を持つ。	8.6	6.8	4.3	400	欠損
37	4	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	9.1	7.9	4.3	350	
38	1	台石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表・側面に敲打痕と凹み。	16.5	13	7.8	2850	欠損
38	2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表・側面に円錐形の凹み。	10.6	14.2	7.6	1300	欠損
38	3	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	12	4.7	1.6	100	
39	1	石鏃	—	黒色頁岩	つまみ部を持つ。	7.7	2.1	0.8	10	
48	1	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	中央部に敲打痕。	14.2	14.1	5.6	1210	欠損

## 第1章 出土遺物の概要

I地区 土坑石器観察表

土坑番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
52	1	多孔石	隅丸長方形	角閃石安山岩	表面に円錐形の凹み。	16.4	16.5	11	4600	欠損
65	1	白石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	22.2	23.1	5.9	5000	
66	1	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.1	4.2	1.6	60	裏面割離
66	2	打製石斧	短舟形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	4.9	0.7	70	刃部欠損
66	3	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側辺の刃部両面調整。	6.2	8.8	1.4	70	
67	1	磨石	扇形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.8	5.4	3.6	170	
67	2	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表・側面に磨面。	8.8	7.9	4.2	370	裏面欠損
67	3	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側辺の刃部片面調整。	9.9	5	2.5	100	
68	1	白石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。	22	19	5.6	3050	
68	2	打製石斧	楕形	砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.1	5.8	2	110	
68	1	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.4	3.3	0.9	20	
69	2	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。磨→凹。	10.3	7.7	4.2	550	
70	1	スクレイパー	横長	頁岩	一側辺に刃部は使用によるはこぼれ。	2.9	4.9	0.8	10	
70	2	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	11.2	9	5.7	830	
70	3	石匙	縦形	黒色頁岩	つまみ部を直接打撃。右側面に使用によるはこぼれ。	12.4	8.3	2.6	220	
75	1	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹→磨。	15.2	8.7	6.3	1220	
76	1	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。	6.8	4.5	1.8	60	刃部欠損
81	1	多孔石	方形	粗粒輝石安山岩	円錐状の凹み。	16.1	10.1	7	1410	欠損
88	1	凹・敲石	乳輪形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。両面に敲打痕。	11	4.7	3.3	220	
89	1	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側辺に片面調整の刃部。	6.6	5	1.1	40	
91	1	打製石斧	楕形	変質玄武岩	両面調整。	6.5	4.5	1.7	70	基部調整
91	2	スクレイパー	横長	粗粒輝石安山岩	一側辺の刃部使用によるはこぼれ。	3.4	6.6	0.8	20	
92	1	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部鋭角。横断面カマボコ状。	7.6	5.3	1.7	50	
92	2	石匙	縦形	黒色頁岩	つまみ部両面調整。刃部は片面調整の押圧刺離。	3.6	4.3	0.8	10	
92	3	スクレイパー	横長	珪質頁岩	一側辺に使用によるはこぼれ。	4.8	5.6	1.5	40	
92	4	スクレイパー	横長	粗粒輝石安山岩	片面調整。	5.4	8	1.4	60	
92	5	磨製石斧	定角式	変質玄武岩	両側辺研磨し縁を持つ。刃部はこぼれ。横断面隅丸方形。	7	4.1	2.4	120	
92	6	石鏃	四基無基鏃	黒色安山岩	側面に押圧刺離。横断面カマボコ状。	1.8	1.5	0.4	0.9	
92	7	石鏃	四基無基鏃	黒曜石	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	2	1.6	0.3	0.8	
92	8	石鏃	四基無基鏃	黒曜石	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	1.6	1.7	0.3	0.9	先端欠損
92	9	石鏃	—	黒曜石	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	2.1	1.3	0.3	0.8	基部欠損
92	10	石鏃	—	黒曜石	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	1.5	1.2	0.2	0.3	基部欠損
92	11	石鏃	四基無基鏃	黒曜石	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	1.7	2.2	0.3	0.8	先端欠損
93	1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	20.2	13.6	11	3250	
93	2	打製石斧	短舟形	緑色片岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.2	4.2	1.7	90	刃部欠損
93	3	打製石斧	短舟形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	3.6	1.6	50	刃部欠損

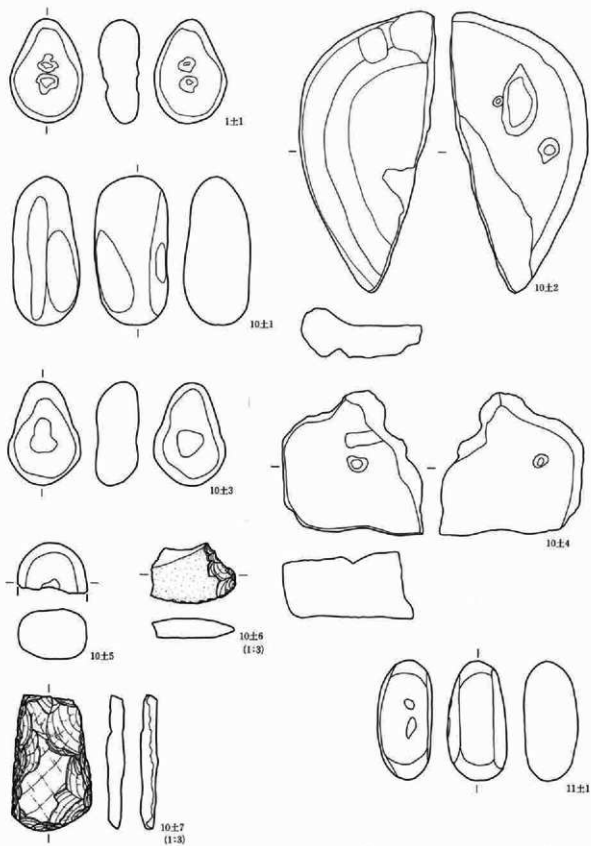
I地区 土坑石器観察表

土坑 番号	遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
93	4	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。側面に磨面の稜をつくる。凹一磨。	8.3	8.4	4.1	390	
97	1	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。	13.8	6.7	4.3	560	
97	2	打製石斧	短菱形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.9	4.7	1.9	160	
97	3	石鏃	平基無茎鏃	透質頁岩	側面に押圧斜縁。横断面レンズ状。	2.9	2.3	0.5	3.7	
99	1	敲石	卵形	粗粒輝石安山岩	表裏に敲打痕。	9.6	8.5	5.7	580	
99	2	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。	11	9	5.9	620	
99	3	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。	18.6	17	14.5	5900	
99	4	台石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	18.2	14	8.5	3450	欠損
101	1	石鏃	凹基無茎鏃	チャート	側面に押圧斜縁。	2.4	2	0.5	1.9	先端欠損
111	1	台石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	21	15.6	9.2	3920	欠損
112	1	石鏃	凹基無茎鏃	黒曜石	側面に押圧斜縁。横断面レンズ状。	2.6	2	0.4	1.3	
113	1	打製石斧	短菱形	透質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	12.7	6	3.1	350	
113	2	打製石斧	短菱形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	4.2	1.1	40	刃部欠損
121	1	打製石斧	短菱形	透質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.1	4.2	1.4	50	刃部欠損
121	2	打製石斧	短菱形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	3.5	1.6	30	基部欠損
121	3	打製石斧	短菱形	透質頁岩	両面調整。刃部片面調整で鋭角。横断面カマゴコ状。	10.9	4.3	1.7	100	
121	4	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	13.5	11.1	5.6	780	欠損
123	1	打製石斧	分銅形	黒色頁岩	両面調整。側面に抉り。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.4	4.3	1.8	80	
123	2	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	15.6	16.4	4	1500	欠損
124	1	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面と円錐形の凹み。	27	21.6	10.8	9500	
126	1	石皿	隅丸長方形	角閃石安山岩	石皿作業面は凹面。円錐形の凹み。	37.3	21	10	12900	
128	1	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・両側面に磨面で稜を持つ。表面に浅い凹み。凹一磨。	10.7	6.8	5.2	580	欠損
128	2	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹一磨。	9.1	6.2	3.6	330	欠損
128	3	磨石	扁平な楕形	緑色片岩	表裏に磨面。	10.6	3.3	1.1	50	
129	1	打製石斧	短菱形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.9	4.2	2.4	90	刃部欠損
131	1	磨・敲石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。表・側面に磨痕。磨一磨。	11.4	7.8	4	580	
131	2	打製石斧	短菱形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.2	3.3	1.4	30	
131	3	打製石斧	短菱形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.1	4.3	1.9	80	刃部欠損
131	4	打製石斧	短菱形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.7	3.5	0.9	20	刃部欠損
131	5	打製石斧	短菱形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.6	3.4	1.4	30	両端欠損
133	1	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	一側面に使用によるはこぼれ。	6.2	4.5	1.4	50	
134	1	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	10.3	6.3	5	500	
134	2	スクレイパー	横長	黒色頁岩	左右・下側面に使用によるはこぼれ。	5.1	4.8	0.7	20	
139	1	台石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦な磨面。	28.5	18.2	7	5900	
140	1	石皿	—	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。	10.5	11	6.3	1050	欠損
140	2	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	5.7	7.5	4.1	220	欠損
140	3	打製石斧	短菱形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.4	4.4	2.1	130	
141	1	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨成。側面に抉り。横断面レンズ状。	11.9	5.4	1.8	100	

## 第1章 出土遺物の概要

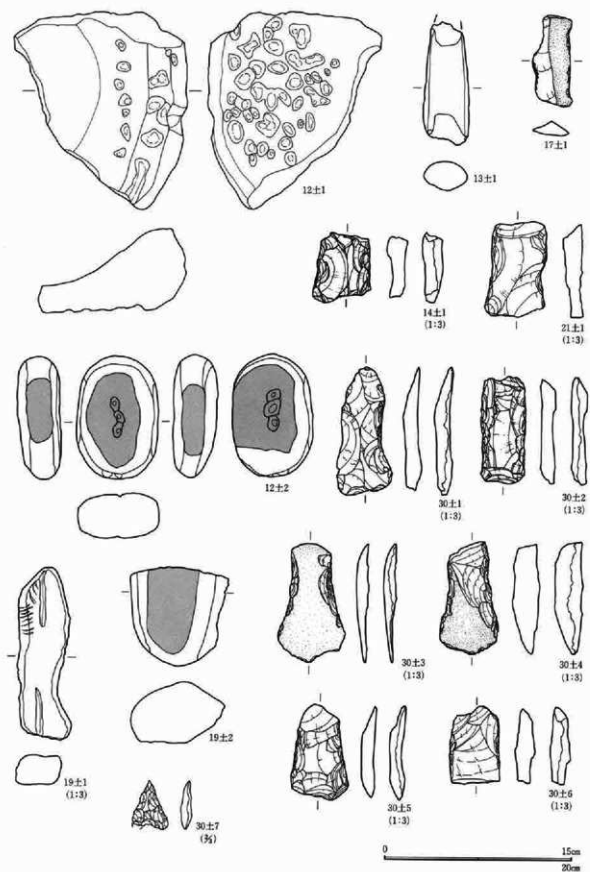
I地区 土 土 石 器 観 察 表

土坑番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
144	1	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表に円錐形の凹み。表裏に磨面。凹一磨。	8.5	6.8	3.4	270	
146	1	磨・敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。表・側面に敲打痕。磨一磨。	10.5	7.3	4.7	500	
149	1	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.7	3.3	1.2	60	
153	1	磨製石斧	乳棒状	安山玄武岩	表裏でいれぬ研磨	8.8	3.7	3.3	130	刃部欠損
154	1	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	6.6	7.1	4.2	280	
154	2	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏・側面に円錐形の凹み。	20.4	18.2	19	7400	
154	3	石皿・多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。裏面は円錐形の凹み。	23.8	25		5600	
154	4	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	17.4	14	8	2200	
156	1	多孔石	円形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	27.2	23.5	7.2	6500	
156	2	投彈	卵形	粗粒輝石安山岩		4.7	3.7	3.1	70	
156	3	敲石	不定形	牛伏砂岩		6.9	5.5	1.1	50	
156	4	打製石斧	分銅形	粗粒輝石安山岩	両面調整。左右側面に抉り。	8.7	5.3	2.1	120	欠損
156	5	打製石斧	短冊形	頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。側面に抉り。横断面レンズ状。	10.2	4.7	1.6	70	
157	1	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	13.4	16.8	9.4	2300	
160	1	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	19.8	20.6	15.0	7400	欠損
160	1	磨・敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲痕。	16	8.6	6.3	1270	
169	2	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面は石皿で作業面は凹面。裏面は円錐形の凹み。	14.1	13.8	8	1550	欠損
171	1	台石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦な磨面。	16.4	13.8	6.7	2500	欠損
173	1	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	18.8	15	6.4	2200	欠損
173	2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	24.6	25.8	11.4	7000	
174	1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に円錐形の凹み。	15	16	10.2	2250	欠損
174	2	磨・凹・敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹みと磨面。側面に敲打痕。磨一凹。	9.6	6.7	4	340	
174	3	磨・凹・敲石	棒形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。側面に細長いV字溝状の凹み。磨一凹。	13.8	5.6	4.3	500	欠損
174	4	磨石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に平坦な磨面。	19.2	7.8	5.5	1250	欠損
176	1	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	11.8	7.9	4.4	620	
179	1	石皿	長楕円形	角閃石安山岩	石皿作業面は凹面。	18.2	14	12.6	5600	欠損



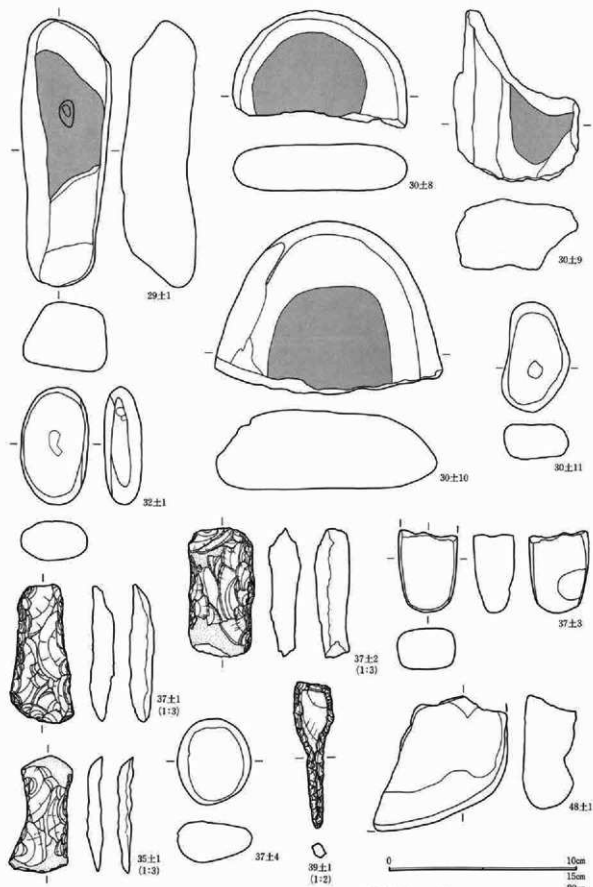
第153図 1・10・11号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



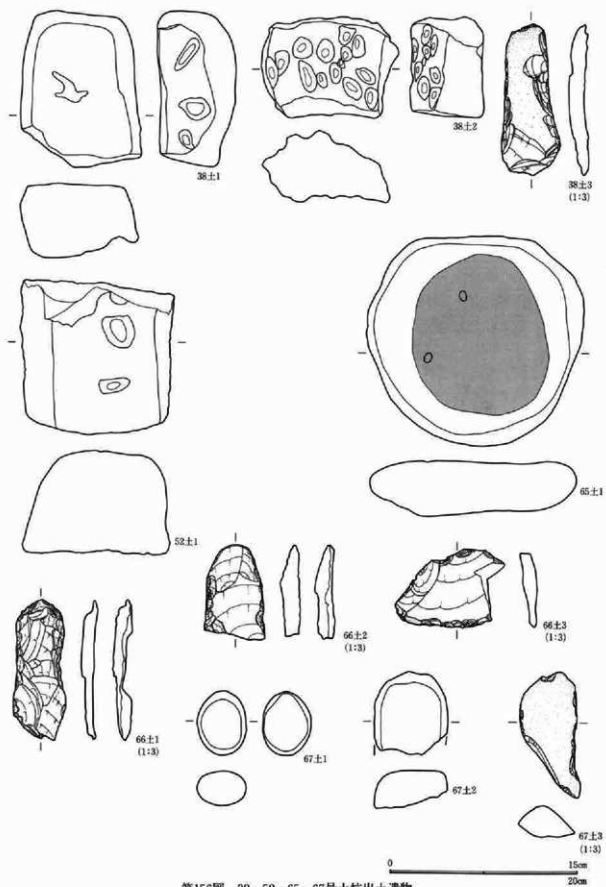
第154図 12~14・17・19・21・30号土坑出土遺物



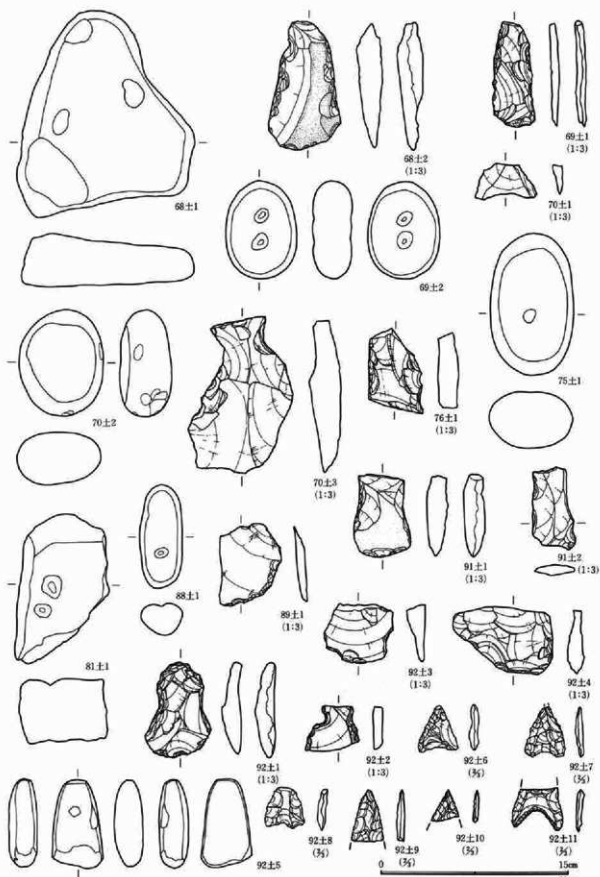


第155図 29・30・32・35・37・39・48号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要

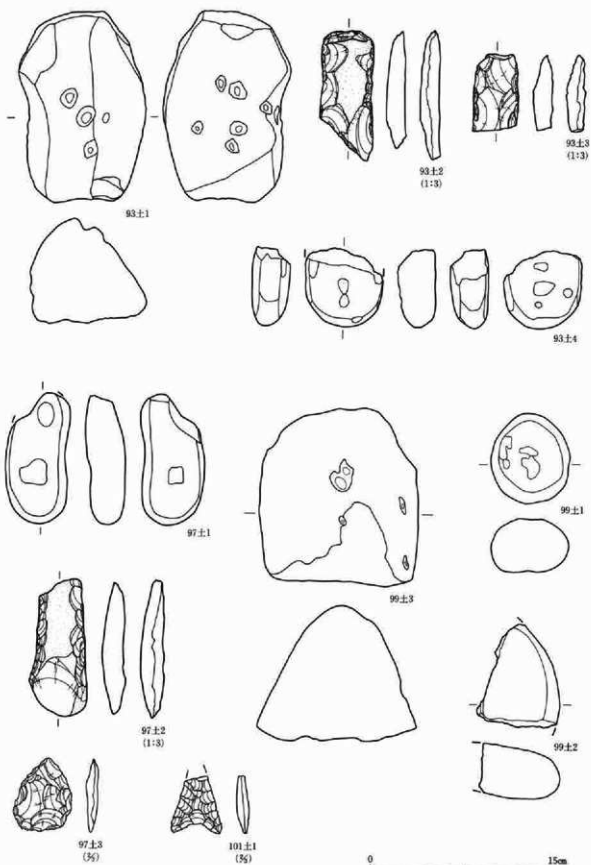


第156図 38・52・65-67号土坑出土遺物

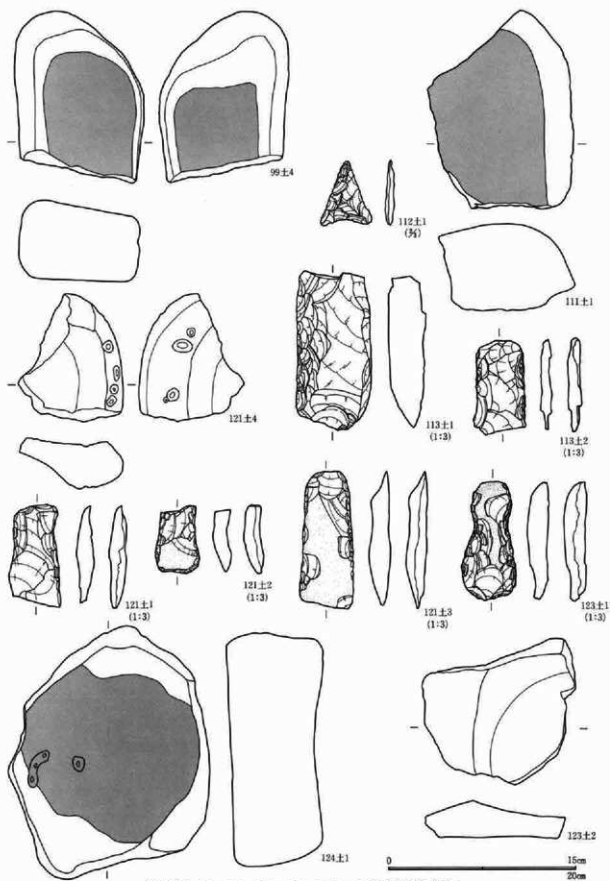


第157图 68~70・75・76・81・88・89・91・92号土坑出土遺物

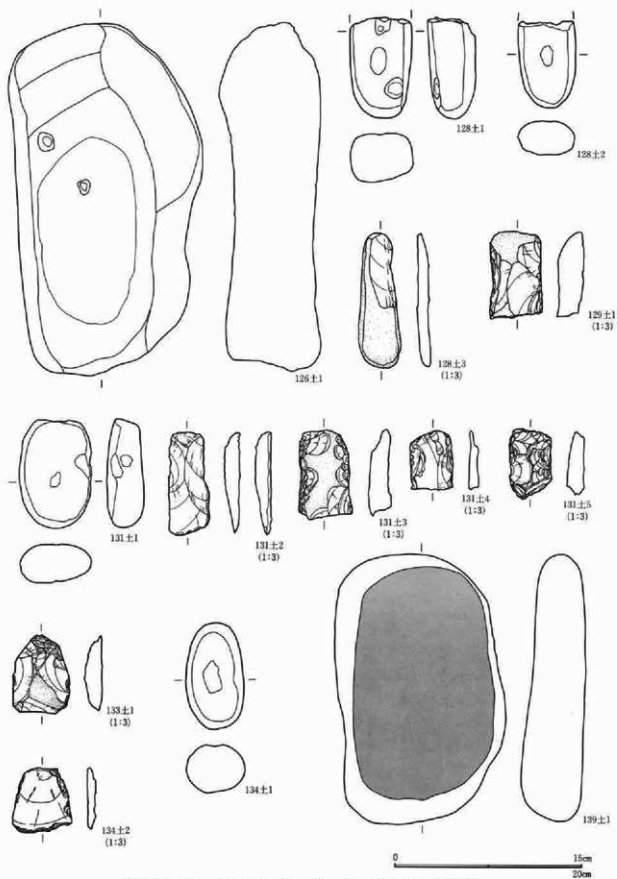
第1章 出土遺物の概要



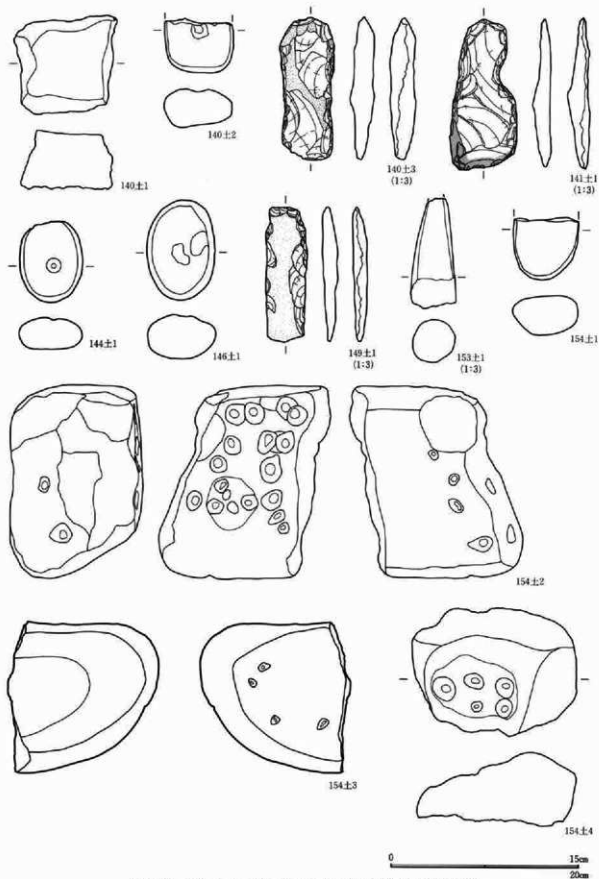
第158図 93・97・99・101号土坑出土遺物



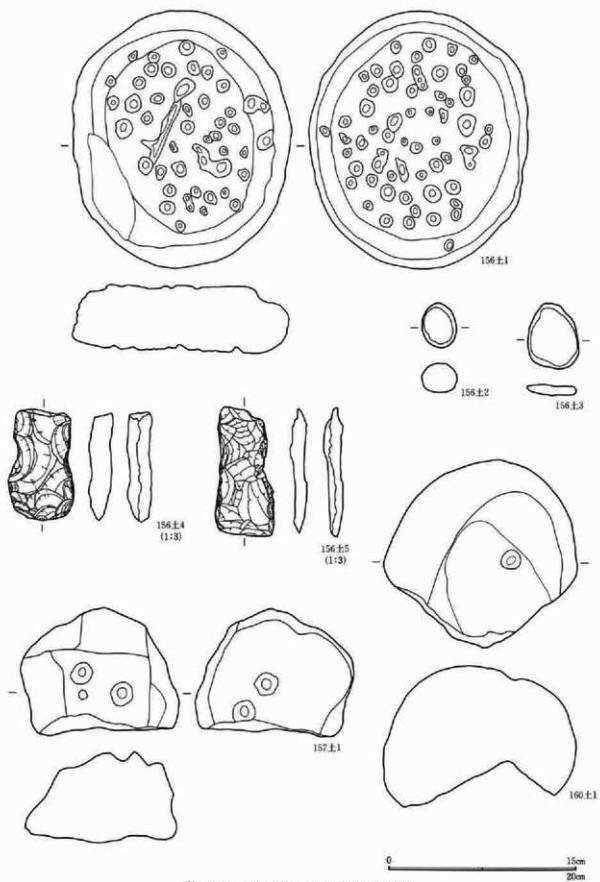
第159図 99・111-113・121・123・124号土坑出土遺物



第160图 126・128・129・131・133・134・139号土坑出土遺物

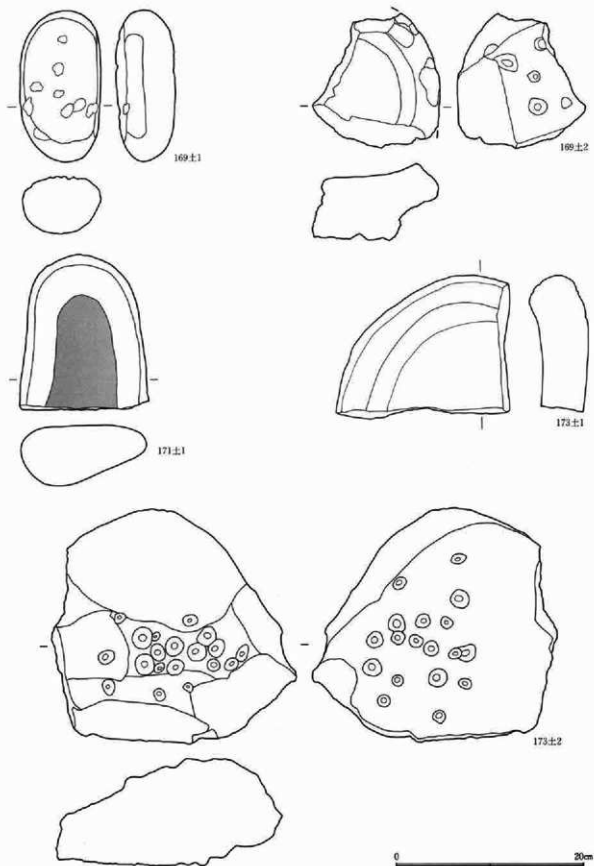


第161図 140・141・144・146・149・153・154号土坑出土遺物



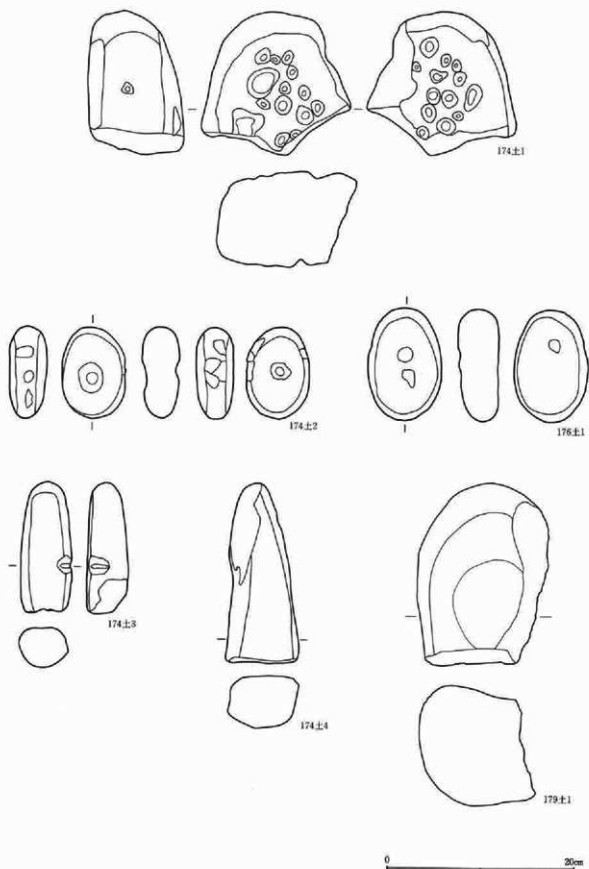
第162図 156・157・160号土坑出土遺物





第163図 169・171・173号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



第164図 174・176・179号土坑出土遺物

第2節 II地区の出土遺物



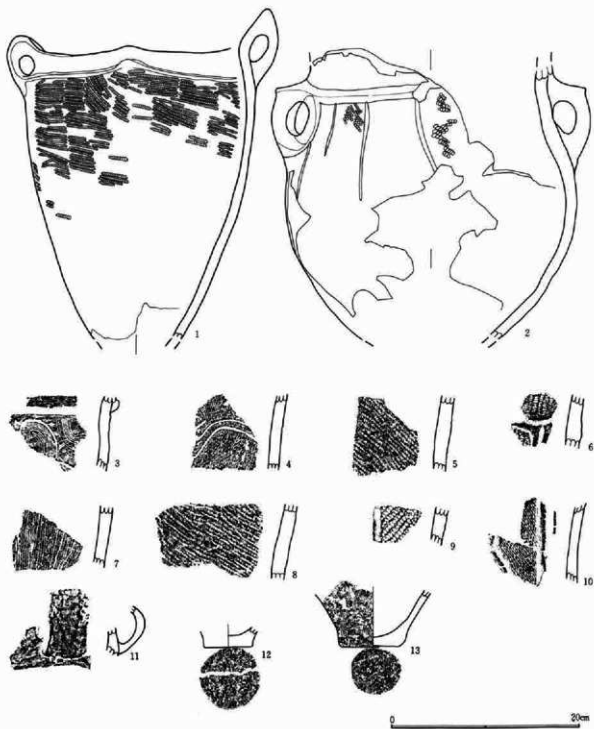
第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 1号住居土器類調査表

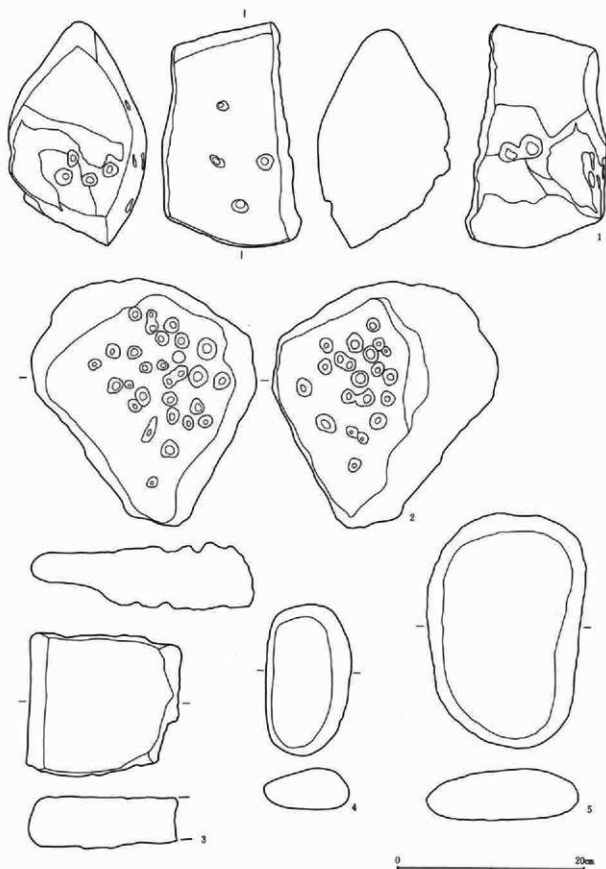
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1~3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	口縁部に太さ2~3mmの隆線が廻す。口縁は4単位の波状口縁で横状把手を2対にして持つ。	
2	φ1~3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	口縁部に隆線が廻り、口縁部と側部を区画する。胴部は太さ3mmの沈線で縦位の区画。胴部は横状把手が付く。全体に磨滅が多い。	
3	φ1~2mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好	条線			沈線	巾2~3mmの平行沈線を4~6条単位で条線化して曲線を描く。	
4	φ1~5mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR		煎糸	沈線	太さ2mmの沈線。	
5	φ1~3mmの砂粒・黄褐色土	5YR	赤褐色	普通	LR	縦位	縄文			
6	φ1~3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で文様を区画。	
7	φ1~2mmの砂粒・雲母・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	良好	条線			沈線	巾2mmの平行沈線を条線状に施す。	
8	φ1~5mmの小石・雲母・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	LR	縦位	縄文			
9	φ1~2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	R/LR		縄文	沈線	太さ7mmの沈線が垂下し縦位の区画。	
10	φ1~2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	Lr		煎糸	隆線	太さ7mmの隆線が条対で垂下し縦位の区画。	
11	φ1~3mmの小石・黄色軽石			不良				隆線	深鉢の横状把手。	
12	φ1~2mmの砂粒・雲母	10YR	明黄褐色	普通			無文		内外面磨き。	
13	φ1~3mmの小石・黄色軽石	10YR	明黄褐色	不良			無文		全体に磨滅。	

Ⅱ区 1号住居土器類調査表

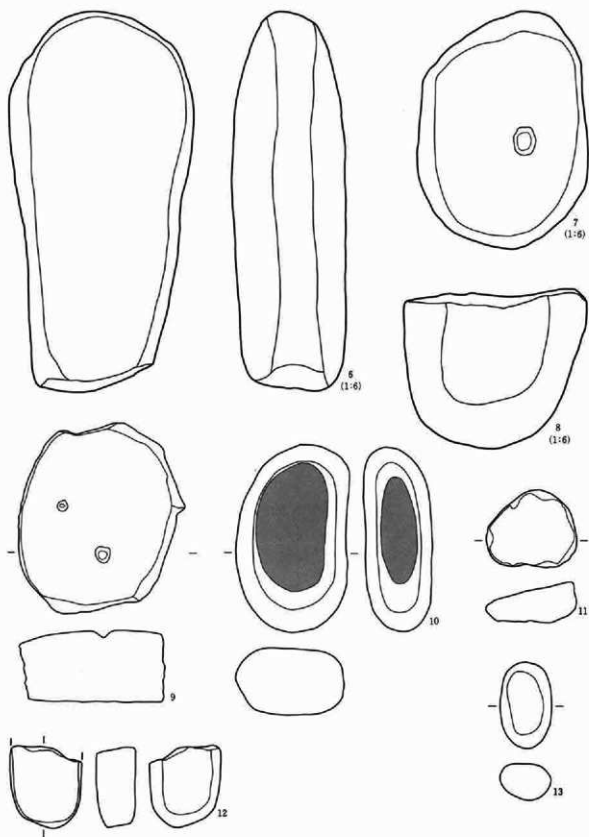
遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に円錐形の凹み。	24	14.8	14.2	6000	欠損
2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	26.2	23.8	7	4400	
3	台石	長方形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。	15	16.2	5.4	2600	
4	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	16	9	4.4	1100	
5	台石	隅丸長方形	角閃石安山岩	作業面は平坦。	29	17	5.4	3300	
6	台石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。	40.2	19.8	12.2	46700	
7	台石	隅丸長方形	角閃石安山岩	作業面は平坦。円錐形の凹み。	38	27		12600	
8	台石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。	26	29		12500	欠損
9	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で磨面と円錐形の凹み。	20	18	7.6	4700	
10	台石	不定形	角閃石安山岩	表面と磨面に磨面。	20	12.2	7.2	2800	
11	砥石	不定形	粗粒輝石安山岩	縦面は扁平。	8.2	9.6	4.2	320	
12	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面と稜を持つ。	8.8	7.7	4.2	460	欠損
13	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	9.2	5.5	4	290	
14	敲石	長方形	粗粒輝石安山岩	先端部に敲打痕。	24.6	10	6	1900	欠損
15	磨・敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕。磨→敲。	12.6	7.6	3.7	520	
16	石棒	棒形	雲母石英片岩	両側面に敲打痕。	14.4	3.2	2.1	150	両端欠損
17	磨製石斧	定角式	安玄武岩	両側面・頭部を磨き稜を持つ。刃部はこぼれ。横断面隅丸長方形。	6.6	3.6	1.4	60	
18	打製石斧	短身形	珪質頁岩	両面調整。刃部鋭角。横断面レンズ状。	9.4	5.2	2.7	150	
19	打製石斧	短身形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	8.2	3.9	1.4	50	
20	石鏃	平基無基鏃	黒曜石	側面に押圧割離。横断面レンズ状。	1.3	1.9	0.6	1.7	欠損
21	石鏃	凹基無基鏃	黒色頁岩	側面に押圧割離。横断面レンズ状。	2.9	2	0.7	3.3	



第165図 1号住居址出土遺物-1



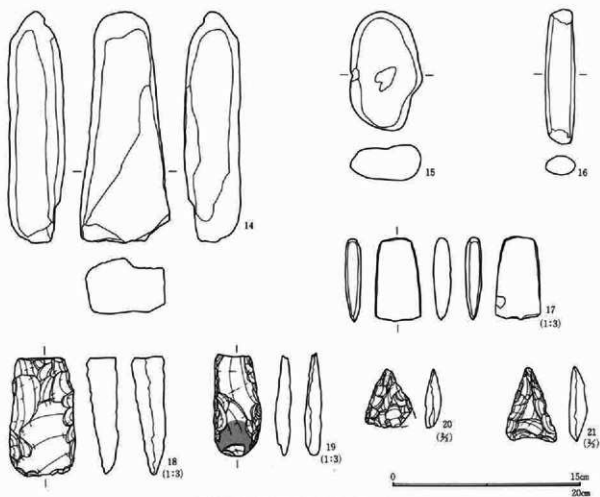
第166図 1号住居址出土遺物-2



第167図 1号住居址出土遺物-3

0 20cm 30cm

第1章 出土遺物の概要



第168図 1号住居址出土遺物-4

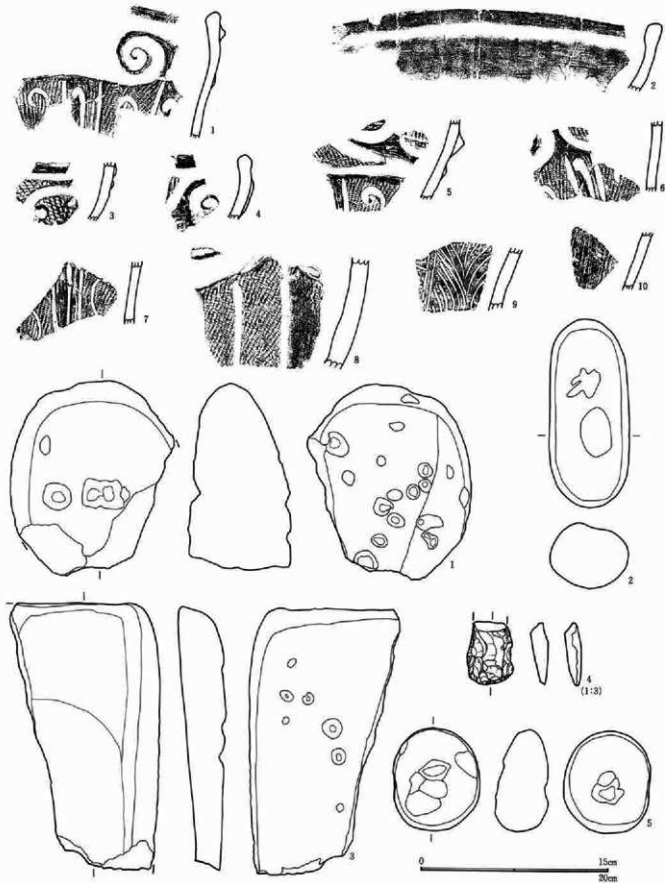


II区 2号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐灰色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ10mm程の沈線で口縁部に渦巻き文様を描く。沈線間は唇壁が隆起。太さ6mmの沈線で胴部に縦位区画・ワラビ手文。 内外面横位の磨き。表面に黒色塗彩。汚跡。	
2	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通				無文		
3	φ1-2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	不良	Lr		熱赤	沈線	太さ8mmの沈線で渦巻き文。	
4	φ1-2mmの砂粒	5YR	灰褐色	良好	LR	斜位	縄文	隆・沈	太さ8mmの沈線で渦巻き文。沈線間は隆線が施文。	
5	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	灰褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆・沈	太さ7-8mmの沈線で渦巻き文。胴部は沈線で縦位区画・ワラビ手文を施文。	
6	φ1-3mmの砂粒	2.5YR	黄灰色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7-10mmの沈線で渦巻き文。胴部は沈線が垂下し縦位の区画。区画内は沈線がワラビ手状に施文。	
7	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	黄灰色	良好	LR	斜位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が3条対で垂下し縦位の区画。	
8	φ1-3mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ25mmの沈線で口縁部に弧状の文様。太さ7mmの沈線が胴部に垂下し縦位の区画。	
9	φ1-3mmの砂粒・石英	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線	沈線	太さ3mmの沈線で縦位の区画。綾杉状の施文。	
10	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr		熱赤		内面黒色。	

II区 2号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	29.2	15.8	5.5	2920	
2	白石	棒形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。表に敲打痕。磨→敲。	20.1	8.6	7	1850	
3	石皿・多孔石	長方形	緑色片岩	石皿作業面は凹面。裏は円錐形の凹み。	20.7	17.6	10.9	3940	欠損
4	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。	5	3.7	1.4	30	基部欠損
5	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	10.9	9.4	5.6	820	



第169図 2号住居址出土遺物

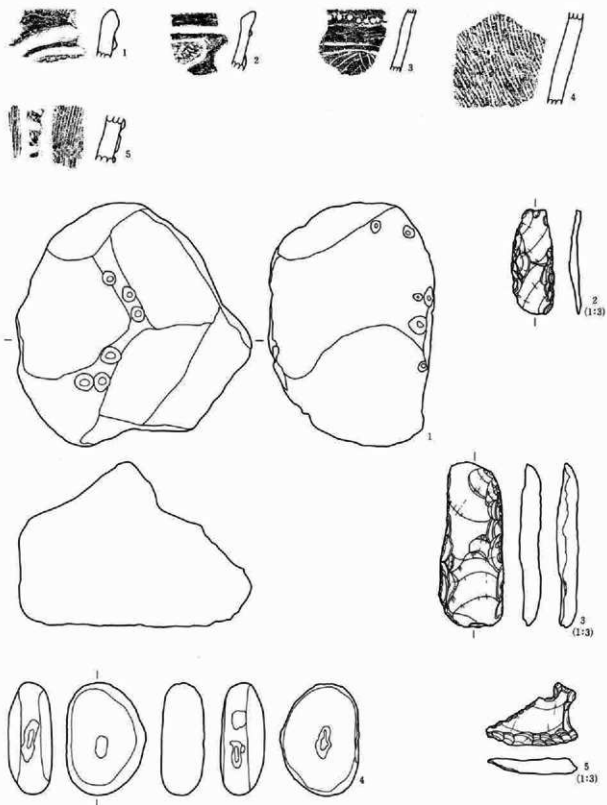
II区 4号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの砂粒・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	良好				沈・沈	太さ12mmの沈線が2条対で弧状の文様。 沈線間には器面が隆起。 太さ5-15mmの隆線で楕円区画。	
2	φ1-3mmの砂粒・ 黄色軽石粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	くびれ部にφ5mmの円形の刺突。太さ 4mmの沈線で胴部に文様。 附加糸1種。	
3	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい褐色	普通				沈線	太さ15mmの隆線は割みを持つ。地文は 2-3mm間隔の糸織。	
4	φ1-5mmの小石・ 雲母・黄色軽石	5YR	暗赤褐色	普通	KL					
5	φ1-3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	糸織		沈線	隆線		

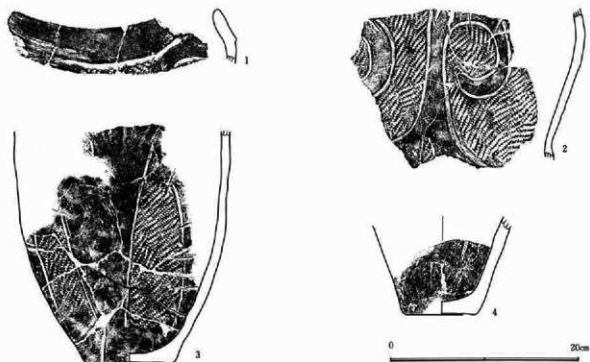
II区 4号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	25.6	34.6	17.2	12400	
2	打製石斧	楕形	硬質泥岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	8.3	3.5	1	20	
3	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	13.1	5.1	1.8	160	
4	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・両側面に凹み。表裏に磨面。磨 一凹。	11.9	8.6	4.7	710	
5	石匙	楕形	チャート	二側面に押圧制縁の刃部。	2.4	4.2	0.7	4.2	

第1章 出土遺物の概要



第170図 4号住居址出土遺物



第171図 5号住居址出土遺物

II区 5号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	灰黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で弧状の文様。口縁部に無文帯を持つ。	
2	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で曲線文。沈線間は無文。	
3	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で弧状の文様を区画し、区画外の縄文を消している。	
4	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	明褐色	不良				沈線	太さ5mmの沈線が垂下し縦位の区画。	

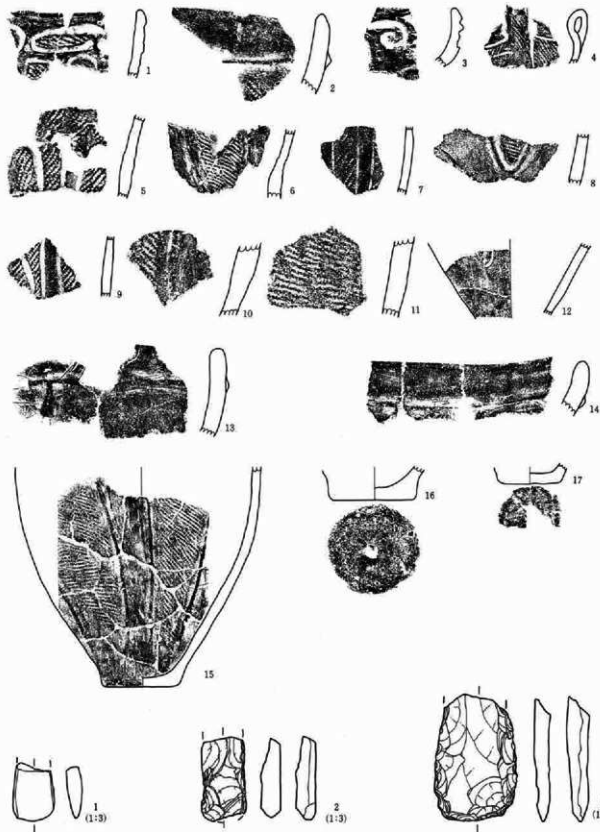
## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 6号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ6mmの隆線と5mmの沈線で口縁部に楕円形の区画。側部に縦長の文様を区画。	
2	φ1-3mmの砂粒多量	10YR	明黄褐色	普通	RL		縄文	隆線	太さ12mmの隆線が横位に廻る。	
3	φ1-3mmの砂粒・黄色軽石	5YR	暗赤褐色	良好	KI		熟赤	沈線	口縁部に太さ5-8mmの沈線で渦巻き文様。側部は縦位に熟赤文が施文。	
4	φ1-3mmの砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で文様を区画。楕円の把手がつく。	
5	φ1-5mmの小石多量	5YR	明赤褐色	不良	KL		縄文	沈線	太さ7mmの楕円区画。	
6	φ1-5mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線で文様を区画。	
7	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で垂下し、縦位の区画。	
8	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線でV字状の文様。	
9	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	KL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
10	φ1-3mmの小石	2.5Y	にぶい黄色	不良	LR	縦位	縄文	隆線	太さ15mmの隆線が縦位に貼付。	
11	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文			
12	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通			縄文	沈線	太さ2mmの沈線で楕円区画。区画内は縄文を充填。	
13	φ1-5mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良			隆線	隆線	口縁部は太さ10mmの隆線が横位に1条廻り、ここから縦位区画する隆線が貼付。	
14	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通			隆線	隆線	太さ10mmの隆線が口縁部に横位に廻る。	
15	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線が2条対で縦位の区画。	
16	φ1-5mmの小石多量	10YR	明黄褐色	不良			無文			
17	φ1-3mmの小石多量	10YR	明黄褐色	不良			無文			

Ⅱ区 6号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	磨製石斧	定角式	燧石	両側面を研磨し縁を持つ。刃部はこぼれ。横断面隅丸長方形。	4.5	3.3	1.2	30	基部欠損
2	打製石斧	短棒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.6	3.5	1.6	50	両端部欠損
3	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10	6.5	1.8	80	基部欠損



第172図 6号住居址出土遺物

第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 7号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1~5mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	良好	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ15~20mmの沈線で口縁部に渦巻き・長楕円形の文様を区画。沈線間が一部隆起し隆線になる。胴部は太さ6mmの沈線が2条対で垂下し縦位の区画。沈線間はワラビ手状の文様。	5と同一
2	φ1~2mmの砂粒・ 雲母	2.5Y	暗オリーブ褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で渦巻き状の文様。	
3	φ1~3mmの砂粒・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で口縁部に廻る。胴部に弧状の曲線。	
4	φ1~3mmの砂粒・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で渦巻き状の文様。	
5	φ1~5mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	良好	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ15~20mmの沈線で口縁部に渦巻き・長楕円形の文様を区画。沈線間が一部隆起し隆線になる。胴部は太さ6mmの沈線が2条対で垂下し縦位の区画。沈線間はワラビ手状の文様。	1と同一
6	φ1~3mmの砂粒・ 雲母	2.5Y	にぶい黄色	良好	LR	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で渦巻き・楕円状の文様。	
7	φ1~3mmの小石・ 石英	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で縦位の区画。	
8	φ1~5mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良	条線		沈線	隆線	地文は巾3mmの平行沈線の条線。口縁部に太さ10mmの隆線で楕円の区画。	
9	φ1~3mmの砂粒・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線が2条対で渦巻き状の文様。	
10	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で縦位の区画。	
11	φ1~3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面良く磨く。	
12	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	良好	RL	横・斜	縄文	隆線	太さ8~10mmの隆線を2条対にして渦巻き文様を描く。くびれ部に無文帯を作り下段に同様の文様を描く。	

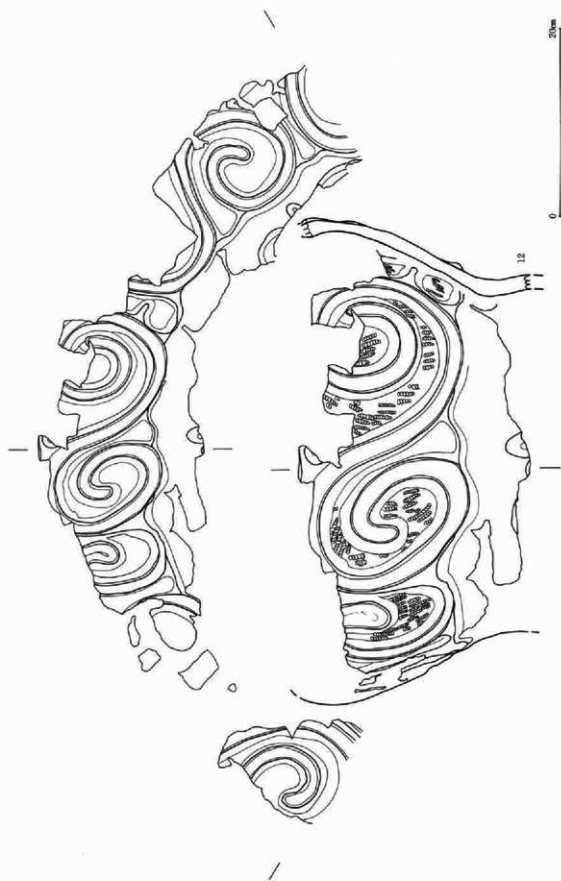
Ⅱ区 7号住居石器観察表

遺物 番号	種 類	形 状	石 材	特 徴	縦 横	厚 さ	重 量	そ の 他	
1	石皿・多孔 石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は浅い凹面。裏面に円錐形の凹み。	24	16.8	6.2	3600	
2	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	17.8	13.8	8.6	2600	
3	石皿・多孔 石	楕円形	牛伏砂岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	20	16.2	6.8	2200	
4	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	15.2	17.2	7.4	2900	
5	磨・凹・敲石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表・両側面に敲打による凹み。表裏に磨面。磨→凹。	14.5	9.1	5.2	1110	
6	丸石	球形	粗粒輝石安山岩		9.4	9.4	8.2	940	
7	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で円錐形の凹み。	13.8	15.2	3	1100	
8	磨・凹石	棒形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹→磨。	12	5.6	3.7	390	
9	磨・敲石	棒形	粗粒輝石安山岩	表裏に敲打痕。磨→敲。	13.5	7.8	5.5	850	
10	打製石斧	楕形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	13.2	7.4	2.1	180	
11	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.5	4.2	1.5	40	刃部欠損
12	不明石製品	不定形	軽石	側面を面取りしている。浮子か？	7.8	5.8	1.6	50	

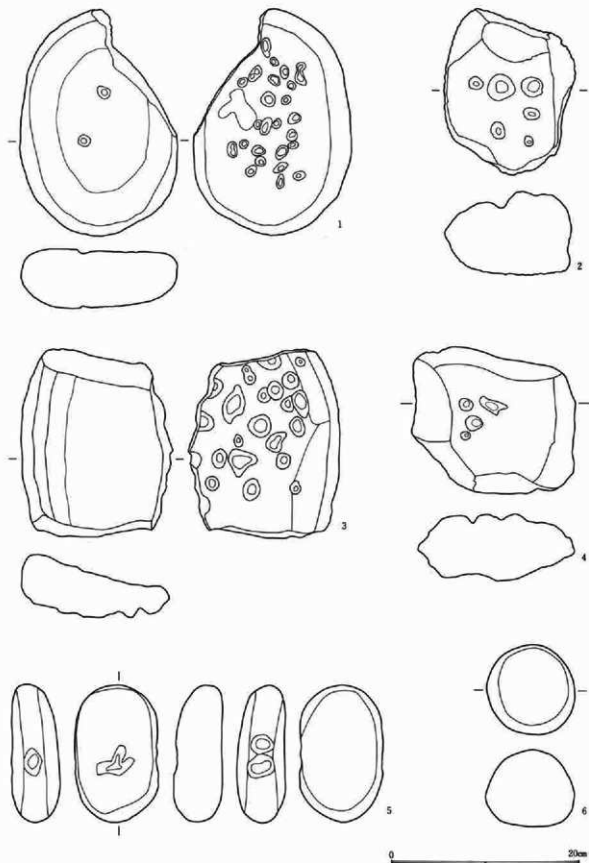




第173図 7号住居址出土遺物-1

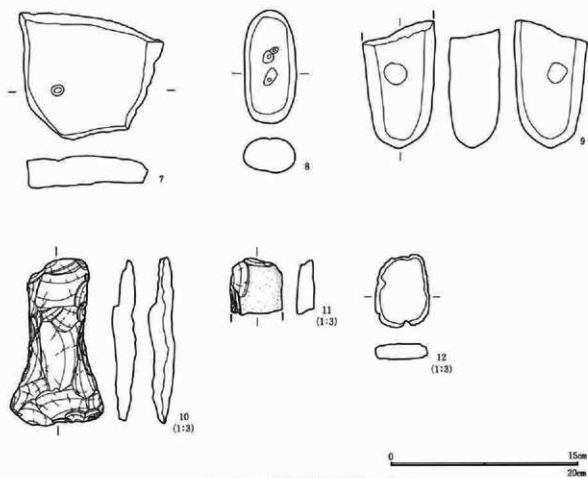


第174図 7号住居址出土遺物—2



第175図 7号住居址出土遺物-3

第1章 出土遺物の概要



第176図 7号住居址出土遺物-4

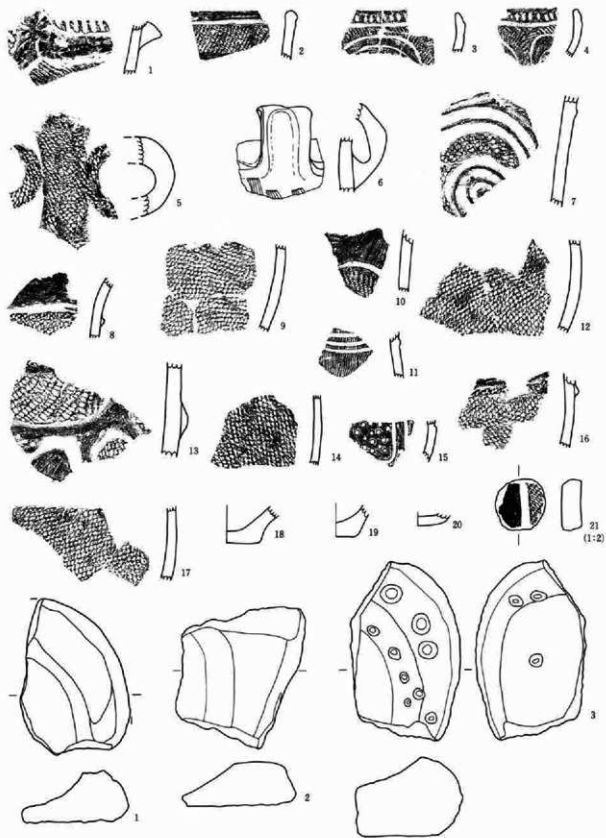
II区 8号住居土器観覧表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	RI		熱赤	隆線	太さ10mmの隆線で口縁部に楕円形の文様を区画。区画内は太さ6mmの沈線が充填。	
2	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で楕円形の区画。	
3	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で弧状の文様。	4と同一
4	φ1-3mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で弧状の文様。	3と同一
5	φ1-3mmの小石・黄色粒石	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	縦位	縄文		横状把手部。	
6	φ1-5mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	巾2mmの平行沈線を数条まとめた条線状にする。	
7	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線を2条対で高さ状の文様。	
8	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	Lr	横位	縄文		頸部に稜をもち、上半部を無文帯、下半部に縄文施文帯とする。特に注意。1段のゆるい反折りを2段の正折りにする。特に注意。	
9	φ1-2mmの砂粒・黄色粒石	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	横位	縄文		太さ5mmの沈線で文様を区画。	
10	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が3条平行に施文。内面黒色。	17と同一
11	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	条線		沈線	沈線	太さ5mmの沈線が3条平行に施文。内面黒色。	
12	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	横位	縄文		太さ15mmの隆線で楕円形の区画。	
13	φ1-5mmの小石・雲母	10YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線		
14	φ1-5mmの小石・黄色粒石	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr		熱赤			
15	φ1-2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	太さ5mmの沈線で文様を区画。区画内をφ4mmの円形の凹突が充填。	
16	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が口縁部に廻る。内面黒色。	12と同一
17	φ1-3mmの砂粒	5YR	赤褐色	普通	Lr	横位	縄文		外面良く磨かれる。原料による地影が見られる。内面スチ付着。	
18	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文			
19	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	不良			無文			
20	φ1-3mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	普通			無文		割れ口を磨いている。	土製円盤
21	φ1-2mmの砂粒多量	2.5YR	黄灰色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8-10mmの沈線で縦位の区画。割れ口を磨いている。	土製円盤

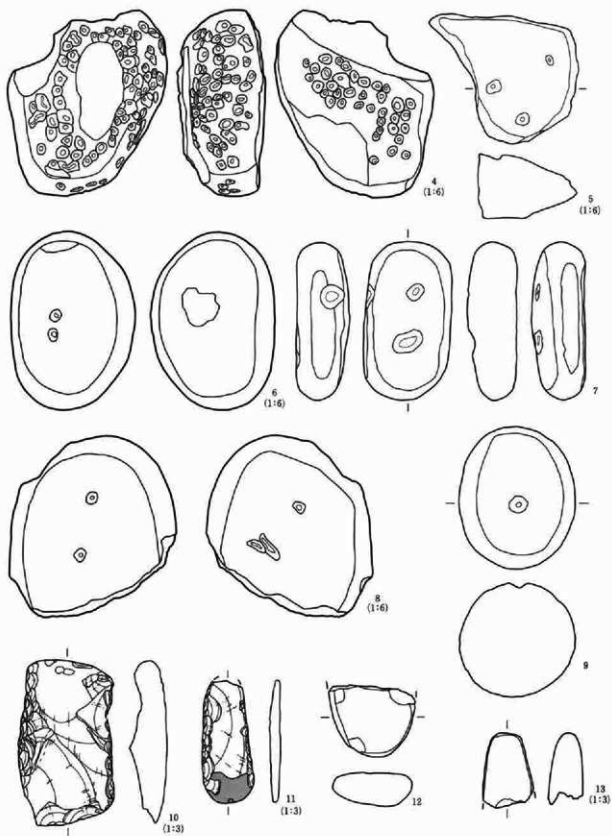
II区 8号住居石器観覧表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿	楕円形	緑色片岩	作業面は凹面。	11.6	16.6	5.6	1130	欠損
2	石皿	一	緑色片岩	石皿作業面は凹面。	15	13.6	4.8	1300	
3	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。円錐形の凹み。石皿から多孔石へ転用。	19.8	12	8.2	2100	
4	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に円錐形の凹み。	29.2	25.5		8000	
5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	20	24.4	10.2	5500	
6	台石・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。裏面に敲打痕。作業面は平皿。	28.5	20		12300	
7	磨四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹みと磨面。磨一凹。	15	12.4	12.2	1500	
8	台石・多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。作業面は平皿。	28.6	28.5		9700	欠損
9	丸石	卵形	粗粒輝石安山岩	表中央に円錐形の凹みを持つ。	15.2	12.4	12.1	2890	
10	打製石斧	短筒形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	13.1	7.7	3.3	410	
11	打製石斧	短筒形	安輝緑岩	片面調整。裏に自然面を残す。刃部磨滅。横断面レンズ状。	9.7	4.1	1.1	60	
12	磨・敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕を持つ。	7.6	9.5	3.5	360	
13	磨製石斧	定角式	安山玄武岩	両側面・頂部を研磨し縁を持つ。横断面隅丸長方形。	5.9	4.1	2.8	90	刃部欠損

第1章 出土遺物の概要



第177図 8号住居址出土遺物-1



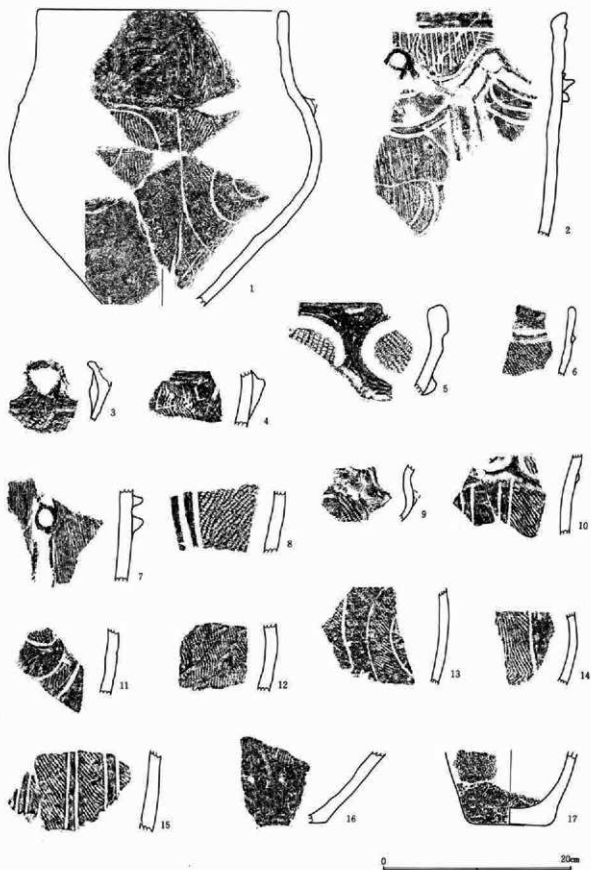
第178図 8号住居址出土遺物-2

## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 9号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-5mmの小石・ 雲母多量	7.5YR	褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの隆線が頸部に1条廻る。口縁部は無文。太さ3mmの沈線が胴部に渦巻き状の曲線を描く。沈線内に縄文が充填。	13と同一
2	φ1-3mmの小石	7.5YR	暗褐色	良好	条線	縦位	沈線	隆・沈	地文は巾2mmの平行沈線が条線状に施文。口縁部は太さ6-8mmの隆線が2条対で弧状の区画。区画内は太さ3mmの沈線が鋭く施文。胴部は太さ5mmの沈線が2条対で連弧状に施文。	
3	φ1-5mmの小石	10YR	暗灰色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ4mmの浅い沈線が口縁部に廻る。	
4	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆線	巾3mmの平行沈線が数条単位で条線化する。	
5	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が口縁部に楕円の区画。口縁部全体に粘土を貼付し肥厚させる。	
6	φ1-3mmの小石	10YR	暗褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ5mmの隆線が頸部に廻る。	
7	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好	条線	縦位	沈線	隆線	太さ7mmの隆線が2条垂下し縦位の区画。	
8	φ1-5mmの小石	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が3条対で垂下し縦位の区画。	
9	φ1-2mmの砂粒多量・ 雲母	5YR	暗褐色	普通	RL	横位	縄文		口縁部無文帯で胴部との境が若干隆起する。機状把手が剥離。	
10	φ1-3mmの砂粒・ 黒曜石	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ7mmの隆線で口縁部に楕円の区画。胴部は太さ3mmの沈線が2条対で垂下し縦位の区画。	
11	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が弧状に施文。	
12	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	LR	斜位	縄文			
13	φ1-5mmの小石・ 雲母多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの隆線が頸部に1条廻る。口縁部は無文。太さ3mmの沈線が胴部に渦巻き状の曲線を描く。沈線内に縄文が充填。	1と同一
14	φ1-3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	斜位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が縦位に施文。	
15	φ1-3mmの砂粒・ 雲母	7.5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で垂下し縦位の区画。	
16	φ1-3mmの砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	不良	条線	縦位	沈線		巾2mmの平行沈線の条線。内面黒色。	
17	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		内面スス付着。	

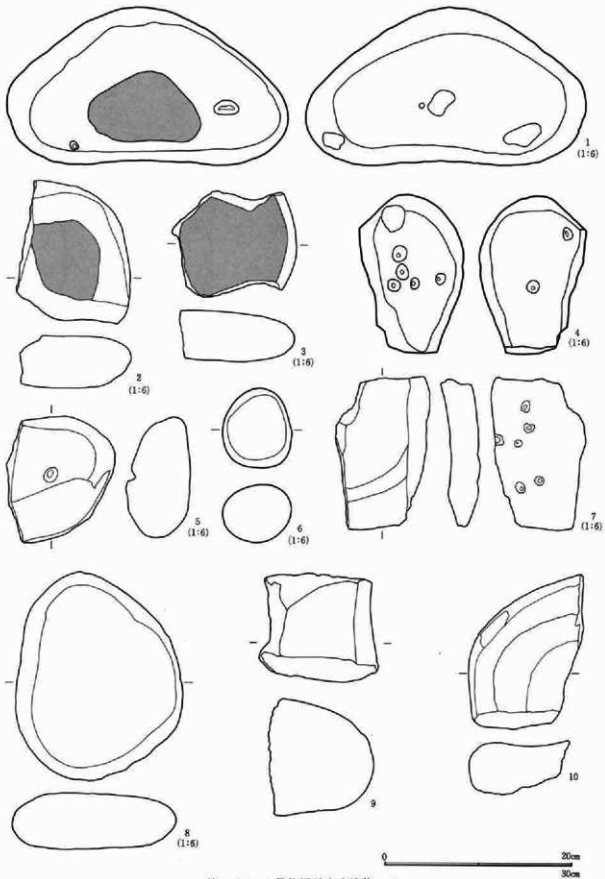




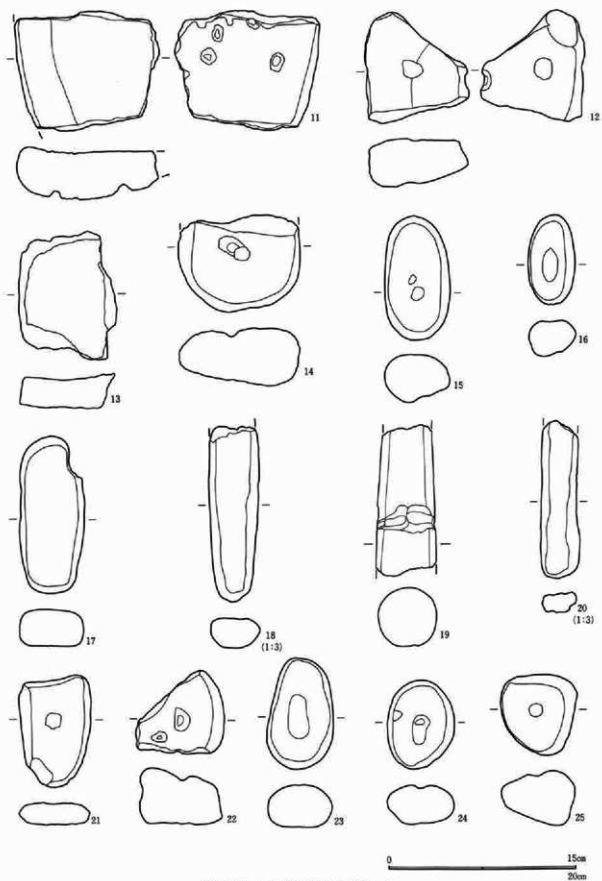
第179図 9号住居址出土遺物-1

Ⅱ区 9号住居石器観察表

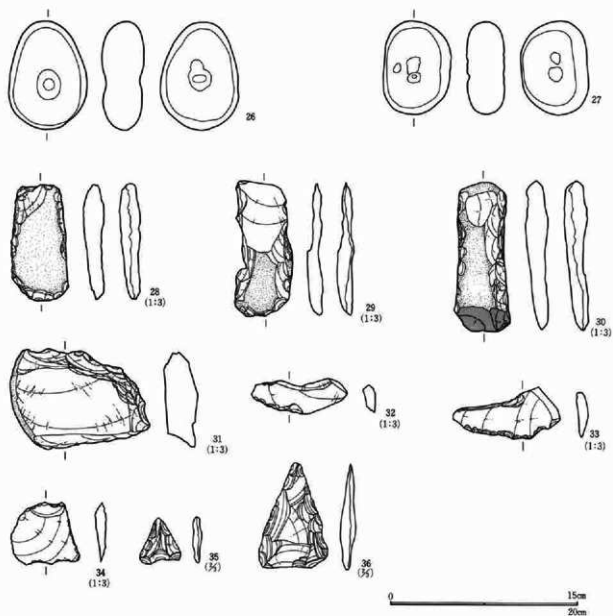
遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	25	45		17000	
2	白石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で磨面。	22.5	18	8.5	4500	欠損
3	白石	不定形	粗粒輝石安山岩	台石作業面は平坦で磨面。	17	20.5	8.5	4400	
4	白石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面に磨面と円錐形の凹み。	25	16.8		5800	
5	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	20	17.5	10	5200	
6	丸石	卵形	粗粒輝石安山岩		12.8	11	9.3	1870	
7	石皿・多孔石	—	緑色片岩	石皿作業面は凹面。裏に円錐形の凹み。	24.3	15.6	6.5	3300	
8	白石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で敲打痕。	32.8	27	8.5	10500	
9	磨石	不定形	粗粒輝石安山岩	研磨により磨面に棱を持つ。	11.1	12.8	12.2	2600	欠損
10	石皿	—	緑色片岩	石皿作業面は凹面。	16.3	12	5.6	1800	欠損
11	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	12.7	15.6	5	1120	
12	石皿・多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。凹一磨。	11.9	11.2	5.1	630	
13	石皿	—	緑色片岩	作業面は凹面。	13.6	10.4	3.7	850	
14	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と凹みを持つ。	10.1	10.2	6	1060	欠損
15	磨・凹石	棒形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹一磨。	13.1	6.9	5.1	720	
16	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表中央に浅い凹み。	9.5	5	3.8	250	
17	磨石	角棒形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	16.6	6.9	3.9	790	
18	敲石	棒形	雲母石英片岩	側面に敲打痕。	13.8	4	2.4	220	
19	石棒	—	緑色片岩	基部抉り。	16	6.4	6.3	1100	
20	敲石	扁平な棒形	雲母石英片岩	両側面に敲打痕。	12.4	3.2	1.5	100	欠損
21	凹石	扁平楕円形	雲母石英片岩	表中央に浅い凹み。	11.8	7.7	2.3	340	
22	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。	8.8	9.5	5.9	510	
23	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	11.8	7.1	4.5	560	
24	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表中央に円錐形の凹み。	9.4	7.1	4.1	330	
25	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表中央に円錐形の凹み。	8.5	8.1	5.7	470	
26	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	11.4	8.4	4.5	560	
27	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。凹一磨。	9.9	7.3	4	470	
28	打製石斧	短棒形	硬質泥岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	9.2	4.4	1.7	80	
29	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	10.7	4.5	1.3	60	裏面割離。
30	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	11.8	4.4	1.8	110	
31	石核	棒状	黒色安山岩	両面調整。	11.3	8.1	2.6	290	
32	スクレイパー	棒状	黒色頁岩	一側面に片面調整の刃部。	2.9	7.7	1	20	
33	スクレイパー	棒状	黒色頁岩	両側面に片面調整の刃部。	4.1	8.6	0.9	30	
34	スクレイパー	棒状	黒色頁岩	両側面に使用によるほこばれ。	5	5.5	0.9	20	
35	石鏝	巴形無蓋鏝	黒曜石	側面に押任刻離。横断面レンズ状。	1.9	1.6	0.4	0.7	
36	石鏝	平蓋無蓋鏝	粗粒輝石安山岩	側面に押任刻離。横断面レンズ状。	4.2	2.7	0.6	4.9	



第180図 9号住居址出土遺物-2



第181図 9号住居址出土遺物-3



第182図 9号住居址出土遺物-4

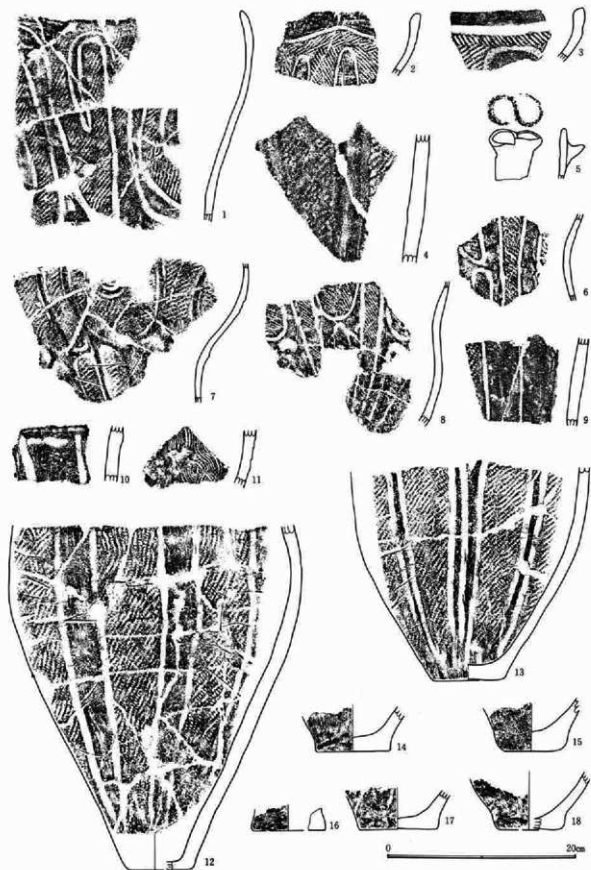
第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 10号住居土器観察表

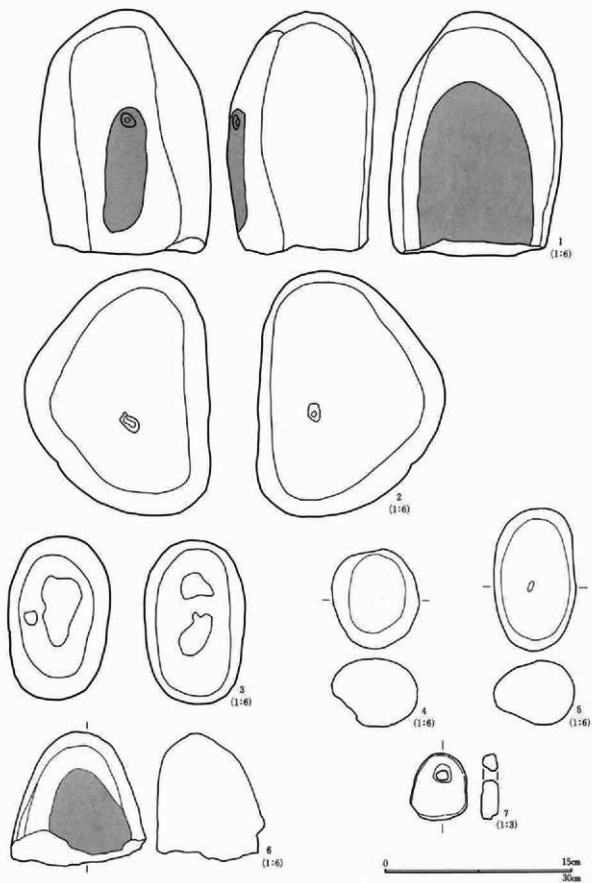
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で「U」状の文様を織く。縄文施文部と無文を沈線で区画。	
2	φ1-3mmの小石	2.5YR	灰黄色	普通	Lr	縦・横	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で「U」状文様。口縁部に無文帯をつくる。	
3	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	普通	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が1条口縁に廻る。太さ6mmの沈線で胴部に文様を区画。	
4	φ1-5mmの小石・黄色軽石多量	10YR	明黄褐色	不良	RL	縦位	縄文・沈	沈・沈	太さ10mmの沈線が縦位に施文。全体に磨滅。	
5	φ1-3mmの小石多量	10YR	ぶい黄褐色	不良			無文	隆線	深鉢突起部で頂部は「8」字状。	
6	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位の区画と「U」「U」状の文様。内面スス付着。	
7	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文・沈	沈・沈	太さ5mmの隆線で縦位区画・渦巻き状の文様。太さ3mmの沈線が隆線に沿って施文。	
8	φ1-5mmの小石・黄色軽石	5YR	ぶい赤褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位の区画「U」「U」状の文様。	
9	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの隆線で縦位の区画。	
10	φ1-3mmの砂粒多量	2.5Y	黄褐色	普通				沈線	太さ10mmの沈線が縦位に施文。	
11	φ1-2mmの砂粒	10YR	灰黄褐色	良好	条線	縦位	沈線		巾2-3mmの平行沈線を数条単位で条線にし波状に施文。	
12	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6-8mmの沈線が2条付で縦位の区画。	
13	φ1-5mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2-3条付で垂下し縦位の区画。内面赤色塗彩。	
14	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	良好			無文		外面磨きの痕跡あり。	
15	φ1-3mmの小石	10YR	黄褐色	不良			無文		磨滅多い。	
16	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好			無文			
17	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	普通			沈線		太さ3mmの沈線で縦位の区画。全体に磨滅する。	
18	φ1-3mmの小石	10YR	ぶい黄褐色	不良			無文		縦位の磨き。内面黒色。	

Ⅱ区 10号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	長楕円形	角閃石安山岩	表面に磨面と凹み。裏面に磨面。	25.7	18.6	15.8	36100	欠損
2	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	26	19.8		18700	
3	台石	長楕円形	石英閃緑岩	表裏に敲打痕。	17.2	10.3		8100	
4	丸石	球形	角閃石安山岩		10.3	9.8	7.1	3300	
5	台石	長楕円形	角閃石安山岩	表面に凹み。	15	9.8	6.8	4500	
6	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	14.2	14.2	11.2	9500	
7	不明石製品	楕円形	輝石	上面に孔を持つ。浮子?	5.3	4.5	1.4	10	
8	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	20	17.2	10.4	3700	
9	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	17	17.4		4400	
10	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏-両側面に磨面と稜を持つ。凹一磨。	12.7	9.4	4.4	800	
11	砥石	楕形	牛伏砂岩	砥面に半円状の浅い凹みを持つ。	13.2	6.9	2	210	
12	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。表面に敲打痕。	12.1	17.1	6.2	1800	
13	打製石斧	短冊形	砂岩	両面調整。横断面コマボコ状。	8.8	3.9	1.9	70	刃部欠損
14	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面コマボコ状。	8.2	4	1.5	50	刃部欠損
15	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	5.2	1.1	50	刃部欠損
16	スレイバー	横長	安賞玄武岩	一側面に刃部片面調整。	4.7	8.2	1.4	60	
17	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部に押圧刻線の調整。横断面コマボコ状。	7.3	3.4	1	20	
18	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	4.3	2.7	80	刃部欠損
19	スレイバー	横長	黒色頁岩	一側面に刃部片面調整。	4.3	4.6	0.8	10	
20	石鏝	凹部無砥線	黒色安山岩	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.8	1.7	0.5	1.4	

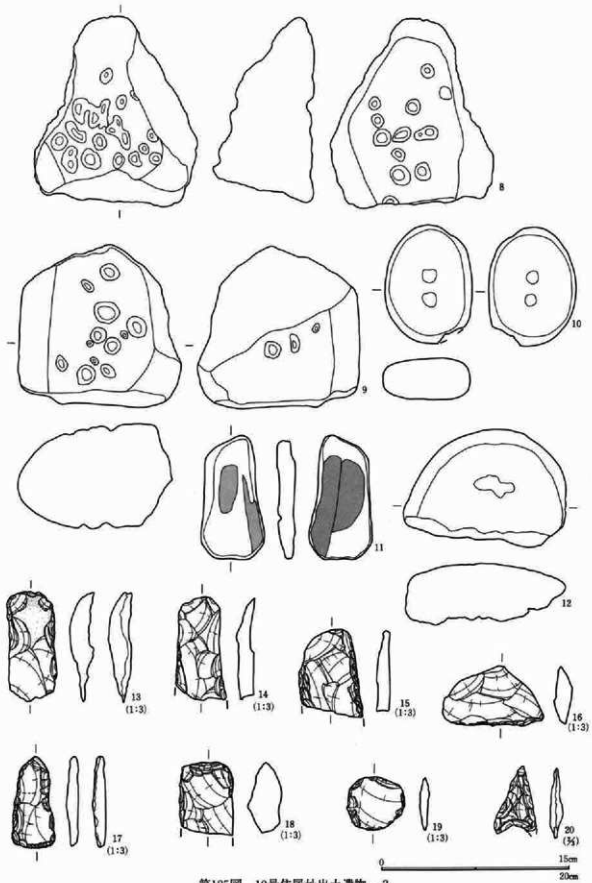


第183図 10号住居址出土遺物-1



第184図 10号住居址出土遺物-2





第185図 10号住居址出土遺物-3

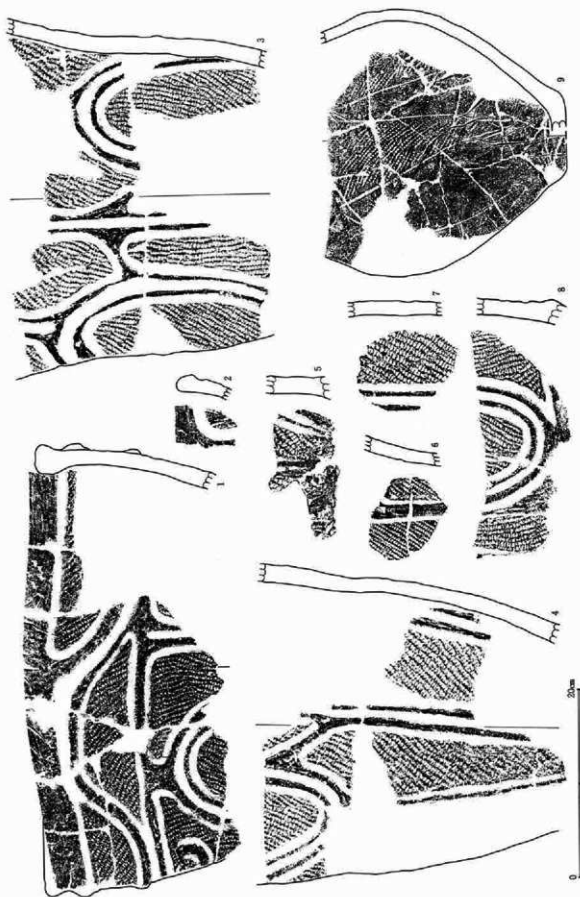
## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 11号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線が貼付。	
2	φ1-5mmの小石多量	10YR	暗褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの沈線で楕円の区画。	
3	φ1-3mmの小石・黄色軽石	2.5Y	にぶい黄色	良好	KL	縦・斜	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が2条対で区画。	
4	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線が2条対で縦位に貼付。	
5	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	KL	縦位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で縦位の区画。	
6	φ1-3mmの砂粒	10YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で文様を区画。	
7	φ1-3mmの砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が2条対で垂下するように貼付。	
8	φ1-3mmの小石・泥母	2.5Y	にぶい黄色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が2条対で褐色き。	
9	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線で扇歯状の文様を区画。 沈線で縄文光頭部と無文部に分ける。	

Ⅱ区 11号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	白石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で磨面。	28.8	15		4600	
2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	19	19	12.3	5800	
3	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表面に円錐形の凹み。	23.3	26.4	9	4700	
4	白石	長方形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。	35.5	13	6.5	4700	
5	多孔石	楕円形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	20.5	13	4	1600	
6	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で円錐形の凹み。	12.6	9.2	6.8	1200	
7	石皿	一	緑色片岩	作業面は凹面。	14.7	10.5	3.4	570	
8	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹→磨。	13.2	6.8	3.9	570	
9	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と凹面。磨→凹。	10	6.7	4	390	
10	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏-両側面に凹み。表裏に磨面。磨→凹。	12.3	8.8	3.7	560	
11	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	片面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	6.1	3.3	1.5	30	
12	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	4.4	5.4	2.5	80	基部欠損
13	打製石斧	短楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.2	4.6	1.5	70	裏面割離
14	スクレイパー	楕長	緑質頁岩	一側面に片面調整の刃部。	9.5	4.4	1.5	50	
15	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	側面両面調整と押圧割離。	6.3	2.3	0.9	29	
16	磨製石斧	定角式	安山玄武岩	表裏-両側を磨削し接をもつ。刃部はこぼれ。横断面隅丸長方形。	6.6	3.4	1.3	50	



第186図 11号住居址出土遺物-1

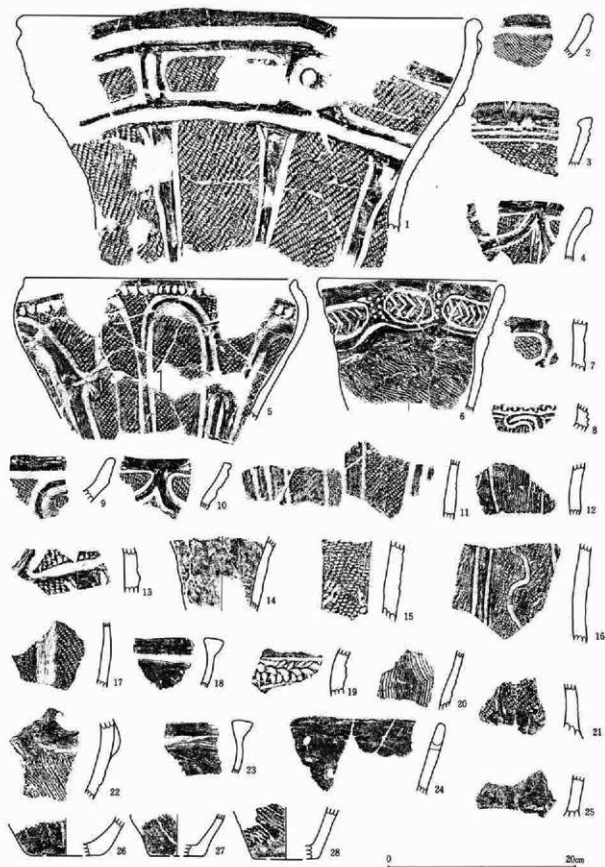
第1章 出土遺物の概要



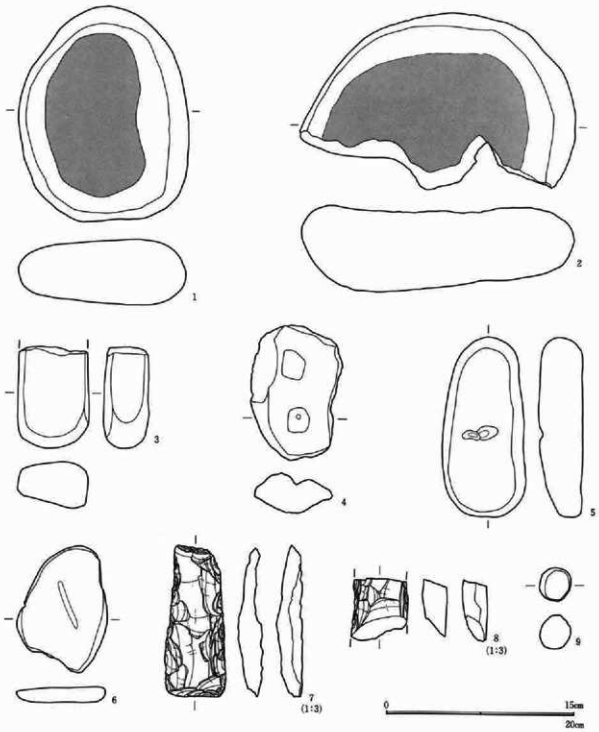
第187図 11号住居址出土遺物-2

II区 12号住居土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ8-12mmの隆線と沈線で口縁部文様を構円区画。胴部は太さ7mmの沈線が2条対で重下し縦位の区画。太さ5mmの沈線が口縁部に施す。	
2	φ1-3mmの雲母・小石	2.5Y	暗灰黄色	普通	Lr	縦・斜	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が3条口縁に施す。表面塗彩、剥離。	
3	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの隆線で半円状の区画。太さ4mmの沈線が隆線に沿って半円状に胴部を縦位区画。	
4	φ1-3mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL		縄文	隆・沈	口縁上端に巾10mmの爪形文が1列施文。以下胴部は太さ8mmの沈線が2条対で「U」状の文様を施文。	
5	φ1-3mmの小石	2.5Y	にぶい黄色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3-4mmの沈線と5-8mmの隆線で口縁部を構円区画。区画内は沈線が矢羽根状に充填。構円区画間はφ5mmの円形剥離。	
7	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好	Lr	縦位	縄文	隆・沈	隆線で構円区画。隆線に沿って太さ5mmの沈線が施文。	
8	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	褐色	不良			縄文	沈線	太さ3mmの沈線と交互斜交文。縄文原形不明。	
9	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で構円区画。	
10	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ8-10mmの隆線で半円状の区画。隆線に沿って沈線が施文。胴部は沈線で縦位の区画。	
11	φ1-3mmの砂粒・小石	2.5Y	にぶい黄色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位の区画。	
12	φ1-2mmの砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	地文は巾2mmの平行沈線を条線化。太さ4mmの沈線が重下し縦位の区画。	
13	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR		縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で文様を区画。隆線に沿って沈線が施文。外面は上下に整形痕。内面スス付着。	
14	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	良好			無文			
15	φ1-3mmの小石・黄色軽石	2.5Y	にぶい黄色	良好	RL	縦位	縄文		沈線が縦位に施文。	
16	φ1-5mmの小石・雲母	2.5Y	にぶい黄色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が2条対で縦位の区画。区画間は波状沈線が施文。	
17	φ1-2mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	縦位	縄文		縄文を縦位に磨り消し縦位区画をつくる。内面スス付着。内外面横位の磨き。浅鉢。	
18	φ1-5mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文			
19	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良			爪形文		太さ3mmの沈線で横位に文様を区画。区画内を交互に剥離。	
20	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	条線	縦位	沈線	沈線	巾4mmの平行沈線の条線。内面黒色、スス付着。	
21	φ1-5mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文			
22	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線	斜位	沈線	隆線	太さ15mmの隆線で構円区画。内面にφ10mm位の円形の縦打痕。内外面横位の磨き。内面黒色。外面赤色塗彩。浅鉢。口縁部に補修孔あり。	
23	φ1-5mmの小石	5YR	赤褐色	良好			無文			
24	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文			
25	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通			無文		内面黒色、スス付着。浅鉢。	
26	φ1-3mmの小石多量・雲母	5YR	赤褐色	良好			無文		内面黒色。浅鉢。	
27	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	褐色	不良			無文		内面黒色。浅鉢。	
28	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で縦位の区画。内面黒色。	



第188图 12号住居址出土遺物-1



第189図 12号住居址出土遺物-2

## 第1章 出土遺物の概要

II区 12号住居石器観覧表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	楕円形	角閃石安山岩	作業面は平坦で磨面。	22.8	18	7	4800	
2	台石	楕円形	角閃石安山岩	作業面は平坦で磨面。	18.6	29.3	9.3	6200	欠損
3	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面・両側面に磨面と稜を持つ。	10.8	7.6	4.9	720	欠損
4	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	中央に円錐状の凹み。	14.3	9.9	4.2	580	
5	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。磨一凹。	19	14	4.8	1300	
6	砥石	不定形	千伏砂岩	中央に細長い溝状の磨面。	13.4	9.6	1.7	210	
7	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	12	4.9	2.1	120	
8	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5	4.4	2	50	両端欠損
9	投擲	球形	粗粒輝石安山岩		3.5	3.3	3.6	40	

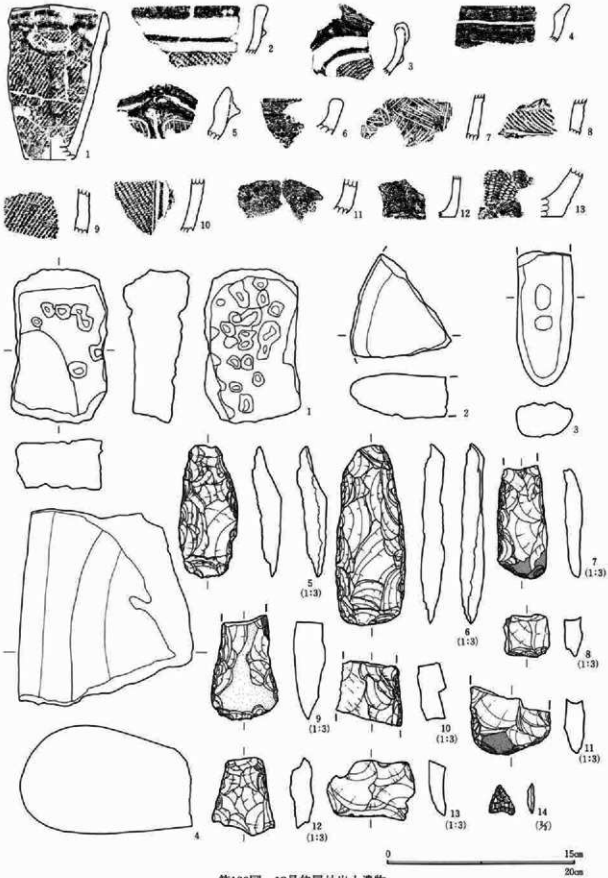
II区 13号住居土器観覧表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 器体	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ6mmの隆線で口縁部に横凹区画。隆線内側に沈線を引く。内面スス付着。	
2	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線が横位に走る。	
3	φ1-2mmの細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線が弧状に施文。隆線間に沈線を引く。	
4	φ1-2mmの細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		太さ3mmの沈線が頸部に走る。内外面とも横位に磨き。洗鉢。	
5	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			隆・沈	隆・沈	太さ3mmの沈線で施文。隆線で横凹区画。	
6	φ1-3mmの砂粒	10YR	灰青褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き。洗鉢。	
7	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	良好			沈線	沈線	太さ2mmの沈線で縦位の区画。区画間には「ハ」字状に施文。内面黒色。スス付着。	
8	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	暗褐色	普通			沈線	沈線	φ4mmの平行沈線が斜位に深く施文。	
9	φ1-3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	縦位	弥余			
10	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ6mmの隆線と平行沈線で縦位の区画。	
11	φ1-3mmの小石・砂粒	5YR	赤褐色	普通			無文		内面丁寧な磨き。	
12	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	褐色	良好	RL	縦位	縄文		縄文をまばらに施文。	
13	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通	RL	縦位	縄文			

II区 13号住居石器観覧表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	穿孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐状の凹み。	16.5	10.3	7	1220	
2	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は平面。	11.1	10.7	4.8	590	
3	凹・嵌石	角錐形	雲母石英片岩	表面に浅い凹み。両側面に敲打痕。	14.4	5.9	3.9	540	欠損
4	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	20.4	19.8	11.2	7400	
5	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.5	4.7	2.4	90	
6	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	14.2	5.5	2	170	
7	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	9	3.9	1.5	60	両端欠損
8	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	両面調整。	3.5	3.6	1.4	20	基部欠損
9	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カメラゴ状。	8.3	5.3	2.5	130	基部欠損
10	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.1	5.3	2.4	60	両端欠損
11	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨滅。	5.3	6.2	1.7	60	基部欠損
12	打製石斧	楕形	黒色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.9	1.9	60	刃部欠損
13	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	一端辺に使用によるこぼれ。	4.4	7	1.3	40	
14	石鏝	凹基無基鏝	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	1.2	1.4	0.3	0.1	



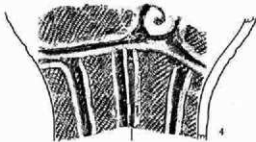
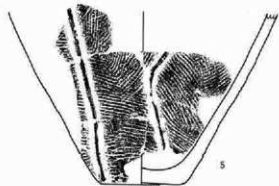
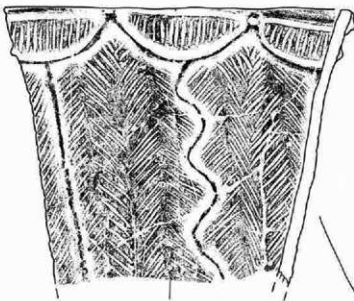
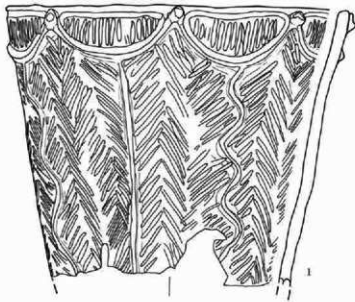


第190図 13号住居址出土遺物

第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 14号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	橙色	良好	沈線		沈線	隆線	太さ4mmの沈線を移移状の施文。口縁部は太さ8mmの隆線で半円状に区画し、沈線が充填。胴部は隆線が垂下し腹位の区画をつくる。	
2	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	明黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ6-8mmの沈線で楕円区画し、渦巻き状の文様を描く。区画内は太さ3-5mmの沈線が充填。胴部は沈線が2条対で腹位の区画。	
3	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で腹位の区画。内面スス付着。	
4	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい橙色	良好	RL	縦・横	縄文	隆・沈	太さ7-8mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。太さ6mmの沈線が隆線に沿って施文。胴部は沈線が2条対で腹位の区画。	
5	φ1-3mmの小石・雲母・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	I	斜位	熱赤	隆線	太さ6mmの隆線で腹位の区画。地文の熱赤を矢羽根状に施文。	
6	φ1-3mm砂粒多量・雲母・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通				隆線	太さ5mmの隆線が2条対で渦巻き状の文様。胴部無文。	
7	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	太さ6-10mmの隆線で楕円区画。区画内の胴部地文は太さ4mmの沈線が施文。口縁部は太さ6-8mmの隆線が2条対で半円状の区画。胴部は隆線が1条で腹位の区画。渦巻き。	
8	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	橙色	普通	LR	横・斜	縄文	隆線	太さ3mmの沈線が2条対で腹位の区画。内面スス付着。	
9	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい橙色	不良				縄文	太さ3mmの沈線が2条対で腹位の区画。内面スス付着。	
10	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	橙色	良好	条線	縦位	沈線	隆・沈	太さ12mmの隆線が口縁に半円状に貼付。隆線内を太さ5mmの沈線が半円に区画。渦巻き。	
11	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい橙色	普通	KL	斜位	縄文	隆・沈	太さ2mmの隆線で半円状に区画。区画内は太さ4mmの沈線が充填。内面スス付着。	
12	φ1-2mmの砂粒	10YR	明黄褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ4-6mmの隆線と沈線で渦巻き状の文様。胴部の突起にφ7mmの孔が1つあり。内面黒色。渦巻き。	
13	φ1-2mmの砂粒	2.5YR	にぶい黄色	良好				隆・沈	太さ7mmの隆線が半円状の区画。区画内は太さ5mmの沈線が腹位に充填。内面スス付着。	
14	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい橙色	普通	LRL	縦位	縄文	隆・沈	太さ10mm前後の沈線と隆線が横位に施文。	
15	φ1-2mmの砂粒・黄色軽石	5YR	明赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯は太さ5-8mmの沈線と隆線で区画。	
16	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい橙色	普通				沈線	地文は太さ3mmの沈線を矢羽根状に施文。同じ沈線で半円状区画・腹位区画。内面黒色。	
17	φ1-3mmの小石・雲母・黄色軽石	7.5YR	橙色	良好				隆・沈	太さ4mmの沈線で口縁部文様帯を区画。区画内はφ4mmの突起が充填。胴部は太さ8mmの隆線が渦巻。内面黒色。	
18	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	浅黄褐色	不良				沈線	太さ6mmの隆線で渦巻き・半円状区画。区画内は太さ4mmの沈線が充填。渦巻き。	
19	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良				沈線	太さ3mmの沈線で腹位の区画。	
20	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	橙色	良好				隆・沈	太さ4-6mmの沈線と隆線で半円状区画。	
21	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	にぶい橙色	普通	Lr	縦位	熱赤	沈線	太さ4mmの沈線が横位に施文。沈線間には交互列突。	
22	φ1-5mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい橙色	良好				隆・沈	太さ6-8mmの隆線で弧状文様。区画内は太さ4mmの沈線が充填。	
23	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が2条対で腹位の区画。沈線間は無文。	
24	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄褐色	普通				沈線	太さ4mmの沈線で腹位の区画。沈線が矢羽根状に充填。	
25	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好				沈線	太さ3mmの沈線を直線・弧線に引く。	



0 20cm

第191图 14号住居址出土遺物-1



第192図 14号住居址出土遺物-2

II区 14号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
26	φ1-3mmの小石	7.5YR	橙色	普通	Lr	斜位	無糸	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
27	φ1-3mmの小石	5YR	橙色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	内面黒色、スス付着。	
28	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石・雲母	5YR	明赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線が横位に走る。	
29	φ1-2mmの砂粒・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。内面黒色。浅鉢。	
30	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		赤色塗彩。内外面横位の磨き。内面黒色。	
31	φ1-3mmの砂粒多量	7.5YR	橙色	普通	RL	横位	縄文	高線	太さ10mmの高線が2条対で横位に走る。	
32	φ1-3mmの小石	7.5YR	橙色	普通			無文			
33	細かい砂粒	5Y	オリーブ黒色	良好			無文			
34	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	良好			無文			
35	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	明赤褐色	普通				沈線	太さ2mmの沈線が垂下し縦位の区画。内面にφ8mmの円形敲打痕あり。	
36	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好					底面に木葉痕あり。	
37	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線が縦位に引かれる。内外面丁寧な磨き。	
38	φ1-2mmの砂粒・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	太さ3mmの沈線が縦位の区画。内面黒色。	
39	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	良好				沈線	太さ2mmの沈線が縦位の区画。内面黒色。	
40	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良					底面に木葉痕あり。	
41	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好			無文		内面に割離痕あり。	
42	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	普通					内面スス付着。	
43	細かい砂粒	7.5YR	橙色	良好			無文		外面丁寧な磨き。内面スス付着。	
44	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き。	

II区 14号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	磨-凹-敲石	隅丸長方形	椎紋輝石安山岩	表裏に凹み。表裏・側面に磨面と敲打痕。磨一凹。	10.8	6.8	4.9	500	
2	磨-凹-敲石	長楕円形	椎紋輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。裏・側面に敲打痕。表裏に磨面。磨一凹。	14.4	10	4.7	980	
3	凹石	卵形	椎紋輝石安山岩	表面に凹み。	7.3	5.6	4.9	220	基部欠損
4	石皿	隅丸長方形	雲母石英片岩	作業面は平面。	10.7	14.6	3.8	710	
5	石皿	—	椎紋輝石安山岩	石皿作業面は浅い凹み。	10.6	13.2	6.2	1100	
6	打製石斧	短舟形	灰色安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	7.8	5.1	1.7	80	基部欠損
7	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.2	4.5	1.9	70	基部欠損
8	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.2	4.4	1.2	50	基部欠損
9	打製石斧	短舟形	椎紋輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.2	5.6	2.1	70	刃部欠損
10	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	3.6	1.8	40	刃部欠損
11	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.1	4.2	1.9	70	刃部欠損
12	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	4.7	1.8	50	基部欠損
13	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7	4.7	2.9	100	刃部欠損
14	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.1	4.2	1	20	基部欠損
15	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.3	5.7	1	20	基部欠損

第1章 出土遺物の概要



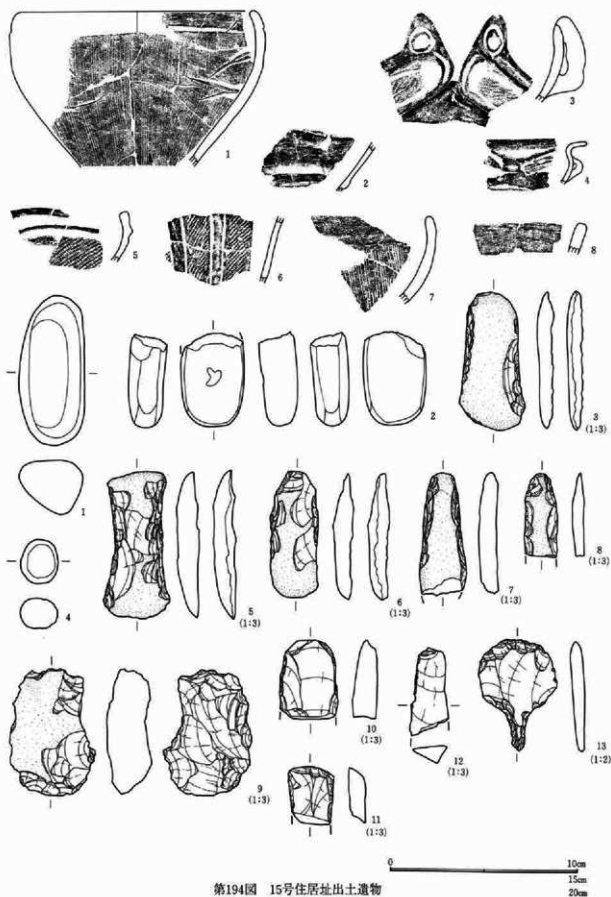
第193図 14号住居址出土遺物-3

II区 15号住居土器観覧表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1~3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	太さ5mmの沈線を口縁部に施す。沈線より上は無文帯。胴部は巾2~3mmの条線を施文。	
2	φ1~3mmの小石	5YR	橙色	良好				隆線	太さ8mmの隆線が付付。	
3	φ1~3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	隆線で口縁部に突起がつく。口縁部の文様区画は楕円形。区画間は横状で口縁頂部の突起とつながる。	
4	φ1~3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	良好				無文	頸部に2重の帯が施す。横状把手なる部分あり。	
5	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ5~6mmの沈線と隆線で楕円区画。	
6	φ1~3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。沈線間は無文。内面黒色。	
7	φ1~3mmの砂粒多量・雲母	2.5YR	黄褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	口縁部に無文帯。巾8mmの浅い沈線を胴部との区画部分に施す。胴部は巾3mmの条線が施文。	
8	φ1~3mmの小石・雲母・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好				無文	浅鉢口縁部。内面黒色。	

II区 15号住居石器観覧表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	磨石	楕形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	7	16	5.7	1020	
2	磨・凹石	楕丸長方形	閃緑岩	表面に浅い凹み。表・河側面に磨面と縁を持つ。凹一箇。	9.9	6.6	4	450	欠損
3	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	11	5.2	1.3	90	
4	投擲	楕形	粗粒輝石安山岩		4.7	4.1	3.2	40	
5	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面コマゴコ状。	11.7	5.3	1.8	120	
6	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面コマゴコ状。	10	3.9	1.8	80	
7	打製石斧	楕形	緑色片岩	両面調整。横断面コマゴコ状。	9.7	3.8	1.5	80	刃部欠損
8	ステレィバー	縦長	黒色頁岩	両面調整。	6.7	2.6	1	20	
9	石槌	横長	黒色頁岩	両面から横長の剥片を取る。	10	6.8	3.6	280	
10	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。	6.2	4.7	2.2	90	刃部欠損
11	打製石斧	縦長	黒色頁岩	両面調整。	4.6	3.6	1.4	20	刃部欠損
12	ステレィバー	縦長	硬質泥岩	一側面に使用によるほこばれ。	7	3.1	1.3	20	
13	石鏃	—	黒色頁岩	つまみ部を持つ。縁部は両面調整。	5.9	4.1	0.8	20	



第194図 15号住居址出土遺物

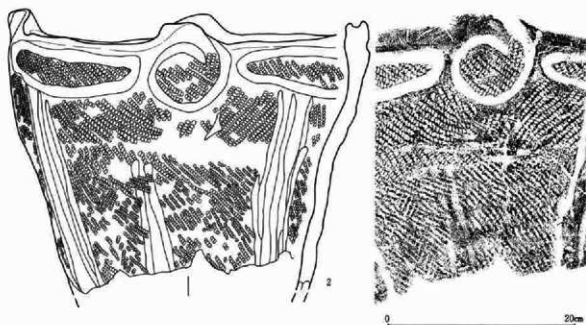
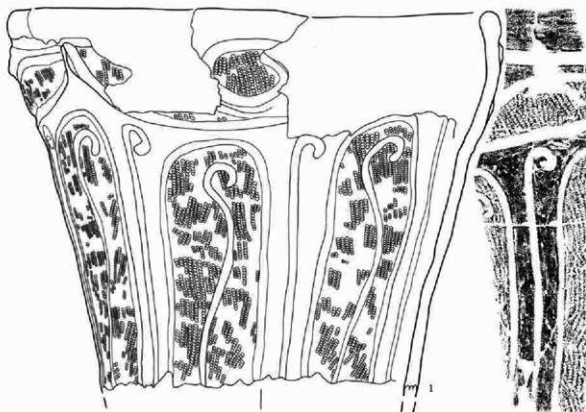


II区 16号住居土器観察表

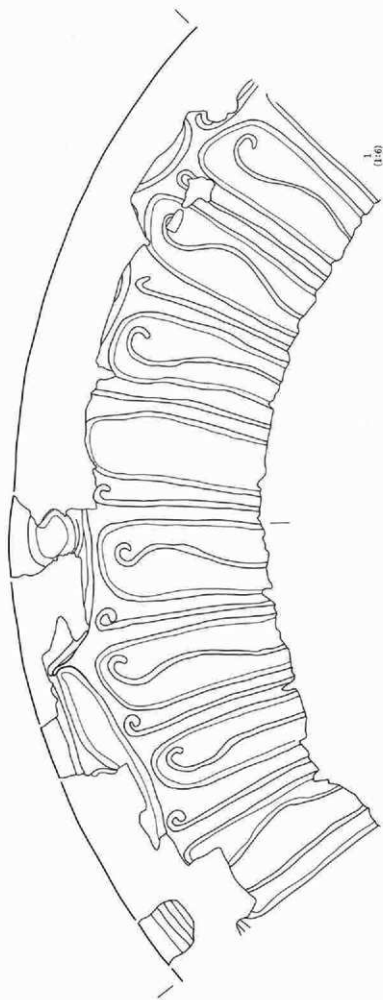
番号	胎土	色記号	色調	地成	地文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆・沈	口縁部は太い隆線と沈線で文様を区画し、縄文を充填する。胴部は太さ8mmの沈線で縦位の区画とワラビ手状の文様を描く。	
2	φ1-5mmの小石・ 軽石多い	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦・横	縄文	沈線	口縁部は太さ8mmの沈線が渦巻きと楕円区画をつくる。胴部は沈線が2条対で縦位の区画。	
3	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL・Lr		縄文	隆・沈	隆線で楕円区画。隆線に沿って沈線が施文。附加条。	
4	φ1-2mmの砂粒	2.5Y	暗オリーブ褐色	良好	条線	横位	弥生		口縁に刻みを持つ。胴部以下は巾3mmの平行沈線が横位に施文。弥生式土器。	
5	φ1-2mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	RRL	横位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯に隆線と沈線で楕円区画。	
6	φ1-2mmの砂粒・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		外面に指頭状の横位ナデ。	
7	φ1-2mmの砂粒・ 雲母	5YR	赤褐色	良好			隆・沈	隆線	隆線の渦巻きと太さ4mmの沈線で楕円区画。	
8	φ1-2mmの砂粒・ 小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯に隆線と沈線で楕円区画。	
9	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。	
10	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰色	不良			沈線	太さ7-8mmの沈線で口縁部に楕円区画。全体に磨滅。		
11	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	
12	φ1mmの小石多量	10YR	灰黄褐色	良好	LRL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で渦巻き・方形の区画。	
13	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄褐色	普通	LRL	縦位	縄文	沈線	太さ5-7mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
14	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
15	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			隆・沈	隆線で楕円区画。太さ3mmの沈線が縦位に施文。		
16	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
17	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が2条対で縦位の区画。	

II区 16号住居土器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	凹・敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。側面に敲打痕。	11.9	6.1	4	380	
2	打製石斧	楕円形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7	5	1.8	80	基部欠損
3	打製石斧	短楕円形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.8	5.5	1.7	50	両端欠損



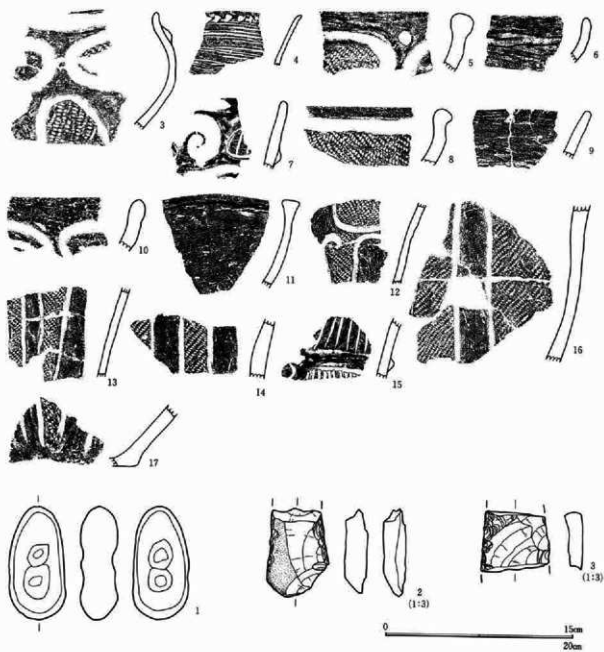
第195図 16号住居址出土遺物-1



0 30cm

第196図 16号住居址出土遺物-2

第1章 出土遺物の概要



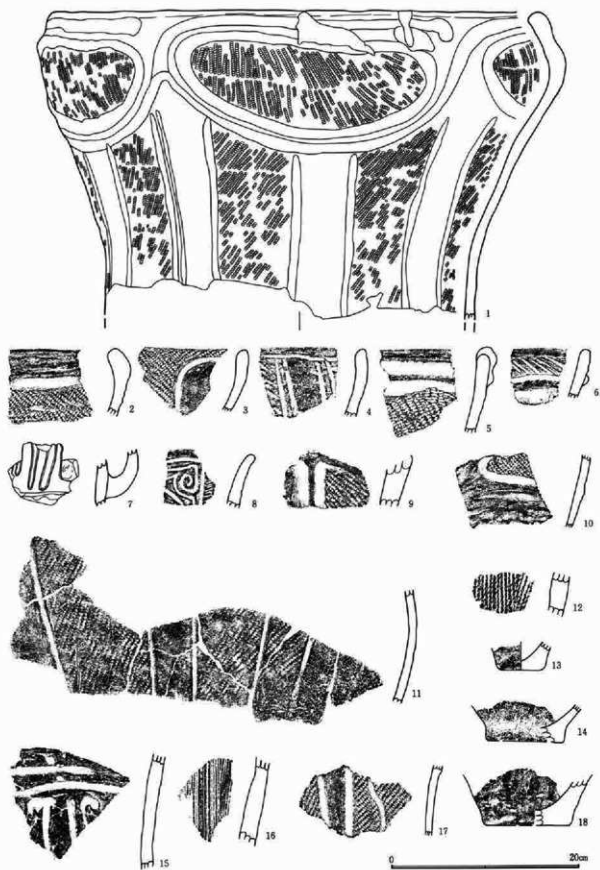
第197図 16号住居址出土遺物-3

II区 17号住居土器観察表

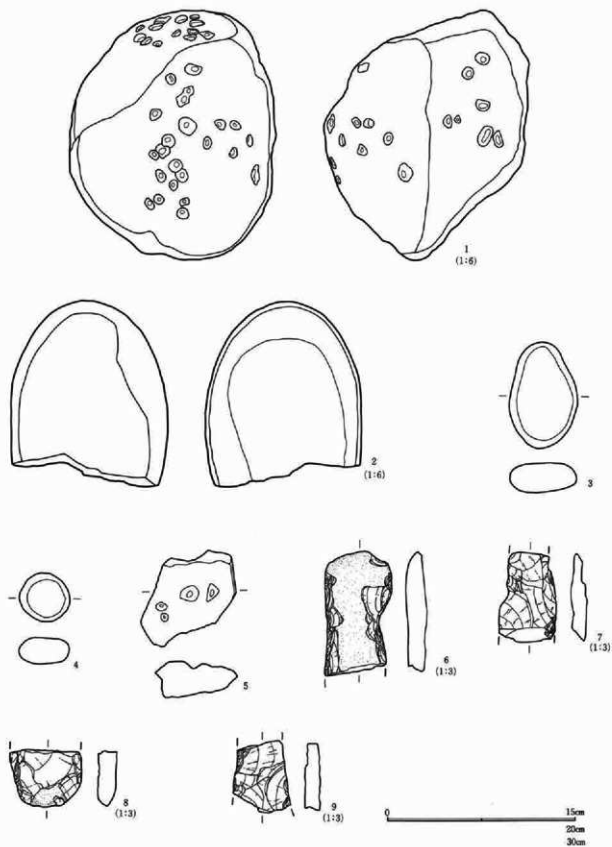
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ12mmの沈線が口縁部を楕円区画。 胴部は太さ10mmの沈線が2条対で縦位の 区画。	
2	φ1-3mmの小石・ 雲母	2.5Y	黄灰色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ10mmの浅い沈線が口縁部に廻る。	
3	φ1-2mmの砂粒・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦・横	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が「U」状に施文。	
4	φ1-3mmの小石多 量	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL-Lr		縄文	沈線	太さ6mmの沈線で縦位の区画。区画内 を附加条の縄文が施文。	
5	φ1-3mmの小石多 量・雲母	2.5Y	浅黄色	普通	RL	斜位	縄文	隆・沈	太さ8mmの沈線と隆線で文様を区画。	
6	細かい砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線	隆・沈	口縁部に太さ3-4mmの沈線が斜位に施 文。胴部は太さ12mmの隆線が廻る。 横位把手部分に沈線が施文。	
7	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	口縁部に太さ3-4mmの沈線が斜位に施 文。胴部は太さ12mmの隆線が廻る。 横位把手部分に沈線が施文。	
8	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	不良			爪形		太さ2mmの沈線で渦巻き状の文様。	
9	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの隆線で文様を区画。	
10	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線で楕円区画。器厚は薄 い。	
11	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良	RL	斜位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で縦位の区画。	
12	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	焼赤			
13	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良			無文		全体に磨滅。	
14	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	褐色	普通			無文		内面磨かれる。内面黒色。	
15	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良				沈線	太さ9mmの沈線が2条口面部に廻る。胴 部に垂線。	
16	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	褐色	良好	斜線	縦位	沈線	沈線	印2-3mmの平行沈線の条線。	
17	φ1-2mmの砂粒多 量・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で縦位の区画。 区画間には波状の沈線が施文。器厚は薄 い。	
18	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	良好			無文		縦位の磨き痕。	

II区 17号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特 徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	楕円形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	39.5	32.8	33	39600	
2	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で磨面。	29.5	25		13000	
3	磨・敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面と中央に敲打痕がある。磨 →敲。	11.2	7.2	3.2	390	
4	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	5.2	5.4	2.8	110	
5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	10.1	10.2	3.8	370	
6	打製石斧	靴形	灰色安山岩	両面調整。右側面に抉り。横断面レン ズ状。	9.9	5.4	1.7	120	刃部欠損
7	打製石斧	靴形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.1	4.5	1.4	50	両端欠損
8	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	4.5	5.7	1.5	60	基部欠損
9	打製石斧	靴形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.6	1.4	40	両端欠損



第198図 17号住居址出土遺物-1



第199図 17号住居址出土遺物-2

## 第1章 出土遺物の概要

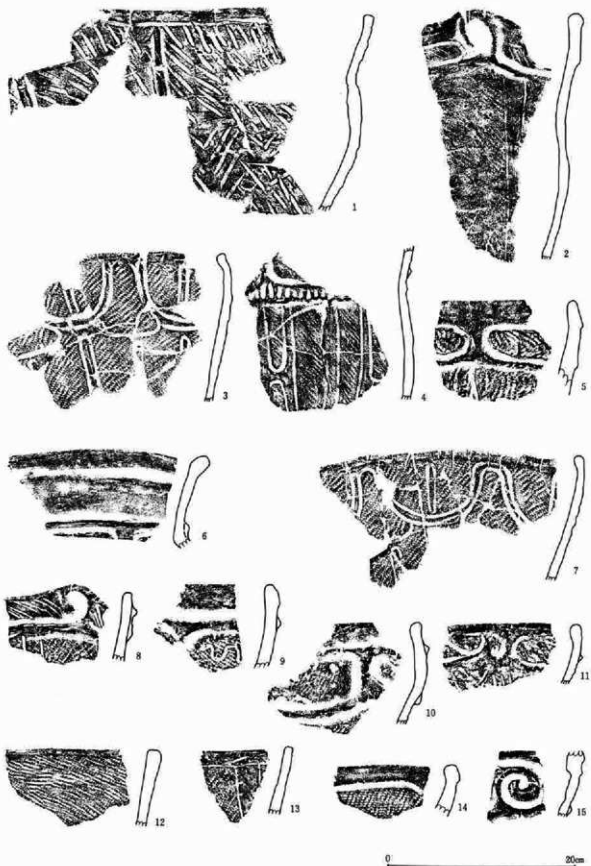
Ⅱ区 18号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい橙色	良好	沈線	斜位	沈線	隆・沈	地文は太さ5mmの沈線が矢羽根状に施文。太さ7mmの隆線で縦位の区画。口縁部は太さ7mmの隆線で渦巻き。太さ3mmの沈線で横円区画。胴部は縦位の区画。	
2	φ1-5mmの小石・黄色軽石多量	5YR	明赤褐色	不良	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ5mmの沈線で弧状の文様・縦位区画。内面スス付着。	
3	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で弧状の文様・縦位区画。内面スス付着。	
4	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	不良	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁文様は横円区画。胴部は太さ6mmの隆線で区画。胴部は太さ3mmの沈線で区画。	
5	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	太さ6mmの隆線で横円区画。胴部は太さ4mmの沈線が弧状に垂下。太さ10mmの隆線で頸部を区画。内面黒色部分あり。	
6	φ1-2mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通				隆線	太さ5mmの沈線が運瓦状に施文。内面スス付着。	
7	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部に太さ5mmの隆線が渦巻き。太さ3mmの沈線の文様。胴部は太さ10mmの隆線が走る。	
8	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線で渦巻き・横円区画。	
9	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ6mmの沈線で横円区画。	
10	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で渦巻き・横円区画。	
11	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	暗褐色	普通	Lr	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で横円区画。	
12	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文			
13	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部に太さ3mmの沈線で横位の区画。胴部は縦位の区画。	
14	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で口縁部文様を横円区画。	
15	細かい砂粒・雲母	7.5YR	暗褐色	普通				隆線	太さ3-5mmの隆線で渦巻き文。	
16	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	口縁部は太さ8mmの隆線で横円区画。口縁部突起。	
17	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好				沈線	口縁部に太さ8mmの隆線と太さ5mmの沈線で横円区画。	
18	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	明褐色	普通	LR	斜位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ3mmの沈線で区画。胴部は縦位の区画。	
19	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの隆線で渦巻き。太さ4mmの沈線で横円区画。	
20	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ5mmの沈線が矢羽根状に施文。胴部は太さ12mmの隆線で縦位の区画。	
21	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	沈線	斜位	沈線	隆線	太さ5mmの沈線で横円区画。	
22	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好	RI	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で横円区画。	
23	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	不良	RL	横位	縄文			
24	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文			
25	φ1-3mmの小石・軽石	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文			
26	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文			内面黒色。
27	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	良好	沈線	斜位	沈線	隆線	太さ5mmの沈線が矢羽根状に施文。胴部は太さ12mmの隆線で縦位の区画。内面丁寧な横位の磨き。	
28	φ1-5mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が2条対で縦位の区画。内面スス付着。全体に磨減多い。	
29	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文			内面スス付着。
30	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
31	φ1-3mmの小石	10YR	明褐色	不良	LR	縦位	縄文			
32	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	暗褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2-3条対で縦位の区画。区画間には弧状の沈線が垂下。内面スス付着。	

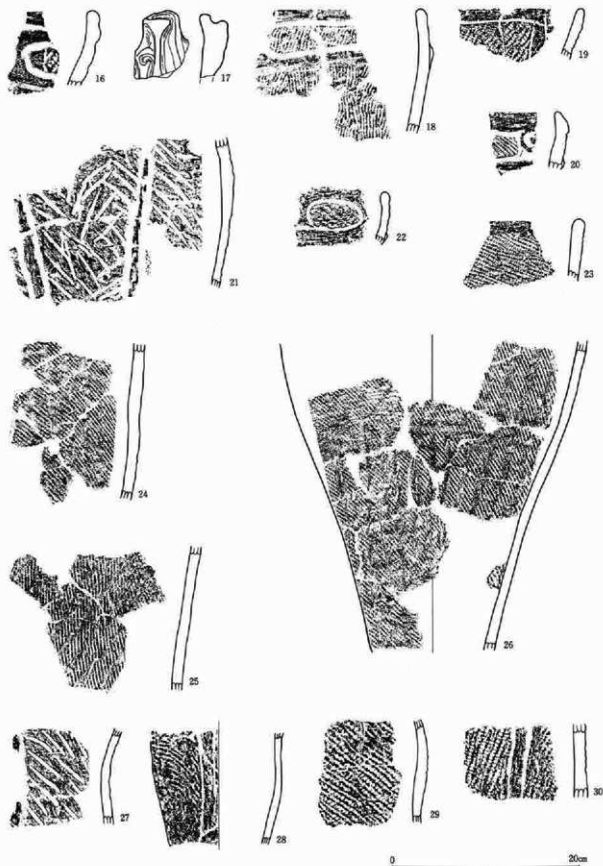


II区 18号住居土器観察表

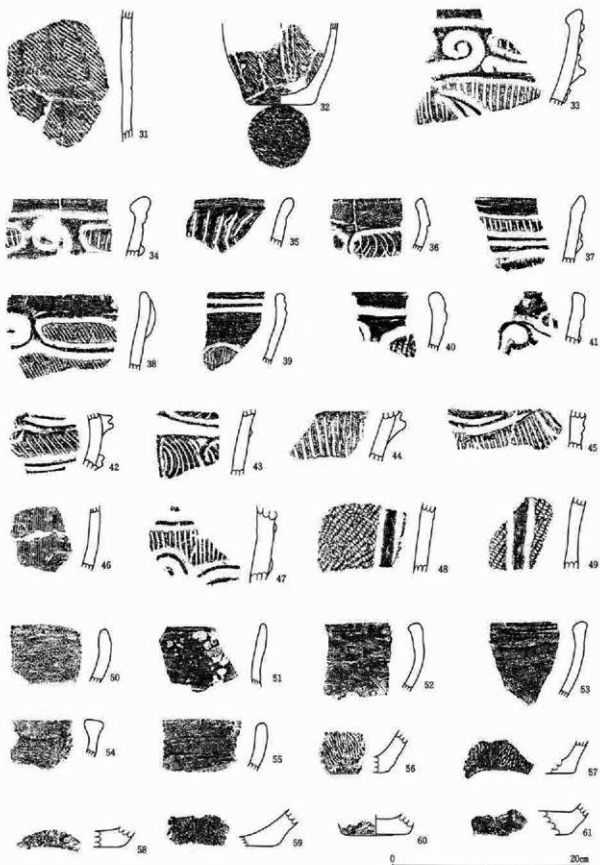
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
33	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良			沈線	隆線	太さ3mmの沈線が条線状に施文。口縁部は太さ6mmの隆線で渦巻き状・楕円状の文様。	
34	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆・沈	太さ3-6mmの隆線で渦巻き・楕円区画。区画内は太さ3mmの沈線が充填。	
35	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	良好			沈線		太さ4mmの沈線が縦位に施文。	
36	φ1-3mmの砂粒多量	7.5YR	褐色	不良			沈線	隆・沈	太さ2mmの沈線で楕円区画し、沈線を充填。	
37	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	黒色	良好			沈線	隆・沈	口縁部文様帯を太さ5-10mmの隆線で区画。区画内は太さ4mmの沈線が充填。内面スス付着。	
38	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で楕円区画。	
39	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	Lr		沈線	隆・沈	口唇部に太さ4mmの沈線が2条廻る。口縁部以下に楕円文様。口唇部にスス付着。	
40	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で楕円区画。	
41	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	灰褐色	良好			隆・沈	隆線	隆線の渦巻き。太さ5mmの沈線で楕円区画。	
42	φ1-2mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線	隆線	太さ10mmの隆線を弧状に貼付。隆線間を太さ2mmの沈線が斜位に施文。	
43	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	不良			沈線	隆線	太さ4mmの沈線が弧状に施文。隆線が貼付。赤色塗彩。	
44	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線		太さ3mmの沈線が条線状に施文。	
45	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆線	太さ6mmの隆線が弧状に貼付。太さ3mmの沈線を条線状に施文。	
46	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	黒色	普通	条線	縦位	沈線		巾2-3mmの平行沈線が条線状に施文。	
47	φ1-3mmの小石多量	10YR	黒褐色	普通	条線		沈線	隆線	太さ8mmの隆線が弧状に施文。太さ3mmの沈線が条線状になる。	
48	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
49	φ1-3mmの小石・黄色軽石	2.5Y	黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
50	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通			無文		全体に磨減多い。	
51	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	良好			無文		内面積位の磨き。	
52	φ1-2mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	普通			無文		外面に指頭圧痕あり。	
53	細かい砂粒	7.5YR	明褐色	普通			無文		赤色塗彩。	
54	φ1-3mmの小石多量・雲母	7.5YR	にぶい褐色	不良			無文			
55	φ1-3mmの小石多量・雲母	5YR	明赤褐色	普通			無文			
56	φ1-2mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	Lr	縦位	赤糸		内面黒色。	
57	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	Lr	縦位	赤糸		内面黒色。	
58	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通			無文		内面長く磨かれる。外面敲打痕。	
59	φ1-2mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文			
60	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文			
61	φ1-5mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通			無文			



第200図 18号住居址出土遺物-1



第201図 18号住居址出土遺物-2



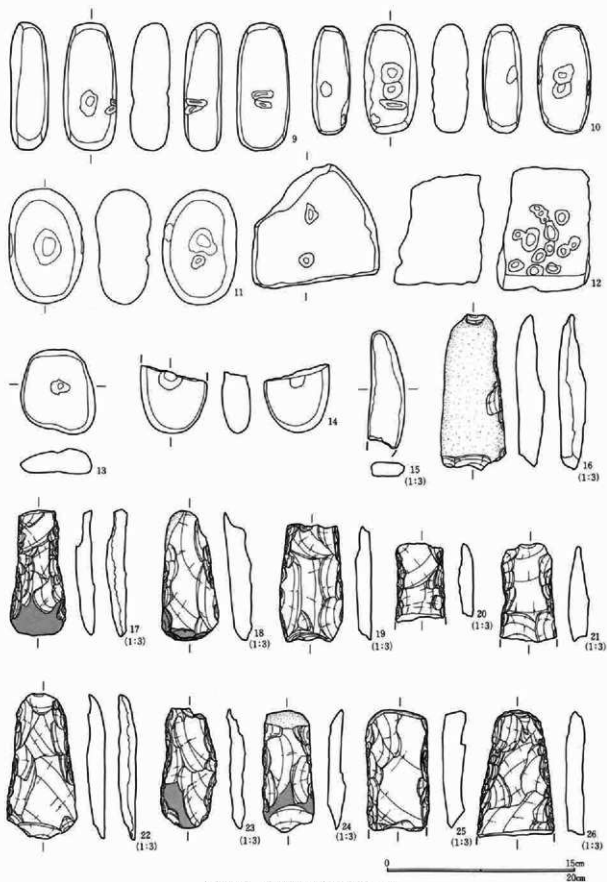
第202図 18号住居址出土遺物-3

II区 19号住居石器類調査表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石棒	円筒形	緑色片岩	表面に磨面。	39.2	12.7	9.2	9400	欠損
2	石棒	円筒形	デイサイト		23.6	11.6	10.8	4700	両端欠損
3	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。縁辺に円錐形の凹み。	19.6	14.3	7.6	2500	欠損
4	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏に円錐形の凹み。	10.2	7.3	6.3	510	
5	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏に円錐形の凹み。	16	8.6	7.3	1070	欠損
6	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	17.6	13.8	13.2	2500	
7	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	14.8	11	7.2	1350	
8	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は浅い凹み。裏面は円錐形の凹み。	12	10.8	6.2	900	欠損
9	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。裏・側面に細長い凹み。表裏・側面に磨面と稜を持つ。凹一磨。	13.6	5.7	4	560	
10	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹みと磨面と稜を持つ。凹一磨。	11.6	5.7	4.1	450	
11	磨・凹・敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。側面に敲打痕。磨一凹。	12.2	7.8	6	800	
12	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	13.5	13.8	9.8	2000	
13	凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	9	8.1	2.7	190	
14	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	7.2	7.1	3.1	180	
15	敲石	扁平な楕円形	雲母石英片岩	両側面に敲打痕。	9.3	2.9	1.2	50	下半欠損
16	打製石斧	楕円形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	12.4	5.2	2.2	170	刃部欠損
17	打製石斧	楕円形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	10.1	4.4	1.6	70	
18	打製石斧	楕円形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	10.3	4.5	1.8	110	
19	打製石斧	短楕円形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整、はこぼれ。横断面カマガコ状。	9.4	5	1.4	90	
20	打製石斧	短楕円形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整、はこぼれ。横断面レンズ状。	6.2	3.7	1.2	40	刃部欠損
21	打製石斧	短楕円形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.9	4.6	1.8	70	刃部欠損
22	打製石斧	楕円形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.5	5.6	1.4	110	
23	打製石斧	楕円形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	9.5	4.3	1.6	60	
24	打製石斧	短楕円形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.6	4.1	0.9	60	
25	打製石斧	短楕円形	黒色頁岩	両面調整。横断面カマガコ状。	9.5	5.1	2	120	刃部欠損
26	打製石斧	楕円形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.1	6.1	1.5	120	刃部欠損



第203図 18号住居址出土遺物-4



第204図 18号住居址出土遺物-5

## 第1章 出土遺物の概要

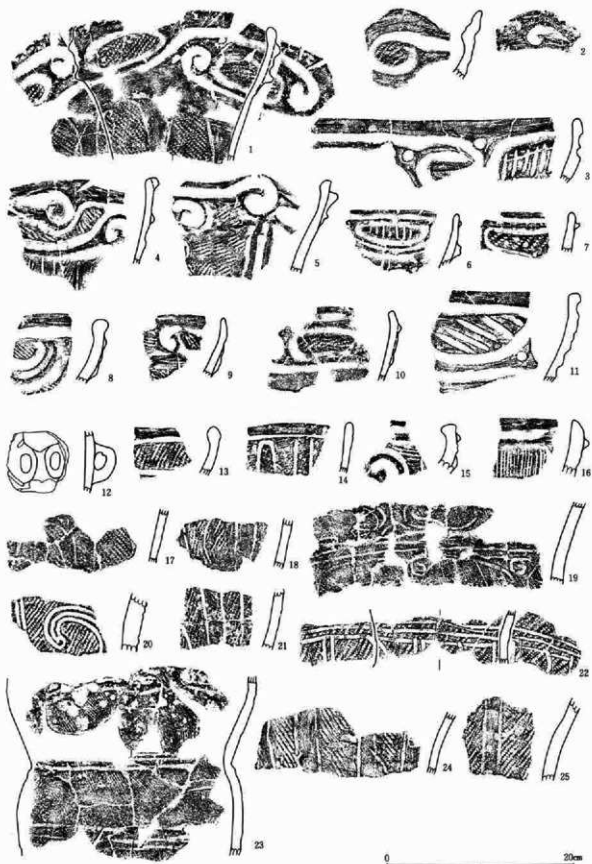
II区 19号住居土器調査票

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	2.5Y	黄褐色	不良	LR	縦・横	縄文	沈・沈	口縁部文様帯は太さ6mmの隆線と沈線で渦巻き・楕円区画。胴部は太さ5mmの沈線で「U」状の区画。	
2	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆・沈	沈線と隆線で渦巻き状の文様。内面黒色。	
3	φ1-2mmの小石多量	5Y	灰オリーブ色	普通			沈線	隆線	口縁部文様帯は太さ5-10mmの沈線と隆線で楕円区画。	
4	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	RL	縦・横	縄文	沈・沈	太さ6-8mmの隆線で渦巻き・弧状の文様。胴部は太さ3mmの沈線で縦位の区画。	
5	φ1-3mmの小石・雲母	2.5Y	暗灰黄色	良好	LR	斜位	縄文	隆線	太さ6mmの隆線で渦巻き文様。胴部は縦位の区画。	
6	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通			沈線	隆線	太さ4-10mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ4mmの沈線が充満。	
7	φ1-3mmの砂粒	5YR	赤褐色	普通	RL	横位	縄文	沈・沈	太さ4-5mmの沈線と隆線で楕円区画。	
8	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ15mmの隆線で楕円区画。	
9	φ1-2mmの小石・雲母	10YR	灰黄褐色	普通	RI	斜位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で渦巻き。	
10	φ1-3mmの小石	5Y	灰オリーブ色	不良			縄文	沈・沈	口縁は太さ5-10mmの沈線と隆線で楕円区画。	
11	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線	隆線	太さ6-10mmの沈線で文様。外面スス付着。	
12	φ1-3mmの小石・雲母	2.5Y	暗灰黄色	普通				隆線	隆線で反円の楕状把手。	
13	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	黒褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で楕円区画。	
14	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通	Lr	横位	弥生	沈線	口縁部は太さ4mmの沈線で横位の区画。胴部は「U」状の文様と縦位の区画。内面スス付着。	
15	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	横位	弥生	隆線	太さ8-10mmの隆線で渦巻き。	
16	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	委線	縦位	沈線	隆線	103mmの平行沈線を条線状に施文。口縁部に太さ10mmの隆線が隠る。	
17	φ1-3mmの小石	2.5Y	黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で縦位の区画。	
18	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。内面スス付着。	
19	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	明褐色	不良	沈線	斜位	沈線	沈線	太さ3mmの沈線の文様。	
20	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で渦巻き状の文様。	
21	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	XL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で縦位の区画。	
22	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	胴部は太さ4mmの沈線で横位の区画。胴部は2条対で縦位の区画。	
23	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	Lr	縦位	弥生	沈線	口縁部・胴部・胴部に太さ4mmの沈線が横位に施文。	
24	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	黒色	Lr	縦位	縄文	沈線	隆線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。内面スス付着。	
25	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。外面スス付着。	
26	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	黄褐色	普通	LR	斜位	縄文	隆線	太さ8-10mmの隆線が2条対で縦位の区画。内面スス付着。	
27	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
28	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線	隆線	隆線と沈線で渦巻き状の突起。	
29	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	沈線	斜位	沈線	隆線	太さ5mmの沈線で矢羽根状に施文。太さ13mmの隆線で縦位の区画。隆線上に刺突。	
30	φ1-3mmの小石・雲母多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	沈線	斜位	沈線	隆線	太さ10mmの隆線に刺突を加え縦位の区画。区画間は太さ7mmの沈線が斜位に施文。	
31	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	

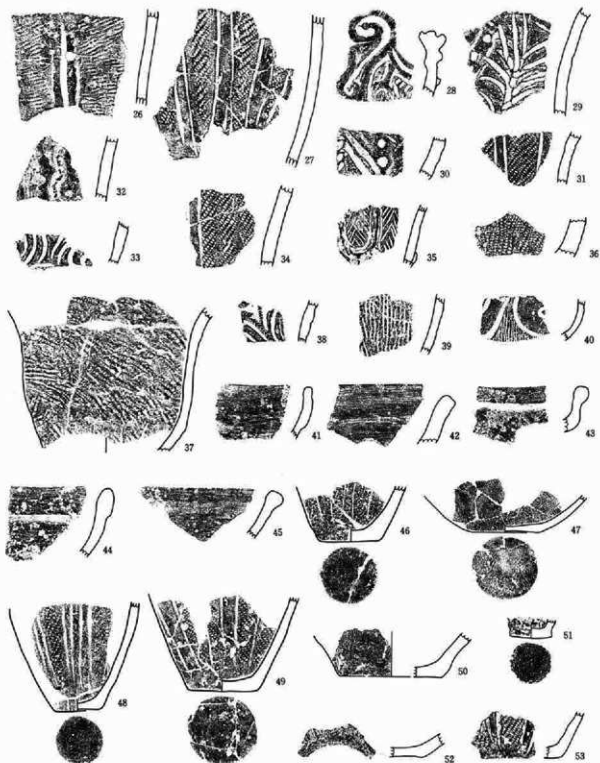


II区 19号住居土器観察表

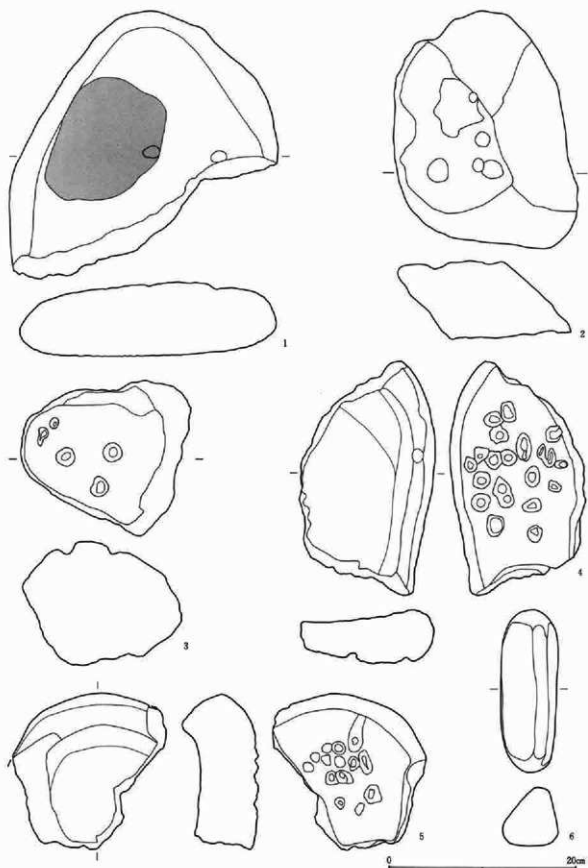
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
32	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆線	地文は巾2-3mmの平行沈線の条線。太 さ6mmの隆線を縦位に波状に貼付。	
33	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	灰褐色	普通	沈線		沈線	沈線	太さ5mmの沈線が弧状に施文。	
34	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位の区画。	
35	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	沈線	斜位	沈線	隆線	地文は太さ2-3mmの沈線が矢羽根状に 施文。太さ6mmの隆線で縦長の楕円区 画。	
36	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	斜位	縄文			
37	φ1-5mmの小石多 量	7.5YR	褐色	普通	RL	縦・横	縄文		縄文を乱線に施文。	
38	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	不良				爪形 文	ペン先状の刺突が施文。	
39	細かい砂粒多量	7.5YR	褐色	不良	Lr	縦位	捺糸		内面スス付着。	
40	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通	Lr	縦位	捺糸	沈線	太さ5mmの沈線で楕円形の文様。内外 面に捺糸。	
41	細かい砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。	
42	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	
43	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。内外面少量スス付 着。	
44	φ1-3mmの小石多 量	5YR	赤褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。	
45	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		外面丁寧な磨き。	
46	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で縦位の区画。内面ス ス付着。	
47	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		外面スス付着。	
48	φ1-3mmの小石多 量	10YR	黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。 内面スス付着。	
49	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。 敲打痕により器表面が円形に剥落。 外面縦位の磨き。	
50	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文			
51	φ1-2mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			縄文	沈線	沈線で縦位の区画。内面スス付着。	
52	φ1-2mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		内面丁寧な磨き。	
53	φ1-3mmの小石・ 雲母・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	



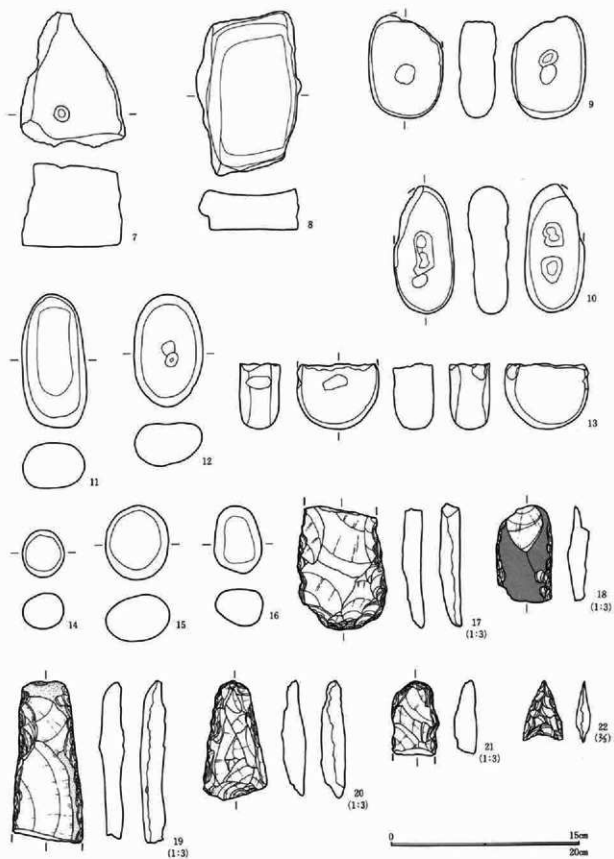
第205图 19号住居址出土遺物-1



第206図 19号住居址出土遺物-2



第207図 19号住居址出土遺物-3



第208図 19号住居址出土遺物-4

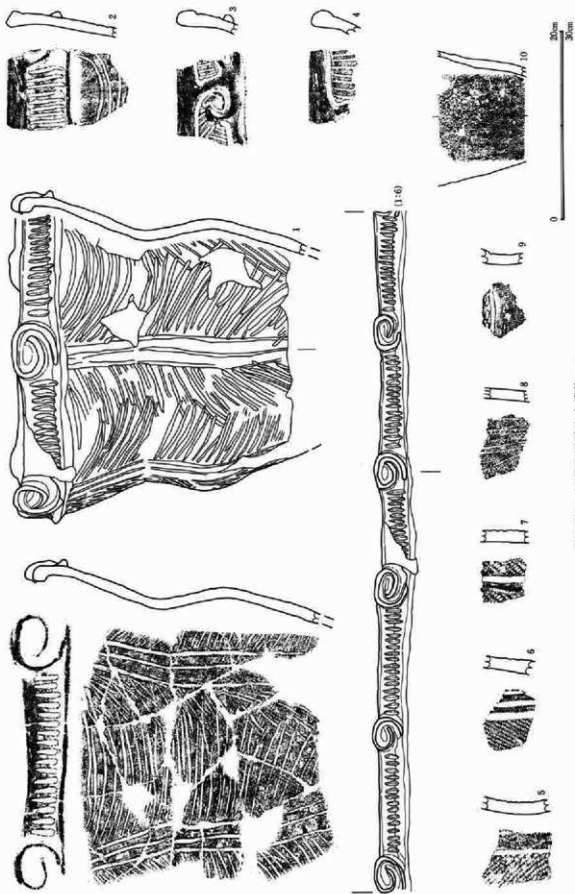
## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 19号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	白石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平頂で磨面と凹み。	38	29	7.5	7400	
2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	25	19.8	8.4	4300	
3	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	16	18.2	13	4600	
4	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹面。	24.8	14.6	5.7	1940	欠損
5	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹面。	16.5	16.4	8.1	2160	欠損
6	磨石	三角柱形	粗粒輝石安山岩	両側・中央に磨面と稜を持つ。	6.1	17.3	6.2	970	
7	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	14.4	11	9	2000	
8	石皿	方形	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。	17.4	11.2	4.3	1300	欠損
9	磨・凹・蔽石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。側面に稜状。凹一帯。	10.9	7.9	3.9	540	欠損
10	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	13.6	6.4	4.3	460	欠損
11	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	14.1	7	4.7	710	
12	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みを持つ。	12	7	4.5	530	
13	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。側面に細長い凹み。磨一凹。	6.9	8.9	4.3	450	欠損
14	投擲	卵形	粗粒輝石安山岩		5	4.5	4.7	110	
15	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	8	6.7	4.9	390	
16	磨石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に扁平な磨面。	7.1	5.1	3.9	180	
17	打製石斧	楔形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面コマゴコ状。	9.8	7.3	1.7	150	基部欠損
18	打製石斧	短棒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.8	4.5	1.7	80	刃部欠損
19	打製石斧	楔形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	12.8	5.6	2.1	180	刃部欠損
20	打製石斧	楔形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面コマゴコ状。	9.4	5	2	90	
21	打製石斧	短棒形	灰色安山岩	両面調整。	5.8	3.7	1.8	50	刃部欠損
22	石鏃	四基無茎鏃	黒色頁岩	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.4	1.6	0.6	1.3	

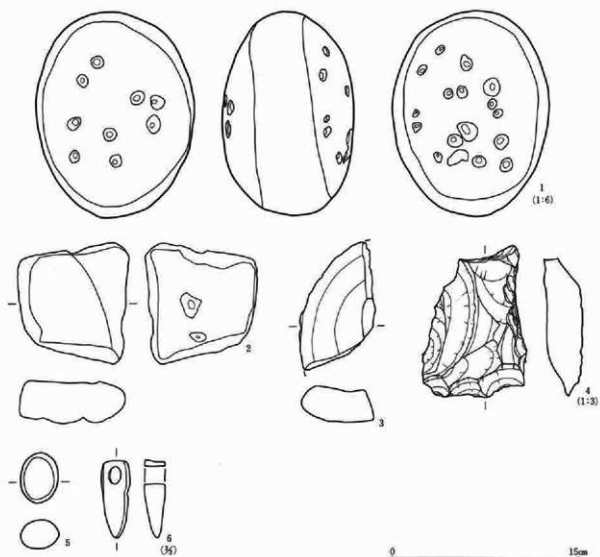
Ⅱ区 20号住居石器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	地文 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・雲母・黄色軽石	5YR	褐色	良好	沈線		沈線	隆・沈	口縁部に太さ8mmの沈線が横位に廻り文様帯を区画する。口縁部文様帯は隆線の高さき文と縦位の沈線。胴部は太さ5mmの沈線で縦位区画し、横位の沈線が施文。	
2	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	沈線	横位	沈線	隆線	口縁部文様帯を太さ10-12mmの隆線で区画し太さ4mmの沈線が縦位に充満。胴部は沈線で弧状に施文。内面横位に丁寧な磨き。	
3	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	良好				隆・沈	口縁部は太さ10mmの隆線で通きき・楕円区画。区画内は太さ4mmの沈線が縦位に充満。	
4	φ1-3mmの砂粒多量	5YR	にぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で縦位の区画。	
5	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	良好				隆・沈	口縁部文様は隆線で楕円区画。区画内は太さ3mmの沈線が充満。	
6	φ1-2mmの小石	10YR	明黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位の区画。	
7	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位の区画。	
8	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	条線	縦位	沈線		巾6mmの平行沈線を条線状に施文。	
9	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	くびれ部に太さ4mmの沈線を横位に廻し突起を加える。胴部は巾4mmの平行沈線を条線状に施文。	
10	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通				無文	内外面ふくらみ部にス付着。	



第209図 20号住居基出土遺物-I

第1章 出土遺物の概要



第210図 20号住居址出土遺物-2

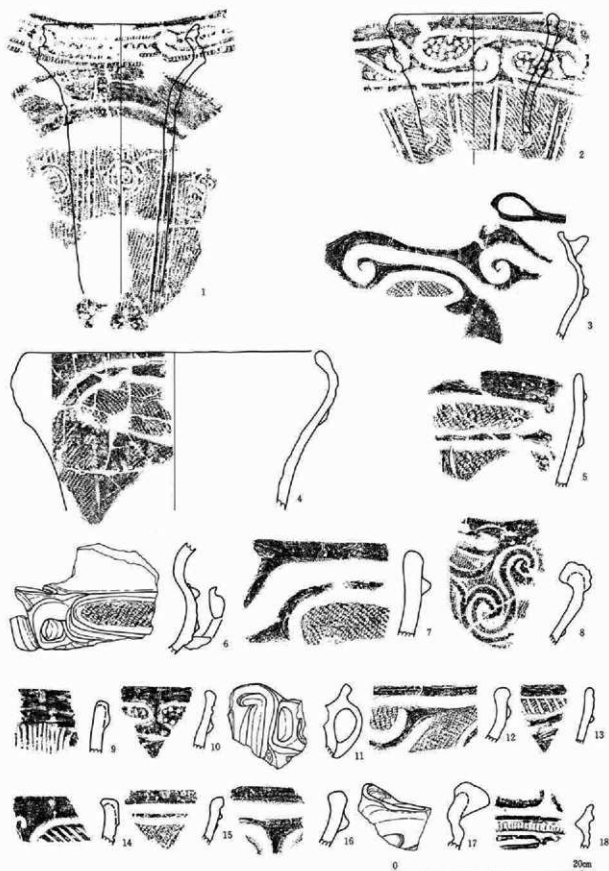
Ⅱ区 20号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石・丸石	球形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	33.5	25.5	21	21500	
2	石皿・多孔石	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	12.8	12	4.4	970	欠損
3	石皿	—	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。	13.5	8.2	4.8	510	欠損
4	石核	不定形	点紋頁岩	横長の割離を取る。	12	8.3	3	330	
5	投弾	卵形	粗粒輝石安山岩		5.3	4.1	3	70	
6	垂飾	勾玉形	ようろう石	頸部にφ7mmの穿孔を片側からしている。	3.1	1.2	0.9	5	

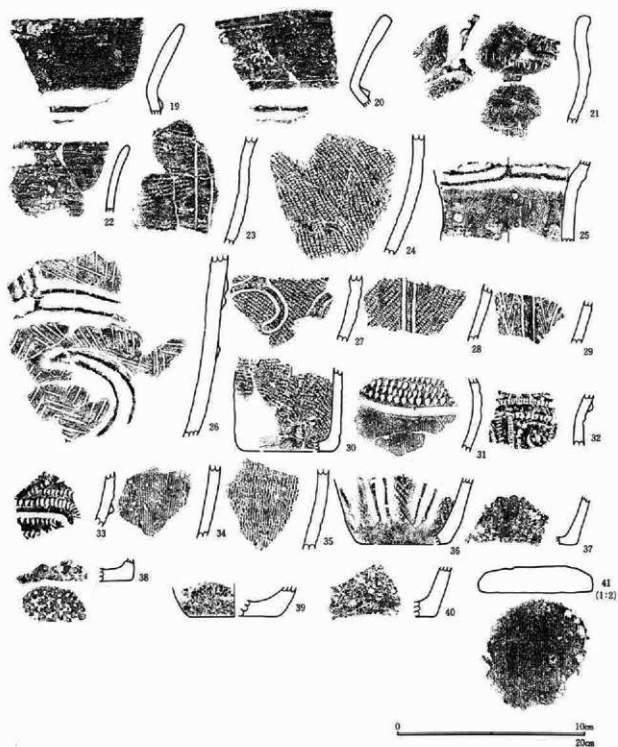


II区 21号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯は太さ6mmの刻みを持つ隆線で横位区画・渦巻き。区画内は交互刺突の波状隆線が2条貼付。頸部は無文帯。胴部はφ6mmの平行沈線が2条対で縦位の区画。区画間は渦巻きが施文。内面スス付き。	
2	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ8-12mmの隆線が横円・渦巻きの区画。区画内は円形の刺突。胴部は太さ6mmの沈線が2条対で縦位区画。区画間は沈線が波状に施文。内面に円形の敲打痕あり。外面スス付き。	
3	φ1-3mmの砂粒	5YR	灰褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ6-8mmの隆線・沈線で横円区画。区画間波状文が充填。突起頂部に渦巻き文様が施文。	
4	φ1-2mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯は太さ8-10mmの沈線と隆線で横円区画。区画内は縄文が充填。胴部に縦位の区画。遊流多い。	
5	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で横円区画。胴部は太さ5mmの沈線で縦位の区画。	
6	φ1-2mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	口縁部文様は太さ8-12mmの隆線で横円区画。区画間に横状把手が貼付。	
7	φ1-2mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁部に太さ10-20mmの隆線で横円区画。	
8	φ1-3mmの小石多量	2.5Y	にぶい黄色	不良	赤線	縦位	沈線	隆線	太さ7-8mmの隆線で唐草状の文様。	
9	φ1-3mmの小石多量	5YR	褐色	普通			沈線	隆線	口唇部下に太さ12mmの隆線が廻る。口縁部は太さ5mmの沈線が縦位に糸線状に施文。	
10	φ1-2mmの小石・雲母	7.5YR	暗褐色	普通			隆・沈	隆線	太さ8-10mmの隆線で横円区画。隆線に沿って太さ5mmの沈線が施文。	
11	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			隆・沈	隆線	太い沈線で横状把手部に渦巻き状の文様。	
12	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆・沈	太さ10mm前後の隆線で横円区画。隆線に沿って沈線が施文。	
13	φ1-3mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で横円区画。区画内は太さ5mmの沈線が縦位に施文。	
14	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			沈線	隆線	口縁部に沈線で横円・渦巻きの文様を区画。	
15	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	口唇直下に太さ8mmの沈線が2条廻る。	
16	φ1-3mmの小石	5YR	褐灰色	普通			隆・沈	隆線	太さ8-20mmの隆線で横円区画。	
17	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			隆線	隆線	隆線の突起。	
18	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	灰褐色	良好			点形	沈線	沈線と横位の刻み目沈線。	
19	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通			隆線	隆線	口縁と胴ぐりれの境界に太さ8mmの隆線が廻る。外面丁寧な磨き。表面割落。	
20	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			隆線	隆線	口縁と胴ぐりれの境界に太さ8mmの隆線が廻る。外面丁寧な磨き。表面割落。	
21	φ1-3mmの小石・金雲母	7.5YR	黒褐色	良好			爪形	隆線	太さ6-12mmの押圧を施した隆線を貼付。区画内に横位の刻み目文。	
22	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通			無文	隆線	内外面横位の磨き。表面割落。	
23	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	斜位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で横位の区画。	
24	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	斜位	縄文	隆線	胴部に太さ6-8mmの隆線が2条廻る。内面にφ10mm程の円形の凹みが乱雑に付けられる。	
25	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良			隆線	隆線	施文は太さ3mmの沈線を矢羽状に施文。太さ8mmの隆線で渦を描くように貼付。	
26	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通			沈線	隆線	太さ4mmの沈線で弧状の文様。	
27	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で弧状の文様。	



第211図 21号住居址出土遺物-1



第212図 21号住居址出土遺物-2

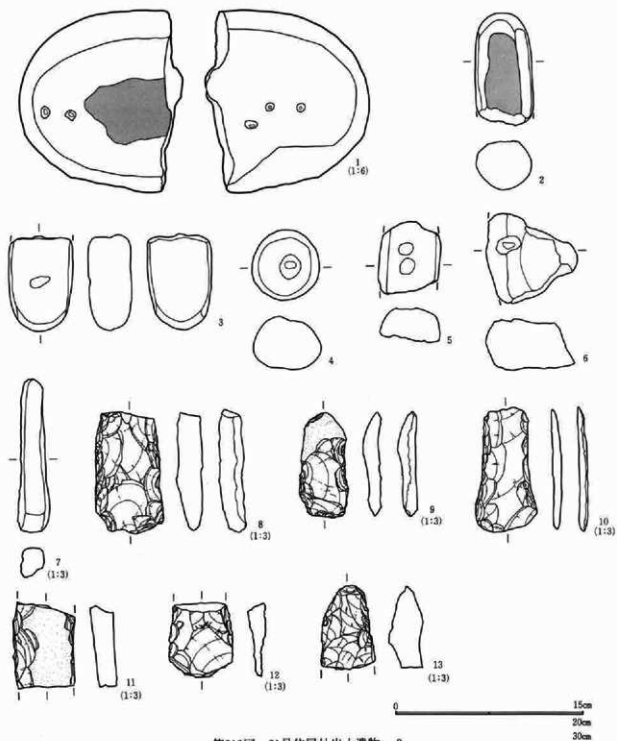
## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 21号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 主体	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
28	φ1-3mmの小石	10YR	暗褐色	普通	RL	縦位	縄文 沈線	沈線	太さ5mmの沈線が2条付で縦位の区画。	
29	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			縄文 沈線	縄文	地文は太さ3mmの沈線を矢羽模様に施文し2条付で縦位の区画。	
30	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	斜位	縄文	縄文	内面スス付着。	
31	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	口縁部に太さ10mmの沈線が廻り文様帯を区画。区画内に半円状の刺突。巾6mmの半載竹管外側による押し引き文。	
32	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良			爪形	爪形	太さ8mmの隆線に沿って巾7-9mmの半載竹管外側の刺突。	
33	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			爪形	爪形	太さ6mmの隆線が2条付で縦位の区画。内面黒色。	
34	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	艶承	艶承	艶り特殊。	
35	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	斜位	艶承	艶承	太さ6mmの隆線が2条付で縦位の区画。内面黒色。	
36	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	縄文	内面黒色。	
37	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文	無文	無文	
38	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文	無文	無文	
39	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	不良			無文	無文	無文	
40	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄褐色	普通			無文	無文	外面スス付着。	
41	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好			無文	無文	無文	

Ⅱ区 21号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面に磨面。表裏に円錐形の凹み。	28.8	26		15800	欠損
2	磨石	丸棒形	粗粒輝石安山岩	磨面の稜を持つ。	12	6.2	5.2	630	
3	磨一/敲石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏に磨面。両側に敲打痕と稜を持つ。磨一凹。	10.1	6.9	4.5	550	欠損
4	凹石	円形	粗粒輝石安山岩	中央に円錐状の凹み。	7.4	7.3	5.5	340	
5	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	中央に凹み。	7.6	6.5	3.6	230	両端欠損
6	石皿	—	粗粒輝石安山岩	作業面は凹面。	9.5	9.7	5.5	310	欠損
7	敲石	棒形	緑色片岩	傾斜に敲打痕。	12.1	2.5	2.3	110	
8	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.6	5.5	2	160	
9	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.3	4	1	50	
10	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.8	4.9	0.8	40	
11	打製石斧	短棒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	5	2.1	110	両端欠損
12	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6	5	1.4	50	基部欠損
13	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.6	4.1	2.6	80	刃部欠損

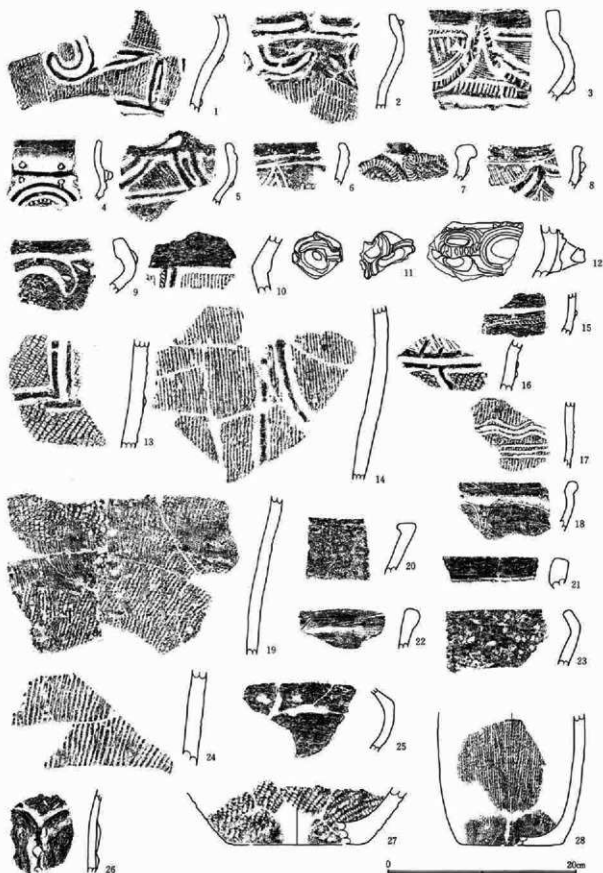


第213図 21号住居址出土遺物-3

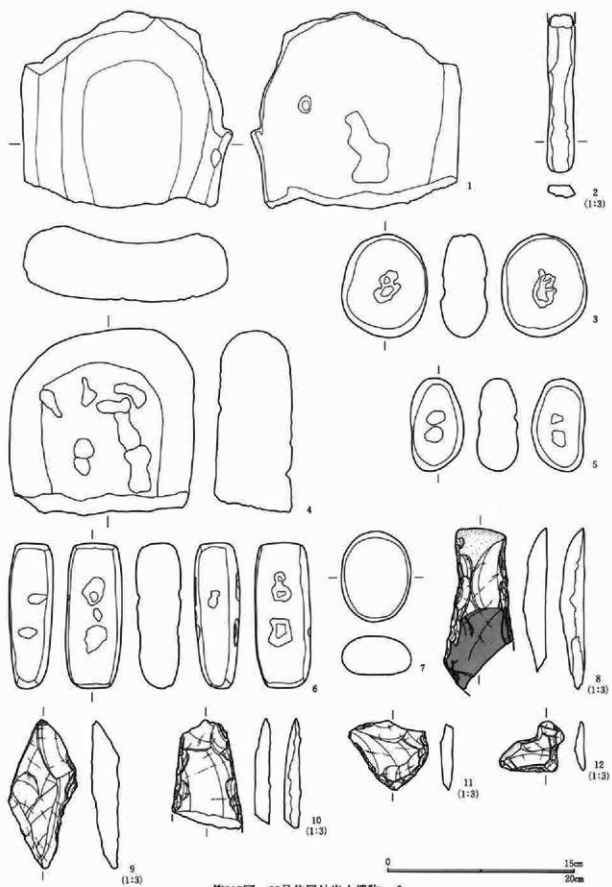
## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 22号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 層体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	捺糸	隆線	太さ5mmの隆線の文様。	
2	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	捺糸	隆線	太さ5mmの隆線の文様。	
3	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好	Lr	横位	捺糸	隆線	太さ6-8mmの斜み目の隆線が貼付。赤色塗彩。	
4	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好				隆線	口縁は直状。太さ5mmの隆線で褐色き。胴部に肩が付き2単位の孔が穿たれる。有孔押付き土器。	
5	細かい砂粒	2.5YR	黄褐色	良好	Rl	横位	縄文	隆線	太さ5mmの隆線で弧状の文様。内外面スス付着。	
6	φ1-3mmの小石・金雲母	7.5YR	褐色	良好				沈線	口唇直下に太さ4mmの沈線が2条廻り、口縁部に弧状に施文。	
7	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良				爪形	巾12mmの半截竹管文外面による爪形にペン先状の刺突が加えられる。	
8	細かい砂粒	7.5YR	明褐色	良好	条線	縦位	沈線	隆・沈	口縁は太さ5-8mmの隆線が弧状に区画。口縁文様区画内に巾3mmの隆線を条線状に施文。胴部は沈線が縦位の区画。	
9	φ1-2mmの砂粒	10YR	明黄褐色	良好				隆線	太さ10mmの隆線が弧状に貼付。	
10	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好	Lr	縦位	捺糸	隆線	太さ7mmの隆線2条が縦位に貼付。	
11	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好				爪形	粘土粒による反円状の文様。孔が貫通する。深鉢の突起。	
12	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好				爪形	刻みを持つ太い隆線で楕円区画。楕状の把手がつく。	
13	φ1-5mmの小石多量	5YR	褐色	普通	Rl	縦位	捺糸	隆線	太さ8mmの隆線が2条対で貼付。	
14	φ1-2mmの小石多量	10YR	黄褐色	不良	Lr	縦位	捺糸	隆線	太さ10mmの隆線が貼付。	
15	細かい砂粒・金雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好				爪形	巾3mmの竹管を2条対で押し引き文を施文。	
16	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	暗灰黄色	良好	Lr	横位	縄文	隆・沈	太さ6-8mmの隆線を貼付。	
17	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	捺糸		太さ4mmの沈線が3条対で横位に施文。	
18	φ1-3mmの小石・金雲母	5YR	灰褐色	良好				爪形	口唇は丸く肥厚。口縁部は太さ2mmの沈線が弧状を描く。	
19	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	黄褐色	不良	Rl	縦位	縄文	沈線	中程に巾2-3mmの条線が施文。	
20	φ1-3mmの小石	2.5YR	黄灰色	不良				無文	内面黒色。	
21	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好				無文	内外面褐色。浅鉢口縁。赤色塗彩。	
22	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄褐色	良好				無文	内外面横位の磨き。	
23	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通				無文	内面スス付着。	
24	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良	Lr	縦位	捺糸			
25	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好				無文	内外面横位に磨き。内面黒色。	
26	φ1-3mmの小石・金雲母	2.5YR	暗黄灰色	良好				爪形	太さ10mmの隆線を「Y」字状に貼付。垂下する隆線は押圧が加えられる。	
27	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	Rl	縦位	縄文		内面スス付着。	
28	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	Lr	縦位	捺糸		内面スス付着。	



第214図 22号住居址出土遺物-1



第215図 22号住居址出土遺物-2



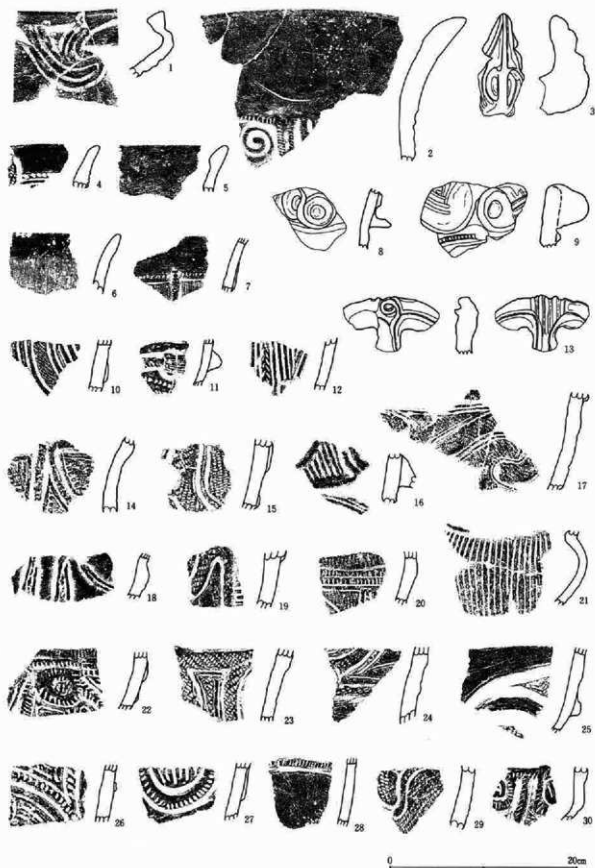
II区 22号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹みと敲打痕。	20.7	22.3	7.8	5400	欠損
2	敲石	扁平な棒形	緑色片岩	両側面に敲打痕。	12.4	2.2	1	50	
3	磨・凹・敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。側面に敲打痕。磨一凹。	10.9	9.2	5	720	
4	台石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	作業面に敲打痕。	19.8	19.6	13.3	5700	欠損
5	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。	10	5.8	4.3	320	
6	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・両側面に凹み。表裏に磨きと稜を持つ。	15.4	6	4.9	720	
7	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	9.6	7.5	4.2	460	
8	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面カマゴコ状。	12.8	5.5	2.1	120	刃部欠損
9	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	右側面の刃部を両面調整。	11.7	5.4	2.1	140	
10	打製石斧	楕形	緑色片岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.2	5.6	1.4	90	刃部欠損
11	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	左側面の刃部を押し削りで両面調整。	5.4	6.3	1	40	
12	石匙	楕形	黒色頁岩	刃部両面調整。	4	5.2	0.8	20	

II区 23号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好				隆線	太さ5mmの隆線を貼付。外面スス付着。	
2	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通				隆線	太さ10mmの隆線が縦位に貼付され剥ぎが施される。	
3	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通				隆線	反環状把手が貼付。深縁の突起。	
4	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	良好				隆・沈	太さ8mmの隆線が縦位に貼付。口縁部は巾5mmの平行沈線が縦位に通り上列に削突が加えられる。	
5	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	普通				隆線	内外面横位の磨き。	
6	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Rl	縦位		隆線	外面スス付着。	
7	細かい砂粒	7.5YR	灰褐色	良好	Lr	縦位		隆線	頸部横位方向に半載竹管内側による削突。胴部は太さ8mmの隆線が縦位区画。内外面スス付着。	
8	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				隆線	隆線が反円状に貼付。	
9	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				隆線	反円状の太い隆線が把手状に貼付。	
10	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	黒褐色	普通	LR			隆・沈	太さ14mmの隆線が弧状に施文。巾7mmの平行沈線が施文。	
11	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				隆線	太さ10mmの隆線で削突。その下に半載竹管外面で連続削突。	
12	細かい砂粒	5YR	暗赤褐色	良好				隆線	胴みを持つ太さ8mmの隆線と巾5mmの平行沈線が縦位に施文。	
13	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	黒褐色	不良				隆線	太さ5mmの隆線が貼付。深縁の突起？	
14	φ1-6mmの小石	5YR	赤褐色	普通				隆線	太さ7mmの隆線と平行沈線の文様。隆線上に半載竹管内側の削突が加えられる。	
15	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	普通	RL	横位		隆・沈	太さ17mmの隆線が弧状に施文。	
16	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	不良				隆・沈	太い隆線で突起がつく。隆線間は巾7mmの沈線が充填。	
17	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	RL	横位		隆・沈	太さ20mmの隆線で弧状に貼付。	
18	細かい砂粒多量	5YR	褐色	普通				隆線	太さ12mmの隆線が縦位に貼付。	
19	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通				隆線	太さ14mmの隆線が弧状に貼付。隆線上に横文が施文。隆線に沿って太さ4mmの沈線が施文。	

第1章 出土遺物の概要



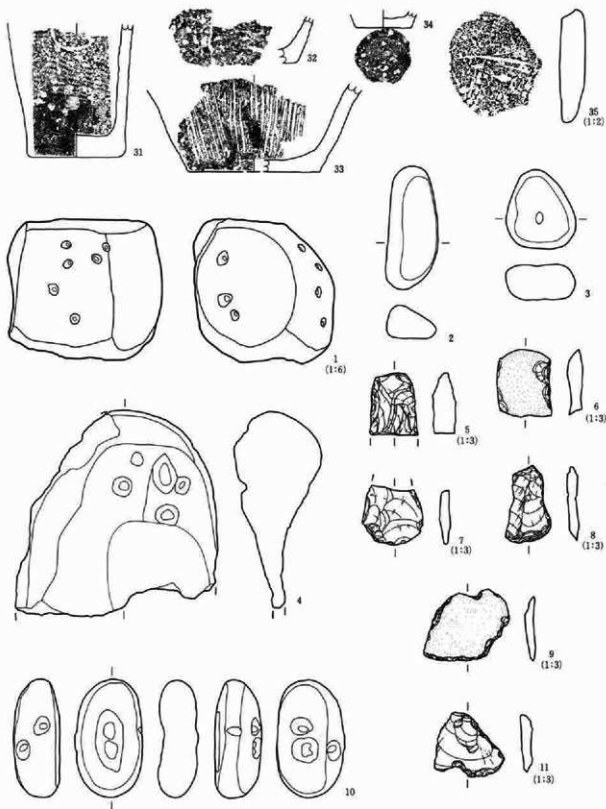
第216図 23号住居址出土遺物-1

II区 23号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
20	φ1-2mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	不良	RL	斜位	縄文	沈線	刻みを持つ巾7mmの平行沈線が2条対で横位に施文。胴部は方形の区画。 巾7mmの平行沈線が縦位に連続して施文。内面スス付着。 刻みのある太さ10mmの隆線が貼付。	
21	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良				沈線		
22	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	黒褐色	普通				爪形		
23	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	KL	縦・横	縄文	隆・沈	太さ14mmの隆線。	
24	φ1-2mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好				隆・沈	太さ8-12mmの隆線と太さ4mmの沈線を施文。	
25	φ1-2mmの小石多量	7.5YR	黒褐色	良好	KL	横位	縄文	隆・沈	太さ14mmの隆線が弧状に貼付。太さ12mmの沈線が隆線に沿って施文。	
26	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	黒褐色	普通				爪形	太さ10mmの隆線に刻みが付けられる。太さ5mmの沈線が弧状に施文。	
27	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通				爪形	太さ16mmの隆線で弧状に施文。区画内は太さ4mmの沈線が充填。	
28	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	刻みのある太さ10mmの隆線が横位に施文。	
29	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	普通	LRL	横位	縄文	隆・沈	太さ17mmの隆線を弧状に貼付。隆線に沿って太さ4mmの沈線が付けられる。	
30	細かい砂粒	2.5YR	暗赤灰色	良好				爪形	刻みを持つ太さ8mmの隆線が貼付。	
31	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文		内外面円形の刻落多い。内面底部近くにスス付着。	
32	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良				無文	外面刻落多い。	
33	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	不良	条線	縦位	沈線		太さ2-3mmの沈線が条線状に施文。外面スス付着。	
34	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				無文	内外面円形の刻落。	
35	φ1-2mmの砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	普通					底部を再加工し外縁部をゆるく磨く。土製円盤。	

II区 23号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	隅丸方形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	22	24.6		16900	
2	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	13	5.4	4.6	370	
3	磨・凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。	8.5	7.5	3.7	330	
4	石皿・多孔石	不定形	午伏砂岩	石皿作業面は凹面。円錐形の凹み。	22	21.6	9.5	3440	欠損
5	打製石斧	短斧形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.9	4.9	1.9	50	刃部欠損
6	打製石斧	短斧形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	4.1	1.4	50	刃部欠損
7	打製石斧	短斧形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.8	4.8	0.9	20	基部欠損
8	スクレイパー	楕形	黒色頁岩	両面調整。	6.1	3.7	1	20	
9	石匙	楕形	黒色頁岩	刃部両面調整。	5.6	6.8	0.8	30	
10	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・両側面に凹み。	12.5	7.3	5	470	
11	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側面に片面押し刻離の刃部。	5.2	5.7	0.9	20	

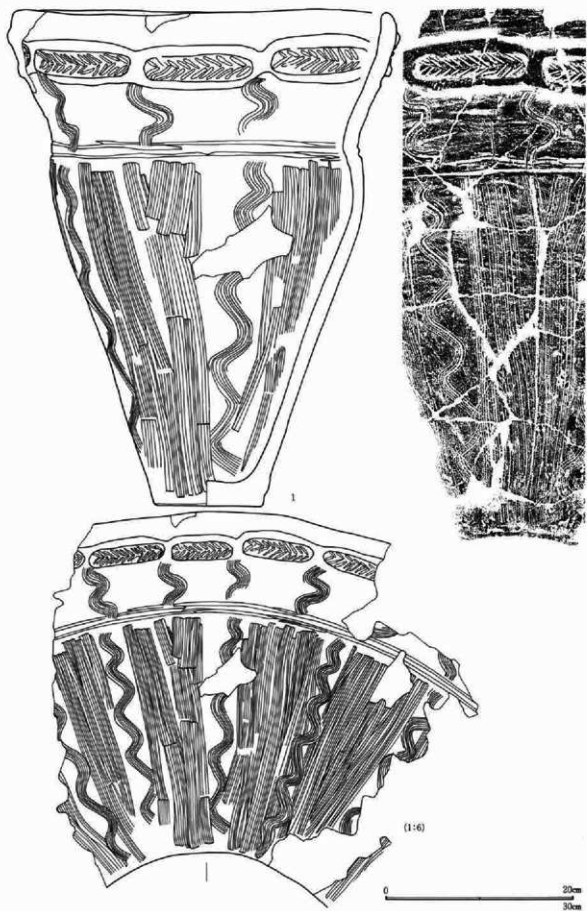


0 10cm  
15cm  
20cm  
30cm

第217图 23号住居址出土遺物-2

II区 24号住居土器観察表

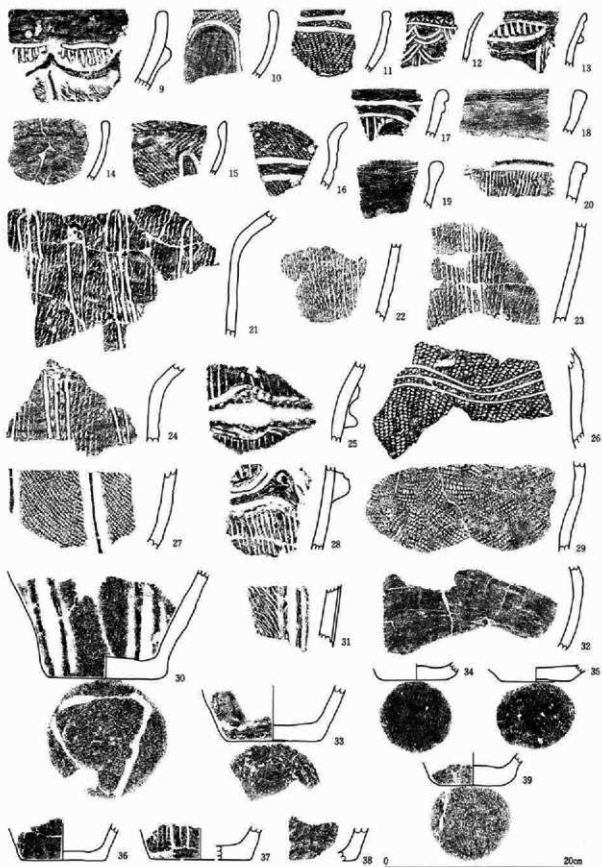
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	条線	沈線	隆線	太さ18mmの沈線が口縁部を横円区画。区画内は矢羽根状の沈線が充満。胴部は巾16mmの条線が垂下。内面スス付着。口縁部は太さ10-12mmの隆線で文様を描く。胴部は縄文施文。内面スス付着。太さ4mmの沈線が9条対で縦位の区画。区画内は「〇」「∪」状の文様。口唇直下に太さ4mmの沈線が2条走る。地文は巾2mmの平行沈線が条線状に施文。口縁に太さ5mmの沈線が重環状に施文。	21-23・24と 同一	
2	φ1-5mmの小石	2.5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線		
3	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	沈線		
4	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	暗褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線		
5	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	沈線	沈線	沈線			
6	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤			
7	φ1-3mmの小石多量・ 雲母	5YR	にぶい橙色	不良			隆・沈	胴部くびれ部に太さ8mmの隆線が上下に2条走る。横状把手を持つ。地文は太さ4mmの沈線を縦位に引く。外面横位の磨き。		
8	φ1-5mmの小石・ 雲母	5YR	明赤褐色	良好			無文			
9	φ1-3mmの砂粒・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	Rl	横位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯を太さ14mmの隆線で半円状に区画。区画内は太さ5mmの沈線が充満。胴部は沈線が垂下。太さ7mmの沈線が「〇」状に施文。口唇直下に太さ5mmの沈線が2条走る。口縁に巾9mmの平行沈線が連続状に施文。	
10	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	Lr	縦位	縄文	沈線		
11	細かい砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好	RL	縦・斜	縄文	沈線		
12	φ1-2mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好			沈線			
13	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	明赤褐色	普通			隆・沈	口縁部に太さ7mmの隆線と沈線で横円区画。区画内は沈線が充満。胴部は沈線が垂下。内外面横位の磨き。		
14	φ1-3mmの小石多量	5YR	明赤褐色	普通			無文			
15	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	暗赤褐色	普通	RL・ LR	縦・横	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が「〇」状に施文。	
16	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい橙色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が2条横位に施文。	
17	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	赤褐色	普通			隆・沈	太さ5mmの隆線で文様を横円区画。区画内は太さ4mmの沈線が充満。内外面横位の磨き。		
18	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	明褐色	良好			無文			
19	細かい砂粒・雲母	2.5YR	褐色	普通			無文			
20	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	隆線	太さ5mmの隆線が横位に施文。内面黒色。	
21	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	2.5YR	赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	沈線	太さ4mmの沈線が9条対で縦位の区画。区画内は「〇」「∪」状の文様。	3-23・24と 同一
22	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	不良	Lr	縦位	熱赤	沈線	太さ2mmの沈線が縦位の区画。	
23	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	沈線	太さ4mmの沈線が9条対で縦位の区画。区画内は「〇」「∪」状の文様。	3-21・24と 同一
24	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	沈線	太さ4mmの沈線が9条対で縦位の区画。区画内は「〇」「∪」状の文様。	3-21・23と 同一
25	φ1-3mmの砂粒・ 雲母多量	10YR	黄褐色	不良			隆・沈	胴部くびれ部に太さ8mmの隆線が2条上下に走る。横状把手を持つ。地文は太さ4mmの沈線を縦位に引く。太さ4mmの沈線が9条で縦位に施文。		
26	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	明褐色	普通	Lr	斜位	縄文	沈線		
27	φ1-3mmの小石多量・ 雲母	5YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	縦位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線が縦位に貼付。	
28	φ1-5mmの小石・ 軽石	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	隆・沈	口縁部文様帯を太さ10mmの隆線で横円区画。区画連続部に渦巻き状の突起を持つ。内面横位の磨き。外面スス付着。	
29	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	暗褐色	普通	RL・ LR	縦・横	縄文			



第218图 24号住居址出土遺物-1



第219図 24号住居址出土遺物-2



第220图 24号住居址出土遺物-3

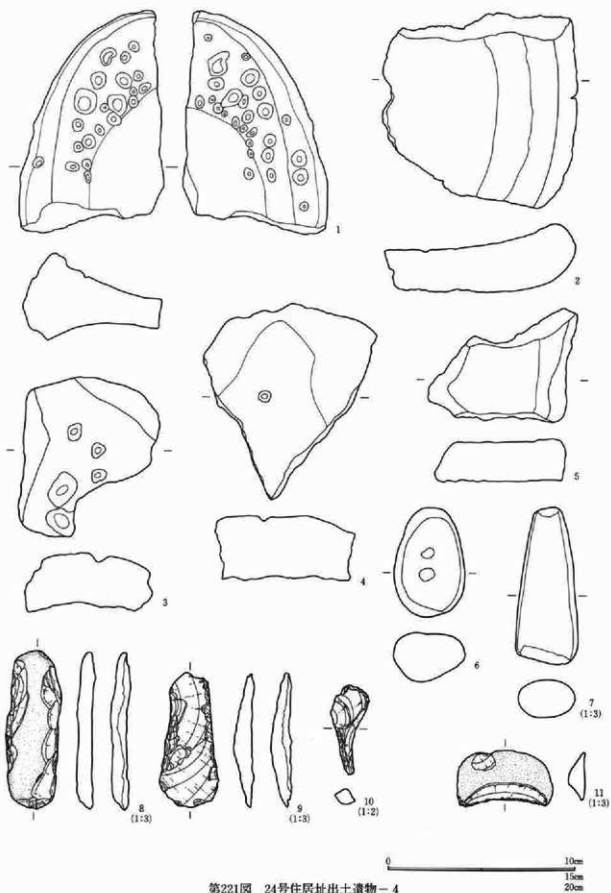


II区 24号住居土器観覧表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施工 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
30	φ1-3mmの小石多量	5YR	赤褐色	不良	Lr	縦位	熟糸	隆線	太さ10mmの隆線が2条対で縦位の区画。	
31	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	斜位	熟糸	隆線	太さ8mmの隆線が2条対で縦位の区画。	
32	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	明赤褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。内面スス付着。	
33	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	赤褐色	普通			無文		内面スス付着。	
34	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい褐色	良好			無文			
35	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	明黄褐色	普通	Rl	横位	縄文			
36	φ1-3mmの小石	10YR	褐色	普通			沈線		太さ3mmの沈線で縦位の区画。内面スス付着。	
37	φ1-3mmの小石多量	10YR	褐色	普通			沈線		太さ4mmの沈線で縦位の区画。	
38	φ1-3mmの小石多量	10YR	褐色	普通			無文			
39	φ1-3mmの小石多量・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通			無文			

II区 24号住居石器観覧表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏は凹面。作業面の縁に円錐形の凹み。	23.4	15.4	9.2	2500	
2	石皿	—	—	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	20.6	19.8	7.4		欠損
3	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	16.7	15	6.4	1700	
4	凹石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	20.3	18.2	6.8	2600	
5	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は浅い凹面。	12	16	4.8	900	欠損
6	磨・凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏に磨面。凹→磨。	11.6	7.5	5.2	640	
7	磨製石斧	乳棒形	実玄武岩	全体に良く研磨される。横断面楕円形。	12.3	4.9	2.9	290	刃部欠損
8	打製石斧	短棒形	緑色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	12.6	4.4	1.6	100	
9	打製石斧	楕円形	黒色頁岩	両面調整。刃部は片面調整。横断面カマゴコ状。	10.7	4.7	1.7	70	
10	石鏃	—	黒色頁岩	鏃部両面から押圧剝離。	4.8	2.1	0.8	10	
11	スクリュー	横長	黒色頁岩	一側辺に使用によるはこぼれ。	4.4	7.7	1.3	50	



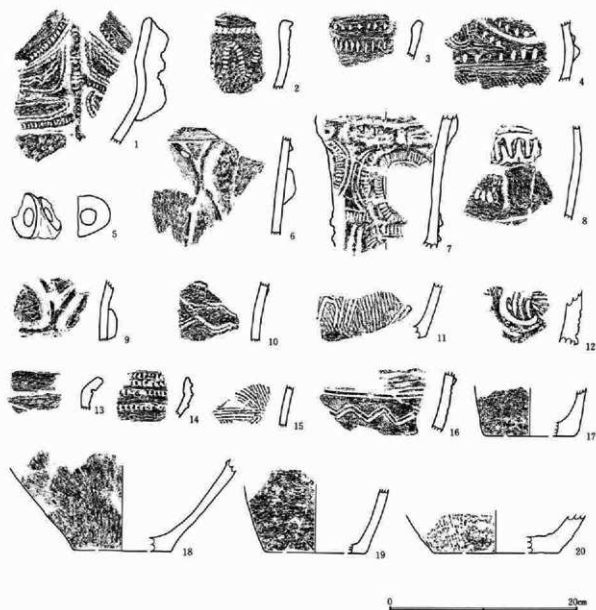
第221図 24号住居址出土遺物-4

II区 25号住居土器観察表

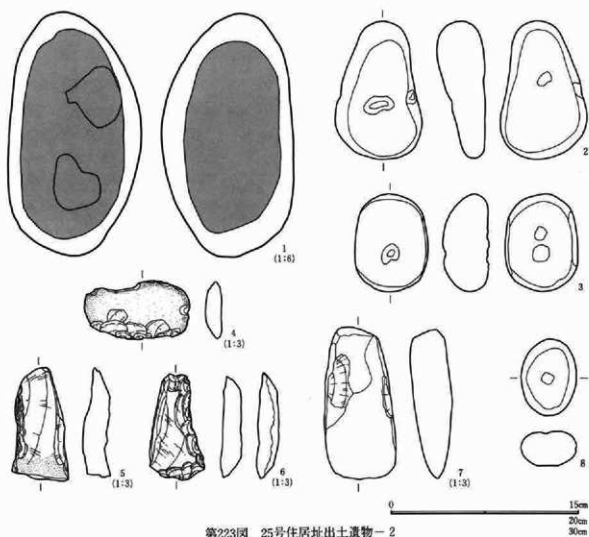
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	金雲母多量	7.5YR	にぶい褐色	良好				爪形	隆縁で波状口縁を区画。波頂部は小またに分かれる。隆帯に刻みが施文。結節沈線が隆縁に沿って施文。区画内は波状沈線。	
2	金雲母多量	7.5YR	灰褐色	良好				爪形	太き5mmの結節沈線が口縁に沿って施文。口縁部は太き7mmの押し引きの爪形文が波状に施文。	
3	金雲母多量	10YR	にぶい黄褐色	良好				爪形	口唇に長さ6mm、口縁部に長さ13mmの刻みを施す。口縁部の刻みの長さが一定のことからヘラ状工具で一度に押し切っていると考えられる。	
4	金雲母多量	10YR	にぶい黄褐色	良好				爪形	刻みを持つ隆縁で文様を区画。区画内は巾6mmの平行沈線が波状に施文。隆縁に沿って同じ平行沈線が施文。	
5	細かい砂粒	5YR	にぶい橙色	良好				爪形	深縁の双円状の突起。	
6	φ3mmの小石・金雲母	5YR	灰褐色	良好				爪形	胴部に「X」字状の隆縁が施付。	
7	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	不良				爪形	隆縁で文様を区画。隆縁に沿ってキョウビツ文とベン先状刺突文。内面スス付着。	
8	金雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通				爪形	太き4mmの沈線が波状に施文。	
9	金雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好				爪形	「Y」字状の隆縁が施付。	
10	金雲母	7.5YR	褐色	良好				爪形	巾7mmの平行沈線が波状に施文。	
11	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	良好	Lr	縦位	沈線	爪形	太き4mmの沈線が波状に施文。	
12	φ1-3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好				爪形	太き4mmの沈線で文様。	
13	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好				竹管	巾3mmの結節沈線が施文。	
14	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好				竹管	巾6mmの結節沈線が横位に付く。	
15	細かい砂粒	10YR	黄褐色	良好				竹管	巾3mmの結節沈線が波状で文様。半円状の印刻を持つ。	
16	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通				爪形	巾6mmの平行沈線が歯状文。	
17	φ1-5mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通				無文		
18	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好				無文	内外面丁寧な磨き。外面ヘラ状の擦痕付く。	
19	φ1-5mmの小石	10YR	明黄褐色	普通				無文	外面横位の擦痕。内面スス付着。	
20	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通	R	縦位		無文		

II区 25号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	隅丸長方形	石英閃緑岩	表裏の作業面は平坦で磨面。	25.5	14.4		19600	
2	磨-凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	14.6	9.2	5	870	
3	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏・両側面の磨面と横を持つ。	10.3	7.7	5	630	
4	スクレイパー	楕円形	黒色頁岩	一側面に両面調整。	4.6	8.4	1.8	60	
5	打製石斧	梨形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.9	4.5	2.2	110	刃部欠損
6	打製石斧	梨形	黒色頁岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	8.4	4.5	1.8	60	
7	磨製石斧	定角式	総軟岩	表裏・側面を研磨し横をもつ。横断面隅丸長方形。	12.1	5.7	3.3	350	
8	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。	8.1	5.9	3.7	210	



第222図 25号住居址出土遺物-1



第223図 25号住居址出土遺物-2

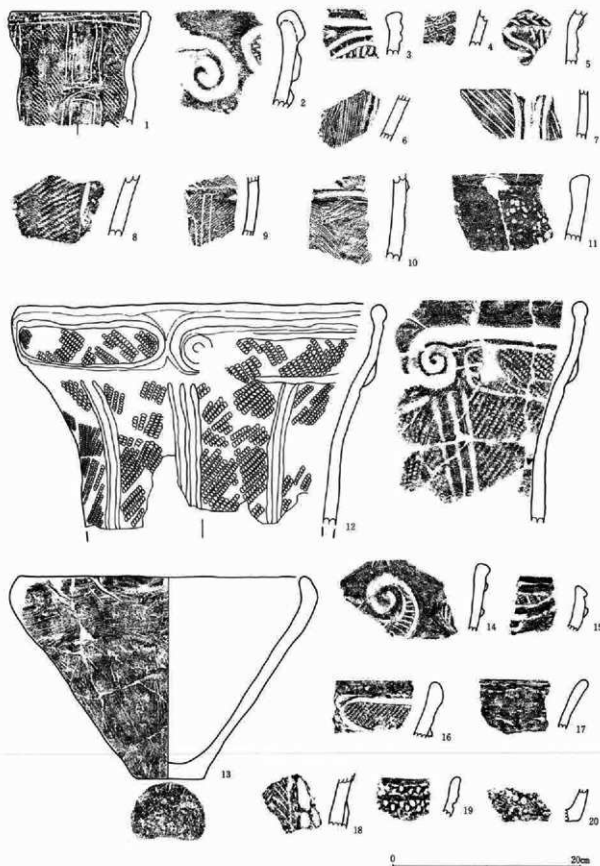
## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 26号住居土器調査表

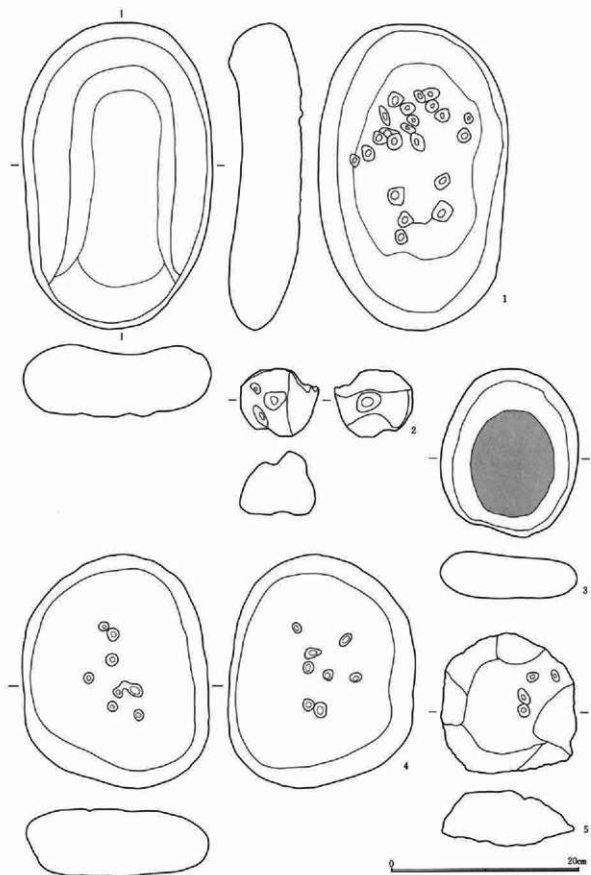
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	明黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	口縁部に太さ2mmの沈線を3条廻す。胴部は「∩」「∪」状に施文。	
2	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	橙色	普通	RL		縄文	沈線	太さ5-15mmの沈線と隆線で渦巻き文様。	
3	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	橙色	普通				隆・沈	太さ5-6mmの沈線で文様を施文。	
4	φ1-5mmの小石・ 縹線	2.5YR	黄灰色	普通	Lr	横位	縹線			
5	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	沈線	斜位	沈線		くびれ部に「ハ」字状に刻みを持つ。胴部は縦位区画。	
6	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	橙色	普通	条線		沈線	隆線	巾2-3mmの条線と太さ7mmの隆線が縦位に貼付。	
7	細かい砂粒	7.5YR	橙色	普通	沈線	斜位	沈線	隆線	太さ3mmの沈線が斜位に施文。太さ7mmの隆線が2条縦位に貼付。	
8	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位の区画。	
9	φ1-3mmの小石・ 金雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が2条縦位に施文。	
10	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好	条線	斜位	沈線	沈線	巾2-3mmの沈線を条線状に施文。太さ10mmの隆線が横位に廻る。	
11	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	普通			無文		内面黒色。	
12	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部は沈線と隆線で楕円区画と渦巻き文をつくる。胴部は3条と2条の沈線で縦位の区画。	
13	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	暗褐色	良好			無文		表裏とも丁寧な磨き。内面スス付着。	
14	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良			爪形		隆線で渦巻き状の文様を区画。区画内は太さ2-3mmの沈線で刻みを付ける。	
15	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ7-8mmの隆線で半円状の文様を区画。	
16	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で楕円区画。	
17	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	
18	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線		沈線	隆線	太さ2-3mmの沈線で縞紗状の地文。太さ6-8mmの隆線で縦位の区画。	
19	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	不良			沈線		太さ3mmの沈線で横位の区画。胴突が施文。	
20	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	RI	横位			表面に円形の刺彫痕。	

Ⅱ区 26号住居石器調査表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	石皿・多孔 石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	32.2	20.2	8	7900	
2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	7.2	8.4	6.6	400	
3	台石	楕円形	角閃石安山岩	作業面は平里で磨面。	17.6	14.8	4.6	2100	
4	多孔石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	24.8	20	7.2	6000	
5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	14.8	14.4	6	1400	
6	石皿	—	角閃石安山岩	石皿作業面は浅い凹み。	20	30	13.7	10000	欠損
7	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平里。	15	18.3	6.7	2800	欠損
8	石皿	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。	12	13.8	6.4	1300	
9	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	14.6	23.4	7.3	3800	欠損
10	石皿	—	粗粒輝石安山岩	作業面は浅い凹み。	11.2	11.2	6.4	1500	欠損
11	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏・側面に磨面と線を 持つ。	12.8	6.4	4.6	600	欠損
12	砥石	楕円形	牛伏砂岩	砥石作業面は平里。	9.8	8.6	2.4	140	
13	磨製石斧	定角式	架立武岩	両側・頂部を磨削し線を 持つ。	9.7	4.5	2.8	160	
14	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏・両側に磨面と線を 持つ。凹→磨。	11.9	7	4.7	540	

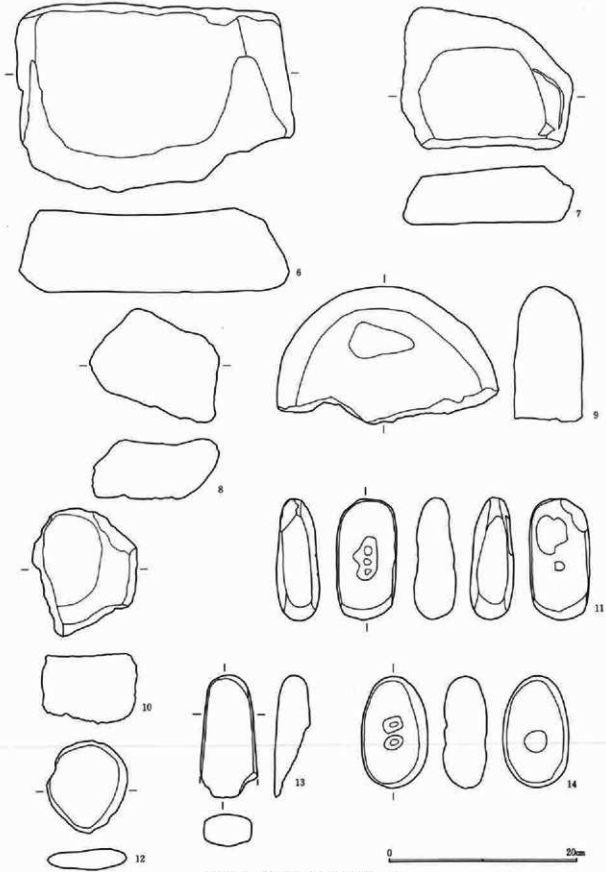


第224図 26号住居址出土遺物-1



第225図 26号住居址出土遺物-2





第226図 26号住居址出土遺物-3

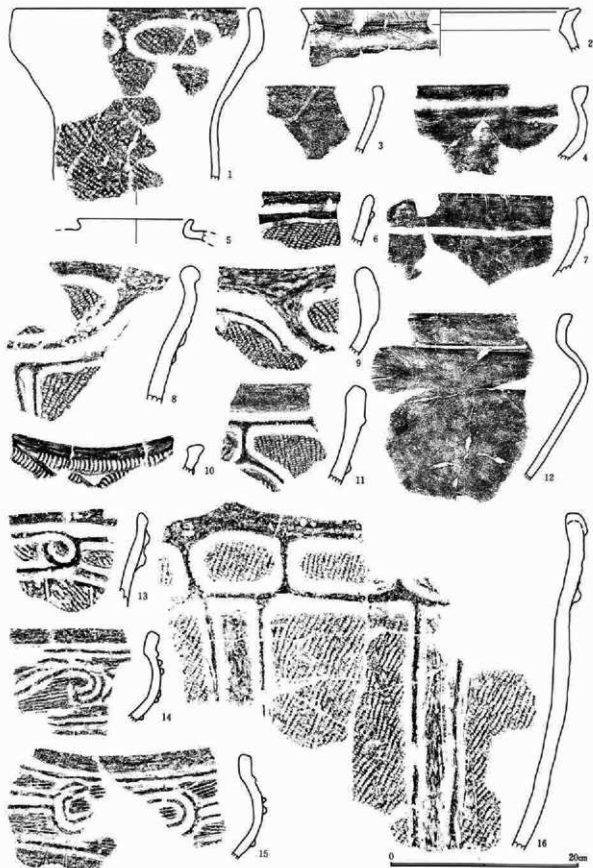
## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 27・29号住居土器観察表

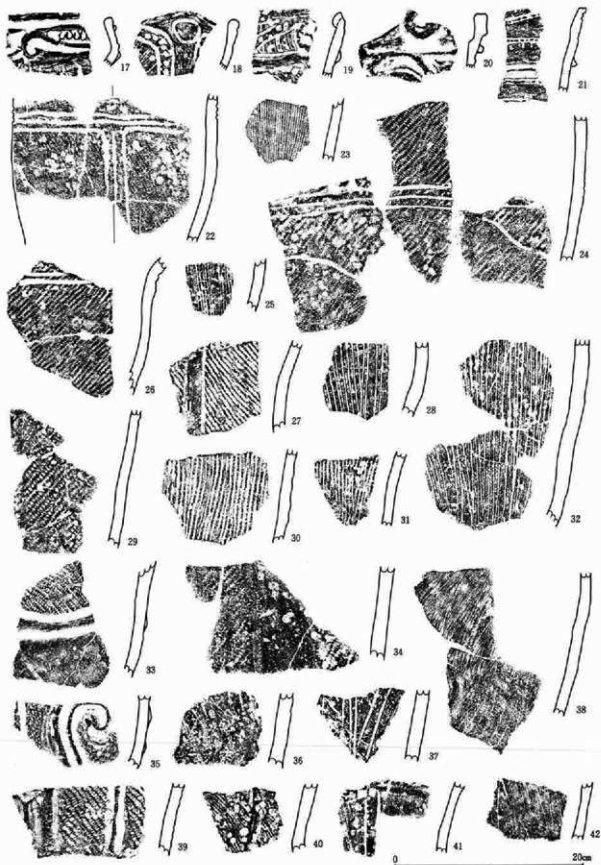
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆線	口縁部は太さ8-10mmの隆線で楕円区画。内面スス付着。 内外面丁寧な磨き。	
2	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文			
3	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良			無文		内外面横位の磨き。	
4	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		内外面横位の丁寧な磨き。	
5	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		口縁が「く」字状に外反。内外面横位の磨き。	
6	細かい砂粒	10YR	明黄褐色	良好	R/LR	縦位	縄文	隆線	口縁部は太さ8mmの隆線の文様。	
7	φ1-3mmの砂粒多量	2.5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		口縁に太さ7mmの沈線が横位に走る。	
8	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆・沈	太さ7-15mmの隆線により口縁部に長楕円形の区画。胴部に縦位の区画する隆線。	
9	φ1-5mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯を太さ10-20mmの隆線と沈線で楕円状に区画。	
10	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			爪形	隆線	巾10mmの手紙竹管外側の爪形文。	
11	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆線	太さ7-8mmの隆線で文様。	
12	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		口縁が「く」字状に外反。太さ4mmの沈線が横位に走る。	
13	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で長楕円形区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ7mmの沈線で縦位の区画。	
14	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	Lr	横位	捺糸	隆線	太さ7-8mmの隆線で横位「S」字状の文様。胴部は無文帯。	15と同一
15	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	Lr	横位	捺糸	隆線	太さ7-8mmの隆線で横位「S」字状の文様。胴部は無文帯。	14と同一
16	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	口縁部は太さ10-15mmの隆線で長楕円に文様を区画。胴部は2条対で縦位の区画。隆線間は無文。内側面に指頭位の刻線が多い。	
17	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			隆・沈		口縁部は太さ8mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ5mmの沈線が縦位に走る。	
18	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	灰黄褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	地文は巾2mmの平行沈線が条線状に施文。口縁部文様帯は太さ4mmの沈線で渦巻き・方形状の文様。	
19	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆線	口縁部は太さ8mmの隆線で文様を区画し太さ3mmの沈線で文様を描く。	
20	φ1-3mmの小石・ 雲母・石英	7.5YR	にぶい褐色	普通			隆・沈		太さ6mmの隆線で文様。	
21	φ1-3mmの小石・ 雲母多量	10YR	灰黄褐色	良好			爪形		巾6mmの結節沈線が施文。	
22	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	明褐色	不良	Lr	縦位	縄文	沈線	胴部は太さ4-6mmの沈線が3条対で区画。	
23	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	良好	条線	縦位	沈線		2mm間隔の条線。	
24	φ1-3mmの小石・ 砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	胴部に太さ4mmの沈線が3条走る。内面にφ6-10mmの円形の割落痕。	
25	φ1-3mmの小石・ 雲母・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr		捺糸		内面黒色。	
26	細かい砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で横位に施文。0段多量。	
27	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	灰褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
28	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	条線	縦位	沈線		地文は巾2mmの沈線が条線状に施文。	
29	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	明褐色	普通	RL	縦位	縄文		内面割落痕あり。	
30	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	Lr		捺糸		内面スス付着。	
31	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良			縦位	捺糸	縄文原形磨滅のため不明。	

II区 27・29号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
32	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	条線	縦位	沈線		太さ3mmの沈線をまばらに縦位に条線状に施文。	
33	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ12mmの隆線で楕円区画。区画内は縄文が充填。胴部は太さ5mmの沈線で縦位の区画。	
34	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が垂下し縦位の区画。	
35	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ5mmの隆線が2条対で高巻き文様。	
36	φ1-5mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良				沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
37	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通				沈線	太さ4mmの沈線が縦位に施文。	
38	φ1-2mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通				無文	外面に楕圓状の条線が付く。	
39	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線を縦位に施文。内面黒色。	
40	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で縦位の区画。	
41	細かい砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆・沈	地文に条線が施文。太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
42	細かい砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	太さ1mmの沈線が条線状に施文。	
43	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通				隆線	口縁部は太さ7mmの隆線が2条対で楕円区画状の文様。	
44	φ1-3mmの小石・金雲母多量	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	太さ12mmの隆線を横位に貼付。巾5mmの結節沈線を横位に貼付。	
45	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	隆線が縦位の区画。下段の隆線にペン先状の突起と爪形の削みが付く。	
46	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	沈線		沈線	隆線	地文は太さ3mmの沈線。太さ5mmの隆線が波状に貼付。	
47	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ6-8mmの隆線で楕円区画。区画内に縄文を充填。	
48	φ1-3mmの小石・金雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	胴部は太さ8mmの隆線で楕円形に文様を区画。隆線に沿って巾7mmの結節沈線を施文。胴上部は沈線で波状文。爪形状の削みが付く。	
49	φ1-3mmの小石・雲母多量	7.5YR	にぶい褐色	良好				爪形	太さ10mmの隆線の上に爪形の削みが付く。	
50	細かい砂粒多量	7.5YR	灰褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で文様を区画。0段多条。	51と同一
51	細かい砂粒多量	7.5YR	灰褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で文様を区画。0段多条。	50と同一
52	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通				爪形	巾6mmの平行沈線が弧状に施文。	
53	細かい砂粒	7.5YR	灰褐色	良好				爪形	隆線を横位に貼付し上下にキョビラ文を施文。	
54	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通				隆・沈	口縁部は太さ15mmの隆線で長楕円区画。区画内は太さ4mmの沈線が縦位に充填。	
55	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好				隆線	口縁部文様帯に太い沈線で楕円状の突起を付ける。	
56	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通				無文	外面に指頭圧痕あり。	
57	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	普通				無文	底面に制作時の粘土シワが残る。	
58	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良				無文	器面全体が腐蝕。	
59	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良				無文	内外面とも刺刺多い。	
60	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	爪形	外面下半を磨く。内面黒色。	
61	金雲母多量	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	竹管で浅い刺突。	

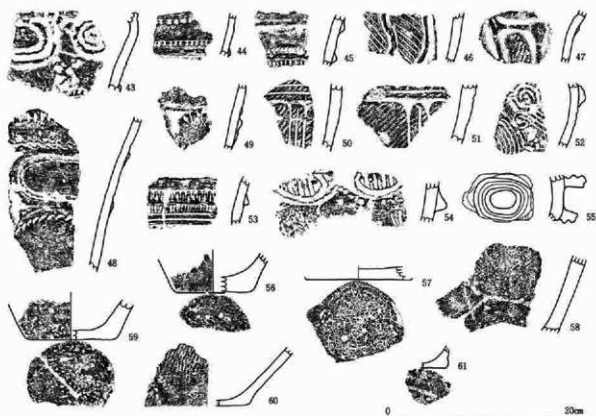


第227図 27・29号住居址出土遺物-1



第228図 27・29号住居址出土遺物-2

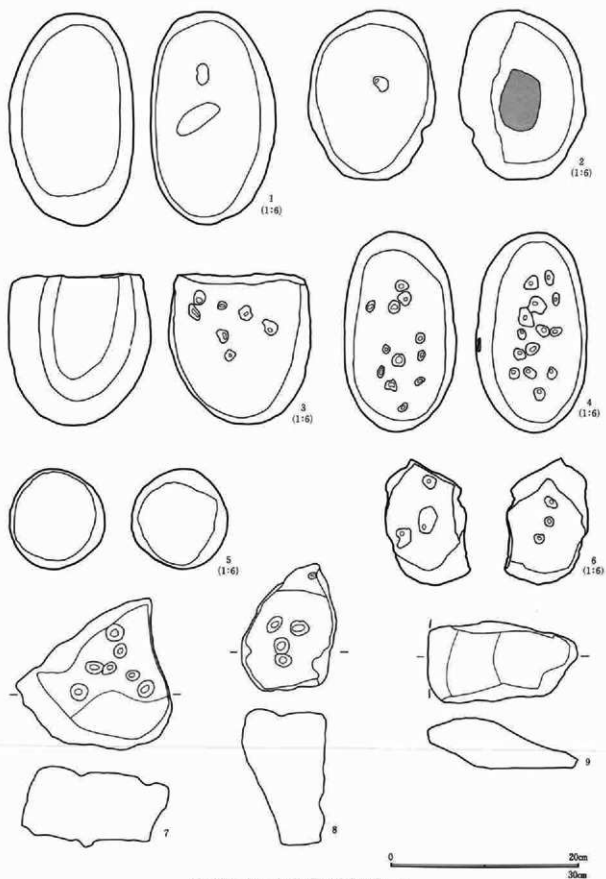
第1章 出土遺物の概要



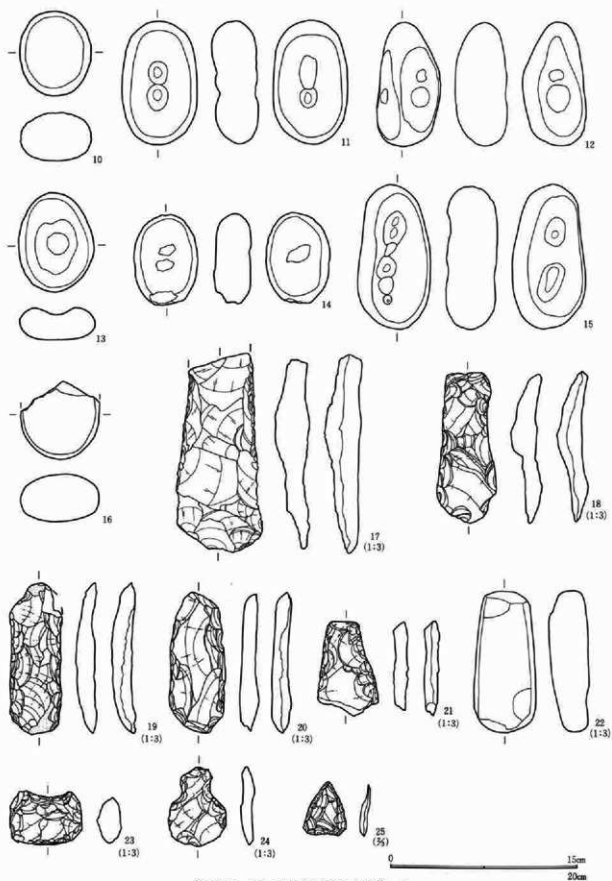
第229図 27・29号住居址出土遺物一 3

Ⅱ区 27・29号住居石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	長楕円形	角閃石安山岩	作業面は平坦で磨面。	33.5	19.8		14500	29住
2	台石	楕円形	角閃石安山岩	作業面は平坦で磨面と凹み。	26.8	19.5		6600	29住
3	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面で円錐形の凹み。	24	22.5		5500	29住
4	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	31	17.8		9900	29住
5	丸石	球形	角閃石安山岩		16.3	15.2		3500	29住
6	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表面に円錐形の凹み。	20	13.8		3800	29住
7	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	15.9	16.8	8.4	2400	27住
8	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	13.4	10.2	14	1900	27住
9	石皿	—	緑色片岩	石皿作業面は凹面。	15.9	8.6	5.2	900	27住
10	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	8.9	7.6	5.1	420	29住
11	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。	13.1	8	4.8	750	27住
12	磨・凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	三面に凹みと磨面。横断面三角形。凹一磨。	13.1	6.7	5.5	620	29住
13	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	中央に磨鉢状の凹み。	10.5	8	3.3	380	29住
14	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹一磨。	9.6	6.9	3.8	410	29住
15	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。	15.3	7.8	5.5	870	27住
16	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	8.2	8.6	5	470	27住
17	打製石斧	楕形	瑤瑯頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	15.8	6.9	3	310	27住
18	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.9	4.7	2.5	120	29住
19	スレイパー	細長	瑤瑯頁岩	両側辺刃部両面調整。	11.9	4.2	1.9	100	27住
20	スレイパー	細長	瑤瑯頁岩	両側辺刃部両面調整。	11.1	4.4	1.6	90	27住
21	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	4.9	1.2	40	29住刃部欠損
22	磨製石斧	乳棒形	雲玄武岩	刃部欠損後敲打している。	11.2	5	3.2	330	29住
23	楔形石器	細長	黒色頁岩	上下両辺に使用痕。	5.7	4.3	1.9	50	29住
24	石筥	細長	黒色頁岩	刃部両面調整。	6.3	4.6	1	20	29住
25	石鏝	平基無茎鏝	チャート	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.2	1.8	0.4	1.3	29住



第230図 27・29号住居址出土遺物-4



第231図 27・29号住居址出土遺物-5



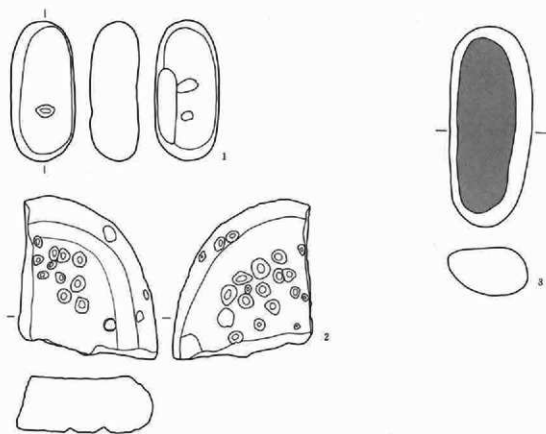
## 第2節 II地区の出土遺物

II区 28号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 彫体	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい橙色	普通	Lr	縦位	懸糸	隆・沈	口縁部に太さ8~10mmの隆線を貼付。5 単位の長楕円形区画。区画内は太さ3mm の沈線が縦位に充填。内面下半部黒色 スス付着。	
2	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	口縁部に太さ12mmの隆線が横位に廻 る。	
3	金雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		隆線に沿って巾6mmの竹管外側による 爪形文を施文。	
4	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆線	口縁部を太さ2mmの隆線で区画。	
5	φ1-5mmの小石	2.5YR	黄灰色	普通			沈線	隆線	頸部無文帯。胴部に巾4mmの斜線を引 く。斜格子状に太さ5mmの隆線が貼付。 巾3mmの沈線が糸線状に施文。太さ8mm の隆線が波状に貼付。	
6	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	糸線	縦位	沈線	隆線	太さ3mmの沈線が3条対で縦位の区画。 区画間に波状の沈線が施文。	
7	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい橙色	普通	Lr	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条対で縦位の区画。 区画間に波状の沈線が施文。	
8	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
9	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	普通	Lr	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条対で縦位の区画。 区画間に波状の沈線が垂下。	
10	φ1-5mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。表面一部剥落。	
11	φ1-5mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	
12	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文		太さ7mmの沈線が3条対で縦位に垂下。 内面スス付着。	
13	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	
14	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が3条対で縦位に垂下。 内面スス付着。	
15	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	良好			爪形		粘土紐を渦巻き状に巻き上げ、刻みが 施文。深鉢の突起。	

II区 28号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏-側面に磨面で 稜をつくる。	14.8	6.8	5.1	860	
2	石皿・多孔 石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹 み。石皿の転用。	16.9	15	6	1900	欠損
3	台石	長楕円形	角閃石安山岩	作業面は平坦で磨面。	21	8.7	5	1600	



0 10cm  
20cm

第232図 28号住居址出土遺物

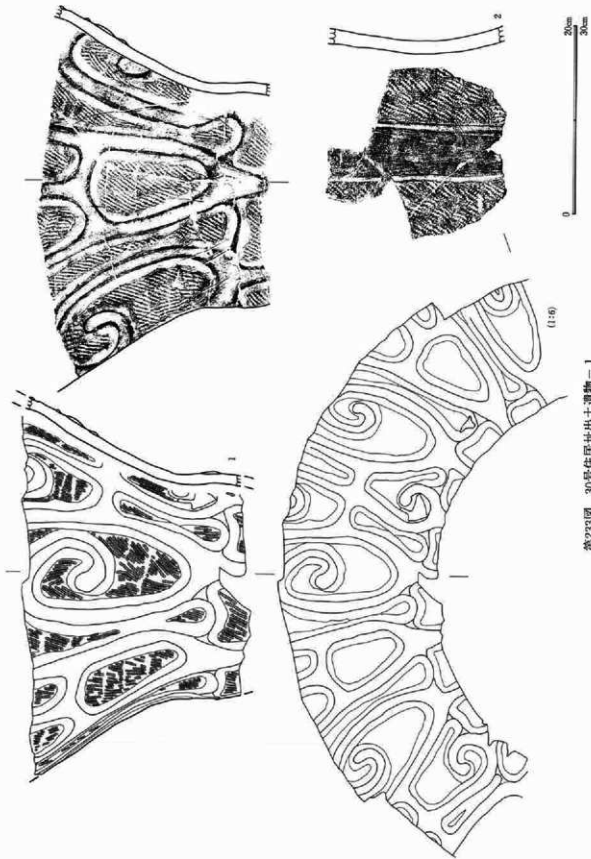
II区 30号住居土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1-2mmの細かい 砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆線	太さ4-6mmの隆線が2条対で曲線と楕円区画を括く。くびれ部位下に内面スス付着。	
2	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	灰褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で縦位の区画。沈線間は無文。	
3	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	黒褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ9mmの沈線が2条対で大波状の文様。内面横位の磨き。	
4	φ1-3mmの砂粒・ 小石	2.5Y	にぶい黄色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で縦位区画「∩」状の文様。内外面スス付着。	
5	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆・沈	太さ10-15mmの沈線と隆線で楕円文様の区画。	
6	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ7-8mmの隆線で渦巻き文様。隆線両側を指張状のものでなす。	
7	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			爪形		太さ5mmの沈線で方形の文様を区画。隆線で縦位区画し押し引きの刺突が加えられる。	25と同一
8	φ1-3mmの小石多 量	10YR	灰黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位の区画。フラビ手状の文様。	
9	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が口唇に廻る。口唇部から別部はフラビ手状の文様。	
10	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆線	太さ5-10mmの隆線で楕円区画。隆線両側を指張状のものでなす。	
11	φ1-5mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ6-10mmの隆線と平行沈線で楕円区画。	
12	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で文様を区画。	
13	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆・沈	太さ5-8mmの沈線と隆線で渦巻き状の文様。	
14	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ3-5mmの微隆線形で渦巻き状の文様。	
15	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	明褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	口唇部に太さ6mmの沈線が廻る。沈線区画より上は無文。	
16	φ1-3mmの砂粒多 量	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	斜位	縄文	沈線	太さ5-6mmの沈線でフラビ手文。	
17	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	横位	弥生	隆線	太さ7mmの隆線の文様。	
18	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口唇部に太さ10mmの沈線が廻る。沈線区画より上は無文。	
19	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	口唇直下に太さ10mmの沈線が横位に廻る。	
20	細かい砂粒・雲母	10YR	黒褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	口唇に太さ5mmの沈線が廻る。沈線区画より上は無文。	
21	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で楕円区画。	
22	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			縦・横	縄文	横位の把手。	
23	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ6-8mmの沈線で「∩」状のフラビ手文。	
24	細かい砂粒・雲母	7.5YR	明褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	口唇部直下に太さ10mmの沈線が横位に廻る。口唇部に沈線で楕円区画。	
25	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			爪形文		太さ5mmの沈線で方形の文様を区画。隆線で縦位区画し押し引きの刺突が加えられる。内外面横位の磨き。	7と同一
26	φ1-3mmの小石多 量	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文			
27	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			隆・沈		太さ7-8mmの隆線が渦巻き状に施文。	
28	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ10-15mmの沈線と隆線で横位の区画。	
29	砂粒多量	2.5Y	にぶい黄色	不良				沈線	太さ8mmの沈線で楕円区画。全体に磨滅。	
30	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		深縁の口縁がゆるやかに外反。	
31	φ1-3mmの小石多 量	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	

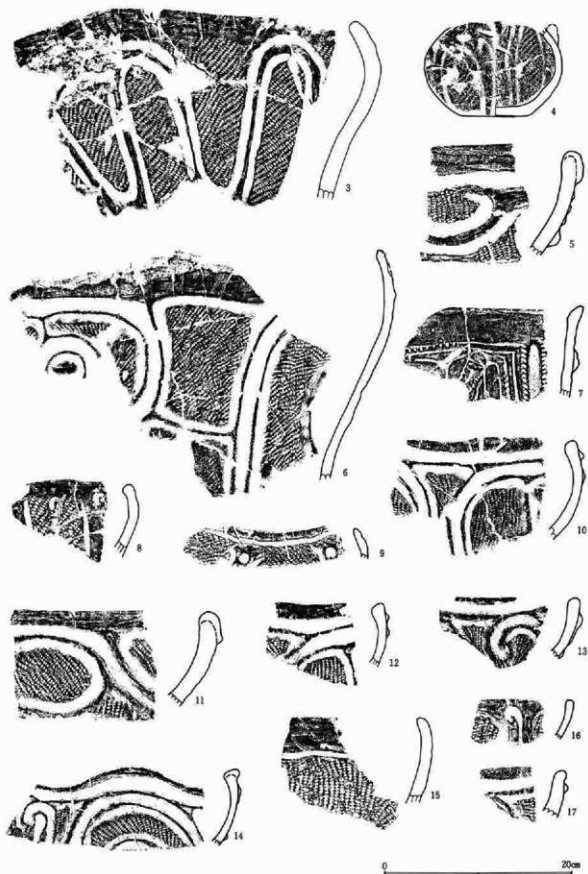
第1章 出土遺物の概要

II区 30号住居土器観察表

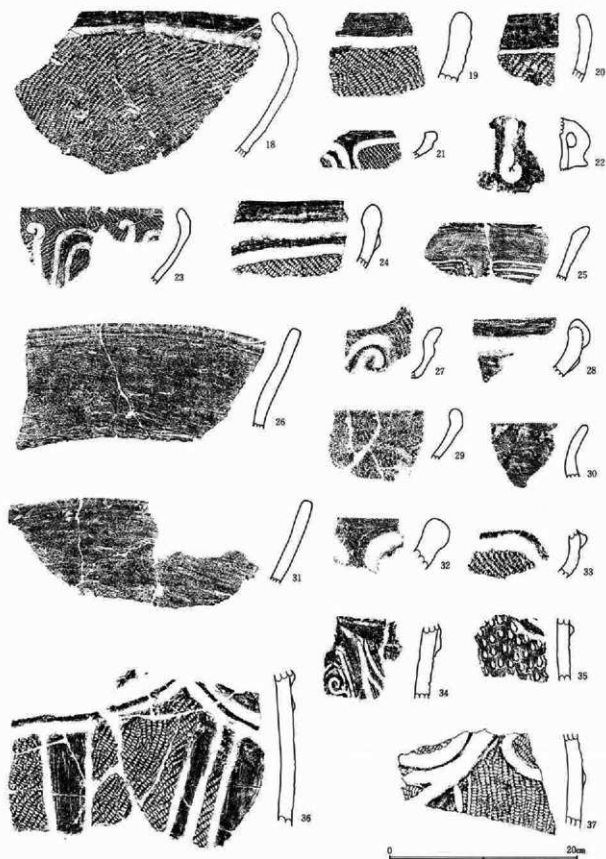
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 肌体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
32	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好				隆・沈	太さ8-12mmの沈線と隆線で渦巻きをつくる。	
33	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	口縁部直下に太さ10mmの沈線が通る。0段多。	
34	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	不良				隆・沈	太さ10mmの隆線で文様を区画。区画内は太さ4mmの沈線で渦巻き等の文様を描く。	
35	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	良好				隆・沈	太さ7mmの隆線で文様を区画。区画内は波溝状の突起が加えられる。	
36	φ1-5mmの小石	7.5YR	明褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ10-15mmの隆線で楕円区画。胴部は太さ10mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
37	φ1-5mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ8-15mmの沈線と隆線で楕円区画。	
38	φ1-3mmの小石	2.5Y	暗灰黄色	普通	条線	縦位	沈線	隆線	隆線で楕円区画。地文は巾2-3mmの周周で沈線が条線状に施文。壺状把手が付く。	
39	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。	
40	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が縦位の区画。	
41	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ4-8mmの隆線で文様を区画。	
42	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が縦位の区画。沈線間には縄文を磨り消している。	
43	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が縦位の区画。	
44	φ1-3mmの砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	口縁部に沈線が横位に通る。	
45	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線		
46	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が縦位の区画。	
47	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	KL	斜位	縄文	沈線	太さ6-8mmの沈線が縦位の区画。	
48	φ1-3mmの小石	2.5Y	黄褐色	普通	KL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。内面黒色。	
49	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	KL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が「U」状・ワラビ手状をつくる。	
50	φ1-3mmの小石多量	5Y	黒色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4-6mmの沈線が縦位の区画。内面黒色。全体に磨成。	
51	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	灰黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が縦位の区画。	
52	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		太さ8mmの沈線が縦位の区画。内面スス付着。	
53	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ10mmの沈線が縦位に付く。	
54	細かい砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が縦位の区画。	
55	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				沈線	太さ4mmの沈線が周周をあげ縦位に施文。	
56	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が縦位の区画。	
57	細かい砂粒・雲母	2.5Y	オリーブ褐色	良好				爪形	太さ5-6mmの隆線で円形・方形の文様。隆線は竹管外側による押し引き文が付く。	
58	φ1-5mmの小石多量	10YR	黄褐色	普通				無文		
59	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好				無文	外面縦位の磨き。	
60	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好				無文		
61	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好				無文	内外面横位の磨き。	
62	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通				沈線	太さ6mmの沈線が縦位に施文。	
63	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良				無文	台付き深鉢の高台部。内面黒色。	
64	細かい砂粒多量・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通				無文	外面縦位の磨き。	
65	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好				隆線	太さ4mmの隆線が楕円区画。	



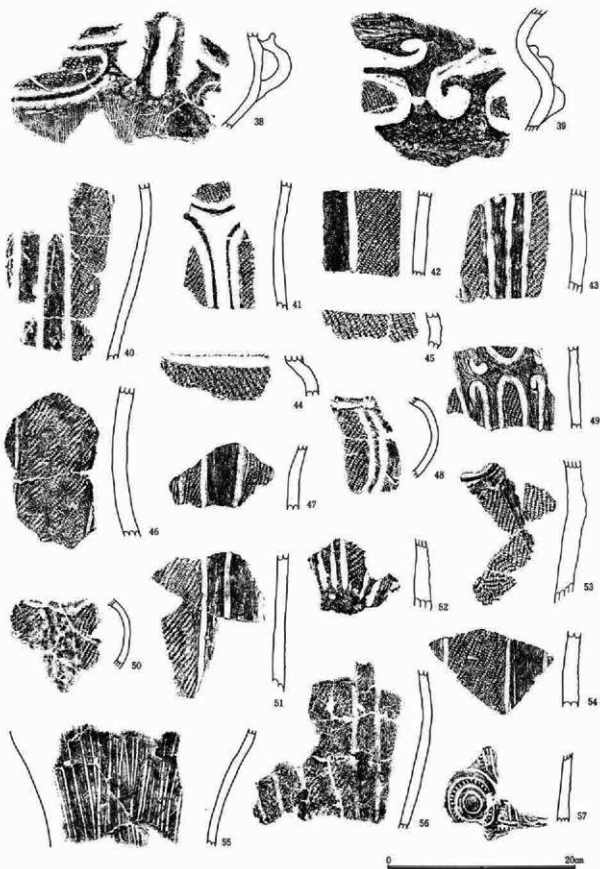
第233圖 30号住居址出土遺物-1



第234図 30号住居址出土遺物-2

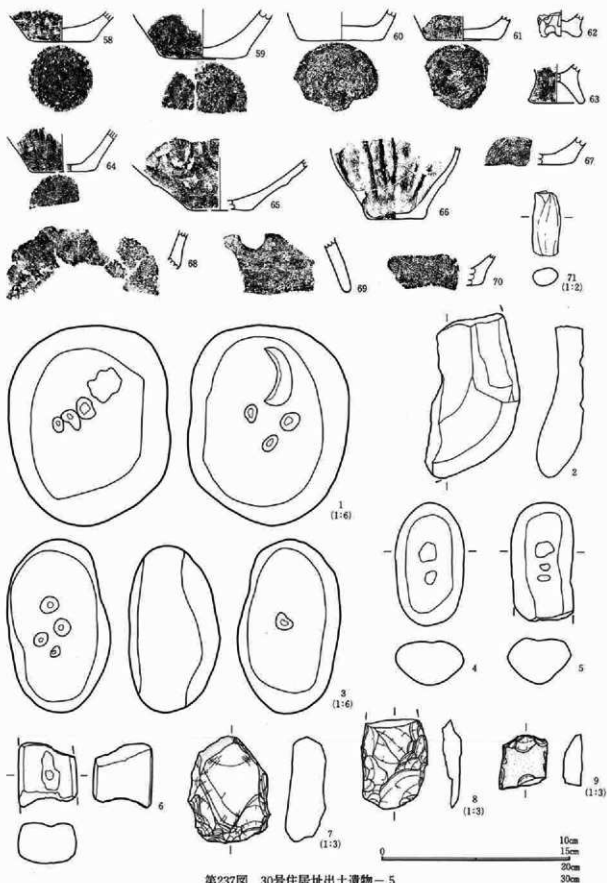


第235图 30号住居址出土遺物-3



第236図 30号住居址出土遺物-4





第237图 30号住居址出土遺物-5

第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 30号住居土器観察表

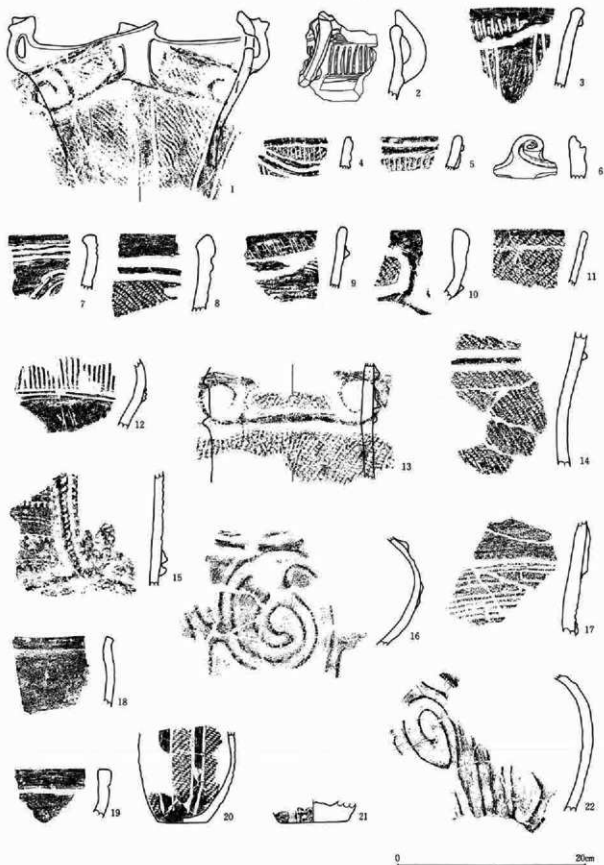
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原状	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
66	φ1~3mmの小石・ 雲母・黄色軽石	2.5Y	黒褐色	良好				隆線	太さ6~8mmの隆線が2~3条対で縦位の 区画。内面に指痕圧痕あり。内面黒色。	
67	細かい砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		外面はへつ削り。	
68	φ1~3mmの小石	2.5YR	黄褐色	普通			無文		内面磨き。	
69	φ1~5mmの小石・ 黄色軽石	2.5Y	黄褐色	普通			無文		内外面横位の磨き。内面黒色。	
70	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	黄褐色	不良			無文			
71	細かい砂粒	7.5YR	明褐色	普通					円筒状の土製品。表面が磨かれる。	

Ⅱ区 30号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	多孔石	楕円形	椎粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	21	17		14100	
2	石皿	楕円形	椎粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。縁どりがあがる。	6.6	6.3	4.2	970	
3	多孔石	長楕円形	椎粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	18.2	11	9.8	7900	
4	磨-凹石	長楕円形	椎粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹-磨。	13	7.4	4.6	630	
5	凹-凹石	楕形	椎粒輝石安山岩	表面に凹み。側面に磨打痕。	17.5	10	5	560	
6	磨-凹石	隅丸長方形	椎粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏-両側面に磨面 で縁を持つ。	4.3	3.8	1.6	250	
7	石核	縦長	黒色頁岩	縦長の削片を取る。	8.5	6.5	3.3	240	
8	スクレイパー	縦長	灰色安山岩	側面に刃部片面調整。	7.1	5.2	1.5	60	
9	打製石筭	短楕形	珪質頁岩	両面調整。刃部磨成。	8.6	6.5	3.2	30	基部欠損

Ⅱ区 31号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原状	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1~3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は隆線で高さきと4単位の横状 把手が付く。胴部は太さ5mmの沈線が2 条対で縦位の区画。	
2	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	沈線	縦位	隆・沈	隆線	隆線が太さ2~ 3mmの沈線が縦位に充填。横状把手が 付く。	
3	細かい砂粒・黒雲 母	5YR	にぶい赤褐色	良好	Lr	縦位	無承	隆・沈	口縁部は太さ7~8mmの隆線が半円状に区 画。区画内は太さ4mmの沈線が縦位に 充填。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で 縦位の区画。	
4	細かい砂粒	5YR	黒褐色	良好	Rl	横位	縄文	沈線	口縁部は太さ4mmの沈線が半円状に区 画。	
5	φ1~3mmの小石多 量	10YR	黄褐色	普通				隆・沈	口唇直下に太さ7~8mmの隆線を廻す。	
6	φ1~3mmの小石・ 雲母	10YR	黒褐色	良好				隆・沈	口縁部に横円文様の区画。 口縁部突起。隆線で渦巻き状にする。	
7	φ1~2mmの小石・ 雲母	5YR	明赤褐色	普通				沈線	口唇直下に太さ5mmの沈線が3条施文。 口縁部は太さ5mmの沈線が波状に施文。	



第238図 31号住居址出土遺物-1

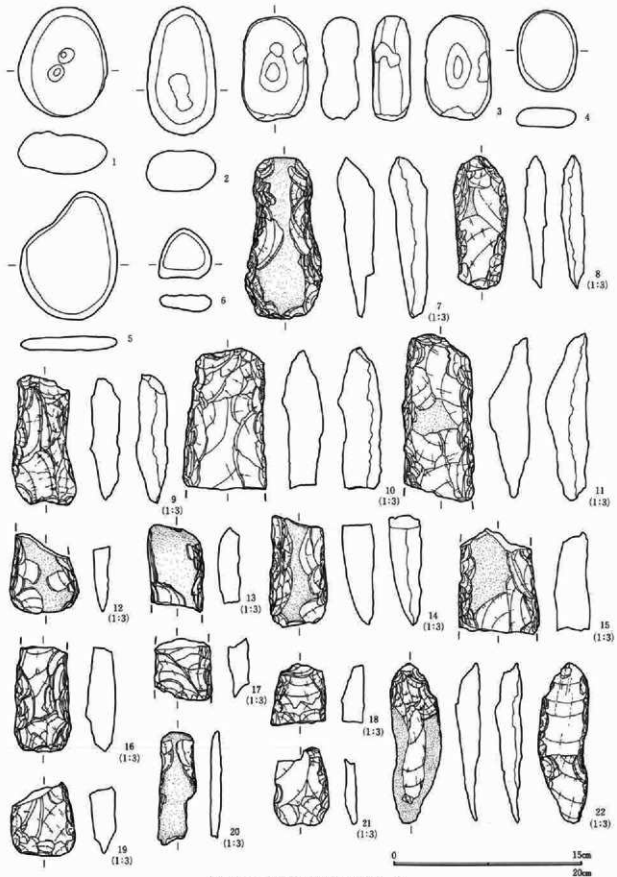
## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 31号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
8	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	口唇直下に太さ7mmの沈線が廻る。口縁部は楕円形の文様を区画。	
9	φ1-5mmの小石	10YR	黒褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁はゆるい波状になる。太さ10mmの隆線で半円状の文様を区画。区画内は太さ2mmの沈線が充満。	
10	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ8-10mmの隆線が楕円区画。	
11	細かい砂粒	10YR	黒色	普通	LR	横位	縄文	縄文	口縁を折り返した2重口縁。全体に縄文を施文。	
12	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	巾6mmの平行沈線の片側を重ねるように縦位に施文し、頸部は横位の区画。	
13	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL+R		縄文	隆線	太さ8-12mmの隆線が楕円区画・渦巻きをつくる。附加条。	
14	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線が1条廻る。	
15	φ1-5mmの小石・雲母多量	5YR	にぶい赤褐色	普通			瓦形	隆線	太さ8mmの隆線が文様を区画。隆線に刻みあり。区画内は半截竹管内側による押し引き沈線と瓦形文が施文。	
16	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	明褐色	不良				隆線	太さ6-8mmの隆線で渦巻き文様。	
17	φ1-5mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	太さ3mmの沈線が横位の文様。	
18	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		外面赤色塗彩。	
19	φ1-3mmの小石多量	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内面横位の磨き。黒色。	
20	細かい砂粒	5YR	暗赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。0段多量。	
21	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通				沈線	沈線が縦位に施文。	
22	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	良好				隆線	太さ3-4mmの隆線で「の」字状のワラビ手の文様。	

Ⅱ区 31号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	円盤形の凹み。	9.5	11.6	4.5	610	
2	敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表・中央と側面に敲打痕。	13.5	7.3	4.3	610	
3	凹・敲石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹みと敲打痕。	11.1	7	4	490	
4	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	8.6	6.4	2	180	
5	磨石	楕円形	緑色片岩	表面に磨面。	13.1	10.3	1.4	380	
6	砥石	楕円形	牛伏砂岩	砥石作業面は扁平。	5.3	5.6	1.8	80	
7	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。両側面に抉り。横断面レンズ状。	12.8	6.1	3	220	
8	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.5	4.2	1.8	80	
9	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.3	5.1	2.5	140	
10	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.2	6.7	3.5	320	刃部欠損
11	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面カマゴコ状。	13.3	5.6	3.4	280	刃部欠損
12	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.4	5.5	1.6	80	基部欠損
13	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.9	4.5	1.8	70	刃部欠損
14	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.8	4.6	2.5	130	基部欠損
15	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.4	6.4	2.8	210	刃部欠損



第239図 31号住居址出土遺物-2

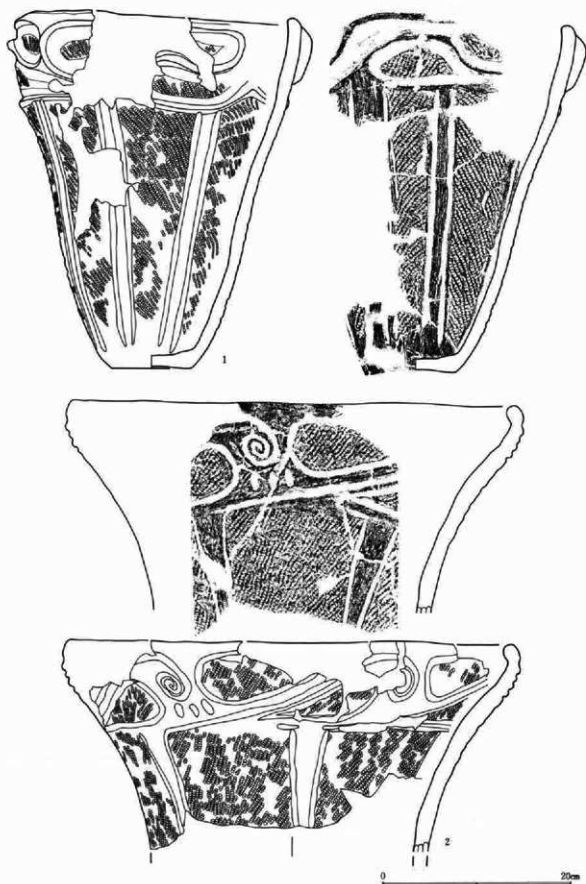
## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 31号住居石器観覧表

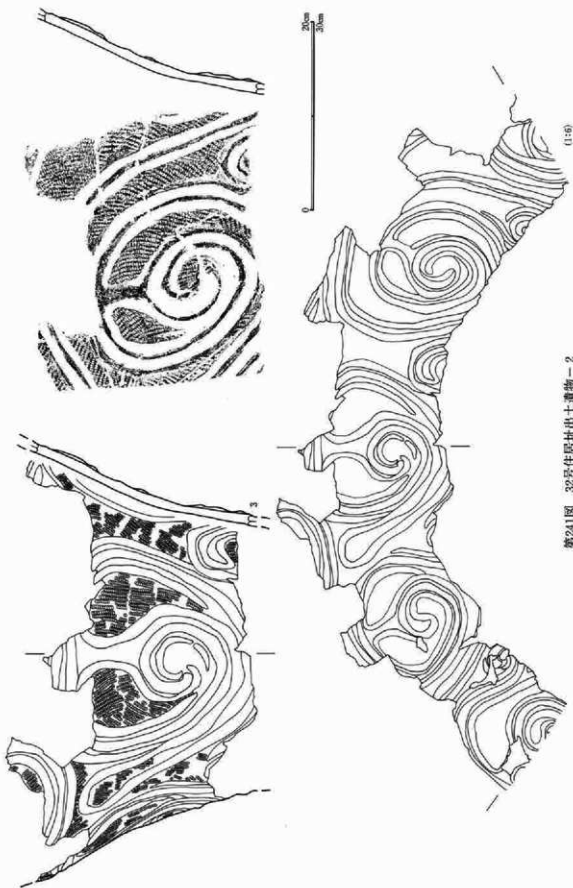
遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
16	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.3	4.5	2.3	120	基部欠損
17	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.8	4.6	1.9	40	両端欠損
18	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5	4.3	1.8	50	刃部欠損
19	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	5	2.1	60	基部欠損
20	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両側面に刃部調整。	8.8	3	0.8	30	
21	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。	6.3	4.4	0.9	30	
22	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両側面に片面からの押圧調整。	12.6	3.9	2.1	90	

Ⅱ区 32号住居土器観覧表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	暗赤褐色	不良	LR	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部は太さ8-12mmの隆線で楕円区画。胴部は太さ7mmの沈線で縦位の区画。内面スス付着。	
2	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	口縁部文様帯を太さ6mmの沈線で楕円区画。胴部文様帯は太さ4mmの沈線が2条対し縦位の区画。	
3	細かい砂粒・黄色 軽石	7.5YR	褐色	良好	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ8-12mmの沈線で渦巻き状の文様を描く。	
4	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部は太い隆線と沈線で楕円区画。胴部は太さ8mmの沈線が2条対し縦位の区画。	
5	φ1-5mmの小石・ 金雲母	10YR	黒褐色	良好				爪形	太さ8-10mmの隆線で楕円区画。口縁に突起が付く。隆線に沿って押し引き結節沈線が引かれる。	
6	φ1-3mmの小石・ 金雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好				爪形	太さ6-8mmの隆線で楕円区画。隆線に沿って太さ4mmの押し引きの結節沈線が引かれる。	
7	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい褐色	良好				無文	口縁部直下に太さ10mmの沈線が廻る。	
8	細かい砂粒多量	7.5YR	褐色	不良				無文	内面黒色。	
9	φ1-3mmの小石・ 金雲母多量	10YR	褐色	良好				爪形	太さ8-10mmの隆線で楕円区画。口縁は2単位の突起が付く。隆線に沿って巾5mmの平行沈線が付く。胴部は横位に竹筥外側の爪形文が付く。	
10	φ1-3mmの小石・ 金雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	LR	横位	爪形		波状口縁を呈する。太さ10mmの隆線を「T」字状に貼付。隆線に沿って太さ5mmの沈線が施文。	
11	φ1-3mmの小石多量	10YR	明赤褐色	不良				無文	口縁部無文の土器。横位に擦痕あり。	
12	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好				爪形	太さ10mmの隆線と巾8mmの平行沈線の文様。沈線に沿ってペン先状の刺突が加えられる。	
13	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通				無文	内面スス付着。	
14	φ1-3mmの小石多量	5YR	褐色	不良	Lr	縦位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯は太さ7-8mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ2mmの沈線が縦位区画・波状に施文。	
15	φ1-3mmの小石・ 雲母	2.5Y	にぶい黄色	良好				沈線	太さ10mmの隆線と太さ5mmの沈線を2条対し縦位の区画。地文は縦線状の沈線を施文。	

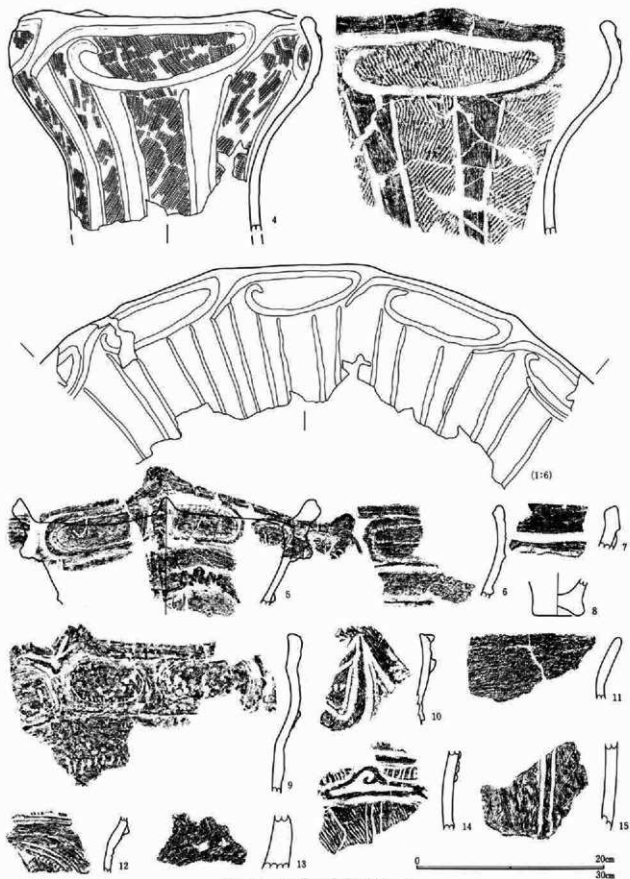


第240図 32号住居址出土遺物-1



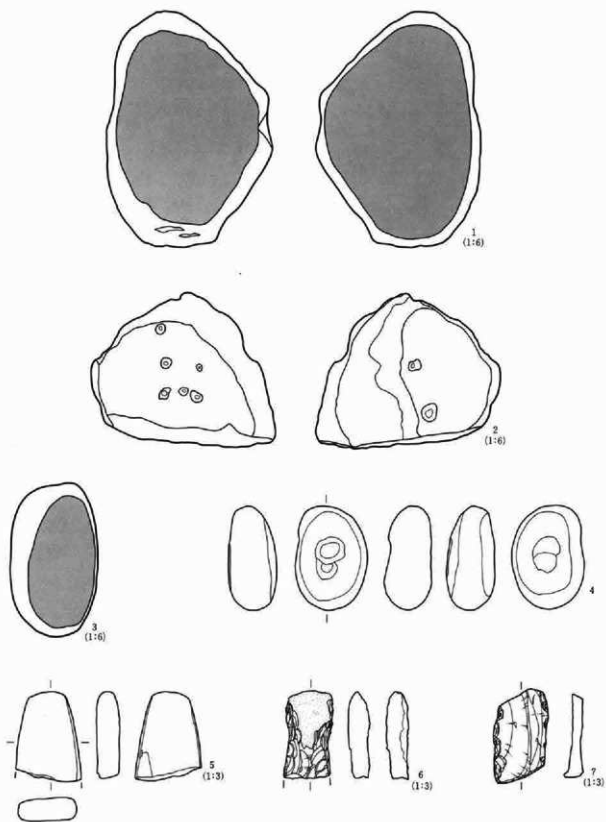
第241图 32号住居出土遺物-2 (1:6)





第242図 32号住居址出土遺物-3

第1章 出土遺物の概要



第243図 32号住居址出土遺物-4

0 15cm  
20cm  
30cm

II区 32号住居石器類調査

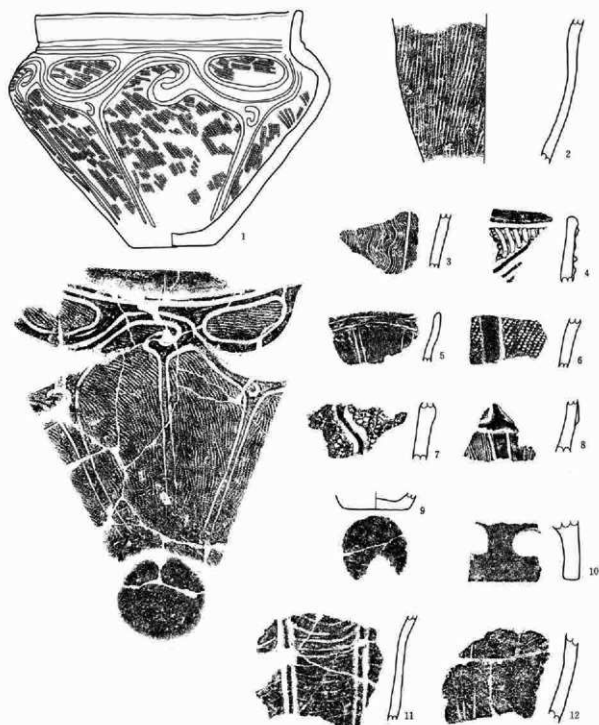
遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	不定形	角閃石安山岩	作業面は平坦で磨面。	37.2	26.5		16900	
2	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	24.2	29.8		11700	
3	台石	隅丸長方形	ひん岩	作業面は平坦で磨面。	24.3	14		5400	
4	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	11.1	7.3	5	580	
5	磨製石斧	定角式	安玄武岩	両側刃・頂部を研磨し鋭をつくる。横断面隅丸長方形。	7.1	5.3	1.9	140	刃部欠損
6	打製石斧	楕形	硬質泥岩	両面調整。	7	3.8	1.8	60	刃部欠損
7	スクレイパー	縦長	黒色安山岩	側面に使用によるほこぼれ。	7.6	4.3	1.6	40	

II区 34号住居土器類調査

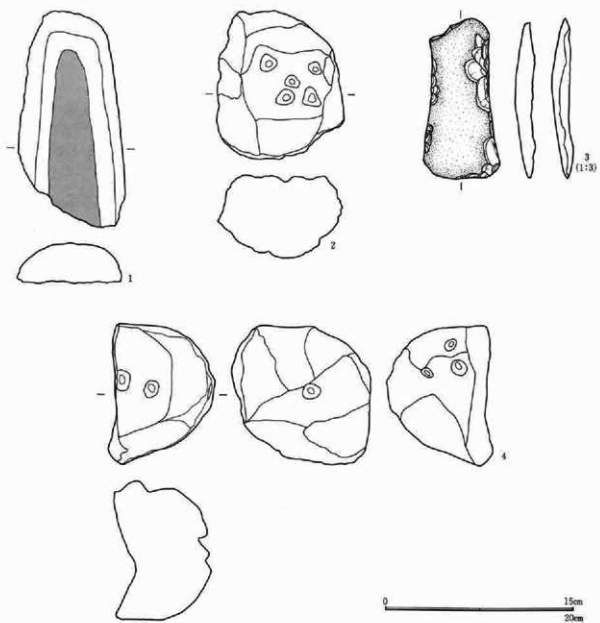
番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ6-8mmの沈線で楕円区画と縦位区画。 全面に熟赤を施文。	
2	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	良好	Lr	縦位	熟赤			
3	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	灰褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	2-3mm間隔の条線5-6条単位で波状に施文。太さ5mmの沈線で縦位の区画。太さ5-8mmの隆線と太さ5mmの沈線で楕円区画。区画内は沈線が充填。	
4	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	灰褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	口唇直下に太さ2mmの沈線が2条出る。縦位区画は太さ2mmの沈線が2条対で施文。	
5	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	細暗赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。太さ6-8mmの隆線が波状に垂下。	
6	細かい砂粒	7.5YR	明褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線		
7	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通	LK	横位	縄文	隆線		
8	細かい砂粒	2.5YR	赤褐色	良好	Lr	縦位	熟赤	隆・沈	口縁部文様帯を太さ4-10mmの隆線で区画。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。 内面黒色。	
9	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通			無文			
10	細かい砂粒・雲母	10YR	灰褐色	普通			無文		内面横位の磨き。器台。	
11	φ1-5mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	不良	沈線	横位	沈線	隆線	太さ6-8mmの隆線で縦位の区画。区画内は太さ3mmの沈線が波状に施文。	
12	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。全体に磨線。	

II区 34号住居石器類調査

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	台石	—	緑色片岩	石棒の欠損品の表面を磨面に転用。	22.6	11.2	4.4	1700	欠損
2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	15.6	23.6	8.4	2200	
3	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	12.7	6	1.7	140	
4	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	14.8	11.2	14.5	2400	



第244図 34号住居址出土遺物-1



第245図 34号住居址出土遺物-2

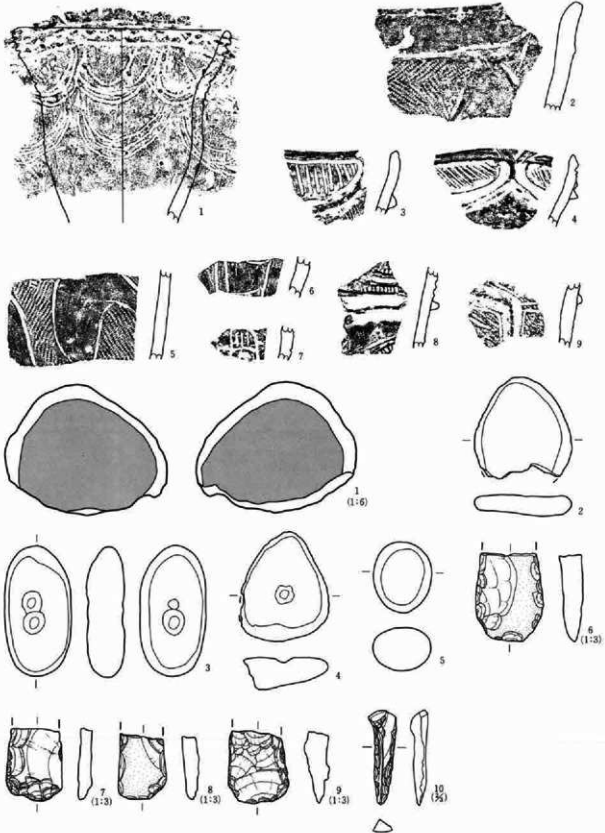
## 第1章 出土遺物の概要

Ⅱ区 35号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
1	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	明黄褐色	普通	糸線	縦位	沈線	沈線	口唇直下に太さ3mmの沈線が2条廻る。 沈線間に流状の文様を描く。口縁から 胴部にかけて3条の沈線が連続文を2段 に描く。	
2	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄褐色	普通	LK	縦・横	縄文	隆線	口縁部文様帯に太さ5mmの微隆起線が 横位に廻る。胴部に文様を描く微隆起 線が陪付。	
3	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	Lr	縦位	熱糸	隆・沈	口縁部文様帯を太さ10mmの隆線で半円 状に区画。区画内は太さ4mmの沈線が 充填。	
4	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	明黄褐色	良好				隆・沈	口縁部に太さ5-10mmの隆線が2重で半 円状の区画。区画内は太さ3mmの沈線 が充填。口縁部に無文帯を持つ。	
5	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が弧状の文様を描く。 磨り消し縄文帯を持つ。	
6	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	太さ3mmの沈線が縦位に施文。	
7	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	太さ3mmの沈線の文様。	
8	φ1-3mmの小石・ 金雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			爪形		隆線と押し引きの沈線で幾何学文様を 描く。	
9	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	縄文	隆・沈	太さ7mmの隆線と太さ2-3mmの沈線で 方形の文様を区画。	

Ⅱ区 35号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	白石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で表裏に磨面。	20.5	25.8		6200	
2	砥石	不定形	牛伏砂岩	砥石作業面は平坦。	10.8	10.5	2.4	300	
3	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。	13.9	7.2	4.2	550	
4	磨・四石	不定形	牛伏砂岩	表・中央に円錐形の凹みと磨面。	11.6	9.5	3.4	350	
5	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	7.5	6.1	4.6	300	
6	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7	5.4	2	100	基部欠損
7	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.5	1.3	40	基部欠損
8	打製石斧	短棒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.2	3.9	1.2	30	基部欠損
9	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	4.9	2	60	基部欠損
10	石鏃	棒形	黒曜石	作業面は細身の棒状で押圧利難。	3.8	1.2	0.7	1.8	基部欠損



第246図 35号住居址出土遺物

0 15cm  
20cm  
30cm

第1章 出土遺物の概要

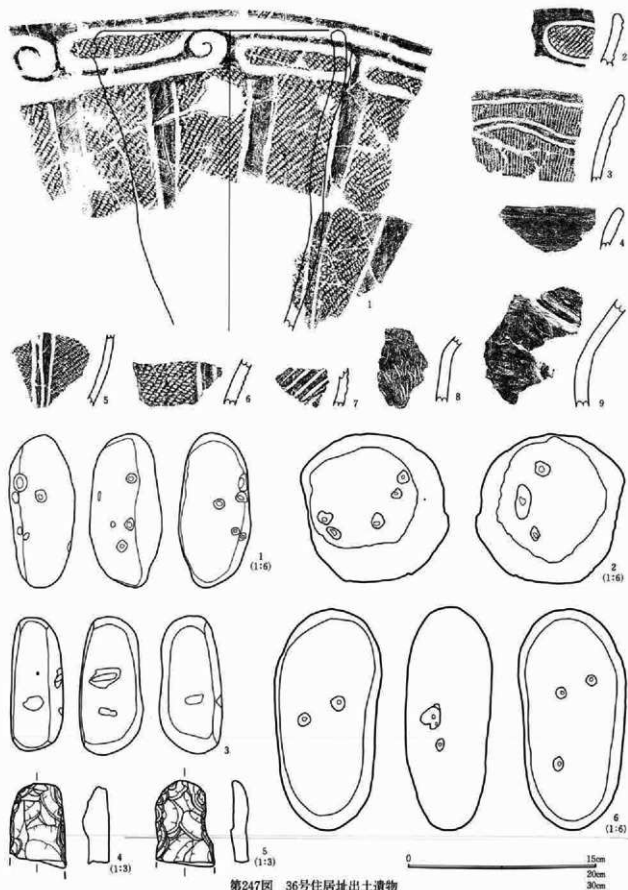
Ⅱ区 36号住居土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	地成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
1	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部はゆるいキャリバー状で胴部に影らみを持つ。口縁部文様帯は太さ8~10mmの沈線と隆線で長楕円区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
2	細かい砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ5mmの沈線で長楕円の文様を区画。	
3	φ1~3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	弥生	沈線	口縁部は太さ4mmの沈線が2条波状に廻り、口縁直下に1条走る。頸部に沈線が引かれる。	
4	φ1~3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	
5	φ1~3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
6	φ1~3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
7	φ1~3mmの小石・ 雲母	7.5YR	褐色	普通				沈線	太さ4mmの沈線が縦位に引かれる。	
8	φ1~3mmの小石・ 雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	良好	RI	縦位	弥生		附加条縄文を施文。	
9	φ1~3mmの小石・ 雲母	5YR	暗赤褐色	良好				隆線	太さ10mmの隆線が貼付。	

Ⅱ区 36号住居石器観察表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	磨・四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に横長の凹みをもち磨面で稜をつくる。凹一磨。	24.3	11.6	10.4	3440	
2	多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	23.5	23.8		12800	
3	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹みをもつ。	14.6	6.8	5.4	920	
4	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.2	4.5	2.1	70	刃部欠損
5	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.6	4.6	1.9	50	刃部欠損
6	多孔石	長楕円形	角閃石安山岩	表裏・側面に円錐形の凹み。	35.5	19.5	13.5	10100	





第247図 36号住居址出土遺物

## 第1章 出土遺物の概要

## II地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文原体	地文方向	地文分類	文様分類	文様の特徴	時期・備考
1	1	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	暗褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部は太い隆線と沈線でワラビ手状文や楕円形の文様を描く。口縁と胴部の境に浅い沈線がまわる。胴部は縦位の区画と横円区画。	
1	2	φ1-3mmの小石			普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太い隆線と沈線で横円区画。区画内は縄文が充填。	
2	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	暗褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部は太い隆線と隆線で半円状の区画。胴部は沈線が3条対で縦位の区画。	
4	1	φ1-3mmの小石			普通	RL	横位	縄文	沈線	太3.5mmの沈線で縦位の区画。	
4	2	φ1-3mmの小石・雲母			普通	RL	縦・横	縄文	沈線	口縁部文様帯を太い沈線で施文。区画内は縄文が充填。	
4	3	φ1-3mmの小石			普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	太3.5mmの沈線で文様を施文。沈線間に無文帯。	
5	1	φ1-3mmの小石			普通	条線	縦位	沈線	沈線	市2mm間隔の沈線が条線状に施文。	
6	1	φ1-3mmの小石・砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太3.5mmの沈線で縦位の区画。	
6	2	φ1-5mmの小石多量・石英	7.5YR	褐色	良好			無文			3と同一
6	3	φ1-5mmの小石多量・石英	7.5YR	褐色	良好			無文			2と同一
7	1	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	明褐色	普通	LR	縦位	縄文		底面近くは縄文がナナにより消される。	
8	1	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太3.7mmの沈線で縦位の区画。	
8	2	細かい砂粒	10YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文			
9	1	φ1-5mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太3.5-7mmの沈線で縦位の区画。	
9	2	φ1-3mmの小石多量・黄色軽石	10YR	黒褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太3.6mmの沈線で縦位の区画。	
10	1	φ1-3mmの砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文	隆・沈	太3.6-8mmの隆線で横円区画・渦巻きを作る。区画内は太3.3mmの沈線が充填。	
10	2	細かい砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通				隆・沈	渦巻き状に施文された深線の突起部。	
11	1	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	口縁直下は沈線が2条廻る。胴部に地文で条線が施文。	
11	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太3.2-3mmの沈線で縦位の区画。	
13	1	φ1-5mmの小石・黄色軽石・雲母	7.5YR	明褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太3.2mmの沈線で縦位の区画。区画内は波状沈線が施文。	
13	2	φ1-8mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太3.6mmの沈線が縦位に施文。	
13	3	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通				隆線	太3.8mmの隆線が半円状・渦巻き状に施文。	
14	1	φ1-3mmの砂粒多量	7.5YR	暗褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太3.5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
14	2	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	暗褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太3.5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
15	1	φ1-3mmの小石多量	5YR	赤褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太3.3mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
16	1	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太3.7mmの沈線で縦位の区画。	
17	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太3.8mmの沈線で縦位の区画。	
18	1	φ1-5mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	良好				隆線	隆線で深線の突起。	
18	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	隆線と沈線で渦巻き文。	
18	3	φ1-3mmの砂粒	5YR	褐色	普通				隆線	太3-5mmの隆線と隆線で幾何学文様。	

II地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
18	4	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3-5mmの沈線が2条対で縦位の 区画。	
20	1	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯は太さ5-6mmの隆線を 2条弧状に貼付。弧は5単位で口縁を 通り、弧と弧の交点に渦巻き文。 弧状の区画内は太さ1mmの沈線が縦 位に充填、胴部に縄文が全体に施文。	
21	1	細かい砂粒	7.5YR	明褐色	良好	沈線	横位	沈線	沈線	太さ2mmの沈線2条が垂下し縦位の区 画。これに接して弧状の沈線が施文。 隆線の深鉢の横状把手部。隆線上は 沈線で渦巻き文様を施文。	
25	1	φ1-3mmの小石	10YR	明黄褐色	良好			沈線	隆線	6mmの平行沈線が縦位に施文。 太さ6mmの沈線が2条対で縦位に施文 し縦位の区画。	
25	2	φ1-3mmの小石	10YR	暗褐色	不良	沈線	縦位	沈線			
25	3	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位に施文 し縦位の区画。	
25	4	φ1-3mmの小石 ・繊維	7.5YR	明褐色	普通	LR	横位	繊維		0段多条。	
25	5	φ1-3mmの小石 ・繊維	7.5YR	明褐色	不良	LR	横位	繊維		縄文施文の磨ぎ目に粘土のシワで微 隆線ができる。	
25	6	細かい砂粒・繊 維	7.5YR	褐色	普通	RL・Lr	横位	繊維		磨りの異なる縄文で羽状縄文をつ くる。	
26	1	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	7.5YR	褐色	良好			沈線	隆線	地文は太さ3mmの沈線が縦位に施文。 隆線は太さ10mmで渦巻き状になる。 巾5mmの竹管で爪形文が9段横位に施 文。	
26	2	φ1-3mmの小石 ・雲母・繊維	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	繊維			
26	3	φ1-3mmの砂粒 多量	2.5YR	黄褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ10mmの沈線と隆線で渦巻き状の 文様。	
27	1	φ1-3mmの小石 ・繊維	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	繊維			
27	2	φ1-3mmの小石 ・繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL・ LR	横位	繊維		羽状縄文で菱形を構成する。	
28	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	明赤褐色	良好				隆・沈	太さ5mmの隆線で文様。	
29	1	φ2-3mmの小石	10YR	褐色	良好				隆・沈	口縁に太さ4mmの隆線が渦巻き状に 貼付。区画内は沈線が充填。	
29	2	φ1-2mmの砂粒	7.5YR	褐色	普通	RL・Lr	横位	縄文	沈線	地文は羽状縄文で太さ2mmの沈線で 弧を描く。	
29	3	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が横位に廻る。沈線 上部に縦位に削みを施す。	
29	4	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	縦・横	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で「∩」状に施文。	
29	5	φ1-5mmの小石	10YR	灰黄褐色	普通	条線	縦位	沈線		巾2-4mmの平行沈線を条線状に施 文。	
29	6	φ2-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			隆・沈		口縁部文様帯は太さ4-6mmの文様。 文様区画内には、沈線が充填される。 太さ8mmの沈線で渦巻き文。 太さ6mmの沈線で縦位の区画。区画 間にも沈線を施文。	
29	7	φ2-5mmの小石	10YR	黄褐色	普通			沈線		太さ4mmの沈線で縦位の区画。	
29	8	φ2-3mmの小石	10YR	暗褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線の文様。	
29	9	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RRL	縦位	縄文	沈線	巾2-3mmの平行沈線の条線。底面に 副代痕が残る。	
30	1	φ2-3mmの小石	7.5YR	明褐色	不良			沈線		全体に摩滅が多い。沈線で縦位の区 画。区画内は縄文が施文。	
31	1	φ1-3mmの小石	10YR	明黄褐色	良好	条線	縦位	沈線		胴部は太さ4mmの沈線が廻る。胴部 に同じ隆線の文様。	
32	1	φ1-5mmの小石 多量	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が2条対で「J」字状 の文様を描く。	
32	2	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	明赤褐色	普通	LR	縦・横	隆線		全体に磨滅。沈線で文様を描く。	
32	3	φ1-3mmの小石 多量	7.5YR	明褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線		
32	4	φ1-5mmの小石	10YR	明黄褐色	不良	RL	横位	縄文	沈線		

## 第1章 出土遺物の概要

## II地区 土坑土器観察票

土坑 番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	胎文 原形	胎文 方向	胎文 分類	文様 分類	文様の特徴		時期・備考
										文様	特徴	
33	1	φ1-5mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通				隆線	太さ7mmの隆線で文様。		
33	2	φ1-5mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	良好				隆線	太さ7mmの隆線の文様。		
33	3	φ1-3mmの小石多量	10YR	褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で文様。		
34	1	φ1-2mmの小石・黄色軽石	7.5YR	明褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾6mmの平行沈線が2条対で胴部に6単位の縦位の区画をつくる。		
34	2	φ1-2mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部は太さ3mmの沈線が2条廻る。		
35	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒色	良好	LR	横位	弥生	沈線	口縁部を折り返し縄文を施した後太さ3mmの沈線が波状に施文。胴部は沈線を横位に区画し縄文部と無文部を交互につくる。		
35	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	良好	縄文	横位	弥生	沈線	条線が横位に施文。		
35	3	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	良好	縄文	横位	弥生	沈線	条線が横位に施文。		
35	4	細かい砂粒・雲母	2.5Y	暗灰褐色	普通	縄文	横位	弥生	沈線	太さ4mmの沈線が横位に施文。		
35	5	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	縄文	横位	弥生	沈線	条線が横位に施文。		
35	6	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好				沈線	口縁部に太さ5mmの沈線が2条廻る。		
35	7	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				沈線	太さ8-10mmの指頭状の浅い沈線の文様。		
35	8	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			弥生	沈線	底面に横状文。		
36	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	良好	沈線	斜位	沈線	沈線	太さ4mmの沈線で縦位の区画。区画内を沈線の弧線が充満。		
37	1	φ1-5mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	Lr	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ12mmの隆線で楕円区画と渦巻き。胴部は太さ6mmの沈線が2条対で縦位の区画。内面スス付着。		
38	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部は太さ10mmの隆線と楕円区画。胴部は太さ6-8mmの沈線で縦位の区画をつくり、縄文部と無文部を交互にしている。内外面スス付着。		
39	1	φ1-3mmの小石	10YR	暗褐色	普通	沈線	縦位	沈線	沈線	巾5mmの平行沈線と隆線で弧状の文様。		
39	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通	沈線	横位	沈線	沈線	太さ3mmの沈線の文様。内面黒色。		
40	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ6mmの浅い沈線の文様を区画。区画内は縄文が充満。		
40	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	暗褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	太さ3mmの沈線が横位に廻る。		
41	1	φ1-3mmの小石	10YR	暗灰色	良好				沈線	太さ12mmの沈線で渦巻き。		
42	1	φ1-3mmの小石・繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通			縄文	縄文	巾6mmの竹管の平行沈線と爪形文。		
42	2	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	黒褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	口縁部は太さ12mmの沈線が廻る。胴部に太さ6mmの沈線が「∩」状に施文。条線状に巾6mmの平行沈線が波状に施文。		
42	3	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	黒褐色	良好	条線	縦位	沈線	沈線	口縁部は太さ8mmの沈線が廻る。胴部に太さ6mmの沈線で「∩」状の文様。		
43	1	φ1-3mmの砂粒・雲母	10YR	明黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位の区画。		
43	2	φ1-3mmの小石・黄色軽石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部に無文部を持つ。胴部は太さ3mmの沈線の文様。		
45	1	細かい砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	口縁部に太さ3mmの沈線が廻る。		
45	2	細かい砂粒・雲母	10YR	黒褐色	普通	Lr	横位	縄文	沈線	口縁部に太さ3mmの沈線が廻る。		
45	3	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	太さ4mmの沈線が横位に施文。		
45	4	細かい砂粒	7.5YR	灰褐色	良好	YI	縦位	無文	沈線	条線が縦位に施文。		
45	5	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	条線	横位	無文	沈線	表面に楕円孔状の凹みを持つが貫通していない。		
45	6	φ1-4mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	不良				沈線			
45	7	φ1-3mmの小石・砂粒・雲母	5YR	にぶい褐色	普通				沈線			

II地区 土 土 器 観 察 表

土坑 番号	番 号	胎 土	色記号	色 調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文 様 の 特 徴	時期・備考
46	1	φ1-5mmの小石 ・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	巾10mmの爪形文とベン先状の刺突が 加えられる。	
46	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良	RL	縦・横	縄文	沈線	口縁部にφ3mmの刺突が上下2部加え られる。頸部以下は沈線で文様。把 手が付く。内面スス付着。	
46	3	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文			
46	4	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位に施 文。	
46	5	φ1-3mmの小石 ・雲母	10YR	黒褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が3条で横位に施文。	
46	6	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	赤褐色	普通	Lr	縦位	熟赤		熟赤を施文。	
47	1	φ1-5mmの小石	5YR	明赤褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁部に太さ8mmの隆線で渦巻き・楕 円文様を区画。胴部は太さ2-3mmの 沈線が垂下。全体に磨減多い。	
47	2	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	口縁部に太さ7mmの隆線で渦巻き・楕 円文様を区画。	
48	1	φ1-3mmの小石 多量	5YR	暗赤褐色	不良			爪形		口縁部は太さ8mmの隆線とベン先状 に刺突で文様を描く。胴部に無文帯。 胴部文様帯も口縁部と同様に施文。 口縁部文様は隆線とベン先状の刺突 で描かれる。	
48	2	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			爪形			
49	1	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線と対で縦位の区画。 沈線間は無文。	
50	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	胴部文様は太さ5-8mmの隆線で渦巻 きやS字状の文様を描く。地文に太 さ3mmの沈線が施文。	
50	2	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	沈線		沈線	隆線	地文は太さ3mmの沈線が施文。胴部 は太さ5-8mmの隆線で渦巻き・「S」 字状の文様を描く。	
51	1	φ1-3mmの小石 ・繊維	7.5YR	褐色	普通	Lr	横位	繊維			
51	2	φ1-3mmの小石 ・繊維	10YR	明黄褐色	普通	RL・ LR	横位	繊維		羽状縄文で、菱形を構成する。内面 黒色。	
53	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	7.5YR	褐色	普通				沈線	太さ1mmの沈線が施文。	
56	1	φ1-3mmの黄色 軽石	10YR	明黄褐色	普通	RL	横・斜	縄文	隆・沈	太さ5-10mmの沈線と隆線で文様。	
57	1	φ1-3mmの小石 ・繊維	7.5YR	褐色	不良	RI	横位	繊維		巾6mmの平行沈線が横位に施文。	
57	2	φ1-3mmの小石 ・繊維	7.5YR	明褐色	不良	LR	横位	繊維		縄文を施文。	
57	3	φ1-5mmの小石 ・金雲母多量	7.5YR	明褐色	不良			爪形		口縁部文様帯を太さ3mmの沈線で区 画し弧線を引く。	
57	4	φ1-5mmの小石 ・雲母	7.5YR	明褐色	不良	LR	縦・横	縄文		口縁直下に屈曲を持つ。	
57	5	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	良好			爪形		巾8mmの平行沈線・隆線・ベン先状の 刺突で幾何学文様をつくる。	
58	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	7.5YR	明褐色	良好	RLR		縄文	沈線	太さ5mmの沈線で縦位区画・波状に垂 下。	
60	1	φ1-3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位区画と波状の 垂線。	
60	2	細かい砂粒	2.5Y	黒褐色	良好	Lr	横位	赤生		太さ4mmの沈線で横位区画と波状の 文様。	
60	3	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	LR	横位	赤生		太さ3mmの沈線で長楕円区画。	
60	4	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	良好	RL	縦位	赤生		胴部に太さ4mmの沈線が横位に施文。	
62	1	φ1-3mmの小石 ・繊維	7.5YR	褐色	普通	RL・ LR	横位	繊維		羽状縄文を重ねて菱形を構成。	
64	1	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石・繊維	7.5YR	褐色	良好			繊維		巾6mmの半截竹管の爪形文を横位に 施文。口唇部に小突起が付く。	

## 第1章 出土遺物の概要

II地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	胎文原形	胎文方向	胎文分類	文様分類	文様の特徴	時期・備考
64	2	細かい砂粒・横線	7.5YR	明褐色	良好	RL	横位	横線			
65	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好				爪形	口縁部文様帯を太さ10-12mmの隆線と平行沈線、連続刺突の爪形文で構成。頸部は無文帯。 巾10mmの隆線と平行沈線とペン先状の刺突で文様を挿く。 巾6mmの隆線と平行沈線が施文。	
65	2	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	良好				爪形		
65	3	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	良好	Lr	縦位	捺糸			
65	4	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通				爪形		
68	1	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	黒色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯は太さ5-10mmの隆線で渦巻き・楕円等の文様を挿く。胴部は太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
68	2	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通				隆・沈	口縁部文様帯に渦巻き。	
68	3	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
68	4	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	灰黄褐色	普通	沈線		沈線	沈線	巾5mmの平行沈線で縦線を挿く。	
69	1	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	沈線	縦位	沈線	隆線	口縁部は太さ8mmの隆線で渦巻き、底状の沈線が垂下。 縄文を施文。	
69	2	細かい砂粒・横線	7.5YR	褐色	普通	Lr	縦位	横線			
69	3	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良				沈線	口縁部文様帯は太さ4mmの沈線で縦位の区画、刺突を加える。 巾7mmの平行沈線で底状の文様。	
69	4	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	明褐色	不良				爪形		
69	5	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良				無文		
71	1	細かい砂粒・横線			良好			横線		巾7mmの平行沈線。	
71	2	細かい砂粒・横線			良好			横線		巾7mmの平行沈線。	
71	3	細かい砂粒・横線			良好	RL	斜位	横線		縄文を施文。	
71	4	細かい砂粒・横線	10YR	黒褐色	普通	RL/LR	横位	横線		羽状縄文。	
71	5	φ1-3mmの小石・横線			普通	Lr	横位	横線		縄文を施文。	
72	1	φ1-3mmの小石・雲母・横線	7.5YR	明褐色	普通	RL	横位	横線		0段多糸の縄文を施文。	
72	2	φ1-3mmの小石・横線	10YR	黒褐色	普通	RL/LR	横位	横線		0段多糸の羽状縄文を施文。	
72	3	細かい砂粒・雲母・横線	5YR	赤褐色	良好	LR	横位	横線		縄文を施文。	
72	4	細かい砂粒・横線	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL/LR	横位	横線		0段多糸の羽状縄文を施文。	
72	5	細かい砂粒・横線	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	横線		縄文を施文。	
73	1	φ1-3mmの小石・横線	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL/LR	横位	横線		0段多糸の羽状縄文を施文。	
73	2	細かい砂粒・横線	7.5YR	明褐色	普通			横線		平行沈線と櫛歯状の工具の刺突で文様。 羽状縄文を交互に施し変形をつくる。	
73	3	細かい砂粒・雲母・横線	10YR	黒褐色	良好	Ri-Lr	横位	横線			
73	4	細かい砂粒・雲母・横線	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL/LR	横位	横線		0段多糸の羽状縄文を施文。	
74	1	細かい砂粒・横線	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	横線		縄文を浅く施文。	

II地区 土 土 器 観 察 表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
74	2	細かい砂粒・織 漉	10YR	にぶい黄褐色	普通			横線		巾5mmの半截竹管で爪形文・菱形をつくる。	
75	1	細かい砂粒・織 漉	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	横線		0段多条の縄文を洗く施文。	
75	2	細かい砂粒・織 漉	5YR	赤褐色	普通	RL・ LR	横位	横線		0段多条の羽状縄文を施文し菱形をつくる。	
76	1	細かい砂粒・織 漉	10YR	褐色	普通	Lr	横位	横線		巾6mmの半截竹管の平行沈線で扇歯状に施文し菱形をつくる。	2と同一
76	2	細かい砂粒・織 漉	10YR	にぶい黄褐色	良好	Lr	横位	横線		巾6mmの半截竹管の平行沈線で扇歯状に施文し菱形をつくる。	1と同一
76	3	細かい砂粒・織 漉	7.5YR	明褐色	普通	Rl	横位	横線		底部上げ底。内面黒色。	
78	1	細かい砂粒・織 漉	7.5YR	明褐色	普通	RL・ LR	横位	横線		RLと0段多条のLRによる羽状縄文で菱形をつくる。	
78	2	細かい砂粒・織 漉	7.5YR	褐色	普通			横線		巾8mmの半截竹管の平行沈線と爪形文。	
80	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	2.5YR	赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ6mmの粘土縷を貼付し文縷帯を7単位に区画。区画内は太さ2mmの沈線が光塊。胴部は太さ3mmの沈線で縦位区画し波状の沈線が重下。	
81	1	細かい砂粒・織 漉	10YR	黒褐色	普通			横線		巾8mmの平行沈線と爪形文で菱形をつくる。	
81	2	φ1-3mmの小石 ・横線	10YR	暗褐色	普通			横線		巾5mmの平行沈線と爪形文。	
82	1	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石・横線	7.5YR	褐色	普通	RL・ LR	横位	横線		0段多条の羽状縄文で菱形を構成。	
82	2	φ1-3mmの小石 ・横線	7.5YR	黒褐色	普通	RL・ LR	横位	横線		0段多条の羽状縄文で菱形を構成。	
82	3	φ1-3mmの小石 ・横線	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	横線		底部上げ底。内面黒色。	
90	1	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文		口縁部は無文帯。	
90	2	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	10YR	黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
93	1	細かい砂粒	5YR	暗赤褐色	普通			爪形		口縁部に横位の爪形文が施文。	
93	2	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			爪形		隆線と印刷で幾何学文様をつくる。	
94	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	明赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が縦位の区画。	
94	2	φ1-3mmの小石 ・雲母	7.5YR	明褐色	普通	糸線	縦位	沈線		巾2mmの沈線が波状に施文。	
94	3	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線の文様。沈線間は無文。	
95	1	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が縦位に重下。	
96	1	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	LR	斜位	縄文			
96	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒色	良好	Lr	縦位	熱赤			
96	3	φ1-3mmの小石 多量	7.5YR	褐色	不良			無文		全体に磨滅。土製円盤。	
97	1	φ1-3mmの小石	10YR	明黄褐色	良好	RL	横位	縄文			
97	2	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	LK	横位	縄文	隆線	口縁部は太さ10-20mmの隆線で半円状の文様を区画。胴部に隆線が重下。太さ10-20mmの隆線で半円状の文様を区画。胴部は隆線が2条対で重下。	
97	3	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	明赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	口縁部文縷帯は太さ4mmの沈線で楕円区画。胴部は無文。口縁部の区画縷に刺突あり。	
97	4	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部文縷帯は太さ4mmの沈線で楕円区画。胴部は無文。口縁部の区画縷に刺突あり。	
97	5	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	10YR	黄褐色	普通	LK	横位	縄文	沈線	胴部に太さ5-6mmの沈線が施文。	

## 第1章 出土遺物の概要

## II地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
97	6	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	Lr	縦位	燃赤	沈線	胴部は太さ2mmの沈線が横位に廻る。胴部は沈線が2条対で縦位の区画。区画間には沈線が波状に施文。内面スス付着。	
97	7	φ1-3mmの小石・雲母・黄色軽石	5YR	明赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線が波状に垂下。	
98	1	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	黒褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部に太さ8mmの沈線が1条廻る。	
98	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良				沈線	太さ5mmの沈線の文様。内面黒色。	
98	3	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	暗褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ6-8mmの隆線を貼付。	
98	4	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好				爪形	太さ2-3mmの沈線と爪形文。内面黒色。	
99	1	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ7mmの沈線と隆線の文様。	
99	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	不良	Lr	縦位	燃赤	沈線	巾7mmの平行沈線の文様。	
99	3	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線が弧状に貼付。	
99	4	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通				隆・沈	太さ5mmの隆線で縦位の区画。区画間は刺突が加えられる。	
100	1	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	暗赤褐色	良好				沈線	口縁部は太さ7-8mmの隆線で横円区画・渦巻きをつくる。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
101	1	φ1-3mmの小石・砂粒	2.5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	口縁部文様帯は太さ3mmの沈線で半円状の区画。区画内は沈線が縦位に充填。胴部は沈線で文様を施文。	
102	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	暗赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ5-10mmの沈線と隆線で渦巻き状の文様。	
102	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	普通	Lr	縦位	燃赤	沈線	太さ3mmの沈線を弧状に引く。	
104	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	縦位	縄文	沈線	口縁部は太さ3mmの沈線が1条廻り胴部と区画。口縁部は無文帯。胴部は波状の沈線が施文。	
104	2	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良				爪形	太さ3mmの沈線が施文。	
105	1	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	黄褐色	不良	条線	縦位	沈線		巾2-3mmの沈線を条線状に施文。	
108	1	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	灰褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	太さ7-9mmの沈線で弧線を引く。	
109	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	縄文		把手部が割断。	
109	2	φ1-3mmの小石・黄色軽石	2.5YR	黄褐色	良好	Lr	縦位	燃赤			
109	3	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で横円区画。区画間には渦巻き。	
109	4	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	沈線	斜位	沈線	隆・沈	太さ2-3mmの沈線が矢羽状に施文し隆線を垂下。	
109	5	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
109	6	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通	LR	縦位	縄文		太さに異なる燃赤を合わせ2段の単筋斜線文とする。	
110	1	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	良好				無文	内外面をヘラ状のもので横位に磨く。内面黒色。	
110	2	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	明赤褐色	良好	条線	縦位	沈線	隆線	太さ2mmの沈線が縦位に施文。	
110	3	細かい砂粒・雲母	5YR	黒褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	口唇部と口縁部の間に太さ6mmの沈線が縦位に廻りφ6mmの刺突が加えられる。口縁部は横円区画。	
110	4	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	黒褐色	良好				沈線	太さ6mmの沈線で文様。	
110	5	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	RLR	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で縦位の区画。	



II地区 土坑土器調査表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
110	6	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好				沈線	太さ3mmの沈線で縦位の区画。	
112	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で渦巻き文様。	
113	1	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好				爪形	巾7mmの竹管の爪形文。	
115	1	φ1-3mmの小石 多量	7.5YR	にぶい藍色	良好				無文		
115	2	細かい砂粒・繊維	7.5YR	黒色	良好			繊維		巾5mmの平行沈線と歯状の工具で刷列。	
116	1	φ1-3mmの小石 多量・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆線	口縁部は太さ8mmの隆線で文様を区画。胴部に沈線による条線。	
116	2	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位の区画。	
116	3	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通				無文	外面横位の磨き。	
118	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	7.5YR	暗褐色	普通				爪形	太さ4mmの沈線と口縁部の渦巻き文様で隆線をつくる。	
118	2	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	赤褐色	良好				爪形	巾7mmの半截竹管で平行沈線と刷列。	
118	3	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ4mmの沈線で楕円区画と隆線の渦巻き。	
118	4	φ1-3mmの雲母	5YR	明赤褐色	普通	R/LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が縦位に施文。	
118	5	φ1-3mmの小石 ・金雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文			
118	6	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	擦赤			
118	7	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	赤褐色	良好				無文	内面黒色。	
119	1	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	2.5YR	赤褐色	普通				隆線	太い隆線で渦巻き。胴部は無文。	
119	2	φ1-3mmの小石	5YR	極暗赤褐色	良好	RL	縦・横	縄文	沈線	口唇部直下に太さ9mmの沈線が廻る。口縁部は太さ6mmの沈線で文様。	
119	3	φ1-2mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が垂下。	
119	4	φ1-3mmの小石 多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線が垂下。	
121	1	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
121	2	φ1-3mmの小石 多量	7.5YR	黒褐色	良好				沈線	太さ12mmの沈線で施文。内湾する器形。	
122	1	φ1-2mmの小石 ・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	巾2-3mmの沈線の条線。	
122	2	φ1-2mmの小石 ・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾2mmの沈線の条線と縄文。	
122	3	φ1-2mmの小石 ・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾2mmの沈線の条線と縄文。	
122	4	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線で楕円に文様を区画。	
124	1	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	口縁部に太さ6mmの沈線で楕円の文様を区画。	
124	2	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	縦・横	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で「口」状の文様。	
124	3	φ1-3mmの小石 多量	5YR	明赤褐色	不良			沈線	隆・沈	口縁部文様を太さ5mmの隆線で区画。区画内は太さ2mmの沈線が充満。	
124	4	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	7.5YR	明褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	口縁部文様を太さ6-10mmの沈線と隆線で楕円区画。	
124	5	φ1-3mmの小石 多量	7.5YR	にぶい褐色	普通				爪形	太さ8mmの沈線で横位の区画。区画間は沈線が縦位に引かれる。	
124	6	細かい砂粒・雲母	7.5YR	褐色	不良				爪形	巾6mmの半截竹管で平行沈線と爪形文。	
124	7	細かい砂粒	7.5YR	黒褐色	良好				爪形	深鉢の突起部。内外面に巾広の隆線で円形を描く。	

## 第1章 出土遺物の概要

## II地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期-備考
124	8	φ1~3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文	内面黒色。		
124	9	細かい砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好			無文	内面黒色。内湾する。		
124	10	φ1~3mmの小石 多量	10YR	黒褐色	普通			無文	口縁部に1条線を持つ。		
124	11	φ1~3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通			爪形	隆線で楕状把手をつける。口縁部は隆線で蛇頭の文様が付く。		
124	12	φ1~3mmの小石	7.5YR	褐色	不良			無文			
124	13	φ1~3mmの小石 ・黄色軽石	10YR	暗褐色	普通			爪形	深鉢の突起部で竹管による文様が加えられる。		
125	1	φ1~3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	暗赤褐色	良好	沈線	斜位	沈線	隆線	太さ8mmの沈線が矢羽根状に施文。口縁部は無文で頸部との境に太さ10mmの隆線がまわる。胴部は隆線による縦位の区画。隆線に刺突が加わる。	
125	2	φ1~3mmの小石 ・黄色軽石	7.5YR	明褐色	普通	RL	縦・横	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で文様を描く。	
125	3	φ1~3mmの小石 ・雲母	7.5YR	黒褐色	普通			爪形	太さ6~8mmの隆線が円形の貼付。口縁部直下はφ6mmの刺突が加えられる。		
125	4	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太い隆線で楕円区画と渦巻きをつくる。区画内に縄文が充填。口縁部文様を太さ10mmの隆線で区画。	
125	5	φ1~2mmの小石	5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ6mmの沈線と隆線で楕円区画。	
125	6	細かい砂粒	5YR	赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線と隆線で縦位の区画。太さ4mmの沈線で楕円区画。	
125	7	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
125	8	細かい砂粒・雲母	7.5YR	黒褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
125	9	φ1~2mmの小石 ・雲母	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が縦位に垂下する。	
125	10	細かい砂粒	7.5YR	明褐色	不良	RL	縦・横	縄文			
125	11	細かい砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好			無文			
126	1	φ1~3mmの小石 ・雲母	10YR	灰黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で文様を施文。	
126	2	細かい砂粒	7.5YR	暗褐色	良好	沈線	斜位	沈線	沈線	太さ4mmの沈線の曲線と太さ2mmの沈線で穀粒状に施文。	
126	3	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が3条対で縦位の区画。	
126	4	φ1~3mmの小石 ・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
126	5	φ1~3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	横・斜	縄文	隆線	太さ6~8mmの隆線の文様。	
126	6	φ1~3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で縦位の区画。	
126	7	φ1~3mmの小石 ・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通			無文	外面横位の磨き。内面スス付き。		
127	1	φ1~3mmの小石 ・黄色軽石	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ13mmの隆線で楕円区画・円形の文様を描く。区画内は太さ8mmの沈線が斜位に充填。	
127	2	φ1~3mmの小石 多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	太さ5~12mmの沈線と隆線で楕円区画。	
127	3	φ1~2mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	糸線	縦位	沈線	隆線	太さ2mmの沈線が糸線状に施文され地文となる。太さ5mmの隆線が弧を描く。	
127	4	φ1~3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
127	5	φ1~3mmの小石	7.5YR	褐色	良好	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ6mmの沈線と隆線で楕円区画し、縄文を充填。	
127	6	φ1~3mmの小石 ・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	糸線	縦位	沈線			

II地区 土坑土器調査表

土坑 番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
127	7	φ1-3mmの小石	5YR 赤褐色	不良	RL	斜位	縄文	沈線	口唇部と口縁部に1条の沈線。波頂部にφ12-18mmの孔を持つ。外面横位の文で。	
127	8	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR にぶい赤褐色	普通			無文			
127	9	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR 灰黄褐色	良好			無文			
128	1	φ1-2mmの小石・雲母	2.5YR 赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。太さ5mmの沈線。	
129	1	φ1-2mmの小石・雲母多量	5YR 黒褐色	普通			爪形			
129	2	φ1-3mmの小石	5YR 暗赤褐色	普通			爪形		太さ5mmの沈線が縦位に施文。	
130	1	細かい砂粒・雲母	5YR 褐色	良好			沈線		φ8mmの沈線の文様。	
130	2	細かい砂粒	5YR 明赤褐色	良好			隆線		口縁部に太さ7-10mmの隆線で横円区画。頸部に無文帯を持つ。内面スス付着。	
130	3	細かい砂粒	7.5YR 褐色	普通	LRL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部文様を太さ8mmの沈線で横円区画。口縁部は粘土を貼付し肥厚する。	
130	4	細かい砂粒多量	2.5YR 明赤褐色	普通			爪形		太さ3-4mmの沈線と太さ5-10mmの隆線が貼付。	
130	5	細かい砂粒	5YR にぶい赤褐色	普通			爪形		φ7mmの半載竹管で平行沈線が縦位に施文。頸部に同じ竹管で爪形文が施文。	
130	6	細かい砂粒	5YR にぶい赤褐色	普通			爪形		太さ4-6mmの隆線と沈線で幾何学的文様。	
130	7	φ1-3mmの小石	5YR 赤褐色	不良			爪形		φ9mmの平行沈線で幾何学文。	
130	8	φ1-3mmの小石	5YR 赤褐色	不良			爪形		太さ4mmの沈線と隆線で文様を施文。	
130	9	φ1-3mmの小石	7.5YR 黒色	良好	条線	縦位	沈線	隆・沈	太さ3mmの沈線が条線状に施文。口唇部は粘土粒の突起が付き口縁部まで垂下。	
130	10	細かい砂粒・雲母	2.5YR にぶい赤褐色	普通			爪形		φ8mmの平行沈線と刻みを持つ隆線で文様。	
130	11	φ1-3mmの小石	5YR にぶい赤褐色	不良			爪形		φ7mmの半載竹管で平行沈線と爪形文。	
130	12	細かい砂粒多量	5YR にぶい赤褐色	良好			爪形		φ10mmの半載竹管の文様。	
130	13	細かい砂粒多量	5YR にぶい赤褐色	普通			爪形		φ7mmの半載竹管で平行沈線と爪形文を施文。内面黒色。	
130	14	φ1-2mmの小石・雲母	5YR 明赤褐色	不良				隆・沈	太さ4mmの沈線で幾何学的文様。	
130	15	細かい砂粒	5YR 赤褐色	良好			爪形		φ9mmの平行沈線の文様。	
130	16	細かい砂粒	10YR 暗褐色	不良			沈線	隆線	太さ3mmの沈線が矢羽根状に施文。太さ6mmの隆線で縦位の区画。	
130	17	細かい砂粒	7.5YR 褐色	良好			爪形		φ7mmの半載竹管でコンパス文を施文。	
130	18	細かい砂粒・雲母	7.5YR 暗褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	口縁部に1条の沈線が廻る。	
130	19	φ1-2mmの小石	2.5YR 赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	
130	20	細かい砂粒	10YR にぶい黄褐色	普通			無文		内面スス付着。	
130	21	φ1-3mmの小石・雲母	5YR 明赤褐色	普通	LRL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
130	22	φ1-3mmの小石	5YR 褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ6mmの隆線が垂下し縦位の区画。区画間はφ8mmの平行沈線の波状文が垂下。	
130	23	φ1-3mmの小石	7.5YR 褐色	不良			無文		内面黒色。	
130	24	細かい砂粒・雲母	5YR 明赤褐色	普通				沈線	太さ2mmの沈線が3条対で縦位の区画。内面黒色。	
130	25	φ1-3mmの小石	7.5YR にぶい褐色	普通				沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。内面スス付着。	

## 第1章 出土遺物の概要

日地区 土坑土器類調査表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	胎文原形	胎文方向	胎文分類	文様分類	文様の特徴	時期・備考
132	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通			爪形		口縁部に太い隆線の突起。内面スス付着。	
132	2	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好			爪形		太い隆線で口縁部文様を区画し突起をつくる。	
133	1	細かい砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通				沈線	口縁部文様を太さ12mmの隆線で区画し、太さ3mmの沈線が縦位に充填。	
133	2	細かい砂粒	5YR	暗赤褐色	良好				隆・沈	口縁部文様帯を太さ8mmの隆線で平行状に区画し、沈線が充填。	
133	3	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	R-LR	縦・横	縄文	沈線	原体の異なる2種類の縄文を施文。太さ3mmの沈線で文様。	
133	4	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒色	普通			無文			
134	1	φ1-2mmの小石多量	10YR	灰黄褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線で文様。	
134	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文			
135	1	φ1-3mmの小石多量	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	3と同一
135	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆・沈	口縁部文様を太い隆線と沈線で椀円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ4mmの沈線が充填。口縁部は肥厚する。	3と同一
135	3	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆・沈	口縁部文様を太い隆線と沈線で椀円区画・渦巻きをつくる。区画内は太さ4mmの沈線が充填。口縁部は肥厚する。	2と同一
135	4	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で渦巻き文。	
135	5	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で横位に廻る。内面黒色。	
135	6	φ1-2mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線で渦巻き文様。	
136	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの沈線と隆線で椀円区画・渦巻きをつくる。	
136	2	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	LR	横位	縄文			
136	3	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通			沈線	隆・沈	太さ5-8mmの隆線で椀円に文様を区画。区画内は太さ2mmの沈線が充填。区画の隆線は刺刺。	
136	4	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	巾2mmの平行沈線で成状の条線で施文。太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。内面スス付着。	
136	5	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	太さ3mmの沈線で縦位の区画。区画内は沈線が斜位に充填。巾2mmの平行沈線の条線。	
137	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	明褐色	普通	条線	縦位	沈線			
137	2	φ1-5mmの小石	10YR	黒色	普通	条線	縦位	沈線		巾2mmの平行沈線の条線。	
138	1	φ1-3mmの小石	10YR	褐色	普通			無文		内面黒色。	
138	2	細かい砂粒・繊維	7.5YR	褐色	普通	RLL	横位	編織		前々段合巻りの縄文。	
139	1	φ1-3mmの小石・繊維	7.5YR	明褐色	普通	RI	横位	編織			
139	2	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通			爪形		太さ8mmの刻みを持つ隆線が垂直。	
140	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	明褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線が2条対で縦位の区画。全体に摩擦が多く縄文が消えている。	
140	2	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好				隆・沈	口縁部に太さ5-8mmの沈線と隆線で椀円区画・渦巻きをつくる。	
140	3	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ12mmの隆線で椀円区画。	
140	4	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	褐色	普通			無文			

II地区 土壌土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期-備考
141	1	細かい砂粒多量	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	沈線が縦位に施文。	
142	1	φ1~2mmの小石多量	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線の文様。内面黒色。	
144	1	φ1~3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文			
146	1	φ1~3mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通				隆・沈	太さ8~10mmの沈線と隆線で渦巻きをつくる。	
146	2	φ1~3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良				隆線	太さ8~10mmの隆線を貼付。	
147	1	φ1~2mmの小石	7.5YR	灰褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で文様。	
147	2	φ1~3mmの小石・雲母	2.5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
148	1	φ1~3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ4mmの沈線と太さ8mmの隆線で文様。反円状の突起が付く。	
149	1	φ1~3mmの小石	7.5YR	褐色	良好			爪形		太さ5mmの沈線で文様を施文。	
150	1	細かい砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	良好			爪形	隆・沈	巾5mmの平行沈線と連続「コ」字文が交互に施文。反円状の突起が付く。	
150	2	φ1~3mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通			爪形		巾7mmの半軌竹管で刺突。円形の孔が開く。	
150	3	φ1~3mmの小石	5YR	にぶい暗赤褐色	普通				隆・沈	圓部及び縁部に隆線を持ち削み加えられる。	
150	4	φ1~3mmの小石	7.5YR	褐色	不良				沈線	太さ5mmの沈線が横位に施文。表面割落が多い。	
150	5	φ1~3mmの小石	7.5YR	明褐色	不良	RL	横位	縄文			
150	6	細かい砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好	Lr	縦位	無文			
150	7	細かい砂粒	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で文様を描く。内面スス付着。	
150	8	φ1~3mmの小石	7.5YR	黒褐色	普通			無文		横位の磨き。外面スス付着。	
150	9	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		外面横位の磨き。内面黒色。	
151	1	φ1~3mmの小石	7.5YR	褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯を太さ12mmの沈線と隆線で横円区画。	
151	2	φ1~5mmの小石	5YR	赤褐色	普通	条線	縦位	沈線		巾2mmの平行沈線の条線。	
151	3	φ1~3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4~5mmの沈線で縦位の区画。	
151	4	φ1~3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4~5mmの沈線で縦位の区画。	
151	5	φ1~3mmの小石	10YR	灰黄褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が乳輪に引かれる。	
151	6	φ1~3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位の区画。	
151	7	φ1~3mmの小石・雲母	10YR	黒褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位の区画。	
151	8	φ1~3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で縦位の区画。	
154	1	φ1~3mmの小石・繊維	5YR	赤褐色	不良	Lr	横位	縄文		縄文施文後に、横位の沈線が施文される。	
154	2	φ1~3mmの小石・繊維	10YR	褐色	普通	Lr	横位	縄文			
154	3	φ1~3mmの小石・繊維	10YR	黄褐色	良好	RI	横位	縄文		0段多条の縄文。	
154	4	細かい砂粒・繊維	7.5YR	褐色	普通	LRL・LL	横位	縄文		直前段合替り。LRL(3段)とLR(2段)になる。	
154	5	細かい砂粒・繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL・LR	横位	縄文		羽状の縄文。	
154	6	φ1~2mmの小石・繊維	10YR	暗褐色	普通	RL・LR	横位	縄文		巾6mmの平行沈線で縦位の区画と幾何学文様。	
154	7	φ1~3mmの小石・繊維	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文	沈線	底部に巾8mmの平行沈線を1条題す。	
154	8	φ1~3mmの小石・繊維	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文			
154	9	φ1~3mmの小石・繊維	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文		0段多条の縄文。	

## 第1章 出土遺物の概要

## II地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
154	10	φ1-3mmの小石・織造	7.5YR	明褐色	不良	Lr	横位	横織			
154	11	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好				沈線	口縁部文様帯を太さ3mmの沈線で渦巻き・弧線を描く。底面は良く磨かれる。	
154	12	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通			横織			
155	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	黒褐色	良好				沈線	巾8mmの平行沈線を横位に引く。	
155	2	細かい砂粒・金雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好					円形の土製品。内面丁寧な磨き。	
156	1	細かい砂粒	7.5YR	明褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	巾5mmの平行沈線で横位の区画と連続「コ」字文を交互に施文。	3と同一
156	2	細かい砂粒・雲母	7.5YR	暗褐色	良好				沈線	太さ5mmの沈線と隆線に矢羽模様の刻みが付く。	
156	3	細かい砂粒・黄色軽石	7.5YR	明褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	巾5mmの平行沈線で横位の区画と連続「コ」字文を交互に施文。	1と同一
156	4	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	太さ2mmの沈線の文様。	
156	5	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線で縦位の区画。区画間は横位の沈線を交互に施文。	
156	6	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				沈線	太さ5mmの沈線で渦巻き文。	
156	7	細かい砂粒	10YR	暗褐色	良好				沈線	巾8mmの平行沈線で渦巻き文。	
156	8	細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良	Lr	縦位	擦糸	隆線	太さ7mmの隆線で方形の文様。内面黒色。外面スス付着。	
156	9	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦位	縄文			
156	10	細かい砂粒	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文			
156	11	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文			
156	12	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	明褐色	普通	Lr	縦位	擦糸			
156	13	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通	Lr	縦位	擦糸			
156	14	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好	Lr	縦位	擦糸			
156	15	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通						
157	1	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	良好				隆線	太い隆線の文様。隆線上に沈線が加えられる。内外面良く磨かれている。巾7mmの沈線と爪形文の文様。	
157	2	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形		
157	3	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	良好	LR	横位	縄文	沈線	巾7mmの平行沈線が2組対で縦位の区画。内面スス付着。	
158	1	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				沈線	巾4mmの平行沈線で楕円区画し、区画内を縦位に充填。	
158	2	細かい砂粒	7.5YR	黒色	良好				爪形	巾5-6mmの半截竹管で爪形文を渦巻き状に施文。	
158	3	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	不良	RL	縦位	爪形		太さ3mmの沈線と爪形文。	
158	4	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	巾6mmの平行沈線で楕円区画。連続「コ」字文。	
159	1	φ1-5mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通				隆線	口縁に太さ8mmの隆線が廻る。	
159	2	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好	RI	縦位	擦糸		内面黒色。	
161	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	不良				沈線	巾6mmの平行沈線を横位に施文。	
162	1	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	巾8mmの平行沈線。	
162	2	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	巾8mmの平行沈線と刻み目文。	
164	1	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	不良	RI	縦位	擦糸	隆・沈	太さ8mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ5mmの沈線が充填。	
164	2	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部は太さ8mmの沈線が廻る。	
164	3	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で渦巻き。	
164	4	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	太さ8mmの沈線と隆線で楕円区画。	
164	5	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文	沈線	口縁部に太さ3mmの沈線を2条横位に施文。沈線間はφ6mmの円形竹管の刺突が加えられる。	

## 第2節 II地区の出土遺物

II地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
164	6	φ1-3mmの小石	5YR	ぶい赤褐色	不良				隆線	太さ5mmの隆線が文様を区画し渦巻きを描く。	
164	7	φ1-3mmの小石 -雲母	7.5YR	暗褐色	普通				沈線	太さ4mmの沈線と太さ8mmの隆線が文様。	
164	8	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆線	太さ5mmの隆線の文様。	
164	9	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通				無文	内面黒色。	
164	10	φ1-3mmの小石 -黄色軽石	5YR	ぶい赤褐色	普通				無文	隆線	
165	1	φ1-3mmの小石 -雲母	5YR	明赤褐色	良好	LRL	縦位	縄文	隆線	口縁部文様帯を太さ8mmの沈線で楕円区画。区画内は太さ6mmの隆線で渦巻き。	
165	2	φ1-3mmの小石 -雲母	5YR	暗赤褐色	普通				隆線	太さ8mmの隆線で渦巻き。外面スス付着。	
165	3	φ1-3mmの小石 -雲母	5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
167	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	ぶい褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部は太い沈線と隆線で楕円区画。胴部は2条対で縦位の区画。太さ7mmの沈線が波状に垂下。	
169	1	細かい砂粒	7.5YR	黒色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が波状に垂下。	
169	2	細かい砂粒・雲母	5YR	暗赤褐色	良好	赤線	縦位	沈線	沈線	巾3mmの沈線が糸線状に引かれる。	
169	3	細かい砂粒	5YR	ぶい赤褐色	良好				無文	内面スス付着。	
170	1	細かい砂粒	5YR	赤褐色	不良				沈線	口縁部に巾5mmの手載竹管で平行沈線と爪形で文様を描く。内面スス付着。	
170	2	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	不良				隆・沈	口縁部文様は太い隆線で楕円区画。	3と同一
170	3	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	不良				隆・沈	口縁部文様は太い隆線で楕円区画。	2と同一
170	4	細かい砂粒	5YR	ぶい赤褐色	普通				沈線	太さ3mmの沈線が垂下し縦位の区画。	
170	5	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好	糸線	縦位	沈線	沈線	巾2mmの糸線が施文。太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。区画内は波状の沈線が垂下。	
170	6	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	不良	RL	横位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が横位の波状に施文。内面黒色。	
170	7	φ1-3mmの小石 多量	7.5YR	明褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線が横位に施文。内面黒色。	
170	8	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好	RL	斜位	縄文			
171	1	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線と太さ6mmの隆線が横位に施文。	
173	1	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	Lr	横位	赤糸	隆線	口縁部文様を太さ8mmの隆線で横位の区画。文様を描く。	
175	1	φ1-3mmの小石 多量	5YR	赤褐色	不良				爪形	太さ2mmの沈線と曲線を描き、沈線間に爪形文を充填。	
175	2	φ1-3mmの小石 多量	5YR	暗赤褐色	不良				無文	外面横位の磨き。	
176	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良	Rl	縦位	赤糸	無文	まばらに赤糸文を施文。	
176	2	φ1-3mmの小石 -雲母	5YR	黒褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	口縁部は太さ4mmの沈線で楕円区画。胴部に縦位の区画。	
176	3	細かい砂粒	7.5YR	ぶい褐色	良好	Rl	縦・横	縄文	爪状縄文	爪状縄文。	
177	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好				爪形	巾10mmの手載竹管で連続爪形文を施文。	
177	2	φ1-3mmの小石 -黄色軽石	7.5YR	褐色	良好	糸線		沈線	隆・沈	口縁部は太さ8mmの隆線が2条対で半円状の区画。太さ2mmの沈線が縦位に充填。隆線区画の下に太さ6mmの沈線が3条対で連弧文を描く。	3と同一
177	3	φ1-3mmの小石 -黄色軽石	7.5YR	褐色	良好	糸線		沈線	隆・沈	口縁部は太さ8mmの隆線が2条対で半円状の区画。太さ2mmの沈線が縦位に充填。隆線区画の下に太さ6mmの沈線が3条対で連弧文を描く。	2と同一

## 第1章 出土遺物の概要

日地区 土坑土器観察表

土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文原体	施文方向	地文分類	文様分類	文様の特徴	時期・備考
177	4	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	暗赤褐色	良好	条線	縦位	沈線	沈線	太さ3mmの沈線で平円状の区画。区画内は沈線が縦位に施文。	2と同一
177	5	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆・沈	太さ5mmの隆線が垂下し、沈線で弧線を描く。	
177	6	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	良好	条線	縦位	沈線	隆線	太さ5mmの隆線が波状に垂下。内面黒色。	
177	7	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通			沈線	沈線	太さ2mmの沈線が縦位にまばらに施文。	
178	1	細かい砂粒	5YR	赤褐色	不良			爪形		巾8mmの半截竹管で連続爪形文を施文。	
179	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	不良			爪形		太さ2mmの沈線で方形に文様を区画し、爪形文を充填。内面黒色。	
179	2	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	不良			爪形		太さ2mmの沈線で方形に文様を区画し、爪形文を充填。内面黒色。	
182	1	細かい砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縦線		0段多条。	
183	1	細かい砂粒・雲母	7.5YR	明褐色	普通	RL	縦位	縄文			
184	1	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	LL	横位	縄文			
186	1	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	不良	RL	斜位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で弧線を描く。内面黒色。	1と同一
186	2	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が縦位に施文。	
186	3	細かい砂粒多量	5YR	にぶい赤褐色	不良			無文			
187	1	砂粒多量・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	巾2mmの沈線の条線。	
188	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	黒褐色	普通			無文			
189	1	細かい砂粒・黄色軽石	7.5YR	明褐色	普通				隆・沈	太さ3mmの沈線と突起。	
191	1	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通				隆線	深鉢。	
191	2	細かい砂粒	5YR	赤褐色	普通	LR	縦位	縄文		内面黒色。	
191	3	細かい砂粒	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		内面黒色。	
192	1	φ1-3mmの小石・縦線	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縦線		ループの縄文。	
192	2	φ1-3mmの小石・縦線	7.5YR	褐色	不良	LR	横位	縦線			
193	1	φ1-3mmの小石・雲母多量	7.5YR	明褐色	良好			爪形		巾10mmの竹管内側で削みを付ける。	
193	2	細かい砂粒	2.5YR	暗赤褐色	良好			爪形		口縁部文様帯を太さ2mmの沈線で上下に区画。巾5mmの竹管外側で爪形文が施文。	
193	3	φ1-3mmの小石・金雲母多量	7.5YR	明褐色	良好			爪形		太さ3mmの沈線が3条対で波状に施文し、縦位に文様を区画。区画内は巾12mmの竹管外側で爪形文。	
193	4	φ1-3mmの砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通			爪形		太さ5mmの沈線で逆書き・斜線。	
193	5	φ1-3mmの小石・金雲母	7.5YR	明褐色	良好			爪形		太さ2mmの沈線が3条対で波状に施文。巾12mmの竹管外側で爪形文が施文。	
193	6	φ1-3mmの小石・金雲母	7.5YR	明褐色	良好			爪形		太さ2mmの沈線が3条対で文様を描く。太さ8mmの隆線が弧状に貼付。	
193	7	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通			無文			
193	8	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	深鉢の突起部を粘土柱で渦巻状に貼付。	
193	9	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	不良			無文		側面と底面にφ7mmの截打痕あり。	
193	10	細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良			無文		底面にφ7mmの截打痕あり。	
196	1	細かい砂粒・縦線	7.5YR	褐色	良好	RL	斜位	縦線		直筒段合燃り。	



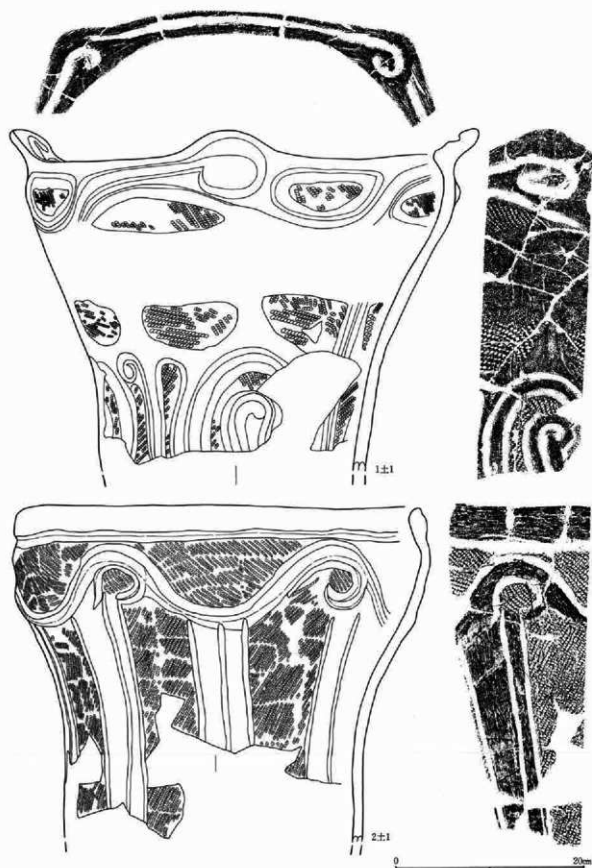
II地区 土 坑 土 器 観 査 書

土坑 番号	番 号	胎 土	色記号	色 調	焼成	地文 取付	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文 様 の 特 徴	時期・備考
196	2	細かい砂粒・雲母	5YR	赤褐色	良好				爪形		
196	3	φ1-3mmの小石 -雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	大き8mmの隆線が位状に垂下。内面黒色。	
198	1	細かい砂粒	5YR	暗褐色	良好				無文	内面黒色。	
202	1	細かい砂粒・黄色軽石粒	5YR	赤褐色	不良				爪形	大き8mmの隆線で楕円区画。	
202	2	φ1-2mmの小石	5YR	赤褐色	不良	RL	縦・横	縄文	隆線	大き8mmの隆線で文様区画。羽状縄文。	
204	1	φ1-3mmの小石 多量	5YR	暗赤褐色	普通	Lr	縦位	熟赤			
205	1	φ1-3mmの小石 -黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	大き4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
207	1	細かい砂粒	5YR	赤褐色	良好				無文	外面横位の磨き。	
207	2	細かい砂粒	2.5YR	赤褐色	良好				沈線	大き4mmの沈線で文様を描く。	
208	1	φ1-3mmの小石 多量	7.5YR	褐色	不良	RL	斜位	縄文			
208	2	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文			
210	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好				無文	φ8mm前後の縦痕が施文。	
211	1	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好				沈線	巾7mmの平行沈線で弧を描く。	
211	2	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	縄文			
212	1	細かい砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	不良				隆・沈	深線口縁の突起で大き4mmの沈線で渦巻き・弧線が引かれる。	
212	2	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好	Lr	縦位	縄文	沈線	口縁に大き5mmの沈線が2条で廻り、沈線間にφ4mmの突起。	
212	3	φ1-3mmの小石 -雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				隆・沈	大き8mmの隆線で楕円区画。区画内に刺突あり。	
212	4	細かい砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	熟赤	沈線	大き4mmの沈線で文様。	
212	5	細かい砂粒	7.5YR	黒褐色	良好				沈線	大き2mmの沈線で縞状文。	
212	6	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好				隆・沈	大き8mmの隆線で文様を区画。区画間に大き5mmの沈線が充満。	
212	7	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	大き6mmの隆線で縦位の区画。隆線に沿って沈線が垂下。	
212	8	細かい砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	大き8mmの隆線で楕円形に文様を区画。区画内は縄文が充満。	
212	9	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	不良				沈線	大き4mmの沈線で文様を施文。内面スス付着。	
212	10	細かい砂粒多量	7.5YR	褐色	普通				沈線	大き5-8mmの沈線で縦位の区画をし、横位に区画後縦の沈線が充満。	
212	11	細かい砂粒多量	7.5YR	褐色	普通				沈線	大き5mmの沈線で縦位の区画。区画間を大き4mmの沈線が縦位に充満。	
212	12	φ1-3mmの小石 -雲母	5YR	暗赤褐色	良好				沈線	大き3mmの沈線が乱雑に施文。	
212	13	φ1-3mmの小石 -黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	良好				無文	外面横位の磨き。	
212	14	細かい砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好				無文	胴部にφ4mmの孔が開く。有孔浅鉢、口縁部に大き8mmの沈線が縦位に廻る。	
212	15	細かい砂粒・雲母	7.5YR	褐色	普通				沈線	羽状縄文で変形をつくる。内面黒色。	
212	16	φ1-3mmの小石 -横線	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL・LR	横位	横線		上げ底になる。	
212	17	φ1-3mmの小石 -横線	5YR	明赤褐色	普通	Lr	横位	横線			
213	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆線	大き7-14mmの隆線で楕円区画・渦巻き。区画内に大き7mmの沈線で「∩」状を描く。	
213	1	φ1-3mmの小石 -横線	2.5YR	赤褐色	良好	RL	横位	横線		巾8mmの平行沈線で施文。口唇に3個の小さい突起が付く。	

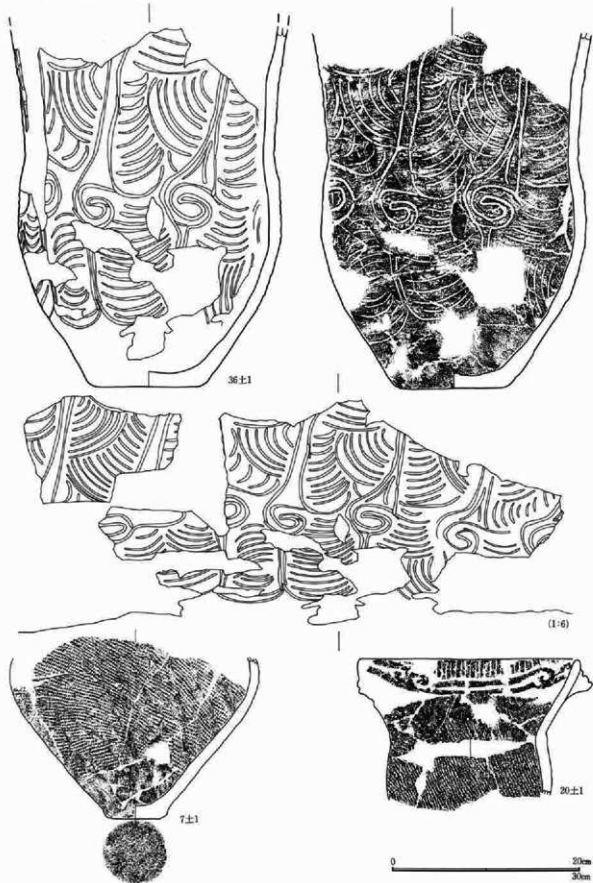
第1章 出土遺物の概要

II地区 土坑土器観覧表

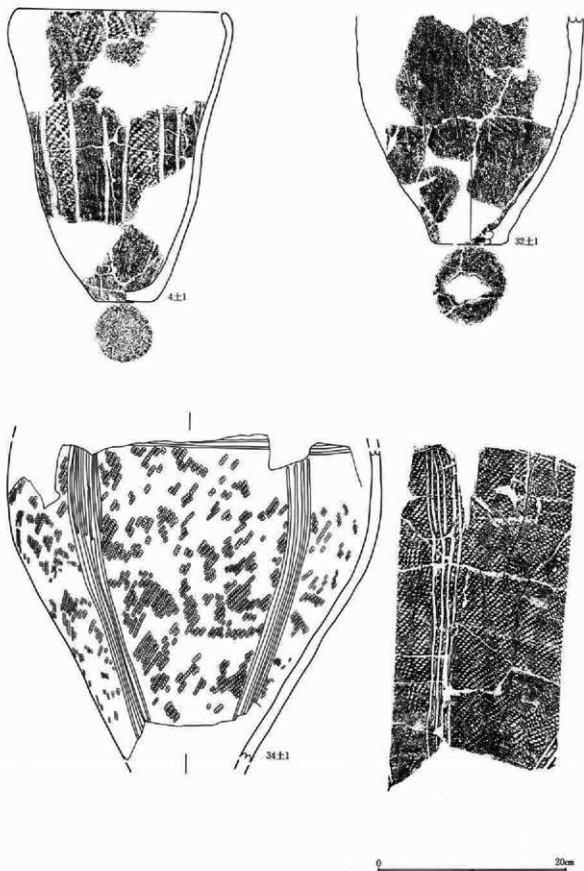
土坑番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文原体	地文方向	地文分類	文様分類	文様の特徴	時期・備考
215	2	φ1-3mmの小石・横線	2.5YR	明赤褐色	良好	RL	横位	横線		RLのループ文。口唇に小さい突起が2個付く。	
215	3	細かい砂粒・雲母	2.5YR	赤褐色	普通	RL	横位	竹管		巾4mmの平行沈線と横位の地文。	
215	4	細かい砂粒・横線	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	斜位	横線		巾5mmの平行沈線と縄文が乱雑に施文。	
216	1	細かい砂粒・雲母	2.5YR	明赤褐色	不良				爪形	表面に指張圧痕が付く。	
216	2	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい橙色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線と縦位の区画。	
217	1	細かい砂粒	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文			
218	1	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	不良				沈線	太さ6mmの沈線と文様。	
218	2	細かい砂粒	7.5YR	橙色	良好	条線	縦位	沈線	沈線	巾2mmの平行沈線の条線。	
219	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	2.5YR	赤褐色	普通	LR	縦位	縄文			
219	2	細かい砂粒・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
225	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	Lr	斜位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線と文様。	
229	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	段線	太さ8mmの段線で壺子目状や波状・渦巻きの文様。	



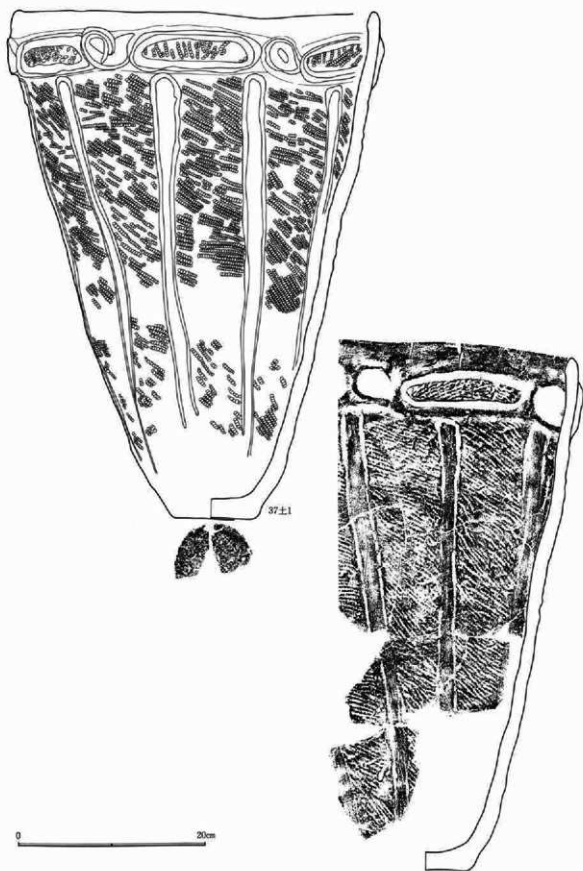
第248図 1・2号土坑出土遺物



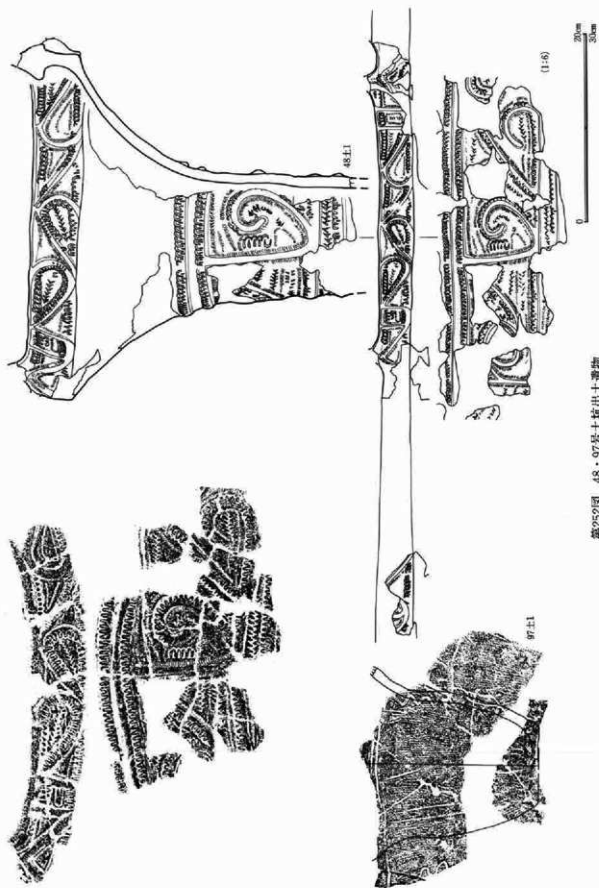
第249図 7・20・36号土坑出土遺物



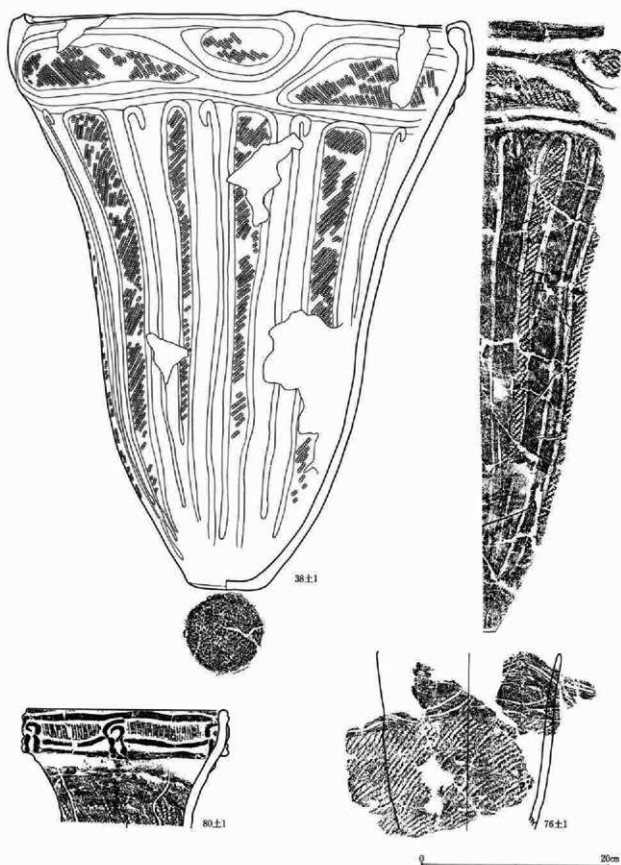
第250図 4・32・34号土坑出土遺物



第251図 37号土坑出土遺物

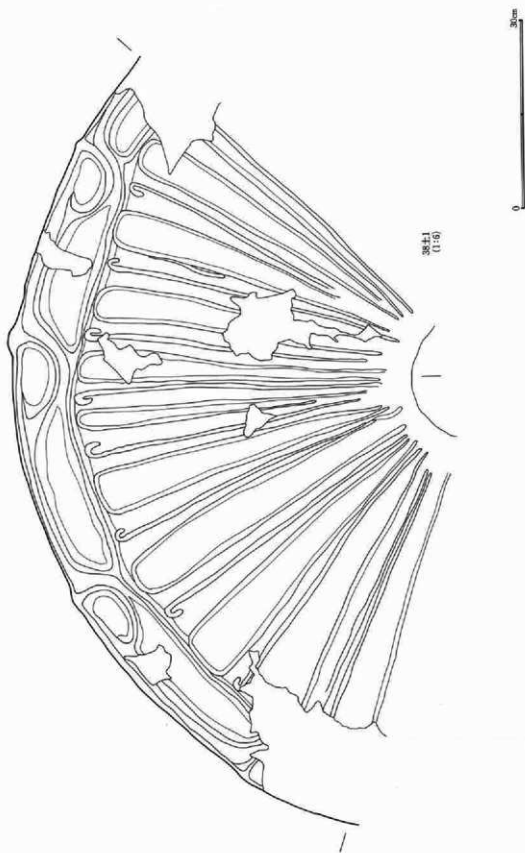


第252図 48・97号土坑出土遺物

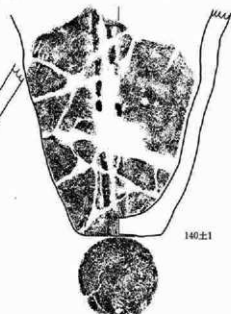
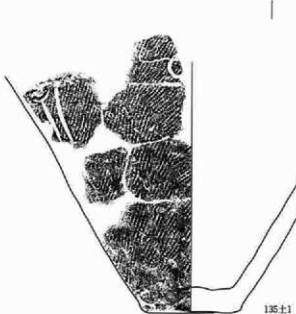
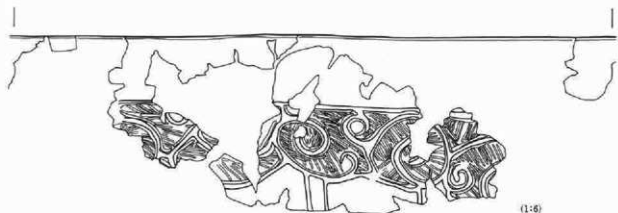
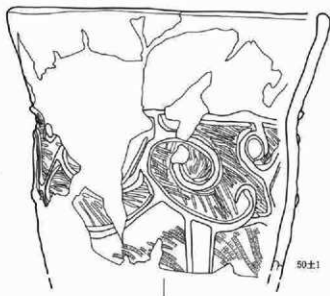


第253図 38・76・80号土坑出土遺物

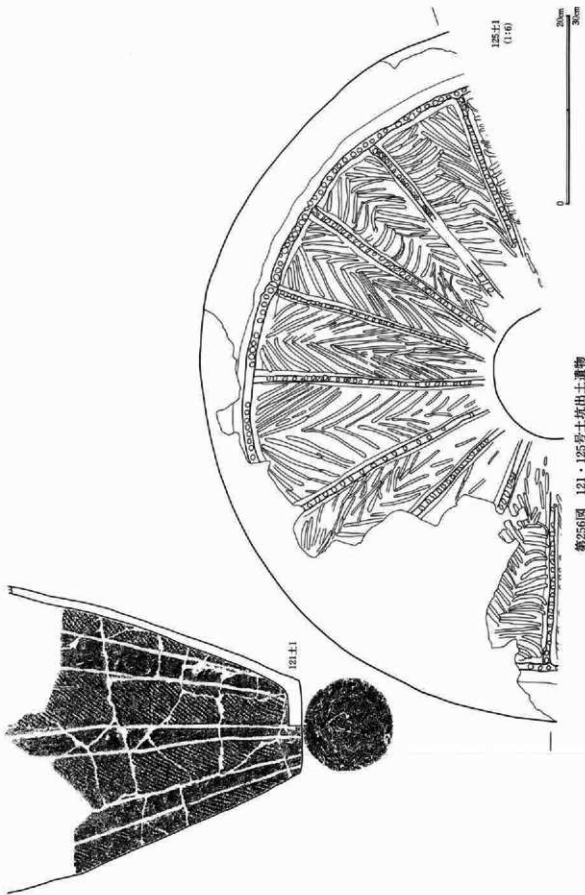




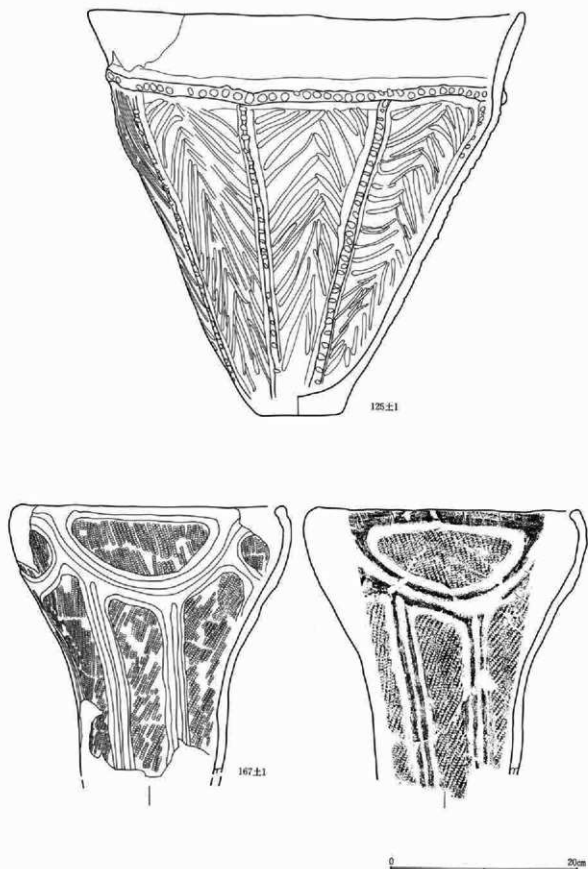
第254図 38号土坑出土遺物



第255図 50・135・140・170号土坑出土遺物



第256図 121・125号土坑出土遺物

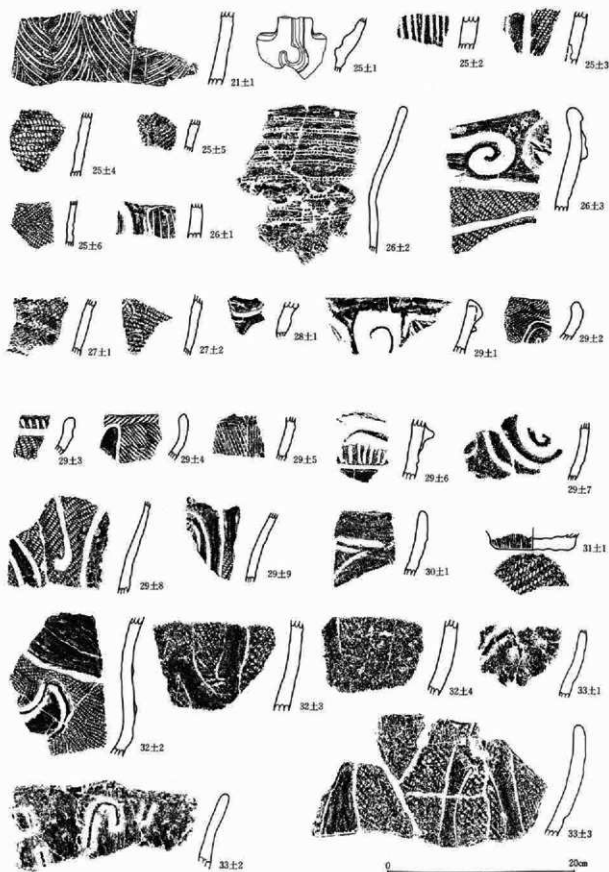


第257図 125・167号土坑出土遺物

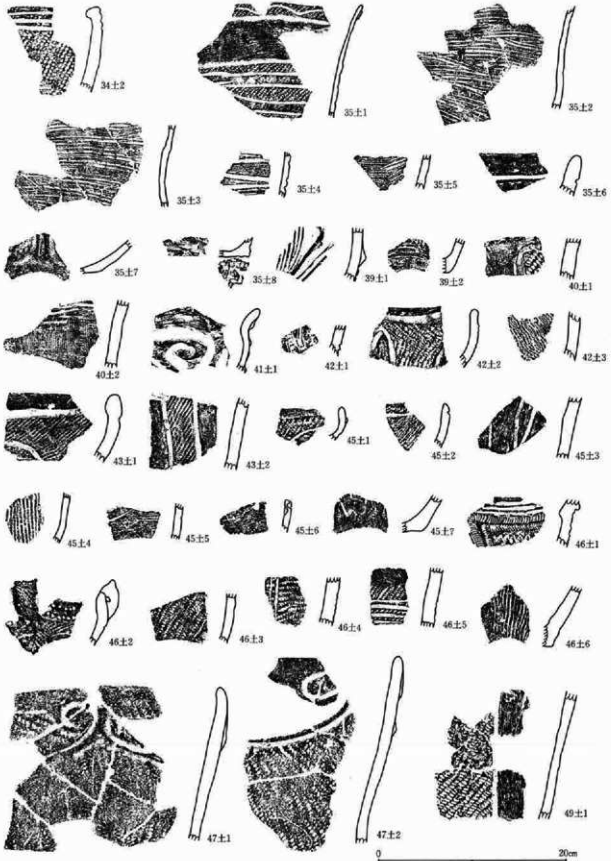


第258図 1・4・6・8・11・13~18号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要

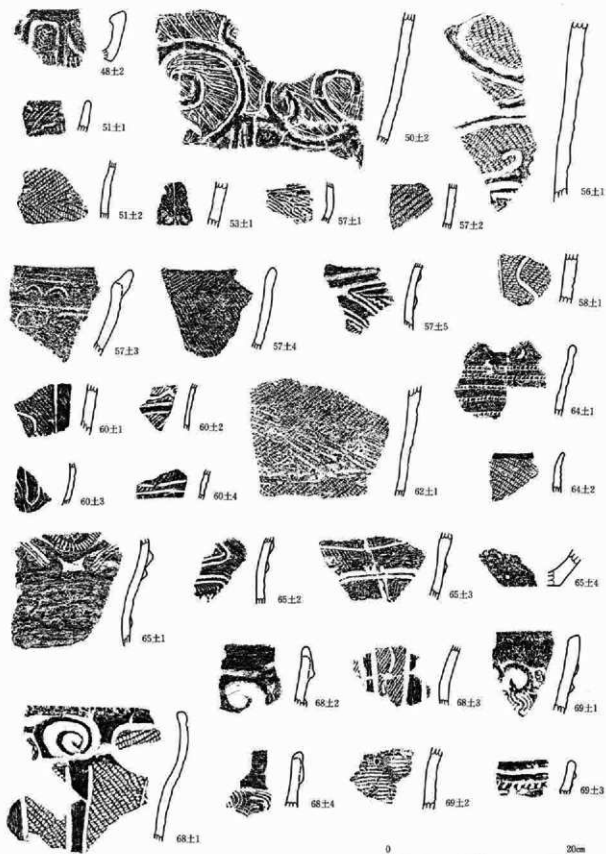


第259図 21・25～33号土坑出土遺物



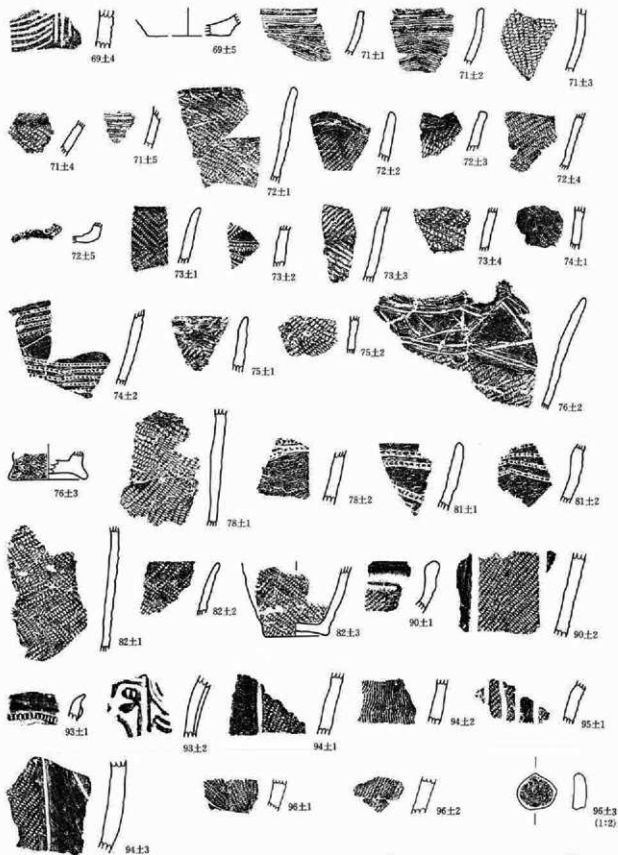
第260図 34・35・39-47・49号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



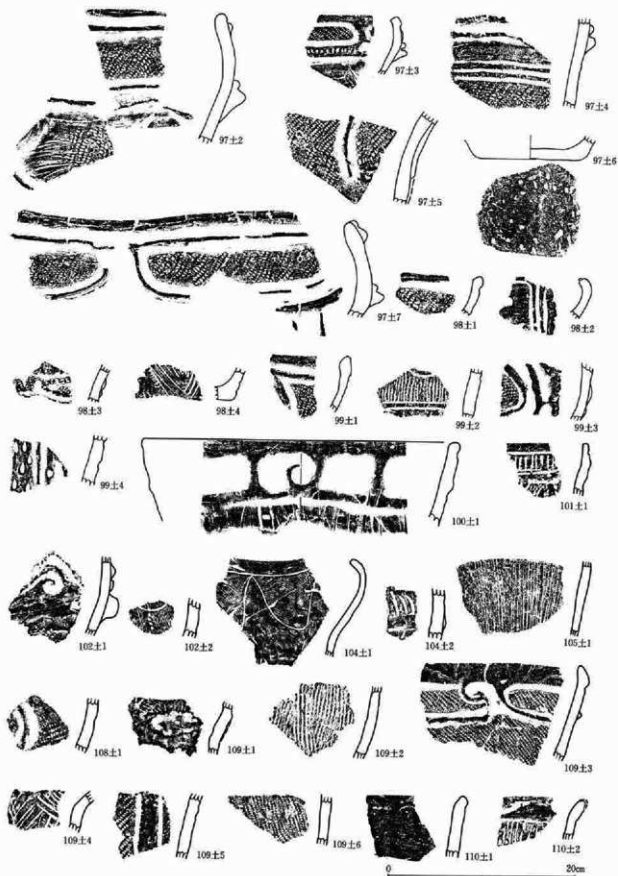
第261図 48・50・51・53・56~58・60・62・64・65・68・69号土坑出土遺物



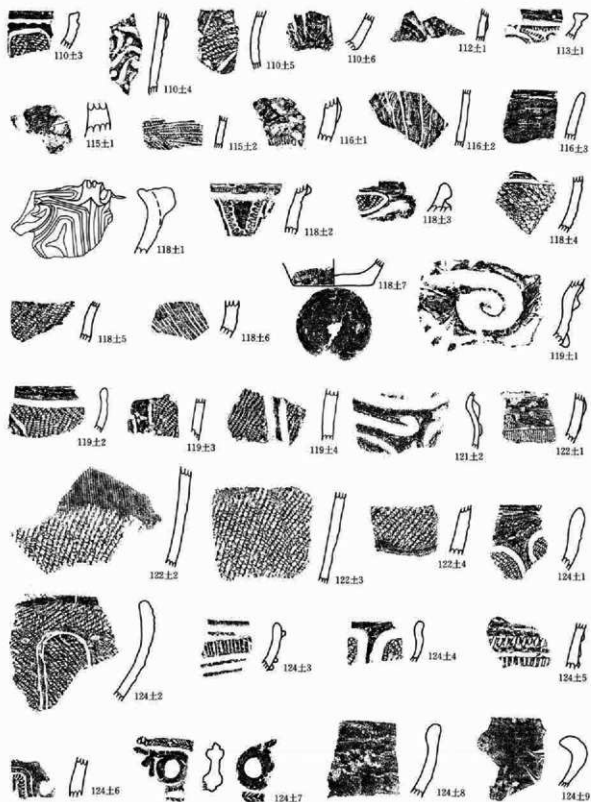


第262図 69・71~76・78・81・82・90・93~96号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要

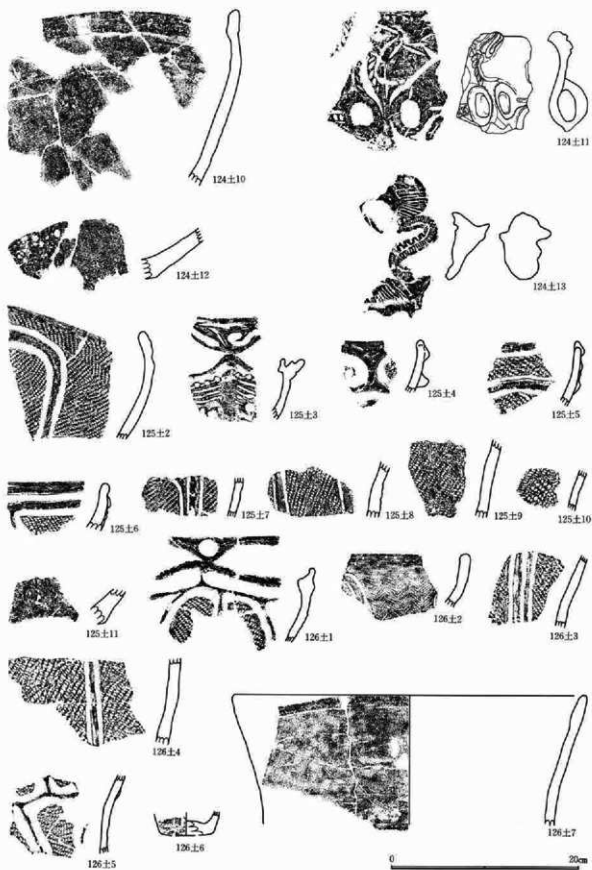


第263図 97~102・104・105・108~110号土坑出土遺物



0 20mm

第264図 110・112・113・115・116・118・119・121・122・124号土坑出土遺物

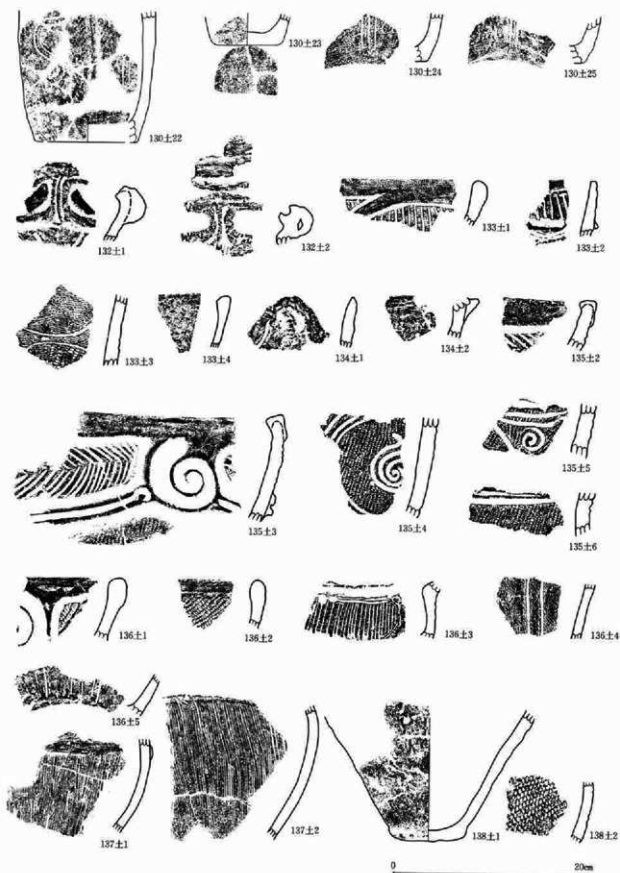


第265図 124～126号土坑出土遺物

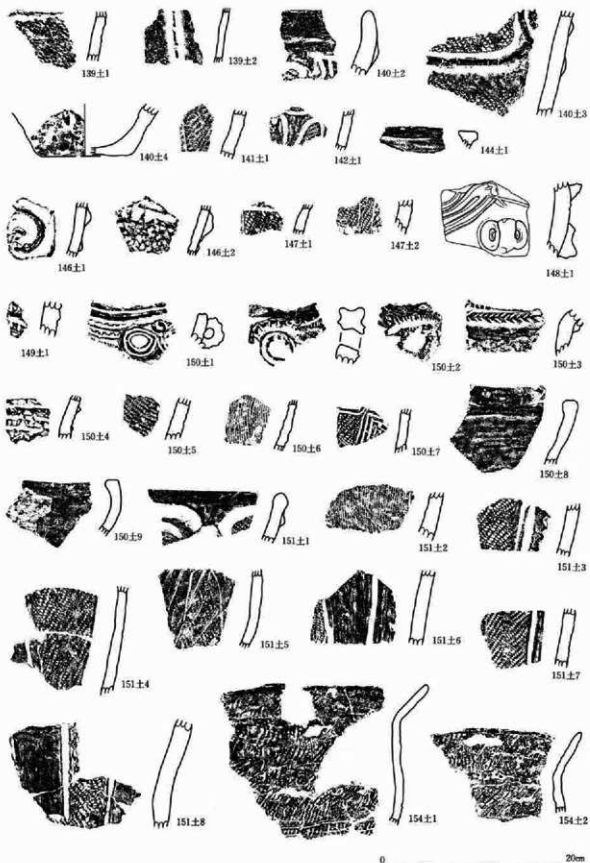


第266図 127~130号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要

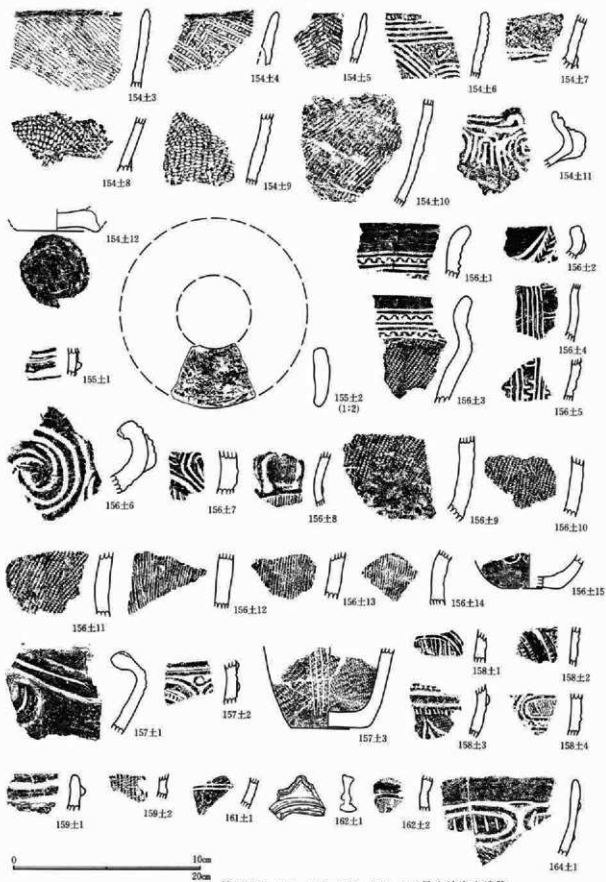


第267図 130・132～138号土坑出土遺物



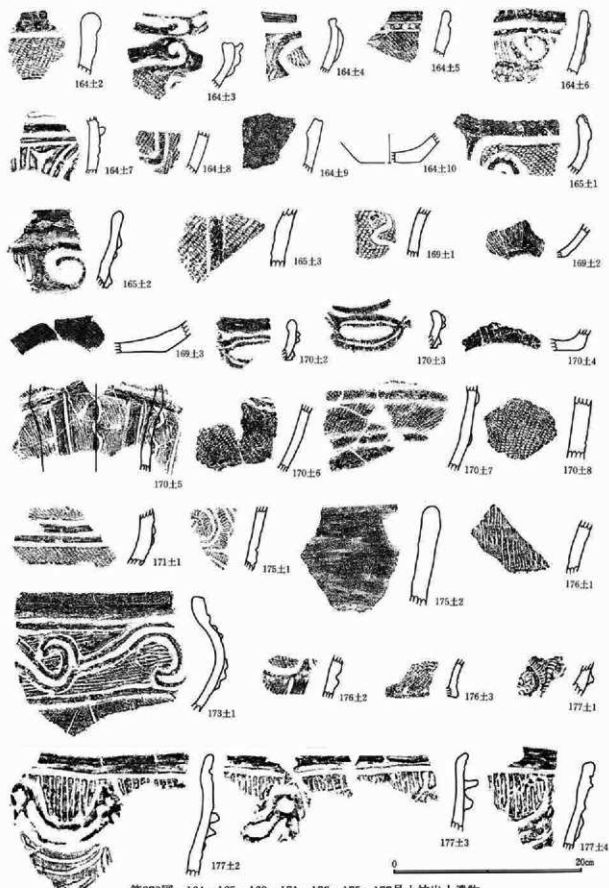
第268図 139-142・144・146-151・154号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



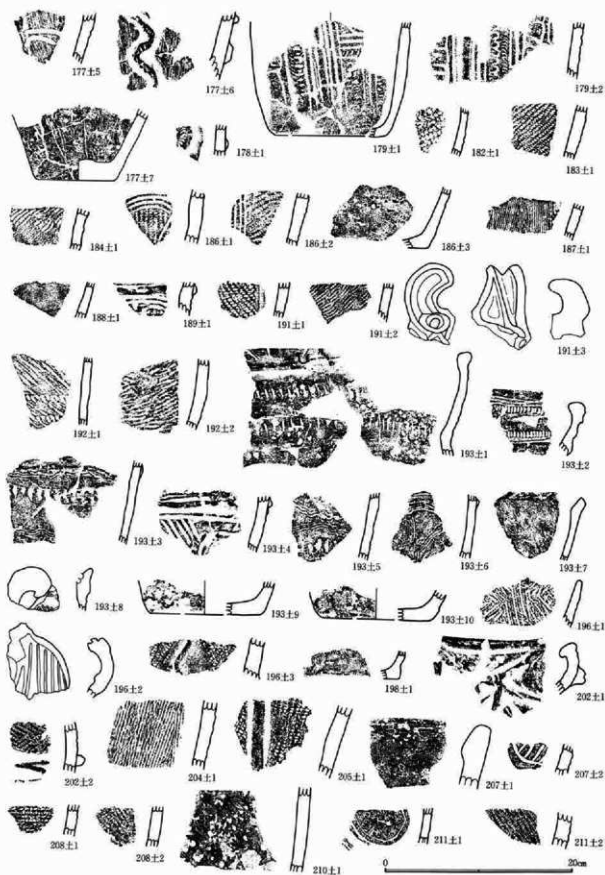
第269図 154～159・161・162・164号土坑出土遺物



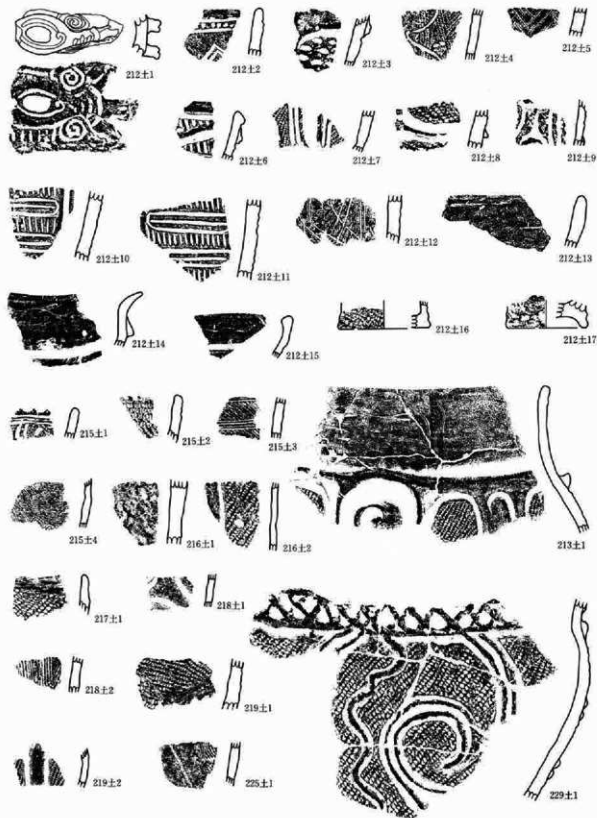


第270图 164・165・169-171・173・175-177号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



第271図 177~179・182~184・186~189・191~193・196・198・202・204・205・207・208・210・211号土坑出土遺物



第272図 212・213・215～219・225・229号土坑出土遺物

II地区 土坑石器観察表

土坑番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	1	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.7	5	1.2	60	
3	1	打製石斧	短舟形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.6	4.2	1.3	40	
6	1	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面をもち稜をつくる。	13.9	7.5	5.8	890	
8	1	打製石斧	短舟形	硬質泥岩	両面調整。	9.2	5.8	2.7	150	刃部欠損
9	1	磨製石斧	定角式	実玄武岩	両側面を研磨し稜をつくる。	6	3.9	1.8	60	
9	2	台石	隅丸方形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で磨面。	15.8	24.1	14.2	7200	
10	1	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	10	4.5	1.2	60	
10	2	石皿・多孔石	一	一	石皿作業面は凹面。側面に円錐形の凹み。	12.2	8.1	6.7	690	
14	1	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	13.8	8	5.5	950	
18	1	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	8.4	4.6	1.7	60	
19	1	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表面に円錐形の凹み。	35	30.5		18200	
25	1	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.9	4.1	2.5	120	
25	2	打製石斧	楕形	黒色頁岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	6.7	4.1	2	50	
26	1	打製石斧	短舟形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.3	4.5	1.5	30	両端欠損
28	1	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	側面に片面調整の刃部。	7.6	5.8	1.9	70	
29	1	磨石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面をもち稜をもつ。	12.6	7.4	4	650	
31	1	スクレイパー	楕長	粗粒輝石安山岩	片面調整。	4.4	4	0.8	20	
35	1	石皿	長方形	緑色片岩	石皿作業面は凹面。	28.4	12.8	3.8	2200	欠損
37	1	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面と凹み。磨一凹。	12.9	5.6	4.3	460	
41	1	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	7.9	7.1	4.7	320	
45	1	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	表面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	17	8.9	3.3	560	
45	2	打製石斧	短舟形	珪質頁岩	表面調整。	11.3	4.1	1.7	90	刃部欠損
46	1	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹みと磨面。凹一磨。	14	6.7	5.2	740	
46	2	磨・四石	円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏面に磨面。凹一磨。	9.8	8.6	5.9	690	
46	3	凹・最石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。側面に敲打痕。	9.4	8.3	4.9	470	
52	1	磨・凹・最石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。側面に敲打痕。凹一磨。	16.6	10	5	1360	
52	2	磨石	隅丸方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	10.2	9.4	5.8	800	
53	1	磨・四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	7.2	5.9	4.4	370	
54	1	磨・四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹みと磨面。側面に凹み。磨一凹。	7.3	6.5	4.7	230	
55	1	打製石斧	短舟形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	5.8	5.5	2.1	70	
55	2	硬玉製大珠	隅丸長方形	翡翠	φ10mmの孔が貫通。	7	3.3	2.4	110	
59	1	凹石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	8.9	6.8	4.8	370	
60	1	磨石	扁平な乳楕形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	9.7	3.7	2.4	130	
62	1	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	側面に片面からの押圧刻痕。	4.5	8.8	1.2	50	
65	1	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に扁平な磨面。	6.6	5.5	3.9	190	
65	2	磨・四石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	7.6	7.8	5.6	330	
65	3	打製石斧	短舟形	粗粒輝石安山岩	両面調整。	10.8	5.1	1.7	130	刃部欠損
68	1	磨・四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹み。表裏に磨面。凹一磨。	11.7	6.6	5	660	

## 第2節 II地区の出土遺物

II地区 土坑石器観察表

土坑番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
70	1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	12.4	14	7.2	1600	
72	1	磨製石斧	丸棒形	安山玄武岩	全面研磨。横断面レンズ状。	13.3	5.9	3.2	430	刃部欠損
72	2	磨石	扁平長楕円形	石英閃緑岩	表面に磨面。	6	6	1.9	110	
73	1	磨・四石	三角柱形	角閃石安山岩	三面に凹みと磨面。凹→磨。	13.5	6.6	5.2	430	
75	1	磨・四石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨→凹。	12.1	10.8	5.3	740	
75	2	磨・四石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨→凹。	9.3	9.5	5.2	600	
75	3	スクレイパー	狭長	珪質頁岩	一個辺に片面から押圧刻痕。	4.6	7.4	1.4	40	
76	1	スクレイパー	縦長	珪質頁岩	側面に片面調整の刃部。	6.8	3	1.3	20	
90	1	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	14.6	8.5	5.8	1070	
90	2	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	21.2	13.8	7	2600	
90	3	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	10.2	7.2	4	360	欠損
93	1	打製石斧	短棒形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.9	6.5	1.1	50	刃部欠損
94	1	打製石斧	楕形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.1	4.7	1.2	60	
94	2	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	一個辺に使用によるほこぼれ。	4.3	6.1	0.9	20	
109	1	磨・四石	長楕円形	緑色片岩	表裏に凹み。凹→磨。	14	5.4	3.5	430	
118	1	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	9.3	6.3	3.5	270	
124	1	四石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。	10.5	8.6	5.4	730	
124	2	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	一個辺に使用によるほこぼれ。	4.9	8.9	1.7	50	
124	3	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.1	4.8	2.2	100	
124	4	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8	3.7	1.8	40	基部欠損
125	1	磨・四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	片面に凹み。表裏に磨面。磨→凹。	9.1	7.7	4.5	380	欠損
125	2	石鏃	—	チャート	側面に押圧刻痕。横断面レンズ状。	2.5	1.7	0.4	1.4	基部欠損
126	1	磨・四石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面と凹み。凹→磨。	14.7	14	7.4	1600	
126	2	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。石皿縁辺と裏面に円錐形の凹み。	19	14	13.4	1900	欠損
126	3	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。石皿縁辺と裏面に円錐形の凹み。	11.2	12	6	800	欠損
127	1	四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・両側面に凹み。	10.5	6.6	5	440	
127	2	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	片面に押圧刻痕による刃部。	6.5	4.7	1.2	40	
130	1	磨・四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹み。表裏に磨面。磨→凹。	11.5	6.4	4.2	370	
130	2	砥石	楕円形	牛伏砂岩	砥石作業面は扁平。側面に溝状の砥面。	4.9	4.8	1.2	30	欠損
130	3	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	12.5	9.6	5.2	960	
130	4	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	17.8	16.7	5.6	2000	
130	5	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.7	4.6	0.9	50	
130	6	砥石	扁平な楕形	雲母石英片岩	両側面に磨打痕。	13.9	3.8	2.2	160	
133	1	磨・四石	隅丸長方形	かこう岩	表・両側面に凹み。四面に磨面。凹→磨。	7.9	6.1	4.7	340	欠損
134	1	磨・四石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏に磨面。磨→凹。	11.2	7.6	4.8	480	
135	1	不明石製品	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に扁平な磨面。	9.9	12.7	4.4	340	
136	1	打製石斧	短棒形	ホルンフェルス	両面調整。横断面レンズ状。	5.6	4.8	1.5	30	基部欠損
137	1	打製石斧	楕形	珪質頁岩	両面調整。側面に抉り。横断面レンズ状。	5.2	3.9	1.6	40	刃部欠損
137	2	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は浅い凹面。	18.2	19	8.4	4700	欠損

## 第1章 出土遺物の概要

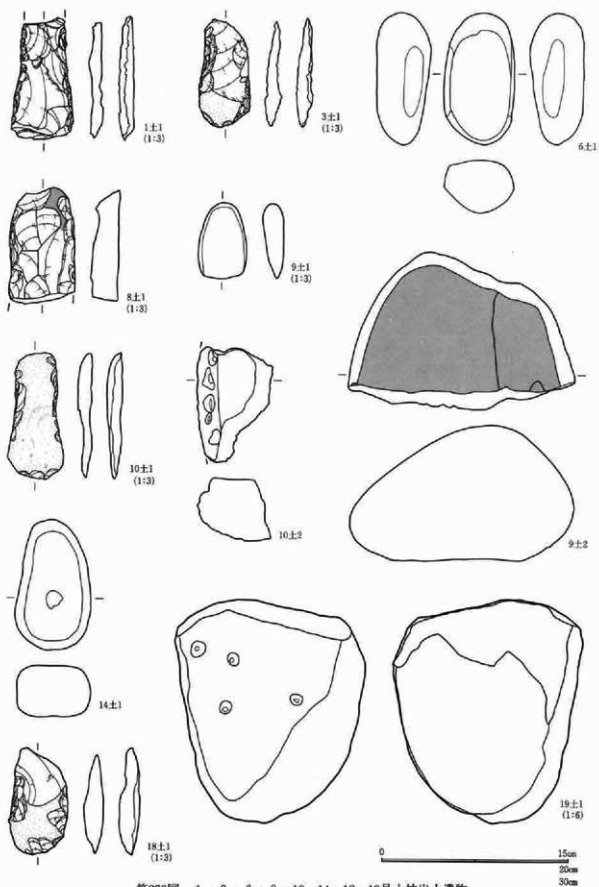
## II地区 土坑石器観察表

土坑 番号	遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
144	1	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。	9	4.3	2	90	基部欠損
146	1	石皿・多孔石	隅丸長方形	緑色片岩	石皿作業面は凹面。裏面は円錐形の凹み。	53.8	23	7.3	10300	欠損
146	2	四石	不定形	椛紋輝石安山岩	表面に凹み。	14	8.2	5.2	700	
146	3	四石	不定形	緑色片岩	表面に凹み。	17.4	9	5.3	1500	
151	1	多孔石	不定形	椛紋輝石安山岩	円錐形の凹み。	9.6	11.6	8	900	
151	2	磨石	長楕円形	椛紋輝石安山岩	表裏に磨面。	11.8	8.4	3.8	570	
151	3	磨石	長楕円形	椛紋輝石安山岩	表裏に磨面。	6.7	8.3	4	330	欠損
151	4	多孔石	不定形	椛紋輝石安山岩	表-側面に円錐形の凹み。	7.7	9.2	6.2	360	
151	5	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.7	4.3	1.4	40	両端欠損
154	1	磨・四石	隅丸長方形	椛紋輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏-両側面に磨面で接をつくる。磨→凹。	10.4	9.3	5.3	570	欠損
154	2	石匙	楕長	珪質頁岩	片面調整。刃部に押圧割離。	5.9	4.9	1	20	
154	3	台石	長楕円形	雲母石英片岩	作業面は平坦。	19.2	8.8	2.4	800	
156	1	台石	隅丸長方形	椛紋輝石安山岩	作業面は平坦な磨面。裏面は敲打痕。	21	21		9800	
156	2	石棒	一	緑色片岩	有頭で頭部に強いくびれ。断面楕円形。	5.7	5.5	4.5	190	欠損
157	1	台石	不定形	椛紋輝石安山岩	作業面は平坦な磨面と敲打痕。	22.6	12.6	7.7	3400	欠損
158	1	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	一側面に両面調整の刃部。	4.8	8.7	1.5	60	
158	2	磨石	長楕円形	椛紋輝石安山岩	表面に磨面。	8.7	6.6	5.3	420	欠損
164	1	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.6	4.5	1.5	50	刃部欠損
164	2	石皿	隅丸長方形	椛紋輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	31	33.2		8700	
166	1	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	4.6	1.3	70	刃部欠損
166	2	磨・四石	楕円形	椛紋輝石安山岩	表裏-両側面に凹み。表裏に磨面。磨→凹。	10.1	7.3	5.1	500	
169	1	磨・四石	長楕円形	椛紋輝石安山岩	表面に凹み。表裏に磨面。磨→凹。	13.1	8	5.1	720	
169	2	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.9	1.9	60	刃部欠損
169	3	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.4	4	1.5	40	両端欠損
173	1	打製石斧	短冊形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4	5	1.1	30	基部欠損
174	1	磨石	隅丸長方形	椛紋輝石安山岩	表面に磨面。	7.7	5.6	2.6	190	
174	2	磨・四石	長楕円形	椛紋輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹→磨。	12.4	8	4.6	780	
176	1	磨製石斧	定角式	安玄武岩	両側面・頭部研磨し縁をもつ。横断面隅丸長方形。	6	3.2	1.2	40	
178	1	磨石	楕円形	椛紋輝石安山岩	表裏に磨面。	7	9.2	4.9	380	欠損
179	1	磨石	楕形	椛紋輝石安山岩	表面に磨面。	7.5	4.8	2.8	170	欠損
180	1	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面カマゴコ状。	9.3	4.6	2.6	120	
185	1	磨石	楕形	椛紋輝石安山岩	表面に磨面。	7.9	5.2	3.5	180	
186	1	打製石斧	短冊形	椛紋輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	4.7	1.9	90	
193	1	磨・四石	長楕円形	椛紋輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	10.6	8.9	4.5	590	欠損
193	2	磨石	長楕円形	椛紋輝石安山岩	表裏-側面に磨面で接をもつ。	10.5	8.1	4.5	660	欠損
193	3	石皿・多孔石	一	椛紋輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。石皿破損後に転用。	20	20.8	6.8	3500	欠損
194	1	石匙	楕長	黒色頁岩	両面調整。	5.7	7.2	1	40	
196	1	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	片面調整。	7.5	8.6	1.5	80	

II地区 土坑石器観察表

土坑 番号	遺物 番号	種類	形状	石 材	特 徴	縦	横	厚さ	重量	その他
207	1	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	9.7	12.8	5.9	880	
212	1	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。	9.6	6.9	5.2	420	欠損
212	2	打製石斧	短冊形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	4.6	1.3	60	
212	3	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.9	4.6	1.8	70	刃部欠損
212	4	打製石斧	楕円形	硬質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	4.8	1.6	50	刃部欠損
212	5	打製石斧	短冊形	ホルンフェルス	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	3.4	1.2	30	刃部欠損
212	6	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	10.7	5.7	4.2	390	

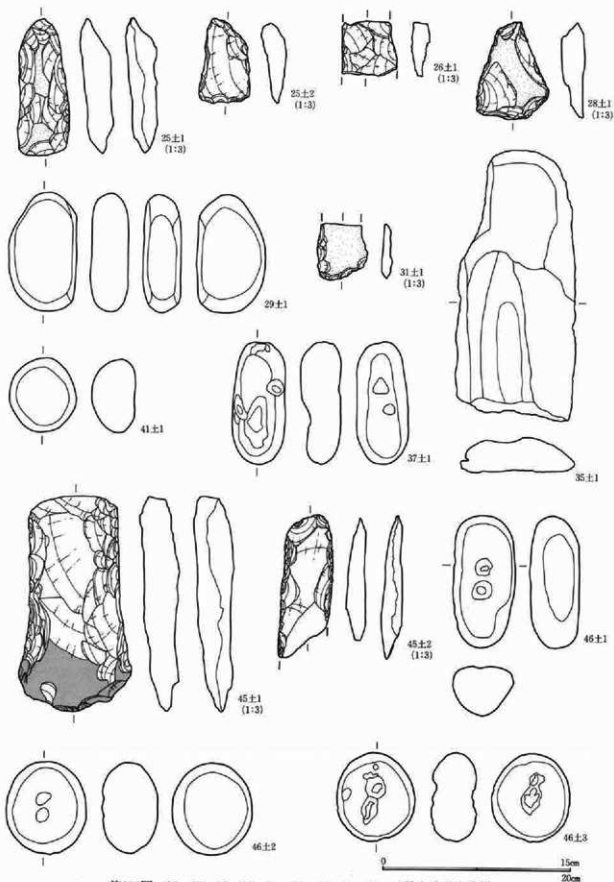
第1章 出土遺物の概要



第273図 1・3・6・8・10・14・18・19号土坑出土遺物

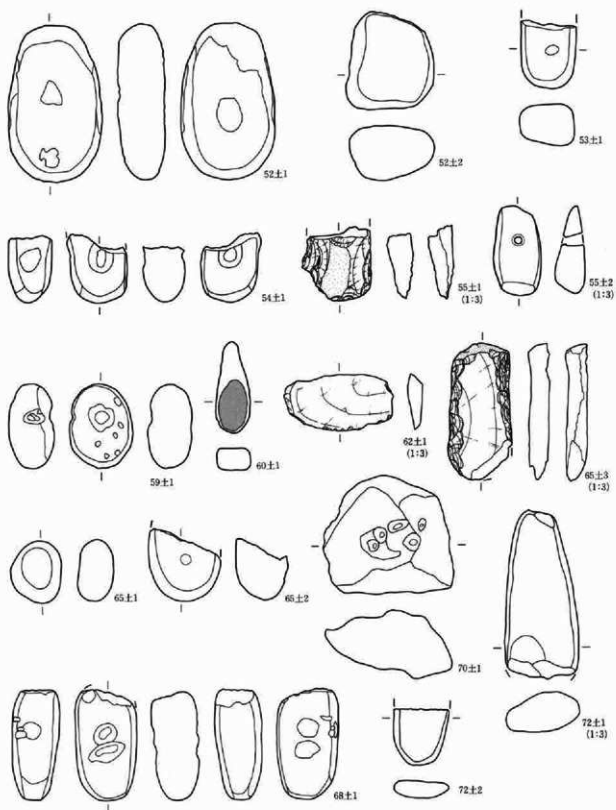


第2節 II地区の出土遺物



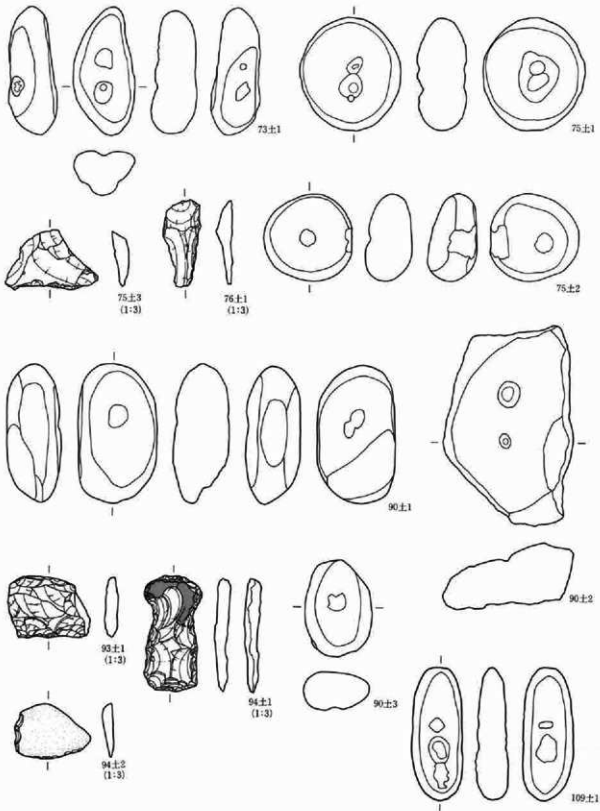
第274図 25・26・28・29・31・35・37・41・45・46号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



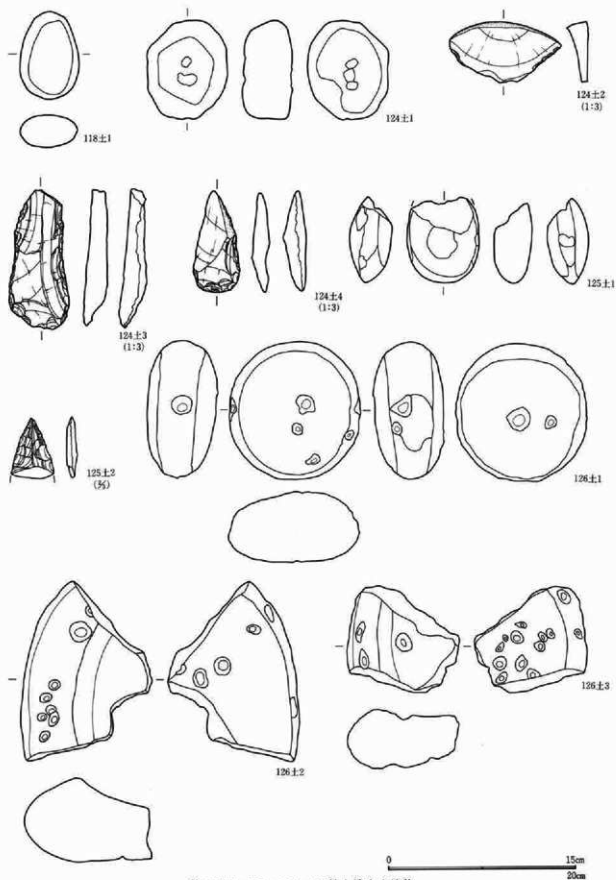
0 15cm 20cm

第275図 52~55・59・60・62・65・68・70・72号土坑出土遺物

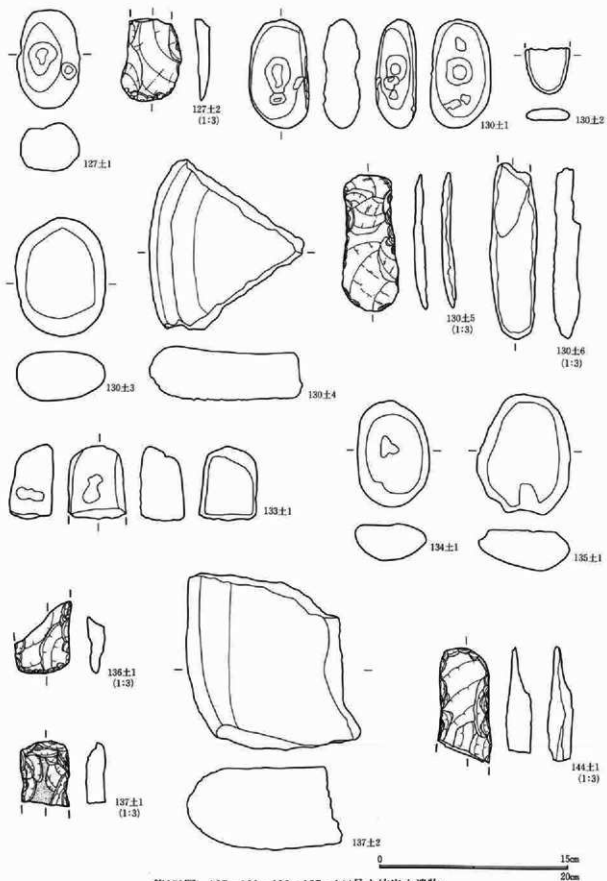


第276図 73・75・76・90・93・94・109号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要

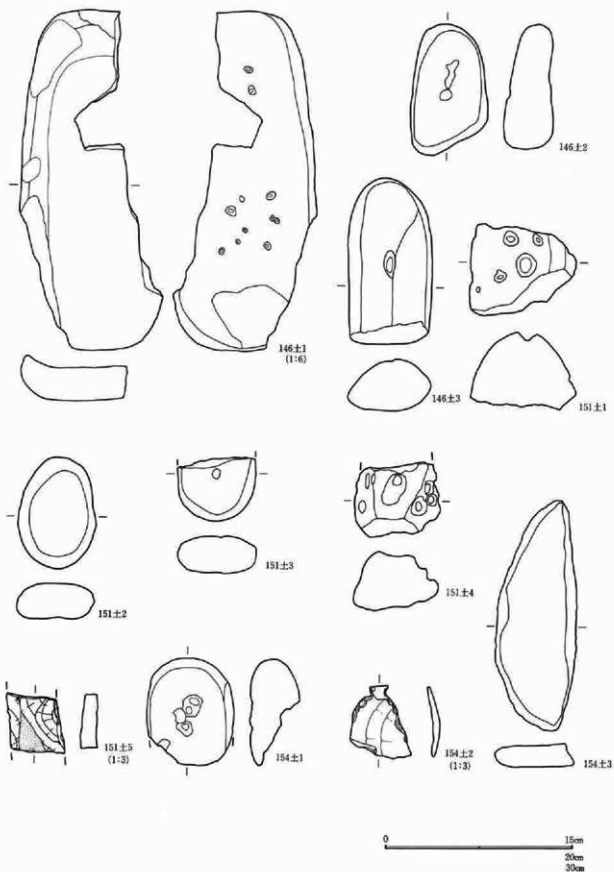


第277図 118・124～126号土坑出土遺物

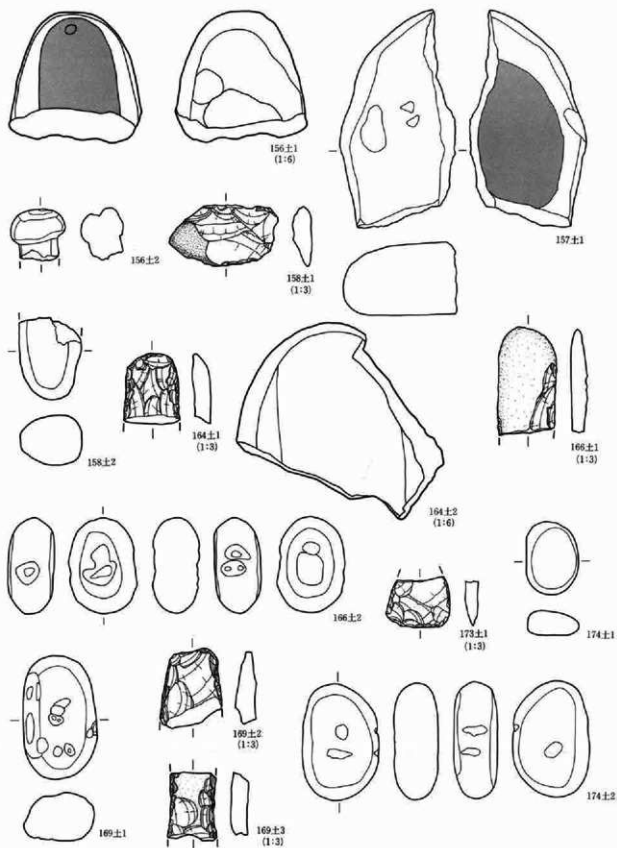


第278図 127・130・133～137・144号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



第279図 146・151・154号土坑出土遺物



第280図 156~158・164・166・169・173・174号土坑出土遺物

0 15cm  
20cm  
30cm

第1章 出土遺物の概要



0 15cm  
20cm

第281図 176・178-180・185・186・193・194・196・207・212号土坑出土遺物



第3節 遺構外の出土遺物



第1章 出土物の概要

遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
1	φ1-5mmの小石・ 織維	10YR	にぶい黄褐色	良好				縦維	巾10mmの平行沈線を山形に5段施文。	縦維	15. G-11
2	φ1-3mmの小石・ 織維	10YR	黄褐色	普通	RI	斜位	縦維		RIの縄文を浅く乱雑に施文。	縦維	13. Q-9
3	φ1-3mmの小石・ 織維	10YR	灰黄褐色	良好	RL	横位	縦維		口縁に巾5mmの平行沈線と押し引きの爪形文を施文。胴部は巾8mmの爪形文と巾5mmの平行沈線を山形に施文。口唇に小突起を持つ。	縦維	13. Q-7
4	細かい砂粒・織維	10YR	にぶい黄褐色	普通	LRI	横位	縦維		直前段合熟り。	縦維	---
5	φ1-3mmの小石・ 織維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL・ LR	横位	縦維		羽状縄文で変形。内面黒色。	縦維	14. G-9
6	φ1-3mmの小石・ 織維	7.5YR	褐色	良好				縦維	磨面状の工具を縦位に、巾5mmの平行沈線と交互に施文し変形をつくる。	縦維	14. A-7・ 13. Q-7
7	細かい砂粒・織維	7.5YR	にぶい褐色	不良				縦維	磨面状工具による刺突。	縦維	13. G-8
8	φ1-5mmの小石多 量・織維	10YR	にぶい黄褐色	普通				縦維	巾8mmの半截竹管の爪形文で三角形の文様。	縦維	15. H-11
9	細かい砂粒・織維	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縦維		口縁に巾8mmの平行沈線が2条入り、磨面状に施文。	縦維	13. Q-8-9
10	φ1-3mmの小石・ 織維	7.5YR	褐色	良好	RL・ LRL	横位	縦維		RLと直前段合熟りLRL・LRの羽状縄文。波頂部内側に棒状の粘土紐が貼付。	縦維	13. Q-8
11	φ1-3mmの小石・ 織維	7.5YR	浅黄褐色	良好				縦維	巾8mmの平行沈線が施文。	縦維	15. G-11
12	細かい砂粒・織維	10YR	にぶい黄褐色	良好	R-L	横位	縦維		R・Lの異条斜縄文。R・L2段正反の合による羽状縄文。	縦維	13. R-9
13	細かい砂粒・織維	10YR	にぶい黄褐色	良好	R-L	横位	縦維		R・Lの異条斜縄文。R・L2段直前段反熟りの羽状縄文。	縦維	13. Q-9
14	細かい砂粒・織維	10YR	にぶい黄褐色	良好				縦維	口縁に巾6mmの平行沈線を縦位に施文しその下部に平行沈線で変形をつくる。	縦維	15. G-7
15	φ1-3mmの小石・ 織維	7.5YR	褐色	良好	RL	横位	縦維		巾8mmの平行沈線で曲線。波頂部に2単位の突起が付く。	縦維	13. Q-7
16	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好				縦維	口縁を折り返して段を持つ。有段部に磨面状工具で縦位の刺突が引きずるように加えられる。	縦維	13. Q-8/49 同一
17	細かい砂粒・織維	10YR	にぶい黄褐色	良好				縦維	巾7mmの平行沈線が縦位に施文。	縦維	13. N-10
18	φ1-3mmの小石・ 織維	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL・ LR	横位	縦維		羽状縄文。口縁は小突起が貼付。巾4mmの半截竹管で押し引きの爪形文を施文。	縦維	15. E-7
19	φ1-3mmの小石・ 織維	7.5YR	にぶい褐色	良好				縦維	巾8mmの平行沈線で文様。	縦維	13. Q-8
20	φ1-3mmの小石・ 織維	10YR	灰黄褐色	良好	RL	横位	縦維		0段多条のRLのループ。	縦維	13. P-10
21	φ1-3mmの小石・ 織維	7.5YR	褐色	良好	RLR	横位	縦維		巾7mmの平行沈線で変形をつくる。	縦維	13. N-10
22	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縦維		口縁部に巾7mmの平行沈線で変形をつくる。	縦維	13. N-9
23	細かい砂粒・織維	7.5YR	褐色	良好	異条	斜位	縦維		縄文は直前段合熟り。巾6mmの平行沈線で磨面状の文様。	縦維	13. R-8
24	φ1-3mmの小石・ 織維	7.5YR	にぶい褐色	良好	異条	斜位	縦維		直前段合熟り。波頂部に小突起を持つ。	縦維	13. Q-8
25	φ1-3mmの砂粒・ 織維	10YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縦維		0段多条縄文。	縦維	13. Q-8
26	φ1-3mmの小石・ 織維	10YR	灰黄褐色	普通	LR	横位	縦維		巾6mmの平行沈線で格子目に描く。口唇部に小突起が付く。	縦維	13. O-11
27	細かい砂粒・織維	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縦維		巾7mmの平行沈線で文様。	縦維	13. Q-8
28	φ1-3mmの小石・ 織維	10YR	にぶい黄褐色	普通				縦維	口縁部に磨面状工具で縦位に刺突。その下部に巾10mmの爪形文を加える。	縦維	15. H-12

遺構外出土土器類調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
29	細かい砂粒・織維	7.5YR	にぶい橙色	不良	RL	横位	織維	RLのループ文。	織維	13. Q-9	
30	細かい砂粒・織維	7.5YR	橙色	普通			織維	口縁上部に縦位の沈線。口縁部に巾7mmの半載竹管で爪形文。	織維	15. G-11	
31	φ1-3mmの小石・織維	7.5YR	にぶい褐色	普通			織維	巾5mmの半載竹管のコンパス文と平行沈線を施文。	織維	15. G-11	
32	細かい砂粒・織維	5YR	明褐色	普通	RL	横位	織維	ループ文を多段に施文。	織維	13. P-9	
33	φ1-3mmの小石	5YR	灰白色	普通			織維	巾5mmの平行沈線を施文。	織維	15. G-11	
34	細かい砂粒・織維	2.5YR	明黄褐色	良好	異象	斜位	織維	巾8mmの半載竹管の平行沈線。口唇に彫みを持つ。	織維	13. P-9	
35	φ1-3mmの小石・織維	10YR	浅黄褐色	不良			織維	磨面状工具で施文。	織維	15. J-9	
36	細かい砂粒・織維	5YR	明赤褐色	普通	RI	縦位	織維	羽状縄文が乱雑になる。	織維	14. P-8	
37	φ1-3mmの小石・織維	7.5YR	にぶい橙色	普通			織維	磨面状工具で施文。	織維	13. P-10	
38	φ1-3mmの小石	10YR	浅黄褐色	普通	異節	斜位	織維	巾8mmの平行沈線で文様。口唇に小突起を持つ。注口土器。	織維	13. Q-8	
39	φ1-3mmの小石・片岩・織維	2.5YR	にぶい赤褐色	普通			織維	巾5mmの半載竹管の平行沈線と爪形文を施文。	織維	15. G-11	
40	細かい砂粒・織維	10YR	にぶい黄褐色	普通			織維	巾9mmの半載竹管の平行沈線で文様。	織維	13. P-9	
41	φ1-3mmの小石・織維	10YR	にぶい黄褐色	普通			織維	磨面状工具で施文。	織維	13. Q-7	
42	φ1-3mmの小石・織維	10YR	にぶい黄褐色	普通			織維	磨面状工具で施文。	織維	15. K-12	
43	φ1-3mmの小石・織維	10YR	灰黄褐色	良好			織維	巾5mmの半載竹管の平行沈線と爪形文を施文。	織維	13. P-9	
44	細かい砂粒・織維	10YR	灰黄褐色	普通			織維	巾5mmの半載竹管の平行沈線と爪形文を施文。	織維	14. L-13	
45	φ1-3mmの小石・織維	5YR	橙色	普通			織維	巾7mmの半載竹管で爪形文。	織維	13. M-9	
46	細かい砂粒・織維	5YR	にぶい橙色	普通	RL	横位	織維	ループを多段に施文。	織維		
47	細かい砂粒・織維	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL・LR	横位	織維	巾4mmの半載竹管で爪形文。	織維	15. I-9	
48	細かい砂粒・織維	7.5YR	にぶい褐色	良好			織維	磨面状工具を引きずるように施文しその間を沈線が横位に敷糸施文。	織維	13. Q-9	
49	細かい砂粒	7.5YR	にぶい橙色	良好			織維	口縁を折り返して段を持つ。有段部に磨面状工具で縦位の刺突が引きずるように加えられる。	織維	13. Q-8/16 同一	
50	φ1-3mmの小石・織維	7.5YR	灰褐色	普通			織維	巾6mmの半載竹管のコンパス文と柔線の波状文。	織維	15. F-7	
51	φ1-3mmの小石・織維	7.5YR	にぶい橙色	普通			織維	磨面状工具で施文。	織維	13. Q-8	
52	細かい砂粒・織維	10YR	にぶい黄褐色	良好	RRL	横位	織維	巾8mmの平行沈線と直前段反折りの縄文。	織維	13. O-11	
53	細かい砂粒・織維	10YR	明黄褐色	普通	附加条		織維	附加条第3種の縄文で格子目状。	織維	II斜面	
54	細かい砂粒・織維	2.5YR	黄褐色	不良	知・Lr	横位	織維	巾3mmの半載竹管で押し引きの爪形文。	織維	15. H-10	
55	細かい砂粒・織維	2.5YR	黄灰色	普通	組紐	織維	織維	組み紐を施文。	織維	13. Q-8	
56	細かい砂粒・織維	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	織維	巾6mmの平行沈線で文様を施文。	織維	13. Q-7/57 同一	
57	細かい砂粒・織維	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	織維	巾6mmの平行沈線で文様を施文。	織維	13. S-8/56 同一	
58	細かい砂粒・織維	10YR	褐灰色	普通			織維	太さ4mmの隆線で方形区画・磨面状刺突。	織維	13. Q-7	
59	φ1-3mmの小石・織維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	織維	ループ文。	織維	14. Q-10	
60	φ1-3mmの小石・織維	7.5YR	にぶい橙色	普通	RL・LR	横位	織維	巾6mmの半載竹管の爪形文で横位の区画。平行沈線で菱形をつくる。	織維	15. J-13	
61	細かい砂粒・織維	7.5YR	橙色	良好	異象	斜位	織維	直前段合折り LLR・RLLの羽状縄文と巾5mmの平行沈線でコンパス文。	織維	13. Q-8	

## 第1章 出土遺物の概要

遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 肌体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
62	φ1-3mmの小石・ 繊維	2.5YR	明黄褐色	普通	異節	斜位	縦線		前々段合巻りRL・LRRの羽状縄文。	縦線	13. Q-8
63	φ1-3mmの小石・ 繊維	7.5YR	褐色	普通	RL・ LR	横位	縦線		巾7mmの半載竹管の平行沈線で変形 等の文様。羽状縄文。	縦線	15. G-11
64	細かい砂粒・繊維	7.5YR	にぶい褐色	普通	異条	斜位	縦線		ループ文と直前段合巻りLLR・RL の羽状縄文。	縦線	13. Q-7
65	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	にぶい黄褐色	良好			縦線		巾7mmの半載竹管の爪形文。突起が 付く。	縦線	13. O-10
66	細かい砂粒・繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	附加 条	横位	縦線		RLのループ文と附加条2種の縄文を 施文。	縦線	13. Q-8
67	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦・横	縦線		RLのループ文を縦・横位に施文し羽 状縄文とする。	縦線	13. Q-8
68	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通			縦線		柳葉状工具で施文。	縦線	15. K-12
69	φ1-3mmの小石・ 繊維	2.5YR	明黄褐色	普通	異節	斜位	縦線		巾6mmの半載竹管の平行沈線で渦巻 き。	縦線	13. N-19
70	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好			縦線		柳葉工具で引くように施文。	縦線	13. Q-13
71	細かい砂粒・繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縦線		柳葉工具で施文。	縦線	15. G-11
72	細かい砂粒・繊維	7.5YR	褐色	不良	RL	縦・横	縦線		巾6mmの平行沈線が縦位に施文。	縦線	13. Q-8
73	細かい砂粒・繊維	2.5YR	淡黄色	良好	RL	横位	縦線		巾6mmの半載竹管のコンパス文。	縦線	13. M-9
74	細かい砂粒・繊維	7.5YR	にぶい褐色	普通	異節	斜位	縦線		巾6mmの半載竹管のコンパス文。	縦線	13. Q-8
75	細かい砂粒・繊維	2.5YR	オリーブ褐色	普通	RL・Lr	横位	縦線		0段多条の縄文で羽状縄文。	縦線	土山南道北
76	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL・ LR	横位	縦線		0段多条の縄文で変形をつくる。	縦線	土山南道北
77	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	Rl	横位	縦線		0段多条の縄文。	縦線	土山南道北
78	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	黄褐色	普通			縦線		巾8mmの半載竹管の爪形文。	縦線	堺土山南
79	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL・ LR	横位	縦線		0段多条の縄文で羽状縄文。	縦線	堺土山南
80	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	褐色	普通			縦線		表面にナデたような凹凸あり。	縦線	土山南道北
81	φ1-2mmの小石・ 繊維	2.5YR	暗灰黄色	普通	Rl	斜位	縦線		巾8mmの半載竹管の平行沈線で格子 目状に施文。	縦線	土山南道北
82	φ1-2mmの小石・ 繊維	10YR	にぶい黄褐色	不良			縦線		巾8mmの半載竹管の平行沈線を横位 に施文。	縦線	堺土山南
83	φ1-3mmの小石・ 繊維	7.5YR	灰褐色	普通	RL・Lr	横位	縦線		巾10mmの半載竹管の爪形文で変形を つくり胴部は羽状縄文で変形をつく る。	縦線	土山南道北
84	φ1-3mmの小石・ 繊維	7.5YR	にぶい褐色	普通	LRL	横位	縦線		前々段反巻りの縄文。口唇に丸棒状 工具の跡みを持つ。	縦線	15. G-9
85	φ1-3mmの小石	2.5YR	黄灰色	不良	Rl	横位	縦線			縦線	土山南道北
86	φ1-3mmの小石・ 繊維	2.5YR	暗灰黄色	不良	RL・Lr	横位	縦線		羽状縄文で変形をつくる。	縦線	土山南道北
87	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	にぶい黄褐色	不良			縦線		口唇に刻み。巾7mmの半載竹管の平 行沈線。	縦線	土山南道北
88	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通			縦線		巾8mmの半載竹管の爪形文で文様。 爪形文は垂直に近い角度で施文。	縦線	土山南道北
89	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	明黄褐色	普通	RL	縦・横	縦線		0段多条の縄文を縦・横位に施文し羽 状縄文で変形をつくる。	縦線	土山南道北
90	細かい砂粒・雲母 繊維	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL・ LR	横位	縦線		0段多条の縄文で羽状縄文。	縦線	土山南道北
91	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			縦線		縄文が浅く施文。	縦線	土山南道北
92	細かい砂粒・繊維	7.5YR	にぶい褐色	普通			縦線		巾9mmの半載竹管で爪形文。	縦線	土山南道北
93	φ1-3mmの小石・ 繊維	2.5YR	暗灰黄色	普通			縦線		柳葉状工具で施文。	縦線	土山南道北
94	φ1-3mmの小石・ 繊維	10YR	にぶい黄褐色	不良			縦線		巾7mmの半載竹管の平行沈線。	縦線	土山南道北
95	φ1-3mmの小石多 量・繊維	10YR	灰黄褐色	不良			縦線		巾7mmの半載竹管の平行沈線。	縦線	堺土山南

遺構外出土土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
96	φ1-3mmの小石・ 織織	10YR	にぶい黄褐色	普通			織織		φ18mmの半截竹管の爪形文を押し引き状に施文。	織織	土山南道北
97	細かい砂粒・織織	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	織織		縄文をまばらに施文。	織織	土山南道北
98	細かい砂粒・織織	10YR	黄褐色	普通	RL	横位	織織		0段多条の縄文。	織織	町北13.H-4
99	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	にぶい橙色	普通			織織		φ18mmの半截竹管の連続爪形文を鋭角に施文。	織織	土山南道北
100	細かい砂粒・織織	10YR	にぶい黄褐色	良好			織織		φ15mmの半截竹管の爪形文。	織織	土山南道北
101	φ1-3mmの小石・ 織織	10YR	にぶい黄褐色	不良	Lr	横位	織織		φ18mmの半截竹管の平行沈線を格子目状に施文。	織織	土山南道北
102	φ1-3mmの小石・ 織織	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	織織		φ17mmの半截竹管の平行沈線。	織織	土山南道北
103	細かい砂粒・織織	10YR	にぶい黄褐色	普通			織織		φ19mmの半截竹管の連続爪形文を鋭角に施文。	織織	跡土山南
104	φ1-3mmの小石・ 織織	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	織織		ループを多役化し施文。	織織	町北13.H-4
105	細かい砂粒・織織	7.5YR	橙色	普通	RL- LR	横位	織織		φ16mmの半截竹管で平行沈線を引き表形をつくる。	織織	土山南道北
106	細かい砂粒・織織	10YR	にぶい黄褐色	不良	RI	横位	織織		φ10mmの袖修孔が開く。	織織	土山南道北
107	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	にぶい褐色	普通	RI	横位	織織		φ17mmの平行沈線を横位に施文。	織織	土山南道北
108	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	にぶい橙色	普通			織織		φ18mmの平行沈線で波状線を引く。内面黒色。	織織	周辺表採
109	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	橙色	普通	RL	横位	織織		若干上げ底。	織織	13.Q-9
110	細かい砂粒・織織	7.5YR	にぶい褐色	不良	RL	横位	織織		上げ底。	織織	13.Q-9
111	φ1-3mmの小石・ 織織	2.5YR	明黄褐色	普通			織織		内面スス付着。	織織	15.F-10
112	細かい砂粒・織織	10YR	にぶい黄褐色	普通	縦織	横位	織織		上げ底。内面黒色。	織織	13.Q-9
113	細かい砂粒・織織	7.5YR	橙色	良好	Lr	横位	織織		上げ底。	織織	13.Q-8
114	細かい砂粒・織織	7.5YR	にぶい橙色	普通			織織		外面に縦位の磨き痕。上げ底。内面スス付着。	織織	13.Q-8
115	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	橙色	普通	RI	横位	織織		上げ底。内面黒色。	織織	13.Q-9
116	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	橙色	普通			織織		上げ底。	織織	13.Q-8
117	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	浅黄褐色	普通	異節	斜位	織織		上げ底。首々段合磨りのRLL-RLRの縄文を施文。	織織	13.Q-7
118	φ1-3mmの小石・ 織織	10YR	にぶい黄褐色	普通			織織		若干上げ底。内面黒色。	織織	15.G-11
119	細かい砂粒・織織	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横・斜	織織		上げ底。	織織	13.Q-7
120	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	浅黄褐色	普通	LR	横位	織織		上げ底。内面黒色。	織織	15.G-11
121	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	にぶい橙色	普通	RL	横位	織織		若干上げ底。内面黒色。	織織	15.I-9
122	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	にぶい橙色	普通	RL- LR	横位	織織		若干上げ底。羽状縄文。	織織	15.G-9
123	細かい砂粒・織織	7.5YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	織織		上げ底。	織織	13.Q-8
124	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	織織		上げ底。	織織	15.G-9
125	細かい砂粒・織織	7.5YR	褐灰色	普通	RL- LR	横位	織織		若干上げ底。羽状縄文。	織織	15.O-12
126	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	にぶい橙色	不良			織織		太き8mmの隆線が横位に磨る。内面黒色。	織織	13.G-8
127	φ1-3mmの小石・ 織織	7.5YR	にぶい橙色	普通	RL	横位	織織		上げ底。内面黒色。	織織	13.Q-8
128	細かい砂粒・織織	7.5YR	にぶい橙色	普通	RL	横位	織織		若干上げ底。内面黒色。	織織	13.G-9
129	細かい砂粒・織織	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL- LR	横位	織織		上げ底。羽状縄文。内面黒色。	織織	13.Q-8

## 第1章 出土遺物の概要

遺構外出土土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
130	φ1-3mmの小石・ 織履	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	織履		若干上げ底。内面黒色。	織履	15. E-7
131	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			織履		若干上げ底。	織履	15. E-7
132	細かい砂粒・織履	7.5YR	にぶい黄褐色	普通	RL	斜位	織履		上げ底。	織履	13. P-7
133	細かい砂粒・織履	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	織履		若干上げ底。羽状縄文。内面黒色。	織履	15. G-6
134	細かい砂粒・織履	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	織履		上げ底。内面黒色。	織履	13. Q-8
135	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			織履		網代直。	織履	R-7
136	φ1-3mmの小石・ 織履	10YR	にぶい黄褐色	普通	RI	横位	織履		若干上げ底。	織履	土山南道北
137	φ1-5mmの小石多量・ 織履	7.5YR	にぶい褐色	普通			織履		底部に高台状のものが付く。上げ底。	織履	土山南道北
138	φ1-5mmの小石多量・ 織履	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	織履		若干上げ底。内面黒色。	織履	博士土山南 道北
139	φ1-3mmの小石・ 織履	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	織履		若干上げ底。底面は縄文を施文後丁 事に磨く。	織履	博士土山南
140	細かい砂粒・織履	7.5YR	褐色	普通	Lr	横位	織履		内面黒色。	織履	土山南道北
141	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	織履		内面ス付着。	織履	土山南道北
142	細かい砂粒・織履	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	織履		若干上げ底。	織履	土山南道北
143	細かい砂粒・織履	2.5YR	灰黄色	普通	LR	横位	織履			織履	博士土山南
144	細かい砂粒・織履	7.5YR	褐色	不良	RL・ LR	横位	織履		羽状縄文で変形をつくる。	織履	土山南道北
151	φ1-3mmの小石多量	2.5Y	黒褐色	普通	LRL	横位	竹管		口縁部は粘土溜が付く。巾4mmの浮 線で文様を施文。浮線上に「ハ」字 状の刻みが付く。	竹管	15. G-9
152	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	LRL	横位	竹管		太さ4mmの浮線で文様を施文。浮線 上に「ハ」字状の刻みが付く。	竹管	15. H-10
153	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	10YR	明黄褐色	良好	RL	横位	竹管		口縁部は靴先状になる。口縁部に粘土 溜が付く。巾4mmの半載竹管の平行 沈線で縦線・渦巻きをつくる。	竹管	13. M-13
154	φ1-3mmの小石	10YR	明黄褐色	良好	Lr	横位	竹管		口縁部は靴先状になる。波頂部は3 単位の突起になる。巾3mmの半載竹 管の平行沈線で文様区画・曲線を加 える。	竹管	13. O-9
155	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			竹管		巾7mmの平行沈線に押し引きの爪形 文が付く。	竹管	15. C-9
156	細かい砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	普通			竹管		口縁部は粘土溜が付く。太さ3mmの 浮線で文様を施文。浮線上に「ハ」 字状の刻みが付く。	竹管	15. G-11
157	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	竹管		口縁部は粘土溜が付く。太さ4mmの 浮線で文様を施文。	竹管	15. G-6
158	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			竹管		巾4mmの平行沈線を集合化し文様を 施文。	竹管	15. H-12
159	φ1-3mmの小石	10YR	黄褐色	普通	RL	横位	竹管		巾3mmの半載竹管の爪形文を3条横位 に施文。	竹管	15. T-13
160	φ1-3mmの小石	2.5Y	暗オリーブ褐色	良好			竹管		巾4mmの沈線が集合化し施文。棒状 の粘土溜・ボタン状の附付がある。	竹管	13. Q-7
161	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好			竹管		口唇部に刻みが施文。巾4mmの沈線 が集合化し施文。棒状の附付文。	竹管	13. Q-10
162	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			竹管		巾3mmの平行沈線を集合化し文様を 施文。棒状の附付に刻みが付く。	竹管	13. R-12
163	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好			竹管		口縁部は棒状の附付文が付く。胴部 に巾3mmの半載竹管の集合沈線を格 子目状に施文。	竹管	13. Q-11
164	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通			竹管		巾6mmの半載竹管で文様を施文。	竹管	13. P-9
165	φ1-3mmの小石	2.5Y	にぶい黄色	不良			竹管		巾7mmの爪形文が3列施文。	竹管	13. M-9
166	φ1-3mmの砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			竹管		深鉢の断面把手。	竹管	15. G-9
167	細かい砂粒・黄色 軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通			竹管		口唇部は爪形文が施文。巾4mmの半 載竹管の平行沈線を集合化し横位に 施文。棒状の附付文あり。	竹管	13. Q-7

遺構外出土土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
168	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	良好				竹管	太さ4mmの浮線で文様を施文。浮線 上に半載竹管の爪形文が施文。	竹管	15. G-11/ 169同一
169	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	良好				竹管	太さ4mmの浮線で文様を施文。浮線 上に半載竹管の爪形文が施文。	竹管	15. F-10/ 168同一
170	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好				竹管	太さ3mmの浮線で文様を施文。浮線 に「ハ」字状の刻みが付く。	竹管	15. H-10
171	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	良好				竹管	浮線で渦巻き。浮線に「ハ」字状の 刻みとφ1mmの円形刺突が加えら れる。	竹管	土山南道北
172	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好				竹管	太さ5mmの浮線で文様を施文。浮線 上に爪形文が加えられる。	竹管	15. G-11/ 174同一
173	細かい砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通				竹管	太さ4mmの浮線で文様を施文。浮線 に刺突が加えられる。	竹管	15. N-12
174	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好				竹管	太さ5mmの浮線で文様を施文。浮線 上に爪形文が加えられる。	竹管	15. H-12/ 172同一
175	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好	附加 条	横位		竹管	太さ3mmの浮線が横位に施文。附加 条1條。	竹管	15. C-11
176	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	褐色	良好	Lr	横位		竹管	巾6mmの半載竹管の平行沈線で文様 を施文。沈線内に刺突が加えられる。	竹管	表採
177	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通				竹管	巾4mmの半載竹管の平行沈線を集合 化し文様を施文。	竹管	15. H-12
178	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位		竹管	胴部は巾5mmの平行沈線で横位に区 画。	竹管	15. G-11
179	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	斜位		竹管	巾4mmの半載竹管の平行沈線が施文。	竹管	13. P-8
180	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好				竹管	巾3mmの半載竹管の平行沈線で文様 を施文。	竹管	13. P-8
181	細かい砂粒	10YR	暗褐色	良好				竹管	太さ2mmの沈線を条線状にし文様を 施文。ボタン状附付文が付く。	竹管	13. P-9
182	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	Lr	横位		竹管	太さ3mmの結節浮線が縦位に施文。	竹管	13. Q-9
183	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位		竹管	太さ4mmの結節浮線が施文。	竹管	13. Q-8
184	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位		竹管	太さ7mmの結節浮線文が施文。	竹管	13. N-10
185	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好				竹管	太さ4mmの結節浮線が縦位に施文。	竹管	13. P-9
186	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	LR	横位		竹管	太さ4mmの結節浮線文。	竹管	15. H-12
187	細かい砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好				竹管	太さ6mmの半載竹管の平行沈線と節 節浮線が施文。	竹管	13. Q-8
188	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好				竹管	巾10mmの半載竹管の平行沈線で縦線 を施文。その間を印刷状に凹め刺突 を加える。	竹管	13. P-7
189	細かい砂粒	5YR	赤褐色	普通	LR	横位		竹管	太さ10mmの粘土紐が縦線状に施文。 粘土紐上に縄文が施文。	竹管	13. N-9
190	細かい砂粒	10YR	黒褐色	良好				竹管	巾5mmの半載竹管の平行沈線で同心 円状に文様を施文。文様間に印刷あ り。	竹管	13. Q-8
191	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好				竹管	巾4mmの半載竹管の平行沈線で文様 を施文。文様間に印刷あり。	竹管	13. P-9
192	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好	RL	横位		竹管	巾4mmの半載竹管の爪形文で文様を 施文。無文部は良く磨かれる。	竹管	13. Q-9
193	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好				竹管	無文の有孔浅鉢。	竹管	15. G-11
194	φ1-2mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通				竹管	太さ5mmの浮線で文様を施文。浮線 に刻みあり。	竹管	14. T-7
195	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位		竹管	太さ5mmの浮線で文様を施文。浮線 に刻みあり。	竹管	15. G-8
196	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	良好				竹管	巾3mmの平行沈線が集合化粧化し横 位に施文。	竹管	15. H-10
201	φ1-3mmの小石・ 金雲母	5YR	暗赤褐色	良好				爪形	波状口縁の波頂部から太さ8mmの縦 線が垂下し口縁部中程で二分に分か れ爪を掻くように貼付。	爪形	13. Q-7
202	細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良				爪形	巾7mmの平行沈線で文様。	爪形	13. Q-7

## 第1章 出土遺物の概要

遺構外出土土器類調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原状	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
203	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		大き5mmの沈線連し引き爪形文で腹位の区画。区画内に「J」の状の文様を施文。	爪形	13-Q-7
204	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通			爪形		巾6mmの半載竹管の平行沈線で格子状に区画。沈線に沿って爪形文が施文。	爪形	13-Q-7
205	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		巾5-6mmの隆線で単円環状の突起・曲線を描く。隆線に沿って巾15mmのキャタピラ文を施文。	爪形	13-Q-7
206	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通			爪形		大き6-10mmの隆線と沈線で文様を描く。腹位の区画。区画内に円形モチーフを入れる。内面スス付着。	爪形	13-Q-7
207	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			爪形		大き10mmの隆線で曲線を描き横状把手をつくる。	爪形	13-Q-7
208	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい褐色	普通			爪形		隆線の双円環状突起が貼付。	爪形	13-Q-15
209	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好			爪形		波頂部に3単位の小突起を持つ。口縁部は大き3mmの沈線が3条並行に施文。沈線以下は巾10mmのキャタピラ文が施文。	爪形	13-Q-7
210	φ1-3mmの小石・金雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			爪形		扇状把手を持つ。口縁部は巾3-4mmの竹管で押し引きの爪形文。	爪形	13-P-7
211	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	不良	丸	縦位	縄文	隆線	口縁部文様帯は大き10-15mmの隆線で横凹区画。口縁頂部に山形の横状突起が付く。内面スス付着。	爪形	13-P-9
212	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	暗赤褐色	普通			爪形		口縁直下に巾7mmの爪形文が1列施文。口縁部文様帯を太い隆線で隅丸三角形に区画。隆線に沿って爪形文を施文。	爪形	13-Q-8
213	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	丸		爪形		巾5mmの押し引き爪形文で文様を施文。	爪形	15-G-9
214	φ1-5mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		大き7-10mmの隆線で文様を施文。隆線に形みあり。隆線に沿って沈線が引かれる。	爪形	15-G-9
215	φ1-5mmの小石・金雲母	7.5YR	暗褐色	良好			爪形		口縁部は大き7mmの隆線で区画。扇状把手を持つ。	爪形	13-P-9
216	φ1-5mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		山形状把手。波頂部から垂下する隆線に形みあり。口縁に沿って巾6mmの押し引きの刺突。	爪形	13-Q-9
217	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		隆線で渦巻き。隆線に沿って巾7-10mmの形みがある。	爪形	13-Q-7
218	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通			爪形		太めの隆線で曲線を描く。隆線間に沈線に沿って施文。	爪形	13-P-11
219	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色				爪形		中空の双円形の突起が付く。	爪形	15-F-6
220	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通			爪形		波頂部は二又になる。大き10mmの粘土粒で双円線を描く。隆線に沿ってキャタピラ文が施文。	爪形	13-S-9
221	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		波頂部が二又になる。波頂部から太い隆線が垂下。隆線に形みあり。隆線間は巾7mmの半載竹管の押し引き爪形文。	爪形	15-H-10
222	φ1-3mmの小石・金雲母	5YR	にぶい褐色	良好			爪形		横状把手。	爪形	15-G-11
223	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良			爪形		大き7mmの隆線で文様を施文。隆線に沿って巾7mmの爪形文が施文。	爪形	15-G-11
224	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通			爪形		口縁部は巾10mmの爪形文が横位に施文。その下にベン先状の爪形文が扇状に施文。	爪形	13-P-9
225	細かい砂粒	2.5YR	赤褐色	良好			爪形		台形状の突起。太い沈線が腹位に施文。口縁部に大きな穴が開く。	爪形	13-P-9



遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
226	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		双円状突起と円形の穴が開く。太さ8mmの筋みのある隆線が貼付。	爪形	15. G-9
227	φ1-3mmの小石	5YR	暗褐色	普通			爪形		隆線の突起が付く。口縁部は隆線で楕円区画。	爪形	13. P-9
228	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色				爪形		扇状把手。	爪形	13. P-9
229	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	良好			爪形		山形状突起。双円状に孔が開く。隆線に筋みあり。	爪形	15. G-9
230	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	良好			爪形		隆線の半円突起。巾16mmのキャタピラ文。	爪形	13. P-9
231	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	普通			沈線	隆線	横状把手に渦巻き文を施文。	爪形	13. N-11
232	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	赤褐色	良好			爪形		隆線の双円状突起。隆線と沈線の文様を施文。口縁部に押し引き爪形文を施文。	爪形	15. G-11
233	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好			爪形		蛇頭形の突起。突起基部に穴が開く。巾4mmの押し引き爪形文で変形をつくる。	爪形	13. P-9
234	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	良好			爪形	隆線	横状把手に渦巻き文を施文。	爪形	13. P-10
235	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通			爪形		横断面三角形の筒状把手。隆線と沈線で文様を施文。	爪形	13. Q-7
236	細かい砂粒・黄色輝石	5YR	赤褐色	良好			爪形		中空の三葉円環状突起。	爪形	13. P-9
237	φ1-3mmの小石・黄色輝石	2.5YR	赤褐色	良好			爪形	隆線	横状把手に渦巻き文を施文。	爪形	13. R-9
238	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			爪形		半円状の突起が付く。	爪形	15. R-13
239	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			沈線	沈線	巾9mmの平行沈線で縦位の区画。その間に半截竹管の刺突が加わる。	爪形	13. P-9
240	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通			爪形		太さ3-4mmの沈線で渦巻きと弧線の文様を施文。	爪形	13. P-7
241	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	良好			爪形		巾4mmの平行沈線で楕円区画。	爪形	15. G-9
242	細かい砂粒・雲母	5YR	にぶい褐色	普通			爪形		波状口縁の頂点下に二重円の文様を描く。周辺を弧線が施文。	爪形	14. S-8
243	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線	隆線	太さ9-10mmの隆線で半円状区画。区画内に太さ3-6mmの沈線が充填。	爪形	13. P-7
244	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		太さ7mmの隆線に沿って沈線が施文。口唇部ス付着。	爪形	13. Q-7
245	φ1-3mmの小石・金雲母	2.5YR	暗赤褐色	良好			爪形		頂点が二又に分かれる山形突起。突起から隆線が垂下。隆線に筋みあり。	爪形	15. H-9
246	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	普通			爪形		口縁部は無文部。胴部に太さ5mmの沈線で縦位の区画。突起を持つ。内面ス付着。	爪形	13. G-9
247	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	赤褐色	良好			爪形		口縁部は太さ8mmの隆線で楕円区画。	爪形	14. T-10
248	φ1-3mmの小石・金雲母	2.5YR	明赤褐色	良好			爪形		口縁に台形状突起。波頂部から隆線が垂下。口縁に沿って巾7mmの半截竹管の外・内側を使った爪形文を施文。	爪形	15. G-9
249	φ1-3mmの小石・金雲母	7.5YR	黒褐色	良好			爪形		巾10mmのキャタピラ文が2列施文。	爪形	13. P-9
250	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい橙色	普通			爪形		口縁部に太さ7mmの隆線で楕円区画。区画内は押し引き爪形文とベン先状爪形文を施文。胴部に押し引き爪形文が施文。	爪形	13. Q-9
251	細かい砂粒	5YR	暗赤褐色	良好			爪形		口縁部に太さ7mmの隆線が縦位に貼付。胴部は太さ10mmの隆線が横位に施文。無文部は丁寧に磨かれる。	爪形	13. Q-7

## 第1章 出土遺物の概要

遺構外出土土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
252	φ1-3mmの小石・ 金雲母	7.5YR	暗褐色	良好				爪形	口縁部文様帯を太さ8mmの隆線で区画。隆線に沿って2列に押し引き爪形文が施文。	爪形	15.A-9
253	φ1-3mmの小石・ 金雲母	7.5YR	明褐色	普通				爪形	巾12mmの爪形文が間隔をあけて施文。	爪形	13.Q-9
254	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	隆線の双円状突起。	爪形	13.P-9
255	φ1-3mmの小石・ 雲母	2.5YR	明赤褐色	良好				爪形	太さ10mmの隆線が渦巻き状に貼付。隆線に沿って沈線や割みが付く。内面黒色。	爪形	13.Q-8
256	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL			爪形	太さ4mmの隆線で文様区画。それに沿って押し引き爪形文を施文。	爪形	13.P-9
257	φ1-5mmの小石多 量	10YR	にぶい黄褐色	良好				爪形	中空の双円状把手。把手部に割みあり。	爪形	14.P-11
258	φ1-3mmの小石・ 金雲母	7.5YR	暗褐色	良好				爪形	中空の双円状把手。太さ8mmの隆線が弧を描く。隆線に沿って沈線が施文。文様間は割突が加わる。	爪形	13.P-9
259	細かい砂粒・雲母	7.5YR	暗褐色	良好				爪形	巾6mmの半載竹管の爪形文と平行沈線。	爪形	13.Q-9
260	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	巾5mmの半載竹管の爪形文で弧線を描く。弧線の連結部から竹管内隅角を使い連続判実する。	爪形	13.Q-7
261	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通				爪形	太さ8-10mmの隆線で文様を施文。隆線に沿って巾9mmの爪形文が施文。内面黒色。	爪形	13.Q-7
262	φ1-3mmの小石・ 雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	普通				爪形	太さ4-10mmの沈線と隆線を施文。	爪形	13.P-10
263	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	RL			爪形	太さ10mmの隆線で方形の区画。隆線に沿って沈線が施文。区画内は三角の入り組んだ印刷があり、その中に円形のモチーフが描かれる。	爪形	13.P-9
264	細かい砂粒・雲母	2.5YR	暗赤褐色	普通				爪形	割部は巾5mmの半載竹管の平行沈線で方形に区画。区画内に爪形文・歯歯文・平行沈線を施文。内面黒色。	爪形	13.Q-7
265	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通				爪形	単円状の突起。太さ4mmの沈線を連弧状に施文。	爪形	斜面掛土
266	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	太さ10mmの隆線で曲線を描く。その間に太さ5mmの沈線が沿うように施文。内面スス付着。	爪形	13.Q-7
267	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	良好				爪形	隆線で横・縦位の区画。隆線に沿って爪形文を施文。	爪形	13.P-9
268	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	普通				爪形	三角の筒状把手。太さ5mmの沈線で文様を施文。	爪形	13.O-9
269	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	太さ8mmの割みを持つ隆線が単円環状の突起から派生する。隆線に沿って巾21mmのキョタビラ文を施文。	爪形	13.P-7
270	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい橙色	良好				爪形	割みを持つ太い隆線で、楕円形の区画を作る。区画内は、太い沈線で横位に区画し、縦の沈線を交互に施文する。	爪形	13.
271	細かい砂粒	7.5YR	黒褐色	良好				爪形	溝状把手。太さ5mmの割みを持つ隆線と沈線で文様を施文。	爪形	13.P-9
272	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通				爪形	太さ7mmの隆線で文様を区画。隆線に沿って巾7mmのキョタビラ文が施文。	爪形	13.O-9
273	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				爪形	隆線と沈線で文様を施文。	爪形	13.P-9
274	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい橙色	普通				爪形	太さ6-8mmの隆線と沈線で文様を施文。内面スス付着。	爪形	13.Q-8
275	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通				爪形	隆線の渦巻きと太い沈線が縦位に施文。内面スス付着。	爪形	13.Q-7

## 第3節 遺構外の出土遺物

遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
276	φ1-3mmの小石・ 金雲母	5YR	暗赤褐色	良好				爪形	大き5-6mmの隆線とそれに沿って、 大き3mmの押し引き爪形文を施文。 大き6mmの隆線に沿って巾8mmの平軌 竹管内側で押し引き文。 大き9mmの隆線が縦位に施文。	爪形	13.Q-7
277	φ1-3mmの小石・ 金雲母	5YR	暗赤褐色	良好				爪形	大き6mmの隆線に沿って巾8mmの平軌 竹管内側で押し引き文。 大き9mmの隆線が縦位に施文。	爪形	13.Q-7
278	φ1-3mmの小石・ 金雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	大き9mmの隆線が縦位に施文。	爪形	13.Q-7
279	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通				爪形	大き7mmの隆線と巾7mmの爪形文を施 文。内面スス付着。	爪形	13.Q-7
280	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	2.5YR	明赤褐色	良好				爪形	大き7mmの隆線とそれに沿って巾8mm の爪形文が施文。	爪形	13.Q-7
281	細かい砂粒	5YR	赤褐色	良好	RL	横位		爪形	大き5-8mmの隆線で楕円区画。隆線 に沿って巾10mmのキャビラ文を施 文。	爪形	13.G-7
282	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通				爪形	大き7mmの隆線で巴状の文様。隆線 に沿って巾5mmの爪形文を施文。	爪形	13.Q-7
283	φ1-3mmの小石・ 金雲母	5YR	暗赤褐色	良好				爪形	大き7-10mmの隆線で曲線を施文。 隆線に沿って巾7mmの平軌竹管内側 で押し引き文。	爪形	13.Q-7
284	φ1-3mmの小石・ 金雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	大き8-10mmの隆線が波状に垂下。 巾6mmの平軌竹管内側の突起が隆線 に沿う。	爪形	13.Q-9
285	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	良好				爪形	巾12mmの隆線を弧状に貼付。隆線上 に平行沈線を施文。	爪形	13.Q-7
286	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通				爪形	隆線と沈線の曲線で文様を施文。	爪形	13.Q-7
301	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			沈線	沈線	口縁部文様帯は大き8mmの隆線で半 円状に区画し沈線を充填。胴部は沈 線で縦位の区画。区画間に矢羽根状 の沈線を施文。	沈線	14.B-13
302	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	褐色	普通	LR	縦・横		沈・沈	胴部に楕円と渦巻きの文様をつく る。有孔筒付き土器。	沈線	13.R-7
303	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	条線	縦位	沈線	沈線	口縁部文様帯を大き4mmの沈線で区 画。口唇直下にφ4mmの円形刺突列 を加える。口縁部は雲形状の文様。	沈線	13.Q-7
304	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	条線	斜位	沈線	隆線	口縁部は無文帯で楕状把手が付く。 胴部は隆線で方形に区画し、条線が 斜位に付く。	沈線	13.Q-7
305	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	明褐色	普通	沈線		沈線	隆・沈	口縁部は大き8mmの隆線で楕円区画。 区画内は沈線が充填。胴部は隆線が 縦位の区画。区画間を沈線が横位に 施文。	沈線	13.R-7
306	φ1-3mmの小石	7.5YR	明赤褐色	良好				沈線	口縁部に大き6mmの沈線で横位に施 文。胴部に渦巻文を描く。連環文は 3溝を1単位とし、2単位施文され、 間に縦位に沈線が施文。	沈線	13.P-8
307	φ1-5mmの小石多 量	5YR	赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆・沈	口縁部は大き10mmの隆線で縦位の区 画と渦巻文。胴部は大き5mmの沈 線で長楕円形の区画。区画間を条線 が波状に垂下。	沈線	15.A
308	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線	斜位	沈線	隆線	大き6-8mmの隆線で渦巻き・巴状 の文様。施文は沈線を矢羽根状に施 文。	沈線	13.R-7
309	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通				隆・沈	口縁部文様を大き8-10mmの隆線が2 条対で半円状に区画。区画内は沈 線が縦位に充填。区画の縁部に隆線 で渦巻きの突起が貼付。	沈線	15.A-6
310	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好				爪形	口縁部に太い隆線で渦巻き状の突起 を貼付。突起からフラビ手状の曲線 が派生する。	沈線	13.P-9
311	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好				沈線	大き5mmの隆線による渦巻文。	沈線	15.G-7
312	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆・沈 沈線	口縁部に無文帯。胴部は条線が縦位 に施文。	沈線	13.R-10

## 第1章 出土遺物の概要

遺構外出土土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
313	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好				沈線	口縁に沿って太さ4mmの沈線が2条施文。口縁部に3条施文が施文。	沈線	13. Q-8/ 338同一 表探
314	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通				沈線	太さ3-5mmの沈線で渦巻き。波頂部は円形の突起が附付。	沈線	
315	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線・沈	口縁部文様を太い隆線で渦巻きを描く。隆線に沿って沈線が施文。区画内は沈線が施文。	沈線	13. S-11
316	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	暗褐色	良好	糸線	斜位	沈線	沈線	口縁部文様帯を太さ5mmの沈線で区画し弧線を引く。	沈線	13. R-7
317	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好	糸線	縦位	沈線	沈線	太い隆線で渦巻き・楕円区画をつくる。隆線に沿って太さ5mmの沈線が施文。区画内は沈線が矢羽状に充填。胴部は沈線が2条対で縦位の区画。	沈線	東北
318	φ1-3mmの小石	10YR	暗褐色	普通				沈線・沈	口縁部文様を太い隆線で区画。区画内に斜線が充填。胴部は無文で胴部との区画に沈線が3条廻る。	沈線	13. P-7
319	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	良好				沈線・沈	口縁部と胴部を隆線で縦位に区画。口縁部文様帯は太さ5mmの沈線で楕円区画。区画内は沈線が縦位に充填。胴部は無文。	沈線	13. P-10
320	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	糸線	縦位	沈線	沈線・沈	口縁部文様帯は太さ8-10mmの隆線とそれに沿う沈線。胴部は太さ5mmの沈線で縦位の区画。	沈線	13. S-7
321	φ1-5mmの小石	2.5Y	黒褐色	良好				沈線	太い隆線と沈線で渦巻き。	沈線	13. S-7
322	φ1-3mmの小石	10YR	明黄褐色	不良	糸線	縦位	沈線	沈線・沈	口縁部に太さ8mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ8mmの沈線が充填。胴部は沈線が2条対で縦位の区画し波状沈線が施文。	沈線	14. C-11
323	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	糸線	横位	沈線	沈線	口唇直下に巾10mmの平行沈線と交互刺突が付く。口縁部は太さ2mmの沈線で乱雑な円形を描く。	沈線	14. S-9
324	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	暗褐色	良好				沈線・沈	太さ8mmの隆線で渦巻き・楕円区画。区画内は沈線が充填。	沈線	13. R-7
325	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線・沈	太さ8mmの隆線で楕円区画。区画内は太さ3mmの沈線が斜位に充填。胴部に沈線を縦位に施文し縦位に区画。	沈線	町北O-14
326	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好				沈線・沈	太い隆線で楕円区画。区画内は沈線が矢羽状に充填。	沈線	町北R-15
327	細かい砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好	糸線	横位	沈線	沈線	太い沈線と隆線で楕円区画。区画内は沈線が充填。	沈線	町北O-P-15
328	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通				沈線	口縁部文様は太さ6mmの沈線で区画し胴部を縦位に区画。外面スス付着。	沈線	13. Q-8
329	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	糸線	縦位	沈線	沈線・沈	太さ6mmの沈線で重弧文を描く。胴部は隆線が廻る。隆線上に扇歯状の沈線が施文。	沈線	13. O-10
330	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通				沈線	口縁部に太さ3mmの沈線を弧線に連続施文。胴部は隆線が廻る。	沈線	13. O-11
331	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通				沈線	太さ6mmの沈線の重弧文。	沈線	13. N-12
332	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好	糸線	縦位	沈線	沈線	2-3mm間隔の糸線が縦位に施文。内面スス付着。	沈線	15. G-8
333	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線で渦巻きを施文した把手。	沈線	包含層
334	細かい砂粒	7.5YR	明褐色	良好				沈線	橋状把手。	沈線	
335	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好				隆線	太さ6mmの隆線で渦巻きの突起。	沈線	土山南道北
336	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通				隆線	太い沈線と隆線で双円環状の突起。	沈線	町北R-15
337	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	暗赤褐色	普通	糸線	縦位	沈線	沈線	口縁部頂部に小突起が付き太さ4mmの沈線が2条対で垂下。区画内は波状沈線が施文。	沈線	13. R-7

## 第3節 遺構外の出土遺物

遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 地文 地文	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	備考	出土位置
338	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好					口縁に沿って太さ4mmの沈線が2条施文。口縁部に3条連続文が施文。	沈線	13. Q-8/ 313河一
339	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通				隆-沈	口縁部は太さ5mmの沈線で楕円区画。区画内に連続「コ」字文・刻みを入れる。	沈線	13. P-8
340	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	良好	条線	縦位	沈線	隆-沈	胴部は条線が施文。横状把手。	沈線	13. P-7
341	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				隆-沈	口縁部は太さ5mmの沈線を横位に施文。刻みを伴った隆線で胴部と区画。口縁部に渦巻きの突起が付く。	沈線	
342	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好				隆-沈	口縁部に隆線で三葉円環状の突起。口縁部文様帯は楕円区画。区画内に沈線が充填。	沈線	
343	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通	条線	縦位	沈線		4条の条線が巾8mmで縦位に施文。	沈線	14. S-7
344	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				隆-沈	太さ10mmの隆線で楕円区画。区画内は沈線が充填。	沈線	13. Q-7
345	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通				沈線	口縁部は太い隆線で楕円区画。区画内は太さ3mmの沈線が縦位に施文。	沈線	13. O-9
346	φ1-3mmの小石多量・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好	条線	縦位	沈線	隆線	地文は太さ2mmの沈線で縦状の文様。太さ8mmの隆線が3条対でワラビ手状に貼付。	沈線	15. G-11
347	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通				隆-沈	胴部文様帯を太さ5-10mmの隆線で区画。口縁部は無文帯。胴部文様内は沈線・爪形文が充填。	沈線	13. T-9
348	φ1-3mmの小石	7.5YR	藍色	不良	沈線	斜位	沈線	隆線	太さ4mmの沈線が縦状に施文。太さ8mmの隆線で縦位の区画。	沈線	14. S-5
349	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	沈線	縦位	沈線	隆線	太さ8mmの隆線で縦位に区画し波状藍線が垂下。地文は浪濤形の刺突が施文。	沈線	13. T-12
350	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	良好				隆線	太さ8mmの隆線が波状に垂下。浪濤形の刺突が施文。	沈線	14. E-8
351	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	沈線	横位	沈線	沈線	太さ5mmの沈線で渦巻き文。地文状に沈線を横位に施文。	沈線	13. O-10
352	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好	沈線	斜位	沈線	隆線	太さ8mmの隆線が垂下。地文は太さ6mmの沈線が斜位に施文。	沈線	13. O-10
353	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	暗褐色	普通	条線	斜位	沈線	隆-沈	4条の条線が巾8mmで2重に波状に垂下。	沈線	15. P-4
354	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	沈線	斜位	沈線	隆-沈	太さ7mmの隆線の文様。隆線間に太さ4mmの沈線が充填。	沈線	土山南道北
355	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通				爪形	太さ4-5mmの沈線と太い隆線で曲線。	沈線	13. P-8
356	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	条線	斜位	沈線	沈線	太さ6mmの沈線が縦位の区画。地文は6条の沈線が巾10mmで条線状に施文。	沈線	13. O-13
357	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	黒褐色	普通	沈線	斜位	沈線	沈線	太さ4mmの沈線を縦状に施文。	沈線	13. P-8
358	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好				隆-沈	台付き深鉢の高台部。内面黒色。	沈線	包含層 Q-11
359	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	沈線	斜位	沈線	隆-沈	太さ8mmの隆線が2条対で縦位の区画。区画内は太さ5mmの沈線で文様を施文。地文は沈線を縦状に施文。太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。地文は条線を斜位に乱雑に施文。内面スス付着。	沈線	
360	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	太さ8mmの隆線が縦位の区画。区画内は隆線を波状に施文。	沈線	14. T-7
361	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	条線	縦位	沈線	隆線	太さ8mmの隆線が縦位の区画。区画内は隆線を波状に施文。	沈線	R-11
362	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	褐色	良好				隆-沈	深鉢の横状把手。	沈線	13区町北 O・P-15
363	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好				沈線	太さ4mmの沈線で渦巻き・縦位の区画。内面スス付着。	沈線	13. P-8

## 第1章 出土遺物の概要

遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	備考	出土位置
364	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	良好	条線	縦位	沈線		10mm間隔の条線が縦位に施文。	沈線	包含層
365	φ1~3mmの小石・ 砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で曲線を描く。縄文 を施文後沈線を施文。	沈線	13. P-14
366	φ1~3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線で曲線を描く。縄文 を施文後沈線を施文。	沈線	13. P-14
367	φ1~3mmの小石・ 雲母	10YR	灰黄褐色	普通	RL	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で曲線を描く。縄文 を施文後沈線を施文。	沈線	13. P-14
368	φ1~3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	斜位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が2条対で波状文様。 内面スス付着。	沈線	13. Q-9
369	φ1~3mmの小石多 量	5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの隆線で方形を描く。隆線 間に太さ3mmの沈線が施文。	沈線	13. P-8
401	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RI	縦位	熱赤 隆・沈		口縁部に太い隆線が1条まわり、沈 線による文様が描かれる。頸部は沈 線で区画され蓮弧文が施文。胴部は 沈線による栴円区画と縦位区画。内 外面スス付着。	熱赤	13. P-7
402	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい褐色	普通	Lr	横位	熱赤 隆線		太さ10mmの隆線で高さ色々・栴円区 画をつくる。胴部は無文帯。頸部 にスス付着。	熱赤	13. O-9
403	細かい砂粒・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 沈線		太さ4mmの沈線が施文。内面と口唇 部にスス付着。	熱赤	13. N-9
404	φ1~5mmの小石・ 雲母	7.5YR	褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 隆線		口縁部を太さ10mmの隆線で区画し渦 巻き文を描く。	熱赤	13. R-7
405	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 隆・沈		太さ3mmの沈線と太さ5mmの隆線の文 様。	熱赤	15. G-9
406	φ1~3mmの小石・ 雲母	5YR	褐色	良好	Lr	縦・横	熱赤 隆線		口縁部文様帯を太さ14mmの隆線で区 画。内面黒色。	熱赤	土山南道北
407	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	横位	熱赤 隆線		太さ10mmの隆線で渦巻き文・栴円区 画をつくる。胴部は無文帯。	熱赤	13. O-9
408	細かい砂粒・雲母	5YR	褐色	普通	Lr	斜位	熱赤 隆線		太さ12mmの隆線で平円状の区画。内 面黒色。	熱赤	町域O-15
409	細かい砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好	Lr	縦位	熱赤 隆・沈		口縁部を太さ10mmの隆線で区画。口 唇部直下に太さ4mmの沈線が3条施 文。	熱赤	15. I-6
410	φ1~3mmの小石・ 雲母	5YR	明赤褐色	良好	Lr	縦位	熱赤 隆線		口縁部と頸部を太さ10mmの隆線で区 画。口縁部内は太さ4~6mmの隆線で 渦巻き。	熱赤	15. F-6
411	細かい砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好	Lr	縦位	熱赤 隆線		太さ7mmの隆線で文様。	熱赤	13. N-9
412	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 隆線		口縁部が鋭角に屈曲し無文帯とな る。	熱赤	15. G-8
413	細かい砂粒・雲母	5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 隆線		太さ7~8mmの隆線が2条対で渦巻き・ 弧線を描く。	熱赤	13. O-11
414	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 沈線		太さ4mmの沈線で文様。	熱赤	町域1-149 カット部
415	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 隆線		太さ8mmの隆線が波状に施文。	熱赤	町域1-149 カット部
416	φ1~3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	褐色	普通	Lr	縦位	熱赤			熱赤	13. O-9
417	φ1~3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 沈線		口縁部と頸部に2条対の沈線と隆線 を施文。	熱赤	13. N-10
418	φ1~3mmの小石多 量	7.5YR	褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 沈線		巾9mmの平行沈線を重ねるように4回 施文。	熱赤	13. P-9
419	φ1~3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 隆・沈		太い隆線で口縁部文様をつくる。胴 部に太さ4mmの沈線で渦巻き文。	熱赤	13. O-10
420	φ1~3mmの小石・ 雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤 沈線		太さ2mmの沈線が弧線・縦位の重線を 描く。	熱赤	13. R-11
421	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好	Lr	縦位	熱赤 沈線		太さ4mmの沈線で文様。	熱赤	15. G-11

## 第3節 遺構外の出土遺物

遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特長	備考	出土位置
422	φ1-3mmの小石・片岩	7.5YR	にぶい褐色	良好	Lr	縦位	黒糸	隆・沈	太さ4-5mmの隆線で渦巻き・点線状の文様を描く。隆線間には太さ4mmの沈線が縦横状に施文。	黒糸	13. O-9
501	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁に太さ8mmの隆線で渦巻き文。頸部くびれ部に巾8mmの平行沈線が2列縦位に施文。	縄文	13. N-10
502	φ1-3mmの小石多量	2.5Y	明黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	口縁は太さ4mmの沈線が縦位に施文。胴部に長楕円形文様を描く。	縄文	14. C-8
503	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	横位	縄文	隆線	口唇部に無文帯。口縁部は太さ10mmの隆線で半円形の区画と渦巻き文。胴部は隆線による縦位の区画と波状文。	縄文	13. O-13
504	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で文様区画。区画内は縄文が充填。内面スス付着。	縄文	4溝
505	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で曲線状の文様。縄文帯と無文帯を交互につくる。沈線で文様附付後に縄文を施文。	縄文	13. P-14
506	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文		全体に磨減多い。	縄文	13. R-7
507	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。沈線間は無文。	縄文	13. R-10
508	細かい砂粒・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	横位	縄文		胴下部は無文。内面黒色。	縄文	13. Q-7
509	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆線	太さ10mmの隆線で縦位の区画。内面スス付着。	縄文	13. Q-9
510	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	口縁部に太さ8mmの楕円区画と渦巻き文。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で縦位区画。内面スス付着。全体に磨減多い。	縄文	15. A-13
511	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		内面黒色。	縄文	可説P-2
512	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	明褐色	普通	LR	斜位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線が2条対で「J」字文様を描く。	縄文	13. T-7
513	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	明褐色	不良	Lr	縦位	黒糸	隆線	深線。	縄文	13. O-10
514	φ1-3mmの砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	口縁部は太さ5mmの沈線が3条で横位の区画。沈線間にφ6mmの円形刺突が施文。胴部は太さ5mmの沈線が3条縦位に施文。沈線間に縄文は施文されない。	縄文	14. B-13
515	φ1-3mmの小石多量	10YR	黒褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部に渦巻き文様を対にした突起を持つ。突起部から太さ8mmの隆線が重下。	縄文	13. S-11/ 520同一
516	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部を太さ8mmの隆線とそれに沿う沈線で半円状に区画。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	縄文	14. A-13
517	φ1-3mmの小石多量・雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆線	太い隆線で楕円区画。区画内に縄文が充填。φ18mmの補修孔が開く。	縄文	14. D-7
518	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部にφ8mmの円形刺突が2列に施文。	縄文	14. B-14
519	φ1-3mmの小石多量	10YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部に渦巻き文様を対にした突起を持つ。突起部から太さ8mmの隆線が重下。	縄文	13. Q-7
520	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰褐色	普通	RL	縦・横	縄文	沈線	口縁部を太さ7mmの沈線が横位に区画。口縁上部に刺突が2段施文。下部は太さ5mmの沈線で文様。	縄文	13. T-11/ 515同一
521	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好	LR	横位	縄文	隆・沈	口縁部を太さ6mmの隆線で区画。沈線が矢羽根状に施文。	縄文	15. F-10
522	φ1-3mmの小石多量	2.5YR	赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	隆・沈	口縁部に太い隆線とそれに沿った沈線で楕円区画。胴部は太さ10mmの沈線が2条対で縦位の区画。	縄文	15. I-6
523	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆線	太い隆線で把手をつくる。	縄文	13. P-8

## 第1章 出土遺物の概要

遺跡外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
524	φ1~3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が3条で文様を区画。口縁部に波状沈線が施文。	縄文	13. R-11
525	φ1~3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	RL	縦・斜	縄文	隆・沈	太さ6~8mmの隆線で渦巻き・楕円区画をつくる。区画内は沈線が充填。胴部に縄文が施文。	縄文	14. S-9
526	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	口縁部に太い隆線とそれに沿う沈線で楕円区画。胴部は太さ6mmの沈線が2条対で縦位の区画。縄文施文後沈線を施文する。	縄文	14. T-8
527	φ1~3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい橙色	不良	RL	横位	縄文	隆線	口縁部に太さ8~20mmの太い隆線で楕円区画。	縄文	町並R-15
528	細かい砂粒	10YR	にぶい黄橙色	普通	LR	横位	縄文	沈線	口縁部に太さ6mmの沈線が1条廻る。胴部は太さ4mmの沈線が縦位に区画。	縄文	14. G-7
529	φ1~3mmの小石	5YR	黒褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ6mmの隆線で渦巻き・楕円区画をつくる。胴部は太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。	縄文	13. R-7
530	φ1~5mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆・沈	口縁部に太い隆線とそれに沿う沈線で楕円区画。胴部は太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。口縁部と胴部の縄文原体は太さが異なる。縄文施文後沈線を施文する。	縄文	13. S-12
531	細かい砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦・横	縄文	隆線	太さ7~10mmの隆線で渦巻き・楕円区画をつくる。	縄文	14. P-11
532	φ1~5mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文	隆・沈	太さ6mmの隆線で渦巻き・楕円区画をつくる。区画内に縄文が充填。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。口縁部は縄文→沈・隆線。胴部は沈線→縄文の順に施文。	縄文	1溝
533	φ1~3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	太い隆線とそれに沿う沈線で楕円区画。胴部は太さ4mmの沈線で縦位の区画。太さの異なる2条の隆線を合わせた2段のLをつくる。	縄文	13. S-10
534	細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	胴くびれ部に太さ10mmの沈線が3条横位に施文。内面スス付着。	縄文	13. Q-8
535	φ1~3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	明褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部は太い隆線で楕円区画。胴部に太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。	縄文	14. M-12
536	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ10~14mmの隆線とそれに沿った沈線で楕円区画。	縄文	町並1-149 カット部
537	φ1~3mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆線	太さ8~12mmの隆線で渦巻き。	縄文	町並1-149 カット部
538	細かい砂粒・雲母	7.5YR	褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ6~10mmの隆線とそれに沿った沈線で楕円区画。外面スス付着。口唇部に渦巻き文様の突起が貼付。口縁部は太さ6mmの隆線と渦巻きで区画。胴部に太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	縄文	町並1-149 カット部
539	細かい砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	RL	斜位	縄文	隆・沈	口縁部は太さ6mmの隆線と渦巻きで区画。胴部に太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	縄文	13. S-9
540	φ1~3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄橙色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部に太さ8~14mmの隆線で半円形の区画。胴部は太さ7mmの沈線が2条対で縦位の区画。	縄文	町並J-4
541	φ1~3mmの小石・雲母	2.5YR	にぶい赤褐色	良好	RLR	縦位	縄文	隆・沈	太さ6~10mmの隆線で渦巻き・楕円区画をつくる。渦巻き区画内は隆線が充填。その他の部分に縄文が充填。	縄文	14. R-7
542	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	Lr	横位	縄文	隆・沈	太さ8~10mmの隆線とそれに沿った沈線で渦巻き・楕円区画をつくる。胴部は沈線で縦位の区画。	縄文	町並O-P-15
543	φ1~3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	LR	縦・横	縄文	隆・沈	太さ5~6mmの隆線とそれに沿う沈線で渦巻き・楕円区画をつくる。胴部は太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。	縄文	14. S-9



## 第3節 遺構外の出土遺物

遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
544	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	普通	KL	横位	縄文	陸・沈	大き8mmの隆線が縦位の区画。大き4mmの沈線が縦位に施文。	縄文	14. S
545	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	KL	横位	縄文	陸・沈	大き8-10mmの隆線とそれに沿った沈線で楕円区画。外面スス付着。	縄文	町並O-14
546	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	良好	KL	縦位	縄文	陸・沈	大き5-8mmの隆線で楕円区画。頸部は無文帯。内面スス付着。	縄文	13. P-10
547	φ1-3mmの小石多量・黄色軽石	5YR	橙色	良好	KL	傾・斜	縄文	隆線	大き4-6mmの隆線で曲線文様・渦巻きを描く。	縄文	14. T-11
548	φ1-3mmの小石	10YR	黒褐色	良好	LR	縦位	縄文	隆線	大き6mmの隆線が2条対で区画線。隆線間は無文を帯り出す。内面スス付着。	縄文	15. G-9
549	φ1-3mmの小石多量	5YR	明赤褐色	普通	KL	縦位	縄文	陸・沈	φ19mmの平行沈線と隆線で文様を構成。	縄文	13. Q-7
550	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	不良	Lr		燃余	陸・沈	大き10mmの隆線と大き2mmの沈線で文様。	縄文	15. E-6
551	細かい砂粒・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	KL	縦位	縄文	沈線	大き3mmの沈線で「J」字状の文様。沈線間は無文を帯り出す。	縄文	14. Q-14
552	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	KL	縦位	縄文	沈線	大き2mmの沈線で「J」字文様を描く。沈線間は無文を帯り出す。	縄文	13. T-7
553	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文	陸・沈	大き8mmの隆線とφ7mmの平行沈線で文様。内面スス付着。	縄文	13. Q-7
554	φ1-3mmの砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	KL	縦・横	縄文	隆線	大き8mmの隆線で渦巻き・楕円区画をつくる。	縄文	13. R-7/ 568同一
555	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	大き4mmの沈線が2条対で縦位の区画。内面スス付着。	縄文	14. T-9
556	φ1-5mmの小石多量	2.5Y	暗灰黄色	普通	KL	斜位	縄文	沈線	口縁部文様を大き6-8mmの沈線で区画。胴部は沈線が2条対で縦位の区画。沈線間は無文を帯り消しているが痕跡が残る。	縄文	13. R-7
557	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	暗赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	大き7mmの沈線が3条対で縦位の区画。	縄文	14. B-12
558	φ1-3mmの小石・黄色軽石	2.5YR	赤褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	大き6mmの沈線が2条対で縦位の区画。区画内は長楕円形の文様。	縄文	町並
559	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	良好	KL	縦位	縄文	隆線	大き8mmの隆線が2条対で縦位の区画。区画間は波状沈線が垂下。	縄文	13. P-10/ 567同一
560	φ1-3mmの小石多量	2.5Y	暗灰黄色	普通	KL	斜位	縄文	沈線	大き6mmの沈線で渦巻き・楕円区画をつくる。胴部は2条対で縦位の区画。	縄文	13. R-7
561	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	暗赤褐色	普通	KL・LR	縦位	縄文	沈線	大き4mmの沈線が2条対で縦位の区画。沈線間は帯り消し縄文。	縄文	14. S-9
562	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	KL	縦位	縄文			縄文	13. Q-7
563	細かい砂粒	2.5YR	暗赤灰色	良好	LR	縦位	縄文	陸・沈	大き8-10mmの隆線とそれに沿った沈線で楕円区画。	縄文	町並1-149 カット部
564	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	明褐色	良好	KL	縦位	縄文	隆線	大き8-10mmの隆線と沈線が横位に施文。	縄文	町並26土坑
565	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	橙色	普通	LR	縦位	縄文	陸・沈	口縁部に大き5-8mmの隆線とそれに沿った沈線で渦巻き・楕円区画をつくる。胴部は大き4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	縄文	14. O-8
566	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	KL	縦位	縄文	沈線	大き4mmの沈線が3条対で縦位の区画。	縄文	13. N-10
567	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好	KL	縦位	縄文	隆線	大き8mmの隆線が2条対で縦位の区画。区画間は波状沈線が垂下。	縄文	13. O-9/ 559同一
568	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	KL	縦・横	縄文	隆線	大き8mmの隆線で渦巻き・楕円区画をつくる。	縄文	13. R-7/ 554同一
569	φ1-3mmの小石	2.5YR	にぶい赤褐色	良好	Lr	縦位	縄文	沈線	φ15mmの平行沈線で縦線・横位の区画をつくる。	縄文	15. G-11
570	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	灰黄褐色	普通	KL	縦位	縄文	沈線	大き2mmの沈線で「J」字文様を描く。沈線間は無文を帯り消し縄文。	縄文	14. P-13

## 第1章 出土遺物の概要

遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
571	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦斜	縄文	隆線	太さ4mmの隆線が2条対で腹位の区 区。区画内は隆線が波状に垂下する。	縄文	13.M-11
572	φ1-3mmの小石多 量	2.5YR	明赤褐色	良好	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ7mmの隆線が2条とそれに沿った 沈線で腹位の区画。	縄文	町抜13.Q- R-15
573	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	黒褐色	普通	RL	横位	縄文			縄文	町抜1-149 カット部
574	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	2.5YR	暗赤褐色	良好	RL	横位	縄文	隆・沈	頸部くびれ部に太さ8mmの沈線と隆 線が横位に走る。	縄文	町抜1-149 カット部
575	φ1-5mmの小石・ 黄色軽石粒	5YR	赤褐色	普通	RL	横位	縄文			縄文	町抜1-149 カット部
576	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線が波状の垂下。	縄文	町抜1-149 カット部
577	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で腹位の区 区。	縄文	14.O-8
601	φ1-3mmの小石多 量	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		底面削代痕。	洗鉢	14.A-8
602	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好			隆線	隆線	太さ4mmの沈線が渦巻き。深鉢。		13.Q-8
603	細かい砂粒・雲母	2.5YR	明赤褐色	良好			隆線	隆線	太さ9mmの隆線が曲線。内外面横位 の磨き。深鉢。		13.P-8
604	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		口縁直下に沈線が1条走る。内面ス ス付き。	洗鉢	14.南壁
605	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	良好			無文		内外面丁家に磨く。内面スス付き。	洗鉢	13.P-9
606	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	2.5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内外面横位の丁家な磨き。	洗鉢	15.K-7
607	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	洗鉢	町抜
608	φ1-3mmの小石・ 片岩	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		口縁と胴部間にくびれ部を持つ。外 面横位の磨き。	洗鉢	15.L-7
609	細かい砂粒多量	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		口縁と胴部間にくびれ部を持つ。外 面横位の磨き。	洗鉢	13.O-10
610	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通			無文		外面横位の磨き。	洗鉢	13.Q-7
611	φ1-5mmの小石多 量	5YR	褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	洗鉢	15.L-6
612	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		口縁部に沈線が1条走る。内外面磨 き。	洗鉢	15.G-11
613	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		口縁外部直下に浅い沈線が走る。外 面スス付き。	洗鉢	14.T-10
614	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		口縁直下が若干くびれる。内外面横 位の磨き。	洗鉢	13.M-10
615	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		口縁部に段を持つ。内外面磨き。	洗鉢	13.M-10
616	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内外面丁家に磨く。	洗鉢	13.N-9
617	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		口縁大きく外反。内外面横位の磨き。	洗鉢	13.O-10
618	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		口縁が外反。胴部との境に屈曲を持 つ。内外面横位の磨き。	洗鉢	15.G-6
619	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		外面横位の磨き。	洗鉢	13.O-9
620	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		内外面割落多い。	洗鉢	14.T-7
621	細かい砂粒	5YR	赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。内外面スス付き。	洗鉢	町抜1-149 カット部
622	φ1-3mmの小石・ 雲母	2.5YR	明赤褐色	良好			無文		外面丁家な磨き。	洗鉢	13.P-10
623	細かい砂粒	7.5YR	明赤褐色	良好			無文		外面横位の磨き。	洗鉢	I表探
624	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			隆線	隆線	太い隆線で楕円区画。内外面丁家 な磨き。	洗鉢	13.Q-7
625	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	洗鉢	14.S-7
626	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通			無文		外面横位の磨き。	洗鉢	15.B-11
627	φ1-3mmの小石多 量	5YR	明赤褐色	良好			沈線	沈線	口縁が外反し太さ3mmの沈線と刺突 が施文。外面横位の磨き。	洗鉢	15.G-9

遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原形	施文 方向	施文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
628	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好				隆線	太さ8mmの隆線で弧線。	洗鉢	13. O-9
629	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	褐色	普通			無文		外面上半部横位の磨き。下半部縦位の磨き。	洗鉢	13. R-11
630	細かい砂粒	7.5YR	暗褐色	良好			無文		口唇部に太さ2mmの刻みを持つ。外面横位の磨き。内面スス付着。	洗鉢	13. O-9
631	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		蹄部に横状把手が付く。蹄付土器。	洗鉢	13. O-9
632	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		内外面スス付着。	洗鉢	13. P-9
633	細かい砂粒	7.5YR	明褐色	良好			無文		口縁部にくびれ部を持つ。内外面横位の磨き。	洗鉢	15. G-9
634	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通			無文		口縁部にくびれを持つ。内外面に横位の磨き。	洗鉢	13. P-8
635	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通			無文		外面に赤色塗彩。外面横位の磨き。	洗鉢	13. Q-7
636	細かい砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			沈線		太さ4mmの沈線で渦巻きなどの文様を描く。	洗鉢	15. H-10
637	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好			隆線		太さ8mmの隆線で円を描く。	洗鉢	13. P-9
638	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通			無文		φ7mmの孔を持つ。有孔蹄付土器。	洗鉢	13. M-9
639	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通			無文		φ5mmの補修孔を持つ。	洗鉢	13. O-9
640	細かい砂粒	2.5YR	明赤褐色	良好			隆線		隆線で半円状の区画。内外面丁寧な磨き。蹄付土器。	洗鉢	14. B-9
641	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好			無文		口縁内部に段を持つ。内外面丁寧な磨き。	洗鉢	13. P-10
642	φ1-3mmの小石・黄色軽石	2.5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		口縁下に沈線が1条走る。底面に縦位の磨き。	洗鉢	13. P-9
643	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		内面横位の磨き。内外面スス付着。	洗鉢	14. H-7
644	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好			無文		外面丁寧な磨き。	洗鉢	13. R-7
645	φ1-5mmの小石・金雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		口縁内側に内斜。口唇部スス付着。	洗鉢	13. Q-7
701	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	縄文			底部	15. G-9
702	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内面スス付着。	底部	13. Q-7
703	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			爪形		太さ2mmの沈線で弧線・印形の文様。	底部	13. Q-7
704	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で縦位の区画。縄文部と無文部が交互になる。	底部	15. G-9
705	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			隆線		太さ10mmの隆線を2条対で縦位の区画。	底部	14. T-8
706	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	無文			底部	14. R-8
707	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	隆線		太さ8mmの隆線で縦位の区画。	底部	13. O-11
708	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		外面縦位の磨き。	底部	表層
709	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線で2条対で縦位の区画。表面が全体に磨減している。内面スス付着。	底部	14. S-13
710	φ1-3mmの小石多量・雲母	10YR	にぶい黄褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	太さ3-4mmの沈線で縦位の区画。全体に磨減。	底部	15. C-11
711	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線で2条対で縦位の区画。縄文部と無文部が交互になる。	底部	14. S-11
712	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	不良	RL	横位	隆線		太さ8mmの隆線を2条対で縦位の区画。	底部	13. R-7
713	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	褐色	普通	RL	縦位	隆線		太さ8mmの隆線で縦位の区画。内面黒色。	底部	14. E-10
714	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	褐色	良好	RL	横位	縄文			底部	13. P-10
715	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	隆線		太さ8mmの隆線を2条対で縦位の区画。内面スス付着。	底部	13. O-9
716	φ1-3mmの小石多量	5YR	明赤褐色	良好			沈線		太さ2-3mmの沈線で縦位の施文。全体に磨減多い。底面は網代裏で一部削られる。内面スス付着。	底部	13. P-13

第1章 出土遺物の概要

遺構外出土土器観察表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
717	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	斜位	縄文		底面への刺突あり。	底部	13. P-9
718	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	熟赤			底部	13. Q-8
719	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	明褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区 画。	底部	13. L-12
720	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	不良			無文		内面スス付着。	底部	13. Q-7
721	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	縄文			底部	13. L-11
722	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	Lr	縦位	熟赤	沈線	太さ5mmの沈線で縦位の区画。内面 スス付着。	底部	13. P-10
723	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	にぶい褐色	良好				沈線	太さ3mmの沈線で縦位の区画。	底部	15. G-9
724	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		外面縦位の磨き。内面黒色。	底部	13. T-7
725	細かい砂粒	5YR	褐色	良好			縄文		縄文原体不明。全体に磨滅している。 内面黒色。	底部	13. Q-8
726	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		底面網代模。	底部	14. D-8
727	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文			底部	14. T-7
728	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	赤褐色	良好				沈線	太さ3mmの沈線が縦位に区画。	底部	15. S-11
729	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		外面縦位の磨き。	底部	14. T-9
730	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文		内面スス付着。	底部	13. Q-8
731	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通			爪形		巾8mmの爪形文が2列縦位に施文。内 面スス付着。	底部	15. G-9
732	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	良好			爪形		巾7mmの半載竹管でベン先状の刺突。 内面黒色。	底部	表挿
733	φ1-3mmの小石・ 雲母	7.5YR	褐色	良好			爪形		太さ4mmの沈線が縦位に施文。内面 スス付着。	底部	13. P-7
734	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		内面スス付着。	底部	13. Q-7
735	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	にぶい褐色	良好			爪形		太さ2mmの沈線で縦位の区画。区画 間を太さ10mmの沈線が縦位に光環。 内面黒色。	底部	13. Q-7
736	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通				沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区 画。沈線は浅くはっきりしない。	底部	13. T-11
737	φ1-5mmの小石多 量	5YR	赤褐色	良好	条線	斜位	沈線		底面網代模。	底部	14. D-12
738	φ1-3mmの小石・ 雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文			底部	14. K-8
739	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		内面スス付着。	底部	15. G-9
740	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通			無文		外面縦位の磨き。内面スス付着。	底部	13. Q-7
741	細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良				沈線	太さ10mmの沈線で縦位の区画。内面 スス付着。	底部	15. A-13
742	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文		内面スス付着。	底部	13. P-9
743	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好		沈線	縦位	沈線	太さ2-3mmの沈線で縦位に施文。内 面スス付着。	底部	14. G-10
744	細かい砂粒	5YR	赤褐色	良好			無文		内外面磨き。	底部	13. P-8
745	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		外面磨き。内面スス付着。	底部	13. T-11
746	φ1-3mmの小石多 量	7.5YR	褐色	普通			無文			底部	15. K-9
747	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好				沈線	太さ3mmの沈線が縦位の区画。	底部	15. G-11
748	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	7.5YR	明褐色	不良			無文		内外面磨滅多い。	底部	15. H-10
749	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	良好			無文			底部	13. O-12
750	細かい砂粒	5YR	褐色	普通	LI	縦位	熟赤		内面スス付着。	底部	13. O-11
751	φ1-3mmの小石・ 黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が3条対で縦位の区 画。	底部	13. P-8
752	細かい砂粒・黄色 軽石粒	5YR	赤褐色	良好	Lr	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で文様区画。内面ス ス付着。	底部	14. B-8
753	φ1-3mmの小石・ 雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区 画。	底部	14. T-9

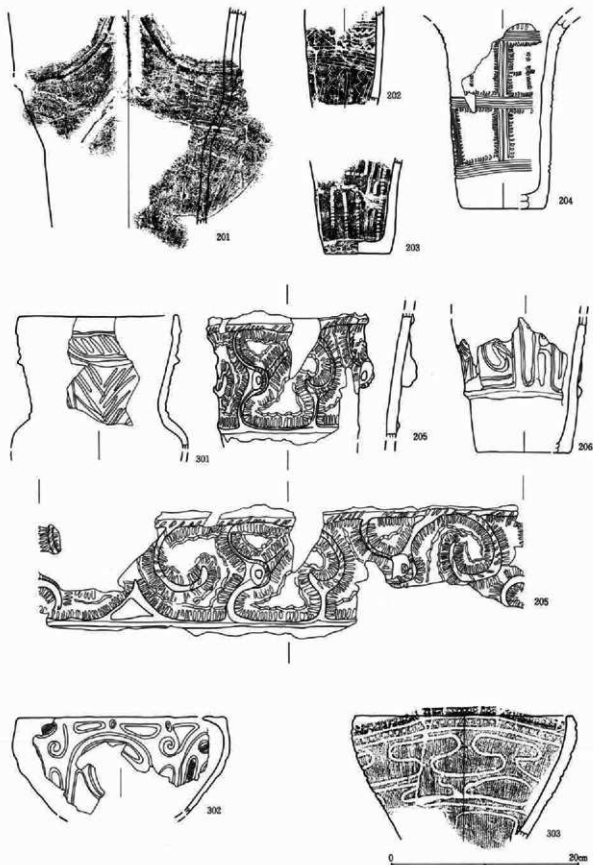
遺構外出土土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
754	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	横位	縄文				13. Q-9
755	細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良			無文				13. S-11
756	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	明赤褐色	普通			沈線		全体に摩滅多い。		13. R-7
757	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良			無文				13. S-11
758	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		横位の磨き。		15. E-13
759	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。		13. P-8
760	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	巾3mmの平截竹管の平行沈線で方形区画。		13. O-10
761	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	褐色	普通			沈線		太さ2mmの沈線で縦位の区画。内面スス付着。		14. S-7
762	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	太さ3-4mmの沈線が縦位に施文。		底部
763	φ1-3mmの小石	2.5Y	浅黄色	不良			沈線		太さ3mmの沈線で縦位の区画。内面スス付着。		14. C-8
764	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		横位の磨き。内面スス付着。		13. Q-7
765	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	不良			沈線		太さ3mmの沈線で縦位の区画。全体に磨滅。内面スス付着。		13. L-11
766	細かい砂粒多量	5YR	明赤褐色	良好			無文		内面黒色。		13. P-9
767	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文				15. G-9
768	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通			無文				14. A-8
769	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好	Lr	縦位	熱赤				13. P-9
770	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通	LI	縦位	熱赤				13. Q-9
771	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RR	横位	縄文		反照りの縄文を施文。内面スス付着。		15. G-9
772	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通			縄文		内面縦位の磨き。内面黒色。		15. G-6
773	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通	条線	縦位	沈線	段線	太さ7-8mmの段線が2条対で縦位の区画。内外面スス付着。		13. O-10
774	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で縦位の区画。内面スス付着。		14. B-9
775	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		外面縦位の磨き。ミニチュア土器。		14. D-8
776	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	不良	LR	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。表面の剥離多い。		13. P-13
777	φ1-3mmの小石多量	5YR	明赤褐色	良好	RI	縦位	熱赤		内面黒色。		14. E-7
778	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	不良			無文		内面スス付着。		13. Q-7
779	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	斜位	縄文		内面スス付着。		13. Q-9
780	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内面スス付着。		15. G-9
781	φ1-3mmの小石多量	5YR	赤褐色	普通	LR	横位	縄文		内面スス付着。		13. S-9
782	φ1-3mmの砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	縦位	熱赤		内面スス付着。		15. L-13
783	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線で縦位の区画。区画間は波状沈線が垂下。内面黒色。		13. P-9
784	φ1-3mmの小石多量	5YR	明赤褐色	良好	条線	縦位	沈線		巾6mmの沈線が4本で条線状に施文。内面スス付着。		13. N-10
785	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			竹管		巾3mmの平行沈線が横位に施る。		13. L-11
801	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文		内面スス付着。		無文
802	細かい砂粒多量	7.5YR	褐色	普通			無文		内面スス付着。器台の脚部。		15. E-13
803	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい赤褐色	普通			無文		脚部に透かしが入る。器台の脚部。		13. R-7
804	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通			無文		台付きの深鉢。外面縦位の磨き。		15. A-7
805	細かい砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好			無文				町脇カット部
806	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		脚部に透かしが入る。外面スス付着。器台の脚部。		13. M-10
807	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良			爪形		巾6mmの爪形文を施文。器台の脚部に透かしを持つ。		J谷南壁
808	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		外面縦位の磨き。内面スス付着。		13. S-11

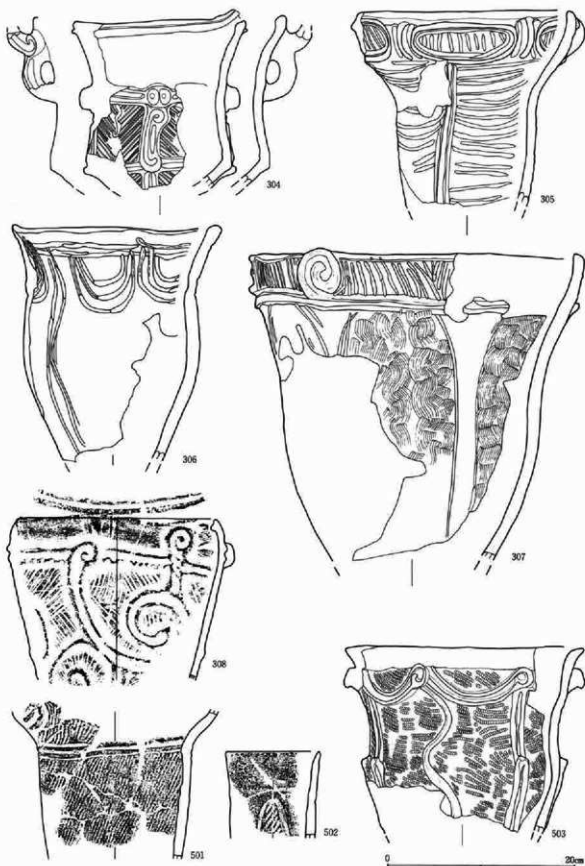
## 第1章 出土遺物の概要

遺構外出土土器調査表

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	備考	出土位置
809	細かい砂粒・雲母	2.5Y	暗灰黄色	普通				沈線	太さ4mmの沈線で縦位の区画。	無文	14. T-9
810	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文		台付きの深鉢の脚部。外面縦位の磨き。内面スス付着。	無文	14. T-9
811	φ1-3mmの小石・黒雲母	7.5YR	褐色	普通				沈線	太さ4mmの沈線で縦位に施文。内面黒色。台付き深鉢の脚部。	無文	14. B-12
812	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	不良				沈線	太さ4mmの沈線の曲線。台付き深鉢の脚部。	無文	15. C-11
813	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	不良					台付き深鉢の脚部。外面磨き。	無文	15. C-11
814	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		内面スス付着。台付き深鉢の脚部。	無文	14. B-11
815	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			無文		外面縦位の磨き。台付き深鉢の脚部。	無文	15. P-8
816	細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良			無文		台付き深鉢の脚部。	無文	13. T-13
817	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文		台付き深鉢の脚部。	無文	14. B-15
818	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通				沈線	太さ5mmの沈線で文様。	無文	14. R-8
819	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		外面縦位の磨き。	無文	13. O-10
820	φ1-3mmの小石・雲母	2.5YR	明赤褐色	良好			無文		内外面スス付着。	無文	13. S-9
821	φ1-3mmの砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文		φ10mmの補修孔を持つ。内面スス付着。	無文	13. M-9
822	細かい砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		外面磨き。	無文	13. Q-10
823	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。内外面スス付着。	無文	13. O-12
824	細かい砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		外面縦位の磨き。	無文	14. S-7
825	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好				沈線	口縁内面に太さ2mmの沈線で二重円とそれに続く直線が施文。	無文	14. S-9
826	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好				沈線	口縁内面に太さ4mmの沈線で渦巻き。	無文	15. G-9
827	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。	無文	13. Q-7
828	細かい砂粒	5YR	赤褐色	普通			無文		口縁下部に段を持つ。胴部は縦位の磨き。	無文	15. B-6
829	φ1-3mmの小石	7.5YR	灰褐色	普通			無文		φ7mmの補修孔を持つ。	無文	15. A-13
830	細かい砂粒	10YR	黒褐色	普通	Lr	縦位	燃赤		φ5mmの補修孔を持つ。	無文	14. S-10
831	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	良好			無文		内外面横位の磨き。内面スス付着。	無文	15. A-7
832	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通			無文		内外面丁寧な磨き。	無文	15. H-10
833	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	良好			無文		赤色塗彩。	無文	13. R-8
834	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通			無文			無文	13. P-7
835	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	良好			無文		φ10mmの孔を持つ。深鉢の突起部。	無文	15. J-9
836	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	Lr	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で文様。	無文	14. S-8
837	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	良好			無文		外面縦位の磨き。	無文	13. Q-7
838	φ1-3mmの小石・片岩	5YR	赤褐色	良好			無文		外面縦位の磨き。内面横位の磨き。	無文	13. P-13
839	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通				隆線	太さ6mmの隆線を斜格子目状に貼付。	無文	13. P-9-Q-7/840同一
840	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通				隆線	太さ6mmの隆線を斜格子目状に貼付。	無文	13. P-9-Q-7/839同一
841	φ1-3mmの小石・黄色軽石	10YR	黒褐色	良好			無文		内面横位の磨き。外面縦位の磨き。	無文	15. G-6
842	細かい砂粒	7.5YR	褐色	不良				沈線	太さ3mmの沈線で渦巻き文。四方にφ7mmの孔が開く。	無文	14. B-8
843	φ1-5mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通			無文		φ20mmの透かしが上方から下方へ開く。	無文	13. Q-11

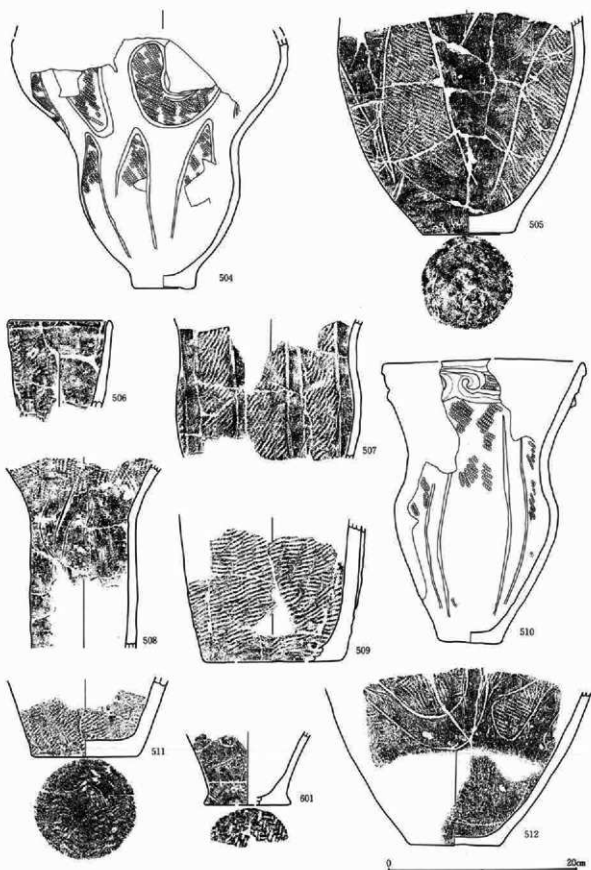


第282図 遺構外出土土器-1

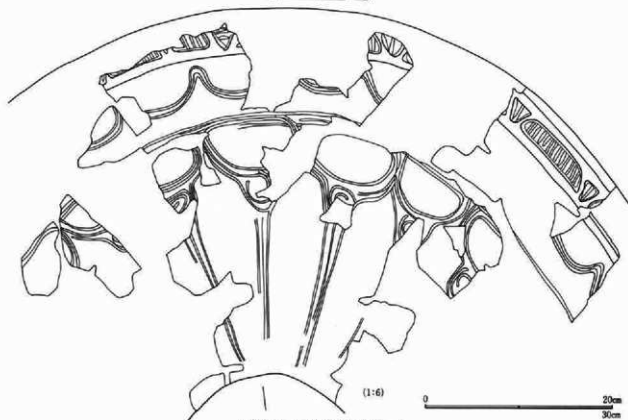
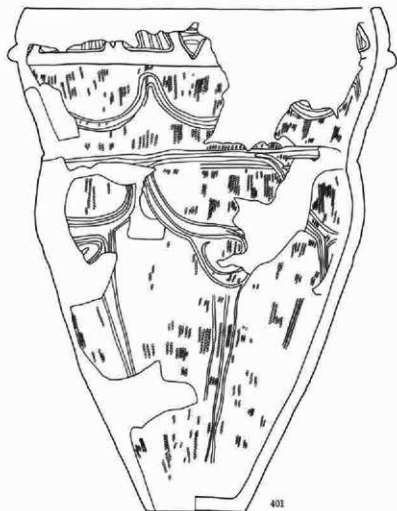


第283図 遺構外出土土器-2

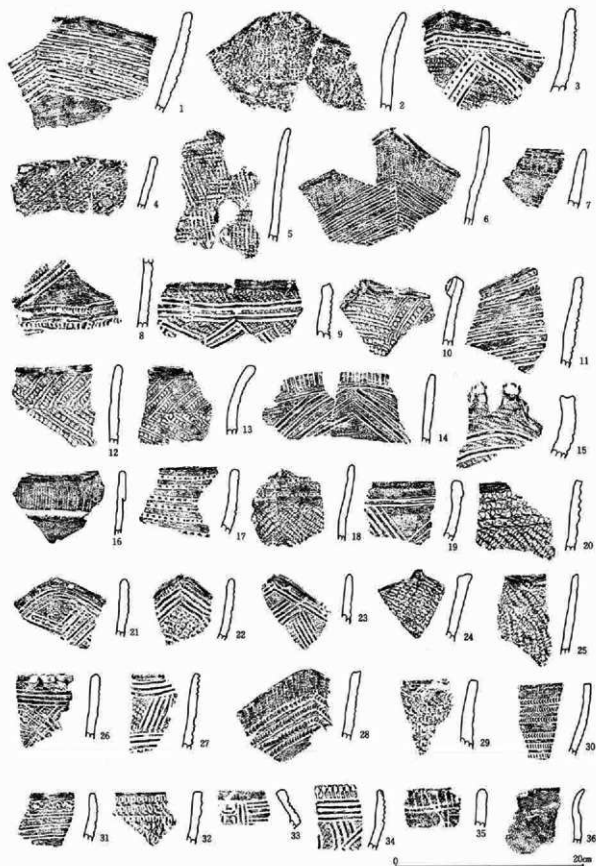




第284図 遺構外出土土器-3

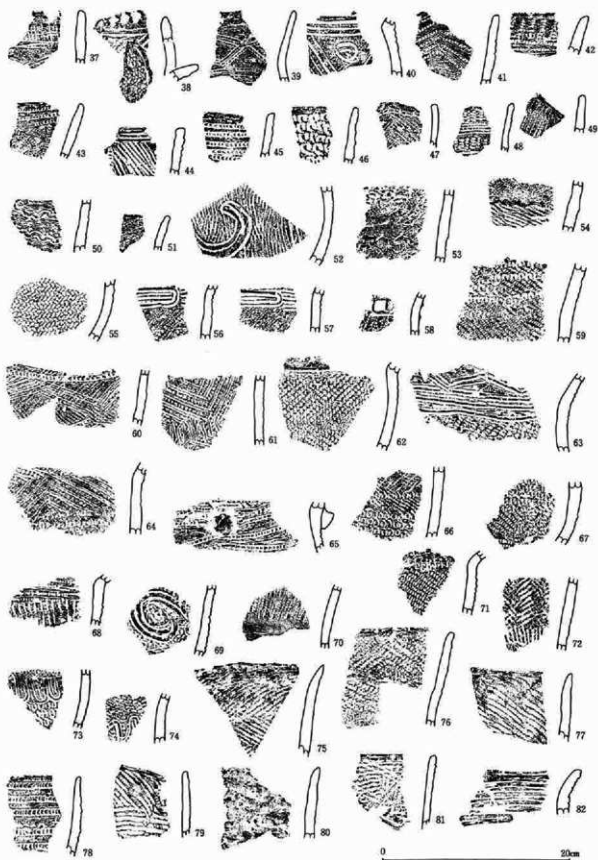


第285圖 遺構外出土器-4

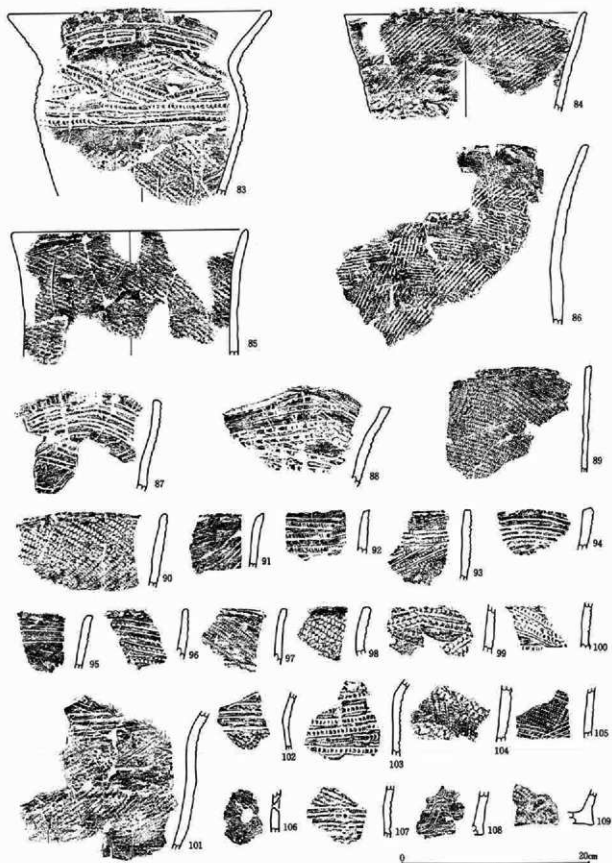


第286図 遺構外出土土器-5

第1章 出土遺物の概要

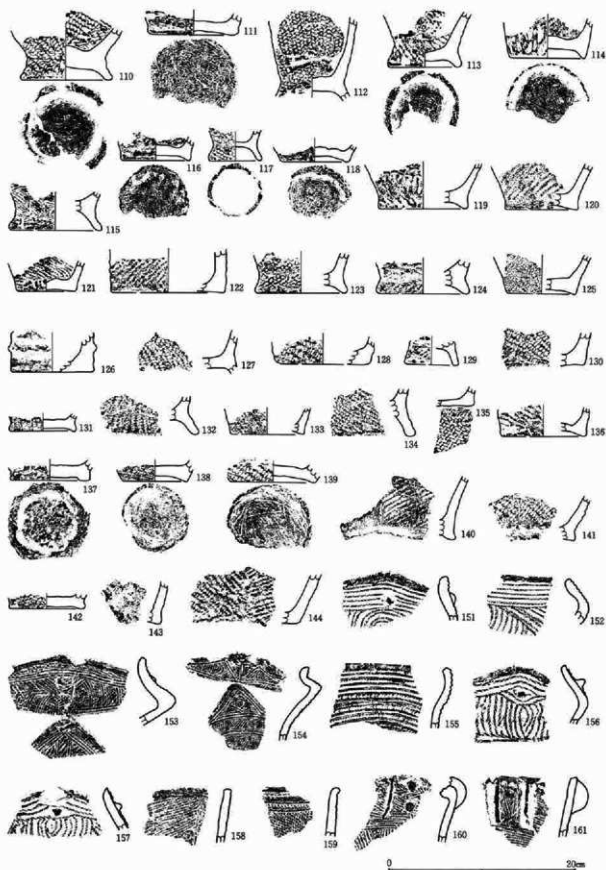


第287図 遺構外出土土器-6

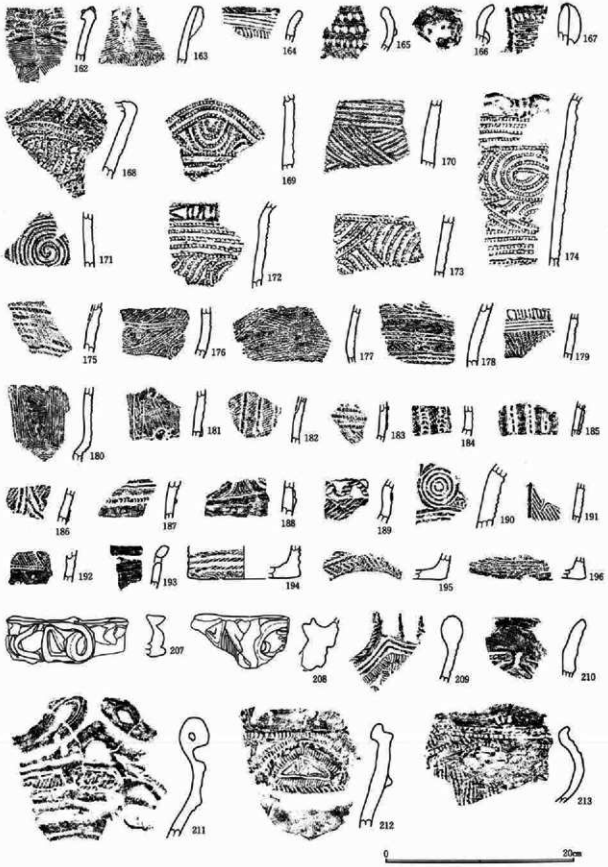


第288図 遺構外出土土器-7

第1章 出土遺物の概要



第289回 遺博外出土土器-8



第290圖 遺構外出土土器-9

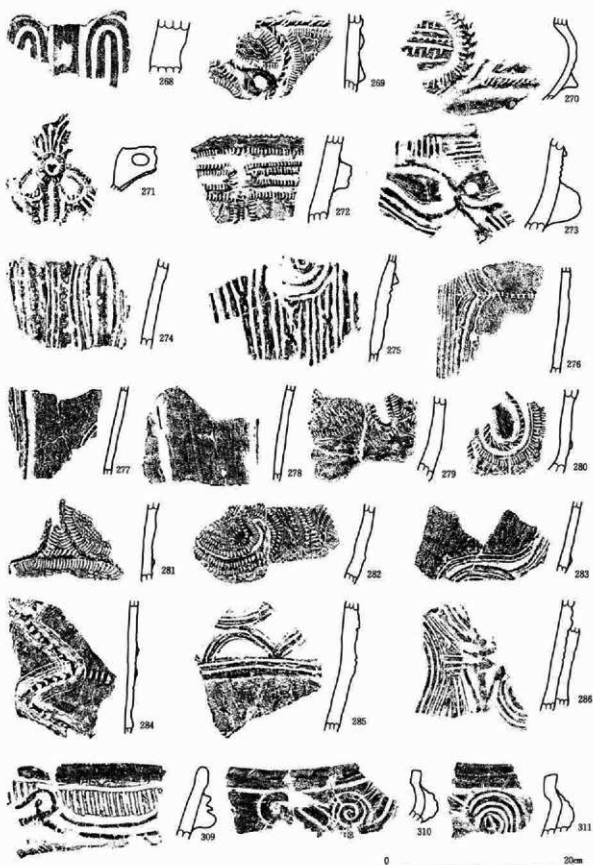


第291図 遺構外出土土器-10





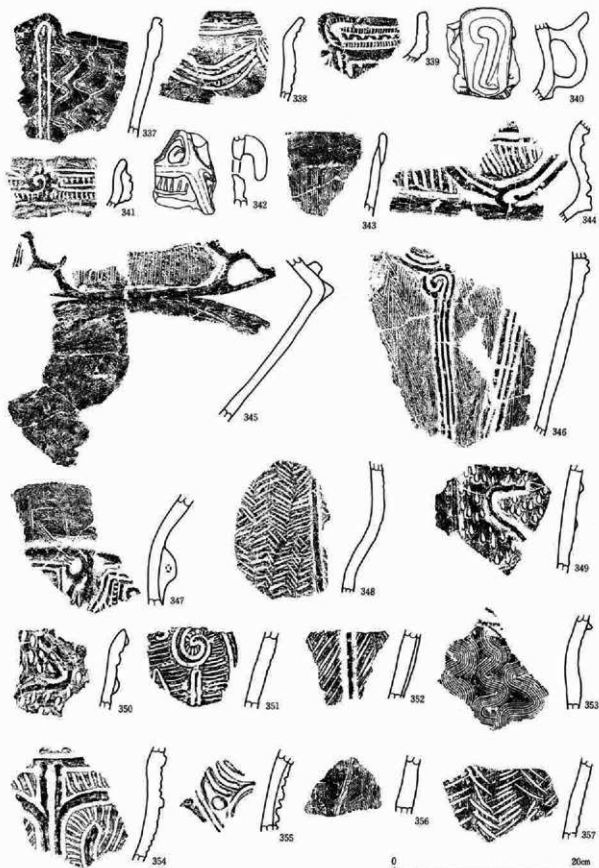
第292図 遺構外出土土器-11



第293図 遺構外出土土器-12



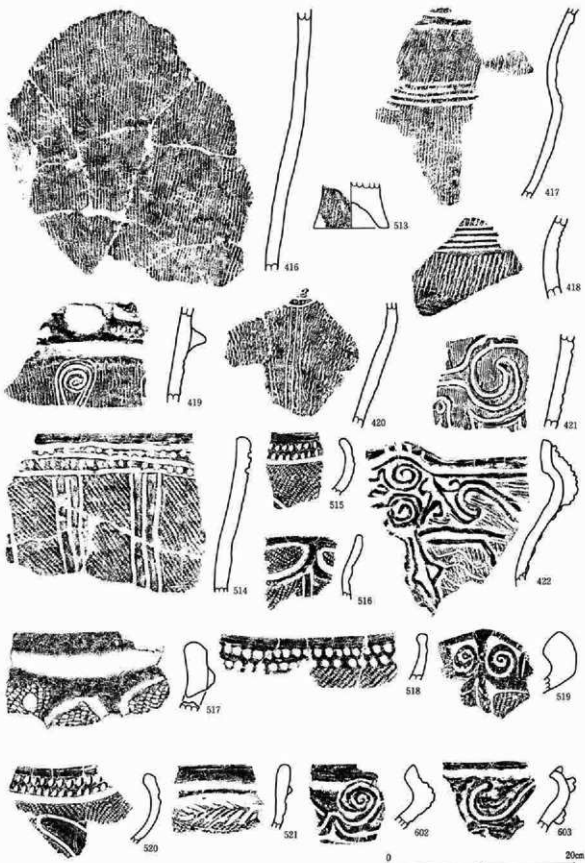
第294図 遺構外出土土器-13



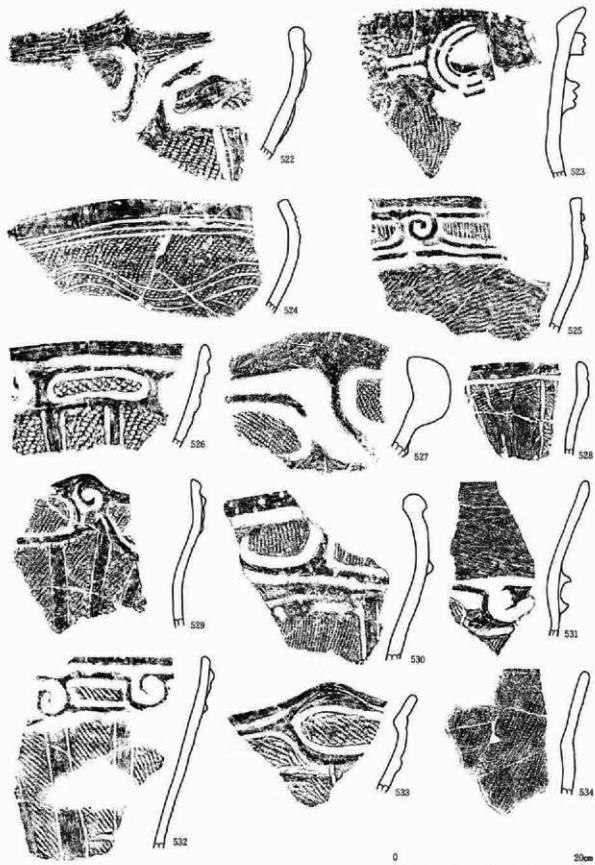
第295図 遺構外出土土器-14



第296図 遺構外出土土器-15



第297図 遺構外出土器-16

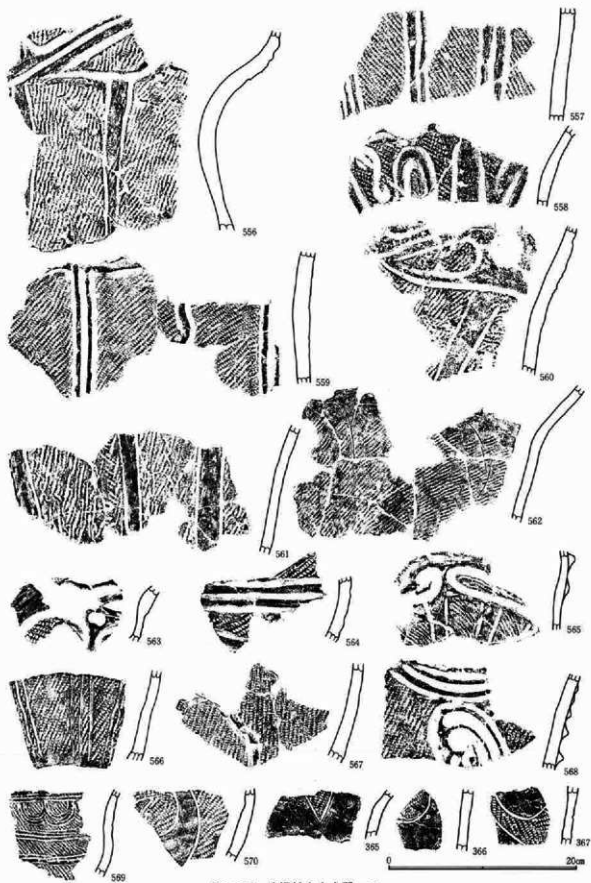


第298図 遺構外出土器-17



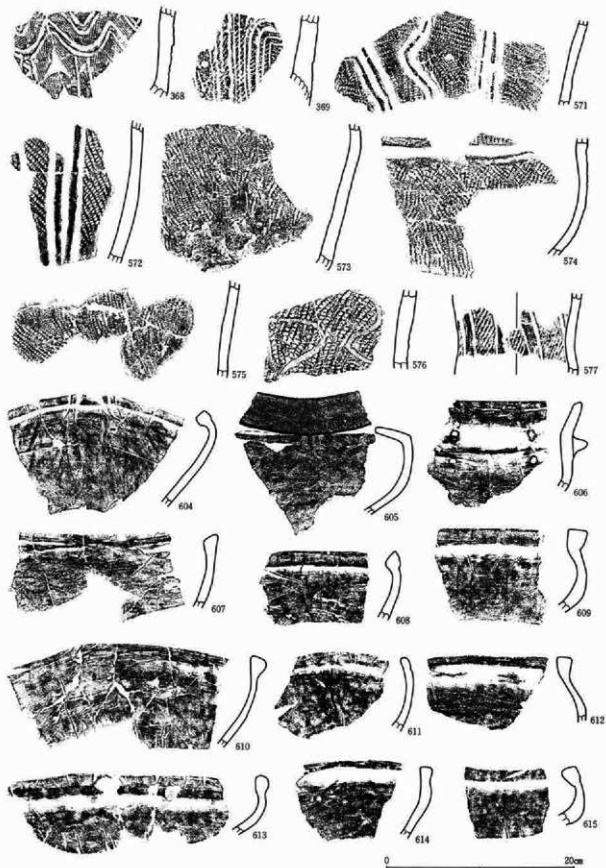
第299図 遺構外出土土器-18





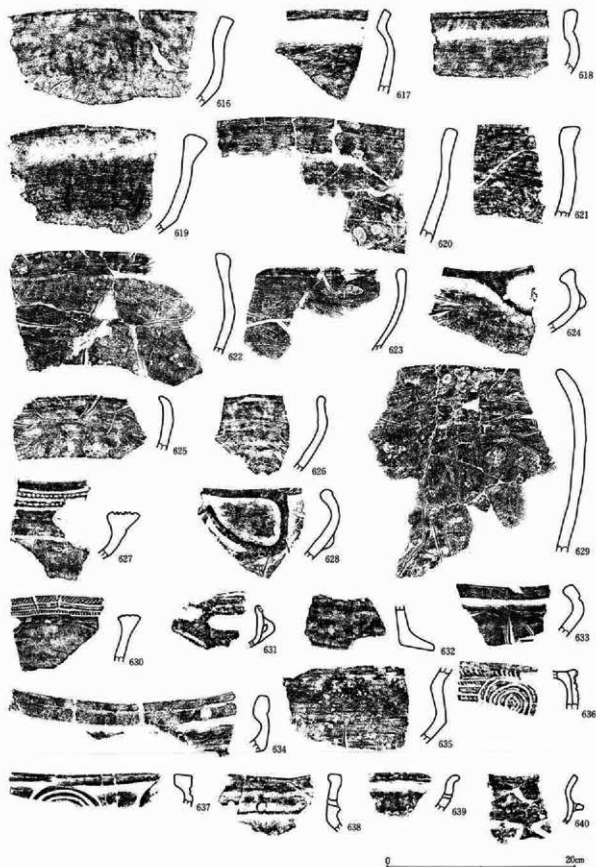
第300図 遺構外出土土器-19

第1章 出土遺物の概要

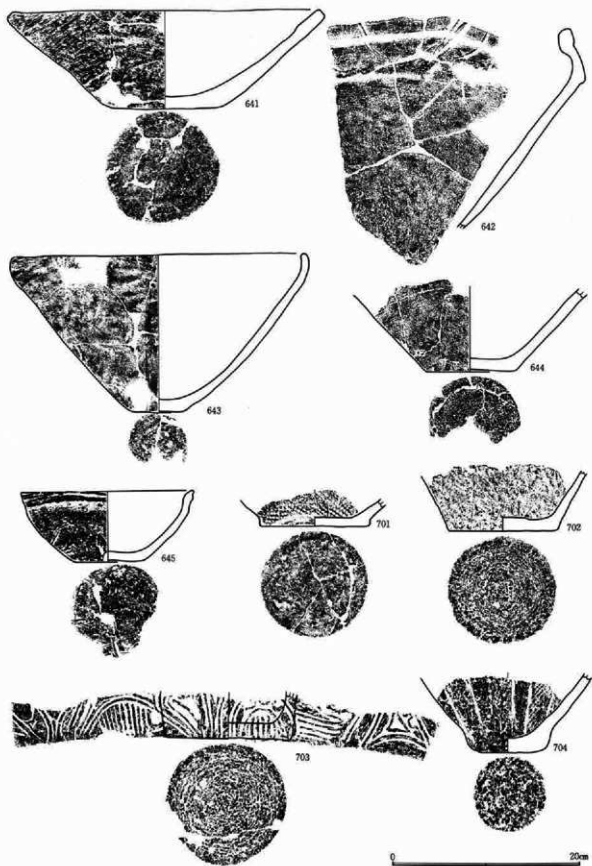


第301図 遺構外出土土器-20

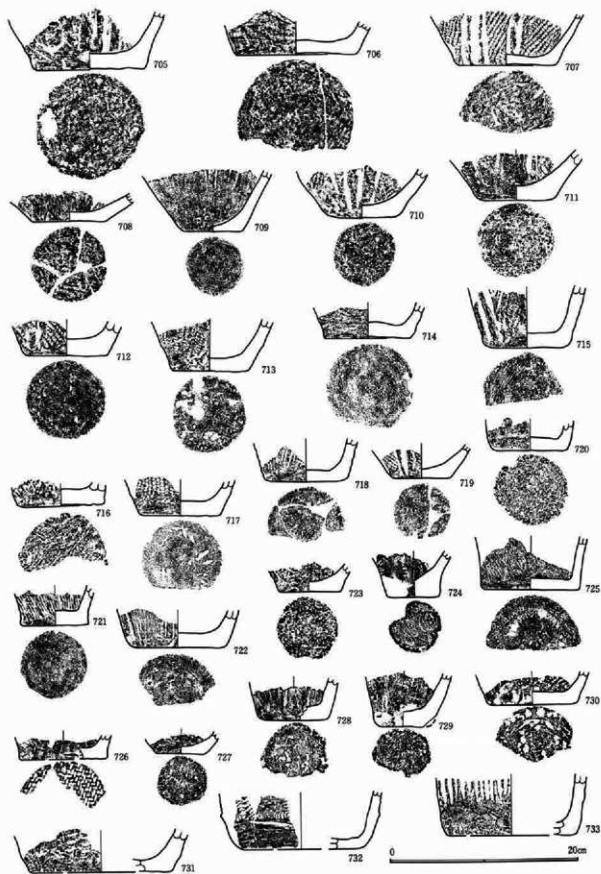
第3節 遺構外の出土遺物



第302図 遺構外出土土器-21

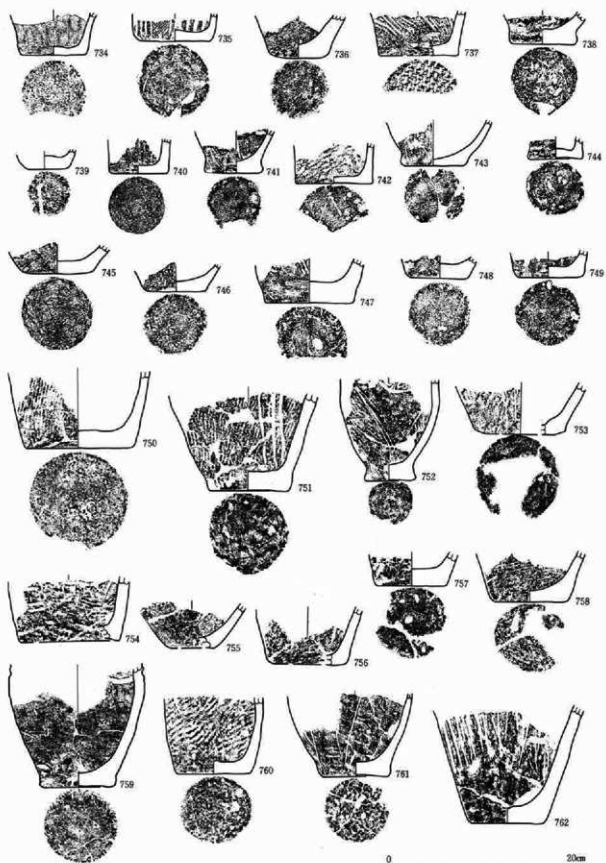


第303図 遺構外出土土器-22

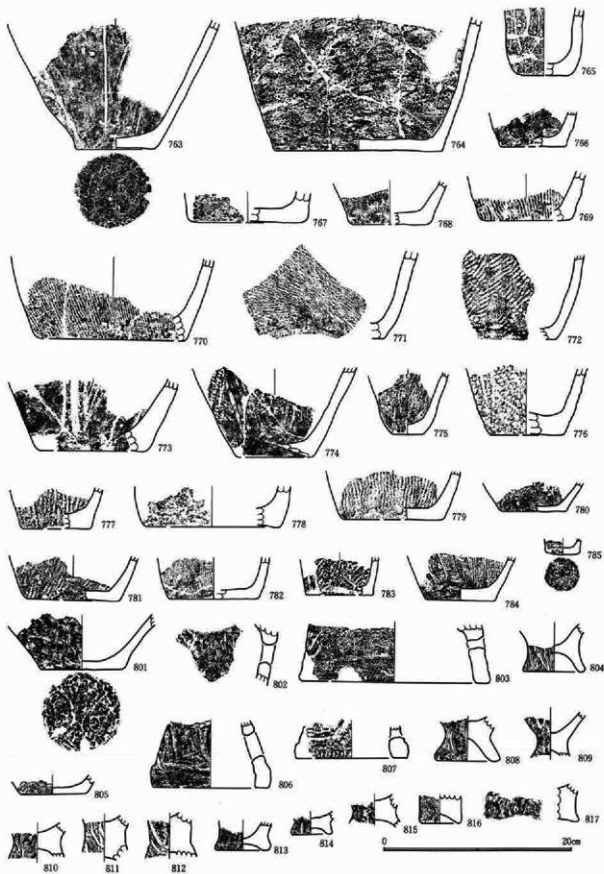


第304図 遺構外出土土器-23

第1章 出土遺物の概要

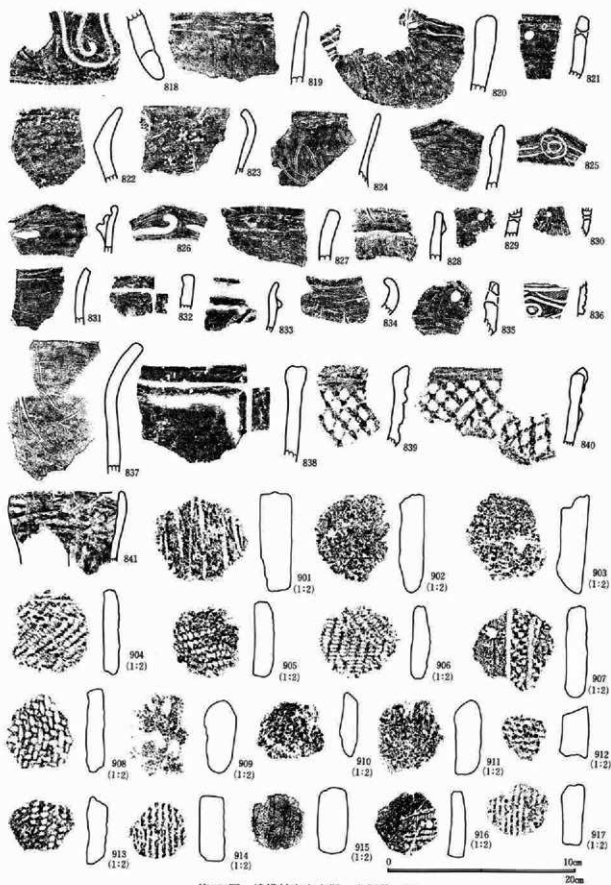


第305図 遺構外出土土器-24



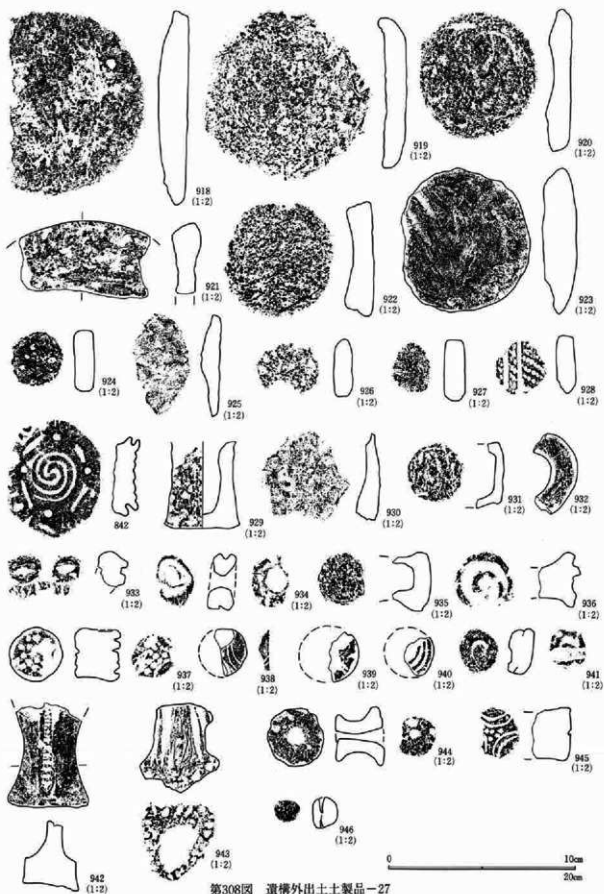
第306図 遺構外出土土器-25

第1章 出土遺物の概要



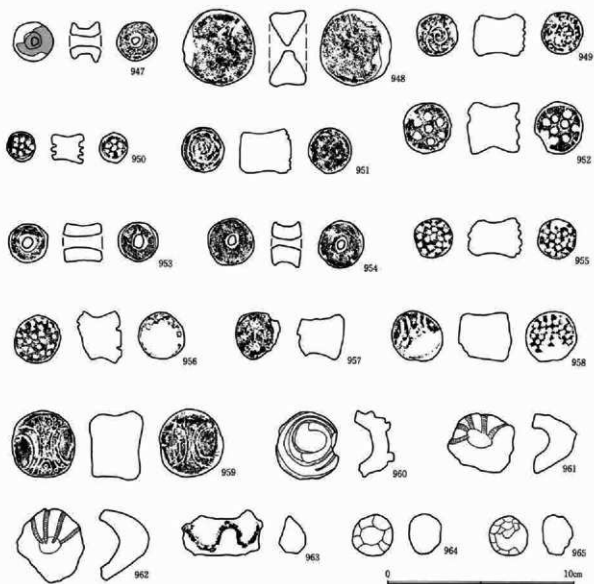
第307図 遺構外出土土器・土製品-26



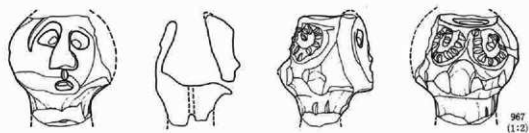
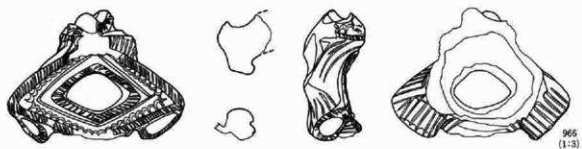


第308図 遺構外出土土製品-27

第1章 出土遺物の概要



第309図 遺構外出土耳飾り・土製品-28



第310図 遺構外出土土偶・土製品-29

## 第1章 出土遺物の概要

遺構外出土土製品調査表

番号	種別	胎土	色記号	色調	焼成	施文 原体	施文 方向	文様の特徴	出土位置・番号
901	土製円盤	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	褐色	不良			太さ2mmの沈線が施文。深鉢の胴部を転用。無文。	13.Q-8
902	土製円盤	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通			深鉢の胴部を転用。無文。	13.T-12
903	土製円盤	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通			深鉢の胴部を転用。無文。	13.O-11
904	土製円盤	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好	LR-Lr	横位	深鉢の胴部を転用。溝状口式土器。	13.N-9
905	土製円盤	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	深鉢の胴部を転用。	表採
906	土製円盤	φ1-3mmの小石・繊維	5YR	明赤褐色	普通	RL-LR	横位	有地式土器の深鉢を転用。	15.O-12
907	土製円盤	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL		太さ3mmの沈線と縄文が施文。深鉢の胴部を転用。	15.B-12
908	土製円盤	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好			深鉢の胴部を転用。	14.C-7
909	粘土塊	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通			粘土を丸めたもの。	13.
910	土製円盤	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	良好			深鉢の胴部を転用。	14.T-4
911	土製円盤	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通			深鉢の胴部を転用。	15.B-2
912	土製品	φ1-3mmの砂粒	5YR	赤褐色	良好	RL		深鉢の胴部を転用。	13.N-10
913	土製円盤	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	横位	深鉢の胴部を転用。	15.B-9
914	土製円盤	細かい砂粒多量	7.5YR	にぶい褐色	普通	KI	横位	深鉢の胴部を転用。	15.1-9
915	土製円盤	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			深鉢の胴部を転用。	13.O-9
916	土製円盤	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	横位	深鉢の胴部を転用。	15.E-7
917	土製円盤	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	Lr		深鉢の胴部を転用。	13.N-10
918	土製円盤	φ1-4mmの小石	5YR	にぶい褐色	普通			深鉢の底部を転用。無文。	13.O-12
919	土製円盤	φ1-3mmの小石多量	7.5YR	にぶい褐色	不良			深鉢の底部を転用。無文。	13.R-13
920	土製円盤	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通			深鉢の底部を転用。無文。	14.S-9
921	盤状土製品	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	普通			無文。	13.M-11
922	土製円盤	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通			深鉢の底部を転用。無文。	13.P-7
923	土製円盤	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通			深鉢の底部を転用。無文。	包含層
924	土製円盤	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好			深鉢の胴部を転用。	
925	土製品	細かい砂粒・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好			深鉢の胴部を転用。	14.S-8
926	土製円盤	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	褐色	不良			深鉢の胴部を転用。	13.N-12
927	土製円盤	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好			深鉢の胴部を転用。	13.M-9
928	土製円盤	細かい砂粒	7.5YR	褐色	普通	RL		深鉢の胴部を転用。	13.Q-7
929	手づくね	φ1-3mmの小石	2.5YR	明赤褐色	普通			無文の手づくね土器。外面利落多い。	13.N-10
930	土製品	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通			スプーン状の形。無文。	13.N-12
931	手づくね	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通				13.Q-7
932	土製品	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通			粘土粒が弧状になる。	包含層
933	土製品	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	良好			粘土粒を丸めて目玉状にして3つ接続。	
934	耳飾り	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通			φ6mmの通かしが中央に開く。	14.T-7
935	手づくね	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通				15.J-9
936	耳飾り	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通			粘土粒を渦巻き状に貼付。	J谷南塚
937	耳飾り	細かい砂粒	5YR	褐色	良好			弧線を描いた中に刺突を加える。	13.Q-8
938	耳飾り	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好			弧線が描かれる。	13.Q-R-15
939	耳飾り	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好			大部分欠損。	13.Q-7
940	耳飾り	細かい砂粒	5YR	赤褐色	良好			太さ2mmの沈線が円を重ねて描く。	13.
941	土製品	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良好			粘土粒を渦巻き状に丸めたもの。	15.K-9
942	土偶足	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好			三角柱状の形で幅広くりになり安定している。	13.P-9
943	土製品	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通			断面三角形に太さ2mmの沈線の文様を貼付。	15.C-11

## 第3節 遺構外の出土遺物

遺構外出土土製品観察表

番号	類別	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	文様の特徴	出土位置・備考
944	耳飾り	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	普通			中心部にφ6mmの孔が貫通。 太さ2mmの沈線が3組で2重 の弧を描き中央に刺突を加 える。 φ2-3mmの孔が貫通。	13.Q-7
945	耳飾り	細かい砂粒	5YR	明赤褐色	良好				13.C-9
946	土玉	細かい砂粒	5YR	にぶい褐色	良好			中心部にφ6mmの孔が貫通。 太さ2mmの沈線が3組で2重 の弧を描き中央に刺突を加 える。 φ2-3mmの孔が貫通。	13.P-10
947	耳飾り		10YR	にぶい黄褐色					
948	耳飾り		7.5YR	にぶい褐色					
949	耳飾り		5YR	にぶい赤褐色					
950	耳飾り		5YR	明赤褐色					
951	耳飾り		7.5YR	褐色					
952	耳飾り		5YR	にぶい赤褐色					
953	耳飾り		5YR	赤褐色					
954	耳飾り		10YR	にぶい黄褐色					
955	耳飾り		7.5YR	にぶい褐色					
956	耳飾り		7.5YR	にぶい褐色					
957	耳飾り		10YR	にぶい黄褐色					
958	耳飾り		5YR	にぶい赤褐色					
959	耳飾り		5YR	明赤褐色					
960	耳飾り		7.5YR	にぶい褐色					
961	耳飾り		10YR	褐色					
962	耳飾り		7.5YR	明褐色					
963	耳飾り		10YR	にぶい黄褐色					
964	耳飾り		7.5YR	にぶい褐色					
965	耳飾り		7.5YR	にぶい褐色					
966	深鉢	把手	7.5YR	にぶい褐色			土質頭部		
967	土偶		5YR	にぶい赤褐色					
968	不明		7.5YR	にぶい褐色					

## 第1章 出土遺物の概要

13区 グリッド石器観察表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
F	1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	26.8	17.8		5900		F-7
F	2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	28.8	24.3		13300		F-10
F	3	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	22.8	16.5	15.4	5000		F-7
K	1	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.1	4.8	1.3	70		K-10
L	1	磨-礫石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に敲打痕。表裏に磨面。磨一磨。	11.9	7.2	4.9	620		L-11
L	2	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹み。表裏に磨面。磨一凹。	11.3	6.7	4.7	450		L-10
L	3	砥石	短冊形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に作業面。頭部にφ8mmの孔。	5	5.1	1.7	30	欠損	L-12
L	4	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.6	2.4	70	欠損	L-10
L	5	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	4.9	1.7	50	欠損	L-10
L	6	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	刃部片面調整。横断面カマボコ状。	7	7.7	2	130	欠損	L-10
L	7	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.8	3.9	1.2	40		L-11
L	8	打製石斧	楕形	熱変成結晶片岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.6	6.2	2	210		L-10
L	9	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	3.7	1.4	40	基部欠損	L-11
L	10	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	5.3	2.2	100	刃部欠損	L-11
L	11	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	刃部片面調整。横断面カマボコ状。	7.7	7.5	2.8	190	基部欠損	L-12
M	1	石棒	棒形	黒色片岩		21.9	6.3	5.3	1190	欠損	M-9
M	2	石皿	一形	緑色片岩	石皿作業面は平坦。	11.4	6	2.1	170	欠損	M-9
M	3	凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。	9	6.5	4.6	350		M-9
M	4	投擲	球形	粗粒輝石安山岩		4.8	4.3	3.8	90		
M	5	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。	7.7	6.1	3.4	210		M-9
M	6	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	6.8	6.5	3.3	180		M-9
M	7	磨石	楕形	黒色片岩	側面に敲打痕。	7.6	3.3	1.8	60	欠損	M-10
M	8	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	7.3	6.6	2.8	220		M-9
M	9	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。	6.6	5.7	4	200		M-9
M	10	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	11.8	8.3	4.2	650		M-10
M	11	磨石	球形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	8.5	8.1	6.3	490		M-9
M	12	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏・側面に磨面で使をもつ。凹一磨。	8.3	5.4	4	260	欠損	M-9
M	13	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.2	4.4	1.6	60	基部欠損	M-10
M	14	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏・側面に磨面で使をもつ。凹一磨。	8.5	6	5.4	340	欠損	M-9
M	15	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.2	3.5	1.9	50		M-11
M	16	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	13.7	5.9	2.3	220		M-12
M	17	スクレイパー	楕形	粗粒輝石安山岩	一側面に片面調整の刃部。	11.4	5.9	2.8	190		M-9
M	18	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.9	5	1.3	60	刃部欠損	M-9
M	19	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.4	5.5	2.2	160	刃部欠損	M-12
M	20	スクレイパー	楕形	黒色頁岩	一側面に片面調整の刃部。	6	4.3	1.4	30		M-11
M	21	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.1	4.2	1.5	20	両端欠損	M-9
M	22	垂飾	楕形	安玄武岩	表裏・両側面に磨面し使をもつ。頭部にφ6mmの穿孔。	7	4	0.7	30		M-11
M	23	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.2	5.3	1.6	90	刃部欠損	M-11
M	24	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマボコ状。	9.9	5.3	1.9	110		M-10
M	25	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	5	1.9	80	基部欠損	M-10
M	26	磨製石斧	定角式	安玄武岩	横断面隅丸方形。	3.4	5.3	2.2	40	基部欠損	M-10
N	1	磨-礫石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。表・側面に敲打痕。磨一磨。	17	10.7	5.6	1750		N-9
N	2	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	13.5	8.9	4.2	640		N-10
N	3	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	11.2	8.3	4	500		N-10
N	4	磨-凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に細長い溝状の凹み。表裏・側面に磨面で使をもつ。磨一凹。	13.4	8.5	6.2	1000		N-9
N	5	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	10.1	7.8	3.5	420		N-9
N	6	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	10.5	7.2	5.5	570	欠損	N-12
N	7	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	11.5	6.2	3.6	410		N-10
N	8	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	9.6	6.6	4.9	390		N-12
N	9	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	9.1	8.5	3.5	410		N-11

13区 グリッド石器観察表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
N	10	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	7.6	12.5	4.8	640		N-10
N	11	磨-凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	11.1	7.1	4.7	560	欠損	N-10
N	12	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏に磨面。凹一磨。	9	6.1	4.8	420	欠損	N-9
N	13	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	10.3	5.4	3.2	260		N-9
N	14	磨石	長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	10.7	7.6	4.4	730	欠損	N-10
N	15	投擲	卵形	粗粒輝石安山岩		5.7	4.9	4.9	150		N-9
N	16	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏は円錐形の凹み。	14.1	10.3	6.3	1030	欠損	N-9
N	17	石皿	一	緑色片岩	石皿作業面は凹面。	14.4	8.1	4.8	650	欠損	N-10
N	18	磨石	一	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	9.4	7.3	4.1	400	欠損	N-12
N	19	砥石	不定形	牛伏砂岩	表裏に細い溝状の作業痕。	13.3	9.7	3.4	400		N-12
N	20	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.1	5.8	2.3	160	刃部欠損	N-10
N	21	打製石斧	盤形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	12.2	5.8	2.7	230		N-9
N	22	打製石斧	盤形	粗粒輝石安山岩	両面調整。側面に抉り。横断面レンズ状。	11	9.2	3.2	310	基部欠損	N-10
N	23	打製石斧	盤形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.3	4.8	1.2	60		N-9
N	24	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	10.1	4.1	1.4	70	刃部欠損	N-9
N	25	打製石斧	盤形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.9	4.5	1.6	80		N-9
N	26	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.4	4.7	1.4	60	刃部欠損	N-9
N	27	打製石斧	盤形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	5.1	2.2	90	刃部欠損	N-9
N	28	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。側面に抉り。横断面レンズ状。	5.8	3.3	0.9	20		N-9
N	29	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6	2.9	1.6	50	刃部欠損	N-10
N	30	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	3.9	1.8	60	刃部欠損	N-10
N	31	打製石斧	短冊形	カムンフェルス	両面調整。横断面レンズ状。	6.7	3.7	1.7	50	刃部欠損	N-10
N	32	打製石斧	盤形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	5.6	2	90	基部欠損	N-9
N	33	石匙	縦長	黒色頁岩	両面調整。	4.1	3.5	1	20	刃部欠損	N-10
N	34	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.2	3.9	1.4	40	両端欠損	N-12
N	35	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.4	4.3	1.8	40	刃部欠損	N-10
N	36	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5	3.8	2	30		N-12
N	37	打製石斧	短冊形	安質玄武岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	8.9	5	2.5	140		N-11
N	38	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9	5.2	1.9	110		N-11
N	39	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	8.2	4.5	1.5	70		N-9
N	40	打製石斧	短冊形	雲はんれい岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	5.7	2.1	110	刃部欠損	N-9
N	41	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。両面に抉り。横断面レンズ状。	9.4	5.8	2.7	180		N-9
N	42	打製石斧	盤形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7	4.7	1.8	70	刃部欠損	N-9
N	43	打製石斧	盤形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	9.9	3.9	1.3	60		N-10
N	44	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両端面に片面調整の刃部。	8.4	5.2	0.9	50		N-12
N	45	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	4.3	2.3	90		N-12
N	46	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	5	2.2	80	刃部欠損	N-9
N	47	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	刃部片面調整。	6.7	3.3	1.2	20		N-12
N	48	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	3.3	1.1	40	刃部欠損	N-12
N	49	スクレイパー	横長	黒色頁岩	刃部片面調整。	4.6	5.2	1.1	40		N-12
N	50	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面使用によるはこぼれ。	4.8	10.1	1	50		N-12
N	51	磨製石斧	定角式	頁岩	表裏・側面を研磨し様をつくる。横断面隅丸長方形。	4.9	1.9	1	10	刃部欠損	N-13
O	1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	22	20.5	6.1	2700		O-12
O	2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	10.7	13.4	7	1160		O-13
O	3	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。凹みの周囲に敲打痕。	23.4	17.8	6	3800		O-9
O	4	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	11.4	13	6.4	1150		O-10

## 第1章 出土遺物の概要

13区 グリッド石器観覧表

グリッド番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド	
	0	5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	29.4	19.8	10	7800		0-9
	0	6	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	11	11.2	6	750		0-10
	0	7	石皿	不定形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は平坦。	12.3	18.8	7.3	2410		0-13
	0	8	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	7.6	5.3	4.5	170		0-13
	0	9	四石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	7.9	11.4	4.1	340		0-10
	0	10	丸石	球形	石閃緑岩	表面は磨かれる。	15.2	13.8	11	2400		0-9
	0	11	石皿	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	14.5	8	6.3	680	欠損	0-13
	0	12	敲石	扁平な棒形	黒色片岩	側面に敲打痕。	7.4	3.6	2.3	80		0-9
	0	13	四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に円錐形の凹み。	11.6	7.6	3.7	350		0-10
	0	14	磨・四石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹みと磨面。磨一凹。	10.6	7.7	4.5	360		0-9
	0	15	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面で使をもつ。	9.1	5.9	4.8	430	欠損	0-9
	0	16	磨・凹・敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹みと磨面。側面に敲打痕。凹一磨。	9.7	7.7	4.3	500		0-9
	0	17	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	側面に磨面で使をもつ。	7.2	7.5	4.1	330		0-10
	0	18	磨・四石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	10	7.3	3.3	250	欠損	0-13
	0	19	敲石	不定形	牛伏砂岩	砥石作業面は凹面。	6.4	7.3	2.3	90		0-10
	0	20	四石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	9.2	8.4	5.2	520	欠損	0-13
	0	21	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。表裏に磨面。	8	5.1	3.4	220		0-10
	0	22	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	7.3	8.3	5.4	420		0-10
	0	23	不明石製品	扁平隅丸長方形	緑色片岩		10.4	4.8	1.2	110		0-10
	0	24	磨・四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	側面に溝状の凹み。表裏・側面に磨面で使をもつ。	9	9.5	4.5	600	欠損	0-10
	0	25	敲石	扁平な棒形	黒色片岩	側面に敲打痕。	10.2	3.1	1.4	80		0-9
	0	26	敲石	扁平な棒形	黒色片岩	側面に敲打痕。	12.1	2.7	1.5	80		0-9
	0	27	敲石	棒形	黒色片岩	側面に敲打痕。	11.6	4.8	2.7	210	欠損	0-10
	0	28	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	4.6	3.6	2.7	60		0-9
	0	29	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.2	4.4	2.2	70		0-9
	0	30	磨石	扁平な棒形	緑色片岩	側面に敲打痕。	8.8	3.9	1	70		0-9
	0	31	投擲	卵形	粗粒輝石安山岩		4.6	3.9	3.5	70		0-10
	0	32	砥石	隅丸方形	凝灰質砂岩	砥石作業面は平坦。	5.5	3.8	2.7	60		0-10
	0	33	投擲	卵形	粗粒輝石安山岩		4	4.4	3.4	70	欠損	0-10
	0	34	敲石	扁平な棒形	緑色片岩	側面に敲打痕。	6.9	2.8	1.7	60		0-9
	0	35	打製石斧	梨形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。	11.8	6	2.3	180		0-9
	0	36	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.4	4.1	1.7	80		0-9
	0	37	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	10.3	4.9	1.7	90		0-9
	0	38	打製石斧	短棒形	珪質頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	9	3.4	1.7	60		0-9
	0	39	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	8.1	5	1.9	80	基部欠損	0-9
	0	40	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.5	4.6	2.4	130	刃部欠損	0-10
	0	41	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	10.8	3.9	2	90		0-10
	0	42	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.8	5.7	1.8	80		0-10
	0	43	打製石斧	梨形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11	5.5	2.1	70	刃部欠損	0-10
	0	44	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面カマゴコ状。	8.7	4.5	2.1	80	刃部欠損	0-10
	0	45	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.8	4.8	2.3	140	刃部欠損	0-10
	0	46	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	8.1	4.6	1.2	60	基部欠損	0-10
	0	47	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	8.4	4.5	1.4	70	基部欠損	0-10
	0	48	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.1	4.8	2.1	110	刃部欠損	0-10
	0	49	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	9.2	3.5	1.3	40		0-13
	0	50	打製石斧	梨形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	9.2	5.3	2	90		0-10
	0	51	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	9.4	5.4	1.8	100	基部欠損	0-10
	0	52	打製石斧	梨形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	7.8	6.3	2.2	120	基部欠損	0-10
	0	53	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4	1.3	40	両端欠損	0-10
	0	54	打製石斧	短棒形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	4.7	1.5	60		0-9
	0	55	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。	6.5	4.4	1.5	60	基部欠損	0-10



## 第3節 遺構外の出土遺物

13区 グリッド石器観察表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
O	56	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.9	4.6	1.3	60	両端欠損	O-9
O	57	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	5.3	1.8	80	両端欠損	O-9
O	58	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。刀部磨滅。横断面レンズ状。	5.7	4.5	1.7	50	基部欠損	O-9
O	59	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.7	4.5	1.4	30	基部欠損	O-9
O	60	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.6	4.5	1.5	50	両端欠損	O-10
O	61	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.5	1.4	50	刃部欠損	O-10
O	62	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。	7.1	4.4	2	60	刃部欠損	O-10
O	63	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。	9.4	6.9	1.5	110	両端欠損	O-10
O	64	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.7	5	1.7	60	両端欠損	O-10
O	65	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.4	3.7	1.9	60	刃部欠損	O-10
O	66	スクレイパー	縦長	細粒輝石安山岩	側面に片面調整の刃部。	9.1	5.2	1.4	90		O-11
O	67	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に押圧剝離による片面調整の刃部。	8.5	4.1	1.5	50		O-13
O	68	磨製石斧	定角式	安立武岩	表裏・側面を研磨し稜をもつ。横断面隅丸長方形。	10.5	5.1	2.5	210	刃部欠損	O-9
O	69	磨製石斧	定角式	安立武岩	両側面研磨し稜をつくる。横断面レンズ状。	7.2	5.8	2.7	170		O-9
O	70	磨製石斧	定角式	蛇紋岩	表裏・側面を研磨し稜をもつ。	3.5	1.3	0.8	10	刃部欠損	O-9
O	71	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両側面に押圧剝離による片面刃部。	4.6	9.8	1.2	60		O-10
O	72	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に押圧剝離による片面調整の刃部。	8.7	6.3	1.4	60		O-11
O	73	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	3.8	1.4	40		O-9
O	74	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に押圧剝離による片面調整の刃部。	5.2	6.4	1.2	40		O-9
O	75	石鏝	—	黒曜石	側面に押圧剝離。横断面レンズ状。	1.4	1.1	0.4	0.8	基部欠損	O-9
O	76	石鏝	横長	黒色頁岩	側面に押圧剝離による片面刃部。	4.2	5	0.4	10		O-10
O	77	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に両面調整の刃部。	4.4	2.9	0.7	10		O-10
O	78	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に使用によるほこげれ。	5.6	3.1	0.9	20		O-9
O	79	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に片面調整の刃部。	4.8	6.1	1.2	40		O-9
O	80	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に使用によるほこげれ。	5.4	5	1.1	30		O-10
O	81	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に使用によるほこげれ。	5.9	5.3	1.5	50		O-10
P	1	石鏝・多孔石	—	角閃石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。石皿の転用。	16	15	10	1650	欠損	P-8
P	2	石鏝・多孔石	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。石皿の転用。	9	10	5	650	欠損	P-9
P	3	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	22.4	15.2	10.2	3300	欠損	P-9
P	4	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	16	8.2	13.6	1700		P-9
P	5	石鏝・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	16.2	14.4	7.6	2500	欠損	P-8
P	6	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に深い凹みと磨面。凹一磨。	10.8	8.4	5.6	640		P-9
P	7	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に深い凹みと磨面。凹一磨。	8.6	8.6	5.9	390		P-9
P	8	磨石	三角柱形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。	15.5	6.1	4	430		P-8
P	9	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	13.8	14.1	7.7	1690	欠損	P-10
P	10	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に深い凹みと磨面。側面に敲打痕。磨一凹。	12.6	7	3.7	360		P-8
P	11	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。	11.8	5.9	5.1	530	欠損	P-11
P	12	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	9.1	8.4	4.2	370		P-7
P	13	磨・磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。表裏・側面に磨面。磨一磨。	7.5	7.6	4.4	350	欠損	P-9
P	14	磨製石斧	定角式	粗粒輝石安山岩	表裏・側面研磨による稜。	7.2	7.1	4	320	欠損	P-9
P	15	磨・凹石・磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に深い凹みと磨面。側面に敲打痕。磨一凹。	10.6	8	4.6	510		P-8
P	16	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。側面に溝状の凹み。	9.5	6.1	4.1	310		P-7
P	17	凹石	隅丸三角形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	9.9	7	3.4	280		P-9
P	18	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	11	5.4	3.3	270		P-10
P	19	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面。	8.4	5	2.3	170	表面欠損	P-9

## 第1章 出土遺物の概要

13区 グリッド石器観覧表

グリッド番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
P 20	磨-四石	楕円形	緑色片岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	9.4	7.2	3.7	430		P-10
P 21	磨-四石	楕円形	楕粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	6.2	7.4	3.9	220		P-10
P 22	磨-四石	楕円形	楕粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹→磨。	9.7	6.9	2.3	170	裏面欠損	P-9
P 23	磨-四石	卵形	楕粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏に磨面。凹→磨。	8.5	5.9	5.1	300		P-9
P 24	磨-蔽石	楕円形	楕粒輝石安山岩	表面に磨面と敲打痕。敲→磨。	10.5	9.2	6.4	820		P-9
P 25	磨-四石	長楕円形	楕粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹→磨。	10.6	7.4	3.9	440		P-7
P 26	磨-蔽石	楕円形	楕粒輝石安山岩	表裏に敲打痕。表面に磨面。磨→敲。	10.6	7.8	4.2	510		P-7
P 27	蔽石	不定形	砂岩	砥石作業面は平坦。	9.7	6.7	2.5	200		P-9
P 28	磨-四石	卵形	楕粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹→磨。	7.3	5.4	4.2	210		P-9
P 29	磨石	隅丸長方形	砂岩	表裏を磨いている。	14.4	8.5	4.6	780	欠損	P-13
P 30	石棒	棒形	雲母石英片岩	表裏を磨いている。	14.6	5.6	4	560	欠損	P-9
P 31	磨-蔽石	隅丸長方形	楕粒輝石安山岩	表面に磨面と敲打痕。敲→磨。	13.9	6.9	3.9	510		P-9
P 32	白石	隅丸長方形	楕粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面。表面に若干の敲打痕。	14.7	10.3	8	2180	欠損	P-7
P 33	蔽石	扁平な棒形	黒色頁岩	側面に敲打痕。	14.1	2.9	1.5	90	欠損	P-9
P 34	蔽石	扁平な棒形	珪質頁岩	側面に敲打痕。	10.2	4	1.7	100	欠損	P-8
P 35	蔽石	棒形	黒色頁岩	側面に敲打痕。	8.4	3.1	1.9	70	欠損	P-7
P 36	蔽石	扁平な棒形	黒色頁岩	側面に敲打痕。	7.9	3.4	1.2	50	欠損	P-9
P 37	蔽石	扁平な棒形	雲母石英片岩	両側面に敲打痕。	9.8	3.6	1.8	100	欠損	P-12
P 38	蔽石	扁平な棒形	緑色片岩	側面に敲打痕。	8.8	3.8	1.6	80	欠損	P-9
P 39	蔽石	棒形	黒色頁岩	側面に敲打痕。	9.5	2.9	1.5	50	欠損	P-7
P 40	磨-蔽石	長楕円形	楕粒輝石安山岩	表面に磨面と敲打痕。磨→敲。	7.6	8.5	4.2	280	欠損	P-9
P 41	砥石	不定形	楕粒輝石安山岩	砥石作業面は扁平。	6.6	8.1	4	150		P-12
P 42	砥石	不定形	楕粒輝石安山岩	表面に砥石作業面。	5.4	6.1	1.7	100		P-9
P 43	投弾	球形	楕粒輝石安山岩		5	4.3	3.7	120		P-7
P 44	投弾	球形	楕粒輝石安山岩		3.5	4.1	2.6	50	欠損	P-7
P 45	投弾	球形	楕粒輝石安山岩		4.8	4.9	3.5	90		P-9
P 46	投弾	扁平な球形	楕粒輝石安山岩		5	4.9	3	70	欠損	P-9
P 47	石鏃	凹基有茎鏃	黒色頁岩	側面に押圧刺痕。横断面レンズ状。	2.6	1.3	0.4	1.2	基部欠損	P-7
P 48	石鏃	—	黒曜石	側面に押圧刺痕。基部横断面三角形。溝み部欠損。	2.9	1.4	0.6	1.7	基部欠損	P-10
P 49	石鏃	平基無茎鏃	楕粒輝石安山岩	側面に押圧刺痕。横断面レンズ状。	2.5	1.8	0.4	1.4	先端部欠損	P-7
P 50	石鏃	凹基無茎鏃	黒色安山岩	側面に押圧刺痕。横断面レンズ状。	2.1	1.9	0.3	1.2	先端部欠損	P-7
P 51	打製石斧	短棒形	珪質頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	10.7	4.3	1.9	90		P-9
P 52	打製石斧	短棒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.3	5	1.1	100		P-9
P 53	打製石斧	短棒形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	12.3	3.8	1.2	80		P-13
P 54	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面カマゴコ状。	11.3	4.9	2.5	130		P-9
P 55	打製石斧	短棒形	雲玄武岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.3	4	1.4	100		P-10
P 56	打製石斧	楕形	ホルンフェルス	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	11.5	5.5	1.7	120		P-9
P 57	打製石斧	楕形	珪質頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	12	5	1.5	100		P-7
P 58	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.5	4.8	1.9	90	刃部欠損	P-13
P 59	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.6	3.9	1.5	80	欠損	P-8
P 60	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.1	4.4	1.9	80		P-10
P 61	打製石斧	楕形	珪質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.1	4.5	1.5	80	刃部欠損	P-7
P 62	打製石斧	短棒形	楕粒輝石安山岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	9.2	7.3	2.4	170		P-9
P 63	打製石斧	短棒形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.7	4.7	1.9	80	89と組み合わせ	P-9
P 64	打製石斧	短棒形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.3	3.9	2.8	110		P-9
P 65	打製石斧	短棒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.9	5.7	2.5	140	欠損	P-8
P 66	打製石斧	短棒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.7	4.7	2.1	150		P-11
P 67	打製石斧	短棒形	楕粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.1	3.4	1.5	60		P-10
P 68	打製石斧	短棒形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	5.3	2.5	150	刃部欠損	P-10
P 69	打製石斧	短棒形	楕粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	4.2	1.5	60		P-9
P 70	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.6	4.4	1.8	80		P-10
P 71	打製石斧	分銅形	楕粒輝石安山岩	両面調整。両側面に挟り。横断面レンズ状。	10.3	8.1	3.2	320	欠損	P-9

## 第3節 遺構外の出土遺物

13区 グリッド石器観書表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
P	72	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面カマゴコ状。	8.3	5.4	3.1	180	刃部欠損	P-9
P	73	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	7	2.2	180	基部欠損	P-8
P	74	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.4	5.7	2.2	170	刃部欠損	P-7
P	75	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.2	5.5	2.3	170	両端欠損	P-7
P	76	打製石斧	楕形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.2	7	2.7	220		P-9
P	77	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.1	5.3	2.4	210	両端欠損	P-9
P	78	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。押し刺刺の片面刃部。横断面カマゴコ状。	6.2	3.5	1.3	30		P-11
P	79	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	4.6	2	50	基部欠損	P-9
P	80	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	5.3	3.9	1.6	60	両端欠損	P-10
P	81	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。側面切り。横断面レンズ状。	5.7	3.4	1.6	40	基部欠損	P-10
P	82	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6	5.5	1.6	60		P-9
P	83	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.4	5.1	2.1	110	基部欠損	P-9
P	84	打製石斧	楕形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.2	5.7	2.1	90		P-9
P	85	スクレイパー	縦長	細粒輝石安山岩	両面調整。	5.2	3.7	1.4	40		P-7
P	86	打製石斧	短冊形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	4.3	1.8	50	基部欠損	P-9
P	87	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.2	4.5	2.1	70	刃部欠損	P-13
P	88	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	4.5	1.4	50	基部欠損	P-13
P	89	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	4.1	1.2	80	口と接合	P-9
P	90	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7	4.8	2.4	120	基部欠損	P-9
P	91	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.3	4.3	1.3	60	欠損	P-13
P	92	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.3	4.6	1.8	70	基部欠損	P-13
P	93	打製石斧	短冊形	点紋頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.5	3.9	1.5	40	刃部欠損	P-9
P	94	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.8	3.8	1.6	50	刃部欠損	P-9
P	95	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	4	1.3	30	刃部欠損	P-9
P	96	磨製石斧	定角式	雲玄武岩	両側面・頂部を研磨し鋭角をつくる。	3.7	4.3	1.7	50	刃部欠損	P-12
P	97	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両面調整。	7.4	2.9	1	20		P-7
P	98	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両面調整。	6.9	5.1	0.9	10		P-10
P	99	石匙	横長	黒色頁岩	側面に押し刺刺の刃部。	3.4	4.3	0.8	10.3		P-9
P	100	石匙	縦長	黒色安山岩	側面に押し刺刺の刃部。	7.1	4.4	1	30		P-8
P	101	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に押し刺刺の片面刃部。	7.6	7.7	2.4	110		P-9
P	102	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に押し刺刺の片面刃部。	6.5	8	1.6	80		P-9
Q	1	石籠・多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面は石籠作業面であり凹面。裏は円錐形の凹み。	25.9	23.2	8.8	5100	欠損	Q-10
Q	2	石籠	—	粗粒輝石安山岩	石籠作業面は凹面。	8.4	6	5.3	210	欠損	Q-8
Q	3	石籠	—	粗粒輝石安山岩	石籠作業面は凹面。	12.7	11.3	6.5	1030	欠損	Q-10
Q	4	石籠・多孔石	—	緑色片岩	石籠作業面は凹面。裏は円錐形の凹み。	20.1	14.1	4.9	1320	欠損	Q-9
Q	5	石籠・多孔石	—	粗粒輝石安山岩	石籠作業面は凹面。石籠の縁と裏に円錐形の凹み。	11.8	12.3	5.6	100	欠損	Q-9
Q	6	凹・敲石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。裏に敲打痕。	12.1	6.9	4.3	470		Q-8
Q	7	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	中央に凹み。	10.7	5.4	3.6	570		Q-7
Q	8	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	9.4	6.4	4.9	430		Q-9
Q	9	磨・敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏面に磨面と敲打痕。磨一磨。	10.8	5.4	3.7	330		Q-7
Q	10	敲石	扁平丸長方形	雲玄武岩	側面に敲打痕。	11.8	4.1	1.4	120		Q-7
Q	11	磨石	球形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	9.1	8.6	6.7	660		Q-7
Q	12	磨・凹・敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹みと敲打痕。表裏に磨面。磨一凹。	10.9	9	4.5	580		Q-7
Q	13	凹石	乳棒形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。	11.5	5.3	4.2	340		Q-8
Q	14	磨・敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕。磨一磨。	13.4	6.9	4	550		Q-8

## 第1章 出土遺物の概要

13区 グリッド石器観察表

グリッド番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
Q	15	磨-凹石	不定形	細粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。磨一磨。	12.8	9.9	5	760		Q-9
Q	16	磨-凹石	楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。磨一磨。	9.1	7.5	3.9	380		Q-8
Q	17	磨-凹石	卵形	細粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。磨一磨。	7.8	5.6	4.4	300		Q-8
Q	18	凹石	不定形	細粒輝石安山岩	表裏に凹み。	10	5.6	3.7	260		Q-8
Q	19	磨-凹石	隅丸長方形	細粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏側面に磨面で縁をつくる。凹一磨。	6.7	8.4	4.4	360	欠損	Q-7
Q	20	凹石	一	細粒輝石安山岩	表裏に凹み。	6.4	6.4	3.9	170	欠損	Q-8
Q	21	磨-凹石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。磨一磨。	10.9	7.2	4	450		Q-9
Q	22	磨-凹石	隅丸長方形	細粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏一側面に磨面で縁をもつ。凹一磨。	10.9	7	4.9	600		Q-9
Q	23	磨石	楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に磨面。	6.6	7	3.4	220	欠損	Q-9
Q	24	磨石	球形	細粒輝石安山岩	表面に磨面。	7.3	6.6	6.1	390		Q-9
Q	25	砥石	不定形	牛伏砂岩	表面と側面の作業面は平坦。	9	6.8	1.8	120		Q-8
Q	26	磨石	隅丸長方形	細粒輝石安山岩	表裏一側面に磨面で縁をつくる。	5.6	6.5	4.4	240		Q-8
Q	27	投擲	卵形	細粒輝石安山岩		5.4	4.5	3.8	110		Q-8
Q	28	磨石	卵形	細粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.5	5.6	4.6	160		Q-7
Q	29	磨石	扁平な楕形	黒色片岩	両側面に敲打痕。	11.4	3.2	1.3	70	欠損	Q-7
Q	30	磨石	扁平な楕形	黒色片岩	側面に敲打痕。	5.7	3	1.5	40	欠損	Q-8
Q	31	磨石	扁平な楕形	雲母石英片岩	側面に敲打痕。	11	3.4	1.1	70	欠損	Q-7
Q	32	磨石	扁平な楕形	黒色片岩	側面に敲打痕。	8.7	4.2	1.4	80	欠損	Q-9
Q	33	磨石	楕形	珪質実岩	表面に磨面。	7.1	2.5	1.7	50		Q-8
Q	34	磨石	扁平な楕形	雲母石英片岩	側面に敲打痕。	14.1	3.2	2.5	150		Q-9
Q	35	磨石	扁平な楕形	雲母石英片岩	両側面に敲打痕。	7.3	3.1	1.5	50	欠損	Q-7
Q	36	磨石	扁平な楕形	黒色片岩	両側面に敲打痕。	6.8	3.5	1.8	60	欠損	Q-8
Q	37	磨石	扁平な楕形	雲母石英片岩	側面に敲打痕。	8.6	3.3	1.3	50	欠損	Q-9
Q	38	磨石	扁平な楕形	雲母石英片岩	側面に敲打痕。	9.9	4	2.6	150	欠損	Q-7
Q	39	磨石	扁平な楕形	雲母石英片岩	側面に敲打痕。	7.5	3.9	1.6	50	欠損	Q-7
Q	40	磨石	扁平な楕形	黒色片岩	両側面に敲打痕。	8.8	3.2	1.6	70	Q-8	
Q	41	砥石	不定形	牛伏砂岩	砥石作業面は平坦。	8.2	4.9	1.5	70	Q-7	
Q	42	磨石	扁平な楕形	黒色片岩	両側面に敲打痕。	8.4	3.5	1.1	50	Q-8	
Q	43	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	15.1	6	2.5	240		Q-7
Q	44	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	14	5.4	2.1	200		Q-8
Q	45	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面コマゴコ状。	12.4	5	4	290		Q-8
Q	46	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	14.8	5.3	1.5	100		Q-7
Q	47	打製石斧	楕形	硬質泥岩	両面調整。横断面コマゴコ状。	13.2	5.7	3	200		Q-8
Q	48	打製石斧	分銅形	黒色頁岩	両面調整。両側面凹れ。横断面レンズ状。	12.8	7.4	3.8	350		Q-7
Q	49	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.7	4.9	2.4	130		Q-7
Q	50	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	11	4.2	1.8	110		Q-7
Q	51	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	11.2	3.7	1.9	100		Q-7
Q	52	打製石斧	楕形	硬質泥岩	両面調整。刃部片面調整。横断面コマゴコ状。	10.9	5.1	1.8	110		Q-7
Q	53	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.4	4.9	1.9	110		Q-7
Q	54	打製石斧	短冊形	珪質実岩	両面調整。横断面レンズ状。	10	5.5	2.1	160	刃部欠損	Q-7
Q	55	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面コマゴコ状。	12.4	6.1	3	250		Q-9
Q	56	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	11.8	4.7	1.5	100		Q-7
Q	57	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	10.3	3.9	1.9	80		Q-9
Q	58	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面コマゴコ状。	9.6	4.9	1.5	80		Q-10
Q	59	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10	5.6	3.4	210	刃部欠損	Q-8
Q	60	打製石斧	短冊形	安質玄武岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.1	4.8	3.4	220	両端欠損	Q-8
Q	61	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.6	4.1	1.8	100	刃部欠損	Q-7
Q	62	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.4	4.3	2.3	90		Q-8
Q	63	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.8	4.8	1.6	70	刃部欠損	Q-8
Q	64	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	3.8	1.6	60		Q-7
Q	65	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	4.8	1	50	刃部欠損	Q-8
Q	66	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	5.2	1.7	80		Q-8

## 第3節 遺構外の出土遺物

13区 グリッド石器観覧表

グリッド番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド	
Q	67	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.8	3.6	1.4	50		Q-7	
Q	68	打製石斧	楕形	黒色頁岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	9	3.3	1.2	50		Q-7	
Q	69	打製石斧	楕形	変玄武岩?	両面調整。横断面レンズ状。	9.4	5.8	1.5	80		Q-7	
Q	70	打製石斧	楕形	変玄武岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	9.2	4.8	1.5	110		Q-8	
Q	71	打製石斧	楕形	硬質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.4	6	2.9	170	刃部欠損	Q-7	
Q	72	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.4	1.1	50		Q-9	
Q	73	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	4.4	1.7	70	刃部欠損	Q-7	
Q	74	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.6	5.1	2	90	刃部欠損	Q-7	
Q	75	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	片面調整。横断面レンズ状。	7	4.4	1	40	刃部欠損	Q-7	
Q	76	スタレイベー	楕長	黒色頁岩	側面に押圧刻線。	7.9	5.7	1.3	60		Q-8	
Q	77	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	片面調整。横断面レンズ状。	7.1	4	1.6	60		Q-7	
Q	78	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	片面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	7.7	4.8	1.1	50		Q-7	
Q	79	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.8	4.5	1.6	60		Q-7	
Q	80	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	6.6	3.6	1.6	40		Q-8	
Q	81	打製石斧	楕形	硬質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	5.4	1.9	60	両端欠損	Q-7	
Q	82	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	3.9	1.4	40	刃部欠損	Q-8	
Q	83	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.4	4	1	30	基部欠損	Q-8	
Q	84	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	6	4.4	1.3	40		Q-8	
Q	85	打製石斧	楕形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	3.6	0.9	20	刃部欠損	Q-9	
Q	86	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.8	1.4	50		Q-11	
Q	87	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.7	3.8	1.2	50		Q-9	
Q	88	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	6.6	3.4	1.4	40		Q-9	
Q	89	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	3.9	1.4	50	刃部欠損	Q-11	
Q	90	打製石斧	短筒形	灰色安山岩	両面調整。刃部磨鈍。横断面レンズ状。	5.4	4.7	1.6	50		Q-10	
Q	91	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	片面調整。横断面レンズ状。	4.9	4.1	2.1	30	基部欠損	Q-7	
Q	92	スタレイベー	楕長	黒色頁岩	側面に片面の押圧刻線。	4.5	1.9	0.6	10		Q-7	
Q	93	スタレイベー	楕長	黒色頁岩	側面に片面調整の刃部。	5.2	10.6	1.2	80		Q-12	
Q	94	スタレイベー	楕長	黒色頁岩	側面に使用によるほこぼれ。	5.4	2.9	0.5	10		Q-7	
Q	95	石匙	楕長	黒色頁岩	刃部片面の押圧刻線。	5.5	5.9	0.7	20		Q-7	
Q	96	スタレイベー	楕長	黒色頁岩	側面に片面調整の刃部。	8.2	4.2	0.5	30		Q-9	
Q	97	石匙	楕長	珪質頁岩	側面に片面調整の刃部。	5.6	2.8	0.7	10.9		Q-7	
Q	98	スタレイベー	楕長	黒色頁岩	側面に片面押圧刻線の刃部。	4.5	10	2.1	80		Q-9	
Q	99	石匙	凹凸無基線	チャート	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	3	1.3	4	1.2		Q-8	
Q	100	石匙	凹凸無基線	黒色頁岩	側面に押圧刻線。横断面カマゴコ状。	7.6	1.5	0.4	1.1		Q-8	
Q	101	石匙	凹凸無基線	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面カマゴコ状。	2.7	1.1	0.3	0.8		基部欠損 欠損	Q-8
Q	102	石匙	凹凸無基線	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.2	1.8	0.4	1		Q-8	
Q	103	スタレイベー	楕長	珪質頁岩	刃部片面の押圧刻線。	5.4	4.8	1.1	30		Q-7	
Q	104	スタレイベー	楕長	黒色頁岩	刃部片面の押圧刻線。	3.3	4.5	1.1	20		Q-7	
Q	105	石匙	凹凸無基線	黒色頁岩	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.7	1.6	0.3	1.5		Q-9	
Q	106	石匙	凹凸無基線	黒色頁岩	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	3	1.7	0.3	1.4		Q-9	
Q	107	石匙	凹凸無基線	黒色安山岩	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.2	1.5	0.4	1.1		Q-9	
Q	108	石匙	凹凸無基線	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.5	1.5	0.6	1.6		基部欠損	Q-9
R	1	磨-四石	楕円形	細粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。凹一磨。	10	7.2	3.8	390		R-10	
R	2	四石	隅丸長方形	細粒輝石安山岩	表面に凹み。	14.2	7.1	4.4	620		R-10	
R	3	磨石	砂形	細粒輝石安山岩	表面に磨面。	8.2	6.1	5.1	300		R-8	
R	4	磨-四石	長楕円形	砂岩	表面・側面に凹みと磨面。凹一磨。	9.4	5.7	4	320	欠損	R-7	
R	5	磨-四石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。凹一磨。	12.6	7.1	4.7	540		R-7	
R	6	磨-四石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。凹一磨。	12.1	6.2	5.1	550		R-8	
R	7	磨石	隅丸方形	細粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.2	9	5	360		R-13	
R	8	四石	砂形	細粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	9.5	11.2	7.8	730		R-7	
R	9	磨-礫石	楕円形	細粒輝石安山岩	表面に磨面。側面に敲打痕。	10.2	9.3	5.7	750		R-9	

## 第1章 出土遺物の概要

## 13区 グリッド石器観察表

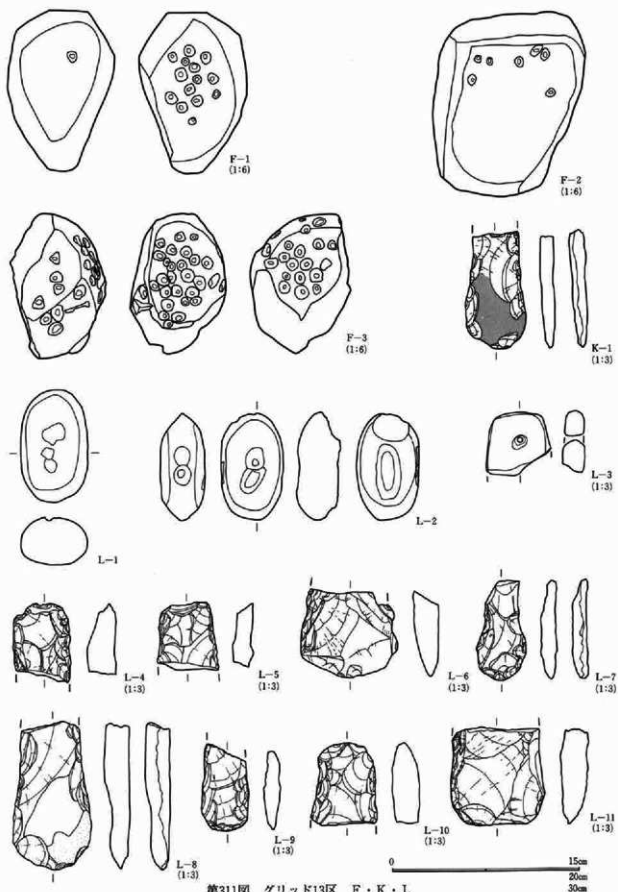
グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
R	10	磨石	扁平な楕形	常磐石黒片岩	側面に敲打痕。	10.6	3.8	1.1	60	欠損	R-7
R	11	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9	4	1.8	60		R-7
R	12	打製石斧	短舟形	実質玄武岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.6	4.7	2.2	150	刃部欠損	R-9
R	13	打製石斧	盤形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.6	5.4	2.5	160	刃部欠損	R-6
R	14	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9	3.8	1.5	70		R-10
R	15	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	4.6	8.8	60	基部欠損	R-7
R	16	打製石斧	盤形	硬質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.4	4.3	1.8	50	基部欠損	R-7
R	17	打製石斧	盤形	硬質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.4	4.3	1.9	40	基部欠損	R-7
R	18	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.2	3.3	1	20	刃部欠損	R-7
R	19	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.8	3.4	0.9	20	刃部欠損	R-7
R	20	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	13.5	5.2	2.9	220		R-11
R	21	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	12.9	4.6	2	140		R-7
R	22	打製石斧	盤形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.2	5	1.6	80		R-10
R	23	打製石斧	盤形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面レンズ状。	11	5.2	2.7	150		R-7
R	24	打製石斧	短舟形	砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	4.7	1.7	100		R-6
R	25	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.6	4	1.3	50	刃部欠損	R-11
R	26	打製石斧	短舟形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.8	4.4	1.3	50	基部欠損	R-9
R	27	打製石斧	短舟形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.9	5.4	2.1	190		R-11
R	28	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.4	4.4	2.5	120		R-10
R	29	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.6	4.2	1.9	70	刃部欠損	R-11
R	30	打製石斧	短舟形	砂岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	5.4	3.8	1.6	40	基部欠損	R-9
R	31	打製石斧	盤形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.3	2.6	80		R-7
R	32	打製石斧	短舟形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.1	5.6	2.7	140	基部欠損	R-7
R	33	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	3.9	1.4	50	基部欠損	R-10
R	34	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	5.1	1.5	70	基部欠損	R-9
R	35	磨製石斧	乳棒形	実質玄武岩	刃部はこぼれ。横断面扁平な楕円形。	9.5	6.3	2.8	260	基部欠損	R-7
R	36	磨製石斧	定角式	実質蛇紋岩	表裏・側面を研磨し稜をもつ。横断面隅丸長方形。	6.5	3.6	1.8	60		R-7
R	37	スクレイパー	横長	頁岩	刃部片面調整。	5.1	10.1	1.3	100		R-11
R	38	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に片面調整の刃部。	5.8	5.6	1.3	50		R-10
R	39	打製石斧	短舟形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.1	4.7	1.1	40	基部欠損	R-9
R	40	打製石斧	盤形	頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	6.1	6.4	1.9	70	基部欠損	R-7
R	41	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に片面調整の刃部。	7	7.1	1.2	60		R-10
S	1	石皿	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	9.7	14	5.7	740	欠損	S-13
S	2	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	13	14	7.8	1750		S-10
S	3	多孔石	一	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	11.7	11	10.1	1350	欠損	S-8
S	4	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面で稜をもつ。	6.7	8.6	5.6	450	欠損	S-11
S	5	磨石	四角	粗粒輝石安山岩	表面に細長い凹み。表裏に磨面。磨一→凹。	15.6	8.6	6.2	1230		S-7
S	6	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	10.4	6.2	4.3	400		S-7
S	7	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面で稜をもつ。	7.6	7.8	5.4	390	欠損	S-10
S	8	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	7.3	5.7	3.6	210		S-7
S	9	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	8.3	5.6	3.9	200		S-6
S	10	石棒	長楕円形	黒色片岩	表裏を研磨している。	9.4	2.9	2.6	100	両端欠損	S-7
S	11	磨石	四角	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	10.6	7.5	4.2	440		S-7
S	12	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	5.9	5.3	2.8	100		S-10
S	13	打製石斧	盤形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.7	4.5	2	110		S-12

## 第3節 遺構外の出土遺物

13図 グリッド石器観覧表

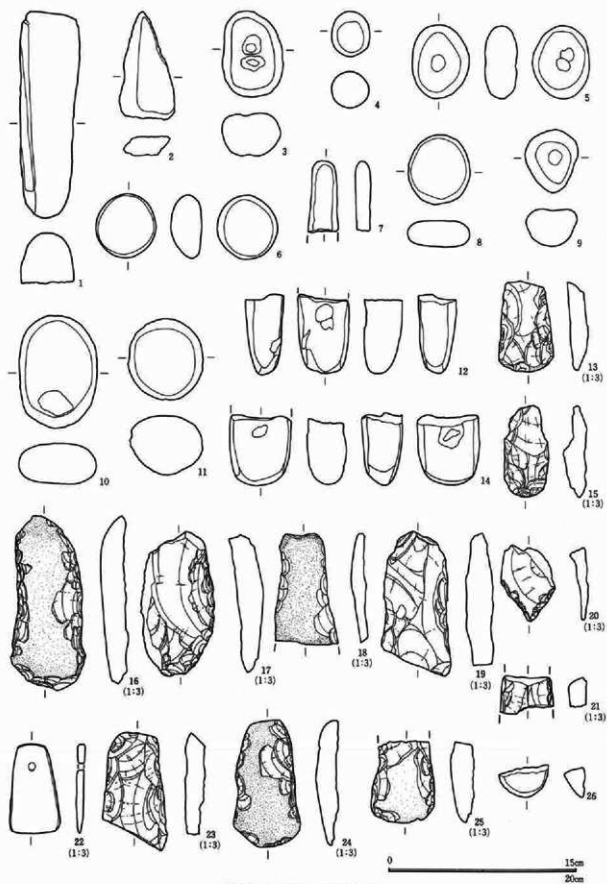
グリッド番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グループ
S	14	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	9.6	4.2	1.7	90		S-11
S	15	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.9	4	2.2	100	基部欠損	S-7
S	16	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	4.4	1	50	刃部欠損	S-12
S	17	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.5	5.2	2	100	刃部欠損	S-9
S	18	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.7	4.3	1.3	40	刃部欠損	S-9
S	19	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	4.6	1.7	70	両端欠損	S-7
S	20	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.8	1.7	40	両端欠損	S-11
S	21	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.3	4.7	1.3	20		S-14
S	22	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	両面調整。	2.8	2.8	0.8	10		S-8
S	23	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。	6.4	4.3	1.8	60	刃部欠損	S-8
S	24	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.3	5.1	1.7	70	基部欠損	S-9
S	25	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	側面に使用によるほこぼれ。	4	11.7	0.9	30		S-12
S	26	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	側面に片面の押圧刻離の刃部。	5.1	8	0.9	40		S-7
S	27	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	側面は両面調整。	4.1	6	1.1	30		S-12
S	28	スクレイパー	狭長	黒色頁岩	刃部片面調整。	4.5	8.1	0.8	30		S-9
S	29	石鏝	凹釜無茎錐	黒曜石	側面に押圧刻離。	2.2	1.5	0.4	0.8		S-11
T	1	打製石斧	分銅形	灰色安山岩	両面調整。両側面中央に決り。横断面レンズ状。	17.4	8.5	3.4	500		T-7
T	2	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	4.8	1.5	70	基部欠損	T-8
T	3	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.3	1.8	50	刃部欠損	T-7
T	4	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.8	4.4	1.6	50	両端欠損	T-8
T	5	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.3	5	1.8	80	基部欠損	T-7
T	6	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.1	4.2	2.1	70	基部欠損	T-8
T	7	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	5.7	4.1	1.2	40		T-12
T	8	打製石斧	短冊形	埴貫頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	10.8	4.8	1.8	120		T-10
T	9	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.3	4.1	1.5	30	両端欠損	T-11
T	10	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.4	4.5	0.8	20	基部欠損	T-8
T	11	スクレイパー	短冊形	黒色頁岩	押圧刻離の片面刃部。	5.3	4.1	1.7	40		T-8
T	12	スクレイパー	楕形	黒色頁岩	両面押圧刻離。	4.2	3.3	0.8	10		T-7
T	13	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。磨面を持つ。	19.3	16	12.8	6900		T-8
T	14	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	22	16	10.2	4600		T-7
T	15	多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	21.6	17.6	8.5	4500		T-8
T	16	石鏝	一	緑色片岩	石鏝作業面は凹面。	24.1	7.9	7	1470		T-8
T	17	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	両面に凹み。	9.3	7.2	4.3	330		T-11
T	18	磨製石斧	乳棒形	安文片岩	表面を研磨。	10.5	4.7	2.2	160	刃部欠損	T-10
T	19	磨石	扁平心棒状	黒色片岩	側面に縦打痕。	14.2	4.6	2.4	240		T-8

第1章 出土遺物の概要

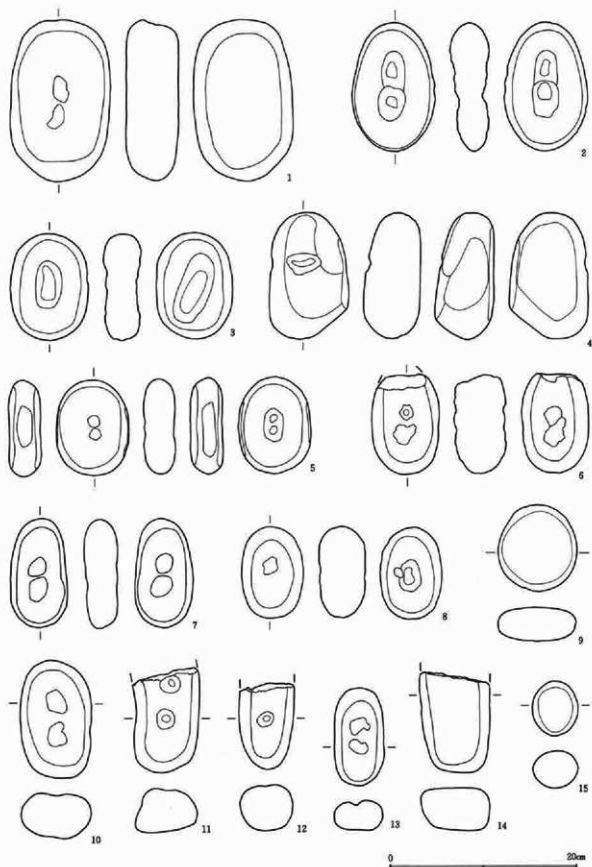


第311図 グリッド13区 F・K・L

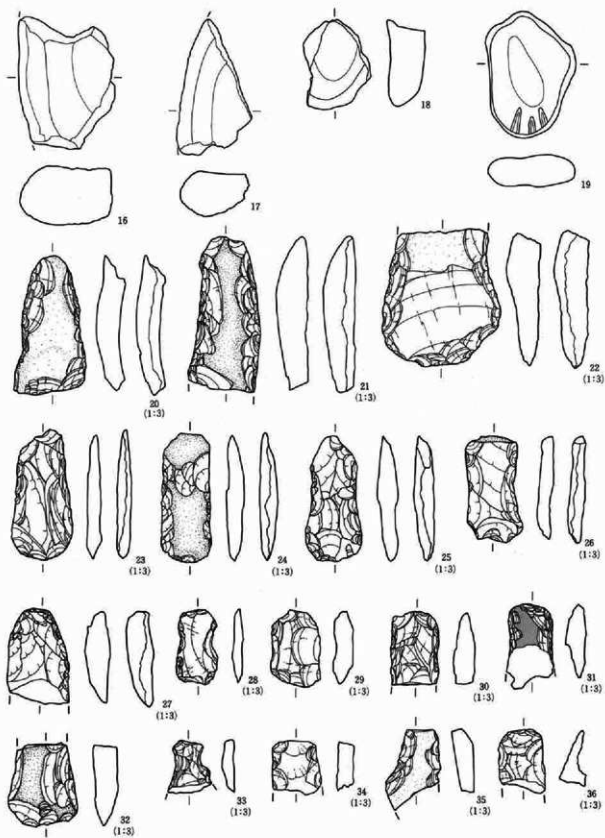




第312図 グリッド13区 M

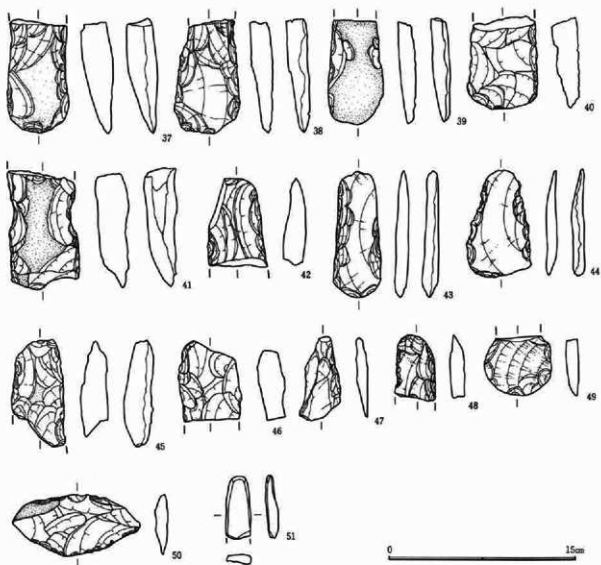


第313図 グリッド13区 N-1

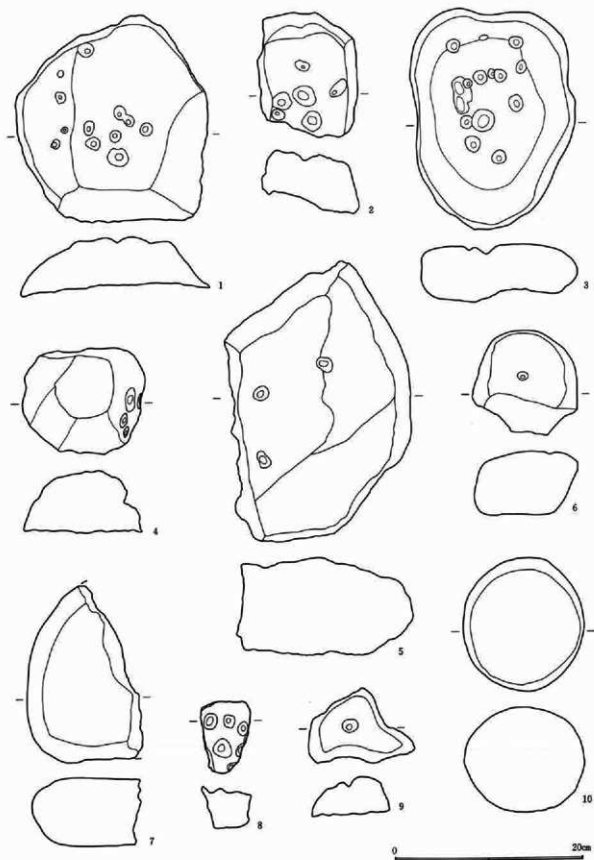


第314図 グリッド13区 N-2

第1章 出土遺物の概要

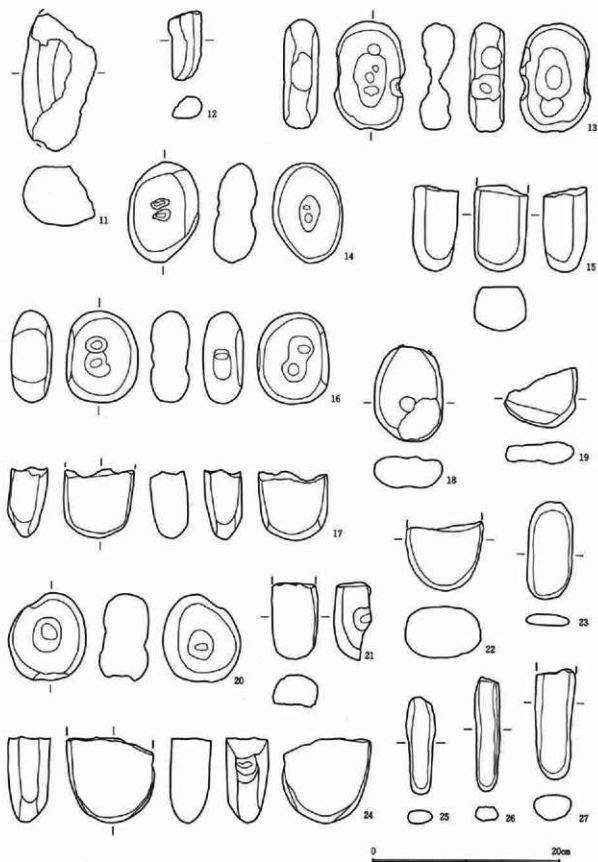


第315図 グリッド13区 N-3

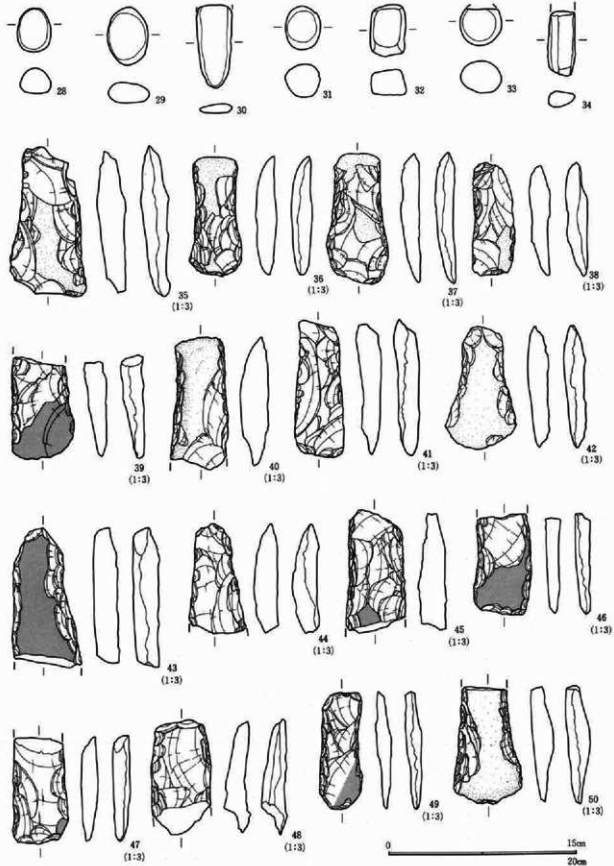


第316図 グリッド13区 O-1

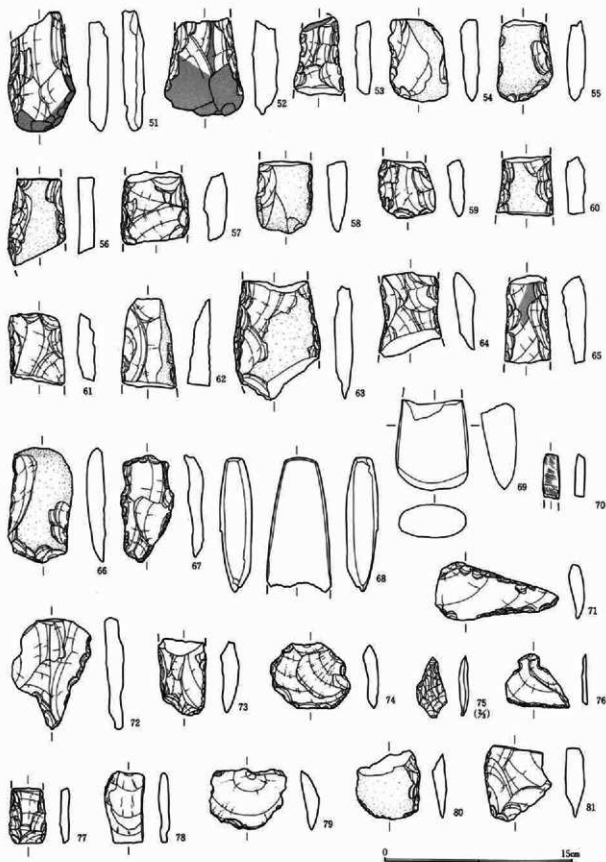
第1章 出土遺物の概要



第317図 グリッド13区 O-2

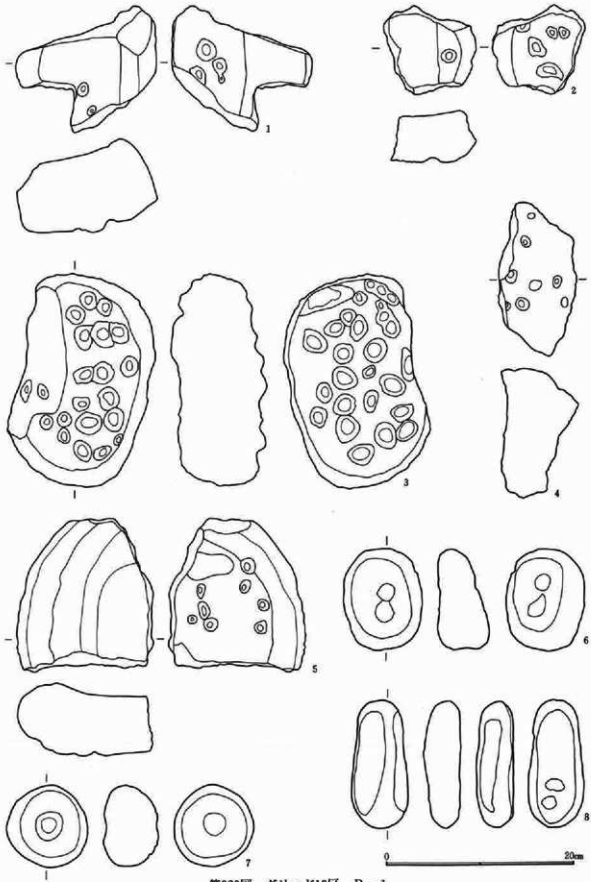


第318図 グリッド13区 O-3

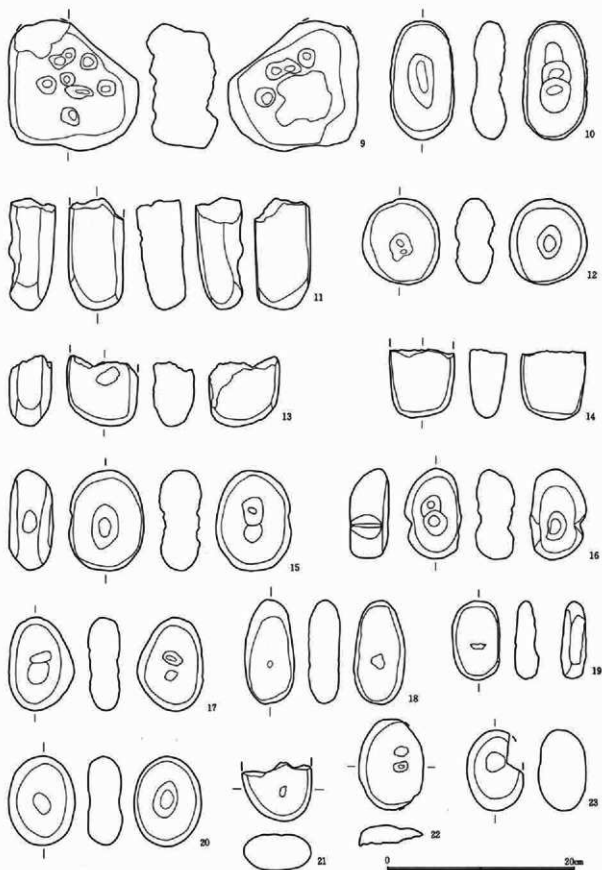


第319図 グリッド13区 O-4



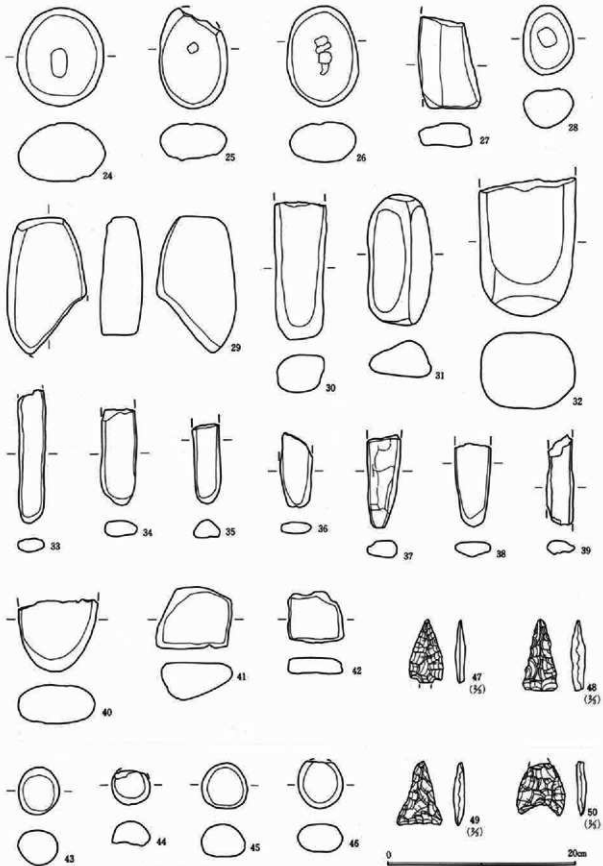


第320図 グリッド13区 P-1



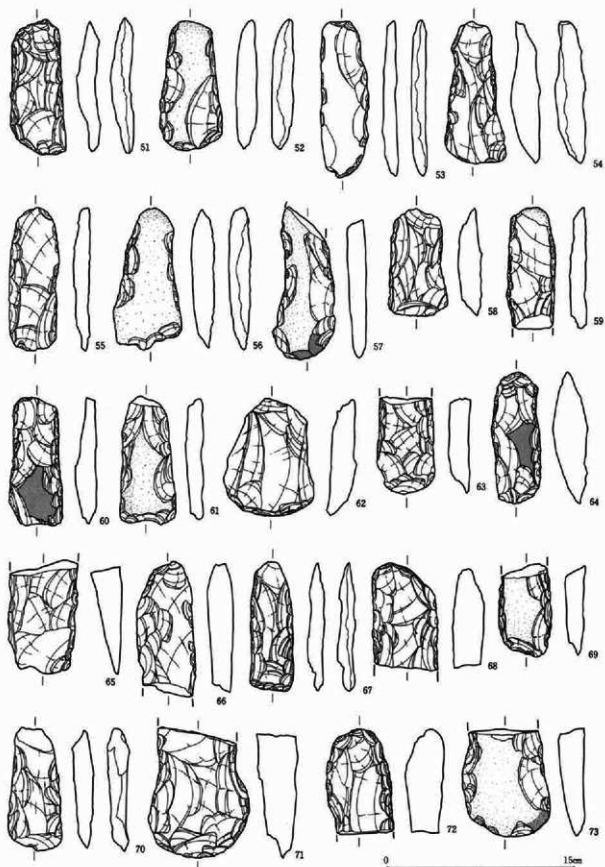
第321図 グリッド13区 P-2

第3節 遺構外の出土遺物

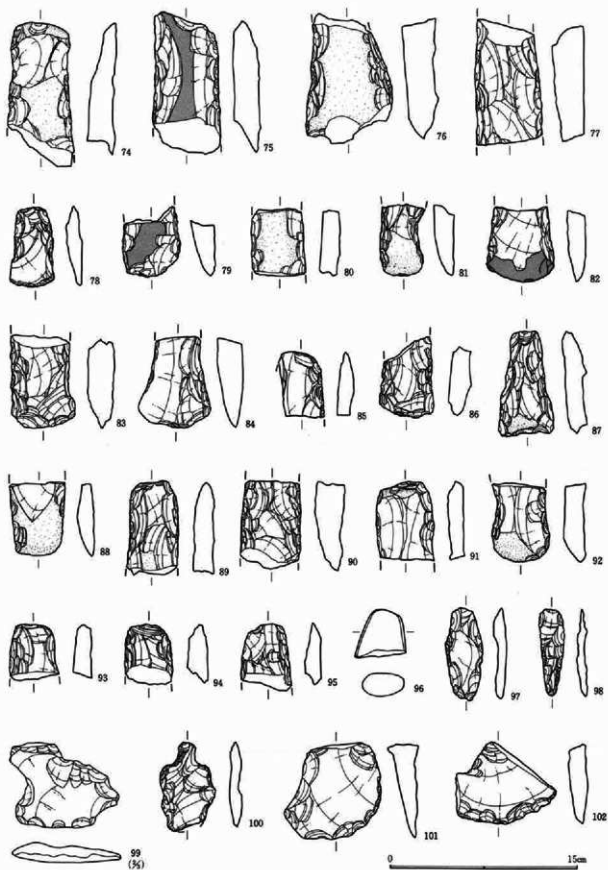


第322図 グリッド13区 P-3

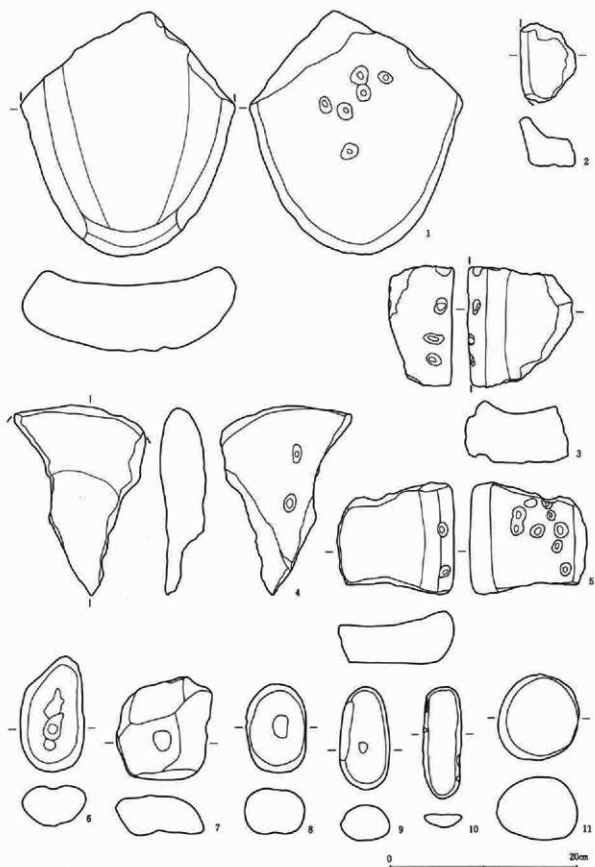
第1章 出土遺物の概要



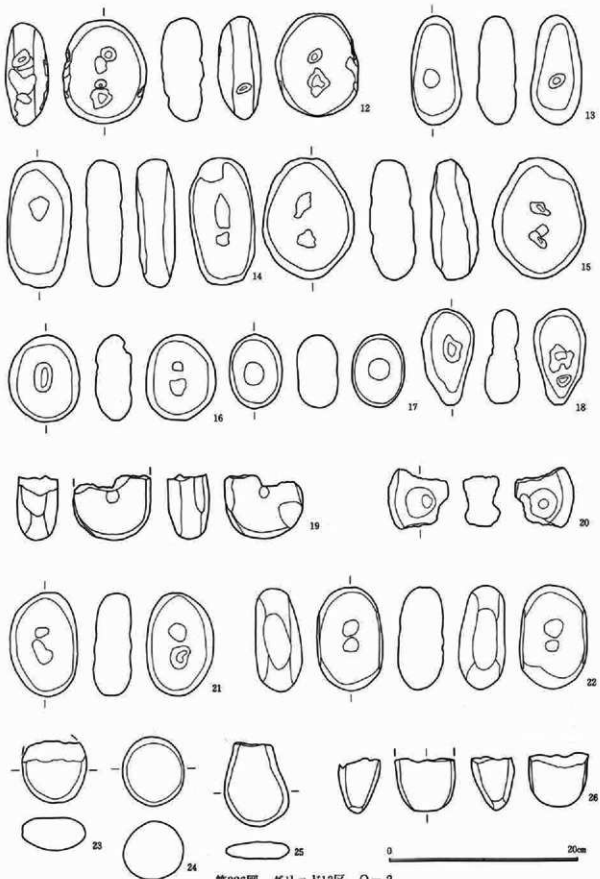
第323図 グリッド13区 P-4



第324図 グリッド13区 P-5

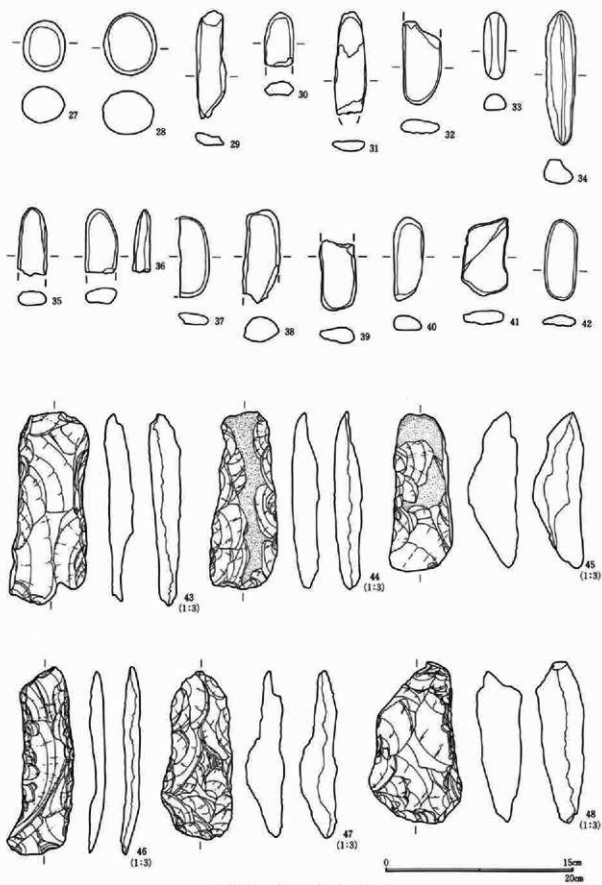


第325図 グリッド13区 Q-1



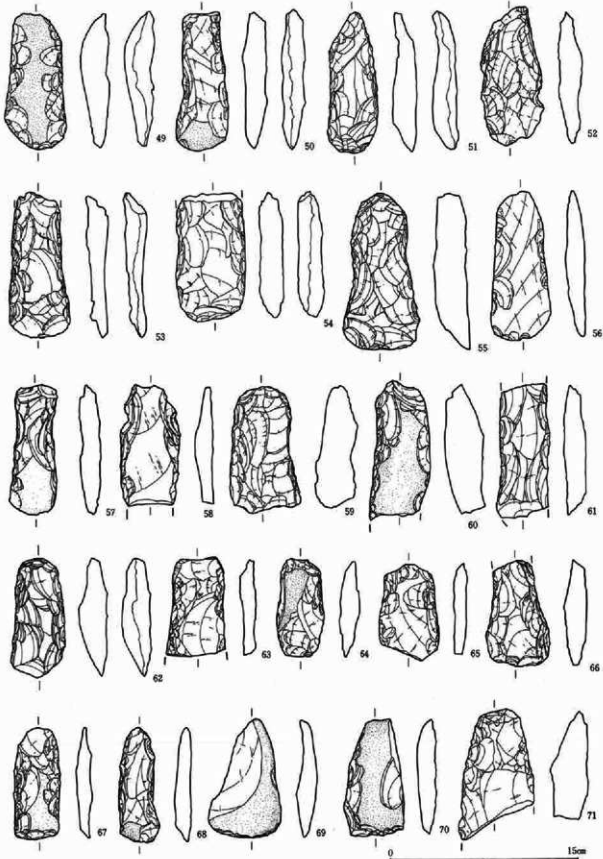
第326図 グリッド13区 Q-2

第1章 出土遺物の概要



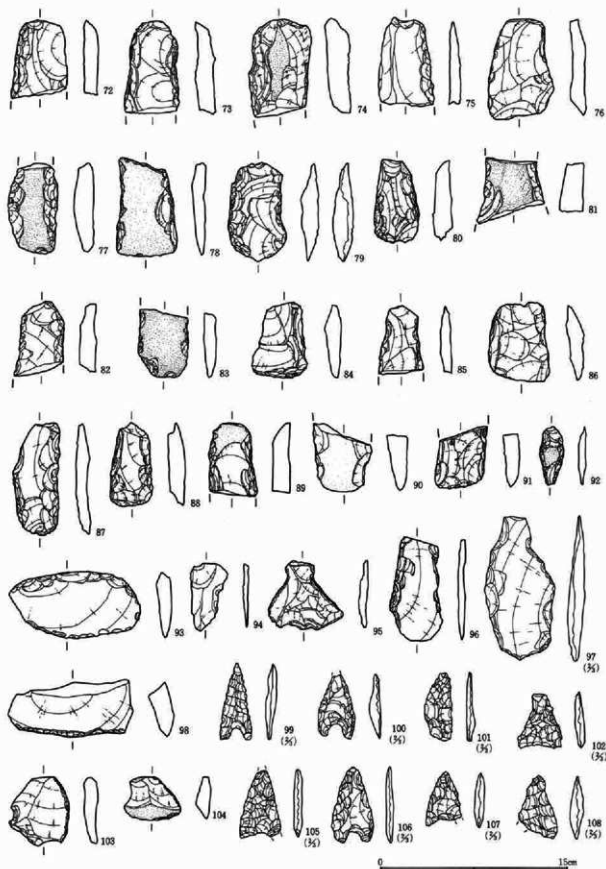
第327図 グリッド13区 Q-3



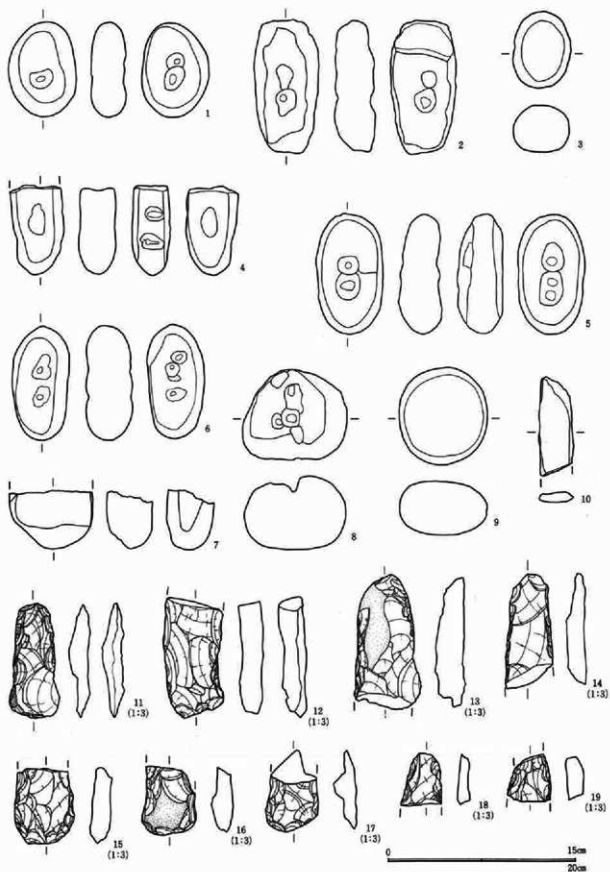


第328図 グリッド13区 Q-4

第1章 出土遺物の概要



第329図 グリッド13区 Q-5

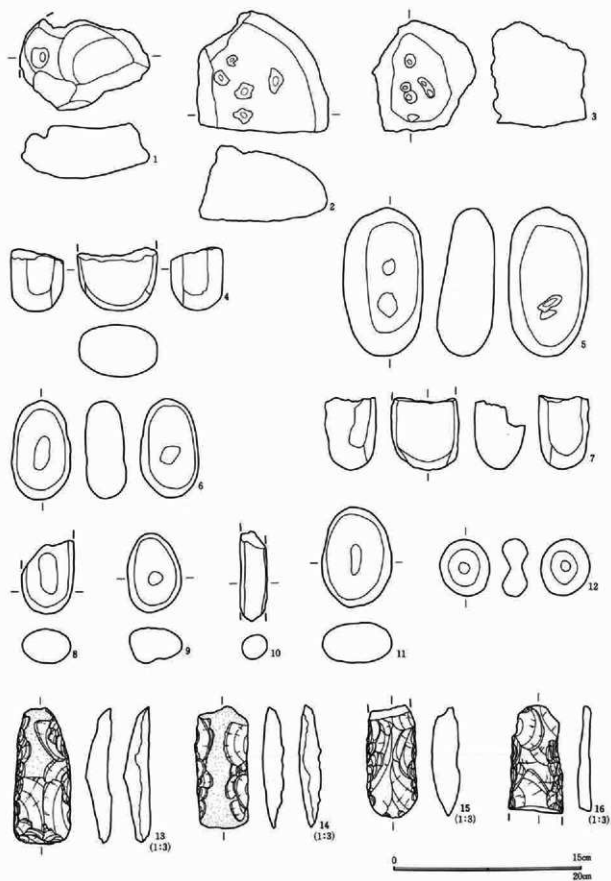


第330図 グリッド13区 R-1

第1章 出土遺物の概要

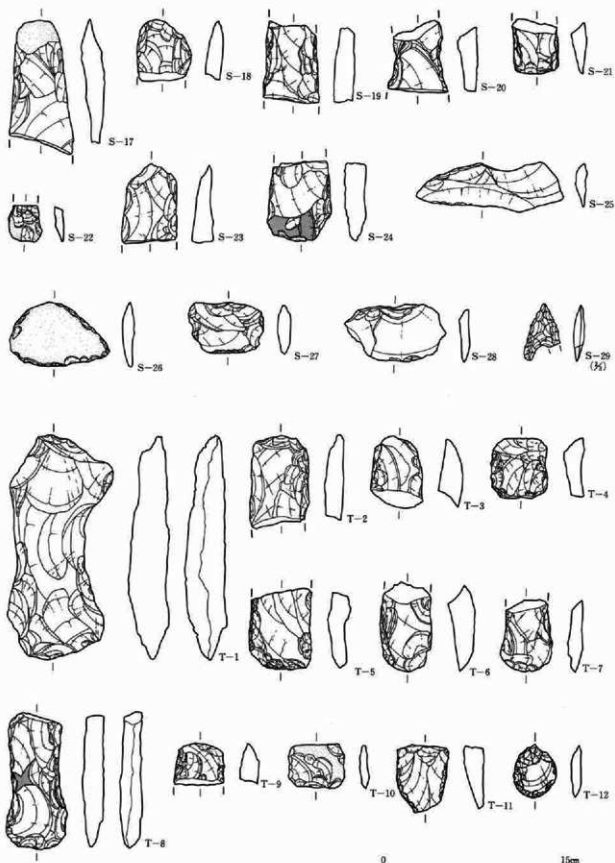


第331図 グリッド13区 R-2

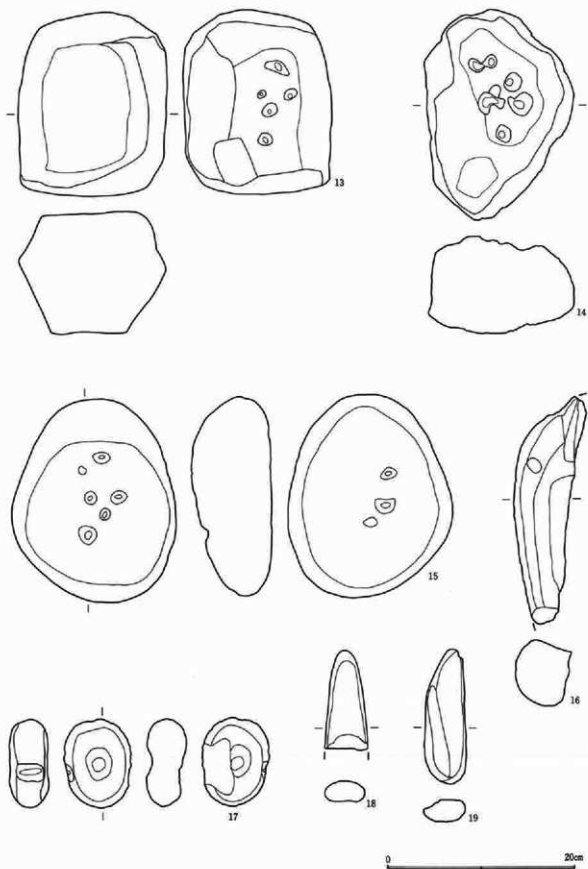


第332図 グリッド13区 S

第1章 出土遺物の概要



第333図 グリッド13区 S・T



第334図 グリッド13区 T

## 第1章 出土遺物の概要

14区 グリッド石器観察表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
A	1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	26.8	24.6	14.3	10300		A-8
A	2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	13.6	14	11.8	2350		A-12
A	3	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	11.8	8.4	4.8	630		A-7
A	4	砥石	不定形	牛伏砂岩	作業面は丸味をもつ。	5.5	8.1	1.8	80		A-7
A	5	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	裏面に凹み。表裏に磨面。凹一磨。	7.3	6.4	4	250		A-8
A	6	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	裏面に円錐形の凹み。	13.2	17.7	5.7	1480		A-6
A	7	砥石	不定形	凝灰質砂岩	砥石作業面は平坦。	15	12.5	2	510		A-7
A	8	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹み。表裏に磨石。側面に磨打痕。凹一磨。	8.5	7.2	4.6	410		A-9
A	9	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.8	4.1	1.2	70		A-12
A	10	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.5	4.8	1.2	60		A-8
A	11	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整の刃部。刃部はこぼれ。	10.9	4.3	2.2	140		A-9
A	12	打製石斧	短冊形	灰色安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	10.8	4.1	1.4	70		A-12
A	13	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.6	8.1	3.1	230	基部欠損	A-12
A	14	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9	9.6	2.4	300	基部欠損	A-8
A	15	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.1	4.2	1.6	70	両端欠損	A-9
A	16	打製石斧	楕形	砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	5.5	1.7	70	両端欠損	A-7
A	17	スクレイパー	短長	黒色頁岩	側面に両面調整の刃部。	6.5	6.6	1.2	50		A-8
A	18	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.3	4.3	1.7	50	刃部欠損	A-12
A	19	スクレイパー	短長	黒色頁岩	側面に押圧刻離の片面刃部。	6.7	6.1	2.2	90		A-10
A	20	スクレイパー	短長	黒色頁岩	押圧刻離の片面刃部。	4.4	8.5	0.7	30		A-9
A	21	石鏝	凹高無基縁	黒色安山岩	側面に押圧刻離。横断面レンズ状。	4.3	2.3	0.5	3.1		A-11
A	22	石鏝	凹高無基縁	黒曜石	側面に押圧刻離。横断面レンズ状。	2	1.5	0.3	0.7		A-7
A	23	石鏝	凹高無基縁	黒曜石	側面に押圧刻離。横断面カメラゴコ状。	1.6	1.3	0.3	0.2		A-7
B	1	石鏝・多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	石鏝作業面は円錐形の凹み。	11.5	10	6.9	970		B-13
B	2	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹みと磨面。凹一磨。	11.3	6.8	5.1	580		B-13
B	3	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に凹み。表裏に磨面。凹一磨。	12.7	7.7	4.3	570		B-13
B	4	投擲	球形	粗粒輝石安山岩	表面に研磨。	5	4.8	4.4	140		B-13
B	5	投擲	球形	粗粒輝石安山岩	表面に研磨。	5.6	4.5	4	140		B-9
B	6	砥石	不定形	牛伏砂岩	砥石作業面は平坦。	9	7.5	1.8	130		B-7
B	7	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面と磨打痕。側面に細長い凹み。	16.7	7.5	4.9	1030		B-10
B	8	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	15.2	10.3	4.5	1100		B-13
B	9	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	9.9	7.2	4.1	490		B-10
B	10	磨製石斧	定角式	雲文武岩	表裏・両側・頭部を研磨し接をつくる。横断面隅丸長方形。	5.4	5.7	3.3	130	刃部欠損	B-9
B	11	打製石斧	短冊形	ホルンフェルス	両面調整。	6.4	4	1.5	60		B-13
B	12	スクレイパー	短長	黒色頁岩	両面調整。	5	5.7	0.8	10		B-9
B	13	スクレイパー	短長	黒色頁岩	側面に両面調整の刃部。	5.2	4	0.9	30		B-13
B	14	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.3	5.3	1.5	70		B-9
B	15	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.4	4.6	1.1	60		B-10
B	16	スクレイパー	短長	頁岩	両面調整。	9	2.9	2.1	80		B-12
B	17	打製石斧	短冊形	硬質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.8	5.3	3.1	160		B-9
B	18	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。両側面に決り。横断面レンズ状。	5.4	7.7	2.9	390		B-7
B	19	スクレイパー	短長	黒色頁岩	側面に押圧刻離の片面刃部。	5.6	6.9	2.1	70		B-13
B	20	スクレイパー	短長	黒色頁岩	側面に片面調整の刃部。	5.9	9.7	1.1	70		B-9
B	21	石鏝	凹高無基縁	黒曜石	側面に押圧刻離。横断面レンズ状。	1.7	1.4	0.4	0.5		B-11
B	22	石鏝	凹高無基縁	黒色安山岩	側面に押圧刻離。横断面レンズ状。	2.4	1.5	0.4	1		B-8
B	23	石鏝	一	チャート	縁部は押圧刻離。断面三角形。	3	1.7	0.8	3.3		B-9
C	1	石石	角閃石安山岩	作業面は平坦。	34	22	7.8	10150			
C	2	石石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。	17.3	12.4	10.4	3100		C-8
C	3	凹石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	10.4	11.4	8.2	1450		
C	4	石鏝・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石鏝作業面は浅い凹面。裏面に円錐形の凹み。	8.2	15.8	8.4	1360		欠損
C	5	磨石	楕形	角閃石安山岩	表裏に磨面。	12.2	8.8	7.6	1100		
C	6	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。側面に細長い凹み。磨面による痕をもつ。凹一磨。	12.7	7.8	4.8	750		C-8
C	7	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	9.7	8.4	4.2	490		C-8
C	8	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。	11.2	7.9	3.5	550		C-12
C	9	石鏝	一	緑色片岩	石鏝作業面は凹面。	9	10	5.8	520		欠損
C	10	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.5	3.9	0.7	40		C-13



## 第3節 遺構外の出土遺物

14区 グリッド石器観察票

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
C	11	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.8	4	1.6	90		C-8
C	12	打製石斧	楕形	実質玄武岩	両面調整。横断面レンズ状。	16.5	10	2.7	450		C-9
C	13	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	15.2	8.7	2.4	340		C-8
C	14	打製石斧	短棒形	硬質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.3	4.4	1.8	70		C-7
C	15	打製石斧	短棒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.6	4	1.1	50		C-13
C	16	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.3	4.2	1.9	80		C-8
C	17	石鏝	凹縁無蓋鏝	黒色頁岩	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	3.3	1.2	0.4	1.3		C-8
C	18	石鏝	凹縁無蓋鏝	黒色安山岩	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2	1.7	0.5	1.3		C-13
D	1	多孔石	不定形	細粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	25.8	16.2	11.8	5500		D-8
D	2	石皿・多孔石	長方形	緑色片岩	表面の石皿作業面は凹面。裏面に円錐形の凹み。	18.6	16.4	6.8	2700	欠損	D-9
D	3	白石	不定形	細粒輝石安山岩	表中央に円錐形の凹み。裏に敲打痕。	28.7	19.9	8.9	7750		D-8
D	4	白石	不定形	細粒輝石安山岩	作業面は平坦。	28.7	20.9	9.1	7500	欠損	D-8
D	5	白石	不定形	細粒輝石安山岩	表作業面は平坦で磨面。裏に円錐形の凹み。	16.9	21.1	8.3	4100	欠損	D-8
D	6	多孔石	不定形	細粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	19.5	16	11.2	15500		D-8
D	7	磨石	楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に磨面。	6.6	10.2	4	410	欠損	D-8
D	8	多孔石	不定形	細粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	9	8.3	5.2	360	欠損	D-8
D	9	磨・凹石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。	11.8	7.1	3.1	400		D-8
D	10	磨・凹石	楕円形	細粒輝石安山岩	表面に磨面と敲打痕。磨一磨。	9.6	8.1	5.1	530		D-12
D	11	凹石	楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。	9.8	8.5	4.6	420	欠損	D-8
D	12	石皿	—	細粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	6.2	9.5	4.2	170	欠損	D-13
D	13	磨石	楕丸長方形	緑色片岩	表面に磨面。	11.4	6.7	2.1	260		D-13
D	14	磨石	楕丸長方形	緑色片岩	表面に磨面。	10.4	5.9	1.8	150		D-8
D	15	磨石・凹石	楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。側面に細長い凹み。凹一磨。	9.9	8.1	4.5	570		D-7
E	1	石皿・多孔石	—	牛伏砂岩	石皿作業面は凹面。表裏に石皿作業面と円錐形の凹み。	18.1	10.9	9.9	1320		E-8
E	2	打製石斧	楕形	実質安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	10.8	10.6	2.9	410	基部欠損	E-9
E	3	磨・凹石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	11.6	7.2	5.5	630		E-7
E	4	磨・凹石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	11.5	5.9	4.7	430		E-9
E	5	打製石斧	短棒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.7	4.7	1.5	70	基部欠損	E-7
E	6	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	9.2	4.6	1.4	70		E-6
F	1	磨・凹石	楕丸長方形	細粒輝石安山岩	表面に凹み。表裏・側面に磨面で使をもつ。凹一磨。	6.8	5.9	4.3	230	欠損	F-9
F	2	磨石	不定形	細粒輝石安山岩	磨面が凹面。	14.7	10.8	4	880		F-10
F	3	磨石	楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に磨面。	8.4	10.9	4.5	590		F-10
F	4	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.2	4.1	1.9	70		F-10
F	5	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	4.6	1.4	50	両端欠損	F-10
F	6	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	6.7	4.9	2	90	基部欠損	F-7
F	7	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.8	4.9	2.3	130		F-13
F	8	スケレイナー	楕長	黒色頁岩	側面に両面調整の刃部。	11.8	5.7	2.1	130		F-10
F	9	石鏝	凹縁無蓋鏝	珪質頁岩	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	3.3	1.7	0.3	1		
G	1	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	31.5	25.5	15	15400		
G	2	多孔石	不定形	細粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	18	21.5	13.5	5200		
G	3	磨石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表面に磨面。	10	7.2	2.5	270		G-7
G	4	多孔石	不定形	細粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	53.2	31.3	24.3	34300		G-10
G	5	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	9.8	4	1.3	60		G-7
G	6	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	5.3	2.5	80	両端欠損	G-7
G	7	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	7.9	6	2	120	基部欠損	G-7
G	8	磨・凹石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。	9.3	6.6	4.3	350		G-7
H	1	打製石斧	短棒形	実質玄武岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.2	3.2	1.2	50		H-14
H	2	スケレイナー	楕長	珪質頁岩	側面に片面調整の刃部。	7.5	5.5	0.9	40		H-14
H	3	磨・凹石	楕丸長方形	細粒輝石安山岩	表裏・側面に凹みと磨面。使をつくる。	9.1	8.7	4.2	450		H-10
I	1	多孔石	不定形	細粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	32.2	20.8	15.3	10700		I-13
I	2	凹石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。	12.9	6.3	4.3	460		I-13
I	3	凹石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。	10.8	6.9	3.7	340	欠損	I-13
I	4	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面マゴコ状。	15	8.6	3.4	460		I-14
I	5	磨・凹石	長楕円形	細粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	11.4	7.8	5.8	680		I-13

## 第1章 出土遺物の概要

14区 グリッド 石器観察表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
J	1	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.5	5.3	2.8	300	刃部欠損	J-13
K	1	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏・側面に磨面。磨一凹。	11.2	6.9	4.2	410		K-13
K	2	敲石	扁平な棒形	黒色片岩	側面に敲打痕と平円状の抉り。	10.3	3.8	1.5	100	欠損	K-14
K	3	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9	4.3	1.6	70		K-14
K	4	磨製石斧	定角式	蛇紋岩	表裏・側面を研磨し稜をもつ。横断面隅丸長方形。刃部はこぼれ。	4.1	2.5	0.7	10		K-14
L	1	投擲	楕円形	粗粒輝石安山岩		4.8	4.5	3	70		L-12
L	2	石鏝	凹基無基鏝	チャート	側面に押圧制離。横断面レンズ状。	1.8	1.3	0.5	0.7		L-13
L	3	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴク状。	7.6	4.1	2.4	70		L-14
L	4	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	5.5	5.9	1.4	70	基部欠損	L-14
L	5	磨製石斧	定角式	安山玄武岩	表裏・側面は研磨し稜をもつ。横断面隅丸長方形。	6.3	2.4	1.2	30		L-13
L	6	磨製石斧	定角式	蛇紋岩	表裏・側面を研磨し稜をもつ。横断面隅丸長方形。	8.2	5.1	2.9	210	刃部欠損	L-12
L	7	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	10.2	5.7	1.8	120		L-14
L	8	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.5	4.2	1.1	40		L-9
M	1	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.1	5.5	1.7	100	欠損	M-13
M	2	打製石斧	短冊形	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	4.6	1.3	50	欠損	M-13	
M	3	打製石斧	短冊形	硬質砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.8	3.4	1.3	40	欠損	M-13
N	1	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.5	5	1.9	150		N-13
N	2	石鏝	—	粗粒輝石安山岩	石鏝作業面は凹面。	11	11.4	9.1	1360	欠損	N-8
N	3	打製石斧	分銅形	黒色頁岩	両面調整。側面に抉り。横断面レンズ状。	10.7	7	1	90		N-12
N	4	磨・凹・敲石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。側面に敲打痕。磨一凹。	10.2	7.6	3	340		N-8
N	5	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に両面調整の刃部。	6.7	4.3	1.7	50	欠損	N-12
N	6	白石	不定形	角閃石安山岩	表裏とも作業面は平坦。	35.8	24		13400		N-12
O	1	白石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。	36.2	31	12	18150		O-7
O	2	磨石	丸棒形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	22.6	13	9.6	4450	欠損	O-7
O	3	石鏝	—	粗粒輝石安山岩	石鏝作業面は凹面。	12.4	13.6	6.5	1270	欠損	O-12
O	4	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に片面調整の刃部。	6.2	6.9	1.3	60		O-7
O	5	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏面に円錐形の凹み。	18.8	17.7		4500		O-9
O	6	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	10.1	6.7	4.4	430		O-7
O	7	磨石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	9.9	6.9	3.5	380		O-12
P	1	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。磨面は湾曲。	16.1	6	5.1	890		P-8
P	2	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	8.3	5.8	2.8	190		P-14
P	3	磨・凹石	隅丸長方形	滑結凝灰岩	表裏に浅い凹み。表裏・側面に磨面で稜をもつ。凹一磨。	11.4	7	4.1	510	欠損	P-8
P	4	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	16.4	11.9	8.8	1540		P-14
P	5	磨・敲石	球形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。中央部に敲打痕。磨一磨。	10.2	11.5	9.1	1570		P-13
P	6	打製石斧	分銅形	灰色安山岩	両面調整。刃部磨滅。側面に抉り。横断面レンズ状。	12	6.2	2.5	280	基部欠損	P-7
P	7	打製石斧	短冊形	安山玄武岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	12.2	3.4	1.5	100		P-14
P	8	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.1	5.2	2.4	120	刃部欠損	P-8
P	9	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.9	5	1.5	80		P-14
P	10	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	5.8	4.2	1.8	50	基部欠損	P-8
P	11	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に押圧制離の片面刃部。	5.1	4.9	1	20		P-14
P	12	スクレイパー	横長	珪質凝灰岩	側面に押圧制離の片面刃部。	4.4	6.3	1	20		P-14
Q	1	白石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は凸凹あり。円錐形の凹み。	28.8	20.4	7.2	4800		Q-14
Q	2	白石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は凸凹あり。円錐形の凹み。	17	17.8	13.4	4600	欠損	Q-14
Q	3	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	33.8	21.2	6.8	5600		Q-9
Q	4	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	16.4	11.8	5.8	1500		Q-9
Q	5	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	6.4	5.1	3.7	150		Q-7
Q	6	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	19.1	12.5	7.1	2080		Q-14
Q	7	砥石	扁平楕円形	緑色片岩	砥石作業面は平坦。	9.2	6.4	1.6	150		Q-7
Q	8	磨石	丸棒形	安山玄武岩	側面に敲打痕。	16.2	5.4	3	440	欠損	Q-7
Q	9	敲石	扁平な棒形	雲母石英片岩	側面に敲打痕。	5.9	2.4	1.9	40		Q-8

## 第3節 遺構外の出土遺物

14区 グリッド石器観察表

グリッド番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
Q	10	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.8	4.8	2.1	120	両端欠損	Q-6
Q	11	打製石斧	短筒形	頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7.1	3.6	1.5	50	基部欠損	Q-6
Q	12	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7.8	4.1	1.3	50		Q-14
Q	13	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9	8	2.9	220	基部欠損	Q-14
R	1	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表面円錐形の凹み。	18.2	15.8	6	2600		R-8
R	2	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	9.6	8.1	4.1	420		R-8
R	3	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11	5	1.8	130		R-8
R	4	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	12.4	4.4	1.6	110		R-10
R	5	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	5.3	1.7	70	両端欠損	R-8
R	6	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.8	5.7	1.1	30	基部欠損	R-8
R	7	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	4	4.3	1.6	30	基部欠損	R-13
R	8	スクレイパー	横長	粗粒輝石安山岩	側面に片面調整の刃部。	5.8	9.5	0.7	50		R-7
R	9	石鏝	一	黒色頁岩	表面に押圧刻痕。	4.1	2.9	1.3	8.3		R-7
S	1	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏面に円錐形の凹み。	16	19.2	8.2	2700		
S	2	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	中央に円錐形の凹み。	13	13	4.4	1050		
S	3	台石	長楕円形	角閃石安山岩	作業面は平坦で磨面。	12	6.8	5	600	欠損	
S	4	台石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で磨面。	13.6	6.4	4.5	550		
S	5	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	13.2	8.4	3.6	500		
S	6	石鏝	一	緑色片岩	石鏝作業面は凹面。	16.6	10.1	7.1	1330	欠損	S-6
S	7	石鏝	楕丸長方形	緑色片岩	石鏝作業面は凹面。	14.7	8.5	4	880	欠損	S-8
S	8	磨・凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕。磨一敲。	10.3	9	4	470		S-7
S	9	磨・凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕。磨一敲。	10.3	8	5.2	670		S-11
S	10	磨石	扁平心楕形	緑色片岩	側面に敲打痕。	11.2	4.2	1.8	140		S-9
S	11	磨・凹石	楕丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	7.7	7.3	4.5	370	欠損	S-9
S	12	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。	12.9	6.5	4	430		S-9
S	13	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。	10.9	5.6	3.4	360	欠損	S-12
S	14	磨・凹石	楕丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に細長い凹みと磨面。磨一凹。	9.1	8.9	5.2	670	欠損	S-9
S	15	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	11.4	7.2	6	730		S-13
S	16	磨石	不定形	緑色片岩	表裏に磨面。	8.6	5.1	1.6	110		S-11
S	17	敲磨	楕形	粗粒輝石安山岩	表面は研磨。	4.5	3.9	2.2	70		S-11
S	18	石鏝	円盤形	デイサイト	横断面円形。	13.2	10.5	9.6	2000	両端欠損	
S	19	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.3	5.1	2.3	140	基部欠損	S-11
S	20	打製石斧	短筒形	珧質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.6	4.1	4.3	60		S-13
S	21	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	7.3	4.7	1.3	70		S-11
S	22	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	4.7	1.7	100	刃部欠損	S-7
S	23	打製石斧	短筒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	3.6	1.3	40	刃部欠損	S-11
S	24	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	3.6	1.7	40	刃部欠損	S-13
S	25	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	8	4.6	3	100	基部欠損	S-9
S	26	打製石斧	短筒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	4.4	1.1	30	両端欠損	S-9
S	27	打製石斧	短筒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.2	3.5	1.2	20	両端欠損	S-9
S	28	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	4.2	1.3	50	両端欠損	S-9
S	29	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5	3.9	1.6	40	両端欠損	S-9
S	30	スクレイパー	縦長	頁岩	側面に押圧刻痕の片面刃部。	4.9	4	1.2	30		S-7
S	31	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.7	2.9	1	30		S-8
S	32	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	両面調整の刃部。	7.9	6.6	1.1	60		S-11
S	33	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に押圧刻痕の片面刃部。	5.7	5.9	1.2	30		S-7
S	34	スクレイパー	横長	黒色頁岩	押圧刻痕の片面刃部。	5.2	7.5	1.4	60		S-9
S	35	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に片面調整の刃部。	4.8	10	1.3	40		S-7
S	36	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に押圧刻痕の片面刃部。	5.8	7.6	1.4	50		S-13
S	37	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	片面調整の刃部。	7.7	3.9	1.3	50		S-11

## 第1章 出土遺物の概要

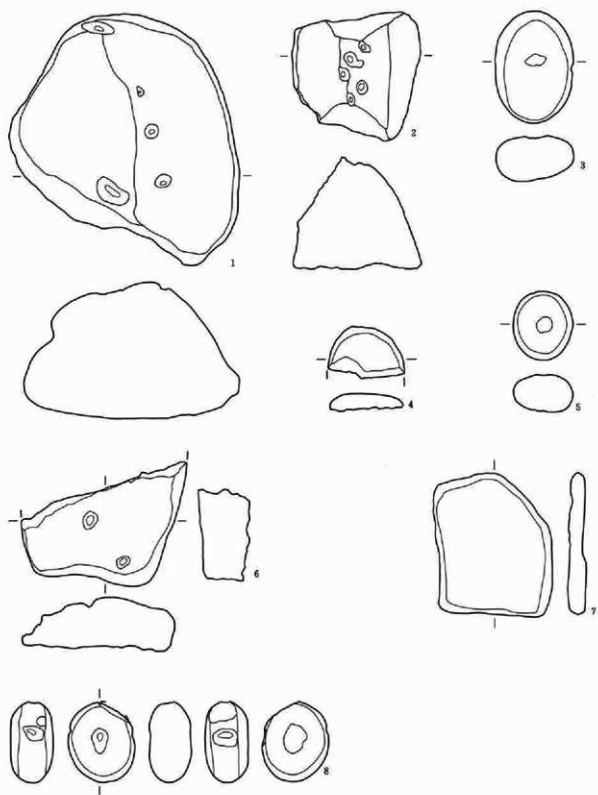
14区 グリッド石器観音義

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
S	38	磨製石斧	定角式	灰玄武岩	表裏・側面を研磨し縁をもつ。横断面隅丸長方形。	7.9	4.5	2.5	150	刃部欠損	S-11
S	39	不明石製品	長方形	軽石	表裏・側面作裏面で縁をもつ。	7.3	4.4	1.4	3		S-9
S	40	磨石	楕円形	緑色片岩	表面に磨面。若干凹面になる。	8.8	6	1.3	90		S-7
S	41	石鏝	凹底無茎類	黒輝石	側面に押形跡。横断面レンズ状。	2.1	1.5	0.4	1		S-7
S	42	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。片面調整の刃部。横断面カムゴコ状。	14	5.3	3.2	230		S-9
S	43	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	13.1	5.6	2.1	140		S-8
S	44	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.5	4.8	2.2	130	刃部欠損	S-9
S	45	打製石斧	短冊形	頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.7	4.2	2	110		S-11
S	46	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.9	5	1.9	120		S-8
S	47	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.1	4.4	1.2	50		S-11
S	48	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	10.7	4.6	1.5	100		S-7
S	49	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.7	5.1	1.4	70		S-11
S	50	打製石斧	楕形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.4	4.8	1.4	60		S-9
S	51	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。側面に決り。横断面レンズ状。	9.5	4.6	1.8	80		S-7
S	52	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9	4.2	1.4	70		S-9
S	53	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.1	4.6	1.2	60		S-9
S	54	打製石斧	楕形	実質安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10	5.2	1.9	130	刃部欠損	S-9
S	55	打製石斧	楕形	実質玄武岩	両面調整。刃部はこぼれ。側面に決り。横断面レンズ状。	8.2	4.5	1.5	80		S-7
S	56	打製石斧	楕形	黒色安山岩	両面調整。右側面に決り。横断面レンズ状。	7.9	4.8	1.5	80	刃部欠損	S-7
S	57	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.2	3.8	1.4	40	刃部欠損	S-7
S	58	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5	3.7	1.4	30	刃部欠損	S-9
S	59	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	3.7	1.7	40	刃部欠損	S-9
S	60	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	3.6	1.7	40	欠損	S-8
T	1	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	16	18	7	2100	欠損	T-7
T	2	多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	14.8	11.8	9.8	2100		T-7
T	3	石皿	一	牛伏砂岩	石皿作業面は凹面。	9.8	10.2	5.9	600	欠損	T-10
T	4	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏は円錐形の凹み。	15.2	14.8	7.3	2280	欠損	T-6
T	5	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	12.8	6.8	5.1	630		T-11
T	6	磨石	乳棒形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	10.9	6.4	4.3	440	欠損	T-9
T	7	凹石	棒形	緑色片岩	表面に凹み。	10.6	4.9	3.3	300	欠損	T-9
T	8	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	8.8	7.1	4.8	400		T-7
T	9	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	9.3	8.6	4.2	510		T-11
T	10	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	10.5	7.2	5.5	530		T-11
T	11	磨石	球形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	9.5	8.9	8	860		T-11
T	12	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.1	4.6	1.3	60		T-10
T	13	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.5	4.7	2	100		T-11
T	14	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.5	4	1.5	60		T-9
T	15	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.7	4.3	1.7	70	基部欠損	T-9
T	16	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7.7	4.1	1.1	40		T-10
T	17	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.6	4.5	2	90		T-7
T	18	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	5	1.5	80	基部欠損	T-10
T	19	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.4	7	2	180	基部欠損	T-8
T	20	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10	5.1	1.7	110	刃部欠損	T-8
T	21	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10	8.5	3.1	290	刃部欠損	T-10
T	22	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.2	4.3	1.7	80	刃部欠損	T-10
T	23	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.2	4.5	2.4	100	刃部欠損	T-9

## 第3節 遺構外の出土遺物

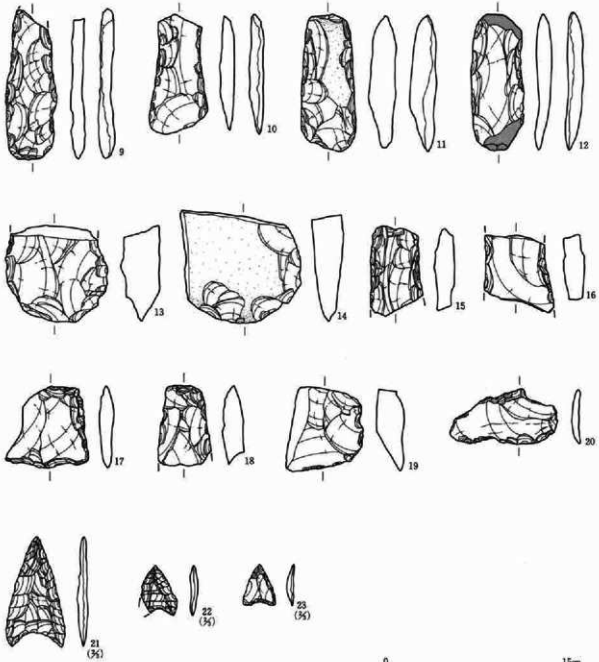
14区 グリッド石器観察表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
T	24	打製石斧	梨形	珧質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	3.9	1	50	刃部欠損	T-10
T	25	打製石斧	梨形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.2	4.1	1.5	70	刃部欠損	T-10
T	26	打製石斧	梨形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.5	5.3	1.5	70	刃部欠損	T-10
T	27	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	4.5	1.6	50	刃部欠損	T-9
T	28	打製石斧	梨形	安質玄武岩	両面調整。横断面レンズ状。	7	4.2	1.3	50	刃部欠損	T-11
T	29	打製石斧	梨形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.8	6.9	2.5	140	基部欠損	T-8
T	30	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8	5	1.6	60	基部欠損	T-8
T	31	打製石斧	梨形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	5.5	1.8	90	基部欠損	T-10
T	32	打製石斧	梨形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.8	4.1	1.8	50	両端欠損	T-11
T	33	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.5	3.9	1	20	基部欠損	T-11
T	34	石匙	縦長	黒色頁岩	側面に押圧刻線の片面刃部。	4.4	4.3	0.7	20	T-8	
T	35	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.9	4.2	1.3	50	刃部欠損	T-10
T	36	打製石斧	短棒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	3.8	1.7	50	基部欠損	T-8
T	37	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.7	3.6	1.7	50	基部欠損	T-8
T	38	スクレイパー	縦長	頁岩	両面調整。	5.5	3.9	2.1	20	T-8	
T	39	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.4	3.9	1.5	50	両端欠損	T-8
T	40	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.7	4.5	1.5	30	基部欠損	T-10
T	41	打製石斧	短棒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.5	4.4	2.2	50	基部欠損	T-8
T	42	磨製石斧	定角式	安質玄武岩	表裏・側面を研磨し鋭をもつ。横断面隅丸長方形。	5.8	3.4	1.1	70	T-8	
T	43	磨製石斧	定角式	安質玄武岩	表裏・側面を研磨し鋭をもつ。横断面隅丸長方形。	4.4	2.6	1.3	20	刃部欠損	T-8
T	44	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面に押圧刻線の片面刃部とはこぼれ。	6.9	2.7	1.3	20		T-10
T	45	石匙	縦長	黒色頁岩	刃部片面調整。	6	5.5	0.8	30		T-11
T	46	石匙	縦長	黒曜石	狭み部に決り。側面に押圧刻線の刃部。	4.3	1.6	0.7	3.2		T-9
T	47	石匙	—	黒色頁岩	狭部に押圧刻線。	3.6	2.5	0.7	5.9	基部欠損	T-7
T	48	石鏃	凹基部茎痕	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.8	1.9	0.3	1.1		T-9
T	49	石鏃	平基部茎痕	珧質頁岩	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.9	2.7	0.7	4.7		T-11
T	50	石鏃	凹基部茎痕	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	2.1	1.4	0.4	1		T-9
T	51	石鏃	凹基部茎痕	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面カマゴコ状。	2.3	1.9	0.5	1.3		T-8
T	52	石鏃	平基部茎痕	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面カマゴコ状。	1.7	1.5	0.5	0.6		T-9
T	53	石鏃	平基部茎痕	黒曜石	側面に押圧刻線。横断面レンズ状。	1.6	1.5	0.3	0.5		T-9

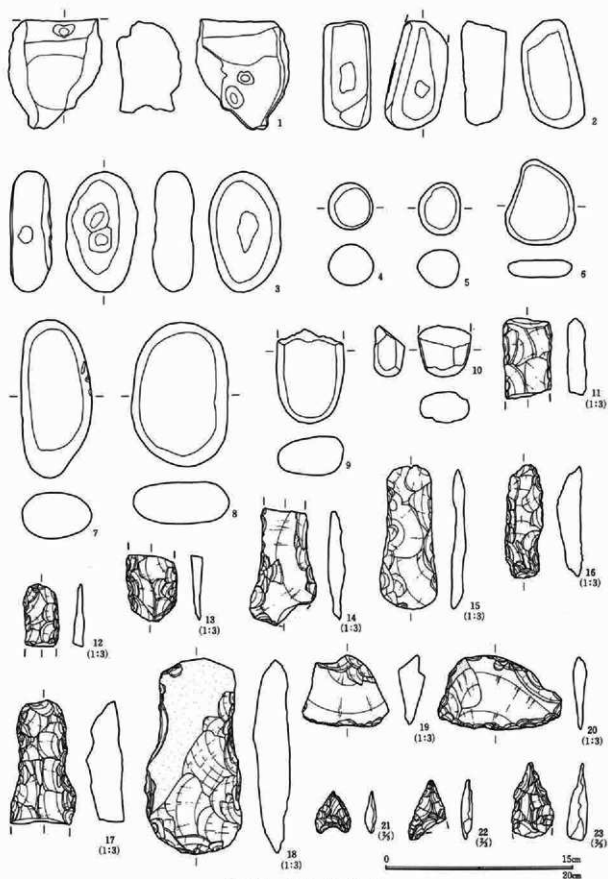


0 20cm

第335図 グリッド14区 A-1

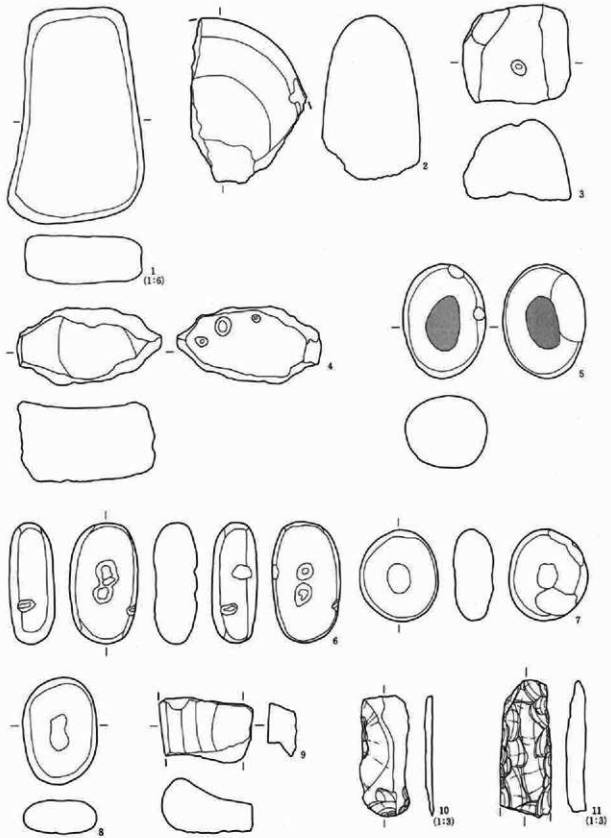


第336図 グリッド14区 A-2



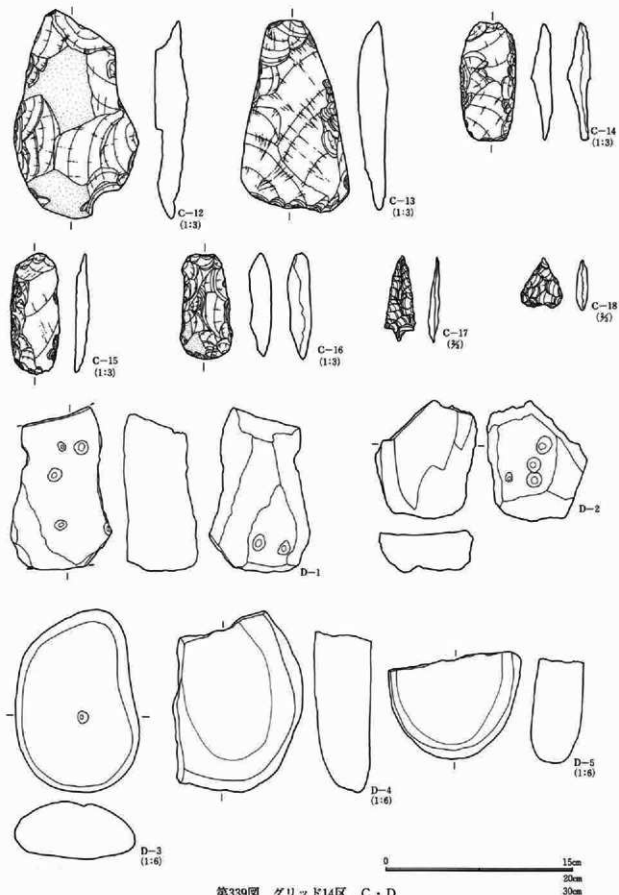
第337図 グリッド14区 B



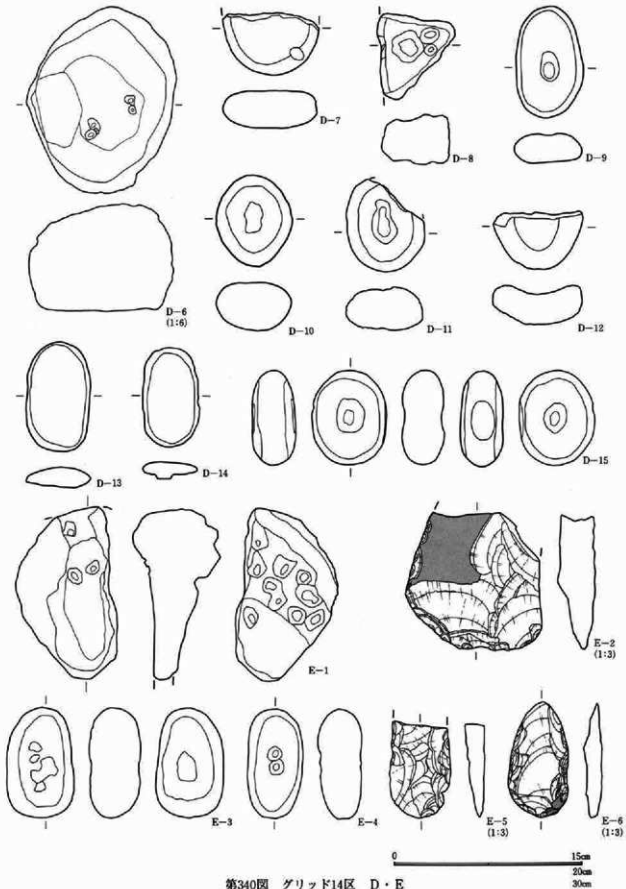


第338図 グリッド14区 C

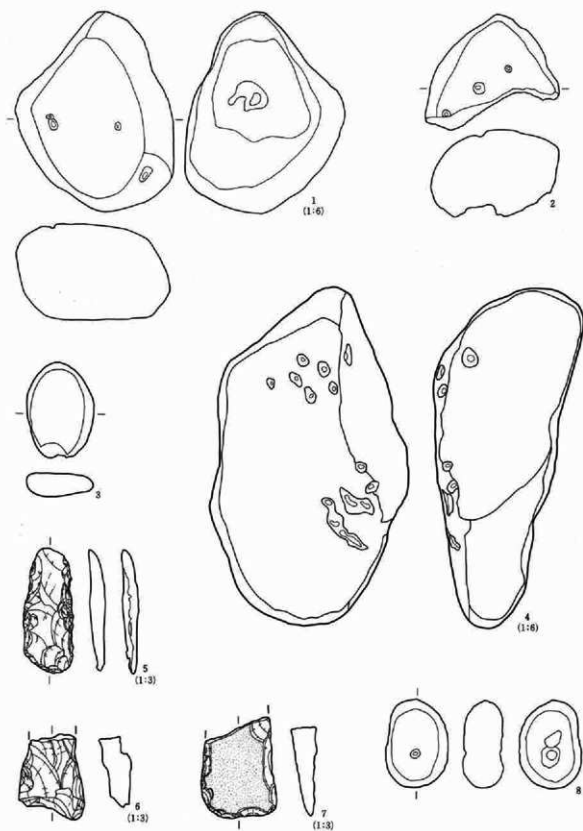
第1章 出土遺物の概要



第339図 グリッド14区 C・D

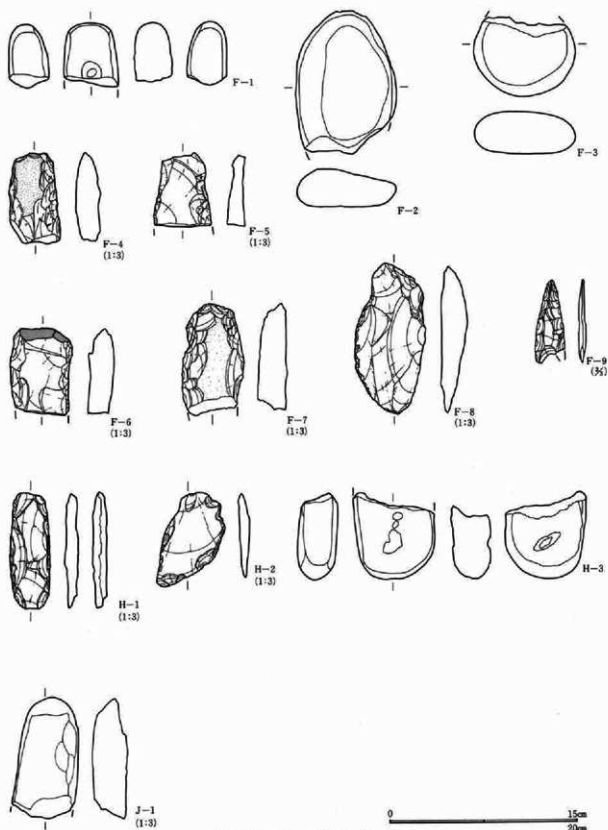


第340図 グリッド14区 D・E



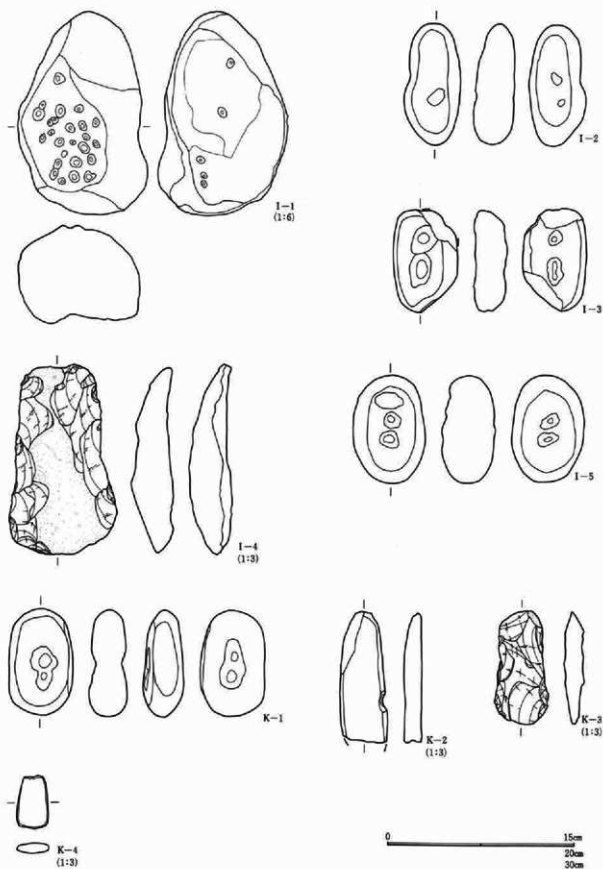
第341図 グリッド14区 G





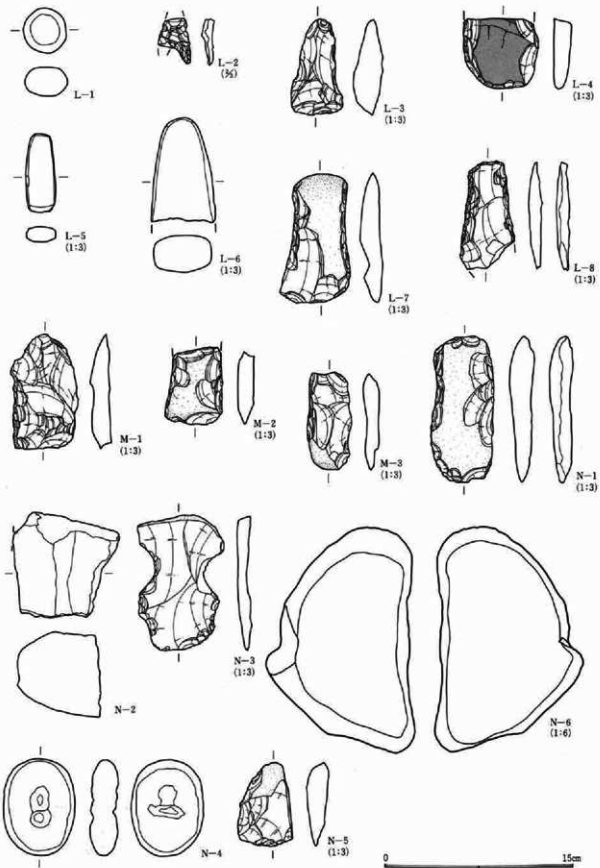
第342図 グリッド14区 F・H・J

第1章 出土遺物の概要

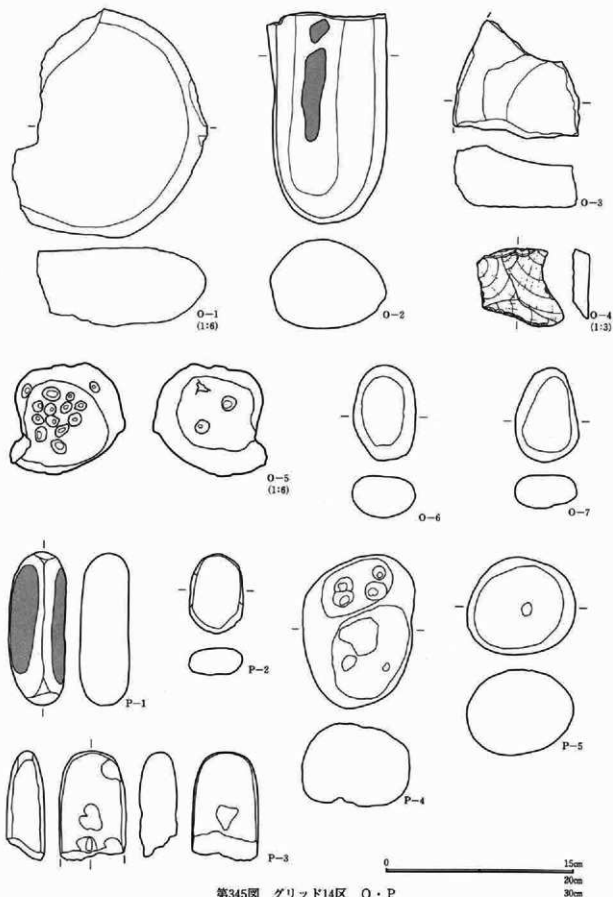


第343図 グリッド14区 I・K

第3節 遺構外の出土遺物



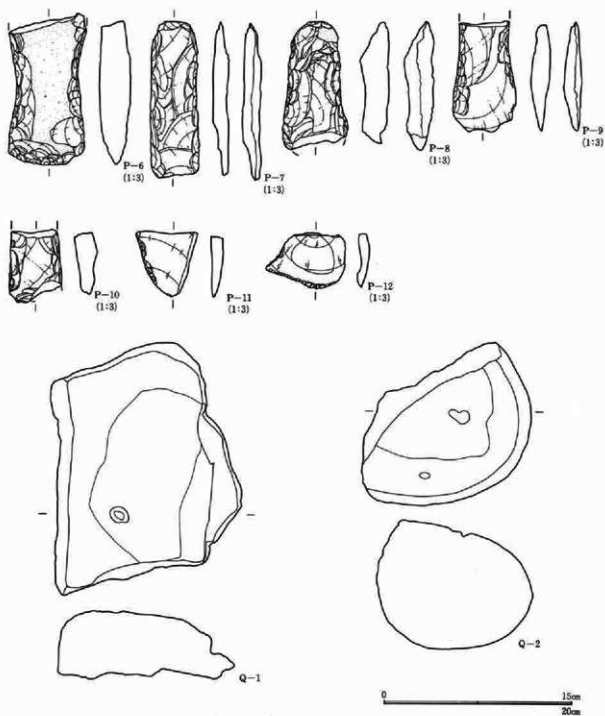
第344図 グリッド14区 L・M・N



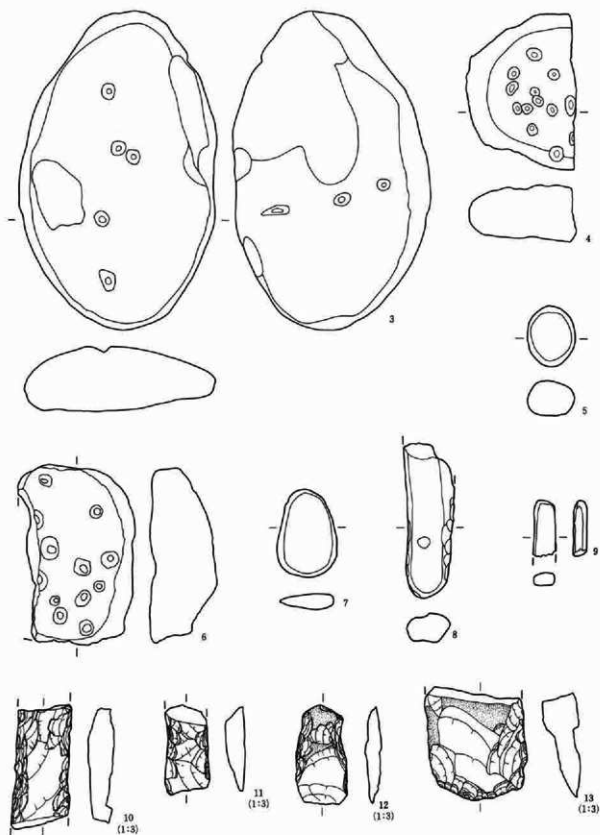
第345図 グリッド14区 O・P



第3節 遺構外の出土遺物

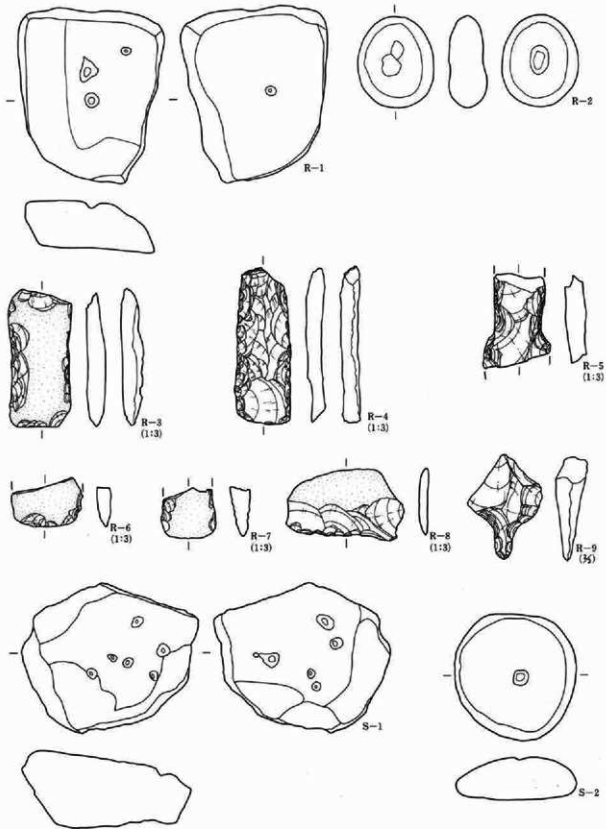


第346図 グリッド14区 P・Q

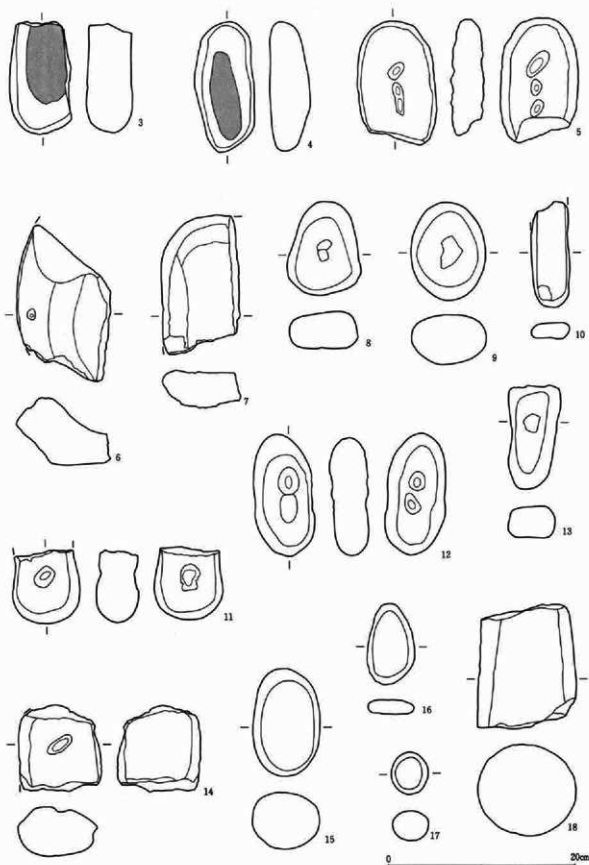


第347図 グリッド14区 Q

第3節 遺構外の出土遺物

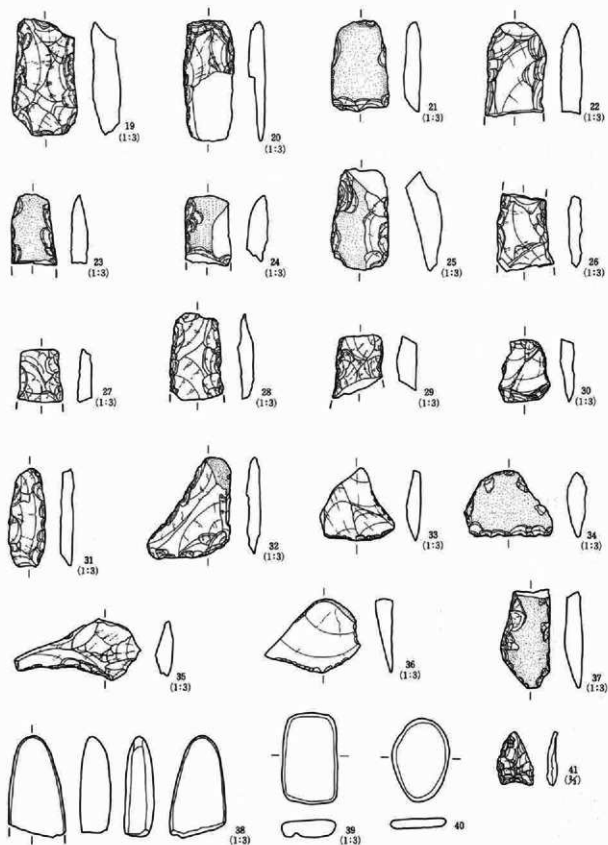


第348図 グリッド14区 R・S



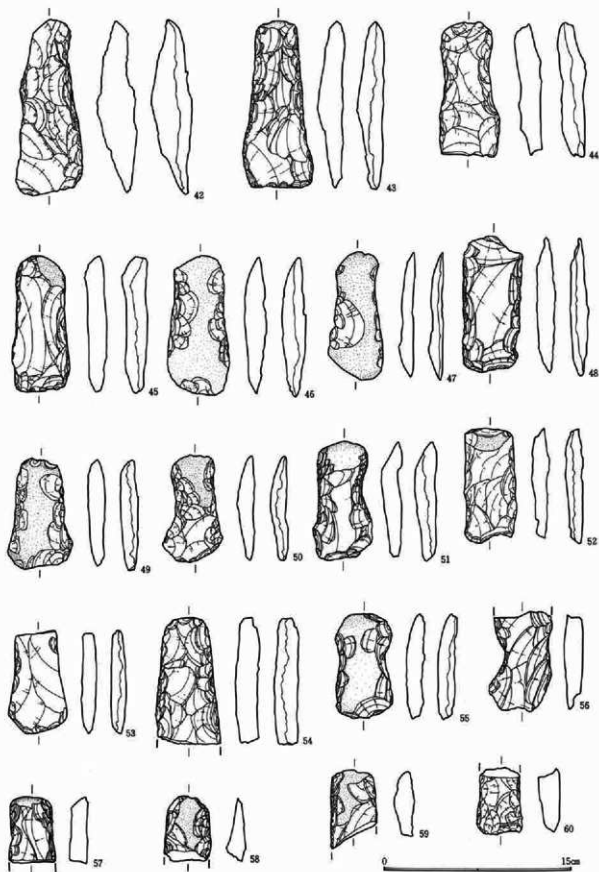
第349図 グリッド14区 S-1

第3節 遺構外の出土遺物



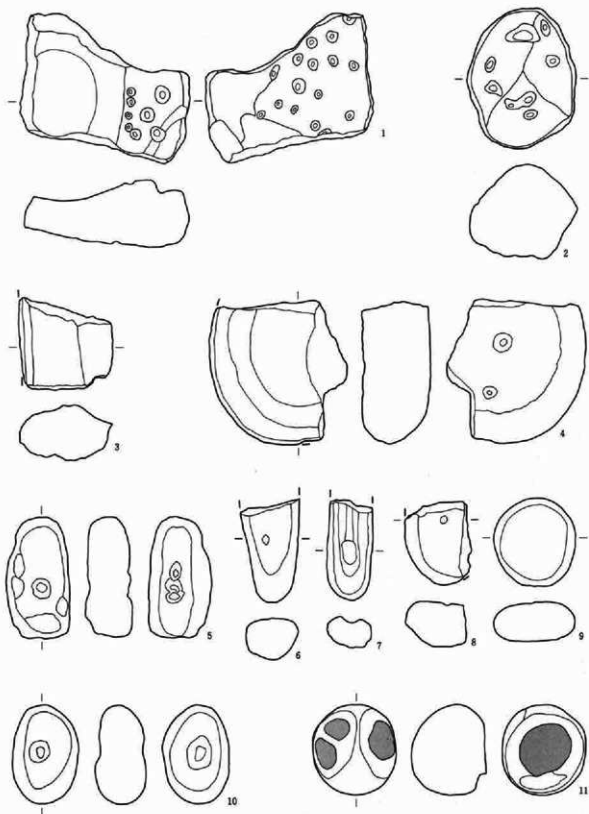
第350図 グリッド14区 S-2

第1章 出土遺物の概要



第351図 グリッド14区 S-3

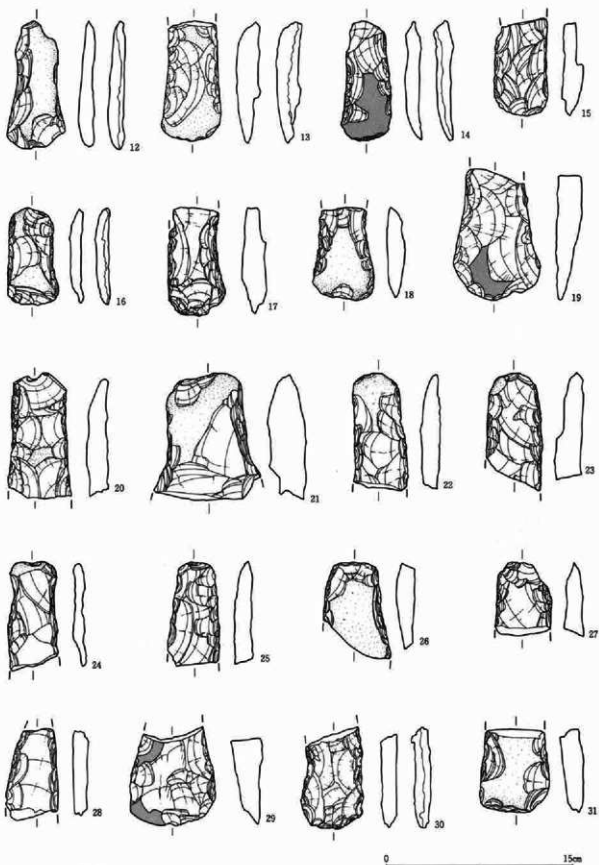
第3節 遺構外の出土遺物



0 20mm

第352図 グリッド14区 T-1

第1章 出土遺物の概要



第353図 グリッド14区 T-2



第3節 遺構外の出土遺物



第354図 グリッド14区 T-3

## 第1章 出土遺物の概要

15区 グリッド石器調査表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
A	1	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏-側面に磨面で使をもつ。凹一磨。	13.1	6.1	4.5	590		A-8
A	2	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	11.4	8.4	5.1	730		A-7
A	3	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	6.6	6.3	4.9	330	欠損	A-9
A	4	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏-側面に磨面で使をもつ。凹一磨。	8.2	8.3	4.4	510		A-13
A	5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	9.4	10.8	4.3	390		A-6
A	6	控弾	球形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	4.8	4.4	2.8	70		A-7
A	7	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	11.4	4.9	1.9	130		A-8
A	8	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.1	5.2	2.1	130	刃部欠損	A-11
A	9	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。側面に抉り。横断面レンズ状。	7.1	4.7	2.5	100		A-7
A	10	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7	4.9	2.1	100	刃部欠損	A-8
A	11	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.2	4.3	2	40	刃部欠損	A-9
A	12	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	4	1.5	40	刃部欠損	A-9
A	13	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	5.9	8	2.3	60	基部欠損	A-9
A	14	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7	4.3	1.8	70	基部欠損	A-9
A	15	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.9	1.8	80	基部欠損	A-10
A	16	打製石斧	楕形	建質頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	6.3	4.8	1.4	50		A-9
A	17	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	6.7	3.8	1.5	50		A-10
A	18	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	3.9	1.4	40		A-7
A	19	磨製石斧	定角式	実質粒状岩	表裏-側面に研磨し使をもつ。横断面隅丸長方形。	5.3	3.8	2.1	60	基部欠損	A-9
B	1	磨石	球形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	11	9.8	9.2	1500		B-14
B	2	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	9.8	6	4.5	380		B-7
B	3	磨石	扁平な棒形	黒色片岩	側面に抉り打。	10.8	3.3	1.6	90		B-11
B	4	打製石斧	楕形	建質頁岩	両面調整。側面に抉り。横断面レンズ状。	9.7	5.6	2.6	150	刃部欠損	B-12
B	5	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	5.1	4.6	1.2	30	刃部欠損	B-11
B	6	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。側面に抉り。横断面レンズ状。	5.4	4.6	2.2	60	刃部欠損	B-8
B	7	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.7	4.8	1.2	30	基部欠損	B-11
B	8	打製石斧	楕形	建質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.8	4.6	1.4	70		B-8
B	9	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	4.1	5	1.4	40	基部欠損	B-11
B	10	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.6	5.2	1.8	60	基部欠損	B-8
B	11	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.4	4.9	1.4	40	基部欠損	B-8
C	1	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一凹。	6.3	7.8	3	180		C-10
C	2	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	4.1	1.6	50	刃部欠損	C-11
C	3	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	4.2	1.5	40	刃部欠損	C-11
C	4	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	3.6	2.4	50	刃部欠損	C-11
C	5	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。右側面に抉り。横断面レンズ状。	6.8	4.7	1.4	50	刃部欠損	C-10
C	6	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	4.5	3.1	90	刃部欠損	C-7
C	7	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	4.8	1.4	60	刃部欠損	C-11
C	8	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.6	4.6	1.9	80	刃部欠損	C-11
C	9	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	4.1	1.4	50	両端欠損	C-11

## 第3節 遺構外の出土遺物

15区 グリッド石器調査表

グリッド番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
C	10	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	3.8	1.9	40	刃部欠損	C-9
C	11	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.6	3.9	1.3	50	刃部欠損	C-11
C	12	打製石斧	短筒形	縹紋輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	4.3	4.4	1.4	40	基部欠損	C-11
C	13	打製石斧	短筒形	縹紋輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	4.5	4.7	1.5	50	基部欠損	C-7
C	14	打製石斧	短筒形	縹紋輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	5.8	4	1.7	40	基部欠損	C-11
C	15	打製石斧	楕形	縹紋輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマボコ状。	13.1	6.4	3	250		C-9
C	16	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	12.2	8.5	2.5	300	刃部欠損	C-9
C	17	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10	5.2	1.6	90		C-9
C	18	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.9	4	1.6	70		C-11
C	19	打製石斧	短筒形	硬質泥岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	10.4	3.7	1.9	80		C-11
C	20	打製石斧	楕形	縹紋輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.4	5.3	1.4	100	刃部欠損	C-11
C	21	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.6	4.1	1.6	70	刃部欠損	C-11
C	22	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7.6	4.1	1	40		C-11
C	23	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面カマボコ状。	9.6	4.8	2.3	140	刃部欠損	C-13
C	24	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマボコ状。	9.1	4.1	1.8	70		C-10
C	25	打製石斧	楕形	閃緑岩	両面調整。横断面レンズ状。	9	7.4	1.8	160	基部欠損	C-9
C	26	打製石斧	楕形	縹紋輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.3	4.8	1.5	70		C-11
C	27	打製石斧	楕形	硬質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.8	4.6	1.7	80		C-11
C	28	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面カマボコ状。	6.6	5.4	2.7	130	両端欠損	C-13
C	29	打製石斧	短筒形	縹紋輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	6.7	5.7	2	100	基部欠損	C-11
C	30	打製石斧	短筒形	縹紋輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	5.8	6.3	2.2	80	基部欠損	C-7
C	31	打製石斧	短筒形	縹紋輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9	4.9	1.7	90	刃部欠損	C-7
C	32	打製石斧	短筒形	硬質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.7	8.1	1.1	50		C-7
C	33	磨製石斧	一	変玄武岩	表面を研磨し鋭をもたない。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.9	6.8	3.3	270	基部欠損	C-13
D	1	磨-四石	隅丸長方形	縹紋輝石安山岩	表面・側面に凹みと磨面を備えもつ。凹一磨。	13.9	7.2	4.8	890		D-13
D	2	打製石斧	楕形	縹紋輝石安山岩	片面調整。横断面カマボコ状。	8	3.7	1	40		D-10
E	1	石皿	一	縹紋輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	9.7	16	3.5	680	欠損	E-11
E	2	凹石	楕円形	縹紋輝石安山岩	表面・側面に凹み。	11.5	5.8	5.8	640		E-5
E	3	磨-磨石	楕円形	石英閃緑岩	表面に打痕。表面に磨面。磨一磨。	8.3	7.2	3.8	330		E-7
E	4	多孔石	一	緑色片岩	円筒形の凹み。	10.1	9.2	2.3	290	欠損	E-6
E	5	磨石	隅丸長方形	デサイト	側面に磨面。	6.9	3.7	2.2	90		E-5
E	6	磨石	長楕円形	雲母石英片岩	表面に磨面。	8.1	6.1	2.3	170	欠損	E-11
E	7	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.9	4.1	1.5	80		E-7
E	8	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.7	4.7	2.5	120		E-8
E	9	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.9	3.7	1.8	60	刃部欠損	E-11
E	10	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。	7.3	5.6	2.5	130	刃部欠損	E-5
E	11	打製石斧	楕形	縹紋輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.7	4.5	1.7	70		E-7
E	12	スクレイパー	楕形	縹紋輝石安山岩	側面に押圧刺刺の片面刃部。	7.5	4	1.4	50	刃部欠損	E-11
E	13	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.6	4.4	6.7	60	刃部欠損	E-11
E	14	スクレイパー	楕形	黒色頁岩	側面に押圧刺刺の片面刃部。	6.2	5	2.2	70	刃部欠損	E-11
E	15	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	側面に押圧刺刺の片面刃部。	4.3	4.9	0.7	20		E-11
E	16	スクレイパー	楕長	黒色頁岩	両面調整。	4.8	6.7	1.4	70		E-11
F	1	石皿	楕円形	縹紋輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	15.6	19	8.6	2800		F-10

## 第1章 出土遺物の概要

15区 グリッド石器調査表

グリッド番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
F	2	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	16.2	16	6.6	1700		F-10
F	3	磨-敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。表面に敲打痕。磨一磨。	12.6	9.3	5.2	780		F-10
F	4	凹-敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏-側面に凹面形の凹み。側面に敲打痕。	13.6	7.4	6.4	940		F-12
F	5	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。磨面平坦。	6.7	6.2	2.3	150		F-6
F	6	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。磨面平坦。	10.4	4.7	2.6	160		F-9
F	7	石匙	楕長	黒色頁岩	側面に両面調整の刃部。右側面に把手部の抉り。	11.5	4.3	1.5	90		F-6
F	8	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	8.9	5	1.6	90		F-9
F	9	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.3	6.8	2.1	180	刃部欠損	F-6
F	10	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.1	5	1.3	120	刃部欠損	F-6
F	11	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.8	4.1	1.2	60		F-6
F	12	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	10.4	3.6	0.9	50		F-12
F	13	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	5.6	1.9	80	両端欠損	F-6
F	14	打製石斧	短筒形	輝緑岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.1	4	1.6	50	基部欠損	F-9
F	15	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7.4	4.8	1.8	90	両端欠損	F-7
G	1	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹面形の凹み。	41.5	24.5	23.5	28400		G-10
G	2	多孔石	G-9	粗粒輝石安山岩	凹面形の凹み。表裏に磨面。	22	16.6	14.4	7900		G-9
G	3	多孔石	不定形	角閃石安山岩	凹面形の凹み。	22.6	18	9	4450		G-9
G	4	石皿	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	10.3	8.3	5	380	欠損	G-11
G	5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	凹面形の凹み。	13.6	12	5.7	900		G-11
G	6	石皿・多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏に凹面形の凹み。	14.5	11.3	4.4	800	欠損	G-11
G	7	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。凹面形の凹み。石皿の転用。	17.4	19.6	8.4	3150	欠損	G-9
G	8	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	6.2	12.6	7.4	1500		G-9
G	9	凹石	不定形	角閃石安山岩	凹面形の凹み。	14.4	17.4	8.5	2200		G-9
G	10	多孔石	不定形	角閃石安山岩	凹面形の凹み。	13	16.8	11.2	3800		G-9
G	11	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹面形の凹み。	19.4	17	9	2950		G-9
G	12	凹石	不定形	角閃石安山岩	凹面形の凹み。	20	12.7	11.8	3850		G-9
G	13	合石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平面で敲打痕あり。	16	19	9	3800	欠損	G-9
G	14	凹石	卵形	粗粒輝石安山岩	中央に浅い楕円形の凹み。	11.8	11	10	1750		G-9
G	15	磨-敲石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。裏に磨面。	12.9	7.5	5.4	730		G-9
G	16	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表-側面に細長い凹み。	12.5	9.8	4	650		G-9
G	17	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏-側面に凹みと磨面で接をもつ。磨一磨。	13	6.6	3.6	500		G-9
G	18	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹面形の凹み。表裏-側面に磨面で接をもつ。凹一磨。	15.6	8.9	5.3	1070		G-9
G	19	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	12.7	8.9	4.3	570		G-6
G	20	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一磨。	11.8	6.9	3.4	400		G-9
G	21	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	11.3	6.1	4.4	460		G-9
G	22	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	10.6	7.9	4.6	580		G-9
G	23	凹石	一	粗粒輝石安山岩	表面に凹面形の凹み。	6.7	7	2.3	120	欠損	G-9
G	24	磨-凹石	卵形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	7.7	5.8	4.2	210		G-6
G	25	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一磨。	6.3	7.8	3.9	240	欠損	G-11
G	26	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	5.5	5.8	2	80	欠損	G-6
G	27	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一磨。	9.8	7.4	3.9	360		G-11
G	28	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	9.7	7.8	5.4	520		G-9
G	29	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	10.6	6.2	2.2	250		G-9
G	30	磨-凹石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一磨。	8.9	8	5.2	500		G-11
G	31	磨-凹石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一磨。	9.6	9	3.9	450		G-11
G	32	磨-凹石	一	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。	6	8.1	3.6	240	欠損	G-11
G	33	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。磨一磨。	5.8	6.5	3.6	160	欠損	G-11
G	34	磨-敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。裏-側面に敲打痕。	5.7	7.7	4.6	280	欠損	G-7
G	35	磨-敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕。磨一磨。	8.9	8.7	4.6	440	欠損	G-11
G	36	磨-凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹面形の凹み。	6.5	11	4	260	欠損	G-11
G	37	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏-側面に磨面で接をもつ。	7.3	7.2	4.5	340	欠損	G-9
G	38	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。	7.8	6.7	4.1	250		G-9
G	39	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。表裏に磨面。凹一磨。	6.9	8.8	4.7	400	欠損	G-5
G	40	凹石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。	9.8	6.9	5.2	430		G-9
G	41	磨-凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹一磨。	14.8	8.2	3.3	610		G-6

15区 グリッド石器類調査

グリッド番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
G	42	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。表・側面に磨面。凹一磨。	10.8	5.3	4.1	420		G-6
G	43	磨・最石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕。敲一磨。	12.5	8.9	3.8	670		G-9
G	44	磨石	楕丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	13	8.8	3.3	630		G-9
G	45	磨石	棒形	粗粒輝石安山岩	表面に平坦な磨面。	13.5	5.5	4.3	460		G-11
G	46	磨・凹石	—	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。表裏に磨面。凹一磨。	7.8	7.7	3.1	340		G-9
G	47	磨石	—	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	5.5	7.6	3.6	280	欠損	G-9
G	48	磨石	—	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	7.2	8.8	3.7	340	欠損	G-9
G	49	磨石	—	粗粒輝石安山岩	表面に平坦な磨面。	10.1	8.4	2.8	410		G-9
G	50	磨石	—	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	6.8	9.4	3.8	380	欠損	G-9
G	51	最石	扁平な棒形	雲母石英片岩	側面に敲打痕。	11.1	4.1	1.8	130	欠損	G-9
G	52	最石	扁平な棒形	雲母石英片岩	側面に敲打痕。	12.4	4.7	2.2	220	欠損	G-11
G	53	最石	扁平な棒形	雲母石英片岩	側面に敲打痕。	12.8	5.2	1.9	200		G-9
G	54	最石	棒形	黒色頁岩	側面に敲打痕。	13.6	2.4	1.5	70		G-11
G	55	最石	棒形	黒色頁岩	側面に敲打痕。	12	2.7	1.5	70		G-11
G	56	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.2	5.5	4.1	180		G-9
G	57	磨石	—	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面と後をもつ。	4.2	6.4	3.4	120	欠損	G-9
G	58	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	7.1	3.8	2.8	110		G-9
G	59	打製石斧	雲母石英片岩	雲母石英片岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.6	5.5	1.1	70		G-7
G	60	打製石斧	短棒形	雲母石英片岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.7	5.5	1.3	100		G-7
G	61	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	14.2	4.7	2.6	160		G-9
G	62	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.2	5.4	1.9	130		G-9
G	63	打製石斧	短棒形	地質頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.2	4.2	1.9	70		G-8
G	64	打製石斧	短棒形	地質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.3	4.1	1.3	70		G-9
G	65	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.9	6.3	3.1	220		G-9
G	66	打製石斧	楕形	硬質泥岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	10.1	5.1	1.4	80		G-11
G	67	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.7	4.2	1.5	70		G-11
G	68	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	8.6	4.3	1.1	40		G-9
G	69	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	12.4	4.5	3.2	200		G-9
G	70	打製石斧	短棒形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.7	5.8	2.5	220		G-9
G	71	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.6	5	1.8	90		G-8
G	72	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.2	5.1	1.9	90	刃部欠損	G-7
G	73	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.4	4.9	2.3	90	基部欠損	G-11
G	74	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	10.6	4.9	2.8	120		G-9
G	75	棒形石器	短棒形	地質頁岩	両面調整。両面割離。	4.3	4.1	1.6	20		G-9
G	76	打製石斧	短棒形	安質玄武岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.3	3.7	1.4	50		G-6
G	77	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	10.7	5.2	1.8	90		G-6
G	78	打製石斧	短棒形	地質頁岩	両面調整。刃部片面調整。刃部はこぼれ。横断面カマゴコ状。	10.4	6.9	3.2	320	基部欠損	G-9
G	79	打製石斧	短棒形	地質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.5	4.9	3	160	刃部欠損	G-7
G	80	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.8	4.7	2.1	110	刃部欠損	G-9
G	81	打製石斧	楕形	地質準片岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.4	4.5	1.4	60	刃部欠損	G-9
G	82	打製石斧	短棒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.8	4.7	1.7	70	刃部欠損	G-9
G	83	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.6	3.8	1.8	60	刃部欠損	G-9
G	84	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.6	4.7	1.8	90	刃部欠損	G-9
G	85	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.1	4.4	4.1	70	刃部欠損	G-9
G	86	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.2	1.7	50	刃部欠損	G-9
G	87	打製石斧	短棒形	地質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	4.2	1.5	50	刃部欠損	G-9

## 第1章 出土遺物の概要

15区 グリッド石器観覧表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
G	88	打製石斧	短舟形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	4.6	1.8	70	刃部欠損	G-9
G	89	打製石斧	短舟形	雲母石英片岩	片面調整。横断面コマゴコ状。	8.7	5.1	1.3	80	刃部欠損	G-11
G	90	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.1	4.5	1.7	80	刃部欠損	G-9
G	91	打製石斧	短舟形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6	4.8	1.8	70	刃部欠損	G-9
G	92	打製石斧	短舟形	珧質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.6	4.3	1.8	40	刃部欠損	G-9
G	93	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.3	2.6	1.1	50	基部欠損	G-9
G	94	打製石斧	短舟形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.6	4.2	1.6	50	刃部欠損	G-9
G	95	打製石斧	楕形	砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.6	4.4	1.7	60	刃部欠損	G-9
G	96	打製石斧	短舟形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.8	5.8	1.9	130		G-7
G	97	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8	6	1.9	120		G-9
G	98	打製石斧	短舟形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.2	4.4	1.5	70	刃部欠損	G-9
G	99	打製石斧	楕形	珧質頁岩	両面調整。刃部片面調整。刃部はこぼれ。横断面コマゴコ状。	9.4	5.3	2	90		G-9
G	100	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.9	4.7	1.5	60	刃部欠損	G-11
G	101	打製石斧	短舟形	硬質泥岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.3	4.8	1.6	110	刃部欠損	G-11
G	102	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.3	5.1	1.2	50	刃部欠損	G-9
G	103	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	5.1	0.9	40	基部欠損	G-9
G	104	打製石斧	短舟形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	5.8	1.9	80	基部欠損	G-9
G	105	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.4	4.8	1.4	40	基部欠損	G-11
G	106	打製石斧	短舟形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	5.1	6.3	2.1	90	基部欠損	G-9
G	107	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.3	5.5	1.7	50	基部欠損	G-9
G	108	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.6	4.6	2.4	60	基部欠損	G-9
G	109	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.5	3.6	1.1	20		G-11
G	110	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.2	4.6	1.9	50	基部欠損	G-6
G	111	打製石斧	楕形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	5.4	1.6	70	両端欠損	G-11
G	112	打製石斧	短舟形	砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	4.1	2.3	70	両端欠損	G-9
G	113	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	3.4	4.8	1.9	40	両端欠損	G-11
G	114	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.8	4.5	1.4	40	刃部欠損	G-6
G	115	打製石斧	短舟形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	7.7	4.4	2.3	80		G-7
G	116	槌形石器	台形	黒色頁岩	両面調整。	3.5	4.9	1.3	30	両端欠損	G-9
G	117	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	5.3	2.3	80	両端欠損	G-9
G	118	磨製石斧	定角式	ひん岩	表面・両側研磨により縁をもつ。横断面隅丸長方形。	5.6	5.9	2.8	130	基部欠損	G-7
G	119	磨製石斧	定角式	安文武岩	表面・側面を研磨し縁をもつ。横断面隅丸長方形。	6	6.9	2.2	180	基部欠損	G-9
G	120	磨製石斧	定角式	安文武岩	表面・側面を研磨しゆるい縁をもつ。刃部はこぼれ。横断面隅丸長方形。	10.2	6.1	2.9	300		G-9
G	121	打製石斧	楕形	珧質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.2	10.7	3.4	380	刃部欠損	G-11
G	122	スクレイパー	縦長	黒色頁岩	側面は両面調整。	9.8	5.5	1.7	100		G-6
G	123	スクレイパー	横長	黒色頁岩	両面調整。	3.4	5.8	1.1	30		G-11
G	124	スクレイパー	横長	黒色頁岩	一側面に片面調整の刃部。	5	8.4	1.4	50		G-11
G	125	槌形石器	台形	頁岩	両端斜縁。	4.9	5.9	1.5	50		G-6
G	126	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に片面調整の刃部。	5	4.4	1.3	40		G-9

## 第3節 遺構外の出土遺物

15区 グリッド石器観察表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
G	127	スタレイヤー	横長	黒色頁岩	側辺に使用によるほげれ。	3.8	6.6	1.3	30		G-6
G	128	石匙	横長	黒色頁岩	側辺に押圧刻離の片面刃部。つまみ部両側からの決り。	5.4	7.6	1.1	40		G-11
G	129	石匙	横長	黒色頁岩	片面調整の刃部。つまみ部両側からの決り。	2.6	4.6	0.5	5		G-11
H	1	台石	長楕円形	角閃石安山岩	表面に敲打痕。	27.5	27.5		10300		
H	2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	27.8	25.5		14000		
H	3	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	12.6	10.8	8	1500		H-6
H	4	四石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	9	10.8	8.2	1000		H-10
H	5	磨・敲石	円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面と敲打痕。磨一敲。	8.8	8.7	3.3	370		H-10
H	6	磨・敲石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕。敲一磨。	11	5	3.3	300		H-10
H	7	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	25.4	22	10.4		欠損	H-10
H	8	磨石	扁平長楕円形	緑色片岩	表裏に磨面。	12.7	5.4	1.5	190		H-10
H	9	磨・敲石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。表裏・側辺に敲打痕。磨一敲。	9.6	8.6	4	460	欠損	H-6
H	10	磨・敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面と敲打痕。磨一敲。	6.2	8.3	4.7	260		H-10
H	11	磨・敲石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面と敲打痕。磨一敲。	9.4	5.3	3.8	300		H-10
H	12	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.1	3.9	1.5	60		H-10
H	13	スタレイヤー	縦長	黒色頁岩	側辺に両面調整。	7	4	1.4	50		H-10
H	14	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.6	6.1	1.6	90	基部欠損	H-7
H	15	打製石斧	楕形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.7	1.8	80	両端欠損	H-6
H	16	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.7	1.8	80	両端欠損	H-10
H	17	打製石斧	短冊形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.5	1.6	60	両端欠損	H-7
H	18	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.6	5.3	1.3	40	基部欠損	H-7
H	19	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.6	4.4	1.4	60	基部欠損	H-9
H	20	スタレイヤー	横長	硬質泥岩	側辺に片面の押圧刻離。	5.7	7.4	1.5	60		H-10
H	21	石匙	平基無蓋縁	粗粒輝石安山岩	側辺に押圧刻離。横断面レンズ状。	2.9	2.4	0.6	3.7		H-9
H	22	石匙	—	黒曜石	側辺に押圧刻離。横断面レンズ状。	1.5	1.1	0.3	0.5	基部欠損	H-9
H	23	石匙	円錐錐	チャート	側辺に押圧刻離。横断面レンズ状。	2.7	1.3	0.5	1.4		H-10
I	1	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	29.6	25.3	10	11900		I-9	
I	2	磨・敲石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面と敲打痕。磨一敲。	10.8	9.4	3.9	530		I-9
I	3	磨・四石	円形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹みと磨面。磨一凹。	9.2	8.4	4.3	420		I-11
I	4	敲石	楕形	緑色片岩	側辺に敲打痕。	6.7	3	1.7	60	欠損	I-9
I	5	打製石斧	短冊形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.3	3.5	1.4	40	基部欠損	I-9
I	6	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.9	4	1.6	70	刃部欠損	I-9
I	7	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.4	5.6	2	90	両端欠損	I-11
I	8	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。刃部増減。横断面レンズ状。	7	4.6	1.5	80	基部欠損	I-9
I	9	打製石斧	短冊形	珪質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6	4.3	1.4	40	基部欠損	I-9
I	10	打製石斧	楕形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.6	1.6	60	基部欠損	I-9
I	11	石匙	縦長	珪質頁岩	側辺に押圧刻離の片面刃部。	4.3	3.2	1.2	10		I-9
I	12	石匙	円錐錐	黒曜石	底辺に押圧刻離。横断面レンズ状。	1.6	0.9	0.5	1		I-9
I	13	石匙	平基無蓋縁	黒色頁岩	側辺に押圧刻離。横断面レンズ状。	3.6	2.1	0.7	5.2		I-11
J	1	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹一磨。	7.3	7.7	4.5	310	欠損	J-8
J	2	打製石斧	短冊形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.9	4.3	1.3	80		J-9
J	3	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.5	4.1	1.8	80		J-9
J	4	打製石斧	楕形	文象底岩?	両面調整。横断面レンズ状。	5.7	4.4	1.6	60	両端欠損	J-9
K	1	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。円錐形の凹み。	21.4	23.8	8.8	5800	欠損	K-9
K	2	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。円錐形の凹み。	15.4	21.6	6.6	3000	欠損	K-9
K	3	磨石	—	緑色片岩	作業面は凹面。	12.8	8.5	6	840	欠損	K-9
K	4	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	9.8	7.5	3.7	380	欠損	K-9
K	5	磨・敲石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。側辺に敲打痕。	13.5	9.1	3.8	770		K-9
K	6	磨・四石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。凹一磨。	11.2	7.1	4.3	520		K-9
K	7	磨・四石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。磨一凹。	6.3	6.7	3.8	210	欠損	K-9

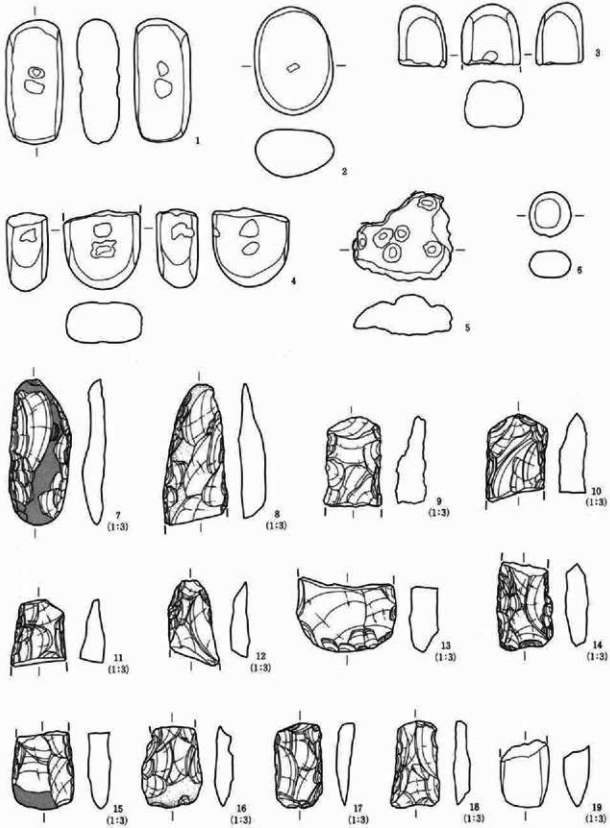
## 第1章 出土遺物の概要

## 15区 グリッド石器調査表

グリッド	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他	小グリッド
K	8	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	9.2	9.4	5.8	770		K-12
K	9	磨石	卵形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.8	5	4.3	170	欠損	K-9
K	10	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	9.5	8	3.8	500		K-9
K	11	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	10.1	8.2	3.2	330	欠損	K-9
K	12	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	7.5	4.9	2	70		K-9
K	13	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	11.4	6.5	4.7	610		K-9
K	14	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	9.4	7.3	4	400		K-9
K	15	磨石	球形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	6.3	6	4.5	210		K-9
K	16	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10	5.7	1.6	90	刃部欠損	K-9
K	17	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.1	3.9	1.3	50		K-7
K	18	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.2	5.4	2	100	基部欠損	K-9
K	19	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7	4.5	1.8	60		K-12
K	20	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.6	3.1	1.1	20	刃部欠損	K-10
K	21	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.5	3.4	1.1	40	刃部欠損	K-9
K	22	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	5.5	2.2	100	基部欠損	K-9
K	23	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.9	5	2	110	刃部欠損	K-9
K	24	打製石斧	楕形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5	4.5	1.4	40		K-7
K	25	砥石	—	—	近世の砥石。	8.2	4.5	3.6	210		K-12
K	26	砥石	—	—	近世の砥石。	9	3.8	2.9	150		K-12
L	1	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.9	5.5	2.1	100		L-13
O	1	砥石	—	—	近世の砥石。	6.4	2.6	2.1	70		O-11
O	2	砥石	—	—	近世の砥石。	8	3.1	1.8	50		O-11
P	1	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	4	1.8	80		P-8
S	1	石皿・多孔石	—	粗粒輝石安山岩	石皿作表面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	19.6	16	9	2000		S-6
S	2	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	13.4	7.7	3.5	360		S-9
S	3	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	9.6	4.5	1.5	80		S-9
S	4	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.7	5.5	2	130		S-9
S	5	打製石斧	短棒形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.7	4.8	1.7	120		S-9



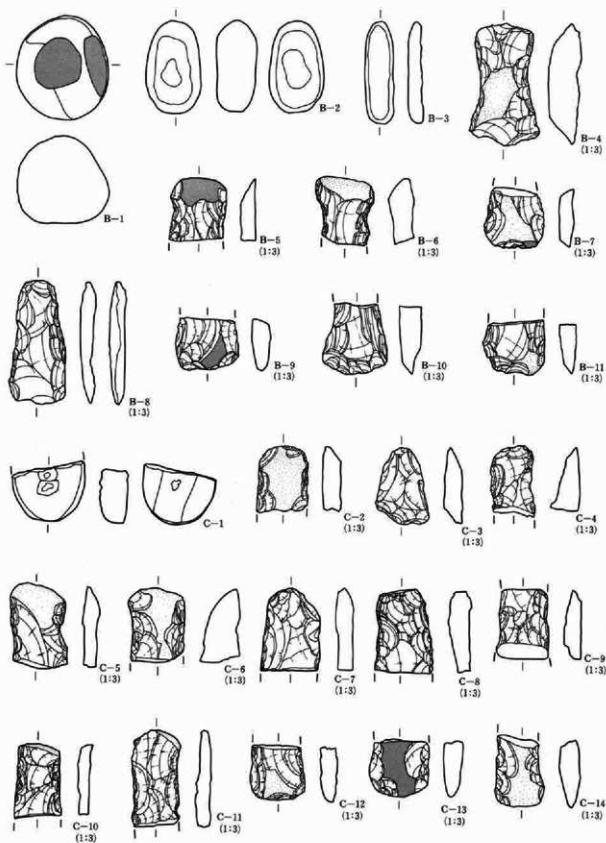
第3節 遺構外の出土遺物



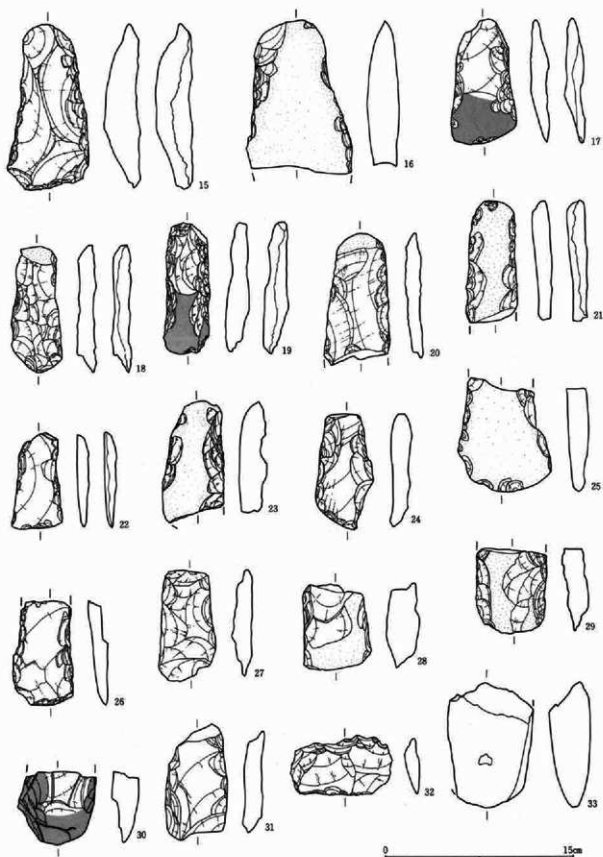
第355図 グリッド15区 A

0 15mm  
20cm

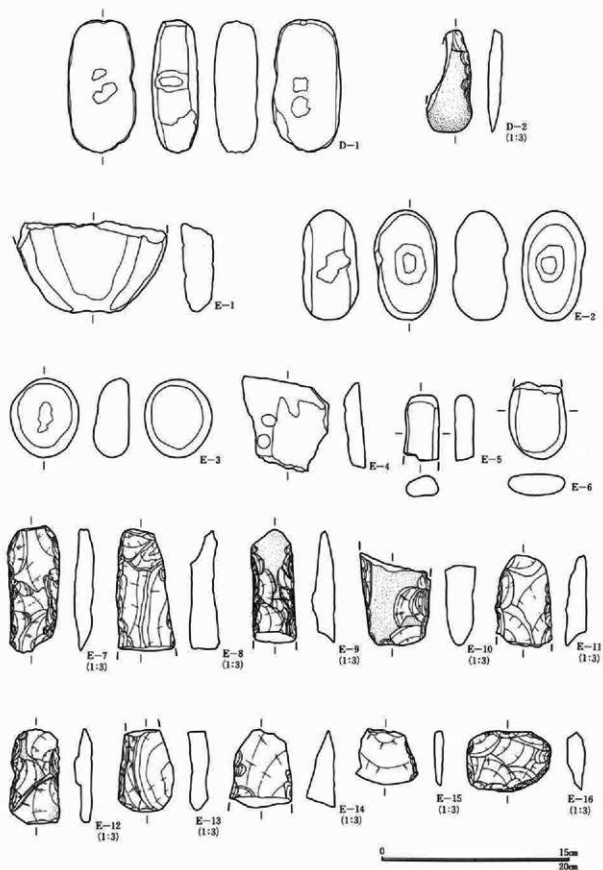
第1章 出土物の概要



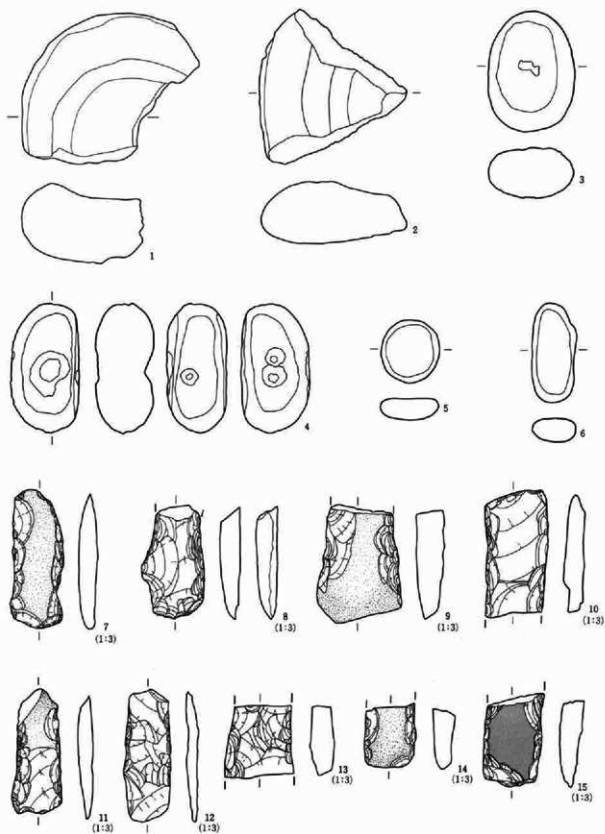
第356図 グリッド15区 B・C



第357図 グリッド15区 C

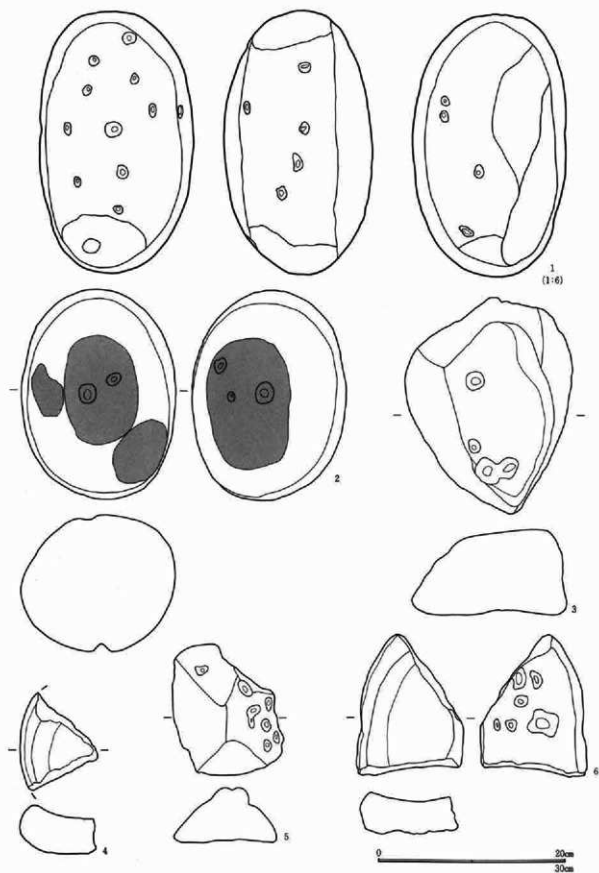


第358図 グリッド15区 D・E

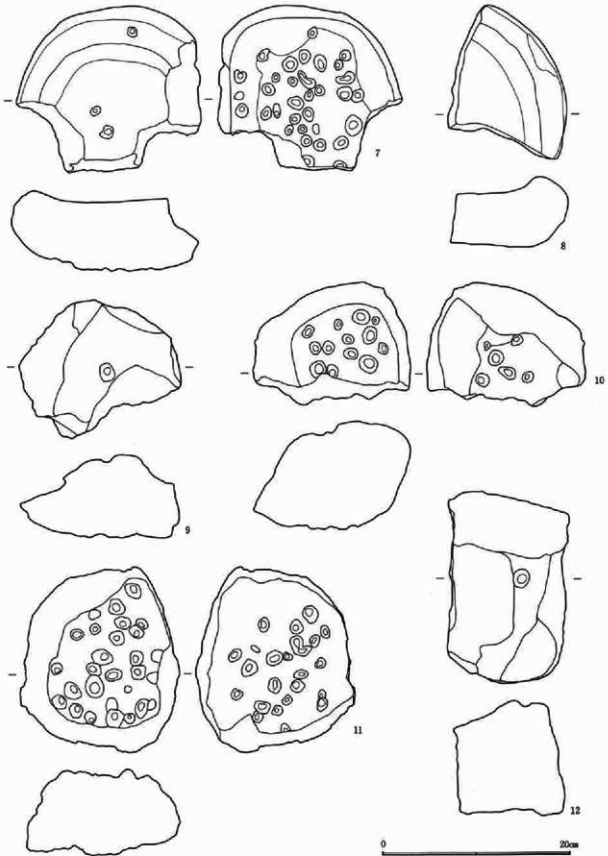


0 15cm 20cm

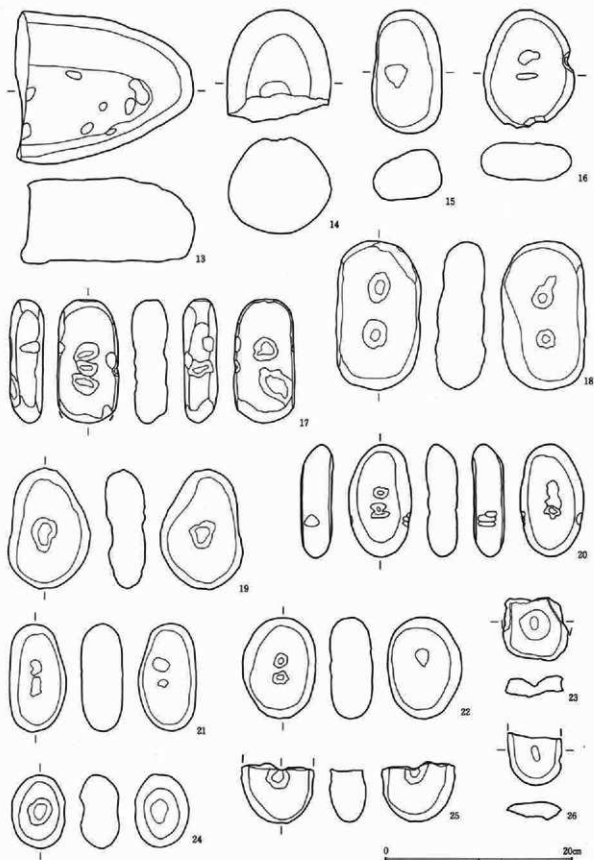
第359図 グリッド15区 F



第360図 グリッド15区 G-1

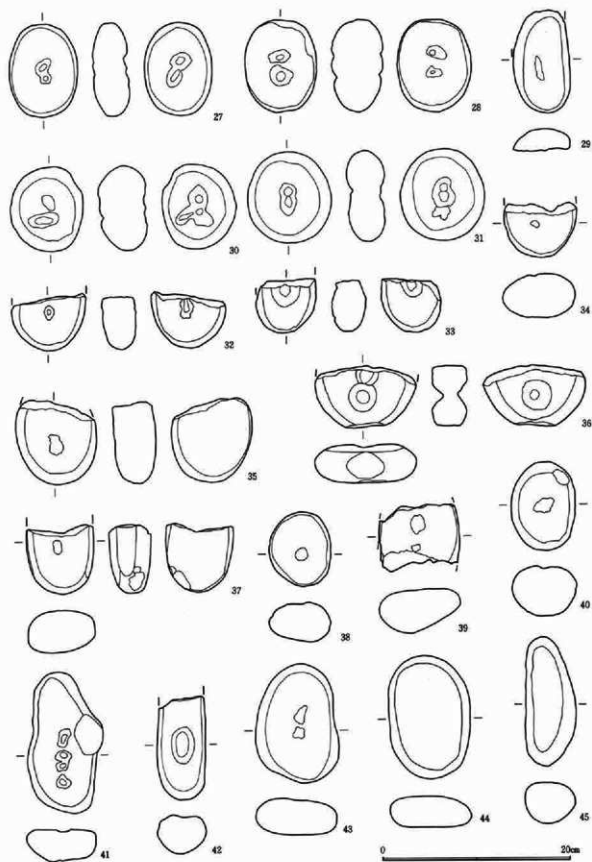


第361図 グリッド15区 G-2



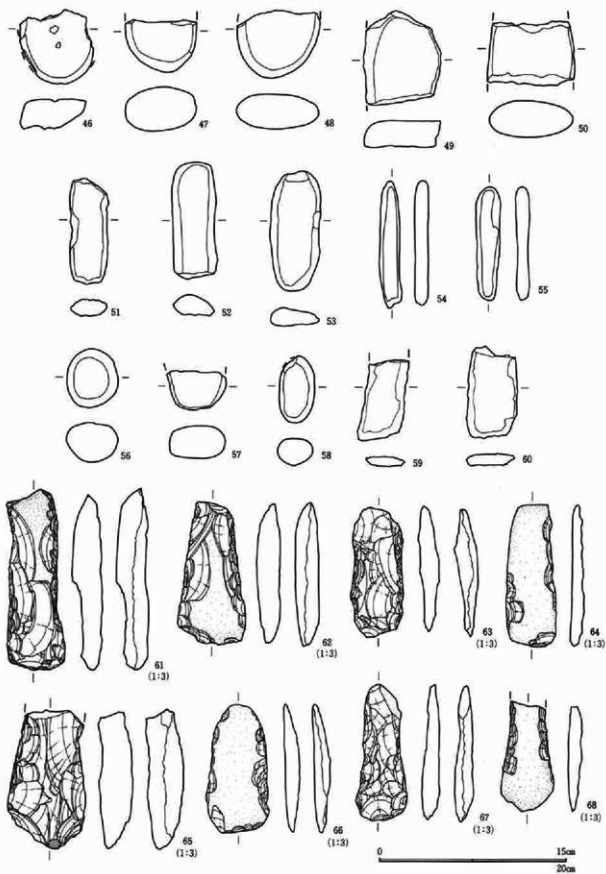
第362図 グリッド15区 G-3





第363図 グリッド15区 G-4

第1章 出土遺物の概要

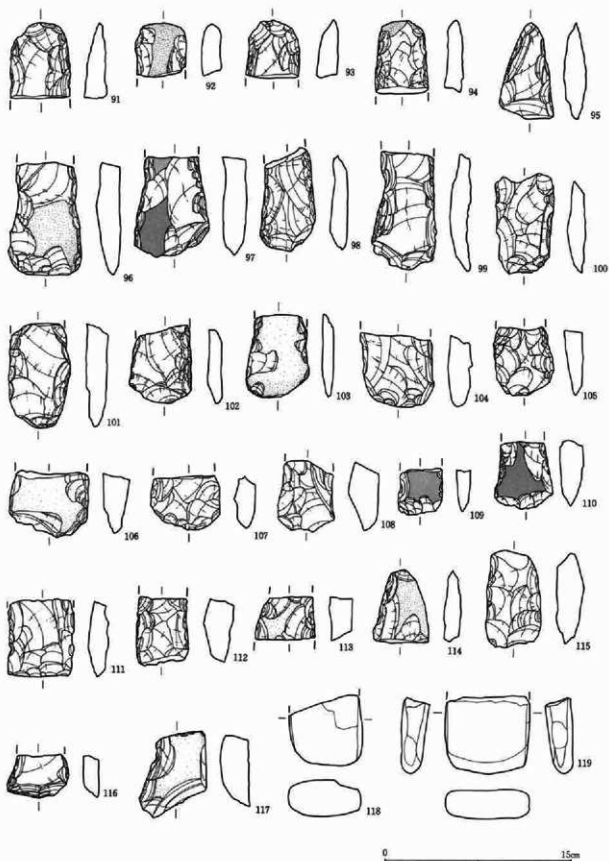


第364図 グリッド15区 G-5



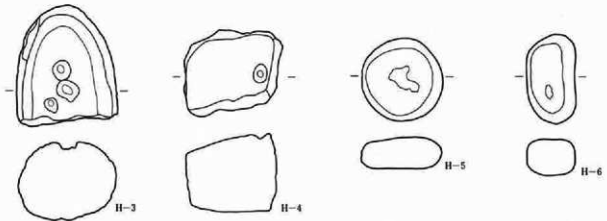
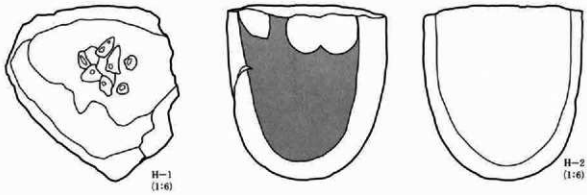
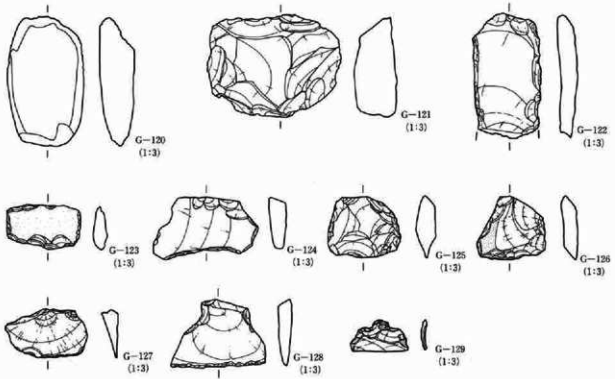
第365図 グリッド15区 G-6

第1章 出土遺物の概要



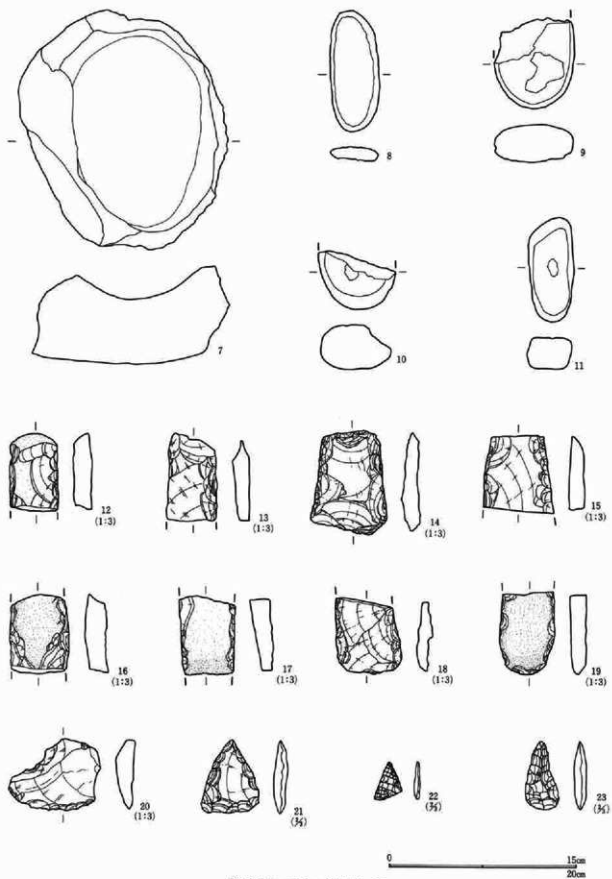
第366図 グリッド15区 G-7

第3節 遺構外の出土遺物

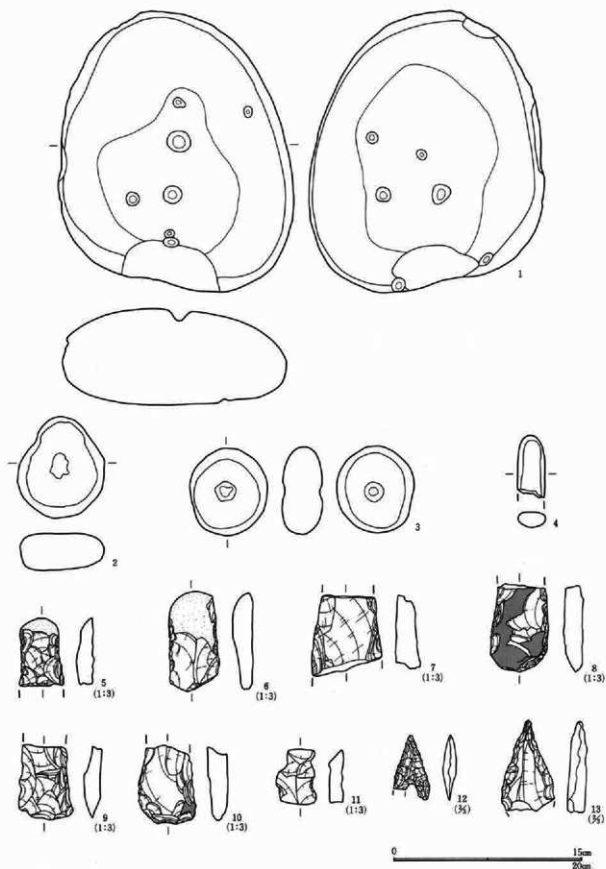


第367図 グリッド15区 G・H

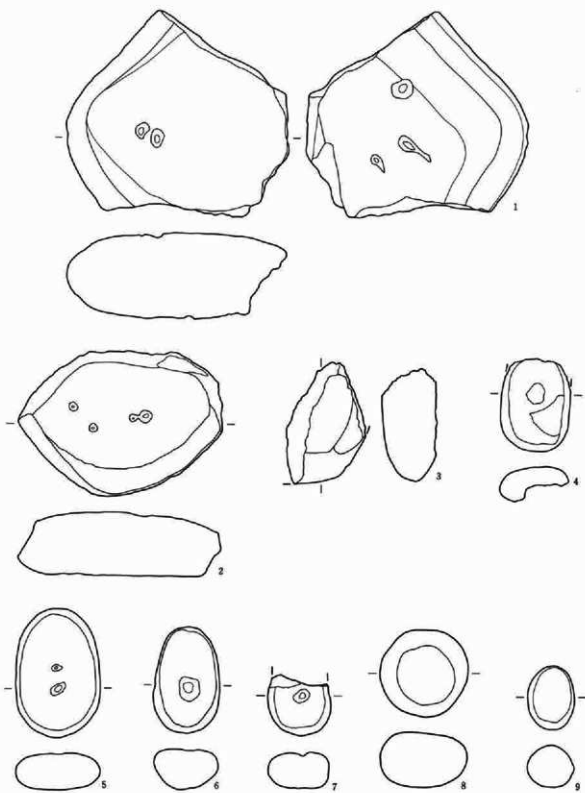
第1章 出土遺物の概要



第368図 グリッド15区 H

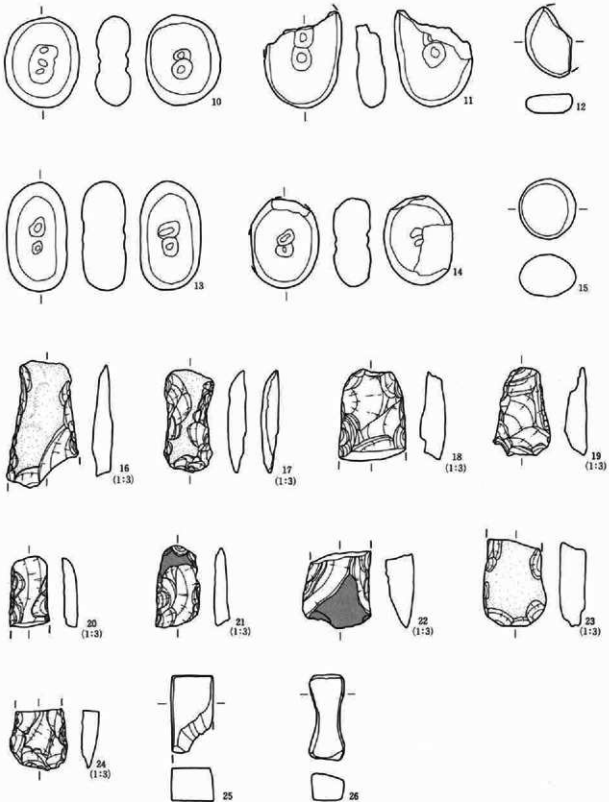


第369図 グリッド15区 I



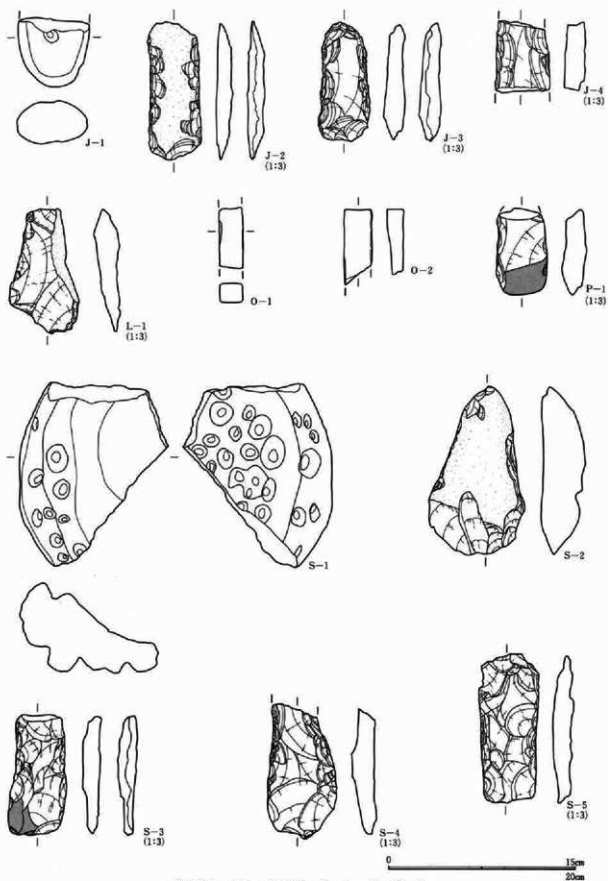
第370図 グリッド15区 K-1





第371図 グリッド15区 K-2

第1章 出土遺物の概要



第372図 グリッド15区 J・L・O・P・S

第4節 町道拡幅部・その他の出土遺物



## 第1章 出土遺物の概要

町道拡張・その他土器観察表

遺物番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
3住	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部を肥厚させ太さ8mmの沈線で楕円区画・渦巻き文様をつくる。区画内は沈線が縦位に充満。胴部は太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。区画間は波状沈線が垂下。	
3住	2	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	普通				隆・沈	太さ8mmの隆線で渦巻き文様と楕円区画をつくる。区画内は沈線が縦位に充満。内面スス付着。	
3住	3	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	にぶい褐色	普通				隆・沈	太さ8mmの隆線で文様。隆線に沿って太さ4mmの沈線が施文。	
3住	4	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好				隆・沈	太さ12mmの隆線で弧を描く。	
3住	5	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	良好	RI	縦位	縄文	沈線	口縁部は太さ3mmの沈線で渦巻き文様。太さ4mmの隆線が横位に廻る。	
3住	6	φ1-3mmの小石	5YR	暗赤褐色	良好	Lr	横位	縄文	隆・沈	口縁部を太さ6mmの隆線で渦巻き文。隆線に沿って沈線が施文。	
3住	7	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	にぶい赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	口縁部は横状把手。太さ2mmの沈線で文様。	
3住	8	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	明赤褐色	普通	RL・LR	縦位	縄文	沈線	太さ8mmの沈線が施文。	
3住	9	φ1-2mmの小石・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通				瓜形	太さ10mmの粒粘土が波状に垂下。瓜形文を横位に施文。	
3住	10	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好				隆・沈	太さ15-20mmの隆線で半円状に区画し沈線を充満。	
3住	11	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	明褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	隆線	太さ8mmの隆線で縦位に区画し区画内を波状に垂下。	
3住	12	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	胴部は太さ4mmの沈線で横位に区画し弧線の文様。	
3住	13	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	黒褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ7mmの沈線で弧線を描く。	
3住	14	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ6mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
3住	15	φ1-3mmの小石	7.5YR	明褐色	普通				無文		
3住	16	φ1-3mmの小石 多量	7.5YR	明褐色	普通				無文	内面スス付着。	
3住	17	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通				無文	内面スス付着。	
6住	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	Lr	縦位	熱赤	隆・沈	口縁部と胴部は太さ10mmの隆線で波状に区画。口縁部文様帯は太さ4mmの沈線が連弧状に施文。胴部は隆線が波状に垂下し縦位区画する。内面スス付着。	
6住	2	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	良好	LR	横位	縄文	隆・沈	太い隆線とそれに沿った沈線の文様。	
6住	3	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	灰褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線		
6住	4	細かい砂粒	7.5YR	灰褐色	普通	RL	縦位	縄文		太さ2-3mmの沈線で文様。	
6住	5	φ1-5mmの小石	5YR	褐色	普通				隆・沈	太い隆線の渦巻きに沈線が沿う。	
6住	6	細かい砂粒・繊維	5YR	にぶい赤褐色	不良				縦線	磨削状工具で文様。	
6住	7	細かい砂粒・繊維	7.5YR	褐色	普通				縦線	巾8mmの半截竹管で爪形文を施文。	
6住	8	φ1-3mmの小石・雲母	10YR	灰黄褐色	普通				縦線	巾7mmの半截竹管で爪形文を施文。	
6住	9	細かい砂粒・繊維	7.5YR	褐色	普通				縦線	若干上げ底。	
6住	10	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	良好						
7住	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	把手は1本でバスケット形。把手部に紐を掛けるためのフリジが付く。口縁部と把手に沈線の文様。口縁部は太い隆線で楕円区画と渦巻き文。区画内は横位に縄文を充満。胴部は太さ4-6mmの沈線が縦位に区画し、波状沈線が垂下。胴部下にスス付着。	

## 第4節 町道拡幅部・その他の出土遺物

町道拡幅部・その他土器観察表

遺物番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の 特徴	時期・備考
7住	2	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	太い隆線で楕円区画・渦巻き文をつくる。胴部は太さ5mmの沈線で縦位の区画。	
7住	3	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	縄文		内面スス付着。	
7住	4	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通			無文		外面縦位の磨き。	
7住	5	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	明赤褐色	普通			瓜形		口縁部に突起が付く。太さ8mmの削突のある隆線で文様を描く。隆線の区画内は沈線が充填。スス付着。太さ5mmの沈線が2条対で縦位の区画。区画内は波状沈線が垂下。	
7住	6	φ1-3mmの小石 ・雲母	7.5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	沈線	内面横位の磨き。	
7住	7	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			無文			
7住	8	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部と胴部を太さ6mmの隆線で区画し口縁部文様等をつくる。胴部は太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
7住	9	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	7.5YR	褐色	普通	LR	横位	縄文			
19土	1	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通	RL	縦・横	縄文	隆・沈	太さ10mmの隆線で文様を区画。	
19土	2	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	太さ7mmの隆線で縦位の区画。外面上部スス付着。	
19土	3	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ8-10mmの隆線と沈線で文様を区画。	
19土	4	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ8-10mmの隆線とそれに沿った沈線で半円形の区画。	
19土	5	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通			隆線		太さ8mmの隆線で縦位の区画。	
20土	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口縁部を太さ5-8mmの沈線で楕円に区画し渦巻きを付ける。胴部は沈線で縦位の区画。	
20土	2	φ1-3mmの小石	5YR	褐色	良好			無文		内外面丁寧な磨き。	
22土	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で縦位の区画。	
23土	1	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	明赤褐色	不良	RL	縦位	縄文	隆線	太さ8mmの隆線で縦位の区画。	
23土	2	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	明赤褐色	不良	LR	横位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線で文様。	
23土	3	φ1-3mmの小石 多量	5YR	褐色	不良	RL	横位	縄文	隆線	太さ8-10mmの隆線が2条対で縦位の区画。	
23土	4	φ1-3mmの小石	2.5YR	赤褐色	普通			無文		平面形は舟形で長軸の両端に把手が付くと思われる。底面に網目文様がまばらに残る。内面スス付着。	
26土	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	太さ6-8mmの隆線とそれに沿った沈線で縦位の区画。	
26土	2	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	7.5YR	褐色	良好	条線	縦位	沈線	沈線	巾12mmに6条の沈線の条線。	
27土	1	φ1-5mmの小石 ・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通	沈線	斜位	沈線	隆・沈	太さ6mmの沈線で縦線を描く。胴部は太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。地文は沈線が波状に施文。	
28土	1	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	2.5YR	赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ4mmの沈線が2条対で縦位の区画。	
31土	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	太さ8-10mmの隆線と沈線で文様。	
33土	1	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	褐色	普通				隆・沈	口縁部を肥厚させ沈線と隆線で楕円区画。区画内は沈線が充填。	
33土	2	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	褐色	不良	Lr	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線が2条対で縦位の区画。全体に磨滅。	
33土	3	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	赤褐色	普通			無文			
33土	4	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	褐色	良好				沈線	口縁部を太さ3mmの沈線で楕円区画。区画内は沈線が縦位に充填。	
33土	5	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通			無文			
34土	1	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	太い隆線とそれに沿った沈線で楕円形をつくる。	

## 第1章 出土遺物の概要

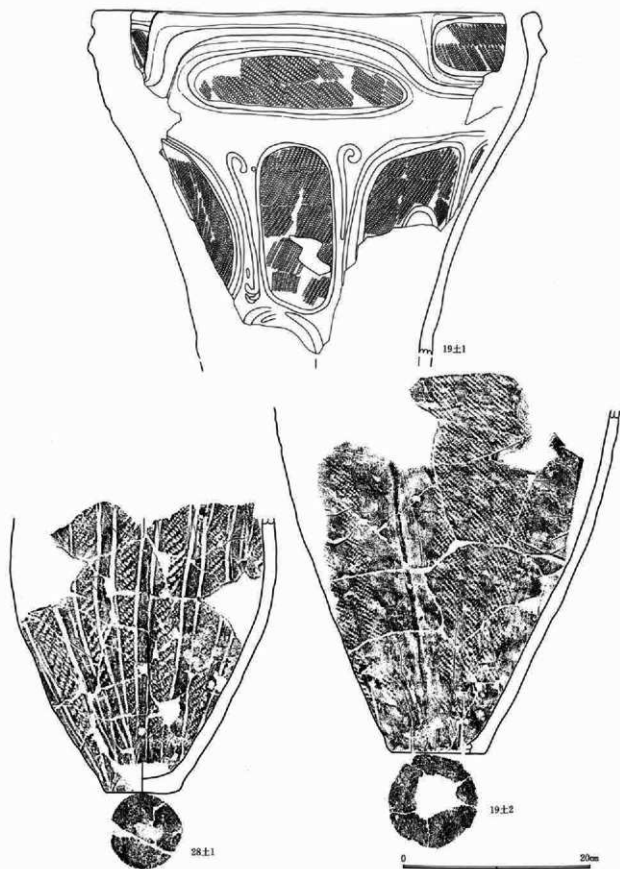
町道拡張・その他土器観察表

遺物番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原形	施文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	時期・備考
36土	1	φ1-2mmの小石・黄色軽石	7.5YR	黒褐色	普通	沈線	斜位	沈線	隆線	太さ2mmの沈線で破砕状に施文。太さ6mmの隆線で口縁部文様帯と胴部区画をつくる。	
37土	1	細かい砂粒・雲母	7.5YR	にぶい橙色	普通				隆線	太さ5mmの隆線で半円区画。	
37土	2	細かい砂粒・雲母	5YR	赤褐色	普通	LR	横位	縄文	隆・沈	太さ8mmの隆線で文様帯を区画。	
45土	1	φ1-3mmの小石	5YR	橙色	普通	条線	縦位	隆線		外面に条線が施文。	
56土	1	細かい砂粒	5YR	にぶい赤褐色	良好	条線	縦位	沈線		外面に細い条線が施文。内面スス付着。	
59土	1	φ1-3mmの小石	5YR	橙色	普通	Lr	縦位	縄文		口縁部無文帯と縄文帯を太さ4mmの隆線で分ける。	
61土	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通			無文		内面スス付着。	
14P	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	2.5YR	赤褐色	普通			無文			
15P	1	φ1-3mmの小石・黄色軽石	7.5YR	橙色	普通			沈線	隆線	太さ10mmの隆線で2条対で文様を区画。区画内は太さ2mmの沈線が矢羽根状に施文。	
15P	2	φ1-3mmの小石・黄色軽石	2.5YR	赤褐色	良好	RL	縦位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で太い沈線と隆線とで区画。内面スス付着。	
21P	1	φ1-3mmの小石多量	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆・沈	口縁部文様帯を太い沈線と隆線とでつくる。胴部は隆線とそれに沿った沈線で縦位の区画。	
28P	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆・沈	胴部文様帯を太さ10mmの隆線で楕円形を描く。隆線に沿って太さ4mmの沈線が施文。隆線→縄文→沈線の順で施文。	
28P	2	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	10mmの手紙竹管の平行沈線で文様。内面スス付着。	
28P	3	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	褐色	普通	RL	縦位	縄文	隆・沈	太さ14mmの隆線とそれに沿った沈線で縦線を描く。	
29P	1	細かい砂粒・雲母	10YR	にぶい黄褐色	良好				隆・沈	太さ8mmの隆線で渦巻き。隆線間は沈線の文様。	
1-149 ・2住	1	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	良好	RL	縦・横	縄文	隆・沈	太い隆線で文様。胴部は太さ6mmの沈線で縦位に区画し波状沈線を垂下。	町証
1-149 ・2住	2	細かい砂粒・雲母	7.5YR	橙色	良好	RRL	縦位	縄文	隆・沈	太さ7-8mmの隆線が2条とそれに沿った沈線で縦位の区画。	町証
1-149 ・1土	1	細かい砂粒・雲母・繊維	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	縄文			町証
1-149 ・1土	2	φ1-3mmの小石・繊維	5YR	赤褐色	普通	RL	横位	縄文		底部上げ底。	町証
1-149 ・4土	1	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	赤褐色	普通				隆・沈	深鉢の横状把手部。	町証
1-149 ・4土	2	φ1-3mmの小石・雲母	5YR	橙色	普通	Lr	横位	熱赤	隆線	太さ6-8mmの隆線で楕円区画。区画内は熱赤が充満。	町証
1-149 ・4土	3	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	普通	沈線	斜位	沈線	隆線	地文は太さ3mmの沈線で「八」字状に施文。太さ10mmの隆線で楕円区画・渦巻きをつくる。区画内は沈線が充満。	町証
1-149 ・4土	4	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	不良	RL	横位	縄文	隆・沈	太さ8-12mmの隆線で楕円区画。区画内は縄文が充満。内面スス付着。内外面丁寧な磨き。	町証
1-149 ・6土	1	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	普通			無文			町証
1-149 ・6土	2	φ1-3mmの小石・黄色軽石	5YR	明赤褐色	普通	Lr	斜位	熱赤	隆線	太さ10-12mmの隆線で縦位の区画。区画内は波状隆線が垂下。内面スス付着。	町証
1-149 ・6土	3	細かい砂粒	5YR	暗赤褐色	良好				隆・沈	太さ6-8mmの隆線とそれに沿った沈線で渦巻き・楕円区画をつくる。区画内は円形の刺突がある。	町証
1-149 ・6土	4	φ1-3mmの小石・雲母	7.5YR	明褐色	不良			無文		外面刺突多い。	町証

## 第4節 可道拡幅部・その他の出土遺物

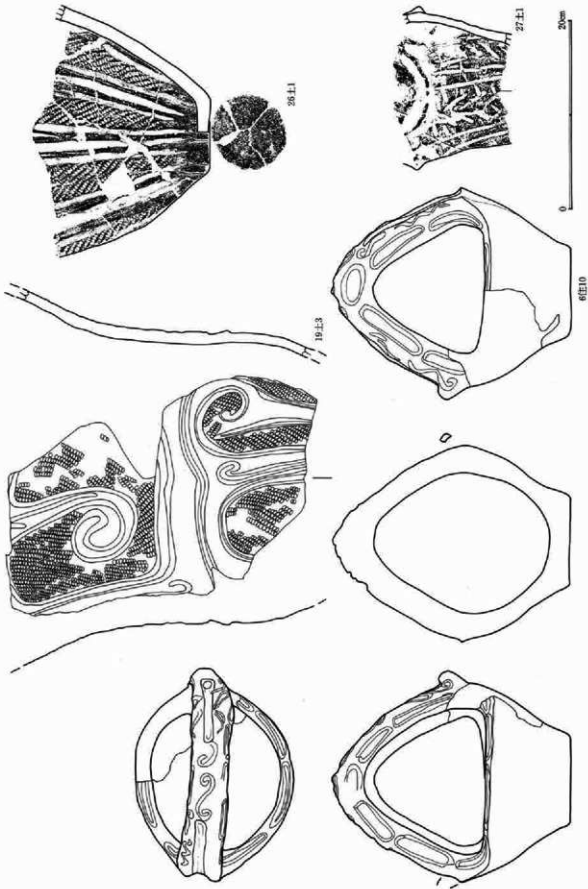
可道拡幅部・その他土器観察表

遺物番号	番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文原体	地文方向	地文分類	文様分類	文様の特徴	時期番号
1-149 ・6土	5	φ1-3mmの小石	7.5YR	暗褐色	普通	条線	縦位	沈線	沈線	太さ3mmの沈線で横位の区画。	可拡
1-149 ・6土	6	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	赤褐色	良好	条線	縦位	沈線	沈線	巾8mmに4条の沈線の条線で対弧状に施文。 太さ7mmの隆線が2条対で縦位の区画。内面スス付着。	可拡
1配石	1	φ1-3mmの小石 ・黒雲母	5YR	明赤褐色	普通	RL	横位	縄文	隆線	太さ5mmの隆線が2条対で縦位の区画。区画内は沈線が充填。	
2石皿	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	明赤褐色	良好				隆・沈	太さ3mmの沈線で文様。横状把手が付く。	
2石皿	2	φ1-3mmの小石 ・雲母	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太い隆線の渦巻き。	
2石皿	3	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	褐色	普通				隆線		
2石皿	4	φ1-3mmの小石 ・横線	7.5YR	にぶい褐色	普通	LR	横位	縄文			
4配石	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	普通				隆線	太さ10mmの隆線が2条で横位の施文。隆線に削みが付く。	
5配石	1	φ1-3mmの小石 ・雲母	7.5YR	にぶい褐色	良好	RL	斜位	縄文	隆・沈	太い隆線で横位区画。	
6配石	1	φ1-3mmの小石	7.5YR	黒褐色	良好				隆・沈	太さ7-10mmの隆線で横位区画・渦巻きをつくる。隆線に沿って沈線が施文。区画内は沈線が充填。	
7配石	1	φ1-3mmの小石 ・雲母多量	10YR	明黄褐色	不良			沈線	隆線	太さ5mm長さ15mmの沈線が縦位に施文。口縁部は無文。	
7配石	2	φ1-3mmの小石 ・雲母	5YR	赤褐色	普通	LR	縦位	縄文	隆線	口縁部文様帯を太さ4mmの隆線で区画。口縁部は無文。	
7配石	3	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	横位	縄文		横状把手。 口縁はゆるい波状口縁で渦巻き状の突起が付く。太さ10mmの隆線で文様。隆線上に爪形文が施文。地文は燃赤。	
12配石	1	細かい砂粒・雲母	5YR	明赤褐色	普通	Lr	縦位	爪形		太さ10-12mmの隆線で文様。隆線上に爪形文が施文。	
12配石	2	φ1-3mmの小石 ・黄色軽石	5YR	赤褐色	良好			爪形		太さ8mmの隆線で文様。隆線上に爪形文を施文。地文は燃赤。	
12配石	3	φ1-3mmの小石	7.5YR	褐色	不良	Lr	縦位	爪形		内面スス付着。	
12配石	4	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	良好	Lr	縦位	爪形			
12配石	5	φ1-3mmの小石	5YR	明赤褐色	不良	Lr	縦位	爪形		太さ8mmの隆線で文様。内面スス付着。	
12配石	6	φ1-3mmの小石	5YR	赤褐色	不良	Lr	縦位	爪形		太さ8mmの隆線が2条対で横位の区画。隆線に爪形文が施文。	
3溝 包含層	1	φ1-3mmの小石			普通				無文		
	1	φ1-3mmの小石			普通				隆・沈	太さ8-12mmの沈線と隆線で文様。	

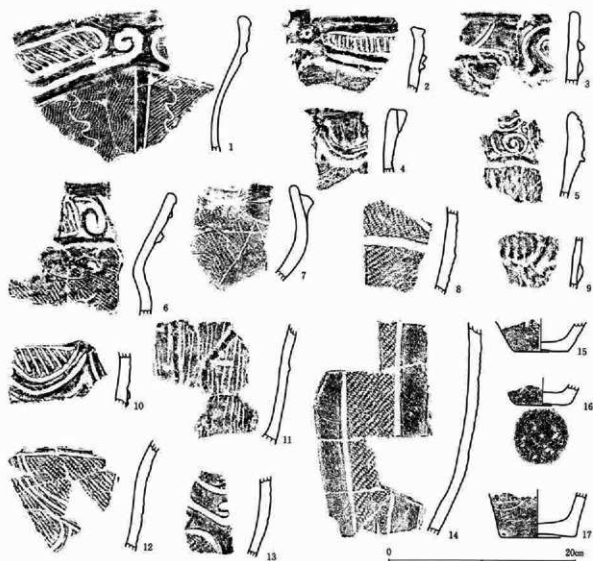


第373図 町道拉幅 19・28号土坑出土遺物

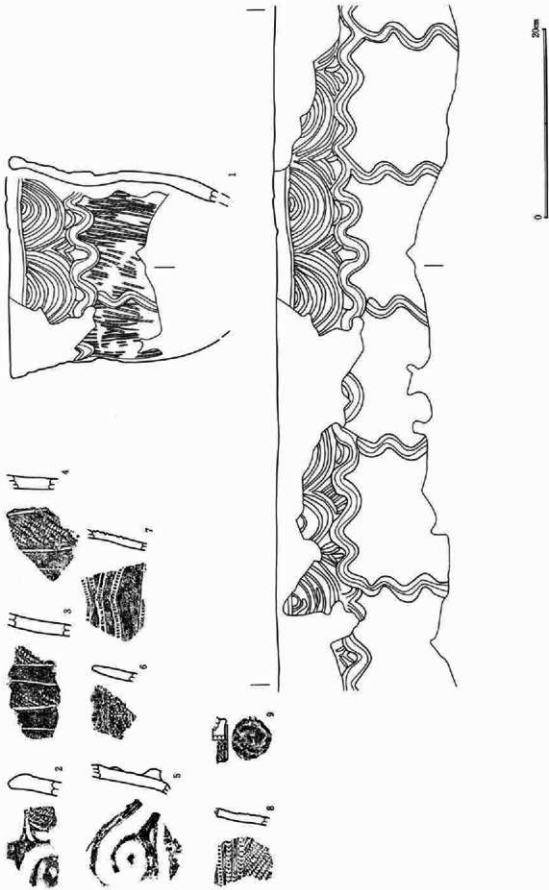




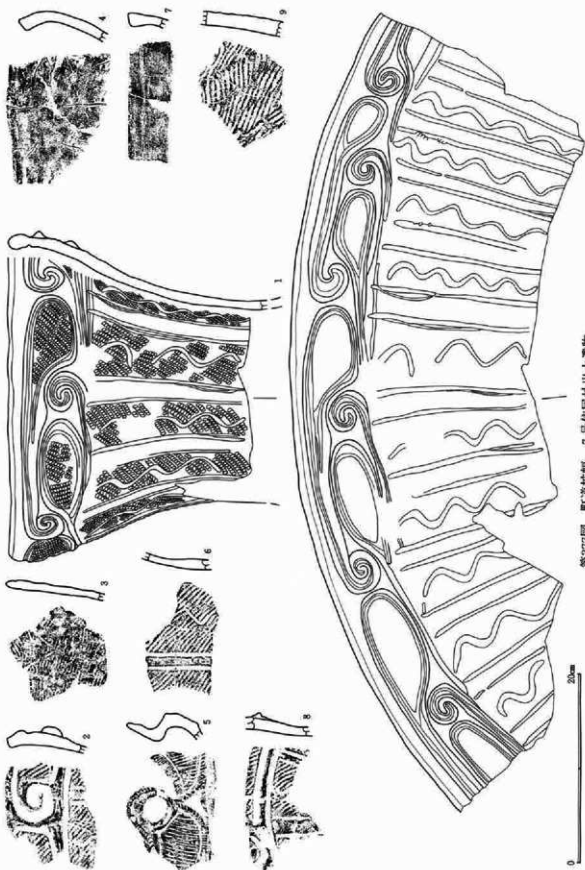
第374図 町道拡幅 6号住居址 19・26・27号土坑出土遺物



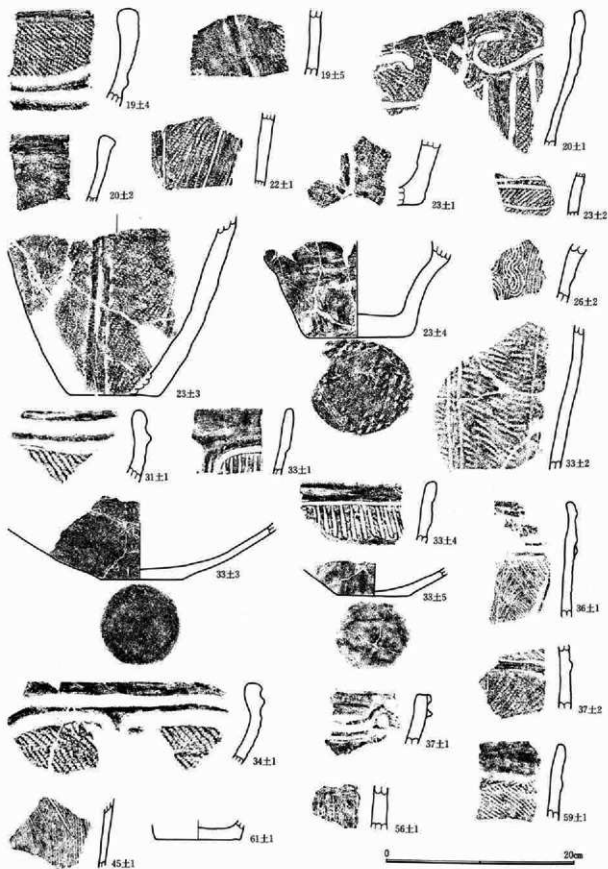
第375図 可道拉幅 3号住居址出土遺物



第376図 町道拉幅 6号住居址出土遺物

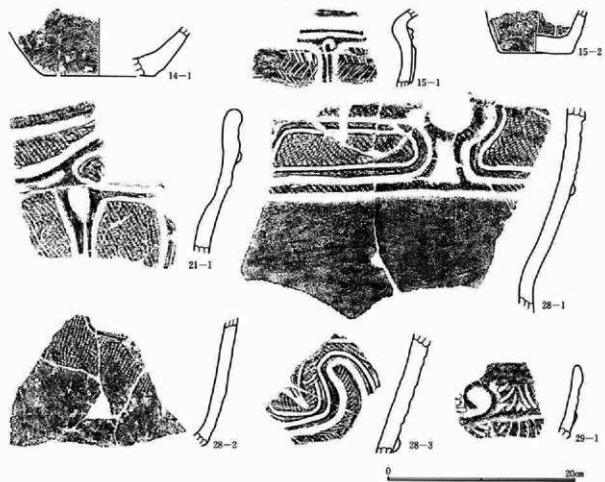


第377図 町道紋幅 7号住居址出土遺物

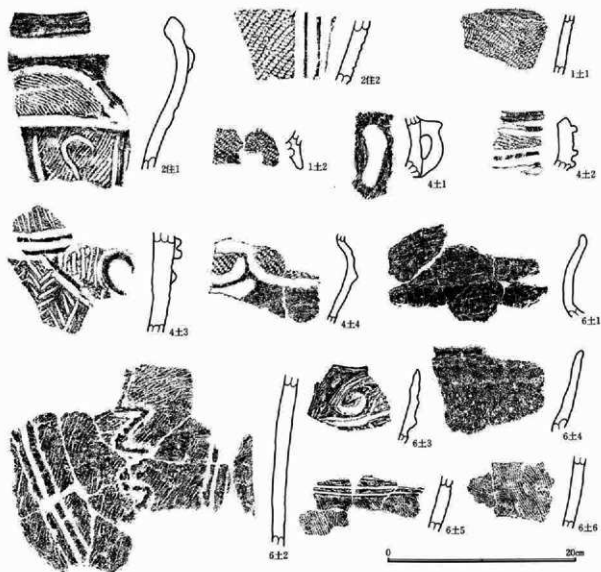


第378図 町道拡幅 19・20・22・23・26・31・33・34・36・37・45・56・59・61号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



第379図 町道抜幅 14・15・21・28・29号ピット出土遺物



第380図 町道拉幅 2号住居址 1・4・6号土坑出土遺物

第1章 出土遺物の概要



第381図 1・4～7・12号配石 2号石組列 3号溝 包含層出土遺物



## 第4節 可道延幅部・その他の出土遺物

可道延幅・その他石器類調査表

土坑番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
3住居	1	石鏃	凹基無茎鏃	黒曜石	側面に押圧刻痕。横断面レンズ状。	2.1	1.7	0.4	0.6	
7住居	1	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.4	4	1.6	60	
7住居	2	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に使用によるほこばれ。	4.5	4.7	1.1	20	
7住居	3	石鏃	凹基無茎鏃	黒曜石	側面に押圧刻痕。横断面レンズ状。	2.1	1.6	0.4	0.6	
20土坑	1	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	10.6	5.6	3.3	290	
20土坑	2	打製石斧	短棒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	11.1	4.8	1.8	100	
23土坑	1	石鏃	凹基無茎鏃	黒曜石	側面に押圧刻痕。横断面レンズ状。	3.7	1.6	0.7	1.7	
31土坑	1	打製石斧	短棒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	11	5.2	1.5	90	
35土坑	1	多孔石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	30.5	27.8		13000	
35土坑	2	磨製石斧	定角式	安山武岩	表裏とも研磨し縁を持つ。横断面隅丸長方形。	10.1	6.1	2.9	320	基部欠損
17Pa	1	砥石	不定形	牛伏砂岩	表裏の作業面は平坦。	6.7	5.7	2.3	80	
21Pa	1	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.6	4.5	2	90	刃部欠損
27Pa	1	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.3	4	1.3	70	
1-149-6土	1	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部磨滅。横断面レンズ状。	10.1	3.9	1.9	70	
1-149-6土	2	打製石斧	短棒形	黒色頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	12	3.9	2.2	130	
町並	1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	39.6	28.5	27	26100	
町並	2	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	33.2	25.2	28.8	23300	
町並	3	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	19.6	21.4	16	6700	
町並	4	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	23.5	25.8		7200	
町並	5	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。縁辺に円錐形の凹み。	30.4	37		10000	
町並	6	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	18.4	11.4	9.7	2600	
町並	7	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	16.5	12.1	11.2	3200	
町並	8	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	15.4	10.5	8.2	1500	
町並	9	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	11.8	14.7	6.4	1300	欠損
町並	10	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	17.3	11.6	6.6	1800	
町並	11	磨石	乳棒形	アイサイト	表裏に磨面。	17.8	6.8	5.8	1050	H-4
町並	12	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	18.2	15.5	7	2300	H-1
町並	13	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。欠損	14.5	16.9	5.7	1150	H-1
町並	14	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面。	13	8.9	3.2	630	P-Q-15
町並	15	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏・側面に磨面で縁をもつ。凹→磨。	13.5	6.7	4.1	600	R-14
町並	16	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹→磨。	10.4	6.9	5	540	H-4
町並	17	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏・側面に磨面。	11.6	9.2	2.9	520	P-Q-15
町並	18	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	12	8.4	4.6	560	R-10
町並	19	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	9	8.8	4	510	R-6
町並	20	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	15.4	6.2	2.3	240	Q-R-15
町並	21	打製石斧	短棒形	点状頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	10	3.9	1.5	70	Q-R-15
町並	22	打製石斧	短棒形	頁岩	両面調整。横断面カマゴコ状。	10.8	3.9	2.3	110	Q-14-15
町並	23	打製石斧	短棒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.2	6.1	1.8	110	
町並	24	打製石斧	短棒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6	4.4	1.7	50	刃部欠損
町並	25	打製石斧	短棒形	塩質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.4	4.6	1.7	60	刃部欠損
町並	26	磨製石斧	定角式	安山武岩	表裏・側面に研磨し縁をもつ。	4.4	4.9	1.9	70	O-10
町並	27	磨製石斧	定角式	安山武岩	表裏・側面に研磨し縁をもつ。横断面隅丸長方形。	7.8	3.2	2	80	Q-14
町並	28	打製石斧	短棒形	頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6	2.9	1.1	20	Q-11
町並	29	スクレイパー	横長	黒色頁岩	側面に押圧刻痕の片面刃部。	5.5	4.8	1.5	40	
町並	30	石鏃	凹基無茎鏃	黒色頁岩	側面に押圧刻痕。横断面レンズ状。	3.8	2	0.3	1.5	
1号配石	1	多孔石	隅丸長方形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	28.3	20.8		12000	
2号石組列	1	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。縁辺に円錐形の凹み。	21	14.5	6.2	2200	
2号石組列	2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	46	40	29	67000	
2号石組列	3	台石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。作業面に敲打痕。	44.5	40.4	32	64000	
2号石組列	4	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹みと敲打痕。	47.4	38.2	29	59200	

## 第1章 出土遺物の概要

## 町道拡張・その他石器調査表

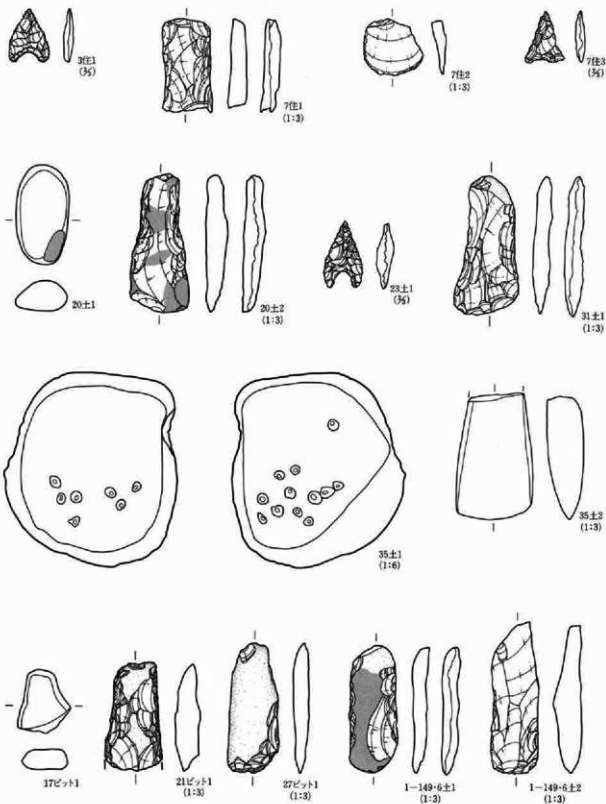
土坑番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
2号石 組列	5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	12.9	12.8	10.9	2300	
2号石 組列	6	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	33.6	45		36000	
2号石 組列	7	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	10.8	8.4	5.3	660	
2号石 組列	8	多孔石	楕円形	角閃石安山岩	表面に円錐形の凹み。	33	24	30.2	17500	
2号石 組列	9	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	28.6	21.8		10000	
2号石 組列	10	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	17.2	17.2	17.2	5200	
2号石 組列	11	磨・凹・敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。側面に敲打痕。凹一磨。	8.9	7.4	4.2	420	
2号石 組列	12	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹みと敲打痕。	18.1	17.5	10.5	3800	欠損
2号石 組列	13	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹みと敲打痕。	4.1	14.5	9	2700	
6号配 石	1	石棒	丸棒形	角閃石安山岩	表面に磨面。無頭石棒。	14	12.8	10.8	2900	
6号配 石	2	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	13	8.8	7.4	1000	
6号配 石	3	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	16.4	17.4	7.8	1900	
6号配 石	4	磨・敲石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。表面・側面に磨面で使もつ。磨一敲。	8.6	6.3	4.4	380	欠損
7号配 石	1	台石	楕円形	角閃石安山岩	円錐形の凹みと敲打痕。	36.5	35		42900	
7号配 石	2	磨石	三角柱形	粗粒輝石安山岩	三面に磨面。	14	5.8	5.5	660	欠損
7号配 石	3	台石	—	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	13.2	10.3	9.4	1420	欠損
7号配 石	4	凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面・側面に凹み。	11.8	8	4	480	
7号配 石	5	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	10.8	8.3	4.4	620	
7号配 石	6	打製石斧	鋸形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。右側面に決り。横断面レンズ状。	10.1	4.7	1.6	110	
8号配 石	1	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	8.9	8	4	490	欠損
8号配 石	2	台石	長楕円形	角閃石安山岩	作業面は磨面。	27.1	18.7	16.2	3900	
8号配 石	3	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	24	25.3	17.3	4300	
9号配 石	1	台石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面は磨面。	18.5	11	8.2	2500	
9号配 石	2	多孔石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	57.3	34.2	33	60200	
10号配 石	1	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	14.8	21	10	1400	
10号配 石	2	石棒	丸棒形	緑色片岩	表面に磨面。	16.4	14.2	9.8	1000	両端欠損
10号配 石	3	磨石	長方形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	13.9	8.6	6.2	880	
10号配 石	4	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹みと磨面。凹一磨。	12.4	5.3	5.2	520	
10号配 石	5	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	16.3	14.2	9.8	2500	
11号配 石	1	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	14.2	11.7	8.2	2000	欠損
11号配 石	2	石皿	—	角閃石安山岩	石皿作業面は凹面。	17.2	12.2	5.5	2900	欠損
11号配 石	3	石皿	—	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。側面に突起を持つ。	14	9	6.7	900	欠損
12号配 石	1	敲石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に敲打痕。	13	7	4.6	610	

## 第4節 町道拡幅部・その他の出土遺物

町道拡幅・その他石器観察票

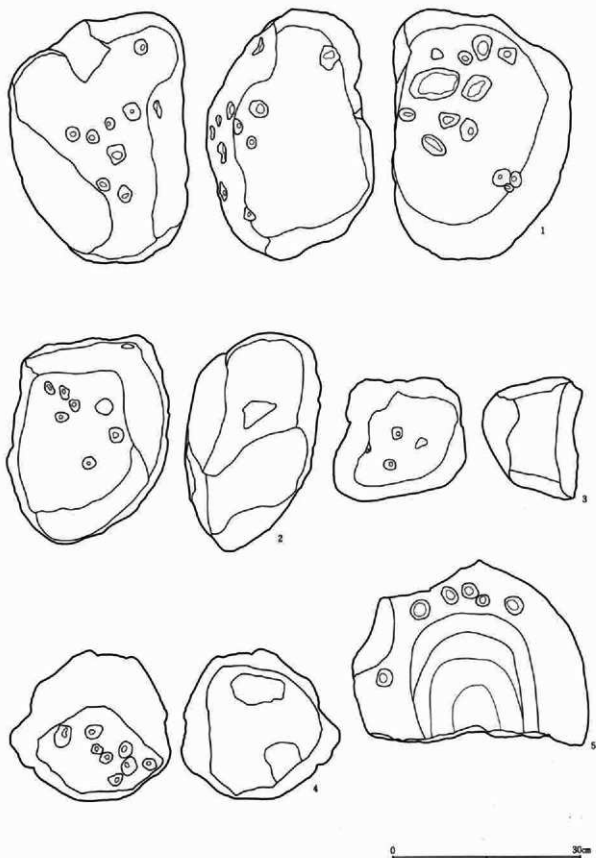
土坑番号	遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
12号配石	2	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	10.5	16.8	8.1		
12号配石	3	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	13.2	16.8	5.6		
12号配石	4	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	16.9	15.4	9.2		
12号配石	5	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	21.5	17.8	11.5		
12号配石	6	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	4	2.2	60	刃部欠損
13号配石	1	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。	14.1	9.4	5.5	990	
13号配石	2	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は浅い凹面。	19.2	8.6	7.2		欠損
13号配石	3	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	16.1	13	11.9		
13号配石	4	磨-凹石	長楕円形	砂岩	表裏に凹みと磨面。凹一磨。	7.8	6.8	4.5	320	欠損
13号配石	5	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏-側面に磨面で使をもつ。	11.4	6.1	5.3	560	欠損
13号配石	6	凹-敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。側面に敲打痕。	13.4	7.5	4.9	700	
1号溝	1	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	表面の石皿作業面は凹面。裏に円錐形の凹み。	19.7	19.2	6.6	2830	欠損
1号溝	2	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。表面に浅い凹み。側面に敲打痕。敲一磨。	12.6	7.4	3.9	520	
1号溝	3	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	13.8	5.7	3	230	
1号溝	4	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.3	4.3	2.7	120	刃部欠損
1号溝	5	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.2	4.5	1.4	50	両端欠損
2号溝	1	凹石	隅丸方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	9.1	8.1	6.5	590	
2号溝	2	打製石斧	短楕形	埴質頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	8.1	7.1	2	140	
2号溝	3	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	4.5	4.3	1.7	40	
2号溝	4	石皿	凹無基盤	黒色安山岩	側面に押し刺離。	3.6	2.3	0.3	2.3	
3号溝	1	台石	楕円形	角閃石安山岩	表面に磨面。	26.2	20.4	9.5	7100	
3号溝	2	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	28.5	15	13.4	7200	
3号溝	3	石皿	長楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	24	23.8	10.2	6200	
3号溝	4	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	7.9	9.1	4	370	欠損
3号溝	5	磨-敲石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に敲打痕。表裏-側面に磨面で使をもつ。	7.1	5.7	4.4	280	両端欠損
3号溝	6	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	11.9	5.2	2	140	
3号溝	7	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	13.7	5.1	2	210	
3号溝	8	打製石斧	楕形	安山玄武岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	11	5.2	2.5	140	
3号溝	9	打製石斧	楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10.9	4.8	1	60	
3号溝	10	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。側面に抉り。横断面レンズ状。	10.7	5	2.2	180	刃部欠損
3号溝	11	打製石斧	短楕形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.2	4.3	1.8	80	基部欠損
3号溝	12	打製石斧	楕形	埴質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	4.2	1.5	50	刃部欠損
3号溝	13	打製石斧	短楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.4	4.6	2.2	100	刃部欠損
3号溝	14	打製石斧	楕形	埴質頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.1	4.1	0.9	30	
4号溝	1	凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に浅い凹み。	10.5	6.5	3.3	410	欠損
5号溝	1	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏は円錐形の凹み。	11.1	12.5	5.5	620	欠損

第1章 出土遺物の概要

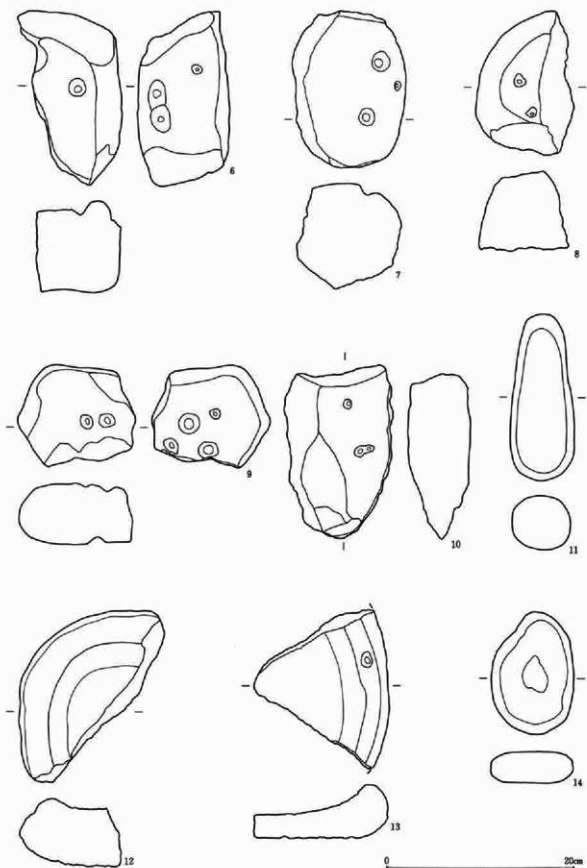


第382図 町道拡幅 3・7号住居址 20・23・31・35号土坑  
町道拡幅 1-149 6号土坑 17・21号ピット出土遺物

0 15cm  
20cm  
30cm

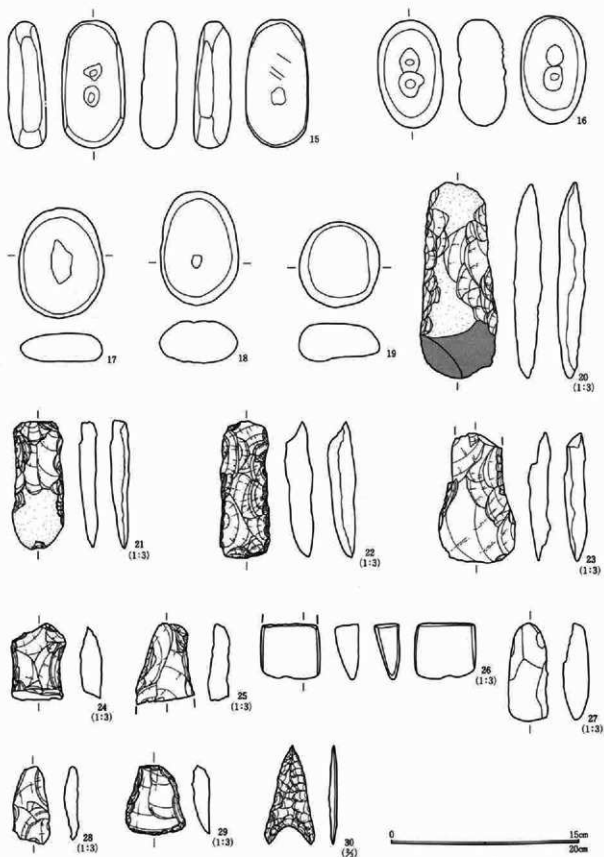


第383図 町道拡幅 包含層出土遺物-1

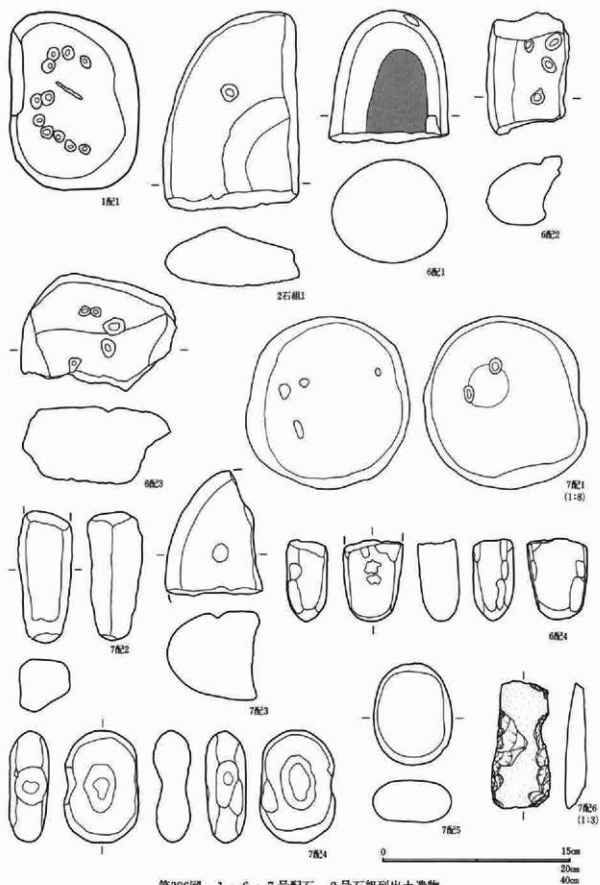


第384図 町道拉幅 包含層出土遺物-2

第4節 町道拉幅部・その他の出土遺物

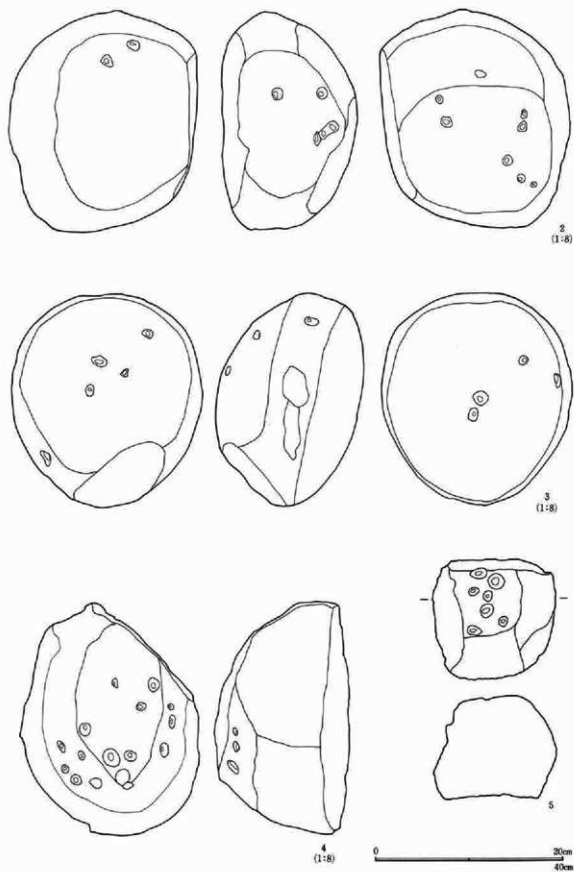


第385図 町道拉幅部 包含層出土遺物-3



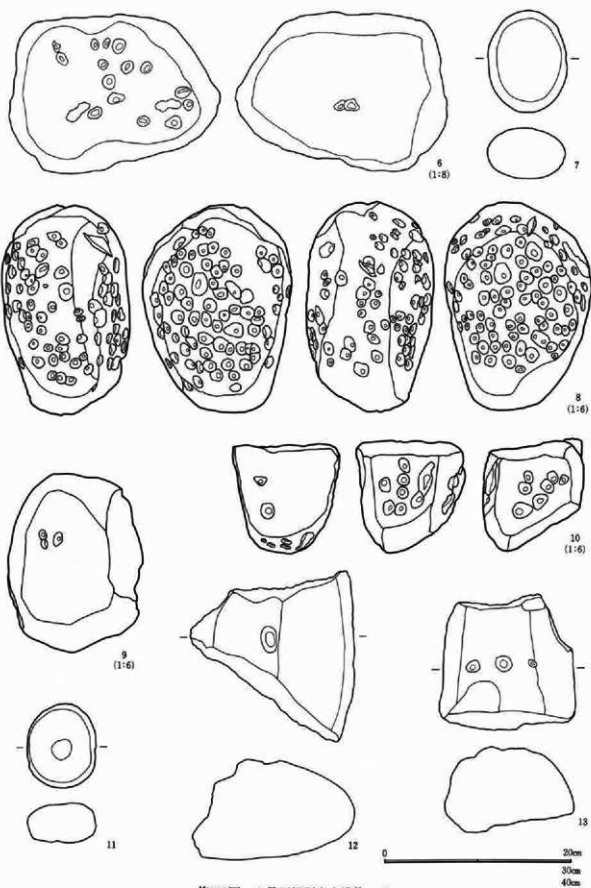
第386図 1・6・7号配石 2号石組出土遺物



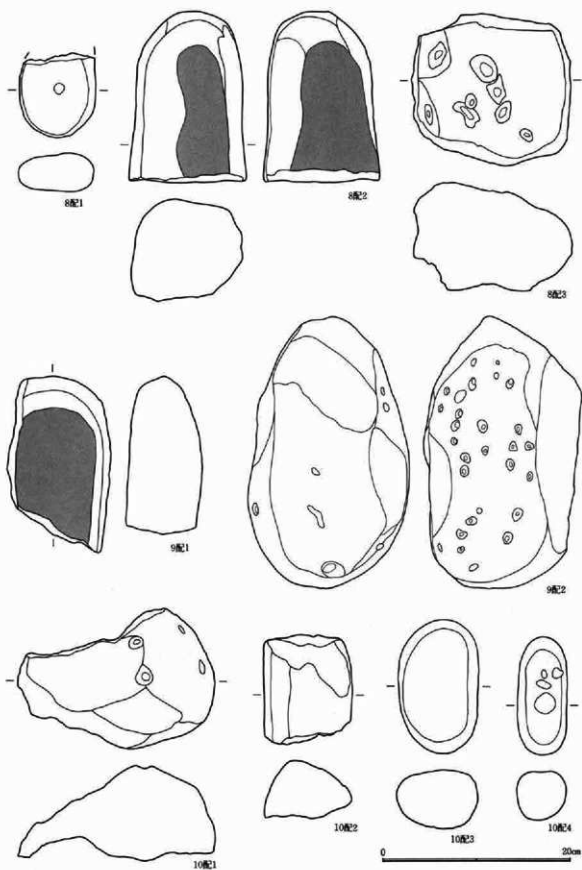


第387図 2号石組列出土遺物-1

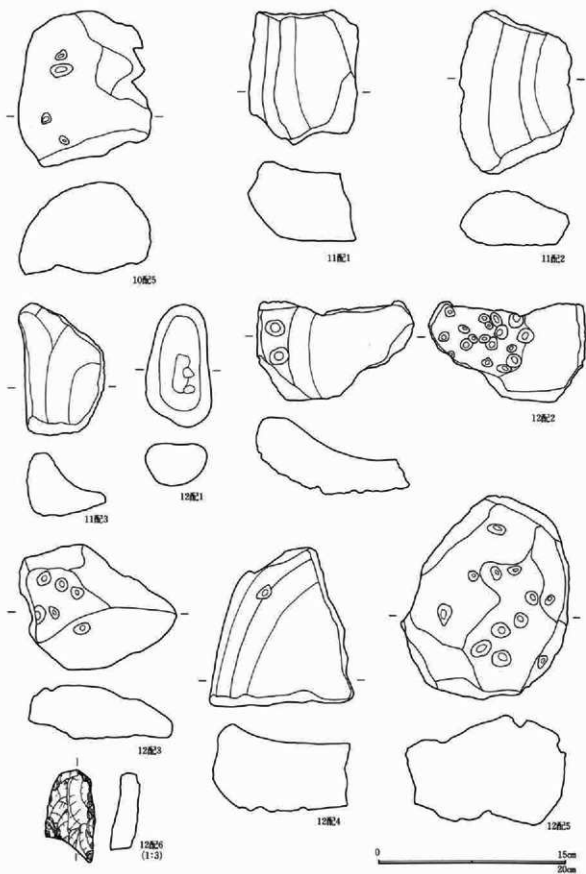
第1章 出土遺物の概要



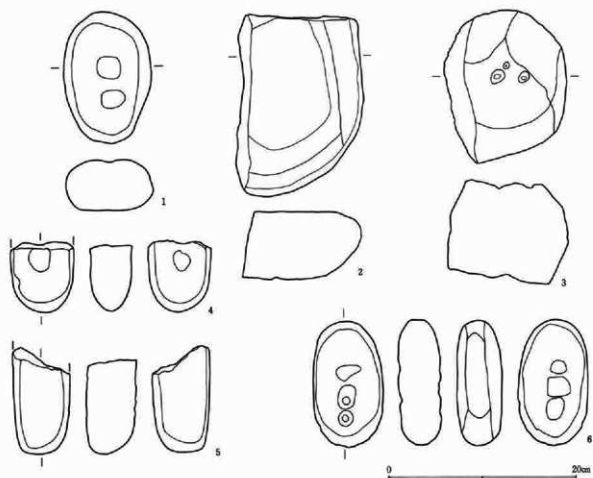
第388図 2号石組列出土遺物-2



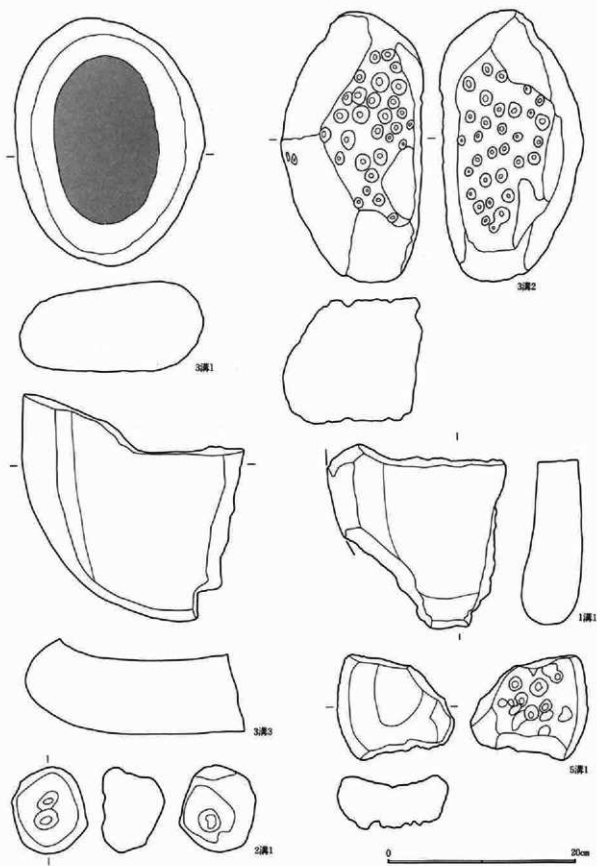
第389図 8～10号配石出土遺物



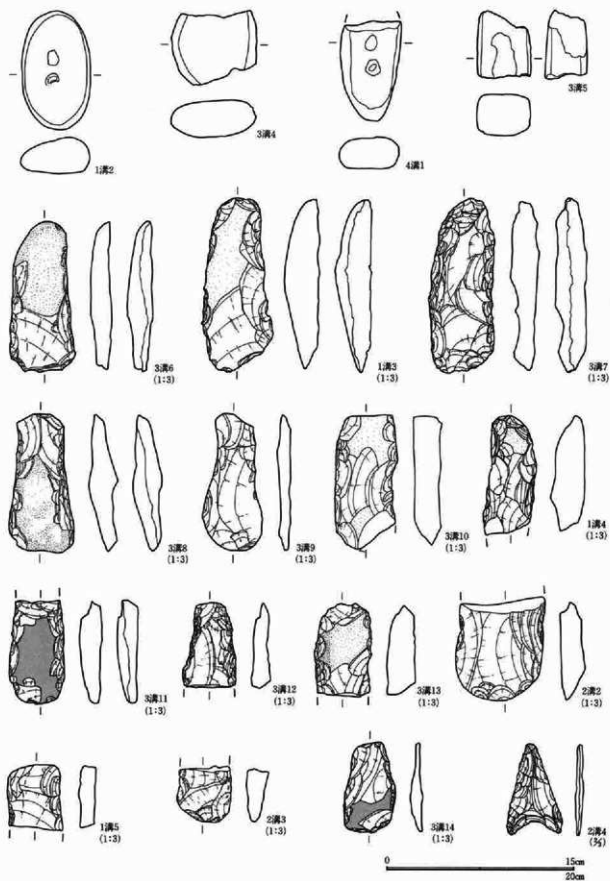
第390图 10~12号配石出土遺物



第391図 13号配石出土遺物



第392図 1～3・5号溝出土遺物



第393図 1～4号溝出土遺物

## 第1章 出土遺物の概要

遺構外石器類調査表

遺物 番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
1	凹石	不定形	二ツ岳軽石	表面に凹み。	17.7	12	5.8	810	
2	凹石	長楕円形	緑色片岩	表裏に凹み。	17.8	6.7	4	700	
3	凹石	隅丸長方形	緑色片岩	表面に磨面。	18.3	7.1	2.4	450	
4	凹石	三角柱形	粗粒輝石安山岩	三面に磨面。	10.8	6.5	5.3	570	欠損
5	磨・敲石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に敲打痕と磨面。磨一箇。	11	10.7	3.7	580	欠損
6	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。側面に磨面で稜をもつ。磨一箇。	13.8	8.1	4.4	730	
7	磨・敲石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。中央に敲打痕。磨一箇。	9.9	6.4	4.4	400	
8	凹石	不定形	未固結凝灰質砂岩	威石作業面は平坦。	5.3	4.9	1.5	30	
9	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表面に凹み。表裏・側面に磨面で稜をもつ。磨一箇。	9.8	7.3	5.1	420	
10	磨・凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。磨一箇。	9.9	7.5	3.7	410	
11	磨・凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹み。表裏・側面に磨面。	10.1	6.9	4.5	470	
12	磨石	長楕円形	緑色片岩	両側面に磨面。	7.2	2.5	1.1	40	
13	磨石	長楕円形	蛇紋岩	表裏側面に磨面。	5.7	2.6	1.8	30	
14	石棒	単頭形	緑色片岩		11.3	5.2	3.2	260	
15	磨・凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏・側面に磨面。磨一箇。	6.9	8.7	4.5	390	欠損
16	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は浅い凹面。	21.5	11.6	7.7	2290	欠損
17	石皿	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。	25.4	25.4	8	9500	欠損
18	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏に円錐形の凹み。	10.7	14.3		3400	欠損
19	打製石斧	分銅形	珪質頁岩	両面調整。両側面に決り。横断面コマゴコ状。	11.6	6.9	1.8	150	
20	打製石斧	盤形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面コマゴコ状。	12	5.2	2.2	130	
21	打製石斧	盤形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.9	5	1.3	90	
22	打製石斧	盤形	砂岩	両面調整。横断面レンズ状。	9	4.2	1.7	80	刃部欠損
23	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.8	4.8	2.2	100	刃部欠損
24	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.9	4.1	1.5	60	刃部欠損
25	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。刃部片面調整。横断面コマゴコ状。	7.3	4.7	2.7	110	基部欠損
26	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	7	4.3	1.5	50	基部欠損
27	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.6	4.3	2.2	90	刃部欠損
28	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.2	4.3	2.9	60	刃部欠損
29	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5	4.2	1.1	40	両端欠損
30	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.6	4.2	2	80	両端欠損
31	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.2	4.3	2.6	110	両端欠損
32	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。	5.9	5.2	2.1	90	基部欠損
33	石錘	凹基無蓋錘	チャート	側面に押圧刻離。横断面レンズ状。	2.8	2.1	0.5	2.3	
34	石錘	凹基無蓋錘	黒曜石	側面に押圧刻離。横断面レンズ状。	1.7	1.9	0.3	0.6	先端欠損
35	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	20.8	14	13.8	4400	
36	多孔石	不定形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	18.4	16.9	13.4	4500	
37	台石	不定形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。	19.4	15.5	8.5	3900	
38	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏は、円錐形の凹み。	20.5	13.7	4.5	1370	
39	多孔石	一	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	7.4	13	5.1	640	
40	多孔石	一	牛伏砂岩	円錐形の凹み。	9.6	16	5.3	640	
41	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は、凹面。裏は円錐形の凹み。	7.2	12.5	4.5	370	
42	石皿	一	緑色片岩	石皿作業面は凹面。	8.4	13.8	3.2	590	欠損
43	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。円錐形の凹み。石皿一箇。	13.2	14.3	5.4	1160	
44	多孔石	楕円形	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	46.5	38.2	35.4	73300	
45	石棒	丸棒形	粗粒輝石安山岩	無蓋形の石棒。表面に擦痕あり。	44	17.3		18700	
46	多孔石	角棒形	緑色片岩	円錐形の凹み。表面を磨いて稜をつくる。	21.5	18.5	18.2	8700	欠損
47	多孔石	角棒形	緑色片岩	円錐形の凹み。表面を磨いて稜をつくる。	23.6	15.3		8100	欠損
48	石皿・多孔石	隅丸長方形	角閃石安山岩	石皿作業面は凹面。裏に円錐形の凹み。	22.5	31.3		7200	欠損
49	丸石	球形	角閃石安山岩	表面に磨面と凹み。	28.2	21.3	19.3	14300	
50	台石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	26.9	17.8		9200	欠損



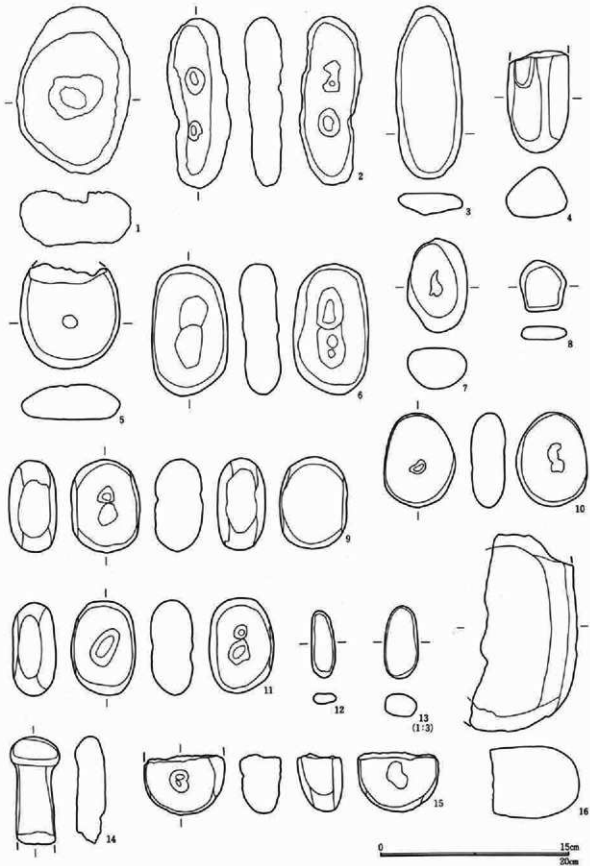
遺構外石器観察表

遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
51	石皿・多孔石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏に円錐形の凹み。	13	20.2		2200	欠損
52	台石	楕円形	角閃石安山岩	作業面は平坦。円錐形の凹み。	22.3	19	7.8	4300	
53	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は浅い凹面と敲打痕。	15.5	13.4	6	1900	
54	台石	長方形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦。磨面になる。	36.5	15.8	7.4	7300	
55	台石	楕円形	角閃石安山岩	作業面は浅い凹面。	19	14.7	6.6	2900	
56	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	13	9.5	7.3	1100	
57	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	12.8	15.2	13.4	2600	
58	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面に敲打痕。	21.2	16.8	10.8	4500	
59	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	13.2	16.8	13.8	5000	
60	多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	円錐形の凹み。	21.5	16.3	13.8	6100	
61	台石	楕円形	粗粒輝石安山岩	作業面は平坦で磨面。	18	15.7	4.5	1900	
62	多孔石	一	角閃石安山岩	円錐形の凹み。	18	13.2	13.4	4500	
63	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。敲打痕。	13.8	15.8	5.6	1800	
64	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	14.5	9.7	5.4	600	欠損
65	多孔石	不定形	角閃石安山岩	表裏に円錐形の凹み。	20	20.2	10.6	5800	
66	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏は円錐形の凹み。	8.4	10.4	7.8	700	
67	石皿・多孔石	楕円形	角閃石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	23.7	18.5	5.8	3400	
68	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は平坦。裏面に円錐形の凹み。	11.3	11.6	4.8	670	欠損
69	石皿・多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。表裏に円錐形の凹み。	19.5	16.5	8	2200	欠損
70	石皿・多孔石	一	牛状砂岩	石皿作業面は凹面。裏は円錐形の凹み。	13.6	9.5	3.8	480	欠損
71	石皿・多孔石	一	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏は細長い溝状の凹み。	8.9	7.4	4.9	380	欠損
72	石皿・多孔石	不定形	粗粒輝石安山岩	石皿作業面は凹面。裏に円錐形の凹み。	12	14.3	8.2	1400	欠損
73	孔鉢状石皿	孔鉢形	粗粒輝石安山岩	外部に削りだして連続状の文様をつくる。	13.8	13.4	9.7	1410	
74	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	9.9	7.5	3.5	310	
75	多孔石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に円錐形の凹み。	10.7	13.9	5.6	790	欠損
76	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹みと磨面。凹-磨。	10.7	5.6	3.8	310	
77	磨石	球形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	5.9	5.6	4.6	160	
78	磨-敲石	円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面と敲打痕。磨-敲。	10.4	9.9	3.2	470	欠損
79	磨石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏-側面に磨面で使をもつ。	9.2	6.4	3.6	420	欠損
80	磨製石斧	定角式	安立武岩	表裏-側面を研磨し使をもつ。刃部はこぼれ研磨。横断面隅丸長方形。	10.1	6.2	5.8	410	刃部欠損
81	凹石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	10.8	8.3	5.5	510	
82	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に凹みと磨面。凹-磨。	11.1	5.5	4	390	
83	磨-敲石	一	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面と敲打痕。磨-敲。	7.8	7.6	4.3	260	欠損
84	磨-凹石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に浅い凹みと磨面。凹-磨。	13.6	8.2	4.6	830	
85	磨-凹石	隅丸長方形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。表裏-側面に磨面で使をもつ。凹-磨。	13.2	6.4	5.8	700	
86	磨-敲石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。表裏-側面に細長い敲打痕。磨-敲。	15.4	7.3	5.4	870	
87	凹石	不定形	粗粒輝石安山岩	表裏に凹み。	11.8	7	5.6	540	
88	磨石	長楕円形	粗粒輝石安山岩	表裏に磨面。	12.5	7.9	5.6	620	
89	磨石	楕円形	粗粒輝石安山岩	表面に磨面。	14.4	6.1	5.8	720	
90	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	12.3	5.5	3.2	300	刃部欠損
91	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.7	4.5	2.3	100	刃部欠損
92	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.4	5.3	2.1	140	刃部欠損
93	打製石斧	盤形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.8	4.2	1.8	70	
94	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	9.6	4.5	1.9	80	
95	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.6	5.2	1.7	70	刃部欠損
96	打製石斧	梨形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	8	5.7	1.7	90	刃部欠損
97	打製石斧	梨形	頁岩	両面調整。刃部片面調整。横断面カマゴコ状。	8.9	4.3	2.1	80	

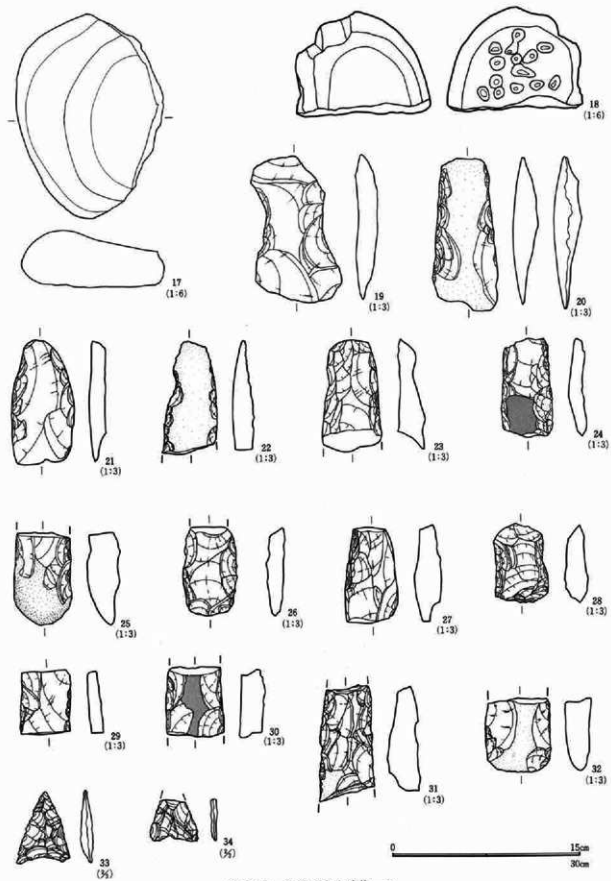
## 第1章 出土遺物の概要

遺構外石器観察表

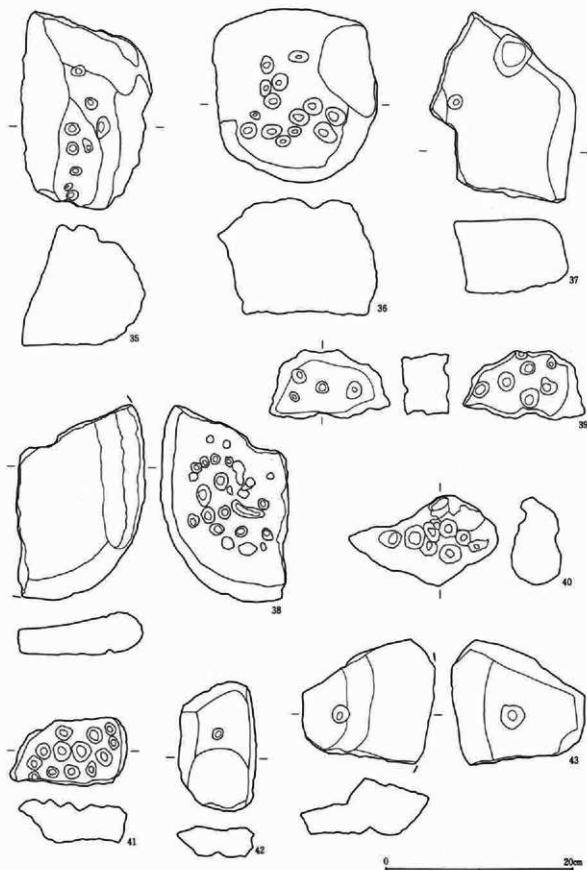
遺物番号	種類	形状	石材	特徴	縦	横	厚さ	重量	その他
98	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.8	4.1	2	70	刃部欠損
99	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.4	4.1	1.5	50	
100	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.8	4.2	1.9	80	両端欠損
101	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.1	4.8	2.2	110	
102	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	7.3	4.5	1.6	60	刃部欠損
103	打製石斧	短筒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8.5	5	3.1	170	刃部欠損
104	打製石斧	楕形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	9.9	5.3	2.5	200	刃部欠損
105	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面カマゴコ状。	10.9	5.2	1.5	80	刃部欠損
106	打製石斧	分銅形	黒色頁岩	両面調整。刃部磨減。横断面レンズ状。	10.4	6.6	1.8	140	欠損
107	打製石斧	短筒形	硬質泥岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	10.3	8.2	3.6	360	基部欠損
108	打製石斧	短筒形	細粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	6.7	4	1.3	50	刃部欠損
109	打製石斧	短筒形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.5	4.5	2.1	80	両端欠損
110	打製石斧	短筒形	粗粒輝石安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	4.7	5.5	2.2	70	両端欠損
111	打製石斧	楕形	黒色頁岩	両面調整。横断面レンズ状。	5.9	4	1.3	40	基部欠損
112	打製石斧	短筒形	灰色安山岩	両面調整。刃部はこぼれ。横断面レンズ状。	8.5	5.5	1.8	110	基部欠損
113	打製石斧	短筒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	10	5.1	2.7	120	基部欠損
114	打製石斧	短筒形	灰色安山岩	両面調整。横断面レンズ状。	8	5.3	2.3	130	両端欠損
115	打製石斧	楕形	黒色頁岩	片面調整。横断面カマゴコ状。	8.1	6.2	1.8	80	
116	磨製石斧	定角式	実質蛇紋岩	表裏・側面に研磨による稜を持つ。横断面隅丸長方形。	7.8	5.1	2.1	160	
117	磨製石斧	定角式	実質緑岩	表裏・側面に研磨による稜を持つ。側面に固定用の抉り。横断面隅丸長方形。	12.2	6.7	3.5	490	刃部欠損
118	磨製石斧	定角式	実質蛇紋岩	表裏・側面に研磨し稜をもつ。横断面隅丸長方形。	6.5	4.3	2.3	110	刃部欠損
119	磨製石斧	定角式	実質蛇紋岩	表裏・側面に研磨し稜をもつ。横断面隅丸長方形。	2.9	3.8	0.9	20	
120	不明石製品	隅丸長方形	簡單	表面研磨。	2.5	1.3	0.6	3.2	
121	スタレイパー	楕長	黒色頁岩	側面に押圧刺離の片面刃部。	5.5	3.8	0.6	10	
122	石匙	楕長	黒色頁岩	側面に押圧刺離の両面刃部。	4	4.6	0.9	10	欠損
123	スタレイパー	楕長	黒色頁岩	側面に両面調整の刃部。	5	5	0.8	30	
124	スタレイパー	楕長	黒色頁岩	側面に押圧刺離の片面刃部。	5.4	6.5	1.4	40	
125	スタレイパー	楕長	珪質頁岩	片面調整の刃部。	4.8	7.6	1.2	50	
126	スタレイパー	楕長	黒色頁岩	片面調整の刃部。	3.6	7.5	1	20	
127	砥石	不定形	千代砂岩	砥石作業面は平坦。	5.9	6.9	1.1	40	
128	垂磨	隅丸長方形	蛇紋岩	表裏・側面に研磨。頂部にφ4mmの孔を両面から穿孔。	3.5	1.9	0.4	5	
129	石鏃	四基無基鏃	黒色頁岩	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	4	2	0.6	3.8	
130	石鏃	四基無基鏃	黒色安山岩	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	2.5	1.3	0.3	0.6	
131	石鏃	平基無基鏃	黒色安山岩	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	2	0.8	0.4	0.7	
132	石鏃	平基有基鏃	チャート	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	2.2	1.5	0.3	0.7	
133	石鏃	四基無基鏃	黒曜石	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	3.2	1.8	0.3	1	
134	石鏃	四基無基鏃	黒色安山岩	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	3.1	2.1	0.6	2.5	
135	石鏃	四基無基鏃	細粒輝石安山岩	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	3	1.5	0.3	1.1	
136	石鏃	四基無基鏃	黒曜石	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	2.7	1.7	0.5	1.6	
137	石鏃	四基無基鏃	黒曜石	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	2.5	2.5	0.4	1.7	
138	石鏃	一	黒曜石	側面に押圧刺離。横断面レンズ状。	1.8	1.5	0.3	0.6	基部欠損



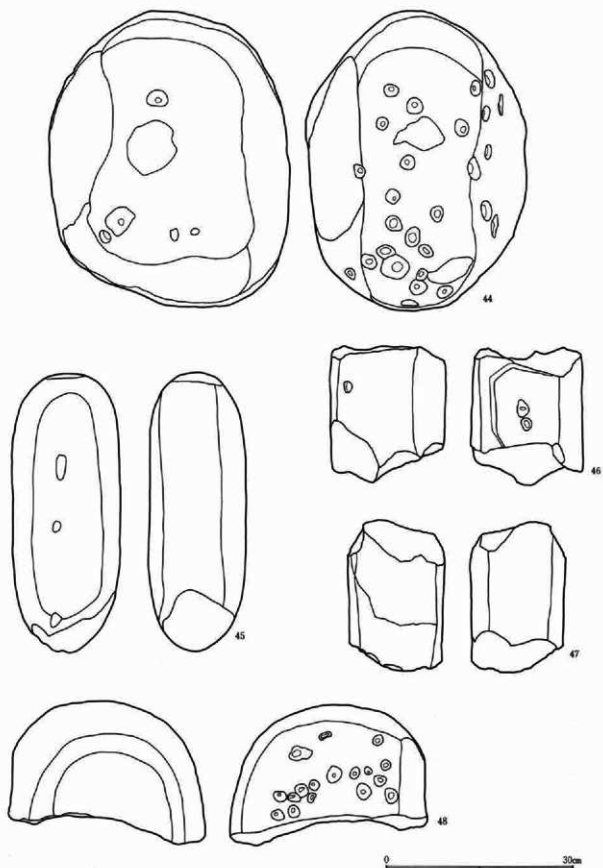
第394図 包含層出土遺物-1



第395図 包含層出土遺物-2

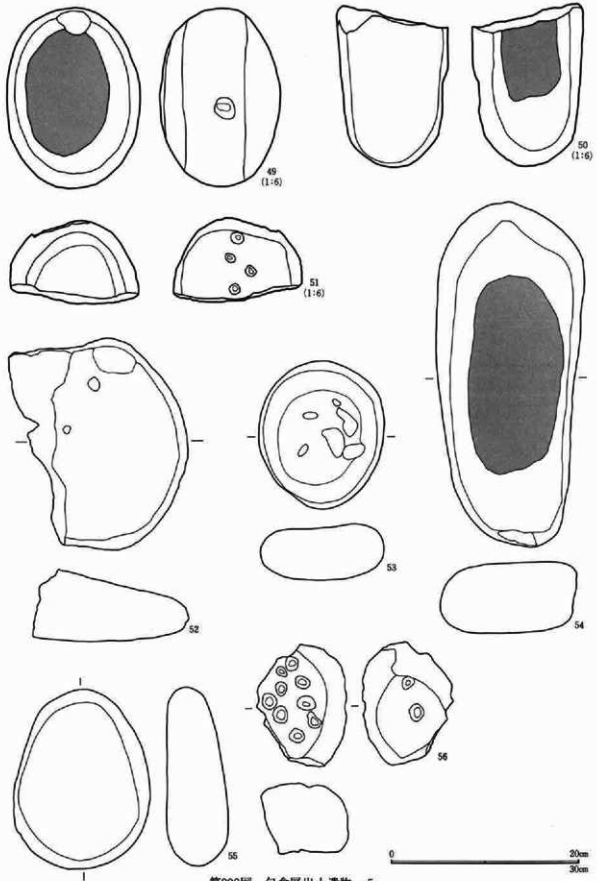


第396図 包含層出土遺物-3



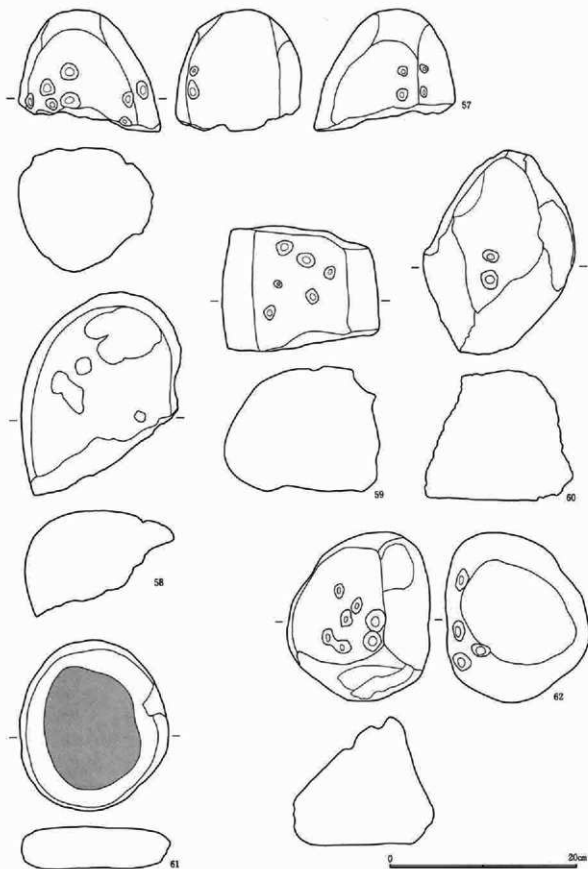
第397図 包含層出土遺物-4

第4節 町道挾幅部・その他の出土遺物



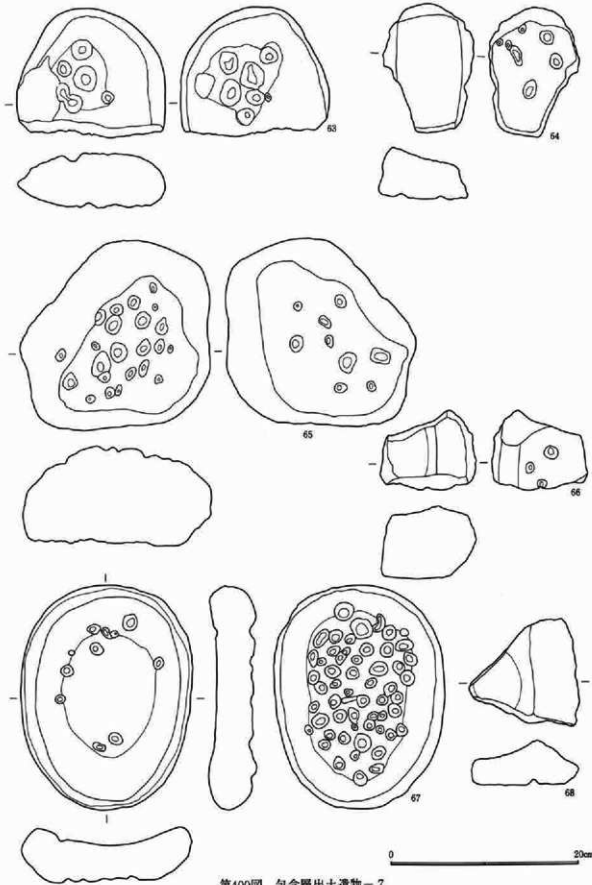
第398図 包含層出土遺物-5

第1章 出土遺物の概要

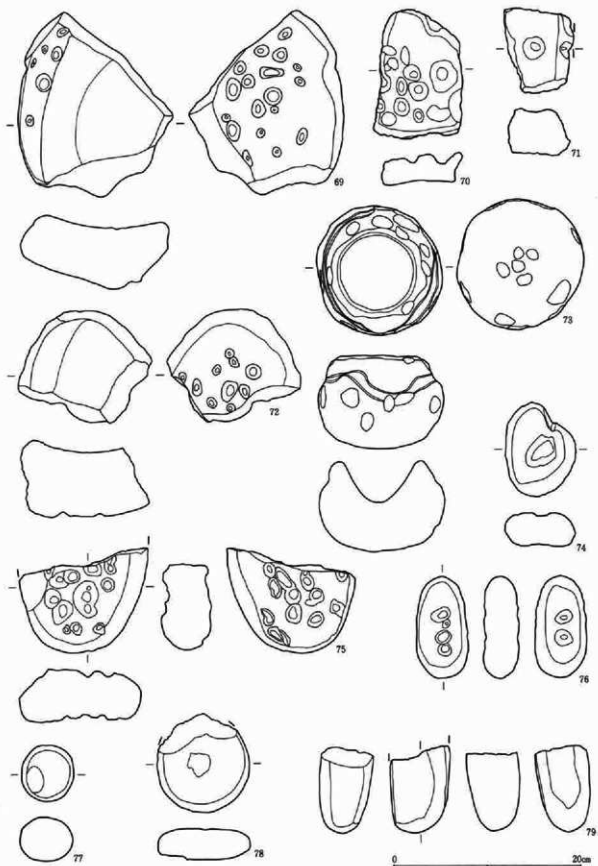


第399図 包含層出土遺物-6

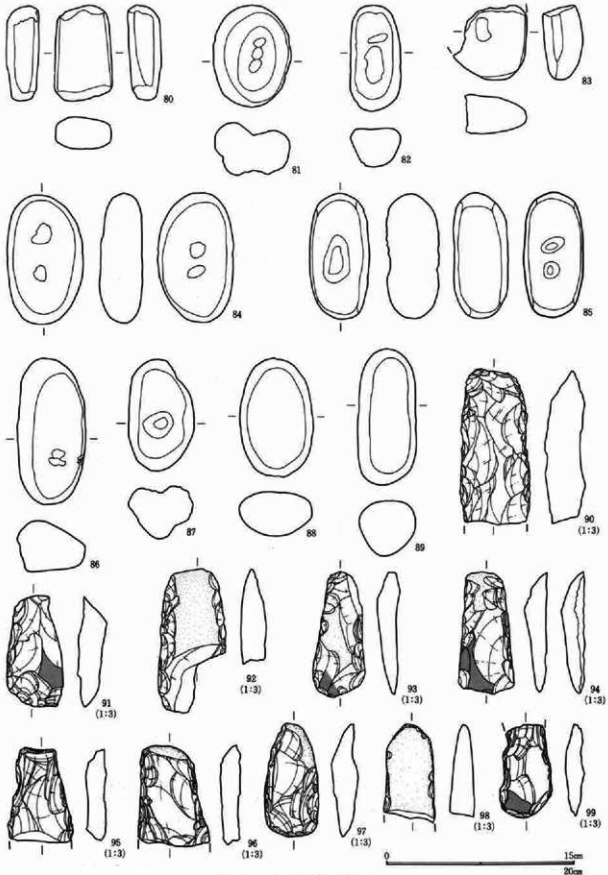




第400図 包含層出土遺物-7

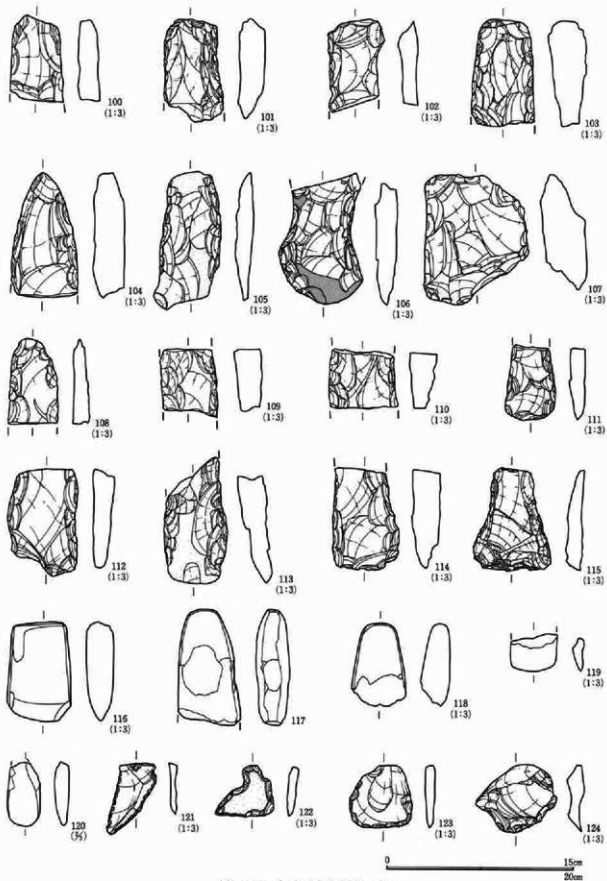


第401図 包含層出土遺物-8



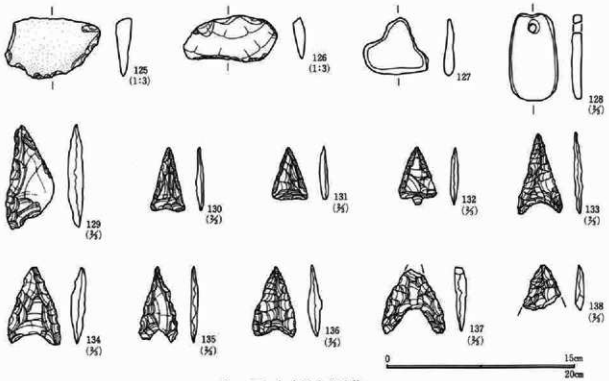
第402図 包含層出土遺物-9

第1章 出土遺物の概要



第403図 包含層出土遺物-10

第4節 町道拡幅部・その他の出土遺物

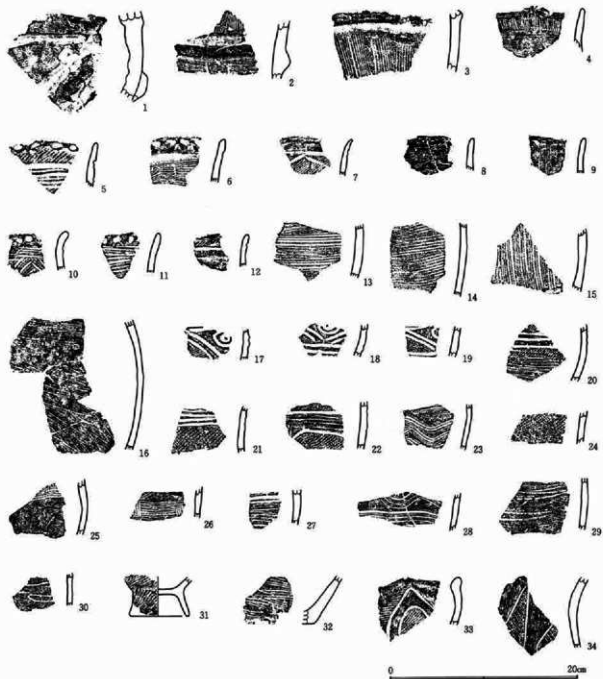


第404図 包含層出土遺物-11

## 第1章 出土遺物の概要

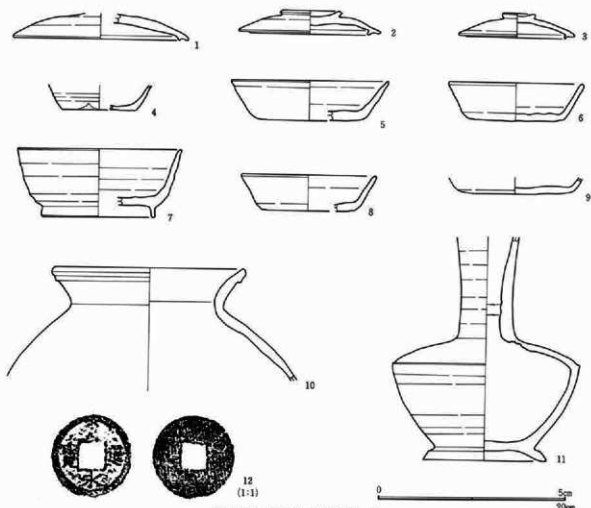
## その他の時期の土器

番号	胎土	色記号	色調	焼成	地文 原体	地文 方向	地文 分類	文様 分類	文様の特徴	種別
1	φ1-3mmの細かい小石	7.5YR	褐色	良	—	—	—	—	刷毛目はヘラ刷りの調整により消される。太さ25mmの隆線が貼り付けられ赤色絵彩される。	形痕類編
2	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良	—	—	—	—	刷毛目は、2-3mm間隔。タガは太さ15mmで丁寧な撫で。	埴輪
3	φ1-5mmの小石多い	7.5YR	褐色	良	—	—	—	—	刷毛目は、28mm巾に6本入る。タガは太さ10mm。	埴輪
4	細かい砂粒	10YR	濁灰色	良	条痕	縦位	—	—	口唇に小突起。口唇部下15mm巾に縦位の条痕を施し、頸部以下横位のナデ。	弥生
5	細かい砂粒	7.5YR	濁灰色	良	LR	横位	縄文	沈線	口唇部に、指頭圧痕による小波状。口唇部を巾18mmほど折り返し縄文を施文。頸部以下を太さ3mmの沈線が横位に施文。	弥生
6	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良	条痕	—	沈線	沈線	口唇部に突角を加えている。頸部以下を条痕が施文。	弥生
7	φ1-3mmの小石	10YR	濁灰色	良	Lr	横位	縄文	沈線	口唇部直下に巾12mmのナデによる無文帯を持つ。頸部には、沈線による菱形状の文様区画を持ち、区画内に縄文が充填される。	弥生
8	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良	沈線	斜位	沈線	—	巾2mmの平行沈線がまばらに縦位に施文される。	弥生
9	φ1-3mmの小石	7.5YR	濁灰色	良	沈線	縦位	沈線	—	巾2mmの平行沈線がまばらに縦位に施文される。	弥生
10	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良	沈線	横・斜	沈線	—	口唇部は、刻みで縦線状にしている。太さ2mmの沈線で頸部を横位に区画し、その下部を縦線状に施文。	弥生
11	φ1-5mmの小石	10YR	濁灰色	良	沈線	横・斜	沈線	—	口唇部は、刻みで縦線状にしている。太さ2mmの沈線で頸部を横位に区画。	弥生
12	細かい砂粒	7.5YR	灰褐色	普通	Lr	横位	縄文	—	口唇部下に太さ3mmの沈線が横位に回り口縁に沿って縄文が施文される。	弥生
13	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	条痕	横位	沈線	—	3mm間隔で条痕を横位に施文。	弥生
14	φ1-5mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	条痕	横位	沈線	—	3mm間隔で条痕を横位に施文。	弥生
15	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通	条痕	縦位	沈線	—	3mm間隔で条痕を縦位に施文。条痕の間には太さ3mmの沈線が間隔を置いて施文。	弥生
16	φ1-5mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	条痕	斜位	沈線	—	太さ3mmの手軟竹管による太い沈線で浅く凸線に施文する。	弥生
17	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で横位と菱形に文様を描き、文様の中心に同心円上の文様を描く。	弥生
18	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で横位と菱形に文様を描き、文様の中心に同心円上の文様を描く。	弥生
19	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線で横位と菱形に文様を描き、文様の中心に同心円上の文様を描く。	弥生
20	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線と条痕を横位に施文。	弥生
21	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄色	普通	LR	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線と条痕を横位に施文。	弥生
22	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	Lr	横位	縄文	沈線	太さ3mmの沈線と条痕を横位に施文。	弥生
23	φ1-3mmの小石	10YR	灰黄色	良	沈線	横位	沈線	—	太さ3mmの沈線を縦位に施文。	弥生
24	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良	LR	横位	縄文	—	太さ3mmの沈線と条痕を2段により、横位に施文。	弥生
25	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良	沈線	縦・横	沈線	—	太さ3mmの沈線で縦位に区画した後横位に施文。	弥生
26	φ1-3mmの小石	5YR	にぶい赤褐色	良	沈線	縦・横	沈線	—	太さ3mmの沈線で縦位に区画した後横位に施文。	弥生
27	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	良	沈線	横位	沈線	—	太さ3mmの沈線と条痕が横位に施文。	弥生
28	細かい砂粒	7.5YR	褐色	良	沈線	横位	沈線	—	太さ3mmの沈線と条痕を横位に施文。	弥生
29	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	良	沈線	横位	沈線	—	太さ3mmの沈線を縦位に施文。	弥生
30	細かい砂粒	7.5YR	にぶい褐色	普通	rl	横位	縄文	沈線	太さ2mmの沈線で文様を描く。沈線間に縄文が充填。	弥生
31	細かい砂粒	10YR	にぶい黄褐色	普通	LR	横位	縄文	—	縄文をまばらに施文する。高台付型器の胴部。	弥生
32	φ1-5mmの小石	7.5YR	褐色	普通	条痕	横位	沈線	—	太さ3mmの浅い条痕を横位に施文。	弥生
33	φ1-3mmの小石	10YR	にぶい黄褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口唇部に隆線起線で半弧状の無文帯を作り、太さ3mmの沈線で文様を描く。	縄文後期
34	φ1-3mmの小石	7.5YR	にぶい褐色	普通	RL	縦位	縄文	沈線	口唇部に隆線起線で半弧状の無文帯を作り、太さ3mmの沈線で文様を描く。	縄文後期



第405図 遺構外出土遺物-1

第1章 出土遺物の概要



第406図 遺構外出土遺物-2

須恵器・古銭観察表

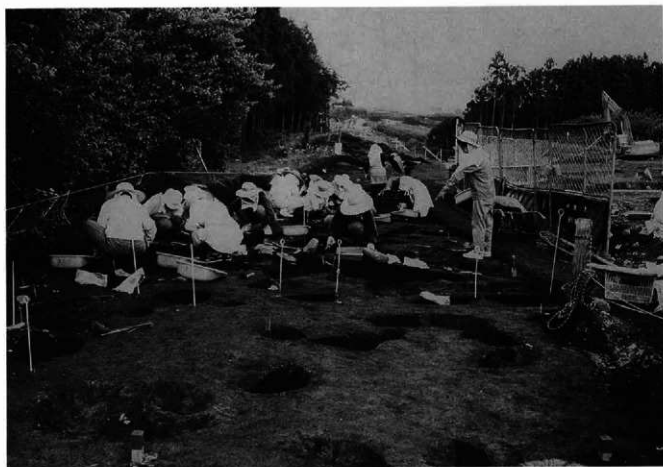
番号	器種	残存率	法量 (単位: cm)	胎土・焼成・色調	成形・整形の特徴、その他の特徴
1	須恵器 杯蓋	1/4	口径 18.8	細砂粒 還元焰 灰白色	ロクロ成形、回転右回りか。天井部の中央部分は回転ヘラ削り。柄みは貼付か。内面のカエリはつまみ出し。
2	須恵器 杯蓋	2/3	口径 15.0 柄径 6.8 器高 2.6	細砂粒 還元焰 灰色	ロクロ成形、回転右回り。柄みは扁平な粘土板を貼付した環状溝。天井部の中央部分は回転ヘラ削り。内面のカエリは貼付か。
3	須恵器 杯蓋	定形	口径 12.2 柄径 4.0 器高 3.1	細砂粒 還元焰 灰白色	ロクロ成形、回転右回り。柄みは粘土板を貼付した環状溝。天井部はヘラナゲ。内面のカエリは貼付か。
4	須恵器 杯	底部片	口径 16.8 底径 8.0 底径 12.4	微砂粒 還元焰 灰白色	ロクロ成形、回転右回りか。底部切り離しは回転ヘラ削り。
5	須恵器 杯	1/5	口径 14.2 器高 4.2	微砂粒 還元焰 灰白色	ロクロ成形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。
6	須恵器 杯	1/4	口径 10.2 器高 3.8	微砂粒 還元焰 灰色	ロクロ成形、回転右回り。底部はヘラ切り後回転ヘラ削り、底部周辺部に1角の沈堀が高る。口縁部下位は1段の回転ヘラ削り。
7	須恵器 杯	1/3	口径 17.4 底径 12.0 器高 7.4	細砂粒 還元焰 灰オリーブ	ロクロ成形、回転右回り。底部はヘラナゲ、高台は貼付。体部下位は1~2段の回転ヘラ削り。
8	須恵器 杯	1/5	口径 14.2 底径 10.0 器高 3.9	微砂粒 還元焰 灰白色	ロクロ成形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、底部周辺部に1角の沈堀が高る。口縁部下位は1段の回転ヘラ削り。
9	須恵器 杯	底部片	底径 12.2	細砂粒 還元焰 灰白色	ロクロ成形、回転右回り。底部は不定方向へのヘラ削り。
10	須恵器 葉	口縁部 一割片	口径 20.0	細砂粒 還元焰 灰色	ロクロ成形。内面に同心円状のアケ具痕が残る。口縁部下に1状の凸帯が高る。
11	須恵器 長頸壺	2/3	胴部最大径 20.0 底径 10.6	細砂粒 還元焰 灰色	ロクロ成形、回転右回り。高台は貼付。底部は回転ヘラ削り。胴部も回転ヘラ削り。胴部に1状の沈堀が高る。頸部の接合は3段接合頸部中ほどに輪轆み痕が残る。
12	寛永通宝		直径 2.9 重量 2.45g		

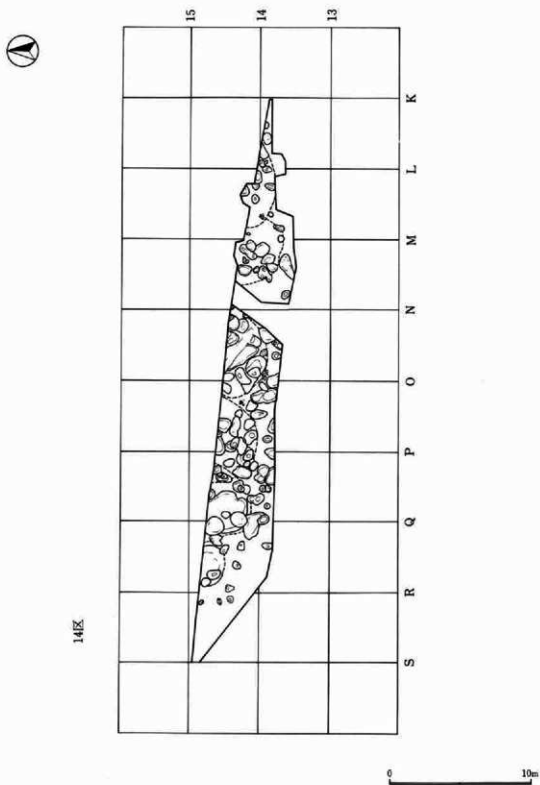


## 第2章 町道拡幅部・その他の調査

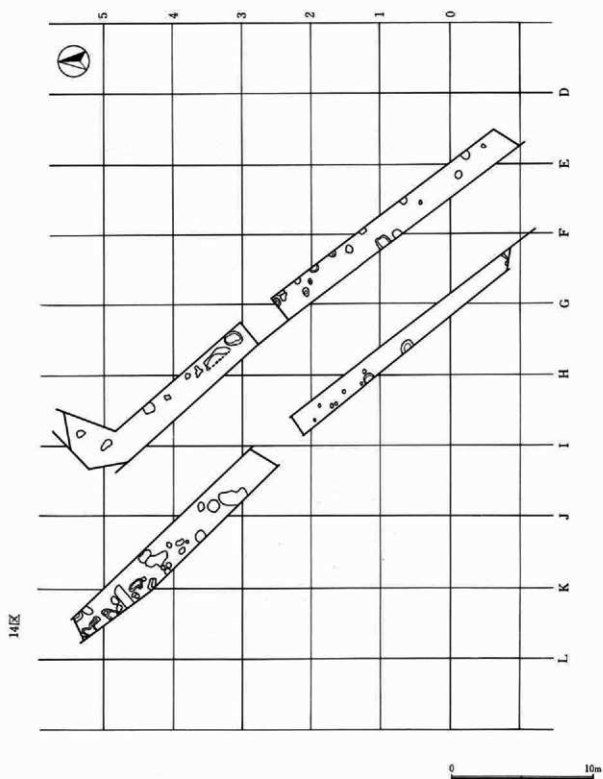
### 町道拡幅部の調査

町道拡幅部は、本線部分とは別に平成6年度に北陸新幹線と接する町道を拡幅するために調査を行った部分である。調査は、平成6年4月26日から6月13日に行われた。町道拡幅部分については、選構編編集以降に調査がなされたことから、本編に収録した。あわせて、選構編で洩れた分についても補遺として掲載した。



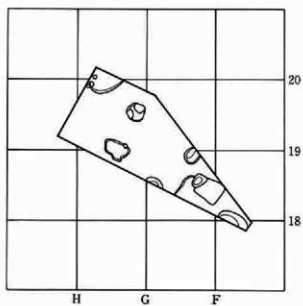
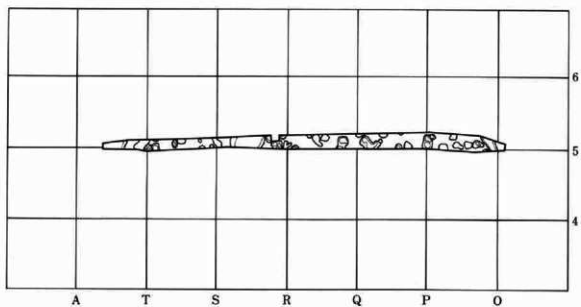


第407図 町道拡幅構造図-1



第408図 町道拡幅遺構図-2

15区 ← → 14区



町道拡幅1-149



第409図 町道拡幅遺構図-3

## 第1節 町道拡幅部から検出された住居址

## 町道拡幅2号住居址 (第412図)

**位置** 調査区の中央に土坑と重複している。 **形状** 南半部は、調査区域外。東西3mを測る。隅丸長方形。 **壁** 壁高は、西側の高いところで46cmを測り、急傾斜で立ち上がる。ローム層を深く掘り込んで壁面としている。 **覆土** 上層では、軽石粒混じりの土、下層ではロームブロック混じりになる。 **床面** ローム面を床面としており、全体に堅くしまっている。 **柱穴** しっかりした柱穴は確認されなかった。 **炉** 中央部に若干のくぼみがあることから地床と考えられる。 **遺物** 出土遺物は少なく、覆土中にわずかに見られた。

## 町道拡幅3号住居址 (410図)

**位置** 14区P-14 **形状** 北半部は、調査区域外。西側を土坑が重複し、東側も掘り方が不明なため、形状は、はっきりしない。東西で4.5mを測る。本遺構は、住居址としての根拠が薄い。調査時に住居址と認定したため、住居址として報告する。 **壁** 土坑による攪乱等により壁は、はっきりしない。壁高は、10cm程である。 **覆土** ロームブロック等を含む。人為的な埋没。 **床面** 凹凸が激しく、はっきりしない。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 覆土中から廃棄された状態で出土している。

## 町道拡幅6号住居址 (410図)

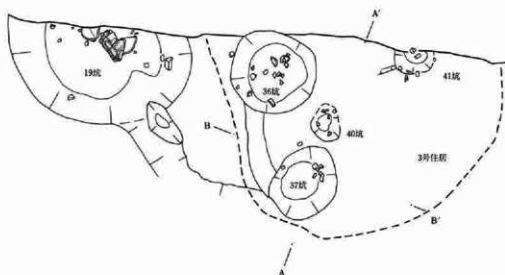
**位置** 14区L-13~14グリッドに7号住居址と重複している。 **形状** 南側部分が調査区域外のためはっきりしない。北東コーナーの形状から方形になると思われる。北壁に張り出しがある。 **壁** 立ち上がりは、比較的垂直に近く、ロームを壁面としている。 **覆土** ロームブロック混じりの土を基本とする。近代の攪乱が多く埋没状況は、はっきりしない。 **床面** ローム面を床面としている。凹凸が激しい。 **柱穴** 柱穴状の掘り込みがいくつかみられるが確定しない。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 覆土中から投棄された状態で土器片が出土。他に、香炉形土器が出土している。

## 町道拡幅7号住居址 (411図)

**位置** 14区M-13~14グリッドに、東側で6号住居址と重複している。 **形状** 幅の狭い調査区のため、調査範囲が限定され住居址の形状ははっきりしない。南北に壁面がみられることから、長方形を呈すると思われる。 **壁** 南北の壁は、ローム層を壁面としているが、比較的低い緩やかな立ち上がりをする壁となっている。東西の壁の立ち上がりは、確認できなかった。 **覆土** ロームブロック混じりの土を基本とする。近代の攪乱が多く埋没状況は、はっきりしない。 **床面** ローム層を床面としており、東側に傾斜しているが比較的平坦で炉周辺部には、硬化面も見られる。 **柱穴** 壁面にそって6本のビットが穿たれていることから、これらが柱穴になると思われる。 **炉** 自然礫による石囲い炉。 **遺物** 覆土中に廃棄された状態で縄文土器片が出土している。



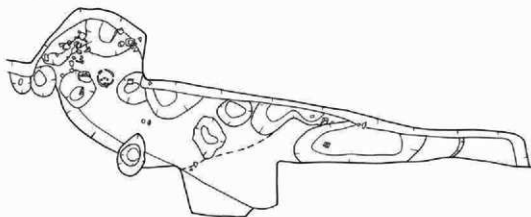
3号住居



3号住居

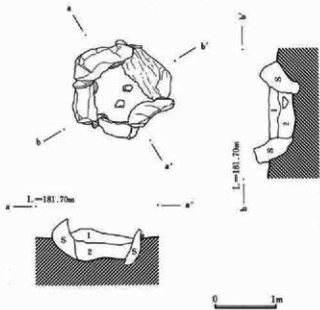
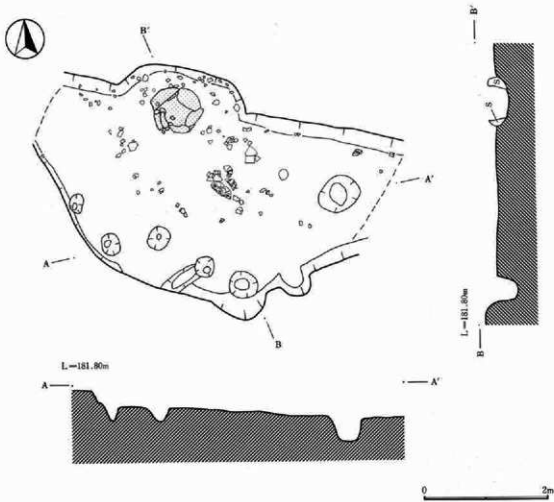
- 1層 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子を含む。
- 2層 黄褐色土 白色粒子・褐色粒子・ローム粒子を含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 4層 黄褐色土 ローム主体に暗褐色土を含む。

6号住居



第410図 町道拡幅 3・6号住居址

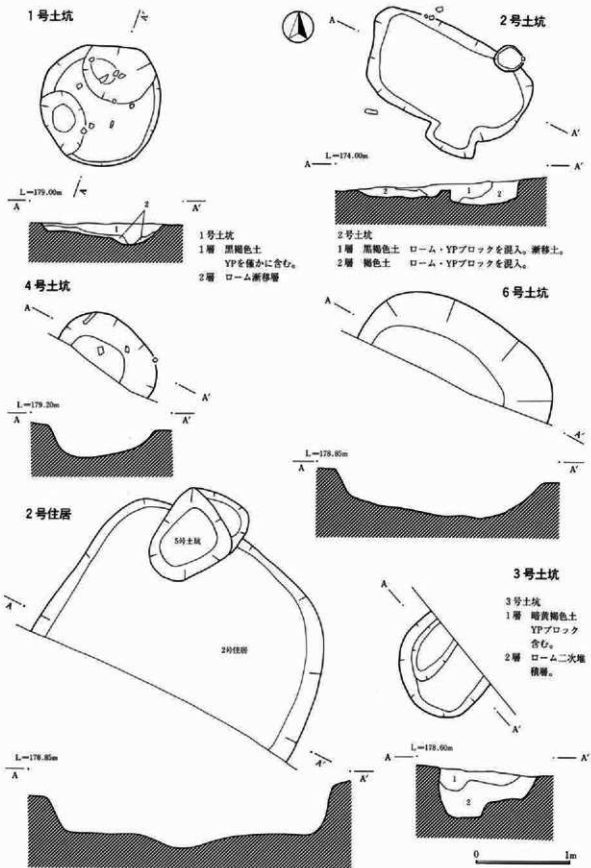
第1節 町道拡幅部から検出された住居址



7号住居炉

- 1層 暗褐色土 白色粒子・B・D粒子を含む。  
 2層 暗褐色土 下部に少量の焼土粒子を含む。

第411図 町道拡幅 7号住居址・炉址



第412図 町道拡幅 2号住居 1-6号土坑

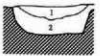


第1節 町道拡幅部から検出された住居址

7号土坑



A L=180.20m A'



7号土坑  
1層 暗褐色土 ローム細粒・YP粒少量含む。  
2層 暗褐色土 ローム細粒・YP粒、ロームブロック少量含む。

8号土坑



A L=179.90m A' B L=179.90m B'



8号土坑  
1層 暗黒褐色土 YP粒・ローム細粒少量含む。  
2層 暗褐色土 YP粒・ローム細粒少量含む。

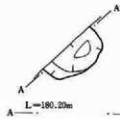
9号土坑



A L=179.90m A'



10号土坑



A L=180.20m A'



10号土坑  
1層 暗褐色土 YP上位ソフトロームをベース。  
2層 暗茶褐色土 YP、白色粒子を少量含む。  
3層 暗褐色土 ソフトローム少量含む。

12号土坑



A L=179.50m A'



14号土坑



A L=179.80m A'

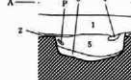


14号土坑  
1層 黒褐色土 ロームブロック少量含む。  
2層 暗褐色土 YP、ロームブロック少量含む。  
3層 暗褐色土 2層よりも黄色味が強い。

13号土坑



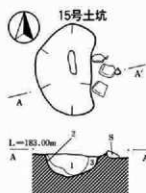
A L=180.00m A'



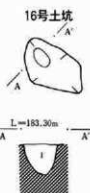
13号土坑  
1層 黒褐色土 白色粒子を少量含む。  
2層 黄褐色土 YP多く含む。  
3層 暗黄褐色土 ソフトローム。  
4層 暗黄褐色土 ロームブロック。  
5層 暗褐色土 YP、白色粒子少量含む。  
6層 黒褐色土 YPを多く含む。

0 1m

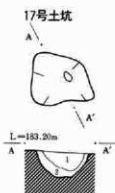
第413図 町道拡幅 7~14号土坑



15号土坑  
1層 暗褐色土 白色粒子少量含む。  
2層 暗褐色土 ローム細粒僅かに含む。  
3層 暗黄褐色土 ローム土主体。



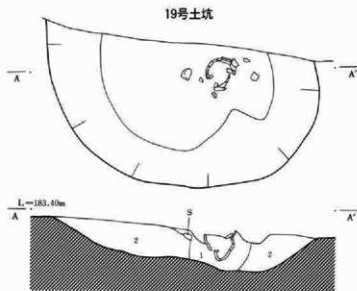
16号土坑  
1層 暗褐色土 白色粒子少量含む。



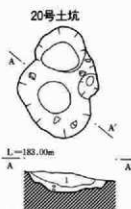
17号土坑  
1層 暗褐色土 白色粒子少量含む。  
2層 暗褐色土 ローム細粒僅かに含む。



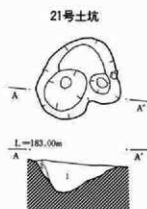
18号土坑  
1層 暗褐色土 白色粒子少量含む。



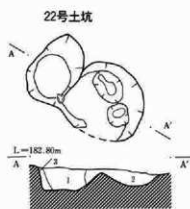
19号土坑  
1層 褐色土 白色粒子・B・P粒子含む。 2層 褐色土 白色粒子は見られない。



20号土坑  
1層 黒褐色土 白色粒子、YP少量。  
2層 暗黄褐色土 ローム土主体。



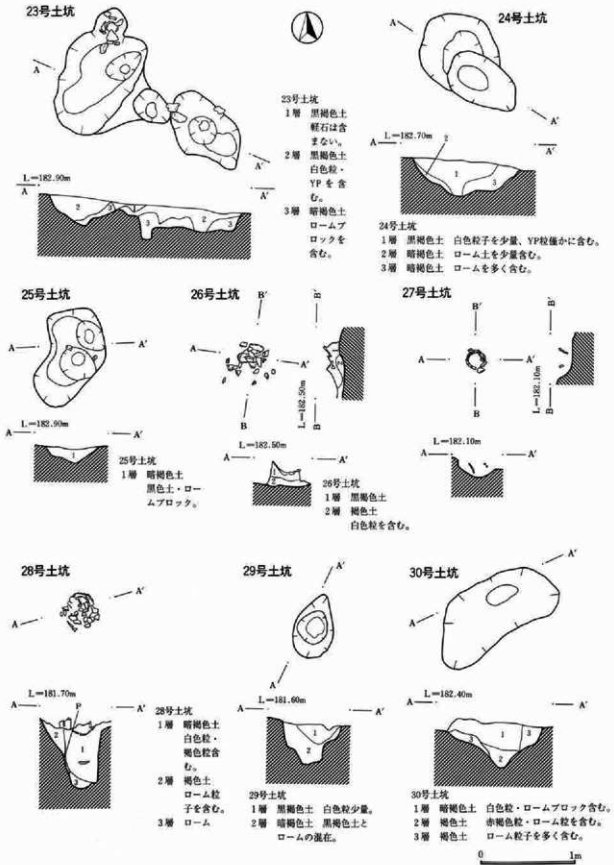
21号土坑  
1層 黒褐色土 白色粒子、YP少量。  
2層 暗褐色土 ロームブロック少量。



22号土坑  
1層 黒褐色土 白色粒子、YP少量。  
2層 黒褐色土 ロームブロック、白色粒子多量。  
3層 暗褐色土 ローム土を少量。

0 1m

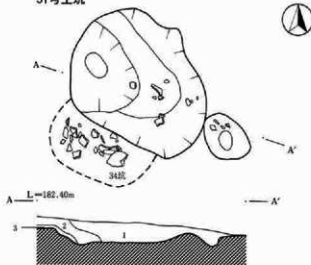
第414図 町道拡幅 15～22号土坑



第415図 可道抜幅 23～30号土坑

第2章 町道拡幅部・その他の調査

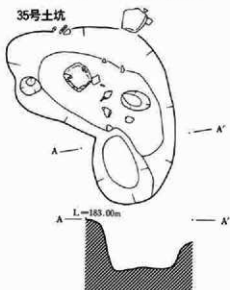
31号土坑



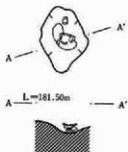
31号土坑

- 1層 黒褐色土 ロームブロック含む。
- 2層 暗褐色土 白色粒少量、ロームブロック含む。
- 3層 褐色土 ローム粒やや多く含む。

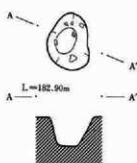
35号土坑



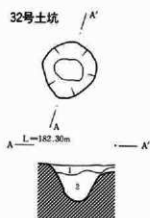
33号土坑



40号土坑



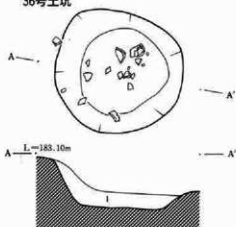
32号土坑



32号土坑

- 1層 暗褐色土 白色粒子少量。
- 2層 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック含む。

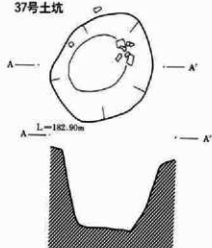
36号土坑



36号土坑

- 1層 暗褐色土 白色粒含む。

37号土坑

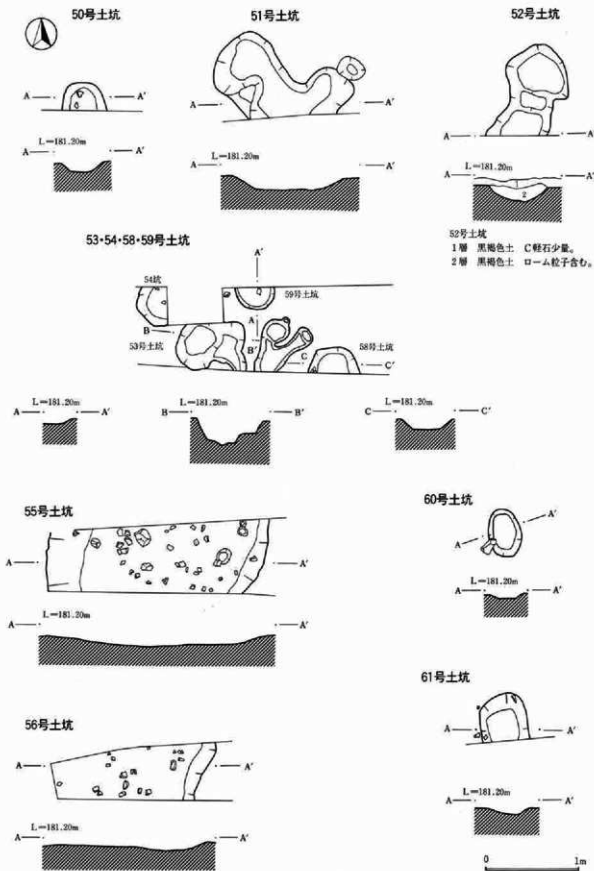


0 1m

第416図 町道拡幅 31～37・40号土坑



第417図 町道拡幅 41~49号土坑



第418図 町道拡幅 50～56・58～61号土坑

## 第2節 町道拡幅部の検出された土坑

土坑 No.	位置	規模 上面	規模 下面	深さ	形状	出土遺物 特徴	探頭 No.
1	町道拡幅 1-149	126×126	104×105	21	円形。断面直状。	底面に小ビット。	412
2	町道拡幅 1-149	125×178	103×151	22	長方形。断面直状。	南側に張り出し、底面が2段になる。	412
3	町道拡幅 1-149	106×-	90×-	50	楕円形。	底面が2段になる。	412
4	町道拡幅 1-149	-×90	-×46	31	超楕円形。断面直状。	底面凹凸少ない、覆土中に確。	412
5	町道拡幅 1-149	94×83	55×60	-	-	-	412
6	町道拡幅 1-149	-×108	-×104	41	超楕円形。断面直状。	底面に小さい凹凸。	412
7	14区 G-3	121×93	106×65	26	楕円形。断面円筒形。	底面に小さい凹凸。	413
8	14区 F-2	45×56	23×22	58	円形。断面円筒形。	柱穴状になる。	413
9	14区 F-1	44×-	24×24	58	円形。断面円筒形。	柱穴状になる。	413
10	14区 F-G-2	42×-	-	99	円形。断面円筒形。	柱穴状になる。	413
11	14区 F-2	20×28	10×13	46	円形。断面円筒形。	柱穴状になる。	413
12	14区 F-O-1	86×-	69×-	24	隅丸方形。断面直状。	床面に小さい凹凸。	413
13	14区 G-H-13	60×-	48×-	28	楕円形。断面直状。	床面に小さい凹凸。	413
14	14区 G-0	82×-	52×-	34	不整形。断面円筒形。	床面に小さい凹凸。小ビットが付く。	413
15	14区 Q-14	95×60	24×8	24	楕円形。断面直状。	床面に小さい凹凸。東側に中期後葉の土器。	414
16	14区 Q-14	50×58	17×16	32	楕円形。断面円筒形。	柱穴状になる。	414
17	14区 Q-14	56×68	8×8	26	不整形。断面直状。	床面に小さい凹凸。	414
18	14区 Q-13	72×48	14×9	28	不整形。断面直状。	床面に小さい凹凸。	414
19	14区 Q-14	283×-	176×-	42	楕円形。断面直状。	床面に小さい凹凸。中期中葉の埋設土器。	414
20	14区 P-13-14	118×87	74×40	16	不整形。断面直状。	床面に小さい凹凸。小ビットが重複。	414
21	14区 F-14	68×91	60×68	30	不整形。断面直状。	床面に小さい凹凸。小ビットが重複。	414
22	14区 P-13-14	89×123	70×90	22	不整形。断面直状。	床面に小さい凹凸。小ビットが重複。	414
23	14区 O-P-14	180×128	60×62	35	不整形。断面直状。	床面に小さい凹凸。小ビットが重複。	415
24	14区 O-14	90×84	58×42	34	不整形。断面直状。	床面に小さい凹凸。土坑の重複。	415
25	14区 P-14	100×61	72×53	16	不整形。断面直状。	床面に小さい凹凸。小ビットが重複。	415
26	14区 O-14	-	-	-	不明。	中期後葉の埋設土器。張り込み不明。	415
27	14区 N-13	-	-	-	楕円形。断面直状。	中期中葉の埋設土器。	415
28	14区 L-13	-	-	64	楕円形。断面円筒形。	中期中葉の埋設土器。張り込みが深い。	415
29	14区 L-13	64×43	26×32	42	楕円形。	ビットが重複。	415
30	14区 N-O-14	80×107	18×26	40	不整形。断面横り鉢状。	床面凹凸多い。	415
31	14区	146×150	110×118	14	不整形。断面直状。	床面に小さい凹凸。中期後葉の土器片多数出土。	416
32	14区 N-13	56×56	22×30	32	円形。断面円筒形。	柱穴状になる。	416
33	14区 K-L-13	68×50	22×20	8	不整形。断面直状。	中期中葉の埋設土器。	416
34	14区 N-13-14						416
35	14区 P-Q-13-14	184×168	130×112	46	長楕円形。断面筒形。	小ビット重複。床から多孔石出土。	416
36	14区 P-Q-14	129×128	88×93	29	円形。断面直状。	床面は比較的水平。覆土中に中期後葉の土器片多数出土。	416
37	14区 P-Q-14	108×108	58×60	76	円形。断面円筒形。	床面は比較的水平。覆土中に中期後葉の土器片多数出土。	416
40	14区 P-14	60×44	26×20	30	楕円形。断面円筒形。	覆土中から中期中葉の土器片出土。	416
41	14区 P-14	-×70	-×40	40	楕円形。断面円筒形。	床面は比較的水平。覆土中に中期中葉の土器片出土。	417
42	14区 1-14-4	96×78	66×58	14	長楕円形。断面横り鉢状。	土坑の重複。	417
43	14区 K-4-5	110×68	-	14	長楕円形。断面直状。	床が2段になる。	417
44	14区 K-5	-	-	12	不整形。断面直状。	床面に凹凸。	417
45	14区 K-5	108×69	92×50	8	不整形。断面直状。	土坑の重複。	417
46	14区 O-5	-×46	-×32	10	楕円形。断面直状。	-	417
47	14区 O-5	58×74	38×36	18	不整形。断面横り鉢状。	床面凹凸多い。	417
48	14区 O-P-5	-×62	38×36	12	不整形。断面直状。	-	417
49	14区 O-P-5	-×60	40×46	22	不整形。断面横り鉢状。	底面凹凸多い。	417
50	14区 P-5	-×50	-×28	9	楕円形。断面直状。	覆土中に遺物出土。	418
51	14区 P-5	-×150	72×72	12	不整形。断面直状。	底面に凹凸。ビット重複。	418
52	14区 Q-5	-×60	-×46	16	不整形。断面直状。	床面に凹凸多い。	418
53	14区 R-5	-×72	30×32	28	楕円形。断面階段状。	床面凹凸多い。	418

第2章 可道拉幅部・その他の調査

土坑 No.	位置	規模 上面	規模 下面	深さ	形状	出土遺物 特徴	坪図 No.
54	14区 R-5	40×—	32×—	—	楕円形、断面皿状。		418
55	14区 R-5	—×234	—×180	10	楕円形、断面皿状。	床面は、比較的平坦。床面近くから中期後葉土器、 礫が多く出土。	418
56	14区 T-4-5	—×—	—	10	不整形、断面皿状。	床面に小さい凹凸。床面近くから中期後葉の土器、 礫が出土。	418
58	14区 Q-5	—×54	—×32	10	楕円形、断面皿状。		418
59	14区 R-5	—×40	—×36	4	楕円形、断面皿状。		418
60	14区 S-5	50×38	36×24	4	楕円形、断面皿状。		418
61	14区 S-4-5	—×50	—×30	6	隅丸方形、断面皿状。		418

第3節 その他の遺構（補遺）

配石遺構（第419図） II地区の掲載漏れの配石遺構。

- 3号配石 14区H-14グリッド。地山に若干の掘り込みを設けて自然礫を配置している。  
 4号配石 13区N-12グリッド。地山の掘り込みは認められない。自然礫を配置している。  
 8号配石 J・K-8・9グリッド。掘り込みはなく自然礫、多孔石などを配置している。

溝（第420・421図） I地区、II地区の掲載漏れの溝。

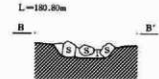
- 1号溝 II地区の東側、14区・13区にある。北西から南東に向かって掘られている。深さ40cm。近世の陶磁器類の小破片に混じり縄文時代遺物が出土していることから近現代のものと考えられる。  
 2号溝 I地区東側、14区にある。深さ20から30cm。陶磁器類の小破片に混じり縄文時代の土器、石器が混じって出土している。近現代のものである。  
 3号溝 I地区にあり2号溝の西側に平行して作られている。深さ10から15cm。近世の陶磁器の小破片に混じり縄文時代の遺物が出土している。近現代のものである。  
 4号溝 I地区15区S9グリッド。深さ10cm。小礫が多く混入している。近現代のものである。  
 5号溝 I地区15区S8グリッド。深さ10から20cm。礫が多く混入している。近現代のものである。

土坑（第422・423図） I地区の掲載漏れの土坑である。

- 25号土坑 14区S-7グリッド。長楕円形で断面皿状。  
 46号土坑 14区T-11グリッド。楕円形、断面皿状。  
 149号土坑 15区C-11グリッド。楕円形、断面皿状。  
 154号土坑 15区D-11グリッド。楕円形、2基の土坑が重複している。掘り方が浅く断面皿状。  
 156号土坑 15区C-12グリッド。不整形、小土坑が複数重複している。  
 159号土坑 15区D-12グリッド。円形、断面皿状。  
 173号土坑 15区A-13グリッド。不定形、断面皿状。  
 174号土坑 14区S-12グリッド。不整形、掘り方が殆ど残っていない。

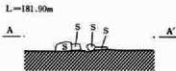


3号配石

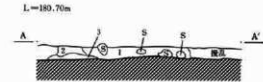
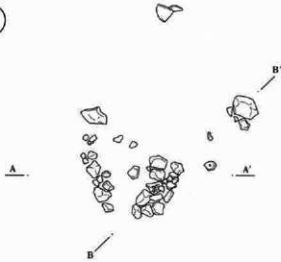


3号配石  
1層 暗赤茶褐色土 ATの粘質土と褐色土の混合。

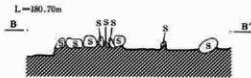
4号配石



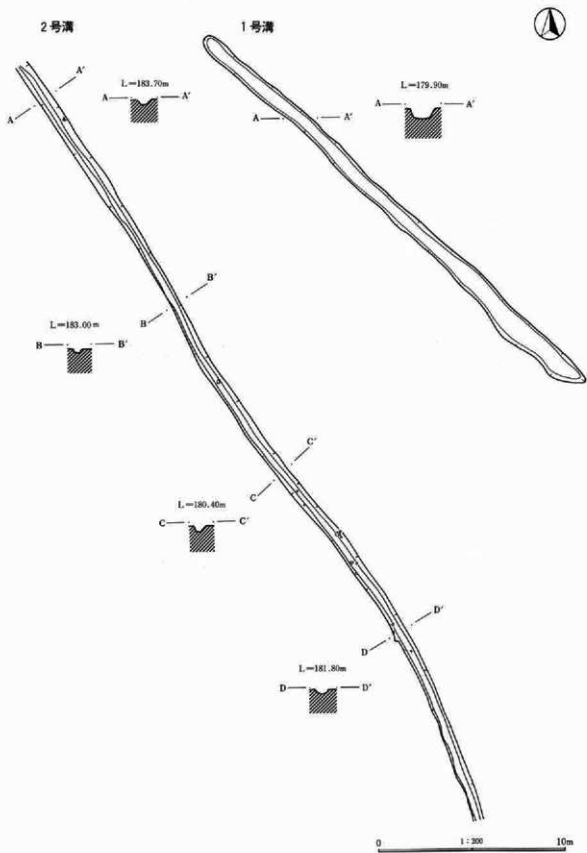
8号配石



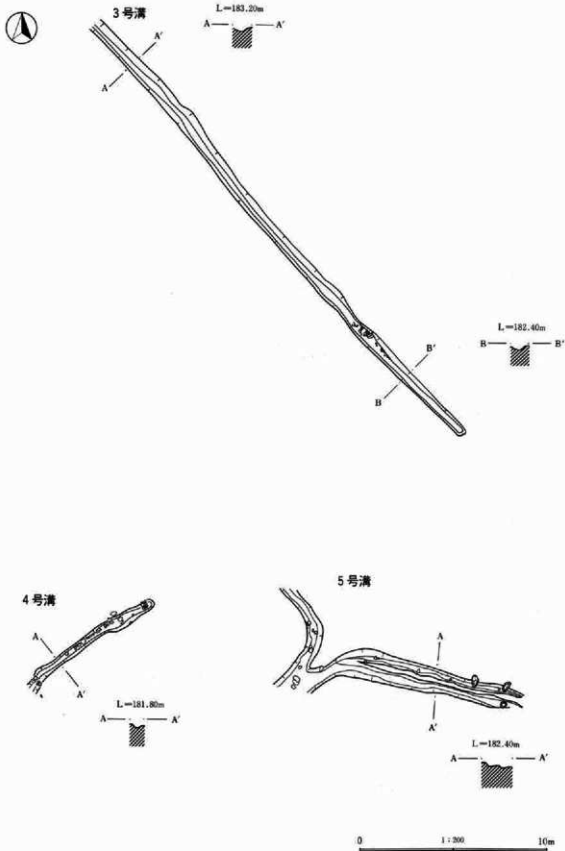
8号配石  
1層 黒褐色土 白色粒・黄色粒を含む。  
2層 黒褐色土 ロームブロックが少し混じる。  
3層 暗茶褐色土 ロームブロックが少し混じる。



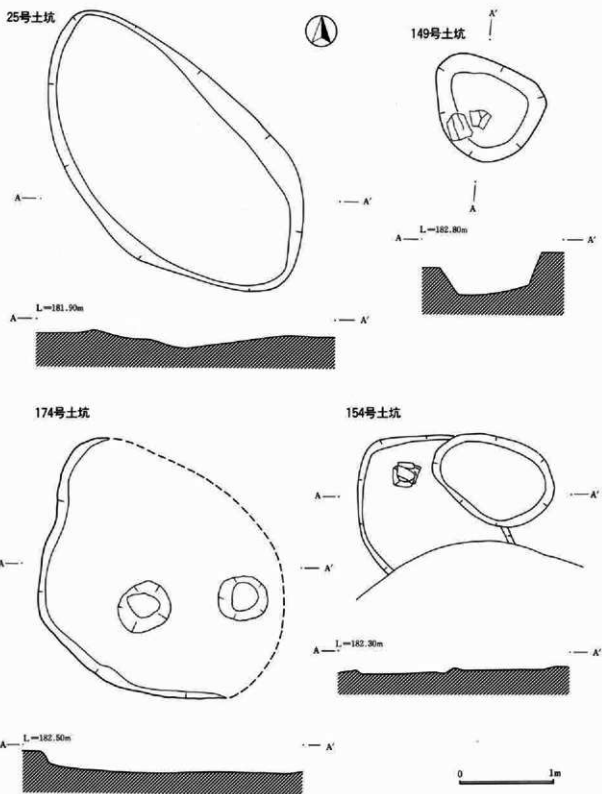
第419図 3・4・8号配石



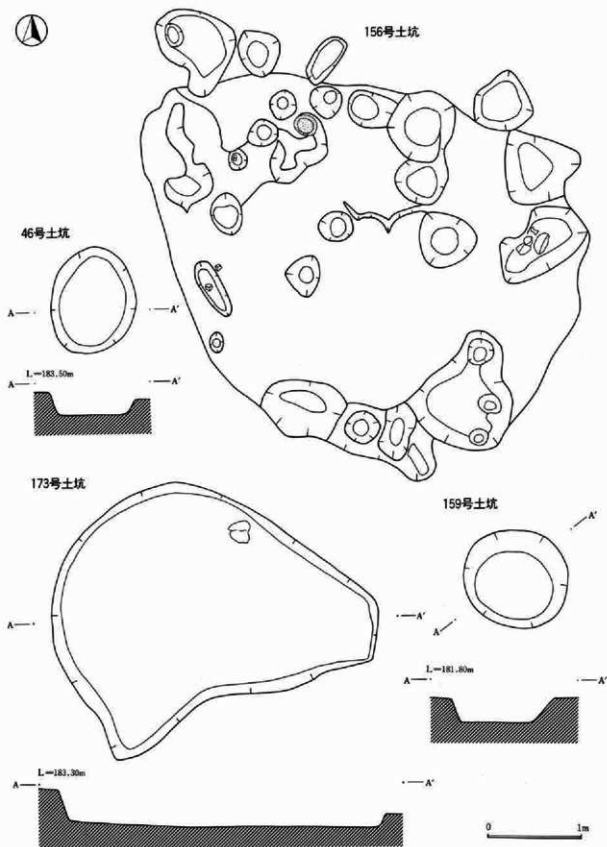
第420図 1・2号溝



第421図 3～5号溝



第422図 25・149・154・174号土坑



第423図 46・156・159・173号土坑

第3章 旧石器の調査



## 第1節 調査の方法

**試掘調査** 本遺跡での旧石器時代の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡の調査終了後に、遺跡の所在する南北に長い尾根部分から緩やかな東側斜面、調査設定区域では13区から14区にかけての範囲の中で、5mグリッドの南西隅を基準に、東西4m、南北2mの試掘トレンチ(32%)を4つのグリッドで1単位として、規則的な千鳥格子状に入れる方法(全体の8%)で、確認調査を実施した。最初に、1号住居跡や5号住居跡の周辺の14区G12～G15グリッド・K12～K15グリッドの範囲から、試掘トレンチ調査を開始し、G12やJ12～J14・K13～K14からの石器などの遺物の出土に伴い、調査範囲を拡大して分布範囲の把握に努めた。(424・425図)

**出土層位** 出土層位はⅡ地区E～Gグリッド土層の第8層で、その上部にAT(始良Tn火山灰;22,000～25,000)を含む層位であり、群馬県内で暗色帯(南関東地域での「黒色帯」に相当する)と呼ばれる層の上位である。さらに上位の地層には、浅間山噴出のテフラであるAs-YP(浅間一板鼻黄色軽石;13,500)とAs-Sr(浅間一白糸軽石;17,500)が混ざり込んだ形で確認されているが、As-OP2(大窪沢第二軽石;16,000)、As-OP1(大窪沢第一軽石;17,000)は検出されていない。また、As-BP群(浅間一板鼻褐色軽石群;18,000～22,000)とAs-MP(浅間一室田軽石;22,000)がそれぞれ純層で確認されている。

ただ、馬の背状の台地の尾根部分から急角度の斜面までの比較的狭い部分に分布することから、尾根付近は農作業の耕作などの削平により、上位の地層が削り取られている。また、斜面部では上位の地層の一部が流れ下っていることから、部分的に再堆積の土で厚くなっている。(遺構編4図)

## 第2節 調査の概要

**遺物分布** 遺物の分布(第428図)は、13区のQ9グリッドから14区のK14グリッドにかけて認められ、部分的には散漫な状態であるものも存在する。特に石器が集中する地点は、集中密度がやや低い資料も含めて9カ所が認定される。これらの遺物分布は、直径3～15mの範囲で石器が分布しており、特に直径3～5mの規模の資料が多い傾向が認められる。これらの石器群は、それぞれの石器集中地点間の接合関係や、基本土層の堆積状態と比較して、ほぼ同時期の資料と考えられる。

**分布形態** 榛名山塊の天狗山(標高1179m)から南東方向に延びる台地の稜線に沿った形で最も高い部分に分布している。赤堀町下触牛伏遺跡のような典型的な資料と比較すると、視覚的にはやや見劣りするものの、いくつもの石器集中地点が真ん中の空白部分をドーナツ状に取り囲むような形で分布しており、AT下位の時期の中でも、特にⅡ層段階に特徴的な、いわゆる「環状ブロック群」(岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会 1993)に相当するものと考えられる。

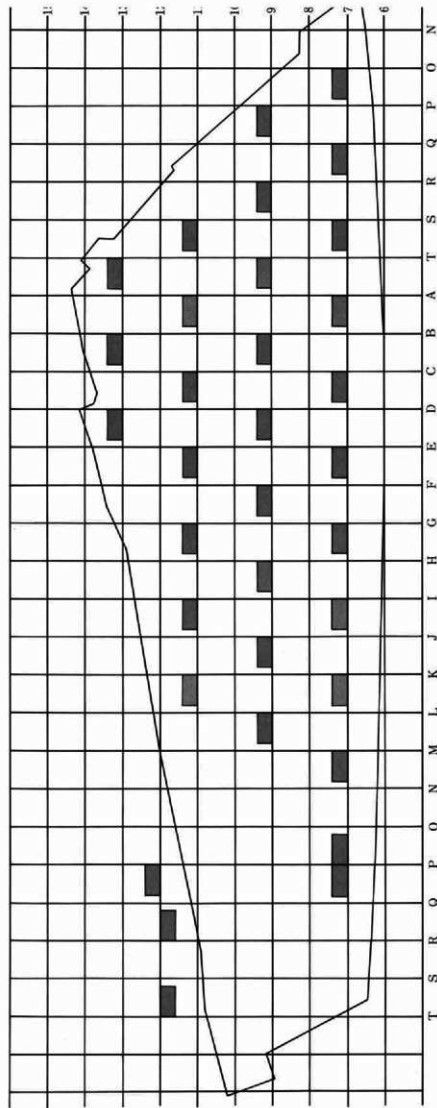
**出土遺物** 出土遺物のすべては石器、あるいは礫であり、出土位置が3次元データとして図化・記録されたものの点数は599点である。これ以外にグリッドごとに掘り上げた土のフローテーション(土壌洗浄)により、微細な剥片や砕片が多数検出されているが、正確な点数は不明である。

**石器組成** 石器組成はナイフ形石器、削器、クサビ型石器、加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、石核、敲石、磨石、台石、剥片、砕片、礫などである。以下、個々の石器について記述することとする。

**ナイフ形石器(第429図-1)** 旧石器時代の代表的な石器器種であるナイフ形石器は僅かに1点だけである。刃部が尖頭状を呈する小型ナイフ形石器の尖刃形態(麻生・大工原 1994)とした、平坦刺鎌を両側縁に施したベン先形の台形棒石器であり、横長剥片を素材とし、石材は黒色安山岩である。

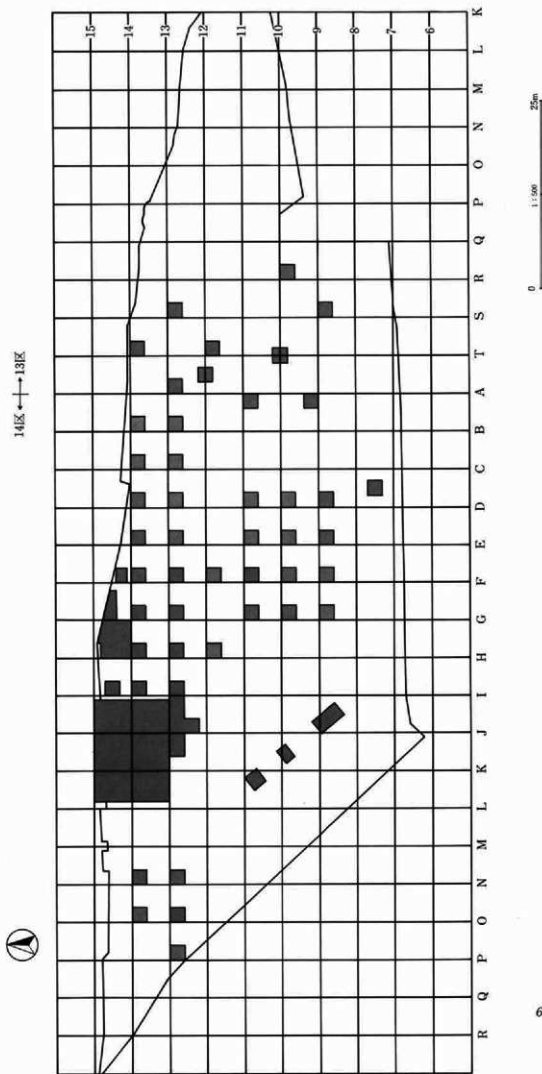


15区 ← | → 14区



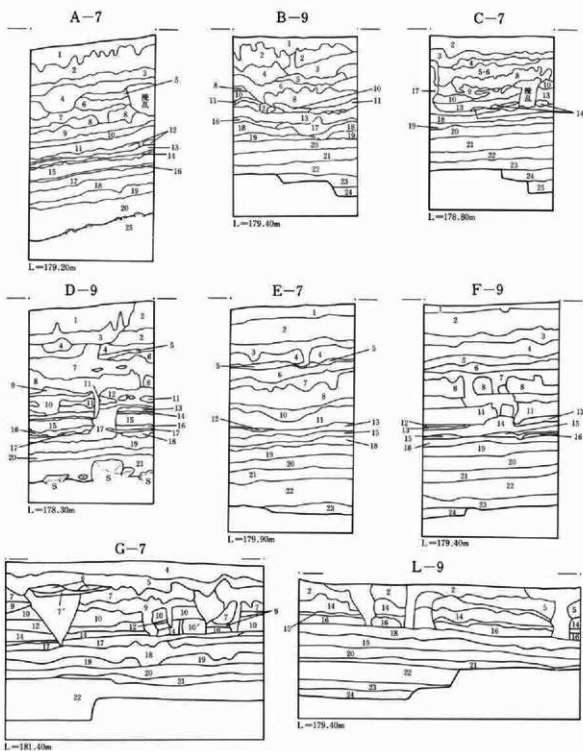
第424図 I地区旧石器試掘トレンチ図





第425図 II地区旧石器試掘トレンチ図

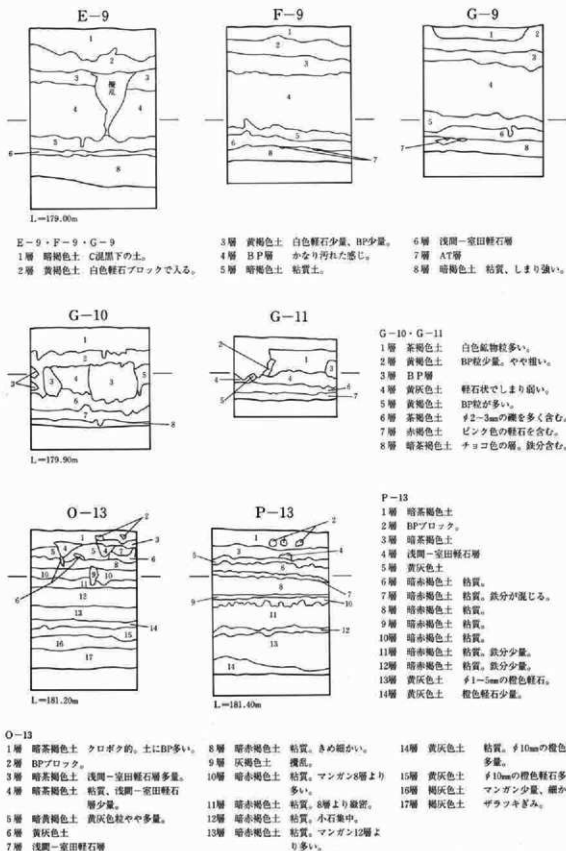
第3章 旧石器の調査



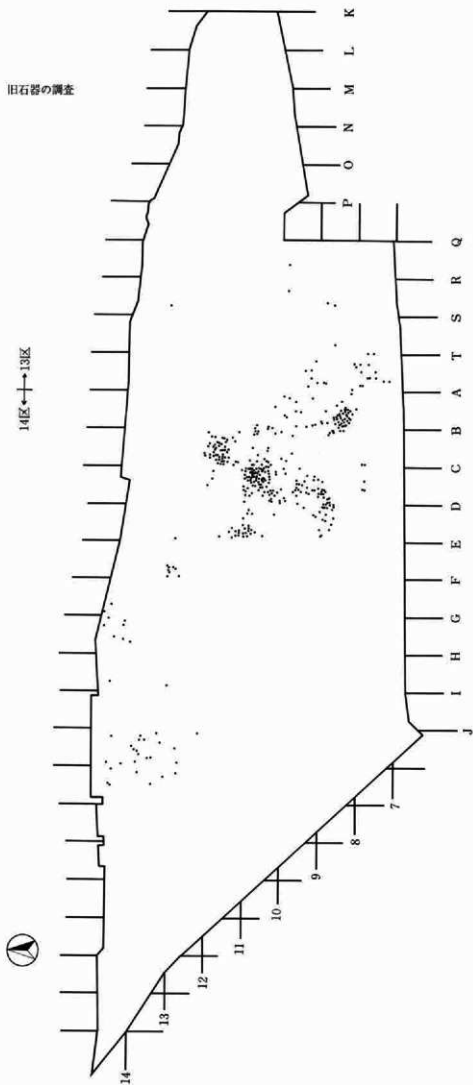
旧石器試掘A～Lグリッド土層注記

- |    |                |     |              |     |             |     |              |
|----|----------------|-----|--------------|-----|-------------|-----|--------------|
| 1層 | ローム層           | 6層  | 開層。パミスを着干含む。 | 13層 | 粗粒軽石層。      | 20層 | ATが入る層。      |
| 2層 | YP。            | 7層  | BPパミスを含み。    | 14層 | 火山灰層。灰ピンク色。 | 21層 | 青灰褐色 粘性が強い。  |
| 3層 | 開層。φ1-2cmの軽石粒。 | 8層  | BP粒子が細かい。    | 15層 | 火山灰層。青灰色。   | 22層 | 暗青灰色 鉄分の沈澱層。 |
| 4層 | 大久保沢軽石層。       | 9層  | BP粒子が粗い。     | 16層 | 火山灰。灰茶色。    | 23層 | 青灰色 粘性が強い。   |
| 5層 | 板鼻・白糸パミスが混じる。  | 10層 | BPパミスを含む。    | 17層 | 軽石層。        | 24層 | 鉄分の沈澱層。      |
|    |                | 11層 | 軽石がブロック状に入る。 | 18層 | 暗色帯。        | 25層 | 礫層。          |
|    |                | 12層 | 軽石層。         | 19層 | 浅間～室田軽石層。   |     |              |

第426図 I地区旧石器試掘グリッド-1

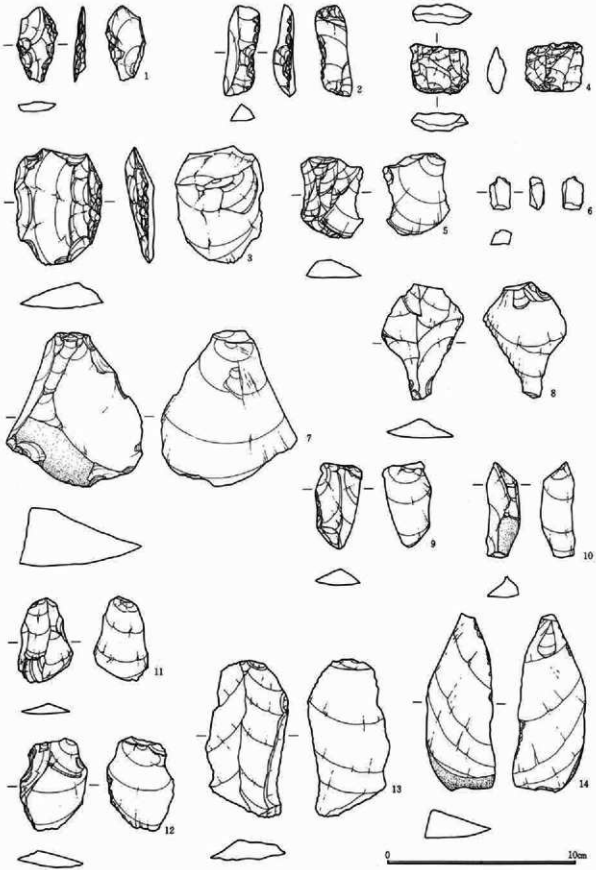


第427図 II地区旧石器試掘グリッド-2

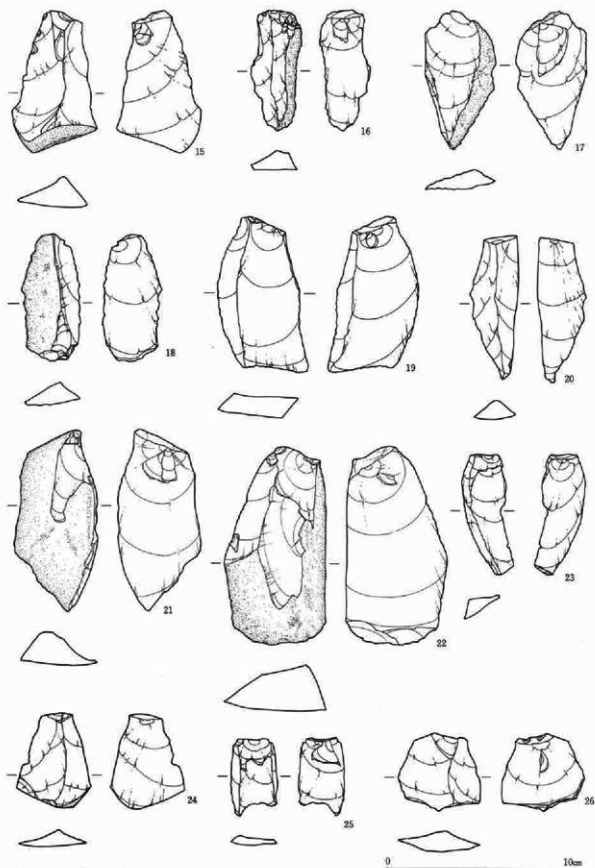


第428図 旧石器遺物出土図

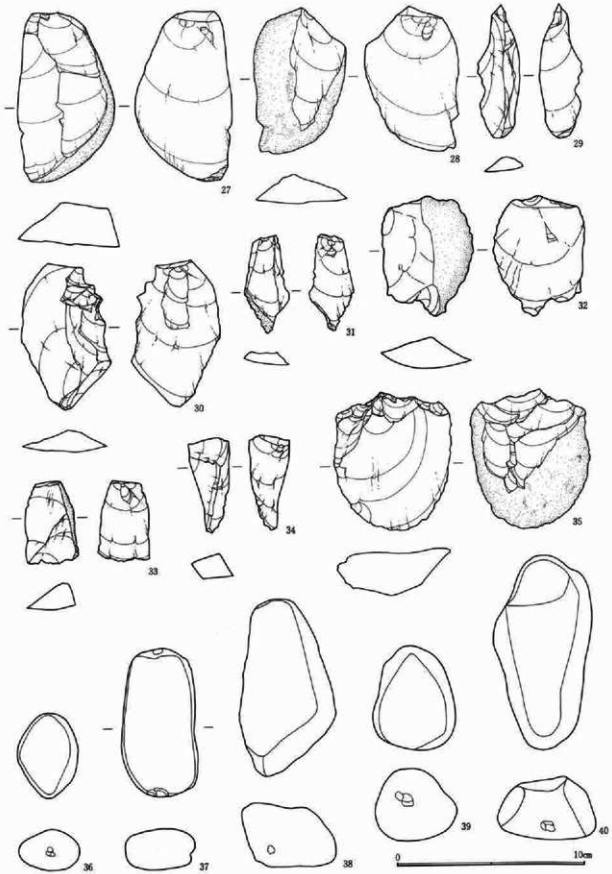
0 1:500 25m



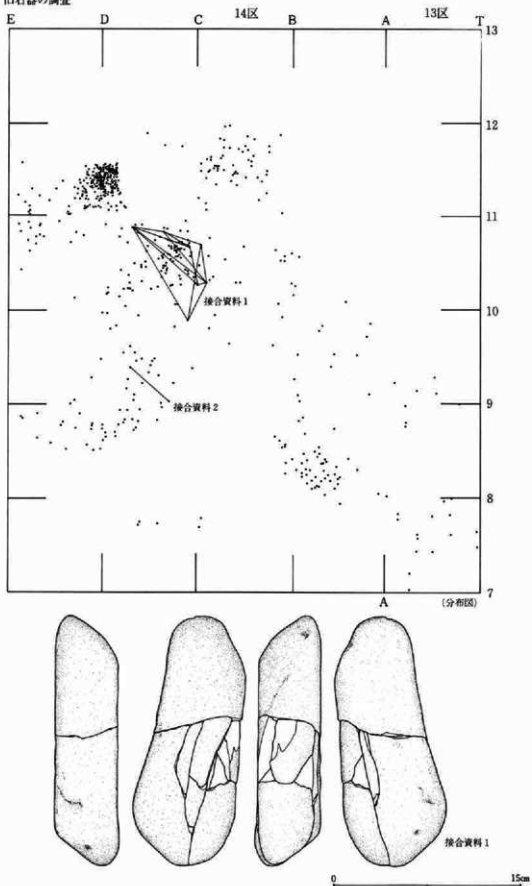
第429図 出土遺物-1



第430図 出土遺物-2

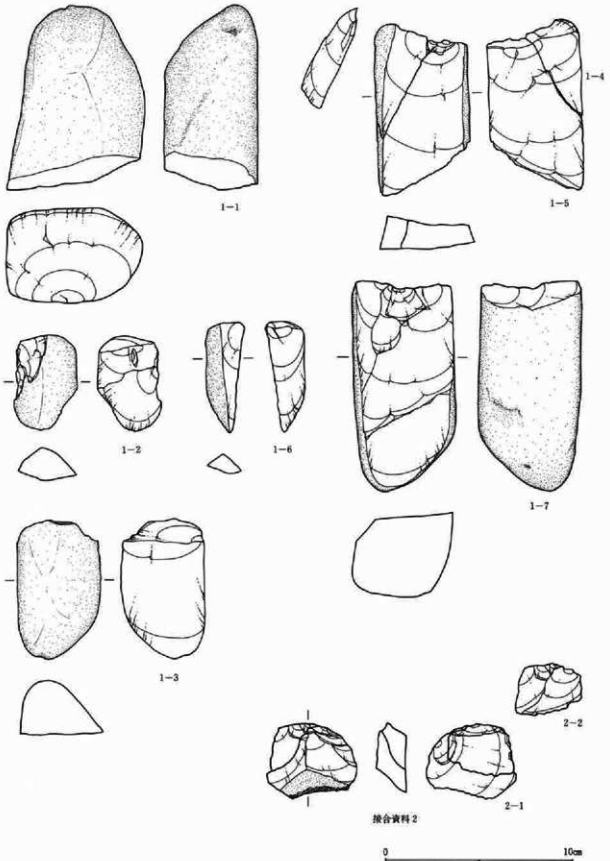


第431図 出土遺物-3

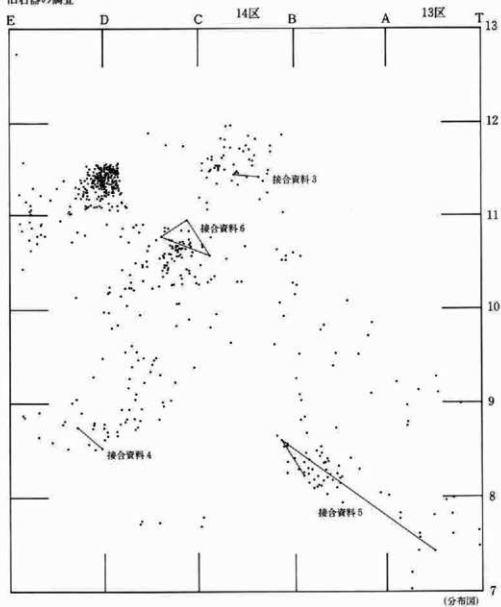


第432図 接合資料-1・2 (1)

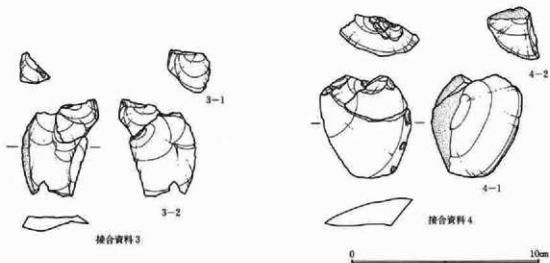




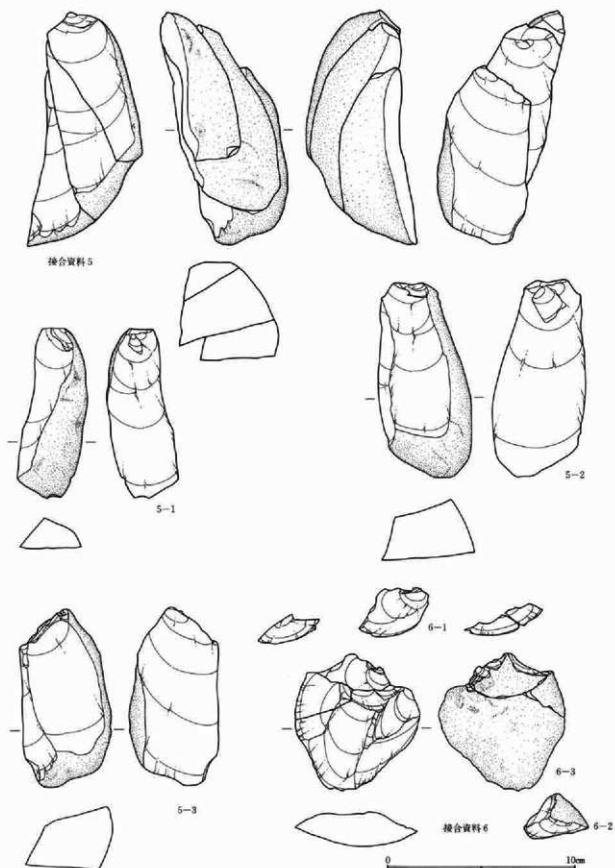
第433図 接合資料-1・2 (2)



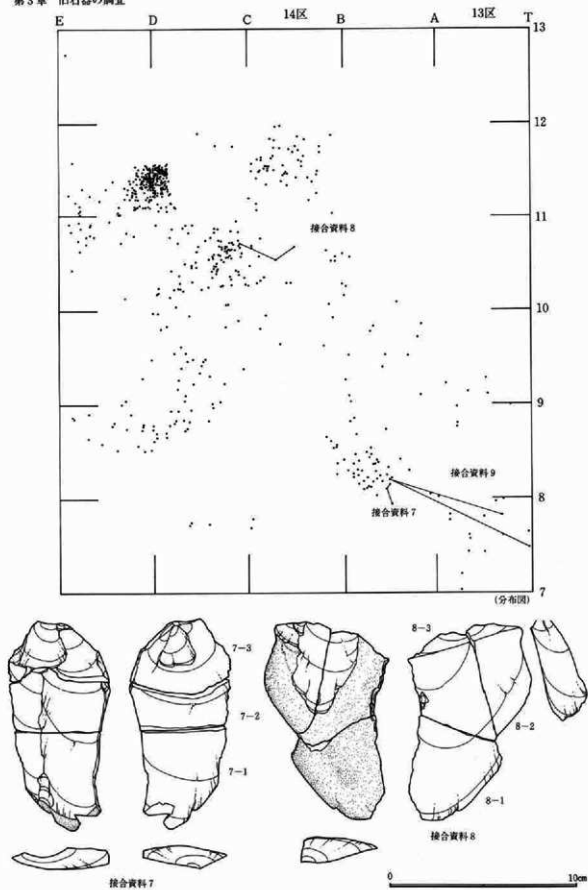
(分布図)



第434図 接合資料-3・4

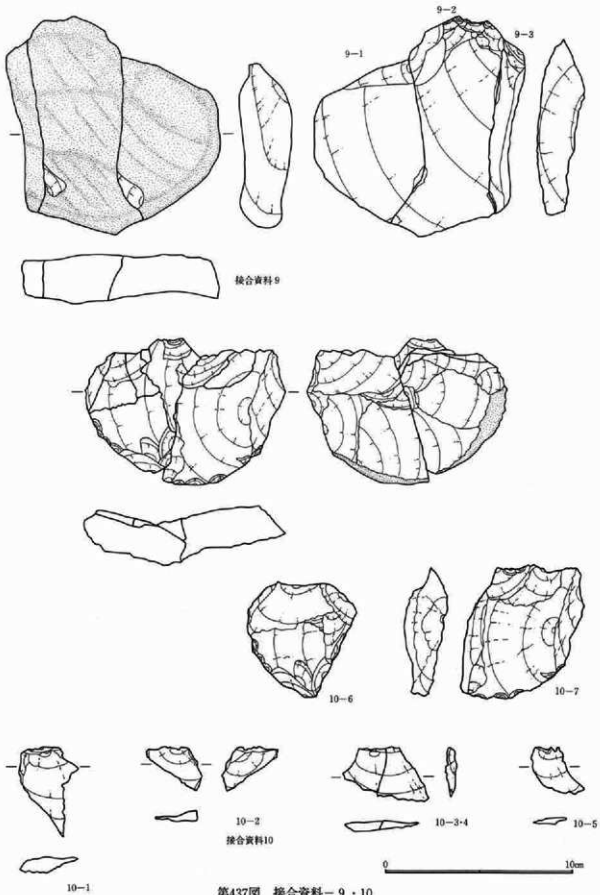


第435図 接合資料-5・6

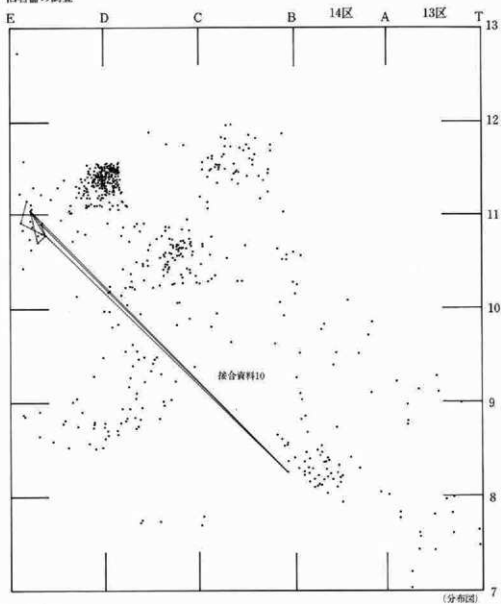


第436図 接合資料—7・8

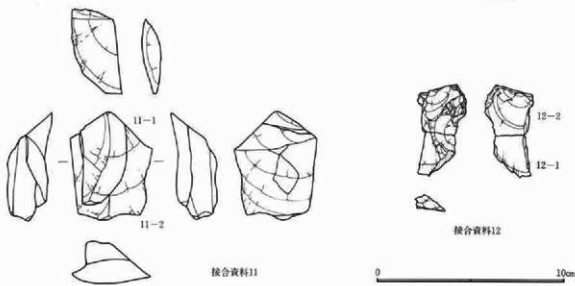
第2節 調査の概要



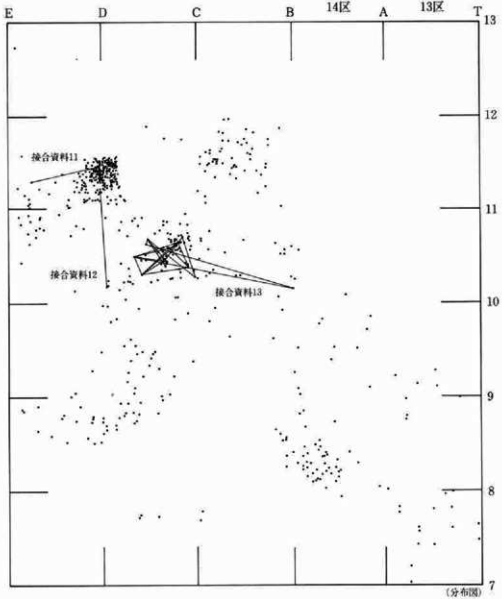
第437図 接合資料-9・10



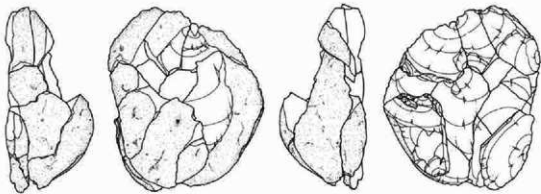
(分布図)



第438図 接合資料-11・12



(分布図)

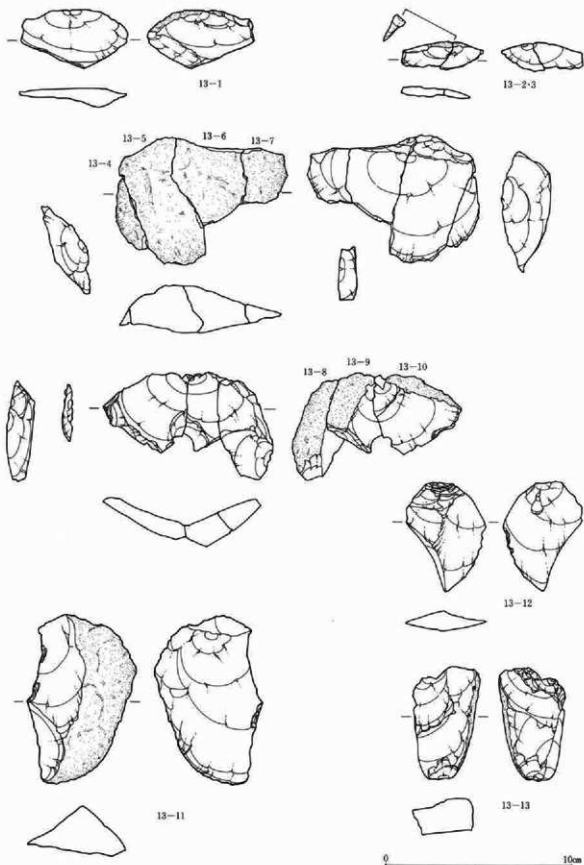


接合資料13



第439図 接合資料-13(1)

第3章 旧石器の調査



第440図 接合資料-13(2)



## 第2節 調査の概要

旧石器計測表

中ダ リッド	グリッド	No.	器 種	石 材	重量	検出番号	中ダ リッド	グリッド	No.	器 種	石 材	重量	検出番号
14区	A-07	1	削片	黒色頁岩	28	7-3	14区	B-07	8			9	
14区	A-08	1	削片	黒色頁岩	138	27	14区	B-08	1	削片	黒色頁岩	175	5-2
14区	A-08	2	削片	黒色頁岩	32	7-1	14区	B-08	2	削片	黒色安山岩	10	34
14区	A-08	3	石核	黒色頁岩	220	9-2	14区	B-08	3	削片	黒色頁岩	4	
14区	A-08	4	削片	黒色頁岩	5		14区	B-08	4	礫	頁岩	11	
14区	A-08	5	縦長削片	黒色頁岩	19		14区	B-08	5	岩片	黒色頁岩	1	
14区	A-08	6	削片	黒色安山岩	19	16	14区	B-08	6	岩片	黒色頁岩	1	
14区	A-08	7	削片	黒色頁岩	53		14区	B-08	7	岩片	黒色頁岩	1	
14区	A-08	8	削片	黒色頁岩	5		14区	B-09	1	削片	黒色頁岩	126	
14区	A-08	9	削片	黒色頁岩	1		14区	B-09	2	礫	頁岩	29	
14区	A-08	10	削片	黒色安山岩	2		14区	B-09	3	砕片	頁岩	2	
14区	A-08	11	削片	黒色頁岩	5		14区	B-09	4	加工削片	黒色頁岩	3	
14区	A-08	12	石核	黒色頁岩	1170		14区	B-09	5	削片	黒色安山岩	2	
14区	A-08	13	削片	黒色頁岩	8	9	14区	B-10	1	加工削片	黒色安山岩	18	15-12
14区	A-08	14	削片	頁岩	7		14区	B-10	2	削片	黒色頁岩	7	
14区	A-08	15	削片	黒色頁岩	4		14区	B-10	3	削片	黒色安山岩	8	10-1
14区	A-08	16	削片	黒色安山岩	4		14区	B-10	4	削片	黒色頁岩	1	
14区	A-08	17	縦長削片	黒色頁岩	46	13	14区	B-10	5	削片	黒色安山岩	1	
14区	A-08	18	削片	黒色頁岩	6		14区	B-10	6	礫	安山岩	12	
14区	A-08	19	削片	黒色頁岩	3		14区	B-10	7	削片	チャート	3	
14区	A-08	20	削片	黒色頁岩	13		14区	B-10	8	縦長削片	黒色頁岩	2	
14区	A-08	21	削片	黒色安山岩	2		14区	B-10	9	削片	黒色頁岩	68	1-4
14区	A-08	22	削片	黒色頁岩	2		14区	B-10	10	台石	頁岩	2440	
14区	A-08	23	石核	チャート	4		14区	B-10	11	削片	黒色頁岩	2	
14区	A-08	24	砕片	黒色安山岩	1		14区	B-10	12	削片	黒色頁岩	3	8-1
14区	A-08	25	削片	片岩	2		14区	B-10	12.5	削片	黒色頁岩	28	
14区	A-08	26	削片	黒色安山岩	1		14区	B-10	13	削片	黒色頁岩	46	8-3
14区	A-08	27	削片	黒色安山岩	3		14区	B-10	14	削片	黒色安山岩	1	
14区	A-08	28	礫	頁岩	6		14区	B-10	15	削片	黒色頁岩	122	1-3
14区	A-08	29	砕片	黒色安山岩	1		14区	B-10	16	削片	黒色安山岩	1	
14区	A-08	30	縦長削片	黒色頁岩	65	5-1	14区	B-10	17	石核	黒色頁岩	66	6-3
14区	A-08	31	削片	黒色頁岩	5		14区	B-10	18				
14区	A-08	32	削片	黒色頁岩	13		14区	B-10	19	削片	黒色頁岩	31	1-5
14区	A-08	33	削片	黒色頁岩	26	7-2	14区	B-11	1	削片	黒色頁岩	68	
14区	A-08	34	砕片	黒色安山岩	1		14区	B-11	2	削片	黒色頁岩珪化	9	3-2
14区	A-08	35	砕片	黒色安山岩	1		14区	B-11	3	削片	黒色安山岩	3	
14区	A-08	36	削片	黒色安山岩	1		14区	B-11	4	削片	黒色頁岩	1	
14区	A-08	37					14区	B-11	5	削片	黒色頁岩	2	3-1
14区	A-08	38	折断削片	黒色安山岩	1		14区	B-11	6	台石	安山岩	3500	
14区	A-08	39	砕片		1		14区	B-11	7	削片	黒色安山岩	26	17
14区	A-08	40					14区	B-11	8				
14区	A-08	41	砕片	黒色安山岩	1		14区	B-11	9	削片	黒色安山岩	2	
14区	A-08	42	削片		1		14区	B-11	10	礫石	頁岩	1110	
14区	A-08	43	礫		3		14区	B-11	11	削片	黒色安山岩	8	14
14区	A-08	44	砕片	黒色頁岩	1		14区	B-11	12	削片	黒色安山岩	58	
14区	A-08	45	砕片	黒色安山岩	1		14区	B-11	13	削片	黒色安山岩	3	
14区	A-09	1	使用削片	黒曜石	15	5	14区	B-11	14	砕片	黒色安山岩	1	
14区	A-09	2	礫	チャート	17		14区	B-11	15	削片	黒色頁岩	14	
14区	A-09	3	礫石	頁岩	1700	38	14区	B-11	16	礫		3	
14区	A-09	4	礫	頁岩	3		14区	B-11	17	削片	黒色安山岩	1	
14区	A-09	5	削片	黒色頁岩	9		14区	B-11	18	削片	黒色安山岩	2	
14区	A-09	6	削片	黒色頁岩	155	22	14区	B-11	19	削片	黒色安山岩	1	
14区	A-09	7	削片	黒色頁岩	9		14区	B-11	20	砕片	黒色安山岩	1	
14区	A-09	8	削片	黒色安山岩	12	23	14区	B-11	21	削片	安山岩	1	
14区	A-09	9	削片	黒色頁岩	11		14区	B-11	22	礫	黒色頁岩	1	
14区	A-09	10	加工削片	黒色頁岩珪化	54		14区	B-11	23	削片	黒色安山岩	1	
14区	A-09	11	削片	安山岩	670		14区	B-11	24	削片	黒色安山岩	1	
14区	A-09	12	礫	石英	5		14区	B-11	25	削片	黒色安山岩	1	
14区	A-10	1	縦長削片	黒色頁岩珪化	13	29	14区	B-11	26	砕片	黒色安山岩	1	
14区	A-10	2	削片	黒色安山岩	4		14区	B-11	27	礫		1	
14区	A-10	3	縦長削片	黒色安山岩	17	20	14区	B-11	28	削片	黒色頁岩	1	
14区	A-10	4	削片	頁岩	20		14区	B-11	29	削片	黒色頁岩	1	
14区	A-10	5	礫石	頁岩	2000	40	14区	B-11	30	削片	黒色頁岩	1	
14区	B-07	1	削片	黒色頁岩			14区	B-11	31	削片	黒色安山岩	2	
14区	B-07	2	削片	黒色安山岩	3		14区	B-11	32	削片	黒色頁岩	2	

## 第3章 旧石器の調査

旧石器計測表

中グ リッド	グリッド	No.	器種	石材	重量	検出番号	中グ リッド	グリッド	No.	器種	石材	重量	検出番号
14区	B-11	33	剥片	黒色頁岩	1		14区	C-09	19	剥片	チャート	7	
14区	B-11	34	剥片	黒色頁岩	1		14区	C-09	20	剥片	石英	7	
14区	B-11	35	加工剥片	黒色頁岩	1		14区	C-09	21	剥片	黒色頁岩	32	1-2
14区	B-11	36	剥片	安山岩	1		14区	C-09	22	剥片	黒色頁岩	10	2-1
14区	B-11	37	礫	頁岩	44		14区	C-09	23	剥片	黒色頁岩	2	
14区	B-11	38	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-09	24	剥片	黒色安山岩	5	25
14区	B-11	39	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-09	25	縦長剥片	黒色安山岩	5	25と結合
14区	B-11	40	剥片	黒色安山岩	1		14区	C-09	26	縦長剥片	黒色安山岩	1	25と結合
14区	B-11	41	礫		5		14区	C-09	27	剥片	黒色安山岩	2	
14区	B-11	42	礫		6		14区	C-10	1	石核	黒色頁岩	516	1-1
14区	B-11	43	礫		6		14区	C-10	2	剥片	黒色安山岩	16	33
14区	B-11	44	礫		8		14区	C-10	3	礫	頁岩	30	
14区	B-11	45	礫		9		14区	C-10	4	剥片	黒色頁岩	10	10
14区	B-11	46	礫		2		14区	C-10	5	剥片	黒色安山岩	1	
14区	B-11	47	礫		9		14区	C-10	6			1	
14区	B-11	48	礫		1		14区	C-10	7	剥片	黒色安山岩	35	
14区	B-11	49	剥片	黒色頁岩	1		14区	C-10	8	剥片	黒色安山岩	23	13-10
14区	B-11	50			7		14区	C-10	9	剥片	黒色安山岩	15	13-1
14区	B-11	51	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-10	10	剥片	黒色頁岩	5	
14区	B-11	52	剥片	黒色安山岩	1		14区	C-10	11	砕片	黒色安山岩	1	
14区	B-11	53	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-10	12	剥片	黒色安山岩	5	
14区	B-11	54	剥片	黒色安山岩	1		14区	C-10	13	剥片	黒色頁岩	12	1-6
14区	B-11	55	剥片	黒色安山岩	1		14区	C-10	14	剥片	黒色頁岩	401	
14区	B-11	56	剥片	黒色安山岩	1		14区	C-10	15	剥片	黒色頁岩	43	8-2
14区	B-11	57	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-10	16	剥片	黒色頁岩	4	
14区	C-07	1	剥片		1		14区	C-10	17	剥片	黒色安山岩	6	
14区	C-07	2	剥片		8		14区	C-10	18	剥片	黒色頁岩	10	6-1
14区	C-07	3	剥片	黒色頁岩	7		14区	C-10	19	縦長剥片	黒色頁岩	38	
14区	C-08	1			3		14区	C-10	20	剥片	黒色安山岩	20	13-9
14区	C-08	2	剥片	黒色頁岩	1		14区	C-10	21	剥片	黒色頁岩	4	
14区	C-08	3	剥片	黒色頁岩	18		14区	C-10	22	剥片	黒色安山岩	10	
14区	C-08	4	剥片	黒色頁岩	25		14区	C-10	23	剥片	黒色安山岩	8	
14区	C-08	5	剥片	黒色頁岩	114		14区	C-10	24	剥片	黒色頁岩	10	
14区	C-08	6	剥片	黒色頁岩	6		14区	C-10	25	石核	黒色安山岩	81	13-5
14区	C-08	7	剥片	黒色頁岩	25		14区	C-10	26	剥片	黒色安山岩	21	13-8
14区	C-08	8	剥片	黒色頁岩	8		14区	C-10	27	砕片	黒色安山岩	2	
14区	C-08	9	礫		26		14区	C-10	28	剥片	黒色頁岩	5	
14区	C-08	10	礫		19		14区	C-10	29	剥片		3	
14区	C-08	11	礫		29		14区	C-10	30	剥片	黒色安山岩	1	
14区	C-08	12	礫		38		14区	C-10	31	剥片	黒色安山岩	1	
14区	C-08	13	礫		10		14区	C-10	32	石核	黒色頁岩	480	1-7
14区	C-08	14	剥片	黒色頁岩	8		14区	C-10	33	剥片	安山岩	12	
14区	C-08	15	砕片		1		14区	C-10	34	剥片	黒色頁岩	8	6-2
14区	C-08	16	剥片	チャート	17		14区	C-10	35	加工剥片	黒色安山岩	114	13-11
14区	C-08	17	剥片	黒色頁岩	3		14区	C-10	36	石核	黒色安山岩	46	13-13
14区	C-08	18	剥片	黒色頁岩	2		14区	C-10	37	剥片	黒色安山岩	3	
14区	C-08	19	剥片	黒色安山岩	2		14区	C-10	38	剥片	黒色安山岩	2	
14区	C-09	1	礫		54		14区	C-10	39	剥片	黒色安山岩	8	13-7
14区	C-09	2	剥片	黒色安山岩	7		14区	C-10	40	加工剥片	黒色頁岩	22	8
14区	C-09	3	剥片	黒色安山岩	3		14区	C-10	41				
14区	C-09	4	加工剥片	黒色安山岩	8	12	14区	C-10	42	剥片	黒色安山岩	8	11
14区	C-09	5	縦長剥片	黒色安山岩	24	18	14区	C-10	42.5	剥片	黒色安山岩	48	13-6
14区	C-09	6	剥片	黒色頁岩	12		14区	C-10	43	剥片	安山岩	22	
14区	C-09	7	加工剥片	黒色頁岩	18		14区	C-10	44	礫	頁岩	7	
14区	C-09	8	縦長剥片	黒色頁岩	53	19	14区	C-10	45	剥片	黒色安山岩	3	
14区	C-09	9	剥片	黒色頁岩	35	2-2	14区	C-10	46	剥片	黒色安山岩	4	
14区	C-09	10	剥片	黒色安山岩	2		14区	C-10	47	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-09	11	剥片	黒色頁岩	2		14区	C-10	48	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-09	12	剥片	黒色頁岩	4		14区	C-10	49	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-09	13	剥片	黒色頁岩	4		14区	C-10	50	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-09	14	剥片	黒色頁岩	2		14区	C-10	51	剥片	黒色安山岩	1	
14区	C-09	15	剥片	黒色頁岩	2		14区	C-10	52	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-09	16	剥片	黒色安山岩	2		14区	C-10	53	剥片	黒色安山岩	1	
14区	C-09	17	剥片	黒色頁岩	2		14区	C-10	54	剥片	黒色安山岩	1	
14区	C-09	18	剥片	黒色安山岩	2		14区	C-10	55	剥片	黒色安山岩	3	

旧石器計測表

中グ リッド	グリッド	No.	器種	石材	重量	押印番号	中グ リッド	グリッド	No.	器種	石材	重量	押印番号
14区	C-10	56	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	25	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	57	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	26	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	58	削片	黒色安山岩	1	13-3	14区	C-11	27	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	59	削片	黒色安山岩	3		14区	C-11	28	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	60	削片	黒色安山岩	2		14区	C-11	29	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	61	礫	黒色安山岩	1		14区	C-11	30	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	62	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	31	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	63	砕片	黒色頁岩	1		14区	C-11	32	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	64	削片	黒色安山岩	5		14区	C-11	33	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	65	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	34	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	66	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	35	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	67	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	36	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	68	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	37	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	69	削片	黒色安山岩	4	13-2	14区	C-11	38				
14区	C-10	70	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	39	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	71	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	40	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	72	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	41	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	73	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	42	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	74	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	43	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	75	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	44	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	76	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	45	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	77	削片	安山岩	1		14区	C-11	46	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	78	削片	黒色安山岩	2		14区	C-11	47	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	79	削片	黒色安山岩	7	13-4	14区	C-11	48	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	80	削片	黒色頁岩	1		14区	C-11	49	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	81	削片	頁岩	2		14区	C-11	50	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	82			1		14区	C-11	51	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	83			5		14区	C-11	52	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	84	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	53	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	85	削片	安山岩	1		14区	C-11	54	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	86	削片	安山岩	3		14区	C-11	55	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	87	礫		2		14区	C-11	56	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	88	礫	チャート	5		14区	C-11	57	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	89	礫	チャート	3		14区	C-11	58	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	90	削片	頁岩	1		14区	C-11	59	岩片			
14区	C-10	91	削片	黒色安山岩	4	12-1	14区	C-11	60	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	92	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	61	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	93	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	62	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	94	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	63	岩片			
14区	C-10	95	鉄	磁鉄鉱	5	6	14区	C-11	64	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-10	96	削片	安山岩	4		14区	C-11	65	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	1	石核	黒色頁岩	123	35	14区	C-11	66	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	2	ビース	黒色安山岩	9	4	14区	C-11	67	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	3	縦長削片	黒色安山岩	20	26	14区	C-11	68	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	4	削片	安山岩	1		14区	C-11	69	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	5	削片	黒色頁岩	5		14区	C-11	70	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	6	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	71	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	7	削片	黒色頁岩	1		14区	C-11	72	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	8	削片	黒色安山岩	1	12-2	14区	C-11	73	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	9	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	74	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	10	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	75	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	11	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	76	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	12	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	77	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	13	岩片		1		14区	C-11	78	岩片			
14区	C-11	14	削片	黒色頁岩	5		14区	C-11	79	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	15	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	80	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	16	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	81	削片	黒色頁岩	5	
14区	C-11	17	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	82	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	18	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	83	岩片			
14区	C-11	19	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	84	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	20	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	85	岩片			
14区	C-11	21	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	86	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	22	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	87	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	23	削片	黒色安山岩	1		14区	C-11	88	削片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	24	砕片	黒色安山岩	1		14区	C-11	89	削片	黒色安山岩	1	

## 第3章 旧石器の調査

旧石器計測表

中グリッド	グリッド	No.	器種	石材	重量	検出番号	中グリッド	グリッド	No.	器種	石材	重量	検出番号
14区	C-11	90	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	8	剥片	黒色安山岩	5	
14区	C-11	91	砕片	黒色安山岩			14区	D-11	9	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	92	砕片	黒色安山岩			14区	D-11	10	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	93	砕片	黒色安山岩			14区	D-11	11	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	94	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	12	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	95	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	13	剥片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	96	剥片	黒色安山岩	1		14区	D-11	14	剥片	黒色安山岩	2	
14区	C-11	97	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	15	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	98	剥片	黒色安山岩	1		14区	D-11	16	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	99	剥片	黒色安山岩	9	31	14区	D-11	17	剥片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	100	剥片	黒色安山岩	15		14区	D-11	18	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	101	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	19	礫		1	
14区	C-11	102	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	20	加工剥片	黒色安山岩	26	
14区	C-11	103	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	21	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	104	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	22	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-11	105	剥片	黒色安山岩	2		14区	D-11	23	剥片		1	
14区	C-11	106	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	24	砕片	黒色安山岩	1	
14区	C-14	38			1		14区	D-11	25	岩片		1	
14区	D-08	1			43		14区	D-11	26	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	2			13		14区	D-11	27	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	3			3		14区	D-11	28	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	4	剥片	黒色安山岩	2		14区	D-11	29	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	5	剥片	黒色頁岩	2	4-1	14区	D-11	30	砕片	安山岩	1	
14区	D-08	5.5	剥片	黒色安山岩	28		14区	D-11	31	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	6					14区	D-11	32	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	7	加工剥片	黒色頁岩	53	15	14区	D-11	33	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	8	剥片	黒色頁岩	3		14区	D-11	34	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	9	礫	チャート	51		14区	D-11	35	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	10	礫	頁岩	850	37	14区	D-11	36	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	11	剥片	黒色頁岩	1		14区	D-11	37	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	12	剥片	黒色頁岩	1		14区	D-11	38	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	13	加工剥片	黒色頁岩	17		14区	D-11	39	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	14			33		14区	D-11	40	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	15			2		14区	D-11	41	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	16			1		14区	D-11	42	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-08	17	剥片	黒色頁岩	5	4-2	14区	D-11	43	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-09	1	礫		1040		14区	D-11	44				
14区	D-09	2	剥片	黒色頁岩	26		14区	D-11	45	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-09	3	縦長剥片	黒色安山岩	2	4と接合	14区	D-11	46	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-09	4	縦長剥片	黒色安山岩	1	3と接合	14区	D-11	47	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	1	剥片	黒色安山岩	3	10-2	14区	D-11	48	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	2	石核	黒色安山岩	92	10-6	14区	D-11	49				
14区	D-10	3	石核	黒色安山岩	120	10-7	14区	D-11	50	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	4	剥片	黒色安山岩	1		14区	D-11	51	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	5	剥片	黒色安山岩	4	10-3	14区	D-11	52	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	6	剥片	黒色安山岩	1		14区	D-11	53	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	7	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	54	砕片	黒色頁岩	1	
14区	D-10	8			20		14区	D-11	55	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	9	剥片	黒色安山岩	1		14区	D-11	56	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	10	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	57	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	11	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	58	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	12	ナイフ	黒色安山岩	5	1	14区	D-11	59	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	13	砕片	黒色安山岩	1		14区	D-11	60	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	14	剥片	黒色安山岩	16		14区	D-11	61	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	15	剥片	黒色安山岩	14		14区	D-11	62	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	16	剥片	黒色安山岩	39		14区	D-11	63	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	17	剥片	黒色頁岩	27		14区	D-11	64	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-10	18	剥片	黒色安山岩	1		14区	D-11	65	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-11	1	礫	安山岩	960	39	14区	D-11	66	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-11	2	剥片	黒色頁岩	40		14区	D-11	67	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-11	3	剥片	黒色安山岩	37	11-2	14区	D-11	68	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-11	4	剥片	黒色安山岩	7		14区	D-11	69	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-11	5	剥片	黒色安山岩	9		14区	D-11	70	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-11	6	剥片	黒色安山岩	5		14区	D-11	71	砕片	黒色安山岩	1	
14区	D-11	7	剥片	黒色安山岩	1		14区	D-11	72	砕片	黒色安山岩	1	

## 第2節 調査の概要

旧石器計測表

中グ リッド	グリッド	No.	器種	石材	重量	標記番号	中グ リッド	グリッド	No.	器種	石材	重量	標記番号
14区	D-11	73	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	4	剥片	黒色安山岩	15	
14区	D-11	74	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	5	剥片	黒色安山岩	10	
14区	D-11	75	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	6	剥片	黒色頁岩	24	
14区	D-11	76	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	7	礫	黒色安山岩	10	
14区	D-11	77	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	8	剥片	チャート	2	
14区	D-11	78	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	9	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-11	79	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	10	礫		12	
14区	D-11	80	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	11	礫		8	
14区	D-11	81	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	12	剥片	黒色安山岩	31	
14区	D-11	82	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	13	剥片	黒色安山岩	1	
14区	D-11	83	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	14	ナイフ	頁岩	9	2
14区	D-11	84	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	15	礫		17	
14区	D-11	85	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	16	剥片	黒曜石	1	
14区	D-11	86	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	17	剥片	チャート	1	
14区	D-11	87	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	18	礫		1	
14区	D-11	88	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	19	剥片	黒色安山岩	7	
14区	D-11	89	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	20	礫		24	
14区	D-11	90	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	21	礫		1	
14区	D-11	91	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	22	礫		4	
14区	D-11	92	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	23	剥片	安山岩	8	
14区	D-11	93	剥片	黒色安山岩	1		14区	J-13	24	礫		4	
14区	D-11	94	剥片	黒色安山岩	1		13区	Q-09	1	礫		12	
14区	D-11	95	剥片		2		13区	R-08	1	剥片	黒色頁岩	72	28
14区	D-11	96	剥片	黒色安山岩	14	11-1	13区	R-08	2	礫		7	
14区	D-11	97	剥片	安山岩	1		13区	R-09	1	礫		15	
14区	D-11	98	剥片	黒色安山岩	2		13区	R-12	1	礫	チャート	7	
14区	D-11	99	剥片	黒色安山岩	2	10-5	13区	S-08	1	剥片	黒曜石	2	
14区	D-11	100	縦長剥片	黒色安山岩	38	30	13区	S-11	1	礫石	安山岩	311	36
14区	D-11	101	ナイフ	黒色安山岩	38	3	13区	T-07	1	加工剥片	黒色安山岩	50	32
14区	D-11	102	剥片	黒色安山岩	2	10-4	13区	T-07	2	剥片	黒色安山岩	2	
14区	D-11	103	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-07	3			2	
14区	D-11	104	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-07	4	剥片	チャート	2	
14区	D-11	105	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-07	5	加工剥片	黒曜石	2	
14区	D-11	106	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-07	6			1	
14区	D-11	107	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-07	7	礫	石英	24	
14区	D-11	108	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-07	8	剥片	黒色頁岩		9-3
14区	D-11	109	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-07	9	剥片	黒色頁岩	187	9-1
14区	D-11	110	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-07	10	縦長剥片	黒色頁岩珪化	69	21
14区	D-11	111	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-07	11	剥片	黒色頁岩珪化	159	5-3
14区	D-11	112	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-07	12	礫			
14区	E-12	1	礫	チャート	23		13区	T-07	13	剥片			
14区	E-12	1	礫	チャート	20		13区	T-07	14	剥片	片岩		
14区	E-12	2	礫	チャート	3		13区	T-07	15	剥片	黒色頁岩	6	
14区	E-12	3	礫		4		13区	T-08	1	剥片	黒色安山岩	23	24
14区	E-12	4	礫		20	5と6結合	13区	T-08	2	剥片	黒色頁岩珪化	34	
14区	E-12	5	礫		27	4と7結合	13区	T-08	3	剥片	黒色頁岩珪化	1	
14区	E-12	6	礫	頁岩	8		13区	T-08	4	剥片	黒色頁岩	151	7
14区	E-12	7	礫		7		13区	T-08	5	剥片	黒色安山岩	1	
14区	E-12	8	礫		7		13区	T-08	6	礫		41	
14区	E-12	8.5	礫		5		13区	T-08	12	礫		11	
14区	F-14	1	礫	安山岩	3600		13区	T-08	13	礫		1	
14区	F-14	2	礫	石英	26		13区	T-08	14	礫		23	
14区	G-13	1	剥片	黒色頁岩	2		13区	T-09	1	礫		1	
14区	G-14	1	縄文剥片		1		13区	T-09	2	礫	チャート	15	
14区	G-14	2	礫	片岩	6		13区	T-09	3	礫石	安山岩	1700	
14区	G-14	3	剥片	黒色安山岩	1		13区	T-09	4	礫		19	
14区	G-14	4	礫		15								
14区	G-14	5	加工剥片	黒色頁岩	22								
14区	G-14	6	礫	安山岩	2600								
14区	H-12	1	剥片		4								
14区	H-14	1	礫	チャート	16								
14区	H-14	2	礫		17								
14区	J-13	1	礫	安山岩	4100								
14区	J-13	2	礫	安山岩	2600								
14区	J-13	3	礫	安山岩	710								

**削器 (第429図-2・3)** 総数2点と少なく、1点は幅広ではあるが鋭角な側縁を持つために、あるいは、ナイフ形石器に分類可能な資料である。石材は黒色安山岩である。もう1点は、背面の稜が高いために側縁の調整がやや鈍角で、ナイフ形石器の刃部とは考えにくい資料である。石材は黒色頁岩である。

**クサビ型石器 (第429図-4)** 両端に細かな調整がいくつも加えられており、石材は黒色安山岩である。典型的な資料ではなく、あるいは加工の痕跡のある石器とも考えられる。

**加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、剥片 (第429図-7~14、第430~431図-1~34)** 本遺跡で最も多い器種である加工痕ある剥片、使用痕ある剥片、剥片の石材は、大部分が黒色頁岩と黒色安山岩である。長幅比がほぼ等しい寸詰まりの幅広剥片や横長剥片も多いが、図化している資料の大半は、形状は不揃いであるが打面部分広い縦長剥片である。また、背面に残されている剥離面の観察から、打面側からの同一方向への剥離が多いことがわかる。つまり、両設やいくつもの打面を設定する複設の石核を準備するのではなく、単設の打面を設定しての比較的単純な剥離作業が主体であったと考えられる。

**石核 (第431図-35)** 数は少ないものの、石器製作技術を観察する上で重要な石核は9点出土しており、そのうちで図化した単独資料 (第431図-35) は、小型の横長剥片を剥離したもので、石材は黒色頁岩である。他の資料も同様に横長剥片を剥離したものや、単設の打面をもつ縦長剥片を剥離した石核などである。

**敲石 (第431図-36~40)** 石器製作に最も必要な道具のひとつである敲石は、棒状の楕円礫の両端、ないしは一端に敲打痕が残されている資料である。

このように石器組成のなかで、ナイフ形石器などの主要石器の占める割合は約0.5%と低く、石器製作跡と考えられるものの、他の群馬のAT下位の遺跡と比較しても極端に低い。

**石材の特徴** 出土石器全体の石材としては、黒色安山岩が343点と最も多く、占める割合は約57%である。次に128点の黒色頁岩 (約21%) である。以下、安山岩22点 (約4%)、チャート18点 (約3%)、頁岩18点 (約3%)、黒曜石5点 (約1%)、珪質頁岩1点 (約0.2%) の順である。

**その他の特徴的な遺物** この他に、正式な鑑定を受けた訳ではないので強調できないが、形態からは石器とは呼べないものの、磁石につく観察結果からみて磁鉄鉱と考えられる鉄鉱石 (第429図-6) が1点出土している。小形ながら、礫の表皮部分がほぼ完全に存在しており、鈍い光沢をもつ。重量的にも見た目の大きさよりもかなり重く、重量感がある資料である。自然の磁鉄鉱そのものである可能性も高く、餅鉄と呼称されるものと考えられる。出土地点が石器集中部分に近く、他の石器との深さ (標高値) もほぼ同じであり、周辺に後世の遺構もからんでいないことから、旧石器時代の遺物と考えて間違いのないと言える。遺跡から出土した鉄鉱石関係の資料に詳しい歴史民俗博物館の田口勇教授らのX線CT法や電子顕微鏡分析法を利用した研究 (田口他 1990) を参考にすると、発掘調査を通じての考古資料としての磁鉄鉱の出土で最も古いと考えられるのは、縄文時代晩期の遺跡からの出土が群馬県安中市の天神原遺跡 (大工原他 1994)、桐生市の千網谷戸遺跡、新潟県館内遺跡 (田中 1992)、長野県円光房遺跡 (原田他 1990)、青森県泉山遺跡・同福泉遺跡・同五月女遺跡 (山田 1990) など、東北地方から中部地方にかけての何方所かで確認されているものの、旧石器時代の資料としては本遺跡が現時点で最も古い出土事例と考えられる。

**接合資料** 本遺跡での接合資料 (第432図~第440図) としては、剥片剥離工程が把握できる資料が13例50点であり、接合率としては約8%である。この数値は群馬のAT下位の遺跡の接合率としては低い部類のものである。さらに、接合事例の様子から見て、原石面が剥片剥離作業面の背面に大きく残存する資料が多いことから、打面の移動はそれほど頻繁に行われず、作業面が比較的固定されていたものと考えられる。

**剥片剥離工程** 石器群の様相を知る上で重要な剥片剥離工程は、多数の石核や剥片、それに接合資料の

様子から大きく2つに分けられる。ひとつは、縦長剥片を連続して剥離する工程で、両側縁がほぼ平行な石刃はこの工程で剥離される。石材には黒色頁岩が主に使用される。接合資料1、5、8が相当し、石器群の主体を占める資料である。もうひとつは、周縁を打面として、周辺から中央に向かって横長剥片を剥ぎ取る事例であり、石材は黒色安山岩に偏る傾向が見られる。接合資料10が相当するが、資料全体に占める割合も低く、僅かな剥片にその痕跡が認められる程度でもある。

**石器群の時期** 石器群の時期判断は、主要な石器であるナイフ形石器の形状が平坦剥離に限定された尖刃形態であることや、剥片剥離工程の内容などから、石器組成の中に磨製石斧が存在しないものの、Ⅹ層段階の古い時期と考えられ、いわゆる「環状ブロック群」が認められることなどからも、群馬編年のⅠ期（麻生・大工原）の第1段階に想定される。

### 第3節 出土石器群のまとめ

従来、群馬県内での旧石器時代の遺跡の分布は、大間々扇状地や赤城南麓から西麓にかけての東毛地域に集中している。それに対して、榛名山南麓での旧石器時代は近年にいくつかの遺跡の存在が知られてきているものの、東毛に比べて極端に少ない。これについては、活発に活動を続ける浅間山から噴出されたテフラの堆積による影響が考えられる。つまり、多量に、かつ頻繁に降下・堆積するテフラの影響により、地域の植生や動物の生息環境に大きな変化が生じ、そのために人間集団の行動形態にも大きな変化、つまりこの地域での積極的な活動にダメージを与えるような現象を生じさせたものと考えられる。このような生活環境のかかえる問題から遺跡数も、他地域と比較しておのずと減少する傾向にあったと想定される。

だが、近年、この榛名山麓周辺でも発見される遺跡の数が僅かだが増加している。特に、南麓での白川傘松遺跡と同時期の北陸新幹線建設関連で調査されたものが多く、しかもその大半がAT下位の石器群であるのが大きな特徴である。つまり、浅間山の活動がそれほど活発でない時期に相当し、噴出物の影響が比較的少なかったと考えられるからである。では、個々の遺跡についてみてみることにする。

箕郷町和田山古墳群は榛名山白川の右岸の尾根状台地に位置し、白川傘松遺跡と比高約30mの谷を隔てている。出土層位はAT下位の暗褐色粘質土中で、総数十点と点数が少ないものの、黒曜石を主体とするナイフ形石器、掻器、削器などが2ブロックに分かれて出土しており、ほぼ主要石器を主体とする組成である。現在、整理作業中であるが、期的にはⅠ期の第3段階に想定される。

榛名山町白岩民部遺跡では、AT下位の暗色帯（黒色帯）から石器約700点が出土しており、遺物の広がり直径30mの範囲に現状に分布する、白川傘松遺跡と同様のいわゆる「環状ブロック群」である。遺物分布の濃淡が明瞭で、分布密度の高い集中部（直径5～10mの範囲）が1ヶ所、北側に2ヶ所あり、分布密度の低い集中部（直径1～3mの範囲）がその間を埋めるように分布している。石器組成でも、白川傘松遺跡と同様に、ナイフ形石器などの主要器種の数が少なく、剥片が主体を占める石器製作跡である。石材では黒色頁岩、黒色安山岩が多く、長野県和田峠産の黒曜石が僅かに出土している。和田山古墳群と同様に、現在整理作業中であるが、期的にはⅠ期の第1段階に想定される。

同町三ツ子沢中遺跡からは、As-MP下位より約600点の石器が出土しているが、これまでのAT下位の時期の石器群とやや様相が異なり、現在も整理作業中であることから、Ⅰ期に属すると想定されるものの詳細な編年の位置付けは本報告書の刊行を待ちたい。

同町白岩浦久保遺跡は白川傘松遺跡のやや西側に位置し、As-MP下位の暗色帯（おそらくはAT下位か）から使用痕をもつ小形石刃が1点出土している。期的にはⅠ期の第3段階に想定される。

### 第3章 旧石器の調査

このように、AT下位の石器群が多いのは群馬県内の他地域遺跡の特徴と同様であり、石材も利根川を中心とする在地系の黒色頁岩や黒色安山岩を多用する傾向が顕著である。白川傘松遺跡も同様の特徴を持っており、群馬のAT下位の石器群、つまりI期に属する典型的な資料と言える。ただ、縦長剥片の占める割合がやや多いことなどの特徴が認められることから、I期の中でも古い第1段階から第2段階への移行期にあたるものとも考えられる。(麻生敏隆)

#### 参考文献

- 田口勇・齊藤芳 1980 『鉄の歴史』 アメス出版  
笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会編 1993 『第1回岩宿フォーラム・シンポジウム 環状ブロック群 予稿集』  
麻生敏隆・大工原豊 1994 『I期 - AT開始以前のナイフ形石器文化-』 『第2回岩宿フォーラム・シンポジウム 群馬の岩宿時代の変遷と特色』 予稿集。笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会  
大工原豊編 1994 『中野谷地区遺跡群』 安中市教育委員会  
麻生敏隆 1997 『群馬県の最近の旧石器時代遺跡調査動向』 『旧石器考古学』 55 旧石器文化談話会



#### 第4章 調査の成果とまとめ



## 第1節 出土土器と住居址の相対的時間の推移について

## 1 出土土器の時期区分(付図8)

本遺跡出土の土器は、前期中葉と後葉の土器、中期中葉から中期後葉の土器である。住居遺構が少なく出土量の少ない前期の土器を除いて、住居に伴って多量に出土している中期の土器について、遺跡内における相対時期としてⅥ期に区分した。本稿では、遺跡内の住居に時間的序列を付けるために土器を時期区分した。そのため個々の土器について、本地域の主体となる土器と他地域からの搬入・模倣土器等について細かな系統の変遷で見るとはならず、住居から出土している土器を一括して土器の特徴をまとめて見ることで時期区分をした。

Ⅰ期 瓜形を多用した文様施文の土器や、沈線文を半隆起させて文様を描く土器。いわゆる勝坂式土器・阿玉台式土器・焼町土器類型に相当する時期。

Ⅱ期 口縁部文様帯には、連続コの字文が施文され、膨らみを持つ中空突起が付けられる。頸部には無文帯を持ち、胴部文様は、懸垂文等が施文されるタイプの土器。口縁部文様帯は、隆線で区画された中に渦巻き状の突起が貼付される。口縁部に把手がつけられるものも多い。頸部に無文帯を持つ。胴部文様は、懸垂文、クランク文等があるタイプの土器。口縁部に無文帯を持ち、頸部に文様帯を区画する横位の沈線や隆線を持ち、地文は、熱赤文や条線が施文されるタイプの土器等がある。いわゆる三原田式土器や加曾利E式土器の古い段階に相当する時期。

Ⅲ期 口縁部と頸部、胴部に文様帯が区画される。口縁部文様は、半円形の区画内に沈線や縄文が施文される。半円形の区画の交点には、渦巻き状の突起を持つ。頸部文様は、Ⅱ期と同様に区画された中に縦位や波状の沈線が施文される。地文に縄文を施文するものもある。胴部文様は、懸垂文や波状文がある。地文は、縄文、条線、熱赤文がある。加曾利E式土器の古から中段階に相当する時期。

Ⅳ期 口縁部文様帯と胴部文様帯に分かれる。頸部文様帯は消失する。口縁部文様帯では、半円状・楕円形の区画を作る。区画内を沈線や縄文が充填する。区画間の交点に渦巻きを施文。胴部文様は、懸垂文が施文されるタイプの土器。口縁部文様帯と胴部文様帯に連弧文が施文されるタイプの土器もある。地文は、縄文や条線、綾杉状の沈線等がある。加曾利E式土器の新段階に相当する時期。

Ⅴ期 口縁部文様帯と胴部文様帯に分かれる。口縁部文様帯の半円状・楕円の区画は、連続するようになる。前段階の区画間の渦巻きは、本段階になると連続して施文されるようになる。胴部文様も懸垂文が施文されるが、無文帯の部分が多くなる。胴部文様帯に隆帯で渦巻き文を描く土器もある。地文は、縄文が多く施文される。加曾利E式土器の新段階に相当する時期。

Ⅵ期 口縁部に無文帯を持ち胴部文様帯が主体となる。口縁部には、橋状把手が付けられる。胴部文様も細い沈線や微隆起線で描かれる。加曾利E式土器の新段階から終末段階に相当する時期。

## 2 住居の時期区分と集落の構成(第441・442図)

前項で時期区分した土器に検出された住居を割り当てて、集落の変遷を概観してみたい。住居の時期決定については、炉体土器や埋設土器を第一に、これらの土器がない場合には、床面出土の完形に近い土器、出土割合の多い土器を基準に時期区分した。(P.682-683の表参照)

本遺跡の住居の配置は、挿図では別々に載せてあるが、Ⅰ地区とⅡ地区が東西に繋がる。これを見ると遺跡の立地する台地の東西に住居が作られる。集落の中央部は、土坑や配石遺構が作られ、住居の空白地となっている様子が見える。結果的にこのような形になったのであるが、これを各時期別に住居を分けると集落内

での土地利用に差があることが分かった。

I期の住居 I地区1、II地区23、25号住居。本遺跡の立地する台地上の東西斜面近くに住居が作られる。軒数は、少ない。

II期の住居 I地区2、4、6、11、16、18、20、22、80、II地区2、4、22、27号住居。住居の主体は、遺跡の西側の傾斜変換点から東側の平坦面に多くみられる。台地の東側にも少数ある。同時期の重複した住居があることからII期の住居については、二時期になると考えられる。

III期の住居 I地区3、7、8、13、15、21、26、II地区24、34号住居。本時期の主体も遺跡西側に多く、東側に少ない。

IV期の住居 I地区5、9、10、12、14、17、25、78、II地区12、14、15、18、20、26、28、31、35、36号住居。本遺跡の住居数が最も多くなる時期である。住居は、I～III期に比べ弧のやや内側に作られるようになる。I地区では、重複する住居は少ないがII地区では重複が多いことからさらに細分の可能性が考えられる。

V期の住居 I地区23、72、77、II地区7、8、10、13、16、17、19、21、29、30、32号住居。I地区、II地区とも台地の内側に作られる。住居軒数は、II地区に多い。IV期の住居より内側に住居が作られる傾向にある。柄鏡形の住居が出現する。

VI期の住居 I地区24、II地区1、5、6、9号住居。この時期になると、V期に比べ住居数が少なくなる。本遺跡の弧状に広がる住居群の中で内側に住居が展開するようになる。

I期では台地の縁辺部に数軒作られる。住居以外の土坑も少ないことから、遺跡も小規模で集落という形態よりは、キャンプサイト的な遺跡と考えられる。

本遺跡で集落として、土地の利用形態に規則性が見られるのは、II期以降であろう。II期になると、台地の西側にまとまって住居が作られるようになる。また、中央部に空間を設けて東側にも住居が作られていることから、集落内に広場の空間を意識している様子が伺える。さらに、III期においても住居の主体を台地の西側におきながらも東側にも住居を作っていることから中央広場を意識した集落の構成である。IV期では、中央の広場に相対して東西に住居が作られる。東側では、土地が広く空いているにもかかわらず住居の重複が多く見られる。V期では、台地の東南に住居の主体が移動する。この時期、柄鏡形住居の出現とともに中央の広場には、配石遺構等が作られる。集落全体から見ると北西方向に空間が広がるようになる。続いてVI期では、遺跡の東よりの東南と北東に住居が作られ、南西方向に空間がひろがる。

以上のように、本遺跡の集落は、立地する台地の東側から西側に移り規模を拡大、縮小していく様子が見て取れた。今回、住居以外の集落施設については、時期を細分検討することができなかったが、今後これらの施設をあわせて検討することで、集落の構成と変遷をより詳細にすることができると考え、今後の課題としたい。

I地区の住居時期区分表

	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期
1住						
2住						
3住						
4住						
5住						
6住						
7住						
8住						
9住						
10住						
11住						
12住						
13住						
14住						
15住						
16住						
17住						
18住						
19住	前期中葉					
20住						
21住						
22住						
23住						
24住						
25住						
26住						
27住	前期後葉					
72住						
77住						
78住						
80住						
94住						
136住						

凡例



埋設土器や床面出土土器の時期



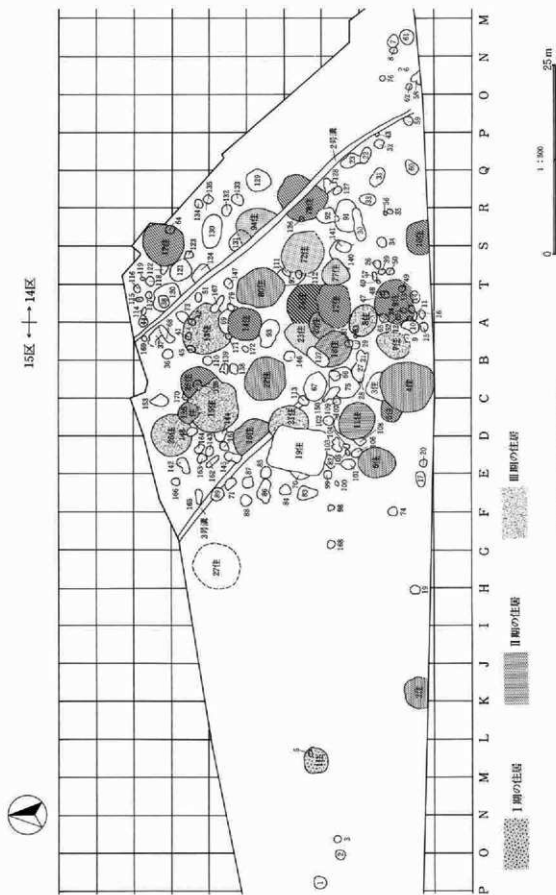
覆土中から主体となって出土している土器の時期



覆土中から出土している量の少ない土器の時期

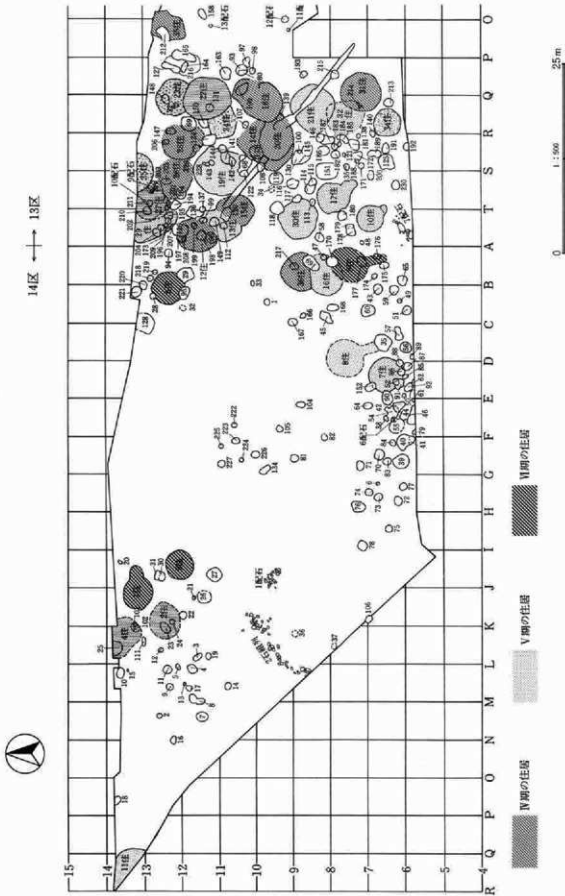
II地区・町道拡幅部の住居時期区分表

	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期
1住					■	■
2住					■	
4住					■	
5住						■
6住					■	
7住					■	
8住					■	
9住				■	■	■
10住					■	■
11住					■	
12住				■	■	■
13住				■	■	
14住				■	■	
15住				■	■	
16住				■	■	
17住				■	■	■
18住			■	■	■	
19住				■	■	■
20住				■	■	
21住				■	■	■
22住	■	■				
23住	■	■				
24住			■	■		
25住	■	■				
26住				■	■	
27住・29住	■	■		■	■	■
28住				■	■	
30住				■	■	■
31住				■	■	
32住				■	■	
34住			■	■	■	
35住		■	■	■	■	■
36住				■	■	
町道3住				■	■	
町道6住		■	■	■	■	
町道7住				■	■	



第441図 I地区住居変遷図

第1節 出土土器と住居址の相対的時間の推移について



第142図 II地区住居変遷図

## 第2節 出土遺物の統計的傾向

### 1 石器の石材使用傾向

白川傘松遺跡から出土した石器のうち、出土量が多いものとしては、打製石斧、磨製石斧、磨・凹・蔽石、スクレイパー、石匙、石鏃、石棒、台石、石皿・多孔石がある。これらの石器について、石器の用途器種と石材の関係については、密接な関係が認められる。そこで、代表的な器種に用いられる石材について概観していくことにする。

**打製石斧** 打製石斧の用途から堅めの薄く割れる性質の石材が多く用いられる傾向にある。このうち黒色頁岩、硬質頁岩、珪質頁岩、頁岩などで全体の5割を占める。頁岩系の石材に次いで安山岩系の石材多い。資料個体数は、932である。

**磨製石斧** 打製石斧とは異なり、石斧の製作工程に於いて打撃を加えて加工する部分が比較的少ないことから丈夫で比重があり、滑らかな表面を得やすい石材が用いられている。玄武岩質、蛇紋岩質の石材が多く使われている。資料個体数は、54個である。

**磨・凹・蔽石** この器種では、磨石として使用した後凹石や蔽石として転用されたり、逆の場合もあり、厳密に区別できないものを一括してまとめた。粗粒輝石安山岩が全体の9割以上を占める。その他緑色片岩、角閃石安山岩がある。資料個体数は、679個である。

**スクレイパー** 石器の用途はナイフに類する使用方法と考えられることから割れ口が鋭く薄く割れる石材が多用される。石匙と用途は似るためか黒色頁岩が7割を占める。資料個体数は、196個体である。

**石匙** スクレイパーと同じくナイフに類する使用方法が考えられる。スクレイパーが不定形な剥片を使用しているのに対して、石匙は、定形である。このことから、スクレイパーとは若干異なる石材を使用している。黒色頁岩が約7割であるのは、スクレイパーと同様であるが、黒曜石やチャート等のガラス質の石材をより選択的に使用している点でスクレイパーと異なる性格を持っていると考える。資料個体数は、26個である。

**石鏃** 用途から硬く鋭い割れ口を持つ石材が用いられる。黒曜石が約5割を占め、その他黒色安山岩、黒色頁岩、チャート等である。黒曜石の比率が高く、黒曜石を除くと石匙とほぼ同じような石材を使用していることが分かる。資料個体数は、95個である。

**石棒** 石器の加工が磨製によるものであることから、比較的研磨しやすい石材を使用している。緑色片岩とデイサイトが比較的多い。緑色片岩は、三波川水系のものと思われ、石棒の石材に比較的多く使用されている。資料個体数は、16個である。

**台石** 比較的大型のもので、住居床面に据え付けられて使用されたものが多い。摩擦が多く、扁平な面が得やすく加工しやすい石材が使用されている。粗粒輝石安山岩が7割と大部分を占める。その他、角閃石安山岩が25パーセントと多い。資料個体数は、119個である。

**石皿・多孔石** 台石と同様に平らな摩擦面が多く取れる加工しやすい石材が多く使用されている。粗粒輝石安山岩と角閃石安山岩で9割を占める。資料個体数は、186個である。

### 2 石材の石器使用傾向

遺跡から出土した石器の石材別使用頻度では、粗粒輝石安山岩が約4割と多い。次いで、黒色頁岩が約2割となっている。このことは、磨石・凹石・蔽石や石皿・多孔石、台石等の摩擦面を多く使用する石器には、粗粒輝石安山岩を使用し、薄く鋭い剝離面ができる頁岩系の石材では、打製石斧やスクレイパーが作られて



いることを示している。次に石材別に石器の使用頻度をみてみよう。

**頁岩系石器組成** 硬質で扁平に割れる性質の石材であることから、打製石斧、スクレイパー等の打製石器に主として使用されている。石皿や磨石等の磨製石器には、ごく少数使用されているのみである。

**黒曜石石器組成** ガラス質の石材で、鋭利な刃部を必要とする石器に多く使用されている。石鏃、石錐、石匙等に使用されているが、石鏃に圧倒的に多い。

**輝石安山岩** 摩擦面の多い石材であることから石皿や台石、多孔石、磨石、凹石等の磨製石器に多く使用されている。打製石斧にも約2割使用されている。その他、スクレイパーや石棒等各種の石器に使用され、幅広く石材として用いられている。

**角閃石安山岩石器組成** この石材も摩擦面が多い石材であることから、多孔石、台石、石皿に使用されるものが多い。輝石安山岩では、打製石斧やスクレイパー等の剥片石器の石材になるのに比べ、角閃石安山岩では、これらの石器には使用されていない。

**砂岩系石器組成** 砥石が約5割を占めている。比較的柔らかく摩擦面の多い石材であることから、砥石に使用される割合が多い。

### 3 石器種別平均重量

石器の機種別重量を第5図に示した。石器の重量については、破損品も含めての平均重量である。そのため、石器種別の概略的な重量の傾向を示すものとなった。

大型の石器では、石皿が、2キロ台で多孔石や台石では6キロを超える。石皿は、使用される場所によって持ち運ばれる。これに対して、台石や多孔石では、住居や作業場に据え付けられ石器自体が移動することが少ないと考えられる。

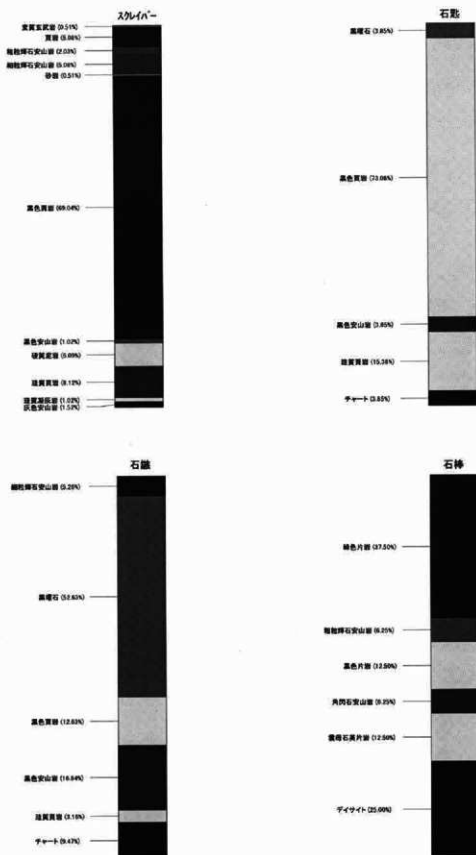
磨石や砥石、凹石は、片手で握り作業することを考えると500グラムから600グラムになるのは、妥当な重さと考えられる。

磨製石斧は、170グラム、打製石斧が90グラムである。石斧の平均重量では、資料中に破損個体も含まれるため実際の重量は、もう少し多いと考えられる。また、両者とも刃部磨減のため再加工しているものが多い。磨製石斧に比べ、打製石斧がやや小振りであることが分かる。磨製石斧は、「斧」的な使われ方をするためにある程度の重量が必要で、打製石斧は、「土掘り具」的な使われ方をしたのでやや軽めになったのであろうか。

石匙は、29グラム、スクレイパーは45グラムである。ややスクレイパーが重い。重量差は、定形と、不定形の差で、使用方法にはあまり影響しないと考える。

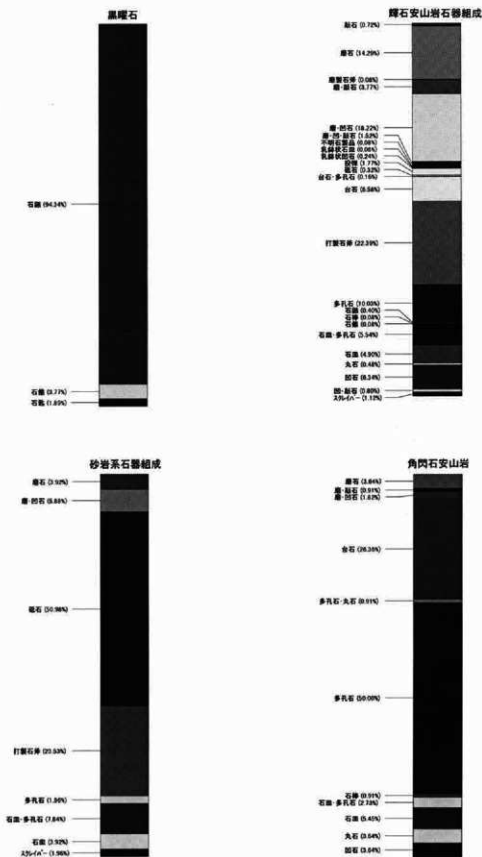


第2節 出土遺物の統計的傾向

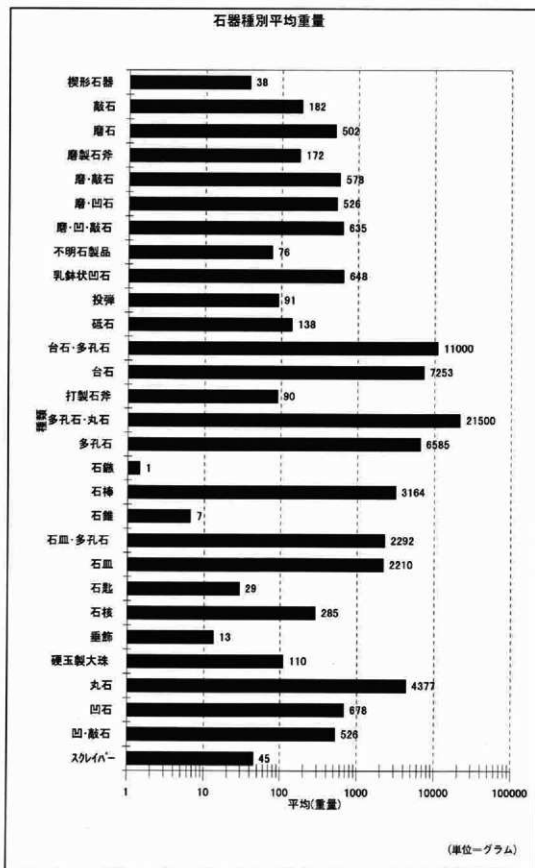


第444図 石器別石材組成





第446図 石材別石器組成



第447図 石器種別平均重量

第3節 行沢大竹、北中道Ⅱ、吹屋犬子塚Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、吹屋中原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、  
白川傘松、三和工業団地の各遺跡出土黒曜石の分析

立教大学理学部 鈴木 正男  
熊谷 昌史

〔はじめに〕

行沢大竹、北中道Ⅱ、吹屋犬子塚Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、吹屋中原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、白川傘松、三和工業団地の各遺跡から出土した117点の黒曜石について黒曜石分析を行なった。その結果をここに報告する。

黒曜石は、 $Si_2O$ に富む溶岩が急冷して生じる天然ガラスであり、その産出地は限られている。黒曜石は先史時代に石器製作のための石材として運搬され交易された。

黒曜石分析は、黒曜石の産地推定と水と層年代測定からなる。すなわち、製作技法と形式、使用痕をはじめとする黒曜石の多様な考古学的属性のうち二つ、運搬あるいは交易による移動の方向と距離（空間系）とそれが行われた年代（時間系）を同時に明らかにする。

遺跡出土黒曜石の原産地は、熱中性子放射化分析法、X線蛍光分析法、フィッシュトラック年代測定法などによって、原産地と遺跡出土の黒曜石の化学成分や噴出年代を測定し比較することによって推定される。ここでは原産地を熱中性子放射化分析と判別分析(Suzuki & Tomura, 1983; Suzuki *et al.*, 1984 a, b)によって推定し、その年代を黒曜石水和層厚測定によって推定した。

〔熱中性子放射化分析〕

産地推定には、黒曜石の産地内で均質でかつ産地間では差がある特徴をとらえることによって行われる。また、そのために用いる機器によっても異なる。

X線蛍光分析法ではケイ素(Si)、チタン(Ti)、アルミニウム(Al)、鉄(Fe)、マグネシウム(Mg)、カルシウム(Ca)、ナトリウム(Na)、カリウム(K)、マンガン(Mn)、ストロンチウム(Sr)、ルビジウム(Rb)などが測定できる。

熱中性子放射化分析を用いるとイースター島の黒曜石では、ヒ素(As)、バリウム(Ba)、セリウム(Ce)、コバルト(Co)、クロム(Cr)、セシウム(Cs)、ユーロピウム(Eu)、鉄(Fe)、ハフニウム(Hf)、ランタン(La)、ルテチウム(Lu)、ナトリウム(Na)、ネオディム(Nd)、ルビジウム(Rb)、アンチモン(Sb)、スカンジウム(Sc)、サマリウム(Sm)、タンタル(Ta)、テルビウム(Tb)、トリウム(Th)、ウラン(U)、イッテルビウム(Yb)、亜鉛(Zn)、ジルコニウム(Zr)などが観察され産地推定に利用できる。

種々の核種に熱中性子を照射するとそれぞれの核種は放射化され、それぞれの核種に固有のエネルギーの $\gamma$ 線を放出する。放射化された核種はそれぞれに固有の半減期で壊変する。したがって、冷却期間を調節することによって、産地の判別分析に有効な核種の $\gamma$ 線を選択的に測定することができる。

試料の各元素の含有量は、①試料に、多種類の元素の含有量が知られている標準試料と同時に熱中性子を

#### 第4章 調査の成果とまとめ

照射し、② $\gamma$ 線を計数し、③試料と標準試料の $\gamma$ 線のカウント数比、重量比、測定開始時間の差に起因する変動を補正することによって計算される。

実際の操作は、以下のとおりである。まず、ダイヤモンドカッターを用いて、黒曜石試料の小片を切り出し、その重量を化学天秤で測り、ポリ袋に封入する。これを標準試料とともに照射キャプセルに入れ、立教大学原子力研究所 TRIGA II 型原子炉の回転試料櫃 (RSR) の位置に挿入して、出力100kWで12時間熱中性子を照射する。対照する標準試料は NBS 278 (Obsidian Rock) である。

約10日間冷却した後、 $\gamma$ 線スペクトルを1000~3000秒計数し、標準試料との比較から、前掲の24元素中、関東・中部地域の産地推定に有効なサマリウム (Sm)、ウラン (U)、トリウム (Th)、ハフニウム (Hf)、スカンジウム (Sc)、鉄 (Fe)、ランタン (La) の7元素の含有量を測定した。

黒曜石の産地の判別には、日本全国30カ所を超える黒曜石原産地のそれぞれ100点の測定値に基づき、判別分析を用いて行った。その結果は、別表に示し、参考として判別確率を付した。

行沢大竹、北中道Ⅱ、吹屋犬子塚Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、吹屋中原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、白川傘松、三和工業団地の117点の黒曜石試料の産地は、以下のとおりである。なお、1点については、試料が小さいため、黒曜石水和層年代測定だけを行った。

	行沢大竹	北中道Ⅱ	吹屋犬子塚				吹屋中原			白川傘松	三和工業団地	合計
			Ⅰ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ			
星ヶ塔	13	9	3		6	10		4	32		77	
和田峠	9	1				2	10	1	8	1	32	
八ヶ岳	1			1							2	
高原山	1									4	5	
合計	24	10	3	1	6	2	10	10	5	40	116	

年代測定法には上の表に示したように絶対年代測定法と相対年代測定法がある。黒曜石水和層年代測定法は絶対年代測定法に含められるが、地中に埋没している間に石器製作時に生じた新鮮な表面から水が内部に拡散して形成する水和層の厚さが時間の経過とともに増加することを用いている。

拡散は化学変化であるから温度（ここでは地温：効果水和温度）の影響を受ける。過去に約2万年前前後の最終氷期最大亜氷期の寒冷な時期や縄文海進期の温暖な時期があったことが知られている。この結果、黒曜石水和層年代はある年代範囲で実際の時間経過よりも短くあるいは長く表現されることになる。ただし、石器製作時から現在までの累積的な温度変化のもとで形成されるから、古温度変化の変動幅がそのまま直接水和層形成に作用するわけではない。



## 【黒曜石水和層年代測定法】

## 年代測定法の種類

測定法の種類	対象試料の種類	測定年代範囲	
【絶対年代測定法： 壊変定数・平衡定数・速度を利用した方法】			
(放射性核種による方法)			
(閉鎖系試料)			
カリウム・アルゴン Potassium-argon	溶岩・火砕流堆積物	$10^5 \sim 5 \times 10^9$	
フィッシュトラック Fission Track	タフ・溶岩・火砕流堆積物・ガラス	$10^3 \sim 3 \times 10^9$	
放射性炭素 Radiocarbon	生物遺体	$0 \sim 6 \times 10^4$	
(閉鎖/開放系試料)			
ウランシリーズ U-series	溶岩・火砕流堆積物・タフ・化石骨 埋蔵・石灰質堆積物・深海底堆積物	$10^4 \sim 3 \times 10^5$	
(開放系試料)			
熱ルミネッセンス Thermoluminescence	タフ・貝化石・土器	$10^3 \sim 5 \times 10^5$	
電子スピン共鳴 Electron Spin Resonance	鍾乳石・タフ・断層・水河	$10^3 \sim 3 \times 10^6$	
(化学変化を利用した方法)			
ラセミ化 Racemization	化石骨・微化石・貝	$10^3 \sim 5 \times 10^6$	
黒曜石水和層 Obsidian Hydration	黒曜石	$10^3 \sim 3 \times 10^4$	
【相対年代測定法： 設定された標準との比較による方法】			
古(考古)地磁気 Palaeo-/Archaeo- magnetism	炉・竈跡・土器・陶器・堆積層		
火山灰層位学 Tephrostratigraphy	火山灰		
微化石層序 Micropalaeontology	深海底コア		
哺乳動物化石 Palaeontology	動物化石		
花粉分析 Pollen Analysis	湖底堆積物・泥炭		
形(型)式学 Typology	土器・石器		
年輪年代学 Dendrochronology	木材		$0 \sim 10^4$
水綿粘土 Varved Clay	水綿粘土		$10^3 \sim 10^4$
化学分析 Chemical Analysis	化石・鉱物・ガラス		

#### 第4章 調査の成果とまとめ

黒曜石水和層法で測定される年代には、つぎのようなものがある。

- ① 黒曜石形成年代 (Fission Track 年代測定法の方がより適切である)
- ② 黒曜石剥落年代—たとえば露頭において角柱状に剥落しているもの
- ③ 石器製作年代
- ④ 再使用年代
- ⑤ その他偶発的な剥離年代

遺跡から出土した黒曜石の場合には、①、②、④、⑤は離散値をとることが多い。

このように考えると、黒曜石水和層法による年代の利用の仕方には、

- ① 遺跡の内部構造の解析と確認
- ② 地域内の社会構造の時間的変遷解明の補助
- ③ 地域間の社会関係の時間的変遷解明の補助

があると考えられる。

黒曜石の水和層の厚さ( $L$ : $\mu\text{m}$ )と、経過した年代( $A$ : $\text{a}$ )との間には、 $A=1000 \times \frac{L^2}{K \cdot K_r}$ の関係がある。

ここに、 $k$ は効果水和温度(EHT)が一様と見なす地域で設定され、かつ適用される水和速度 $\left(\frac{\mu\text{m}^2}{1000\text{a}}\right)$ である。

関東地方においては、この値は、すでに野川遺跡などを基準にして、次のように設定されている(Suzuki, 1973)。

産地・露頭	WADATOGI	HOSHIGAT	KOZUSHIM	TAKAHARA	HATAJUKU
水和速度	7.89	5.13	2.69	1.11	0.28

HOSHIGAT...HOSHIGATO, OMEGURA, YATSUGATAKE

また、水和速度は気温(あるいは効果水和温度(EHT))によって左右される。この場合は東京の気温を $K_T(15.3^\circ\text{C}=288.3^\circ\text{K})$ 、遺跡の気温を $K$ として、 $k_r = \exp\left[\frac{8.9 \times 10^3(K - K_T)}{K \cdot K_r}\right]$ で算出される水和速度の補正值( $k_r$ )を用いる(Suzuki, 1973)。

この遺跡の補正值 $k_r$ は、前橋と同じ0.88を用いた。

## 【参考】

水和速度の推定方法で現在用いられているものには、つぎの2つのものがある。

- ① 検量線法—焼けた黒曜石のフィッシュトラック年代（あるいはC-14年代）と気温による補正值
- ② 直接法—マイクロリアクターを用いた個々の遺跡出土黒曜石の水和促進実験による水和速度の直接測定と遺跡の地温の直接測定（1年間；深さ10cm、25cm、50cm、1m、2m…2mを超えると地温の変化は小さい）  
ここでは、①の検量線法によった。

実際の試料の調整は、黒曜石の剥離面に直交して切り出した小片平均約20個を、エポフォームの試料枠に入れ、エポキシ系樹脂エポフィックスと硬化剤を容積比8：1に混合した。硬化完了後、通常の手順にしたがって、厚さ約200 $\mu$ m程度の薄片に仕上げた。これを、光学顕微鏡約1,000倍で透過光観察し、その水和層の厚さをビデオプリンターのプリント上で計測した（実測倍率2,508、および2,493倍）。

## 【測定結果について】

黒曜石水和層年代測定の結果は試料番号順に別表に示した。遺跡ごとの主な検出年代をまとめると次のようになる。

遺跡名	産地	点	年代
行沢大竹	HOSHIGAT	7	5,200
北中遺Ⅱ	HOSHIGAT	9	7,000
吹屋中原Ⅰ	HOSHIGAT	7	6,400
吹屋中原Ⅱ	WADATOGI	3	3,600
	WADATOGI	4	9,300
吹屋中原Ⅲ	HOSHIGAT	3	8,800
白川傘松	WADATOGI	4	3,500
	HOSHIGAT	5	5,700
	HOSHIGAT	18	7,700
	HOSHIGAT	3	11,300
三和工業団地	TAKAHARA	3	7,100

なお、吹屋犬子塚Ⅰ、吹屋犬子塚Ⅲ、吹屋犬子塚Ⅳ、吹屋犬子塚Ⅴの各遺跡は試料点数が少なく、いずれも離散値をとった。

個別試料について説明すると、No.36は試料が小さかったので産地推定が行えなかった。その結果水和層年代も得られていないが、No.38と同様のHOSHIGAT産の可能性が高い。No.41、No.59、No.97は地質学的な年代を与える。No.89は古墳時代以降の年代を与えるから何らかの黒曜石の破砕があったと考えられる。No.116

#### 第4章 調査の成果とまとめ

はきわめて高密度の晶子を含み透明度が低かったので光学的な水和層の検出・測定が困難であった。

#### 参考文献

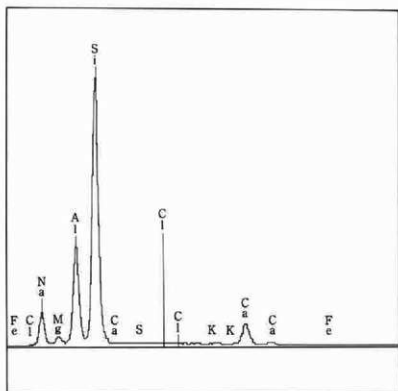
- Suzuki, M., 1973: Chronology of prehistoric human activity in Kanto, Japan—Part I. J. Fac. Sci., Univ. Tokyo, Sec. V (Anthropology), Vol. IV, 241-318.
- Suzuki, M. and Tomura, K., 1983: Basic data for identifying the geologic source of archaeological obsidian by activation analysis and discriminant analysis. St. Paul's Review of Science, 4, 99-110.
- Suzuki, M., Kanayama, Y., Aoki, Y., and Tomura, K., 1984a: Intrasite obsidian analysis of the Hashimoto site, Sagami-hara-shi, Kanagawa-ken, Japan. St. Paul's Review of Science, 4, 121-129.
- Suzuki, M., Kanayama, Y., Ono, A., Tsurumaru, T., Oda, S., and Tomura, K., 1984b: Obsidian analysis: 1974-1984. St. Paul's Review of Science, 4, 131-140.

ここでは、とくに水和速度の補正は行わなかった。

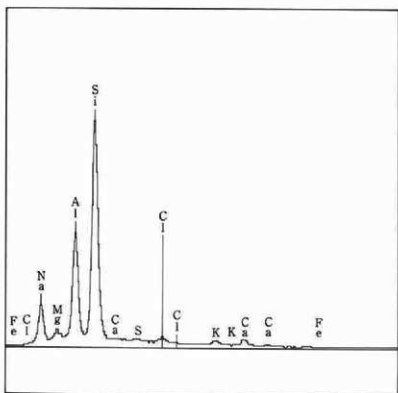
この遺跡（標高970m）の補正值  $k_r$  は、軽井沢（7.8°C、999m）および甲府（13.7°C、273m）を用い、かつ高度差を補正して、 $k_r=0.55$ と計算された。

今回の場合は水和速度が決定されていないので、水和層厚によって相対的な先後関係を比較した。





糸魚川ひすい原石



白川傘松ひすい大珠

第448図 ひすい分析図

## 発掘調査報告書抄録

ふりがな	しらかわかさまついせき							
書名	白川傘松遺跡 遺物編・本文図版							
副書名	北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	第4集							
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告							
シリーズ番号	第204集							
編著者名	関根愷二							
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒377-0061 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2 電話 0279-52-2511							
発行年月	西暦 1998年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
白川傘松	群馬県群馬郡箕郷町白川	10323	10005 00361	36度 22分 36秒	138度 56分 54秒	19921201～ 19940613	14,000	鉄道（北陸新幹線）建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
白川傘松	集落	縄文時代中期	前期住居址 中期住居址 土坑 配石遺構 石組列遺構	2軒 67軒 367基 8基 1列	縄文時代前期・中期中 葉の土器・石器 耳飾り・土偶・ 翡翠大珠・石器	縄文時代中期後半の集落址 翡翠製大珠が出 土した土壌		縄文時代中期後半の集落址 翡翠製大珠が出 土した土壌  制片石器
		旧石器時代	礫群		石器			制片石器





(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第204集

**白川傘松遺跡(遺物編)** 北陸新幹線建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第4集

---

1998年3月25日 印刷

1998年3月25日 発行

編集／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所

---